

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34

平成29年度発掘調査報告

(第4分冊)

台 山 遺 跡

今小路西遺跡

今小路西遺跡

名越ヶ谷遺跡

弁ヶ谷遺跡

平成30年3月

鎌倉市教育委員会

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34

平成29年度発掘調査報告

(第4分冊)

台 山 遺 跡

今小路西遺跡

今小路西遺跡

名越ヶ谷遺跡

弁ヶ谷遺跡

平成30年3月

鎌倉市教育委員会

ご あ い さ つ

本市は、市域の6割以上が埋蔵文化財包蔵地であり、多くの市民が埋蔵文化財の眠る土地で生活を送っています。

そのため、家屋や店舗の建て替えに伴い、埋蔵文化財に影響を及ぼす工事が行われることも多く、毎日、市内数ヶ所で発掘調査が行われている状況です。

私たちが日々の生活を送っていく上で、やむを得ず失われる埋蔵文化財について記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅等の建設に係る発掘調査を実施しています。本書は平成18～21年、23年、27～29年度に実施した、個人専用住宅等の建築に伴う発掘調査27ヶ所の調査記録を掲載しています。

本書が、武家政治発祥の地として知られ、今なお観光・文化都市として栄える鎌倉の歴史を解き明かす一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、調査の実施に当たり、関係者の皆様に発掘調査に対し深いご理解を賜るとともに、調査の期間中、さまざまなご協力をいただきましたことを心からお礼を申し上げます。

平成30年3月30日

鎌倉市教育委員会

例 言

- 1 本書は平成29年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書(第4分冊)である。
- 2 本書所収の調査地点は別表・別図のとおりである。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施し、報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

第4分冊 目次

ごあいさつ	I
例言	II
目次	III
本誌掲載の平成19・20年度発掘調査地点一覧	V
調査地点位置図	VI

14 台山遺跡 (No.29) 山ノ内字藤源治872番9外地点

第一章 遺跡と調査地点の概観	5
第二章 基本土層	10
第三章 発見された遺構と遺物	10
第四章 まとめ	21

15 今小路西遺跡 (No.201) 由比ガ浜一丁目147番1の一部地点

第一章 遺跡と調査地点の概観	36
第二章 堆積土層	42
第三章 A区の発見された遺構と遺物	46
第四章 B区の発見された遺構と遺物	61
第五章 今小路西遺跡出土の動物遺体	90
第六章 まとめ	93

16 今小路西遺跡 (No.201) 由比ガ浜一丁目147番2外地点

第一章 遺跡と調査地点の概観	132
第二章 堆積土層	138
第三章 発見された遺構と遺物	140
第四章 今小路西遺跡出土の動物遺体	195
第五章 まとめ	198

17 名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町三丁目2353番2外地点

第一章 遺跡と調査地点の概観	240
第二章 堆積土層	246
第三章 発見された遺構と遺物	248
第四章 自然科学分析	283
第五章 まとめ	304

18 弁ヶ谷遺跡 (No.249) 材木座四丁目599番8地点

第一章	遺跡と調査地点の概観	365
第二章	堆積土層	369
第三章	発見された遺構と遺物	371
第四章	弁ヶ谷遺跡出土の動物遺体	388
第五章	まとめ	390

本誌掲載の平成19・20年度発掘調査地点一覧

第4分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積(m ²)	調査期間
14	台山遺跡 (No.29)	山ノ内字藤源治872番9外	個人専用住宅 (柱状改良工事)	集落	56	平成19年4月4日 ～平成19年4月20日
15	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目147番1の 一部	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市	15	平成19年10月9日 ～平成19年10月29日
		由比ガ浜一丁目147番1の 一部	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市	40	平成19年10月9日 ～平成19年11月20日
16	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目147番2外	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市	112	平成19年7月27日 ～平成19年9月28日
17	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町三丁目2353番2外	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	37	平成19年12月18日 ～平成20年2月6日
18	弁ヶ谷遺跡 (No.249)	材木座四丁目599番8	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市 寺院	59	平成21年2月17日 ～平成21年4月15日

鎌倉市全図

本書掲載の平成19・20年度発掘調査地点(14~18)
※遺跡名は一覧表を参照



台 山 遺 跡 (No.29)

山ノ内字藤源治872番9外地点

例 言

1. 本報は「台山遺跡」（神奈川県遺跡台帳No.29）内、鎌倉市山ノ内字籐源治872番9外地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 発掘調査は平成19年4月4日～同年4月20日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は約56㎡である。
3. 発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者	熊谷 満
調査員	伊藤博邦
作業員	沼上三代治・藤枝正義・渡辺輝彦・安達越郎・佐野吉男

（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）
4. 本報告書の作成並びに編集は鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。
5. 本報に掲載した写真は、遺構を熊谷 満、遺物を赤間和重が撮影した。
6. 測量基準杭の設置にあたっては、日本測地系（座標系AREA 9）を用い、図4に座標値を示した。
7. 発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。
8. 発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「DI0701」とした。
9. 遺物挿図中の指示は、以下のとおりである。
 - ・須恵器は実測図の断面を黒塗りで示した。
 - ・石製品の矢印は磨面範囲を示す。
10. 遺物の分類および編年には以下の文献を参考にした。

かわらけ：鎌倉かわらけ研究会 2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』

瀬戸：愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史別編 窯業2 中世・近世 瀬戸編』

貿易陶磁：太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』
11. 出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである（順不同）。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・小森明美・西本正憲・西野吉論・齊藤武士・玉川久子・赤間和重・御代七重・木村百合子・田村正義・唐原賢一・大貫由美・花本晶子・浅野真里・御代祐子・深澤繁美・山田浩介（玉川文化財研究所）
12. 報告書作成にあたっては、齋木秀雄氏・伊丹まどか氏からご協力を賜った。ここに記して感謝する次第である。

目次

第一章 遺跡と調査地点の概観	5
第1節 調査に至る経緯と経過	5
第2節 調査地点の位置と歴史的環境	5
第3節 周辺の考古学的調査	6
第二章 基本土層	10
第三章 発見された遺構と遺物	10
第1節 竪穴住居	12
第2節 遺構外出土遺物	15
第四章 まとめ	21

挿 図 目 次

図1 遺跡位置図	7	図10 竪穴住居3出土遺物	14
図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡	8	図11 縄文時代遺構外出土遺物	16
図3 調査区位置図	9	図12 弥生時代中期後葉～古墳時代前期初頭 遺構外出土遺物(1)	18
図4 調査区配置図	9	図13 弥生時代中期後葉～古墳時代前期初頭 遺構外出土遺物(2)	19
図5 遺構分布図および土層断面図	11	図14 古代遺構外出土遺物	20
図6 竪穴住居1	12	図15 中世遺構外出土遺物	20
図7 竪穴住居2	13		
図8 竪穴住居2出土遺物	13		
図9 竪穴住居3	14		

表 目 次

表1 台山遺跡 調査地点一覧	10	表3 遺構外出土遺物観察表	23
表2 竪穴住居2・3出土遺物観察表	23		

図 版 目 次

図版 1	1. 調査区全景(東から) …… 27	2. 竪穴住居 3 出土遺物 …… 28	
	2. 東壁土層断面(西から) …… 27	3. 縄文時代遺構外出土遺物 …… 28	
	3. 西壁土層断面(東から) …… 27	図版 3	1. 弥生時代中期後葉～古墳時代前期
	4. 竪穴住居 1 (西から) …… 27		初頭遺構外出土遺物(1) …… 29
	5. 竪穴住居 2 (東から) …… 27	図版 4	1. 弥生時代中期後葉～古墳時代前期
	6. 竪穴住居 3 (北西から) …… 27		初頭遺構外出土遺物(2) …… 30
	7. 竪穴住居 2・3 掘り方(東から) …… 27		2. 古代遺構外出土遺物 …… 30
図版 2	1. 竪穴住居 2 出土遺物 …… 28		3. 中世遺構外出土遺物 …… 30

第一章 遺跡と調査地点の概観

第1節 調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市山ノ内字籐源治872番9外地点で実施した個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である台山遺跡(神奈川県遺跡台帳No.29)の範囲内にあたり、近隣地における過去の発掘調査成果から、地下に埋蔵文化財が存在することが確実であった。建築主から柱状改良工事を伴う建築計画について相談を受けた鎌倉市教育委員会は、文化財保護法に基づく発掘調査等の措置について建築主と協議した。その結果、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される範囲の約56㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、熊谷 満が現地調査を担当した。

現地の調査期間は平成19年4月4日～同年4月20日までの2週間ほどで、調査面積は約56㎡である。現地表面の標高は約40.2mを測る。調査はまず東西8.2m、南北4.1mの範囲について重機による表土掘削を行い、安全対策のため幅約50cmの犬走りを残して東西6.2m、南北2.2mの範囲に法面を付けながら人力によって掘削した。地表下1.5mまで掘り下げて遺構の確認作業を行ったが遺構は見えず、調査区の西側にトレンチを設定してさらにローム面まで掘り下げた。その結果、ローム層上面で弥生時代と考えられる竪穴住居を確認したため全面を掘り下げ、竪穴住居3軒を検出した。その後、各遺構の掘削と測量、写真撮影などの記録作業を行い、4月20日に現地調査に関わるすべての作業を終了した。

なお、測量に際しては日本測地系(座標系AREA9)に準じた、鎌倉市三級基準点No.43304(X=-73675.707、Y=-26379.483)を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。また海拔標高値は、鎌倉市三級基準点No.43304(標高35.355m)を基に移設した。

第2節 調査地点の位置と歴史的環境

台山遺跡(No.29)は、鎌倉市の北部域に位置し、鎌倉街道(主要地方道横浜鎌倉線)とJR横須賀線を北東側に見下ろす丘陵尾根の頂部から裾部にかけて立地している。この丘陵地形は、多摩丘陵から三浦半島方面へ続くもので、鎌倉市北部域の大部分を構成している。また、本遺跡が位置する丘陵は「台峰」と呼ばれ、標高90m台を頂とする尾根が連なるが、丘陵北側の山腹は傾斜が比較的緩やかで、標高50m前後の台地状の地形に移行していく。

本遺跡の範囲は広く、県遺跡地図の範囲では北西～南東に約700m、北東～南西には約300mの規模をもつ。現況の標高では、遺跡の南東端にあたる北鎌倉女子学園の近辺が最高位で約58mを有し、北西に向かって急勾配で下がり、ほぼ中間地点の光照寺の南側で標高34mほどの鞍部となる。但し、この付近から北西方向にかけては、戦前からの宅地造成の影響もあり、遺跡が失われてしまった場所も多い。

本調査地点は、この鞍部の南側に位置し、現状での標高は約40mを測る。遺跡の北西隅は標高約18m前後となり、標高差は約20mである。丘陵の北東側裾部には、明月谷から発した小袋谷川が北西方向に流路をとり、現状では約180m幅の開析谷が形成されている。また、谷の開口部は柏尾川の流域に形成された広範な沖積低地へと連なり、藤沢市の川名で境川に合流する。

第3節 周辺の考古学的調査

当該地区一帯は「台山遺跡」(No.29)として周知されている。『鎌倉市史』考古編(赤星 1959)では弥生時代中期後葉(宮ノ台式期)から古墳時代にかけての遺跡として紹介されているが、長年にわたる発掘調査によって縄文時代から中世に及ぶ複合遺跡であることが明らかになっている。

図2掲載の遺跡は、台山遺跡内の調査地点をおおむね調査年度順(①→⑮)に示したもので、これまでに本調査地点を含めて計16地点(平成29年現在)で行われている。以下、調査年度順に概要を示しておくたい。

本遺跡の初例としては昭和45年に行われた三上次男氏らによる学術調査で、昭和49年に報告書が刊行された(丑野 1974)。遺跡地番は①台字西ノ台1737番地点で、標高50m強の台地上から弥生後期と古墳後期の竪穴住居址がそれぞれ1軒と時期不明の竪穴住居址1軒の計3軒が調査された。また、遺物では当該期のほかに、縄文時代の石鏃や中世のかわらけなども確認され、多時期にわたる遺跡であることも明らかにされ、この学術調査は台山遺跡のその後の調査の先鞭をつけた点でも評価されている。

昭和50年代になると、当該地域でも個人住宅や学校施設の新改築に伴う緊急調査が目立つようになる。調査の多くは面積の狭い個人住宅の開発であったが、その中で北鎌倉女子学園の校舎新設に伴う調査②・⑤・⑦地点は3次(第1～3次調査)にわたるもので、総面積も1,750㎡にも及ぶものであった。第1次調査の②地点(手塚ほか 1985)では、弥生時代中期後葉から後期の竪穴住居址18軒を中心に、古墳時代が13軒、平安時代が5軒で、この他にも縄文時代の陥し穴1基や、中世では道路なども発見された。第2次調査の⑤地点(大河内 1996)でも縄文時代の陥し穴2基の他に弥生時代後期と奈良時代末から平安時代の竪穴住居址が各1軒ずつ発見されている。また、第3次調査の⑦地点(宗墓 1993)では、弥生時代後期から古墳時代の竪穴住居址5軒と平安時代の竪穴住居址1軒の他に、中世の段切り造成面や柱穴列なども確認されている。これらの調査地点は周辺の小字名から「台山藤源治遺跡」と呼ばれている。

この他に③地点(齋木・宗墓 1985)や④地点(玉林ほか 1988)でも弥生時代後期を中心とする竪穴住居址が検出され、⑥地点(大上 1992)では中世の所産と推定されるかなり大規模な溝の存在が指摘されている。また、⑧地点(野本 1997)では中世後期の南北溝が調査されている。⑨地点(若松 1998、若松・田村 1999)では、弥生時代後期の竪穴住居址4軒、古墳時代の竪穴住居址2軒と当該期の掘立柱建物址1棟、古墳時代末期から奈良時代前半の竪穴住居址2軒などが発見されている。この調査では、今まで未確認であった掘立柱建物址や奈良時代の竪穴住居址が発見されたことで、時代の空白期を埋める点でも注目された。⑩地点(継 2001)の調査は斜面に立地するため遺構・遺物とも少なかったが、弥生時代後期から古墳時代前期と推定されるピットなどが発見されている。また、⑪地点(森 2002)や⑬地点、⑮地点(押木 2017)などでは丘陵斜面の雛壇状造成面に調査地点が立地しており、中世段階での土地利用の一端が確認されている。⑫地点(伊丹 2004)も同様に丘陵の緩斜面に立地し、雛壇状の平場には中世の遺構面が検出されている。⑭地点(押木 2016)は狭い範囲での調査であったが、古墳時代後期の竪穴住居址3軒の他に、土坑やピットなども確認されている。

以上が近年までの調査成果を取り入れた台山遺跡の概要であるが、今のところ集落としての開始時期は弥生時代中期後葉の宮ノ台式期からであるが、後期以降も継続的に営まれていたと考えられる。また、古墳時代以降も一次的な断絶はあるものの、出土遺物をみる限りでは、集落は場所の移動をしつつ奈良・平安時代を通して営まれていたと思われる。また、縄文時代の遺構は陥し穴に限られているが、本地点を含む他の調査地点でも縄文時代の出土遺物をみる限りでは、早・前・中・後期などの多時期にわたる



図1 遺跡位置図



※矢印は本調査地点、丸数字は表1の番号に対応する。

図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡

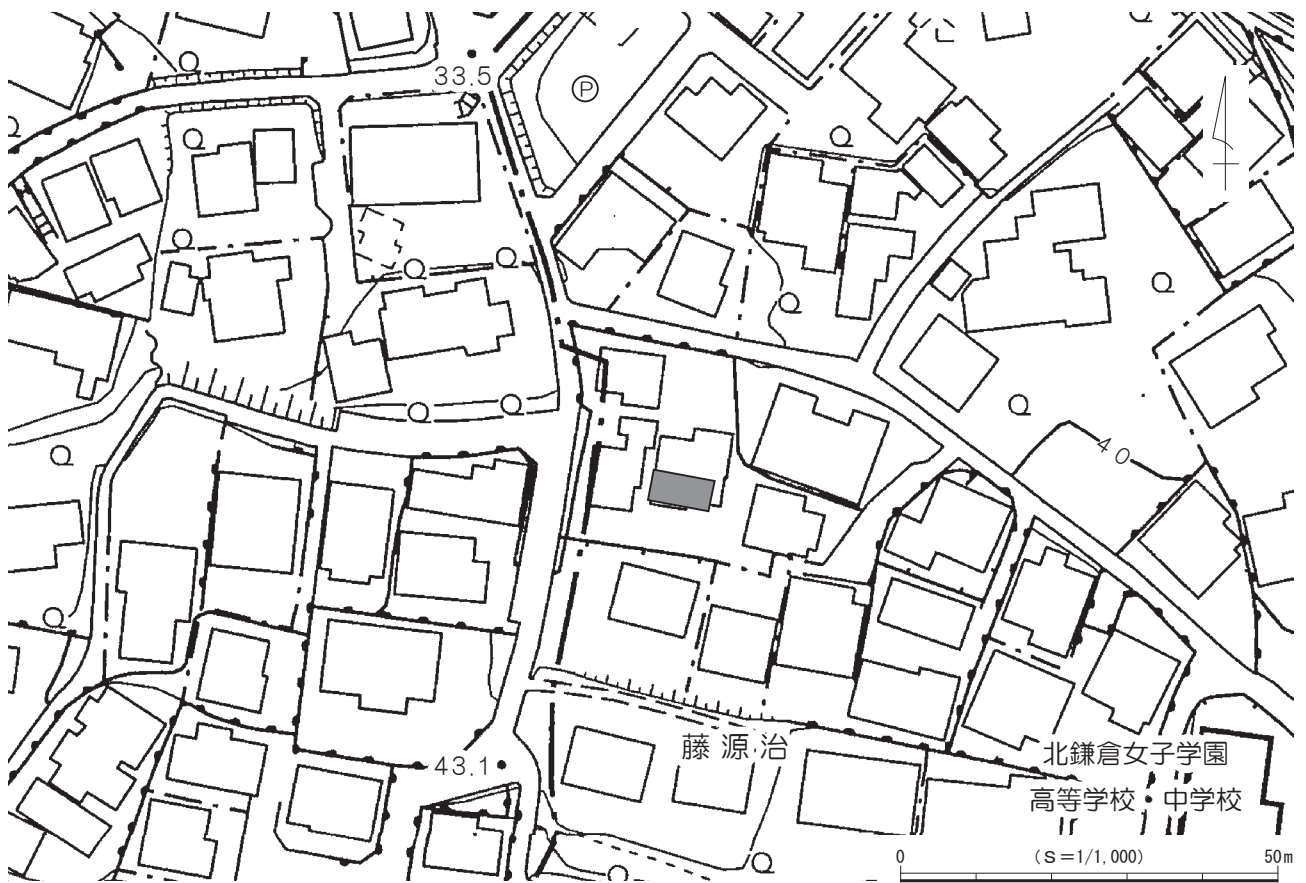


図3 調査区位置図



※ a-a'・b-b' は図5の土層断面位置を示す。

図4 調査区配置図

表1 台山遺跡 調査地点一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	台山遺跡 (No.29)	山ノ内字藤源治872番9外地点	
①	台山遺跡 (No.29)	台字西ノ台1737番地点	丑野 1974
②	台山遺跡 (No.29)	山ノ内字藤源治914 地点	手塚ほか 1985
③	台山遺跡 (No.29)	山ノ内字藤源治874番2 地点	齋木・宗基 1985
④	台山遺跡 (No.29)	台字西ノ台1730番1、1732番1 地点	玉林・新国 1988
⑤	台山遺跡 (No.29)	山ノ内字藤源治914～927番地点	大河内 1996
⑥	台山遺跡 (No.29)	台字西ノ台1624番3 外地点	大上 1992
⑦	台山遺跡 (No.29)	山ノ内字藤源治914番地点	宗基 1993
⑧	台山遺跡 (No.29)	台字西ノ台1627番地点	野本 1997
⑨	台山遺跡 (No.29)	台字西ノ台1733番1外・3 外地点	若松 1998、若松・田村 1999
⑩	台山遺跡 (No.29)	台字西ノ台1718番3 地点	継 2001
⑪	台山遺跡 (No.29)	山ノ内字藤源治860番1 地点	森 2002
⑫	台山遺跡 (No.29)	山ノ内字宮下小路819番1 外地点	伊丹 2004
⑬	台山遺跡 (No.29)	山ノ内字藤源治860番1 地点	
⑭	台山遺跡 (No.29)	台字西ノ台1418番10 地点	押木 2016
⑮	台山遺跡 (No.29)	山ノ内字藤源治860番2 地点	押木 2017

※遺跡Noは神奈川県遺跡台帳による。

土器や石器なども含まれているため、今後集落が発見される可能性も考えられる。中世についても同様、具体的な状況は明らかではないが、平場の造成や整地層の形成などの土地利用の一端が明らかにされたことは周辺地域との関連を考える上で重要であろう。

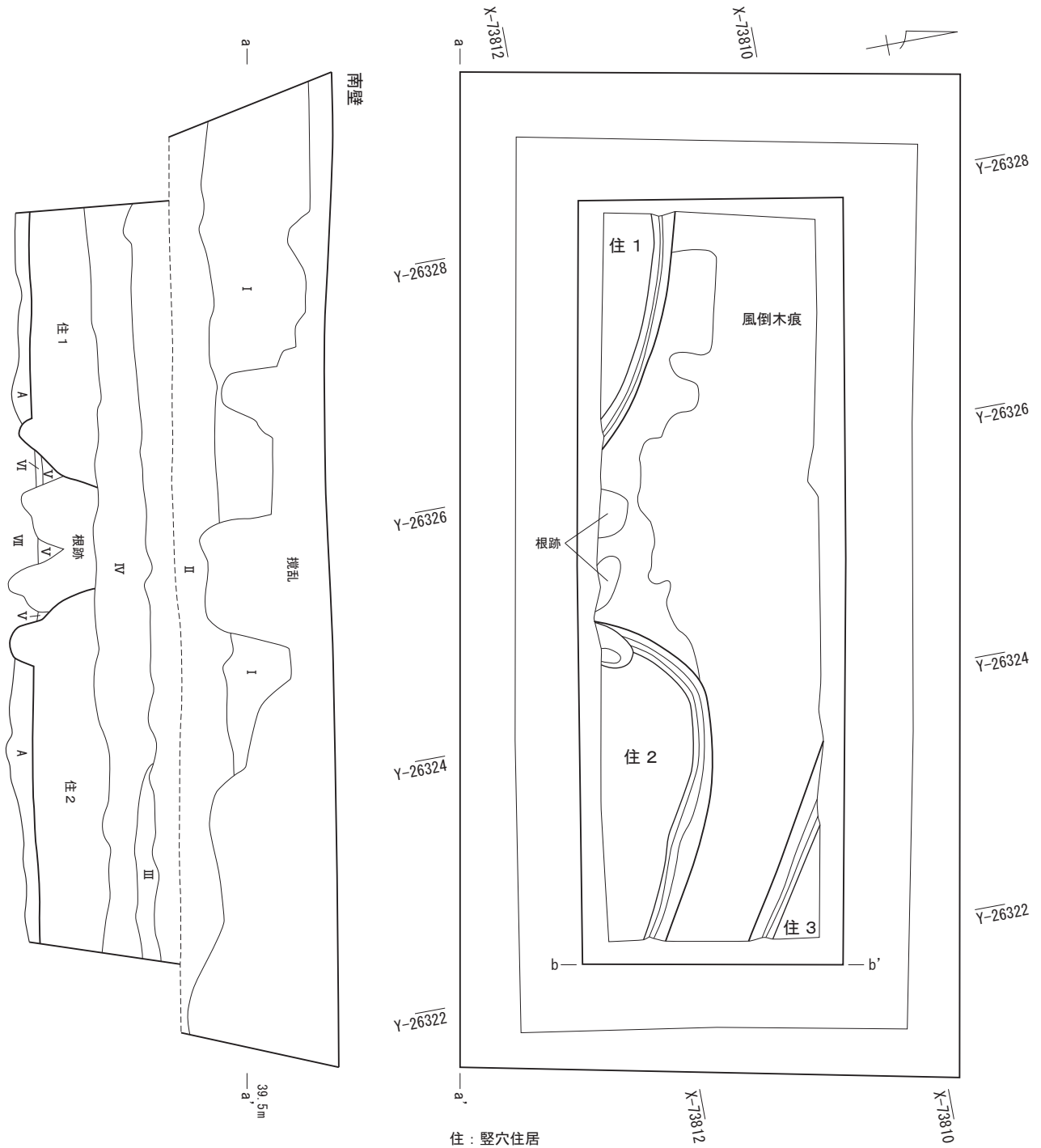
第二章 基本土層

本調査地点は台地上に位置し、現代の攪乱層以下にⅠ～Ⅶ層の基本土層を確認した(図5)。現地表は標高40.2mほどである。最上部には約20～100cmの厚さで現代造成土が堆積し、その下に近世から近代にかけての耕作土である暗茶褐色砂質土(Ⅰ層)が10～90cmの厚さで堆積している。この近世から近代の耕作土直下には、中世の包含層である白色シルト粒を含んだ暗褐色土(Ⅱ層)が60cm前後の厚さで堆積している。そしてⅡ層の下位には焼土粒を少量含む暗褐色土(Ⅲ層)が認められたが、本層は調査区東側のみ広がる層厚15cm前後の土層であった。Ⅱ・Ⅲ層下は橙色シルト粒を少量含む黒褐色土(Ⅳ層)が20～40cmほどの厚さで堆積し、弥生時代から中世にかけての遺物を含んでいた。Ⅳ層下に堆積するⅤ層は橙色シルト粒をやや多く含み、炭化物を微量に含む暗褐色土であり、弥生時代の竪穴住居はこの層を掘り込んで構築されていた。なお、Ⅴ層下にはローム漸移層(Ⅵ層)、ソフトローム層(Ⅶ層)の堆積が確認されている。

第三章 発見された遺構と遺物

今回の調査では弥生時代の竪穴住居3軒を検出したが、調査区の制約からいずれも全容を把握することができなかった(図5)。また、調査区内には竪穴住居よりも古い時期の風倒木痕が広い範囲に及んでおり、調査区東半には多くの根跡が認められた。出土遺物は縄文時代中・後期、弥生時代中期後葉～古墳時代前期初頭にかけての土器と石器、古代の土師器、須恵器、中世のかわらけ、陶磁器、瓦質土器で、出土量は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して3箱である。

以下、竪穴住居とその出土遺物、遺構外出土遺物について説明する。



- I層 暗茶褐色砂質土 近世～近代耕作土。
- II層 暗褐色土 白色シルト粒を含む。中世包含層。
- III層 暗褐色土 焼土粒を少量含む。
- IV層 黒褐色土 橙色シルト粒少量含む。弥生～中世の遺物を含む。
- V層 暗褐色土 橙色シルト粒やや多く、炭化物微量に含む。
- VI層 黒褐色土 ローム漸移層。黄褐色土少量含む。
- VII層 黄褐色土 ソフトローム層。
- A層 竪穴住居掘り方埋土。

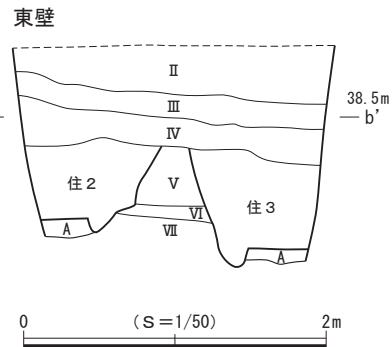


図5 遺構分布図および土層断面図

第1節 竪穴住居

弥生時代の竪穴住居3軒を検出した。各遺構の時期は、竪穴住居2が後期初頭～前葉、竪穴住居3が後期前葉に属し、竪穴住居1は土器が出土しなかったため、覆土および推定される平面形から中期後葉～後期に属すると考えられる。いずれの住居も大部分が調査区外に広がるため、全容は判然としなかったが、調査区壁面の観察により、掘り込みが60cm前後に及ぶものであることが明らかとなった。

竪穴住居1 (図6)

調査区南西壁際に位置し、東側に竪穴住居2が隣接する。本址の大半が調査区外の南側へ広がるため、平面形などの詳細は判然としないが、竪穴の北壁側は緩やかな弧状を呈している。調査範囲内では、炉址や柱穴などの付属施設は検出されなかった。

規模は東西現存長1.94m、南北現存長57cm、調査区の壁で確認し得た竪穴の深さは55cmを測る。調査区壁面の観察によると、壁の形状は緩やかに開いて中位で屈曲して立ち上がり、壁高は遺存状態の良好な南東側で52cmを測る。床面は平坦な貼床式の構造で、床面の標高は37.74m前後を測る。掘り方は深さ6～14cmであり、ロームブロックを含む暗褐色土が充填されている。周溝は壁に沿って緩やかに湾曲してめぐり、幅15～20cm、深さ12～15cmを測る。竪穴の覆土はV層を基調とした土層で、ロームブロックや焼土粒、シルト粒の混入量によって4層に分層される。

本址の時期は、遺物が出土しなかったため詳細は不明だが、覆土および平面形態から弥生時代中期後葉～後期の所産と考えられる。

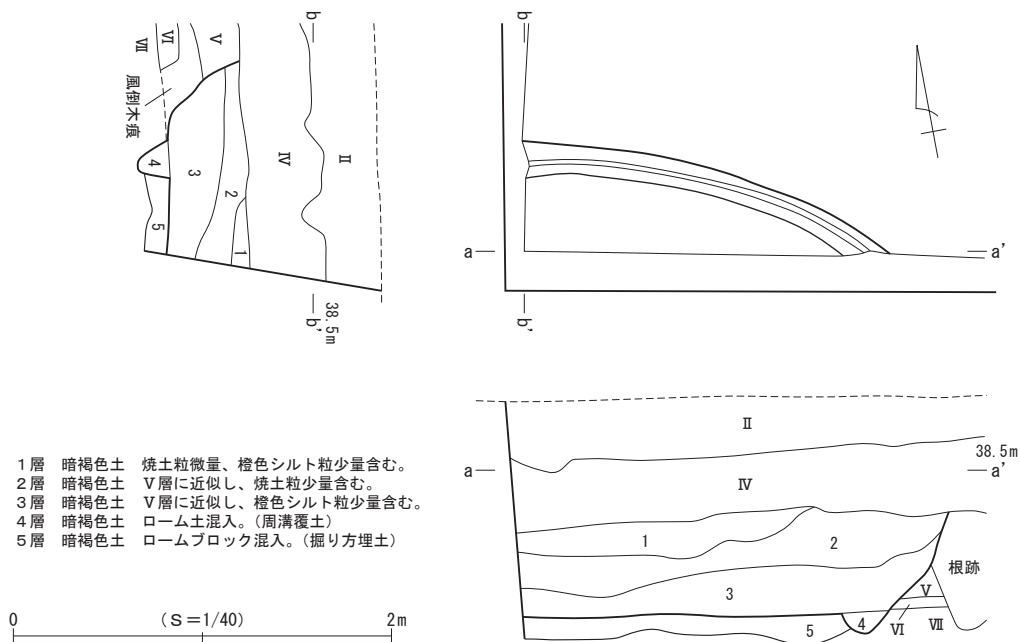


図6 竪穴住居1

竪穴住居 2 (図7)

調査区南東壁際に位置し、西側に竪穴住居 1 が、北側に竪穴住居 3 が隣接する。本址の大半が調査区外の南および東側へ広がるため、全容を把握することはできなかった。調査範囲内では、炉址は検出されなかった。

調査範囲から平面形を推定すると、やや胴の張る隅丸方形を呈すると考えられる。規模は東西現存長 2.69m、南北現存長 90cm、調査区の壁で確認し得た竪穴の深さは 62cm を測る。調査区壁面の観察によると、壁の形状は緩やかに開いて立ち上がり、壁高は遺存状態の良好な東側で 48cm を測る。床面は平坦な貼床式の構造で、床面の標高は 37.76~37.81m を測る。掘り方は深さ 10~20cm あり、ロームブロックを含む暗褐色土が充填されている。周溝は壁に沿ってめぐり、幅 14~25cm、深さ 6~10cm を測る。柱穴は西壁際から 1 基検出された。平面形は楕円形と推定され、規模は長軸現存長 30cm、短軸 30cm、深さ 20cm を測る。竪穴の覆土は V 層を基調とした土層で、ロームブロックや焼土粒、シルト粒の混入量によって 6 層に分層される。

本址の時期は、掘り方の埋土中から弥生時代中期末葉と後期初頭の土器が出土していることや、推定される竪穴の平面形から、弥生時代後期初頭あるいはそれ以降の近い時期と考えられる。

出土遺物 (図8)

本址からは弥生時代中期末葉の宮ノ台式土器と後期初頭の久ヶ原式土器が出土し、出土点数は壺 27 点、甕 11 点を数える。甕はいずれも破片資料で、壺は 1 点のみ器形復元することができた。遺物の出土位置は掘り方の埋土中である。以下、図示し得た 3 点について説明する。

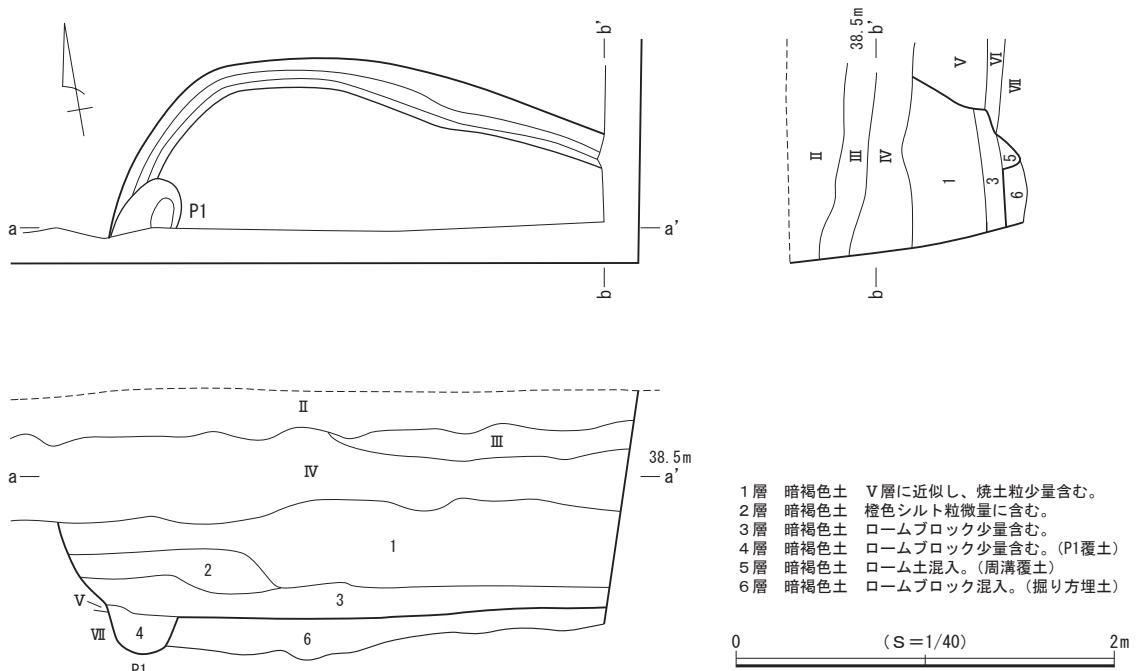


図7 竪穴住居 2

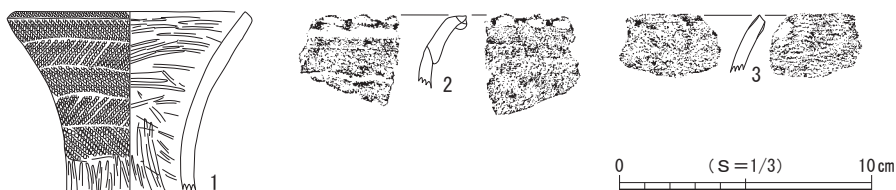


図8 竪穴住居 2 出土遺物

1は細口長頸の直口縁壺の口頸部破片で、口唇部から頸部上半までは羽状縄文が施文される。外面無文部および内面はヘラミガキ調整されている。2・3は甕の口縁部破片である。2の口縁部破片は輪積み痕を残すもので、口唇部が外傾し上下に押捺される。3はやや外反しながら立ち上がる口縁部破片で、内外面からの指頭押捺により緩やかな波状を呈する。これらの資料は1が宮ノ台式の末葉、2は口縁部に輪積み痕が認められる点では久ヶ原式の最古段階の影響が看取される。

竪穴住居 3 (図9)

調査区北東壁際に位置し、南側に竪穴住居2が隣接する。本址の大半が調査区外の北および東側へ広がり、直線的な竪穴の南西面を確認することはできたが、全容は判然としない。調査範囲内では、炉址や柱穴などの付属施設は検出されなかった。

規模は東西現存長1.73m、南北現存長52cm、調査区の壁で確認し得た竪穴の深さは63cmを測る。調査区壁面の観察によると、壁の形状はやや開きぎみに立ち上がり、壁高は遺存状態の良好な東側で63cmを測る。床面は平坦な貼床式の構造で、床面の標高は37.64m前後を測る。掘り方は深さ約10cmであり、ロームブロックを含む黄褐色土が充填されている。周溝は壁に沿って東西方向に直線的に伸び、幅18~20cm、深さ12cmほどを測る。竪穴の覆土はV層を基調とした土層で、ロームブロックやシルト粒の混入量によって3層に分層される。

本址の時期は、床面から弥生時代後期初頭~前葉の土器が出土していることから、弥生時代後期前葉に属すると考えられる。

出土遺物 (図10)

本址からは弥生時代後期初頭の久ヶ原式土器が出土し、出土点数は壺19点、甕6点を数える。これらの遺物はいずれも破片資料で、出土位置は床面直上である。以下、図示し得た2点について説明する。

1・2は甕の口縁部破片で、両者とも器面はナデ調整である。1は口唇部に棒状工具による押捺、2はヘラ状工具による交互押捺が施される。いずれも弥生時代後期初頭~前葉に属すると考えられる。

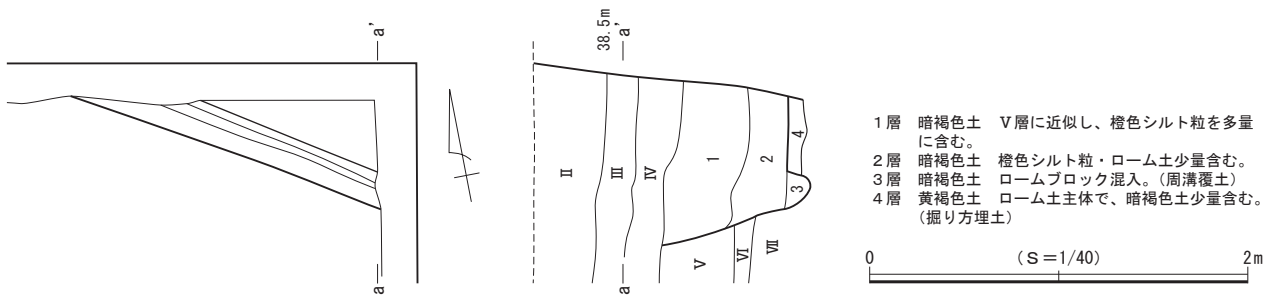


図9 竪穴住居 3

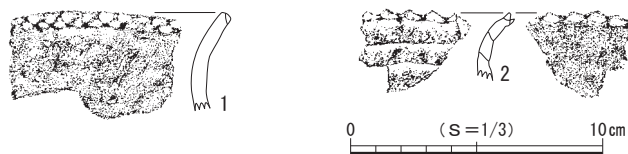


図10 竪穴住居 3 出土遺物

第2節 遺構外出土遺物

遺構外からは縄文時代中・後期と弥生時代中期後葉～古墳時代前期初頭、古代、中世の遺物が出土した。出土量は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して3箱で、ほとんどが破片資料であった。

以下、時代ごとに図示し、説明する。

(1) 縄文時代(図11)

遺構外から出土した縄文時代の遺物は、縄文土器71点と石器1点である。縄文土器は器形の分かる資料は得られず、すべて破片資料で器面が摩滅しているものが多い。土器の時期は後期初頭の称名寺式に属する資料がほとんどであり、時期が異なる土器は中期後半の曾利式が1点のみ出土している。また、石器はクサビ形石器1点が出土したのみである。

ここでは文様の明らかな土器40点と石器1点を図示した。

1は曾利式土器の胴部破片である。沈線による縦位の条線が施され、器面の摩滅が著しい。

2～37は称名寺式土器である。

2～6・10～30は沈線によるアルファベット状文と充填縄文を施した土器である。2～6は口縁部破片、10～30は胴部破片で、口縁部はわずかに内傾して立ち上がる形状を呈する。いずれも破片が小さく、文様モチーフは判然としないものが多いが、10～14はJ字状に端部が巻き込む文様が描かれる。15～20・26もおそらく同様の文様モチーフをもつと考えられる。30は器壁が薄く、ミニチュア土器の可能性はある。

7・9・31～36は沈線によるアルファベット状文をもち、充填縄文をもたない一群である。7・9は口縁部破片、31～36は胴部破片である。7は外に開く形状で、角閃石を多量に含む胎土が特徴的である。9は大波状口縁の波頂部破片で、器面が内面から頂部にかけて剥落して失われている。波頂部の形に沿って1本の沈線文が描かれ、これに平行する沈線が両側面に施される。

8は突起をもち端部が強く屈曲する口縁部破片で、頂部に沈線文が描かれその両端部に円形刺突文が施される。

37は条線をもつ口縁部破片である。口唇部が細く尖り、細かな条線が縦位に施文される。

38～40は後期の底部である。38は底面に網代痕が認められる。39は無文の底部で、40は胴部に垂下する沈線がみられる。

41はクサビ形石器である。黒曜石の剝片を用い、左側縁に潰れが認められる。長さ1.9cm、幅2.6cm、厚さ0.6cm、重量3.3gである。



図11 縄文時代遺構外出土遺物

(2) 弥生時代中期後葉～古墳時代前期初頭

弥生時代中期後葉～古墳時代前期初頭に属する出土遺物の大半は土器であり、土器以外では砥石と考えられる石製品1点が出土した。遺物の総量は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して2箱である。時期別にみると中期後葉では宮ノ台式期の壺、甕が少量出土しており、これらの中にはやや古手のものや最終段階の資料もみられる。後期から古墳時代前期初頭では久ヶ原式系の壺、台付甕、高坏の他に、後期末以降になると埴、器台、受け口状口縁甕、元屋敷式系の高坏なども出土している。ここでは器形や文様の明らかな82点について、中期後葉と後期以降とに分けて説明する。

弥生時代中期後葉の土器(図12)

1～6は壺で、1～5は口縁部から胴部上半の破片である。1は細口長頸の頸部である。3は胴部上半に5本1単位の櫛歯状工具により横線文と流水文が描かれる。2・4・5は羽状縄文ないし斜線文が施された一群で、4には横位の沈線文が加えられている。6は胴部下半の破片である。各資料の時期は、1・2・5が中期末葉、3は宮ノ台式の中でもやや古型式の様相を残している。

7・8は宮ノ台式の甕の口縁部である。7は口唇部外面にヘラ状工具によるキザミがめぐり、口縁部にヘラ状工具により羽状文が描かれる。8は口縁部が横ナデ調整で、頸部は縦方向のハケメ調整である。いずれも中期後葉～末葉頃と考えられる。

弥生時代後期～古墳時代前期初頭の土器(図12・13)

9～43は壺で、9～23は口縁部破片、24～35は胴部上半の破片、36～43は底部破片である。

9～19・22は折り返し口縁壺で、9は口唇部に、10～13は口唇部と折り返し部に斜縄文が施されている。また、10～14は折り返し部下端に、15は口唇部にキザミが加えられている。10・14の内面はミガキ調整後に赤彩されている。14～19は折り返し部が無文である。20は複合口縁壺で、複合部には縄文を施文したのちに複数単位の棒状浮文が貼付されている。21は直口縁で口唇部に斜縄文が施文され、その下端にキザミが施される。21は内外面、22は内面に赤彩されている。23は瓢形を呈する壺の口縁部と推定される。9～15は後期前葉～中葉、16～22は後期中葉～後葉に位置づけられるものと考えられる。

24～34は壺の肩部から胴部上半の破片資料で、斜縄文ないし羽状縄文が施文されている。24～28は縄文帯が沈線文によって区画されるもので、25～27は山形文が描かれ、無文部はミガキ調整されている。29～32は縄文帯が結節文で区画される。33・34は縄文帯の区画がなされないもの、35は結節文のみで文様帯が構成されている。24・25・29・31・32・34の外面无文部は赤彩されている。これらの多くは後期前葉～中葉の所産と考えられるが、胴部が膨らむ形態のものは後葉まで下るものと考えられる。

36～43は底部である。底部のみで詳細は不明であるが、胴部に膨らみをもつものやミガキ調整のものは概して新しい時期に属すると考えられる。42・43は小形壺で、42の胴部外面は赤彩されている。

44は小形の埴である。小さな底部があり、薄手で外面はハケメ調整され、内外面が赤彩されている。後期末～古墳時代前期初頭に位置づけられる。

45は後期前葉～中葉の鉢の口縁部破片である。口縁端部に縄文が施文され、下端にキザミが加えられる。46は小形鉢で、後期末～古墳時代前期初頭頃に位置づけられよう。

47～56は高坏と推定される破片である。47は口唇部が面取りされ、やや内湾ぎみに立ち上がる。坏部の特徴から欠山式系と考えられる。48～50は元屋敷式系の高坏と推定される。51～53は顕著なミガキ調整が施された高坏の脚部と推定され、元屋敷式系との関連が考えられる。54～56は久ヶ原式系の高坏脚部と推定される。55は外面に縄文が施文され、56は端部が折り返し状を呈し、上端にキザミが加えられ

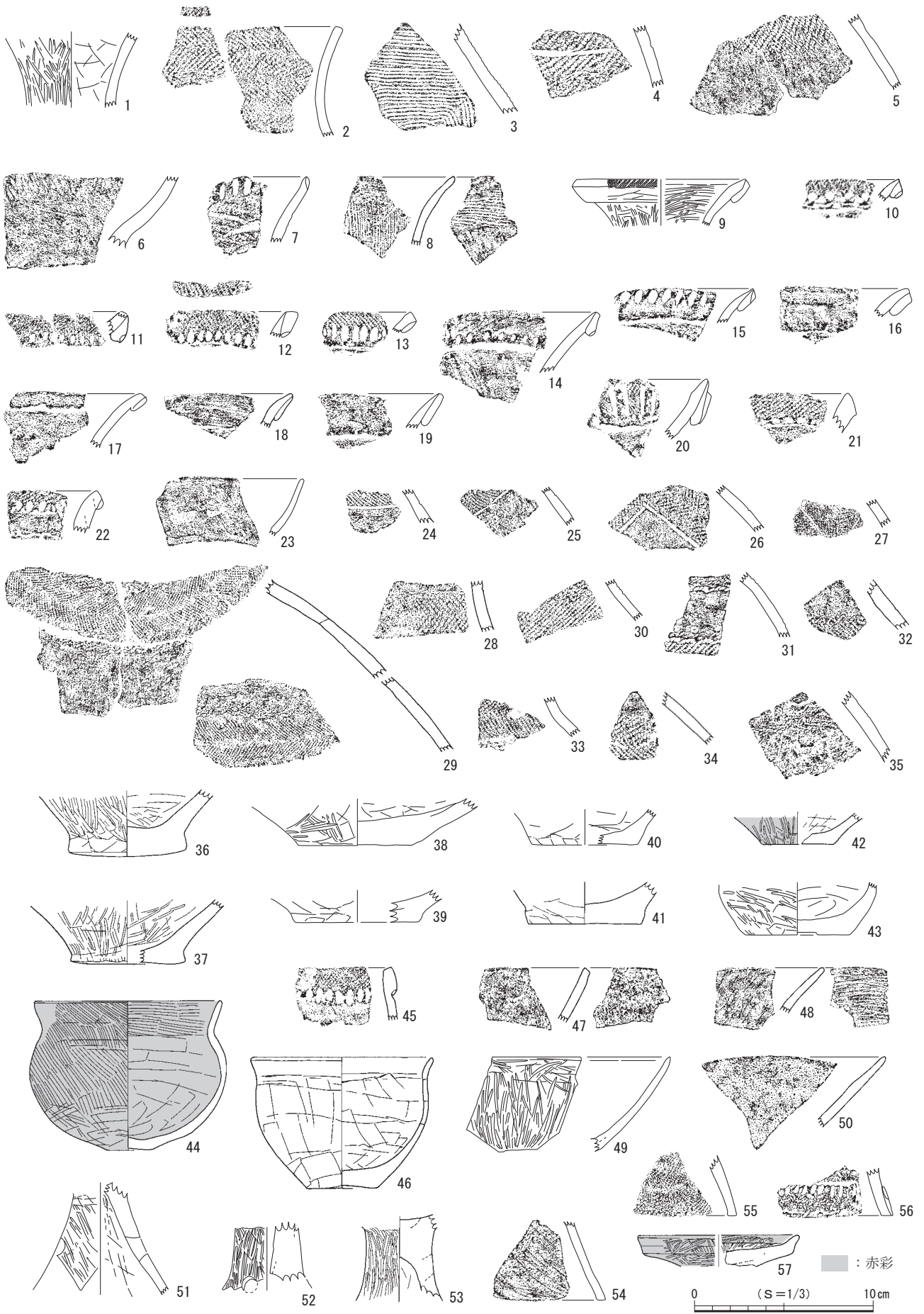


图12 弥生时代中期後葉～古墳时代前期初頭遺構外出土遺物(1)

る。いずれも接地部を面取りして平らに整えられている。54～56は後期前葉から中葉、47・51は後期中葉～後葉、48～50・52・53は古墳時代前期初頭に位置づけられよう。

57は小さい皿状の受け部をもつ器台である。外面と内面の口縁部に赤彩されている。後期末～古墳時代前期初頭に位置づけられる。

58～81は台付甕と推定され、58～68・70～72は口縁部破片、73～75は頸部破片、76・77は甕部と台部との接合部、78～81は台部破片である。58～68はナデ調整の口縁部破片で、58～60は口唇部に上方および外面方向からの交互押捺、61・62は口唇部に棒状工具による押捺が施され、63・64は口唇部にヘラ状工具によるキザミが施される。69は受け口状口縁甕の口縁部から胴部上半にかけての破片で、近江系の甕と推定される。口縁部の屈曲は弱く、新しい様相を呈している。70～72はハケメ調整の口縁部で、70はヘラ状工具によるキザミが施される。71・72はキザミのない口縁部破片で、72は口縁端部がやや内湾する。73～75は輪積みを有する頸部破片である。75は外面に赤彩されている。76・77は接合部、78～81は台部である。78は薄手で台端部が内側に折り返されたS字状口縁甕の台部と考えられる。口縁部の外反具合および口唇部のキザミの有無から、58・59・73～75は後期前葉、60～64・70は後期中葉～後葉、65～69・71・72・78が古墳時代前期初頭に位置づけられ、76・77・79～81は後期の範疇と推定される。

82は砥石と推定される石製品である。扁平な円盤の表裏を磨面として利用している。裏面は一部黒色化する。石材は砂岩である。

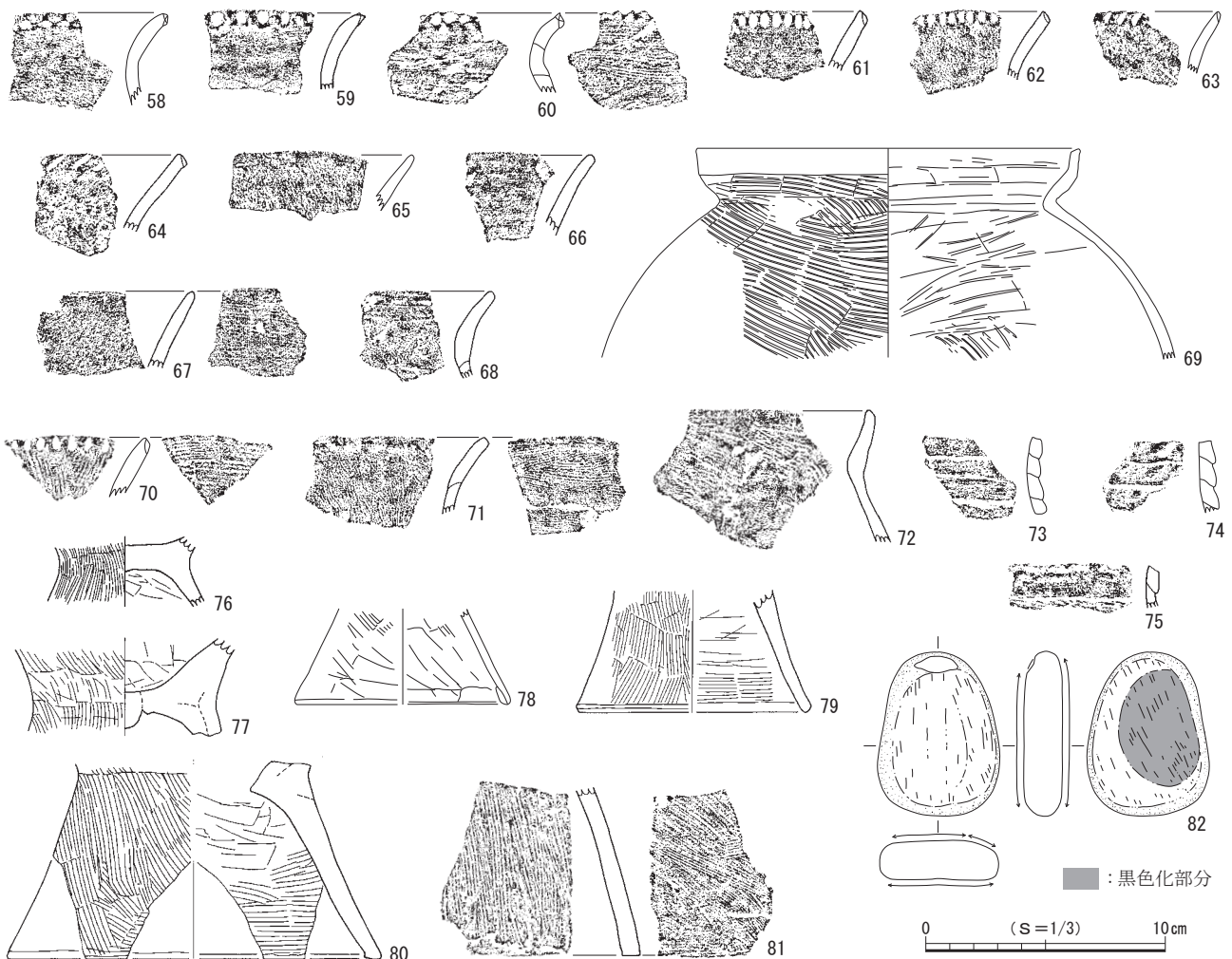


図13 弥生時代中期後葉～古墳時代前期初頭遺構外出土遺物(2)

(3) 古 代 (図14)

古代の遺物は7世紀代と9世紀代の土師器と須恵器が出土し、ここでは土師器1点と須恵器2点を図示した。

1は比企型の土師器坏で、口縁部と底部の境に稜をもち、底部外面はヘラケズリされ、内面と口縁部がヨコナデ調整される。口唇部内面に凹線がめぐり、底部外面を除く全面が赤彩されている。7世紀代に比定される。2は須恵器坏の体部から底部にかけての小破片である。底部外面は回転糸切り未調整で、底径は5.8cmを測る。南多摩古窯址群の御殿山窯産と推定され、9世紀後半～10世紀前半頃の所産と考えられる。3は須恵器長頸瓶の高台部破片である。底部は回転ヘラケズリしてから高台を貼り付け、周縁をナデ調整している。これらの特徴と胎土に海綿骨針を含んでいることから南比企産と考えられる。本資料は9世紀代と推定される。

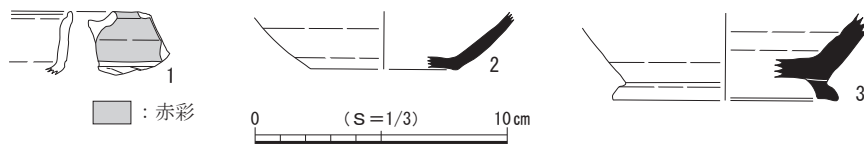


図14 古代遺構外出土遺物

(4) 中 世 (図15)

中世の遺物はかわらけ、陶磁器、瓦質土器が出土し、このうち7点を図示した。

1・2は14世紀代に比定されるロクロ成形によるかわらけである。3は舶載磁器の白磁壺頸部の破片である。4は瀬戸窯産の製品である。古瀬戸様式の瓶子あるいは壺の胴部小破片で、胴部には意匠不明の文様が施されている。5は瀬戸・美濃窯産の製品で、大窯期第4段階(16世紀末)の天目茶碗である。6は常滑窯産の片口鉢I類である。7は瓦質土器の火鉢の口縁部小破片で、外面には印花による菊花文が施文されている。

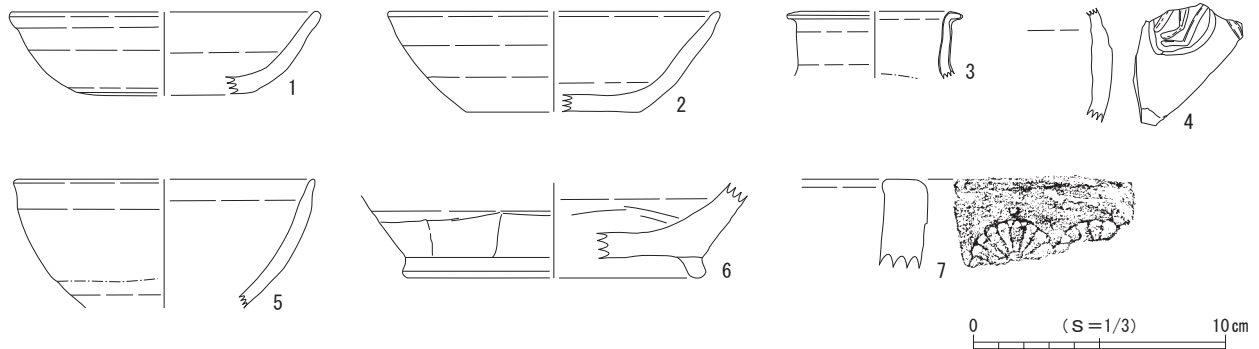


図15 中世遺構外出土遺物

第四章 まとめ

台山遺跡は、鎌倉市の北部域にある「台峰」と呼ばれる丘陵の頂部から裾部にわたって立地する。遺跡は本地点を含めると合計16地点の調査が行われており、縄文時代から中世にかけての複合遺跡であることが明らかとなっている。集落としては弥生時代中期後葉の宮ノ台式期に始まり、続く後期にも継続的に営まれていたと推定される。そして古墳時代以降も断絶を挟みつつも、奈良・平安時代に至るまで居住の痕跡を認めることができる。

本地点の調査は56㎡という狭い範囲であったが、弥生時代中期末～後期前葉と考えられる竪穴住居3軒を検出した。調査区の制約からいずれも竪穴の一部を調査したのみで、全容を把握することはできなかったが、平面形について調査範囲から推定すると、竪穴住居1は楕円形あるいは胴張り隅丸方形の可能性が考えられ、竪穴住居2は胴張り隅丸方形に近い形態と考えられる。一方で、竪穴住居3は直線的な壁と周溝が検出されており、隅丸方形であったと推定される。また、調査区壁面の観察によりいずれの住居址もおおよそ50～60cmに及ぶ掘り込みをもつことが明らかとなった。

各住居の出土遺物はごく少量であったが、出土土器から時期を推定すると、竪穴住居2・3はともに後期初頭～前葉に属すると考えられ、ほぼ同時期に位置づけられる。一方で両住居の間隔が1mに満たないことから同時並存は考えにくく、少なくとも2段階の変遷をもつ集落として捉えることができる。なお、竪穴住居1は土器が出土しなかったため詳細な時期は不明である。

ここで本地点に隣接する調査地点の様相について触れると、南側15mほどの至近距離に位置する山ノ内字籐源治874番2地点では6軒の住居が重複して検出され、このうちの3軒は出土遺物から弥生時代後期に属することが明らかとなっている(齋木・宗墓 1985)。また、南西側に45mほど離れた台字西ノ台1730番1、1732番1地点でも後期に属する2軒の住居が検出されており(玉林・新国 1988)、本地点を含めた周辺域には弥生時代中期後葉から後期へと続く集落が営まれていたと考えられる。一方、本遺跡が立地する丘陵の東側縁辺部は比較的広い平坦面となっており、3地点の調査が行われ後期を主体とする20軒を超える竪穴住居が発見されている(手塚ほか 1985、大河内 1996、宗墓 1993)。この東側縁辺部が集落の中心域と推定され、さらに丘陵から派生する複数の尾根筋上に弥生時代中期後葉から後期にかけての集落が展開するという様相をうかがうことができる。しかし、調査面積の制約から得られた資料は非常に断片的であり、集落の広がりや実態の解明は今後の調査成果に期するところである。

〈遺構外出土遺物〉

遺構外からの出土遺物は、縄文時代中・後期、弥生時代中期後葉～古墳時代前期初頭にかけての土器と石製品、古代の土師器、須恵器、中世のかわらけ、陶磁器、瓦質土器などで、出土量は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して3箱を数える。

時期ごとに出土遺物の様相をみると、縄文時代の遺物は土器71点と石器1点が出土し、土器は器形復元し得る資料はなくすべて破片資料であった。無文で時期の判然としないものもあるが、中期後半の曾利式土器が1点出土した他はいずれも後期初頭称名寺式に属すると考えられる。称名寺式土器の文様は、沈線によるアルファベット状の区画文を描いて縄文を充填した土器が主体で、称名寺Ⅱ式のメルクマールとなる区画文内に列点文を施すものは認められなかった。なお、石器は黒曜石製のクサビ形石器1点が出土したのみである。

弥生時代中期後葉～古墳時代前期初頭までの遺物は、主に土器が出土した。中期後葉の宮ノ台式土器

については、堅穴住居出土の土器群を含めて考えると概して新しい時期とみられたが、遺構外出土の中には流水文や平行文などの櫛描文様などの壺が含まれていたことから、時期的にはやや幅があるものと考えられる。後期では久ヶ原式系の土器群が主体と考えられ、壺は沈線区画による文様帯(平行文や山形文など)をもつ資料が中心で、口縁部は折返し口縁を特徴としている。また、台付甕はヘラナデ調整を基調とし、口唇部にはキザミが施されている。そして後期でも後葉に至ると、壺の胴部形態は全体に膨らみ、文様帯も沈線文から結節文による区画に変化している。台付甕は器面調整におけるハケメ調整の波及や、口縁部は総じて強く外反するなどの変化がみられる。なお、古墳時代前期になると、口唇部のキザミは消失し、口縁部は「く」字状に屈曲すると考えられる。当該期には在地の土器群に混じって東海系のS字状口縁甕や近江系の受口状口縁甕、高坏では元屋敷系や小形器台などの器種もみられるようになり、他地域との関連が強くうかがわれるようになってくる。

中世の遺物は14～16世紀代の時期幅をもつかかわらけ、陶器類、瓦質土器の小破片が出土したが、出土量としては極めて少なく、中世段階の当地域における人的活動が低調であったことをうかがわせる。遺物の内容はかわらけはロクロ成形によるものが多いが、手づくね成形によるかわらけも少量含まれている。舶載磁器は白磁壺が1点、国産陶器類は瀬戸窯産の製品が少量出土している。

引用・参考文献（著者五十音順）

- 伊丹まどか 2004『台山遺跡(No.29) 鎌倉市山ノ内字宮下小路819番1 外地点』『平成15年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20 鎌倉市教育委員会
- 丑野 毅 1974「神奈川県鎌倉市台遺跡調査報告書」『人文科学紀要』第59輯 東京大学教養学部人文科学科
- 大上周三 1992「4. 台山遺跡(No.29) 台字西ノ台1624番3 外」『平成3年度発掘調査報告』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8 鎌倉市教育委員会
- 大河内 勉 1996『台山藤源治遺跡 第2次調査報告』台山遺跡発掘調査団
- 押木弘己 2016「台山遺跡(No.29) 台字西ノ台1418番10地点」『平成27年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書32 鎌倉市教育委員会
- 押木弘己 2017「台山遺跡(No.29) 山ノ内860番2 地点」『平成28年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書33 鎌倉市教育委員会
- 齋木秀雄・宗基秀明 1985「3. 台山遺跡山ノ内字藤源治874番2 地点」『昭和59年度発掘調査報告』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書1 鎌倉市教育委員会
- 宗基秀明 1993『台山藤源治遺跡－第3次調査報告－』台山藤源治遺跡発掘調査団
- 玉林美男・新国哲也 1988「6. 台山遺跡台字西ノ台1730番1、1732番1 地点」『昭和62年度発掘調査報告』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4 鎌倉市教育委員会
- 継 実 2001「台山遺跡(No.29) 鎌倉市台字西ノ台1718番3 地点」『平成12年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17 鎌倉市教育委員会
- 手塚直樹ほか 1985『台山藤源治遺跡』台山遺跡発掘調査団
- 野本賢二 1997「台山遺跡(No.29) 台字西ノ台1627番地点」『平成8年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13 鎌倉市教育委員会
- 森 孝子 2002『台山遺跡発掘調査報告書』有限会社 博通
- 若松美智子 1998『台山遺跡発掘調査報告書－鎌倉市台字西ノ台1733－1 外地点－』台山遺跡埋蔵文化財発掘調査団・東国歴史考古学研究所
- 若松美智子・田村良照 1999「台山遺跡(No.29) 台字西ノ台1733番3 外」『平成10年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15 鎌倉市教育委員会
- 『鎌倉市史』考古編 赤星直忠 吉川弘文館 1959
- 『鎌倉事典』白井永二編 東京堂出版 1976

表2 竪穴住居2・3出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
竪穴住居2出土遺物(図8)							
1	土器	壺	9.2	-	現7.1	口唇部-斜縄文 口縁部-羽状縄文 内外面無文部-ヘラミガキ 胎土:砂質、砂微量、雲母、赤色粒、黒色粒 色調:黄灰~黒褐色 焼成:良好 備考:宮ノ台式末葉	口頭部 遺存
2	土器	甕	-	-	-	口唇部-棒状工具による上下押捺 口縁部-一段輪積み 外面-横ハケメ、ナデ 内面-横ヘラナデ 胎土:砂質、砂微量、雲母、赤色粒、黒色粒、白色粒 色調:黄橙色 焼成:良好 備考:宮ノ台式末葉	口縁部 破片
3	土器	甕	-	-	-	口縁部-内外面からの弱い指頭押捺 内外面-ハケメ 胎土:砂質、砂微量、雲母、赤色粒 色調:橙色 焼成:良好 備考:宮ノ台式末葉	口縁部 破片

竪穴住居3出土遺物(図10)

1	土器	甕	-	-	-	口唇部-棒状工具による押捺 内外面-ヘラナデ 胎土:砂質、砂微量、雲母、赤色粒、黒色粒 色調:明黄橙色 焼成:良好 備考:久ヶ原式初頭~前葉	口縁部 破片
2	土器	甕	-	-	-	口唇部-ヘラ状工具による交互押捺 口縁部-頸部-輪積み痕 外面-指オサエ→ヘラナデ 内面-ヘラナデ 胎土:砂質、雲母、赤色粒、黒色粒 色調:橙褐色 焼成:良好 備考:久ヶ原式初頭~前葉	口縁部 破片

表3 遺構外出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

弥生時代中期後葉~古墳時代前期初頭遺構外出土遺物(図12・13)

1	土器	壺	9.2	-	現7.1	口唇部-斜縄文 口縁部-羽状縄文 内外面-ヘラミガキ 胎土:砂質、微砂、雲母、赤色粒、黒色粒 色調:黄灰~黒褐色 焼成:良好 備考:宮ノ台式末葉	口頭部 1/4弱
2	土器	壺	-	-	-	口唇部-斜縄文 外面-羽状縄文 内面:ヘラナデ 胎土:砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、白色粒 色調:黄橙色 焼成:良好 備考:宮ノ台式末葉	口頭部 破片
3	土器	壺	-	-	-	外面-胴部上半5本一単位櫛形流水文 内面-ヘラナデ 胎土:砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、白色粒 色調:黄褐色 焼成:良好 備考:宮ノ台式中葉	胴部 上半破片
4	土器	壺	-	-	-	外面-斜縄文→沈線、沈線より上部に赤彩 内面-赤彩 胎土:砂質、黒雲母、白色粒多量 色調:黄褐色 焼成:良好 備考:宮ノ台式中葉	胴部 上半破片
5	土器	壺	-	-	-	外面-胴部上半斜縄文、縦位ヘラナデ 内面-不定方向のヘラナデ 胎土:砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、海綿骨針 色調:外面-黄褐色、内面-黒色 焼成:良好 備考:宮ノ台式末葉	胴部 上半破片
6	土器	壺	-	-	-	外面-ヘラミガキ、ヘラナデ、ハケメ 胎土:砂質、金・黒雲母、赤色粒、黒色粒 色調:外面-黄褐色、内面-黄灰色 焼成:良好 備考:宮ノ台式	胴部 下半破片
7	土器	甕	-	-	-	口唇部-ヘラ状工具によるキザミ 外面-口縁部ヘラナデ、頸部斜ハケメ 内面-横斜ハケメ 胎土:砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、黒色粒 色調:黄褐色 焼成:良好 備考:宮ノ台式後葉~末葉	口頭部 破片
8	土器	甕	-	-	-	口唇部-横ナデ 外面-口縁部横ナデ、頸部縦ハケメ 内面-口縁部横ハケメ、頸部縦ヘラミガキ 胎土:砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、海綿骨針 色調:黄灰色 焼成:良好 備考:宮ノ台式後葉~末葉	口頭部 破片
9	土器	壺	(9.6)	-	2.6	口唇部-斜縄文 外面-折り返し口縁→ヘラナデ、頸部ヘラナデ→ヘラミガキ 内面-横ナデ、横ハケメ→ヘラミガキ 胎土:砂質、金・黒雲母、赤色粒、白色粒 色調:黄褐色 焼成:良好 備考:後期前葉~中葉	口縁部 1/7
10	土器	壺	-	-	-	外面-口縁部折り返し口縁、網目縄文 折り返し部端に棒状工具による押捺 内面-横ヘラミガキ(摩耗)→赤彩 胎土:砂質、微砂、黒雲母、赤色粒 色調:黄褐色 焼成:良好 備考:後期前葉~中葉	口頭部 破片
11	土器	壺	-	-	-	外面-口縁部折り返し口縁、斜縄文 折り返し部端に棒状工具による押捺 内面-ナデ 胎土:砂質、金・黒雲母、赤色粒 色調:橙色 焼成:良好 備考:後期前葉~中葉	口頭部 破片
12	土器	壺	-	-	-	口唇部~口縁部-斜縄文 外面-口縁部折り返し口縁 折り返し部端に布巻棒状工具による押捺 胎土:砂質、微砂、黒雲母、白色粒、細礫 色調:橙色 焼成:良好 備考:後期前葉~中葉	口頭部 破片
13	土器	壺	-	-	-	口唇部~口縁部-斜縄文 外面-口縁部折り返し口縁 折り返し部端に縄文原体による押捺 胎土:砂質、微砂、黒雲母、細礫 色調:黄灰色 焼成:良好 備考:後期前葉~中葉	口頭部 破片
14	土器	壺	-	-	-	外面-口縁部折り返し口縁、横ナデ 折り返し部端にヘラ状工具によるキザミ 外面-縦ヘラミガキ 内面-横~縦ヘラミガキ、赤彩 胎土:砂質、微砂、黒雲母、赤色粒、細礫 色調:明褐色 焼成:良好 備考:後期前葉~中葉	口頭部 破片
15	土器	壺	-	-	-	口唇部-棒状工具による押捺 外面-口縁部折り返し口縁、無文部ナデ 内面-ナデ 胎土:砂質、微砂、黒雲母、赤色粒、細礫 色調:明褐色 焼成:良好 備考:後期前葉~中葉	口頭部 破片
16	土器	壺	-	-	-	外面-口縁部折り返し口縁、ヘラミガキ 無文部縦ハケメ 内面-横ヘラミガキ 胎土:砂質、微砂、黒雲母、赤色粒、泥岩粒 色調:黄褐色 焼成:良好 備考:後期中葉~後葉	口頭部 破片
17	土器	壺	-	-	-	外面-口縁部折り返し口縁、横ナデ 無文部ヘラナデ 内面-横ヘラナデ 胎土:砂質、微砂、金・黒雲母、細礫 色調:橙色 焼成:良好 備考:中葉~後葉	口頭部 破片
18	土器	壺	-	-	-	外面-口縁部折り返し口縁、横ヘラミガキ 無文部縦ヘラミガキ 内面-横ヘラミガキ 胎土:砂質、金・黒雲母、赤色粒、海綿骨針 色調:黄褐色 焼成:良好 備考:後期中葉~後葉	口頭部 破片
19	土器	壺	-	-	-	外面-口縁部折り返し口縁 無文部縦ハケメ 内面-ヘラミガキ 胎土:微砂、黒雲母、黒色粒 色調:黄褐色 焼成:良好 備考:後期中葉~後葉	口頭部 破片
20	土器	壺	-	-	-	外面-口縁部複合口縁、斜縄文→棒状浮文 無文部ナデ(摩耗) 内面-横ヘラナデ 胎土:砂質、微砂、金雲母、白色粒、細礫 色調:外面-橙色 内面-黄褐色 焼成:良好 備考:後期中葉~後葉	口頭部 破片
21	土器	壺	-	-	-	口唇部-斜縄文、端部に棒状工具による弱い押捺 外面-ヘラミガキ 内面-ヘラナデ 内外面-無文部に赤彩 胎土:砂質、金・黒雲母、赤色粒、海綿骨針 色調:橙色 焼成:良好 備考:後期中葉~後葉	口頭部 破片
22	土器	壺	-	-	-	口唇部-斜縄文、端部に棒状工具による押捺 外面-ヘラミガキ 内面-ヘラナデ、赤彩 胎土:砂質、金・黒雲母、赤色粒、海綿骨針 色調:黄褐色、赤彩~暗赤褐色 焼成:良好 備考:後期中葉~後葉	口頭部 破片

23	土器	壺	-	-	-	口唇部-横ナデ 外面-ハケメ→ミガキ 内面-口縁部ヘラミガキ、頸部ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、白色粒 色調：橙褐色 焼成：良好 備考：瓢形壺か、後期後葉	口頸部 破片
24	土器	壺	-	-	-	外面-斜縄文を沈線により区画、無文部横ヘラナデ→赤彩 内面-ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、白色粒 色調：橙色 焼成：良好 備考：後期前葉～中葉	胴部 上半破片
25	土器	壺	-	-	-	外面-斜縄文を沈線により区画、無文部ヘラミガキ→赤彩 内面-ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、黒色粒 色調：黄橙色 赤彩-赤褐色 焼成：良好 備考：後期前葉～中葉	胴部 上半破片
26	土器	壺	-	-	-	外面-羽状縄文を沈線により山形文区画、無文部ナデ 内面-ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、白色粒 色調：外面-黄灰褐色、内面-明黄褐色 焼成：良好 備考：後期前葉～中葉	胴部 上半破片
27	土器	壺	-	-	-	外面-羽状縄文を沈線により山形文区画、無文部赤彩 内面-ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、白色粒 色調：明黄褐色、赤彩-赤褐色 焼成：良好 備考：後期前葉～中葉	胴部 上半破片
28	土器	壺	-	-	-	外面-羽状縄文を沈線区画 内面-ナデ 胎土：砂質、微砂、白色粒、海綿骨針 色調：黄橙色 焼成：良好 備考：後期前葉～中葉	頸部～胴部 上半破片
29	土器	壺	-	-	-	外面-2段の羽状縄文帯を結節文により区画、無文部ヘラミガキ→赤彩 内面-摩耗 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母 色調：黄橙色 焼成：良好 備考：後期中葉～後葉	胴部 上半破片
30	土器	壺	-	-	-	外面-斜縄文、結節文 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、海綿骨針 色調：橙色 焼成：良好 備考：後期	胴部 上半破片
31	土器	壺	-	-	-	外面-斜縄文帯を結節文で区画、無文部横ヘラミガキ→赤彩 内面-横ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、黒色粒 色調：黄橙色、赤彩-明赤褐色 焼成：良好 備考：後期中葉～後葉	胴部 上半破片
32	土器	壺	-	-	-	外面-斜縄文帯を結節文で区画、無文部ナデ→赤彩 内面-摩耗 胎土：砂質、微砂、白色粒 色調：黄橙色 焼成：良好 備考：後期中葉～後葉	胴部 上半破片
33	土器	壺	-	-	-	外面-羽状縄文を沈線により区画 内面-横ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、海綿骨針 色調：暗褐色 焼成：良好 備考：後期前葉～中葉	胴部 上半破片
34	土器	壺	-	-	-	外面-羽状縄文、無文部ヘラミガキ→赤彩 内面-横ヘラミガキ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、黒色粒、白色粒 色調：黄褐色 焼成：良好 備考：後期	胴部 上半破片
35	土器	壺	-	-	-	外面-結節文による文様帯、無文部ヘラナデ 内面-ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、細礫 色調：黄灰色 焼成：良好 備考：後期	胴部 上半破片
36	土器	壺	-	6.4~6.7	現 3.7	外面-ヘラナデ→ヘラミガキ 内面-ヘラナデ 底部-ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、泥岩粒 色調：橙色 焼成：良好 備考：後期	底部遺存
37	土器	壺	-	(6.4)	現 3.5	外面-ハケメ縦ヘラミガキ 内面-ヘラナデ→ヘラミガキ 底部-ヘラナデ→ヘラミガキ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、白色粒、海綿骨針 色調：黄褐色 焼成：良好 備考：後期	底部 1/4
38	土器	壺	-	6.9	2.6	外面-ヘラナデ→ヘラミガキ(摩耗により不明瞭) 内面-底面-ヘラナデ 胎土：微砂、金・黒雲母、白色粒、赤色粒 色調：黄橙 焼成：良好 備考：内面に糊圧痕、後期	底部遺存
39	土器	壺	-	(7.0)	現 1.8	内外面-底面-ヘラナデ 胎土：砂質、黒雲母、赤色粒 色調：明褐色 焼成：良好 備考：後期	底部 1/6
40	土器	壺	-	(6.0)	現 2.0	内外面-底面-ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、黒色粒 色調：明褐色 焼成：良好 備考：後期	底部 1/4弱
41	土器	壺	-	(6.4)	現 2.3	外面-底面-ヘラナデ 内面-摩耗 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、石英粒、泥岩粒 色調：明黄褐色 焼成：良好 備考：後期	底部 1/3
42	土器	小形壺	-	(4.0)	現 1.7	外面-縦ヘラミガキ→赤彩 内面-ヘラナデ 底面-ヘラナデ→赤彩 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、細礫 色調：明白色、赤彩-赤褐色 焼成：良好 備考：後期後葉～古墳前期初頭	底部 1/4
43	土器	小形壺	-	5.8	現 2.9	外面-ヘラナデ→ヘラミガキ 内面-ヨコヘラナデ 底面-中央が窪みドーナツ状、ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、白色粒、泥岩粒 色調：外面-黄褐色、内面-橙色 焼成：良好 備考：後期後葉～古墳前期初頭	底部 1/2弱
44	土器	小形埴	(10.3)	2.3	8.3	外面-口縁部～胴部上半斜ハケメ、胴部下半ヘラナデ 内面-口縁部横ハケメ、頸部以下横ヘラナデ、ヘラナデ 底部-やや上げ底、ヘラナデ 内外面-赤彩 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、細礫 色調：明黄褐色 焼成：良好 備考：後期末～古墳前期初頭	2/3弱
45	土器	鉢	-	-	-	口縁部-折り返し口縁 折り返し部斜縄文 折り返し部端に棒状工具による押捺 内外面-横ナデ、横ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、白色粒、角閃石 色調：黄褐色～橙色 焼成：良好 備考：後期前葉～中葉	口頸部 破片
46	土器	小形鉢	(10.0)	(1.9)	7.3	口唇部-横ナデ 外面-口縁部横ナデ、胴部縦-斜ヘラケズリ 内面-口縁部横ナデ、胴部上半横ヘラナデ、胴部下半ヘラケズリ 底部-ややドーナツ状、ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金雲母、角閃石、赤色粒、白色粒、海綿骨針 色調：黄褐色 焼成：良好 備考：後期末～古墳前期初頭	1/4
47	土器	高坏	-	-	-	口唇部-ハケメ状工具により面取り 外面-横ハケメ→縦-斜細ハケメ→斜ヘラミガキ 内面-斜細ハケメ→縦ヘラミガキ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、白色粒、海綿骨針、細礫 色調：外面-黄～黒色、内面-黒色 焼成：良好 備考：欠山式系か、後期中葉～後葉	口頸部 破片
48	土器	高坏	-	-	-	外面-斜ヘラミガキ 内面-横ハケメ 胎土：砂質、微砂、黒雲母、赤色粒 色調：黄褐色 焼成：良好 備考：古墳前期初頭	口頸部 破片
49	土器	高坏	-	-	-	口唇部-横ナデ 内外面-縦位ヘラミガキ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母 色調：黄褐色 焼成：良好で硬く焼き縮まる 備考：元屋敷式系高坏、古墳前期初頭	口頸部 破片
50	土器	高坏	-	-	-	外面-縦ヘラミガキ、摩耗 内面-横ヘラミガキ 胎土：砂質、微砂、黒雲母、赤色粒、白色粒、海綿骨針 色調：外面-暗灰黄色、内面-黄褐色 焼成：良好 備考：元屋敷式系高坏、古墳前期初頭	口頸部 破片
51	土器	高坏	-	-	現 6.3	外面-斜ヘラミガキ 内面-ヘラナデ 胎土：砂質、金・黒雲母、細礫 色調：橙色 焼成：良好 備考：山中式系、後期中葉～後葉	脚部破片
52	土器	高坏	-	-	現 3.6	外面-縦ヘラミガキ、円孔4カ所か 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、黒色粒、泥岩粒 色調：黄橙～橙色 焼成：良好 備考：欠山式系か、後期中葉～後葉	脚部上半 1/3
53	土器	高坏	-	-	現 4.8	外面-縦ハケメ→縦ヘラミガキ 内面-ナデ 胎土-砂質、微砂、黒雲母、赤色粒、黒色粒、白色粒 色調：明褐色 焼成：良好 備考：山中系、後期中葉～後葉	脚部 上半破片
54	土器	高坏	-	-	-	外面-斜ヘラミガキ 内面-ヘラナデ 接地部-平滑 胎土：砂質、金・黒雲母、白色粒、泥岩粒 色調：黄褐色 焼成：良好、硬質 備考：後期末～古墳前期	脚部破片
55	土器	高坏	-	-	-	外面-羽状縄文 内面-ヘラナデ 接地部-横ナデ 胎土：砂質、微砂、雲母、赤色粒 色調：黄褐色 焼成：良好 備考：欠ヶ原式	脚部破片
56	土器	高坏	-	-	-	外面-斜ヘラミガキ、脚部端折り返し→折り返し部端ヘラ状工具によるキザミ、結節文→ナデ 内面-ヘラナデ、ヘラミガキ 接地部-平滑 胎土：砂質、微砂、黒雲母、白色粒、海綿骨針、細礫 色調：黒色 焼成：良好 備考：後期前葉～中葉	脚部破片

57	土器	器台	(9.0)	-	現 1.7	外面-ヘラミガキ→赤彩 内面-ヘラミガキ→一部赤彩 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、海綿骨針 色調：内面-黒色、赤彩-赤褐色 焼成：良好 備考：後期末～古墳前期初頭	器台部 1/6弱
58	土器	台付甕	-	-	-	口唇部-棒状工具による交互押捺 内外面-横ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、海綿骨針 色調：黄橙色 焼成：良好 備考：後期前葉	口頸部 破片
59	土器	台付甕	-	-	-	口唇部-棒状工具による交互押捺 外面-口縁部ヘラナデ、頸部一部ヘラミガキ 内面-横ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、黒雲母、赤色粒 色調：黄橙色 焼成：良好 備考：後期前葉	口頸部 破片
60	土器	台付甕	-	-	-	口唇部-棒状工具による交互押捺 外面-横ヘラナデ、輪積み痕わずか 内面-口縁部ハケメ、頸部横ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、黒雲母 色調：黄灰色 焼成：良好 備考：後期中葉	口頸部 破片
61	土器	台付甕	-	-	-	口唇部-棒状工具による押捺 内外面-横ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、黒雲母、赤色粒、白色粒 色調：暗褐色、焼成：良好 備考：後期中葉～後葉	口頸部 破片
62	土器	台付甕	-	-	-	口唇部-棒状工具による押捺 内外面-ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、黒雲母、赤色粒 色調：黄灰色、焼成：良好 備考：後期中葉～後葉	口頸部 破片
63	土器	台付甕	-	-	-	口唇部-ヘラ状工具によるキザミ 内外面-ヘラナデ 胎土：砂質、金・黒雲母、赤色粒、白色粒 色調：明黄灰色 焼成：良好 備考：後期中葉～後葉	口頸部 破片
64	土器	台付甕	-	-	-	口唇部-ヘラ状工具による斜キザミ 外面-横・斜ヘラナデ 内面-横ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、黒雲母、赤色粒、細礫 色調：黄橙色 焼成：良好 備考：後期中葉～後葉	口頸部 破片
65	土器	台付甕	-	-	-	口唇部-横ナデ 内外面-ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、白色粒 色調：黄橙色 焼成：良好 備考：古墳前期初頭	口頸部 破片
66	土器	台付甕	-	-	-	口唇部-横ナデ 内外面-横ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、白色粒、海綿骨針 色調：橙色 焼成：良好 備考：古墳前期初頭	口頸部 破片
67	土器	台付甕	-	-	-	口唇部-横ナデ 外面-ヘラナデ 内面-横ハケメ→縦ヘラミガキ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、白色粒、小石 色調：黄灰～褐色 焼成：良好 備考：古墳前期初頭	口頸部 破片
68	土器	甕	-	-	-	口唇部-横ナデ 内外面-ヘラナデ 胎土：微砂、砂粒、金・黒雲母、赤色粒、白色粒 色調：橙褐色 焼成：良好 備考：古墳前期初頭	口頸部 破片
69	土器	台付甕	(16.0)	-	現 8.8	外面-口縁部横ナデ、頸部以下斜位ハケメ 内面-ヘラナデ→ヘラミガキ 胎土：砂質、金・黒雲母、赤色粒、白色粒、海綿骨針 色調：橙色 焼成：良好 備考：近江系受口状口縁甕、古墳前期初頭	口縁部 1/4
70	土器	台付甕	-	-	-	口唇部-ヘラ状工具によるキザミ 内外面-ハケメ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、黒色粒 色調：黄橙色 焼成：良好 備考：後期中葉～後葉	口頸部 破片
71	土器	台付甕	-	-	-	口唇部-ヨコナデ 外面-縦・斜細ハケメ 内面-横細ハケメ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、白色粒、細礫 色調：明黄橙色 焼成：良好 備考：古墳前期初頭	口頸部 破片
72	土器	台付甕	-	-	-	外面-口縁部-斜ハケメ、頸部以下縦ハケメ 内面-口縁部横ヘラナデ、頸部以下横ヘラケズリ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒 色調：明橙色 焼成：良好 備考：古墳前期初頭	口頸部 破片
73	土器	台付甕	-	-	-	外面-輪積み痕跡、ナデ 内面-横ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、黒雲母、赤色粒 色調：外面-黄褐色 内面-黄褐色 焼成：良好 備考：後期前葉	頸部破片
74	土器	台付甕	-	-	-	外面-輪積み痕跡 内面-ヘラナデ 胎土：砂質、金・黒雲母、赤色粒、細礫 色調：橙褐色 焼成：良好 備考：後期前葉	頸部破片
75	土器	台付甕	-	-	-	外面-頸部輪積み痕跡、横ハケメ→赤彩 内面-横ヘラナデ 胎土：砂質、金・黒雲母、赤色粒、白色粒 色調：明黄灰色 焼成：良好 備考：後期前葉	口頸部 破片
76	土器	台付甕	-	-	現 2.9	外面-縦ハケメ 内面-甕部ナデ 脚部ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、黒雲母、赤色粒、細礫 色調：外面-橙色 内面-明橙色 焼成：良好 備考：後期	接合部
77	土器	台付甕	-	-	現 4.6	外面-縦ハケメ→ナデ(摩耗) 内面-甕部ヘラナデ 脚部横ナデ 接合部ホゾ粘土充填 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、細礫 色調：外面-黄橙色 内面-黄灰色 焼成：良好 備考：後期	接合部
78	土器	台付甕	-	(8.8)	現 4.0	外面-ハケメ→ヘラナデ 内面-ヘラナデ 接地部が内側に折り返し 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、海綿骨針 色調：黄橙色 焼成：良好 備考：S字状口縁甕、古墳前期初頭	脚部 1/5
79	土器	台付甕	-	(9.3)	現 5.1	外面-縦ハケメ 内面-横ヘラナデ、横ハケメ 胎土：砂質、金・黒雲母、赤色粒 色調：明橙色 焼成：良好 備考：後期	脚部 1/5
80	土器	台付甕	-	(15.6)	現 8.2	外面-縦・斜ハケメ 内面-ヘラナデ、横ハケメ 接地部-横ナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、白色粒、海綿骨針 色調：黄橙色 焼成：良好 備考：後期	脚部 1/4弱
81	土器	台付甕	-	-	-	外面-縦ハケメ 内面-斜ハケメ、横ハケメ 接地部-ヘラナデ 胎土：砂質、微砂、金・黒雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針 色調：黄橙色 焼成：良好 備考：後期	脚部破片
82	石製品	砥石?	長 6.9	幅 5.1	厚 1.7	2面に使用痕 裏面一部黒色化 石材-砂岩	略完形

古代遺構外出土遺物 (図14)

1	土器	土師器 坏	-	-	現 2.5	口唇部内面-凹線 外面-口縁部ヨコナデ→赤彩 底部ヘラケズリ 内面-ヨコナデ→赤彩 胎土：砂質、赤色粒、白色粒、細礫 色調：にぶい赤褐色 焼成：良好 備考：比企産	口縁部 小破片
2	土器	須恵器 坏	-	(5.8)	現 2.3	体部内外面-回転ナデ 底面-回転糸切未調整 胎土：白色粒、褐色粒、泥岩粒、細礫 色調：灰色 焼成：良好 備考：御殿山窯産	体部～底部 小破片
3	土器	須恵器 長頸瓶	-	(9.0)	現 3.5	内外面-回転ナデ 底部-回転ヘラケズリ→高台貼付け→周縁ナデ 胎土：雲母、白色粒、海綿骨針、細礫 色調：外面-黒色 内面-灰黄色 焼成：良好、堅緻 備考：南比企産	底部～高台 部小破片

中世遺構外出土遺物 (図15)

1	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(7.2)	3.3	底面-回転糸切 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/5
2	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.1)	(6.9)	4.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
3	磁器	白磁 壺	7.0	-	現 2.7	色調：胎土-灰白色、釉-明緑灰色	口縁部～ 頸部破片
4	陶器	瀬戸 瓶子か壺	-	-	現 4.5	外面-意匠不明の文様 胎土：緻密 色調：胎土-灰色、釉-薄灰色	胴部 小破片
5	陶器	瀬戸・美濃 天目茶碗	(11.9)	-	現 5.1	胎土：緻密 色調：胎土-灰白色、釉-黒褐色 備考：大窯期第4段階	1/8
6	陶器	常滑 片口鉢I類	-	(12.0)	現 3.8	外面-回転ナデ→下端横ヘラケズリ 底面-回転ヘラケズリ→高台貼付 胎土：白色粒、小礫、細礫 色調：灰色 焼成：良好	高台～底部 1/4弱
7	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 3.6	外面-印花による菊花文 胎土：緻密 色調：明橙灰色 焼成：良好	口縁部 小破片



1. 調査区全景 (東から)



2. 東壁土層断面 (西から)



3. 西壁土層断面 (東から)



4. 竪穴住居 1 (西から)



5. 竪穴住居 2 (東から)

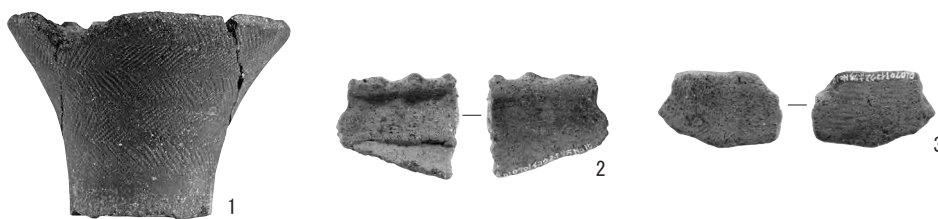


6. 竪穴住居 3 (北西から)



7. 竪穴住居 2・3 掘り方 (東から)

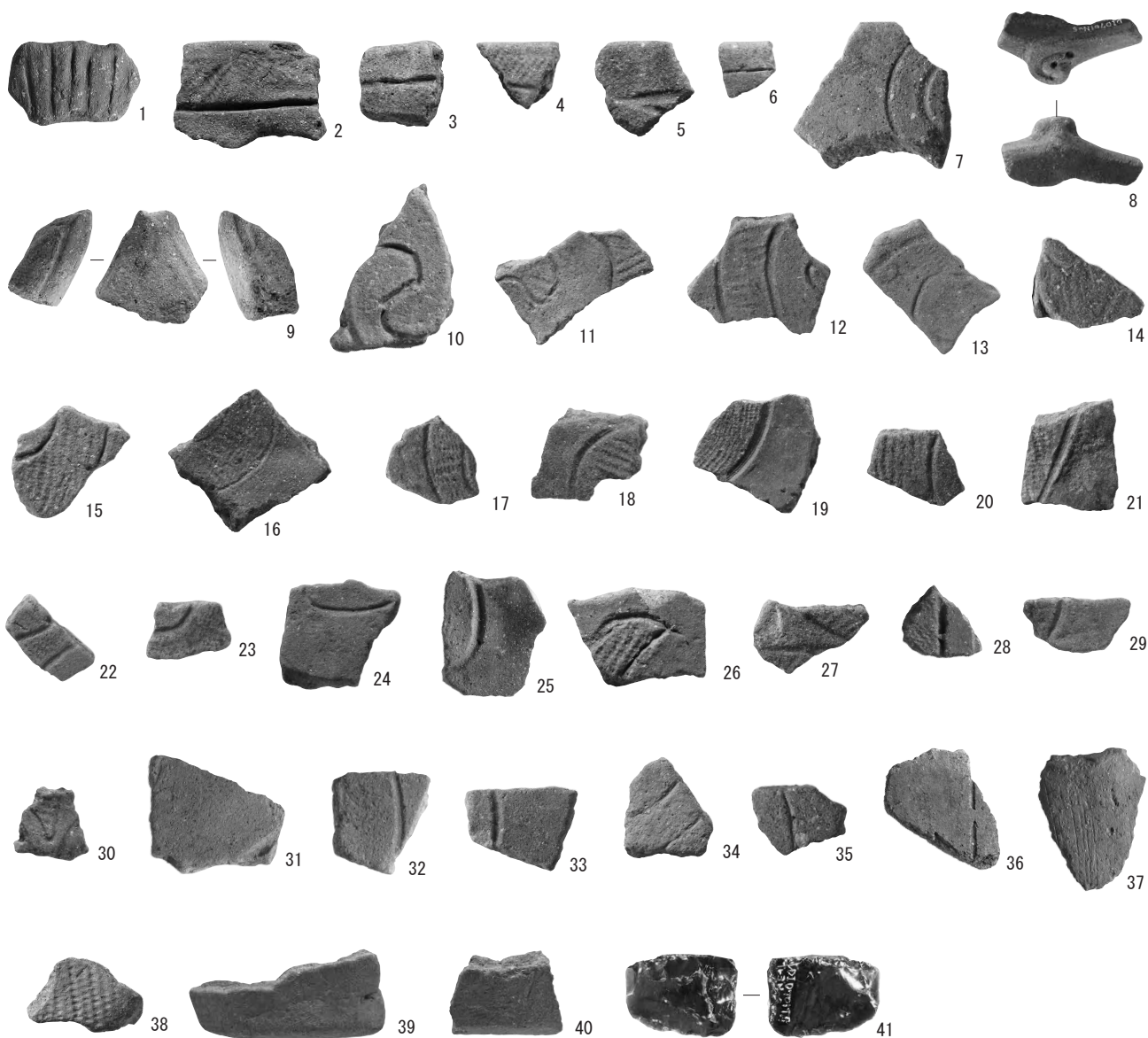
図版 2



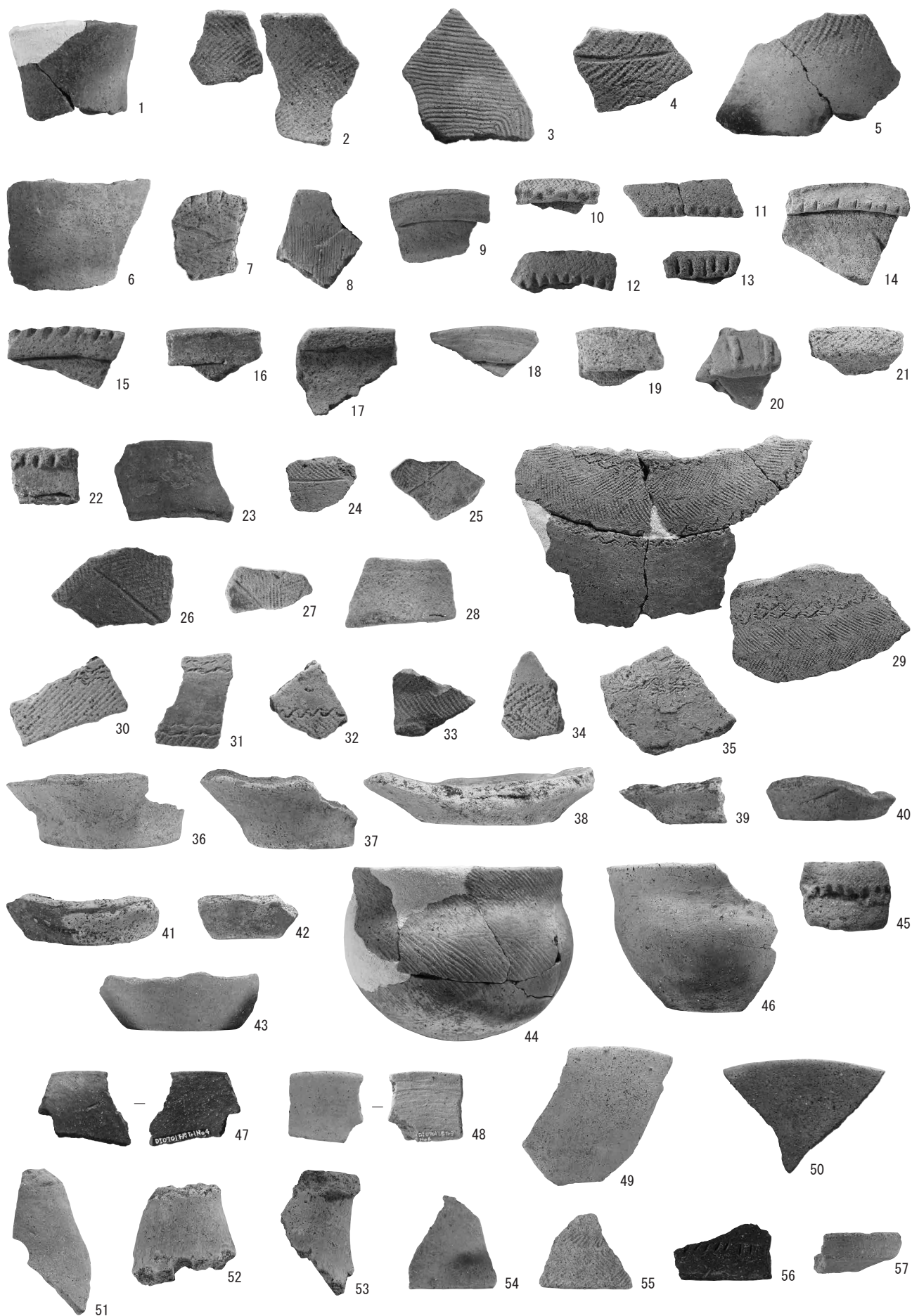
1. 竪穴住居 2 出土遺物



2. 竪穴住居 3 出土遺物

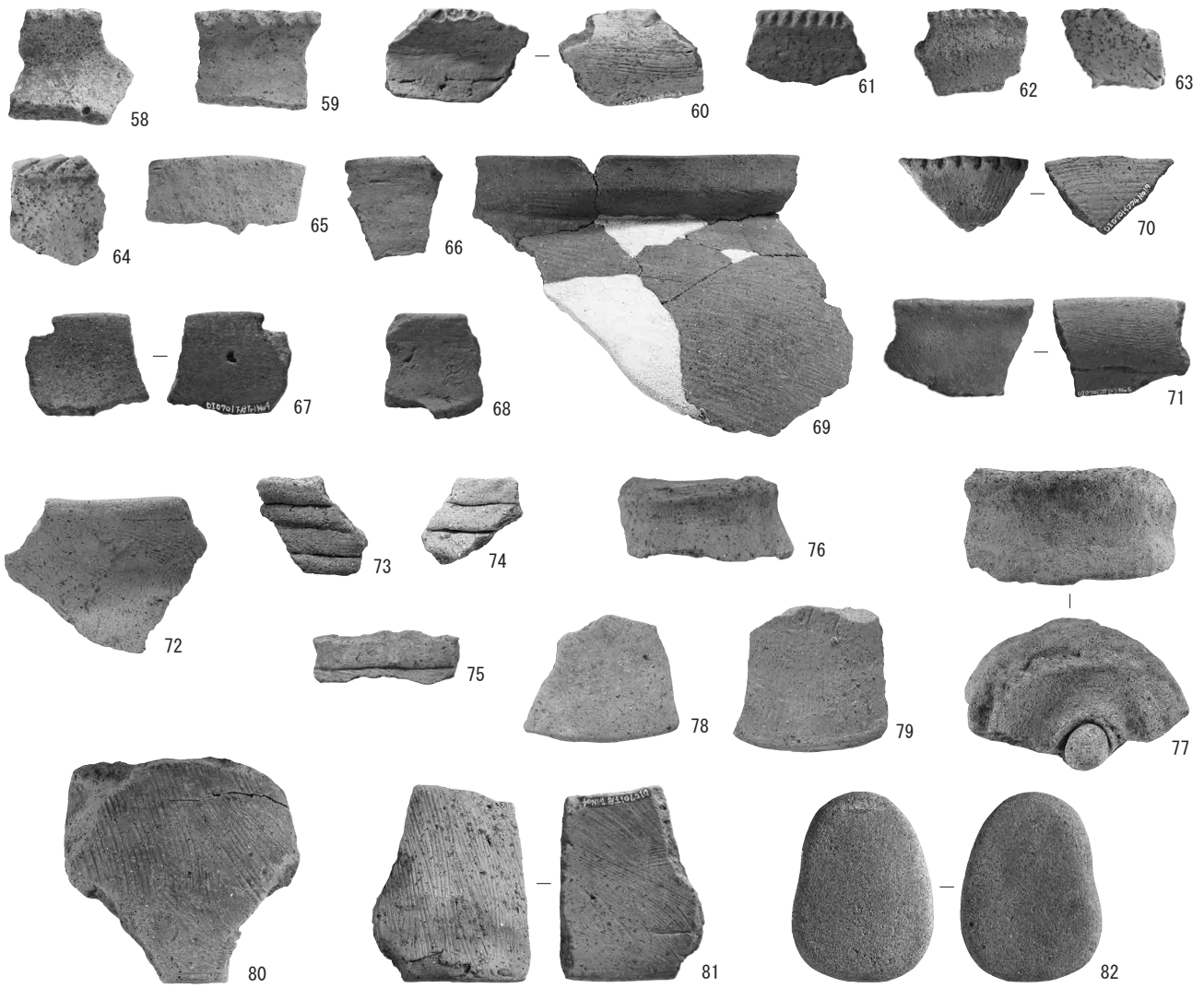


3. 縄文時代遺構外出土遺物



1. 弥生時代中期後葉～古墳時代前期初頭遺構外出土遺物(1)

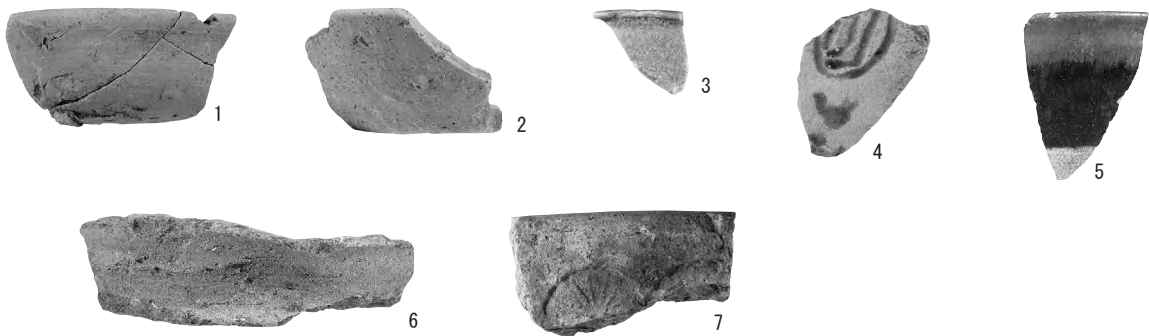
図版 4



1. 弥生時代中期後葉～古墳時代前期初頭遺構外出土遺物(2)



2. 古代遺構外出土遺物



3. 中世遺構外出土遺物



今小路西遺跡 (No.201)

由比ガ浜一丁目147番1の一部地点

例 言

1. 本報は「今小路西遺跡」(神奈川県遺跡台帳No.201)内、鎌倉市由比ガ浜一丁目147番1の一部地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 発掘調査は平成19年10月9日～同年11月20日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は約55㎡である。
3. 発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者 鯉渕義紀
調査員・調査補助員 伊藤博邦・岡田慶子
作業員 沼上三代治・杉浦永章・中須洋二・浅香文保・堀住 稔・永井隆三郎・片山 昭
(公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター)
4. 本報告書の作成並びに編集は鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。
5. 第五章の出土動物遺体の鑑定・執筆は、東京国立博物館客員研究員金子浩昌氏に依頼した。
6. 本報に掲載した写真は、遺構を鯉渕義紀、遺物を赤間和重が撮影した。
7. 測量基準杭の設置にあたっては、日本測地系(座標系AREA 9)を用い、図4に座標値を示した。
8. 発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号をA区は「今. 西. A」、B区は「今. 西. B」とした。
10. 遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60cm以上の掘り込みを土坑とし、60cm未満のものをピットとして扱った。
11. 遺構・遺物挿図中の網掛けおよび指示は、以下のとおりである。

遺構：  整地・地業範囲
遺物：  煤およびタール状の黒色物が付着している部分・炭化範囲
・須恵器は実測図の断面を黒塗りで示した。
・石製品の矢印は磨面範囲を示す。
12. 遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。

かわらけ：鎌倉かわらけ研究会 2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』
瀬戸：愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史別編 窯業2 中世・近世 瀬戸編』
渥美・常滑：愛知県史編さん委員会 2012『愛知県史別編 窯業3 中世・近世 常滑編』
貿易陶磁：太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』
13. 出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである(順不同)。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・小森明美・西本正憲・西野吉論・齊藤武士・玉川久子・赤間和重・御代七重・木村百合子・田村正義・唐原賢一・大貫由美・花本晶子・浅野真里・御代祐子・深澤繁美・山田浩介(玉川文化財研究所)
14. 報告書作成にあたっては、伊丹まどか氏からご協力を賜った。ここに記して感謝する次第である。

目次

第一章 遺跡と調査地点の概観	36
第1節 調査に至る経緯と経過	36
第2節 調査地点の位置と歴史的環境	36
第3節 周辺の考古学的調査	38
第二章 堆積土層	42
第三章 A区の発見された遺構と遺物	46
第1節 第1面の遺構と遺物	46
第2節 第2面の遺構と遺物	49
第3節 第3面の遺構と遺物	56
第四章 B区の発見された遺構と遺物	61
第1節 第1面の遺構と遺物	61
第2節 第2面の遺構と遺物	64
第3節 第3面の遺構と遺物	68
第4節 第4面の遺構と遺物	79
第5節 第5面の遺構と遺物	85
第6節 第6面の遺構と遺物	87
第五章 今小路西遺跡出土の動物遺体	90
第六章 まとめ	93

挿 図 目 次

図1 遺跡位置図…………… 37	図32 B区第2面 ピット31出土遺物…………… 67
図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡…………… 39	図33 B区第2面 遺構外出土遺物…………… 67
図3 調査区位置図…………… 41	図34 B区第3面 竪穴状遺構1…………… 68
図4 調査区配置図…………… 41	図35 B区第3面 竪穴状遺構1出土遺物…………… 68
図5 A区土層断面図…………… 43	図36 B区第3面 遺構分布図…………… 69
図6 B区土層断面図…………… 45	図37 B区第3面 溝状遺構1…………… 70
図7 A区第1面 竪穴状遺構1…………… 46	図38 B区第3面 溝状遺構1出土遺物…………… 71
図8 A区第1面 遺構分布図…………… 47	図39 B区第3面 土坑8出土遺物…………… 72
図9 A区第1面 土坑1～3…………… 48	図40 B区第3面 土坑6～17…………… 73
図10 A区第1面 遺構外出土遺物…………… 49	図41 B区第3面 土坑9出土遺物…………… 74
図11 A区第2面 遺構分布図…………… 50	図42 B区第3面 土坑10出土遺物…………… 74
図12 A区第2面 土坑4出土遺物…………… 51	図43 B区第3面 土坑12出土遺物…………… 74
図13 A区第2面 土坑5出土遺物…………… 51	図44 B区第3面 土坑13出土遺物…………… 75
図14 A区第2面 土坑8出土遺物…………… 53	図45 B区第3面 土坑16出土遺物…………… 75
図15 A区第2面 土坑4～11…………… 54	図46 B区第3面 土坑18～20…………… 76
図16 A区第2面 遺構外出土遺物…………… 55	図47 B区第3面 土坑20出土遺物…………… 77
図17 A区第3面 土坑12出土遺物…………… 56	図48 B区第3面 ピット出土遺物…………… 77
図18 A区第3面 遺構分布図…………… 57	図49 B区第3面 遺構外出土遺物(1)…………… 78
図19 A区第3面 土坑12～19…………… 58	図50 B区第3面 遺構外出土遺物(2)…………… 79
図20 A区第3面 土坑16出土遺物…………… 59	図51 B区第4面 遺構分布図…………… 80
図21 A区第3面 土坑17出土遺物…………… 59	図52 B区第4面 土坑21～32…………… 82
図22 A区第3面 遺構外出土遺物…………… 60	図53 B区第4面 ピット75・82…………… 84
図23 B区第1面 地業1…………… 61	図54 B区第4面 遺構外出土遺物…………… 84
図24 B区第1面 遺構分布図…………… 62	図55 B区第5面 土坑33…………… 85
図25 B区第1面 地業1出土遺物…………… 63	図56 B区第5面 ピット99・100…………… 85
図26 B区第1面 土坑1・2…………… 63	図57 B区第5面 遺構分布図…………… 86
図27 B区第1面 土坑2出土遺物…………… 63	図58 B区第5面 ピット98出土遺物…………… 87
図28 B区第1面 遺構外出土遺物…………… 64	図59 B区第5面 遺構外出土遺物…………… 87
図29 B区第2面 遺構分布図…………… 65	図60 B区第6面 溝状遺構2…………… 87
図30 B区第2面 土坑3出土遺物…………… 66	図61 B区第6面 遺構分布図…………… 88
図31 B区第2面 土坑3～5…………… 66	図62 B区第6面 遺構外出土遺物…………… 89

表 目 次

表1 今小路西遺跡 調査地点一覧…………… 40	表7 B区第3面 出土遺物観察表…………… 100
表2 A区第1面 出土遺物観察表…………… 97	表8 B区第4面 出土遺物観察表…………… 103
表3 A区第2面 出土遺物観察表…………… 97	表9 B区第5面 出土遺物観察表…………… 103
表4 A区第3面 出土遺物観察表…………… 98	表10 B区第6面 出土遺物観察表…………… 104
表5 B区第1面 出土遺物観察表…………… 99	表11 遺構計測表…………… 104
表6 B区第2面 出土遺物観察表…………… 99	表12 出土遺物一覧表…………… 105

図 版 目 次

図版1 1. A区西壁土層断面北側 (南東から)…………… 111	2. A区第2面 土坑出土遺物(1)… 118
2. A区西壁土層断面中央 (北東から)…………… 111	図版9 1. A区第2面 土坑出土遺物(2)… 119
3. A区西壁土層断面南側 (北東から)…………… 111	2. A区第2面 遺構外出土遺物… 119
図版2 1. A区第1面全景(南から)…………… 112	図版10 1. A区第3面 土坑出土遺物… 120
2. A区第1面全景(北から)…………… 112	2. A区第3面 遺構外出土遺物… 120
3. A区第2面全景(南から)…………… 112	図版11 1. B区第1面 地業1出土遺物… 121
4. A区第2面全景(北から)…………… 112	2. B区第1面 土坑2出土遺物… 121
図版3 1. A区第3面全景(南から)…………… 113	3. B区第1面 遺構外出土遺物… 121
2. A区第3面全景(北から)…………… 113	4. B区第2面 土坑3出土遺物… 121
3. A区第1面 竪穴状遺構1 泥岩出土 状況(北から)…………… 113	5. B区第2面 ピット31出土遺物… 121
4. A区第3面 土坑15(南から)… 113	6. B区第2面 遺構外出土遺物(1)・121
5. A区トレンチ完掘状況(東から)・113	図版12 1. B区第2面 遺構外出土遺物(2)・122
図版4 1. B区西壁北側土層断面 (南東から)…………… 114	2. B区第3面 竪穴状遺構1 出土 遺物…………… 122
2. B区西壁南側土層断面 (北東から)…………… 114	3. B区第3面 溝状遺構1 出土 遺物(1)…………… 122
図版5 1. B区第1面全景(南東から)… 115	図版13 1. B区第3面 溝状遺構1 出土 遺物(2)…………… 123
2. B区第2面全景(南から)… 115	2. B区第3面 土坑出土遺物… 123
図版6 1. B区第3面全景(南から)… 116	図版14 1. B区第3面 ピット出土遺物… 124
2. B区第4面全景(南から)… 116	2. B区第3面 遺構外出土遺物(1)・124
図版7 1. B区第5面全景(南から)… 117	図版15 1. B区第3面 遺構外出土遺物(2)・125
2. B区第6面全景(南から)… 117	2. B区第4面 遺構外出土遺物… 125
図版8 1. A区第1面 遺構外出土遺物… 118	図版16 1. B区第5面 ピット98出土遺物… 126
	2. B区第5面 遺構外出土遺物… 126
	3. B区第6面 遺構外出土遺物… 126

第一章 遺跡と調査地点の概観

第1節 調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市由比ガ浜一丁目147番1の一部地点で実施した個人専用住宅2棟の建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である今小路西遺跡(神奈川県遺跡台帳No.201)の範囲内にあたり、近隣地における過去の発掘調査成果から、地下に埋蔵文化財が存在することが確実であった。建築主から鋼管杭工事を伴う建築計画について相談を受けた鎌倉市教育委員会は、文化財保護法に基づく発掘調査等の措置について建築主と協議した。その結果、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される約55㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、鯉淵義紀が現地調査を担当した。

調査はそれぞれの建物が立つ範囲に調査区を設け、東側の約15㎡をA区、西側の約40㎡をB区と呼称して、両調査区を並行して行うこととした。現地調査期間は平成19年10月9日～同年11月20日の約1ヵ月半で、調査面積の合計は約55㎡である。現地表面の標高は約7.7mを測る。調査はまず重機により20～40cmほどの表土を除去することから始め、その後はすべて人力による作業となった。調査の結果、A区では中世に属する第1～3面の合計3面にわたる遺構確認面、B区では中世に属する第1～6面の合計6面にわたる遺構確認面が検出され、各面において遺構を調査し、測量と写真撮影などの記録作業を行った。A区は第3面、B区は第6面の遺構調査を終えた段階でそれぞれ下層の土層堆積状況を確認するため、調査区の一部にトレンチを設定し、深掘り調査を実施した。これらの調査終了後に重機による埋め戻しを行った。

なお、測量に際しては日本測地系(座標系AREA 9)に準じた、鎌倉市三級基準点No.53223(X=-76124.047、Y=-25720.176)、No.53224(X=-76211.347、Y=-25769.039)を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。また海拔標高値は、鎌倉市三級基準点No.53119(標高9.947m)を基に移設した。

第2節 調査地点の位置と歴史的環境

今小路西遺跡(No.201)は、現在の鎌倉市立御成小学校の校門前を南北方向に走る「今小路」の西側一帯の山際までを含み、北は寿福寺門前の手前、南は長谷小路沿い(県道鎌倉葉山線)の笹目谷の入口までを含む、南北1km以上、東西300mにも及ぶ広い範囲である。

遺跡地周辺の地形は、鎌倉の旧市街地を形成している平野部の西端付近にあたり、多少の起伏はあるものの標高8～9mほどの平坦面となっている。また、西側には源氏山南麓から派生する尾根筋(通称御成山)が南側に張り出しており、本調査地点の北側100mほどで平野部と接している。また、本調査地点の南側には佐助川が東流している。この川は、佐助稲荷、銭洗弁天を源に佐助ヶ谷を南流し、谷戸の開口部付近では東流して、下馬交差点付近を経て滑川に合流している。

本地点は、鎌倉市由比ガ浜一丁目147番1の一部に所在し、JR鎌倉駅の南西約550mの地点に位置している。調査地点の北70mほどを東西に走る街路は、鎌倉市街地を東西に貫いており、この道を東に進むと今小路と交差し、一帯には「塔ノ辻」の地名が残っている。江戸時代の地誌『新編鎌倉志』には、今小路の項に「今小路は寿福寺の前に石橋あり、勝橋と云う。鎌倉十橋の一なり。ここより南を今小路



図1 遺跡位置図

と云う。巽荒神の辺より南を長谷までの間は長谷小路と云うなり」とある。本地点を含む今小路西遺跡も鎌倉の都市計画の中で形成された遺跡であったといえよう。

第3節 周辺の考古学的調査

本調査地点を含む今小路西遺跡およびその周辺地域では、律令制下の相模国鎌倉郡衙跡や中世の武家屋敷の構造が明らかにされた御成小学校内の発掘調査がよく知られているが、これまでも大小様々な規模の発掘調査が行われてきた。特に、①御成小学校内地点(河野・宮田ほか 1990、河野 1993)や、隣接する②社会福祉センター用地内・御成町625番2地点(河野・宮田ほか 1993)は本地点とも近く、関連性があるものと考えられる。本節ではこれら近隣の遺跡を中心に概観したい。

はじめに御成小学校内の発掘調査からみていきたい。昭和59年から60年にかけて校舎の改築に伴って行われた調査で約6,000㎡が発掘調査された。本調査地点を含め御成小学校校地と現鎌倉市役所用地の大半は、かつての皇室御用邸であったことから、調査時に御用邸に関する記録も取られている。郡衙遺構は最下層で確認された。掘立柱建物の配置やその重複関係から6期(古代Ⅰ～Ⅵ期)の変遷が明らかにされた。長大な側柱建物3棟が「コ」の字状に配された郡庁域や、複数棟からなる総柱建物の正倉域はのちに基壇構造の正倉域に変わり、周囲には多数の雑舎群も確認された。県下では武蔵国都筑郡衙に次ぐ調査事例で、従来不明瞭だった古代の鎌倉の姿を一挙に明るみに出したといえよう。

この小学校内の発掘調査では、中世(14世紀前葉頃)の南北に並ぶ大きな二つの武家屋敷跡とそれを取り巻く庶民の居住区(町屋)や道路跡までもが確認された。南側で確認された武家屋敷は、北側の屋敷とは土塁で、南側と東側は柱穴列で仕切られていた。また、南側と東側にはそれぞれ門も認められた。屋敷地全体は東西60～70m、南北60mほどと推定され、面積は3,600㎡を超えるとみられている。南側で発見された母屋と推定されている建物は、南北5間、東西4間の三面に廂がつく礎石建物である。一方、北側にはあまり大きくない掘立柱建物群が配されており、母屋とは柱穴列(目隠堀か)で仕切られている。北側の隣家との境界には東西方向の長大な土坑が掘られており、多量の木製品を含む遺物が廃棄されていた。出土遺物の中には茶道具や舶載磁器も若干数はあるが、基本的には日常雑器類が多く、屋敷地内の建物構成などについても報告書では屋敷の主人に仕える郎従や下人らの住居や厨などがあった区域と推定している。北側の武家屋敷は、その一部が明らかにされただけで、屋敷地の形状や面積は不明であるが、建物の配置や規模などからみて南側よりも広い屋敷地であったと推定されている。また、南側屋敷との境界に設けられた土塁は、北側屋敷の築造時に築かれたもので、土塁の内側に掘られた大溝は若宮大路の側溝と同じ木組の構造のものであったという。規模は異なるが同様の溝は屋敷地内にもみられ、大溝に注ぐ排水溝であったと推定されている。この屋敷地内では、隙間なく大形の建物が検出された。10棟のうち7棟が礎石建物で、他の2棟も大形の掘立柱形式の建物であった。いずれの建物も軸線を揃えており、計画的な築造であったという。当初の中心的建物は基壇構造の5間四方の礎石建物で、四面に廂がつき、付近から軒瓦が出土したことから瓦葺き建物であったと考えられている。この建物は、渡り廊下で連結されており、その先の建物は主殿ともみられている。屋敷地の奥には基壇構造の5間四方の礎石建物や、倉庫と推定されている土居建物など、生活感があまり感じられない建物が作られている。また、奥の空間には大形の井戸が発見されている。六角形を呈する木組の井戸で、鎌倉では唯一のものであり、内部からは舶載磁器の高級品が出土している。これらの建物は火災ですべて失われているが、調査担当者は関連書(石井・大三輪編 1989)などにおいて、屋敷地内の変遷の中で終焉の時期を幕府滅亡



※矢印は本調査地点、丸数字は表1の番号に対応する。

図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡

までの間に求めている。また、武家屋敷の構造についても踏み込んだ考察が行われている。

さらに、御成小学校内の調査では屋敷地の外から「庶民居住区」とされる遺構と道路が確認されている。庶民居住区は「町屋」に相当するもので、武家の屋敷地との違いが示されている。いくつかを挙げると、土地では大規模な地業は行われず、礎石建物はまずない。建物の基本は掘立柱形式で、柱間も狭い。掘立柱建物の他に方形竪穴建物を伴っている。井戸は雑なつくりで、深さも概して浅い。また、排水溝や地境溝などにも武家屋敷では木組溝を設けているが、町屋では計画性に乏しい。なお、出土遺物からは階級性を示すような高級品ないし一括性の高い資料以外では、武家屋敷と庶民居住区の判断は難しいようである。

次に御成小学校の南100mほどに位置している社会福祉センター用地の調査成果を紹介したい。古代では小学校内の遺跡と同様に、大規模な掘立柱建物が2棟検出された。その一つは桁行5間の片面廂の建物で、両者ともに政庁域の真南にあたることから官衙に関係する雑舎群の一部と推定されている。

中世の遺構は、大きく前期と後期に二分され、前期では調査区の北側を東流する旧河川(佐助川の古流路)の南側に広がる平地で遺構が検出されている。また、この調査区内は両側溝をもつ南北道路によって大きく東西に二分されている。東側区画には、側溝に沿って門と思われる柱穴群があり、武家の屋敷地の一角が想定されている。一方、西側には小規模な掘立柱建物を中心に、方形竪穴建物や井戸、柵列、土坑などの遺構が検出され、北側とは様相の異なる町屋的な性格であろうと位置づけられている。後期に至ると様相は一変して衰退の色合いを濃くする。御成小学校内での武家屋敷の衰退と軸を同じくしていると考えられている。

図中外であるが、鎌倉市役所のすぐ北側で行われた今小路西遺跡御成町171番1外地点(菊川・長澤ほか 2008)でも、古代の総柱建物の配置が確認され、正倉域の広がり北側に広がっていることが明らかにされた。また、中世では梁行4間以上の掘立柱建物が21棟、礎石建物も確認され、調査区内で最大の桁行7間の掘立柱建物は三方に廂をもつものであった。屋敷地の規模は不明であるが、柱穴列(板塀)もしくは溝で南北に二分され、南側では両側溝をもつ東西道路によって敷地が区画されている。また、それぞれに独立した井戸を有している。屋敷地を含む境界などの検討が今後は必要であろうが、現状をみる限りでは御成小学校内での南側武家屋敷と近似している武家屋敷の様相が捉えられている。

一方、本地点を含む社会福祉センター前の道路以南の街区になると、前述までの官衙や武家屋敷が並

表1 今小路西遺跡 調査地点一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目147番1の一部地点	
①	今小路西遺跡 (No.201)	御成小学校内地点	河野・宮田ほか 1990、河野 1993
②	今小路西遺跡 (No.201)	社会福祉センター用地・御成町625番2地点	河野・宮田ほか 1993
③	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目157番7外地点	馬淵・沖元ほか 2012
④	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目151番1地点	鎌倉市教育委員会 2009
⑤	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目147番2地点	
⑥	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目147番1地点	
⑦	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目148番11地点	赤星 1983
⑧	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目148番5地点	滝澤・宮田 2004
⑨	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目148番1地点	野本 2002
⑩	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目141番5地点	香川ほか 2007
⑪	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目197番2地点	瀬田 2007
⑫	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目165番2地点	
⑬	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目136番1地点	
⑭	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目134番4地点	伊丹・渡邊 2017
⑮	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目183番1地点	汐見 2002
⑯	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目213番3地点	宗墓(秀)・宗墓(富)ほか 1993
⑰	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目213番12地点	
⑱	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目211番18・19地点	
⑲	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目147番2外地点	

※遺跡Noは神奈川県遺跡台帳による。

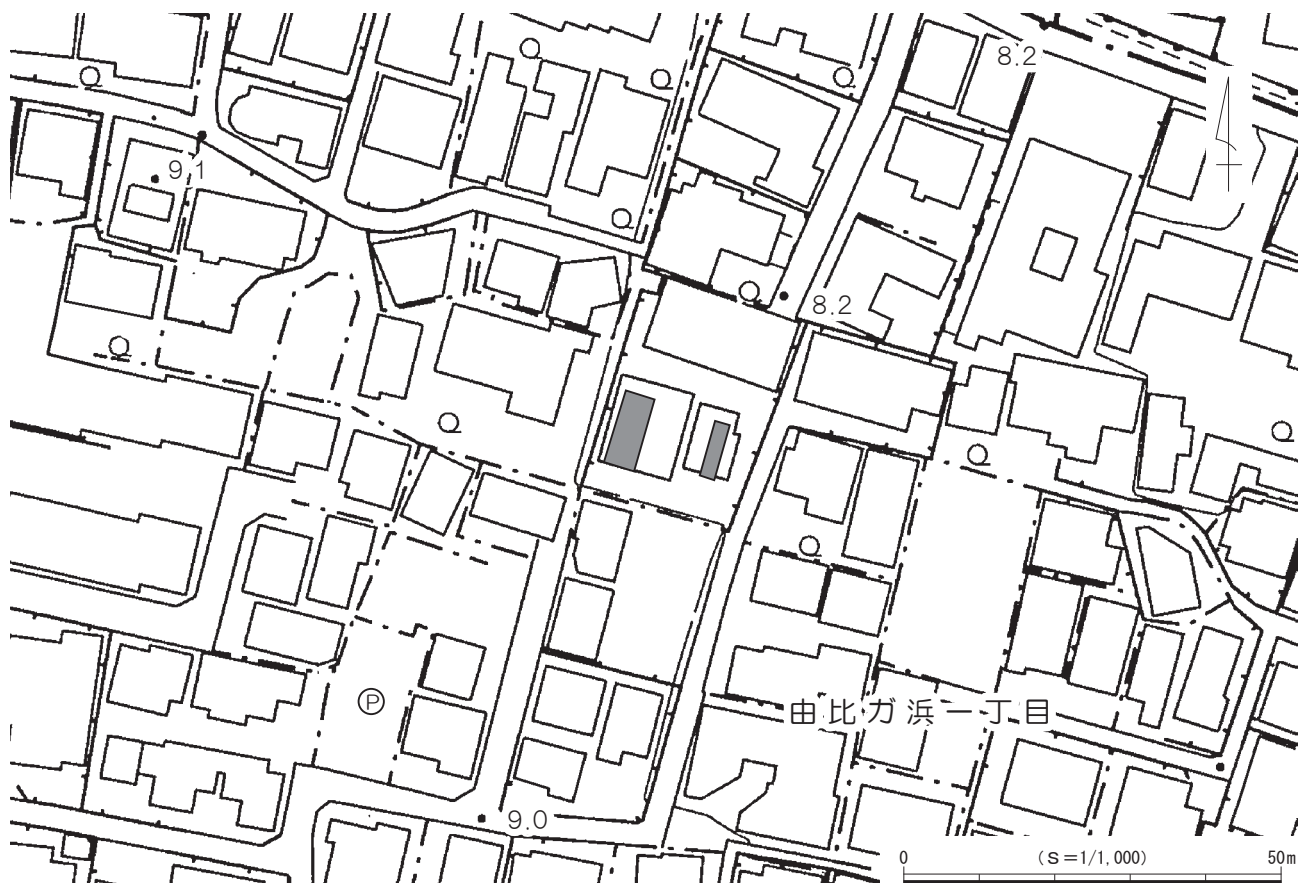


図3 調査区位置図

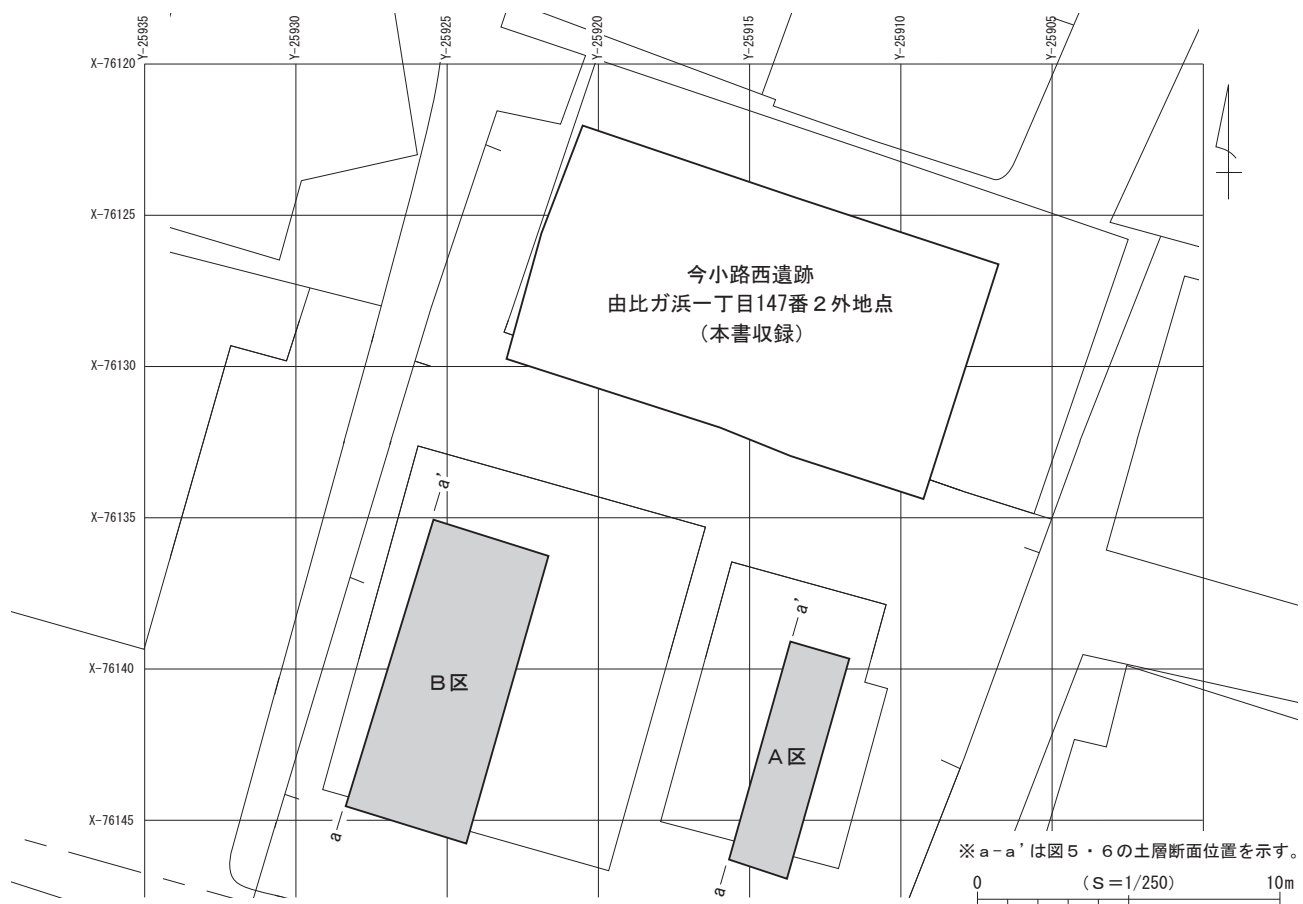


図4 調査区配置図

ぶ景観とは遺跡の内容に大きな変化がみられる。多くは100㎡にも満たない狭い調査例であり、ここでは詳細まではふれられないが、該当地区内に所在する調査例は、本調査地点および本書収録の⑨由比ガ浜一丁目147番2外地点を加えると17地点に及んでいる。これらの中には幅の広い東西道路なども④の地点で発見されているが、道路遺構は概して幅が狭く、区画溝も同様である。そのために狭い地割であることが考えられている。また、各地点でよくみられる遺構は、小規模な掘立柱建物や井戸、方形竪穴遺構、土坑、小穴などで、排水溝や地境溝などの木組溝も概して浅いものとなっている。本調査地点や本誌収録の⑨地点でも掘立柱建物や井戸、方形竪穴遺構、溝、土坑、小穴などが確認されている。この2地点についても調査面積の制約により遺構の配置状況を俯瞰的にみることはできていないが、御成小学校や周辺の調査事例と合わせて、今小路西遺跡の実態を解明する上で参考事例となろう。

第二章 堆積土層

今回の調査はA区とB区の2ヵ所に調査区を設定し、並行して調査を行った。両調査区間には約8.5mの距離があり、さらに面の様相がそれぞれ異なるため、ここでは土層の堆積状況について地点ごとに個別に述べる。なお、土層断面で確認されたが平面的には不明瞭であった遺構、また、平面で確認されたが土層断面では不明瞭であった遺構がいくつか認められた。

〈A区〉

今回の調査では、第1～3面の合計3面にわたる遺構確認面が認められた。ここでは調査区西壁面の土層断面図を図示し、遺構確認面に相当する土層を中心に詳述する。

現地表面は標高約7.5～7.7mを測る。表土層は厚さ10～40cmほどを測り、均一な厚さではない。

第1面の遺構は堆積土層の4層上面で確認した。確認面の標高は約7.1～7.2m、層厚は15cm前後である。泥岩粒・小泥岩ブロックをやや多く含み、よく締まる暗褐色砂質土である。調査区北側は現代の攪乱により大幅に削られている。

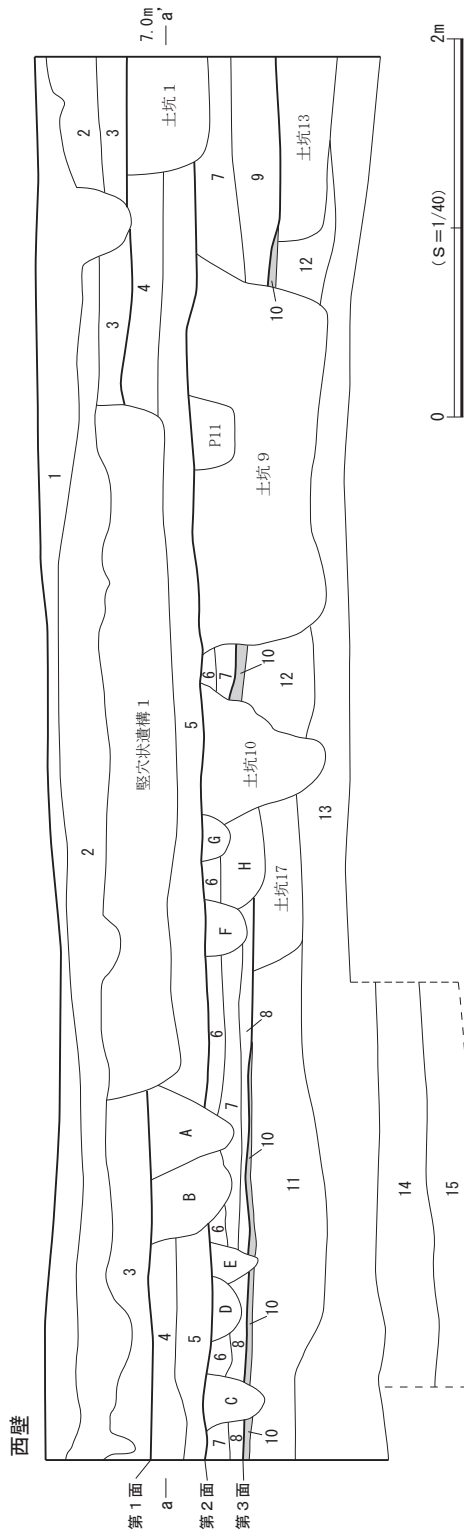
第2面の遺構は堆積土層の6層ないし7層上面で確認した。確認面の標高は約6.7～6.8mである。7層の上に6層が堆積しているが、6層は調査区全面に堆積するのではなく、確認されない部分もあった。6層は泥岩粒と小泥岩ブロックをやや多く、炭を少量含む暗褐色砂質土で、層厚は10cm前後である。7層は小泥岩ブロックと炭を多く含む暗褐色砂質土で、層厚は10～20cm前後である。本面にも、部分的に現代の攪乱が及んでいる。

第3面の遺構は堆積土層の10層上面で確認した。確認面の標高は約6.5～6.6m、層厚は5cm前後である。締まりの強い整地層で、上面には部分的に炭を多く含む暗褐色砂質土が堆積している。

調査区全体は標高約6.0mまで掘り下げ、調査区東壁および南壁で標高約6.0～6.2mで中世の地山層として暗茶褐色砂層を検出したが、北壁および西壁では認められなかった。これ以下の土層については、調査区南側にトレンチを設定し堆積状況の確認を行った。標高約5.8～5.9mで古代の遺物を含む土層が確認され、最終的に標高約5.4mで掘削を終了した。

〈B区〉

今回の調査では、第1～6面の合計6面にわたる遺構確認面が認められた。ここでは調査区西壁面の土層断面図を図示し、遺構確認面に相当する土層を中心に詳述する。



- 表土
- 1層 茶褐色砂質土
 - 2層 茶褐色砂質土
 - 3層 暗褐色砂質土
 - 4層 暗褐色砂質土
 - 5層 暗褐色砂質土
 - 6層 暗褐色砂質土
 - 7層 暗褐色砂質土
 - 8層 茶褐色砂
 - 9層 暗褐色砂質土
 - 10層 整地層
 - 11層 暗褐色砂質粘土
 - 12層 暗褐色砂
 - 13層 暗茶褐色砂質粘土
 - 14層 黒褐色粘質土
 - 15層 青灰色砂
- 〔遺構〕
- A層 暗褐色粘質土
 - B層 暗褐色粘質土
 - C層 暗褐色砂質土
 - D層 暗褐色砂質土
 - E層 暗褐色砂質土
 - F層 暗褐色砂質土
 - G層 暗褐色砂質土
 - H層 暗褐色砂質土
 - P11 暗褐色砂質土
- 西壁
- 第1面
- 第2面
- 第3面
- a
- a'
- 7.0m
- 0 2m (S=1/40)
- 土坑1
- 土坑9
- 土坑10
- 土坑13
- 土坑17
- 土坑18
- 竪穴状遺構 1
- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- P11
- 小泥岩ブロック(1~5mm)・炭を含む。
- 小泥岩ブロック・泥岩ブロック(5~10mm)をやや多く含む。
- 泥岩粒(1mm前後)・炭粒を多く含む。
- 小泥岩ブロック・炭を含む。
- 小泥岩ブロックを含む。
- 小泥岩ブロックを少量含む。
- 小泥岩ブロックを少量含む。
- 小泥岩・炭多く含む。
- 小泥岩ブロックを若干含む。
- 小泥岩・小泥岩ブロックをやや多く含む、よく絡まっている。(第1面)
- 小泥岩ブロック(30mm前後)・炭を多く含む。
- 小泥岩ブロック・泥岩粒をやや多く、炭を少量含む。(第2面)
- 小泥岩ブロック・炭を多く含む。(第2面)
- 小泥岩ブロックを少量、炭粒を非常に多く含む。(第3面)
- 炭粒を含む。
- 泥岩粒・炭を少量含む。粘質土が若干混じる。
- 褐鉄を少量含む。
- 古代層。
- 木片・古代土器片を含む。

図5 A区土層断面図

現地表面は約7.6～7.7mを測る。表土層は厚さ20～40cmほどを測り、厚さは均一ではない。

第1面の遺構は堆積土層の3層ないし4層上面で確認した。確認面の標高は約7.2～7.3mである。3層は調査区南西側で部分的に確認され、その他は4層が堆積していた。3層は泥岩ブロックを非常に多く含む暗茶褐色砂質土で、層厚は10～14cmである。4層は泥岩粒・小泥岩ブロックをやや多く含む暗褐色砂質土でよく締まり、層厚は10～20cm前後である。

第2面の遺構は堆積土層の6層上面で確認した。確認面の標高は約6.7～7.1m、層厚は15～45cmである。北側ほど層が厚く、図6には表れないが層上面は東側に傾斜し下がっている。やや締まり泥岩粒と炭を多く含む暗茶褐色砂質土である。

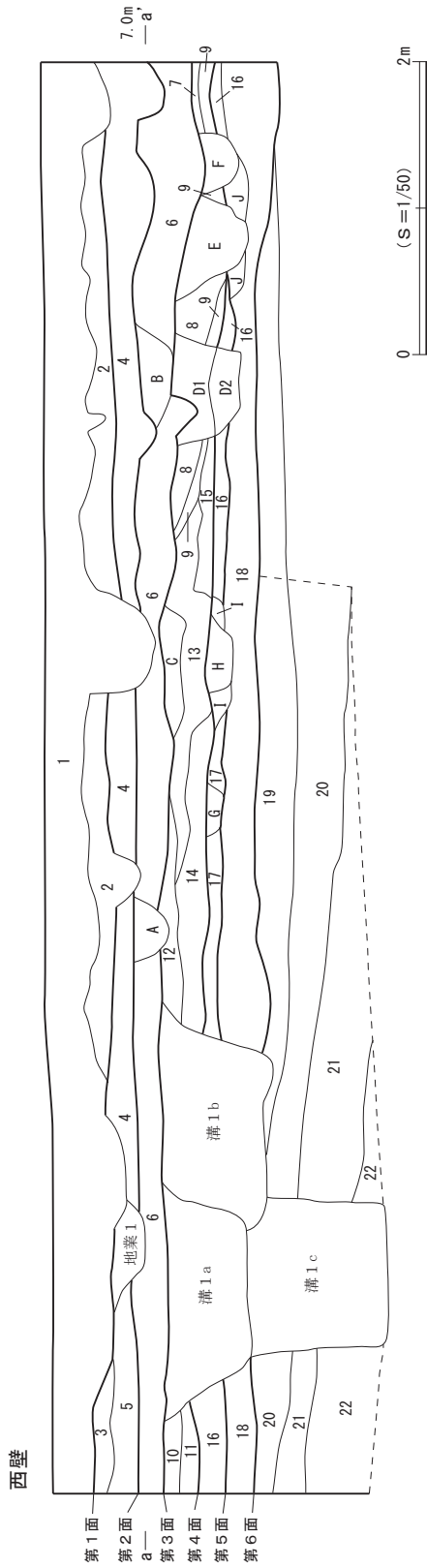
第3面の遺構は堆積土層の7・8・10・12層上面で確認した。確認面の標高は約6.6～6.9mである。主に暗茶褐色砂ないし暗褐色砂で構成され、部分的に泥岩粒を多く含む茶褐色砂質土による整地面(7層)が認められる。これらの層上面は全体的に南西側が最も高く、北～東側に向かって下がっている。層厚は全体で5～30cm前後である。

第4面の遺構は堆積土層の16・17層上面で確認した。確認面の標高は約6.4～6.6mである。第3面と同様に層上面は北～東側が低い。16層は茶褐色砂で層厚10～20cm前後、17層はやや締まった暗褐色砂で層厚10cm前後である。

第5面の遺構は堆積土層の18層上面で確認した。確認面の標高は約6.3～6.5m、層厚は20～40cm前後である。砂質の強い暗褐色粘質土である。

第6面の遺構は堆積土層の19層ないし20層上面で確認した。確認面の標高は約6.1～6.2mである。北側に向かって傾斜しているため、南側では19層が削られ20層上面での遺構確認となった。19層はきめの細かい暗褐色粘質土で層厚15～25cm、20層は茶褐色砂を含む黒褐色粘質土で層厚は15～40cmである。

調査区全体は標高約6.0mまで掘り下げた。さらに調査区南西部にトレンチを設定して標高約5.4mまで掘り下げ、以下の土層堆積状況を確認した。標高6.0m付近で地山である白黄色砂が認められ、西壁の土層断面では南から北へ向かって大きく下がっている状況が見て取れた。この地山層は場所によって還元化により青灰色を呈している。



- | | | | | | |
|-----|-----|---------|-----|--------|--------|
| 第1面 | 1層 | 表土 | 18層 | 暗褐色粘質土 | 暗褐色粘質土 |
| 第2面 | 2層 | 茶褐色砂質土 | 19層 | 暗褐色粘質土 | A層 |
| a— | 3層 | 暗茶褐色砂質土 | 20層 | 暗褐色粘質土 | B層 |
| 第3面 | 4層 | 暗茶褐色砂質土 | 21層 | 暗褐色粘質土 | C層 |
| 第4面 | 5層 | 暗茶褐色砂質土 | 22層 | 暗褐色粘質土 | D1層 |
| 第5面 | 6層 | 暗茶褐色砂質土 | | 暗褐色砂質土 | D2層 |
| 第6面 | 7層 | 暗茶褐色砂質土 | | 暗褐色砂質土 | E層 |
| | 8層 | 暗茶褐色砂質土 | | 暗褐色砂質土 | F層 |
| | 9層 | 暗茶褐色砂質土 | | 暗褐色砂質土 | G層 |
| | 10層 | 暗茶褐色砂質土 | | 暗褐色砂質土 | H層 |
| | 11層 | 暗茶褐色砂質土 | | 暗褐色砂質土 | I層 |
| | 12層 | 暗茶褐色砂質土 | | 暗褐色砂質土 | J層 |
| | 13層 | 暗茶褐色砂質土 | | 暗褐色砂質土 | |
| | 14層 | 暗茶褐色砂質土 | | 暗褐色砂質土 | |
| | 15層 | 暗茶褐色砂質土 | | 暗褐色砂質土 | |
| | 16層 | 暗茶褐色砂質土 | | 暗褐色砂質土 | |
| | 17層 | 暗茶褐色砂質土 | | 暗褐色砂質土 | |
- 砂質味強い。(第5面)
 きめが細かい。(第6面)
 茶褐色砂を含む。古代遺物を含む。(第6面)
 地点によっては還元作用により青灰色となる。
- 【遺構】
 A層 暗褐色砂質土
 B層 暗褐色砂質土
 C層 暗褐色砂質土
 D1層 暗褐色砂質土
 D2層 暗褐色砂質土
 E層 暗褐色砂質土
 F層 暗褐色砂質土
 G層 暗褐色砂質土
 H層 暗褐色砂質土
 I層 暗褐色砂質土
 J層 暗褐色砂質土
- 小泥岩ブロック・泥岩粒を多く、炭・土器片を若干含む。
 養大・小泥岩ブロックを非層に多く含む。(第1面)
 小泥岩ブロック・泥岩粒をやや多く含む。やや締まっている。(第1面)
 泥岩粒・炭をとても多く含む。
 泥岩粒・炭を多く含む。やや締まっている。(第2面)
 泥岩粒をとても多く含む。(第3面)
 (第3面)
 泥岩粒・炭を少量含む。
 泥岩粒・炭を含む。(第3面)
 炭粒を多く含む。
 泥岩粒・炭を含む。(第3面)
 泥岩粒・炭を含む。
 きめが細かい。
 (第4面)
 やや締まっている。(第4面)

図6 B区土層断面図

第三章 A区の発見された遺構と遺物

A区の調査では、遺構確認面は第1～3面までの合計3面である。調査面積が約15㎡と狭小であるために全容が把握できた遺構は少なく、遺跡の様相が捉えにくい状況であった。検出した遺構は、竪穴状遺構1基、土坑19基、ピット17基である。出土遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して8箱を数える。以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと(第1～3面)に説明する。

第1節 第1面の遺構と遺物

第1面の遺構は堆積土層の4層上面で検出され、確認面の標高は約7.1～7.2mを測る。4層は泥岩粒・小泥岩ブロックをやや多く含みよく締まる暗褐色砂質土で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。現代の攪乱が及んでおり、特に調査区の北側は大きく壊されている。検出した遺構は、竪穴状遺構1基、土坑3基、ピット7基である(図8)。攪乱により不明な部分も多いが、遺構密度はあまり高くない。

遺物は主にかわけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉以降に属すると考えられる。

(1) 竪穴状遺構

第1面では、1基を検出した。把握できたのは遺構全体のごく一部とみられるため、遺構の全容は不明である。

竪穴状遺構1(図7)

調査区西壁中央に位置する。西側の大半が調査区外に及んでいると考えられ、さらに北東隅が攪乱によって失われており、遺構の全容は明らかでない。西壁の土層断面を観察したところ、第1面の遺構確認面より上の層から掘り込まれていることが確認されたが、便宜上第1面の遺構として記述する。東壁が北東-南西方向に直線的に伸び、ほぼ直角に曲がって南北壁へと繋がることから、平面形は方形ないし長方形を呈するものと推定される。底面は直床式の構造で緩やかな凹凸が認められ、南側がやや高く、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。規模は南北3.69m、東西現存長69cm、壁高は34cmで、底面の標高は7.0m前後を測る。東壁を基準にすると主軸方位はN-18°-Eを指す。覆土は主として暗茶褐色砂質土で構成されており、底面からやや浮いた位置から多量の拳大～人頭大の泥岩ブロックが出土している。

遺物はかわらけ5点、陶器2点が出土した。

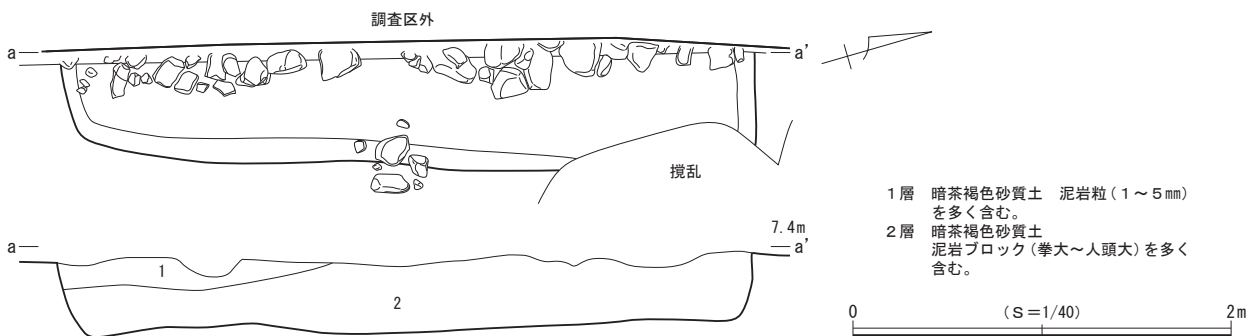


図7 A区第1面 竪穴状遺構1

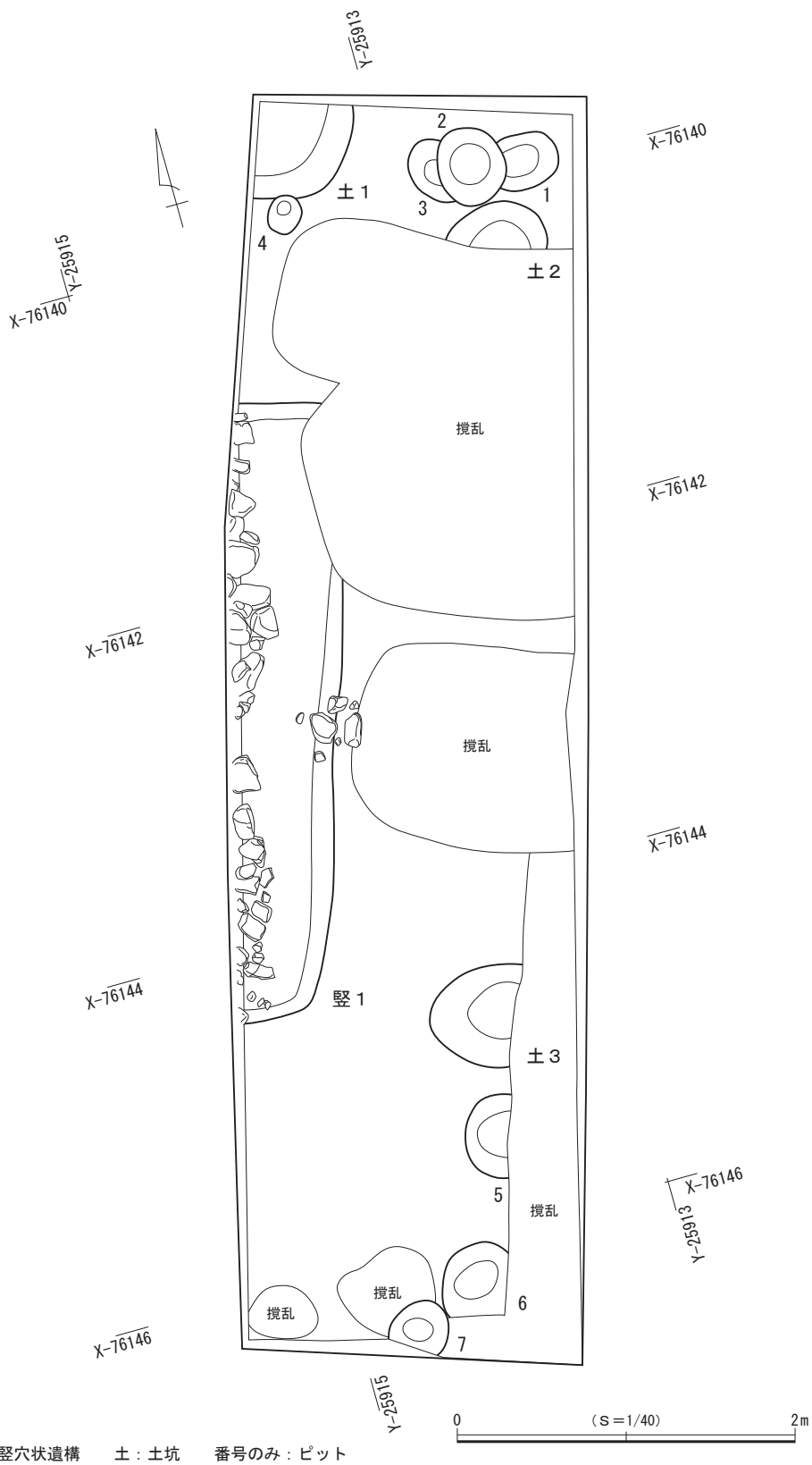


図8 A区第1面 遺構分布図

(2) 土 坑

第1面では、3基を検出した。調査区北側に2基、南側に1基が分布する。平面形は円形ないし楕円形を基調とするものと推定され、規模は長軸現存長58~60cm、深さ6~44cmである。いずれも調査区外に及んだり、攪乱によって壊されたりしていることから全容が明らかになったものはない。

土坑1 (図9)

調査区北西隅に位置する。北側および西側が調査区外に及ぶため、遺構の全容は明らかでない。南側がピット4と重複しており、新旧関係は不明である。検出した範囲からは、平面形は円形を基調とするものと推定される。壁は緩やかに立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は南北現存長58cm、東西現存長57cm、深さ44cmで、坑底面の標高は6.78mを測る。覆土は泥岩粒を多く含む暗褐色粘質土である。

遺物はかわらけ7点、陶器3点が出土した。

土坑2 (図9)

調査区北側に位置する。南側が攪乱によって壊されており、遺構の全容は明らかでない。検出された部分は全体の半分ほどと考えられ、平面形は楕円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長60cm、南北現存長29cm、深さ32cmで、坑底面の標高は6.84mを測る。覆土は黒褐色砂質土である。

遺物はかわらけ12点が出土した。

土坑3 (図9)

調査区南側に位置する。東側が攪乱によって壊されており、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲は全体の半分ほどと考えられ、平面形は楕円形を基調とするものと推定される。壁はなだらかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北60cm、東西現存長52cm、深さ6cmで、坑底面の標高は7.12mを測る。

遺物は出土しなかった。

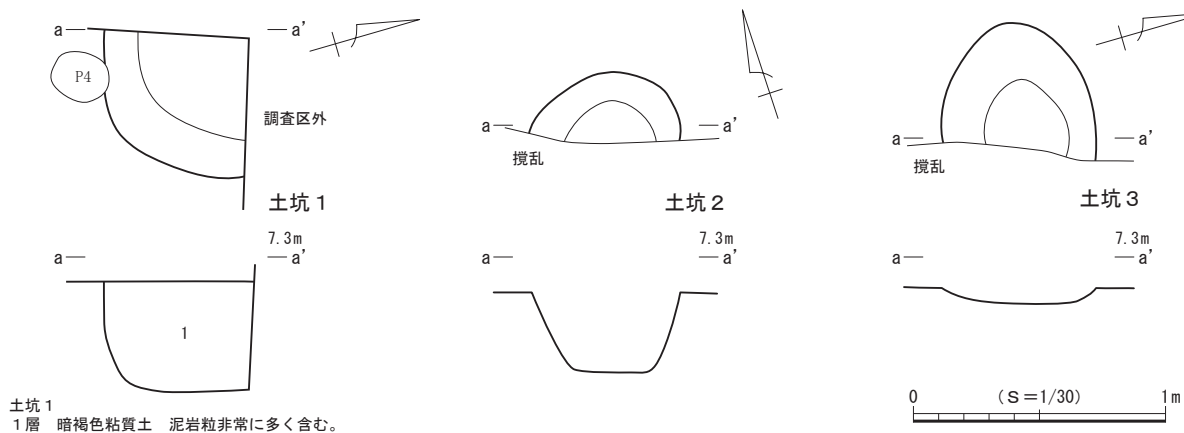


図9 A区第1面 土坑1~3

(3) ピット (図8)

第1面では、7基を検出した。調査区の北と南に分布しており、ピット同士で重複するものや、攪乱に壊されるものもある。建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。ピットの平面形は略円形ないし楕円形を主体とし、規模は長軸現存長・径23~49cm、深さ5~35cmを測る。礎板や礎石を伴うピットは確認されなかった。覆土は茶褐色砂質土・黒褐色砂質土で構成されている。

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表12)を参照されたい。

(4) 遺構外出土遺物 (図10)

第1面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち13点を図示した。

1~5はロクロ成形によるかわらけである。6・7は舶載磁器で、6が白磁壺、7が龍泉窯系青磁椀Ⅱ類である。8~11は陶器で、8は山茶碗である。9・10は常滑窯産の製品で、9が甕、10が片口鉢Ⅱ類である。11は常滑窯産甕の破片を転用した摩耗陶片である。12は瓦質土器の火鉢、13は砥石である。

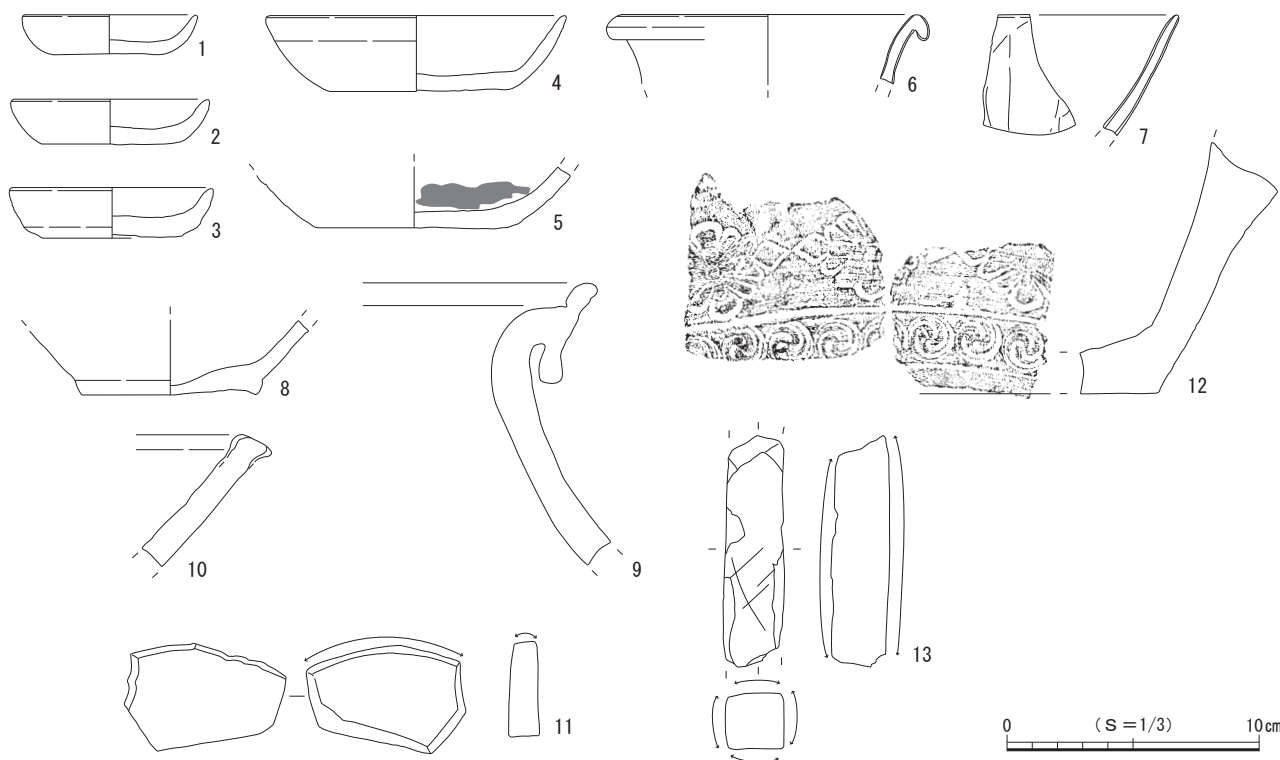


図10 A区第1面 遺構外出土遺物

第2節 第2面の遺構と遺物

第2面の遺構は堆積土層の6層ないし7層上面で検出され、確認面の標高は約6.7~6.8mを測る。6層は泥岩粒・小泥岩ブロックをやや多く、炭を少量含む暗褐色砂質土、7層は小泥岩ブロック・炭を多く含む暗褐色砂質土で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。また、部分的に現代の攪乱が及んでいる。土坑8基、ピット8基を検出しており、遺構密度は高い(図11)。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉頃に属すると考えられる。

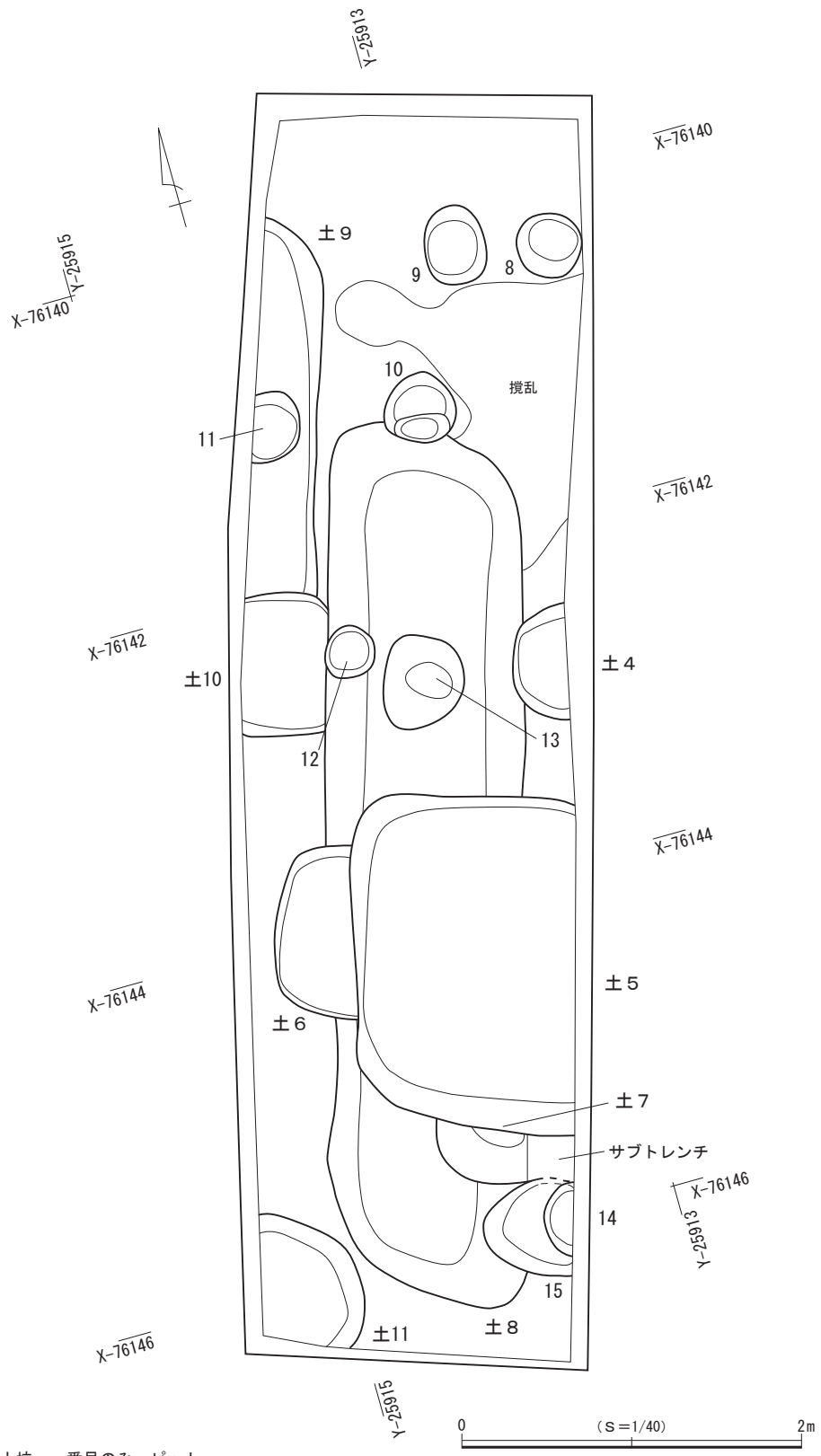


図11 A区第2面 遺構分布図

(1) 土 坑

第2面では、8基を検出した。調査区全体に分布しており遺構密度は高く、重複するものや調査区外に及ぶものがほとんどである。平面形は円形・方形・長方形を基調とし、規模は長軸現存長で最小56cm、最大5.16m、深さ7～51cmで、規模に幅がある。

土坑4 (図15)

調査区東壁中央に位置する。東側が調査区外に及ぶため、遺構の全容は明らかでない。西側が土坑8と重複しており、本址が新しい。検出した範囲からは、平面形は円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北67cm、東西現存長32cm、深さ17cmで、坑底面の標高は6.54mを測る。覆土は泥岩をあまり含まない暗褐色砂質土である。

出土遺物 (図12)

遺物はかわらけ12点、陶器3点が出土し、このうち1点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。

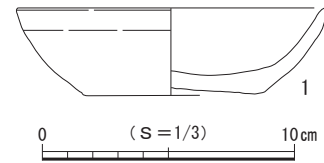


図12 A区第2面 土坑4 出土遺物

土坑5 (図15)

調査区南側に位置する。東側が調査区外に及ぶため、遺構の全容は明らかでない。土坑6～8と重複しており、本址が新しい。検出した範囲からは、平面形は隅丸方形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北1.98m、東西現存長1.33m、深さ18cmで、坑底面の標高は6.57mを測る。西壁を基準にすると主軸方位はN-15°-Eを指す。覆土は小泥岩ブロックと炭を含む暗褐色砂質土である。

出土遺物 (図13)

遺物はかわらけ27点、磁器1点、陶器11点、瓦1点が出土し、このうち5点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。3は龍泉窯系青磁碗Ⅱ類である。4は陶器で、山茶碗である。5は平瓦である。

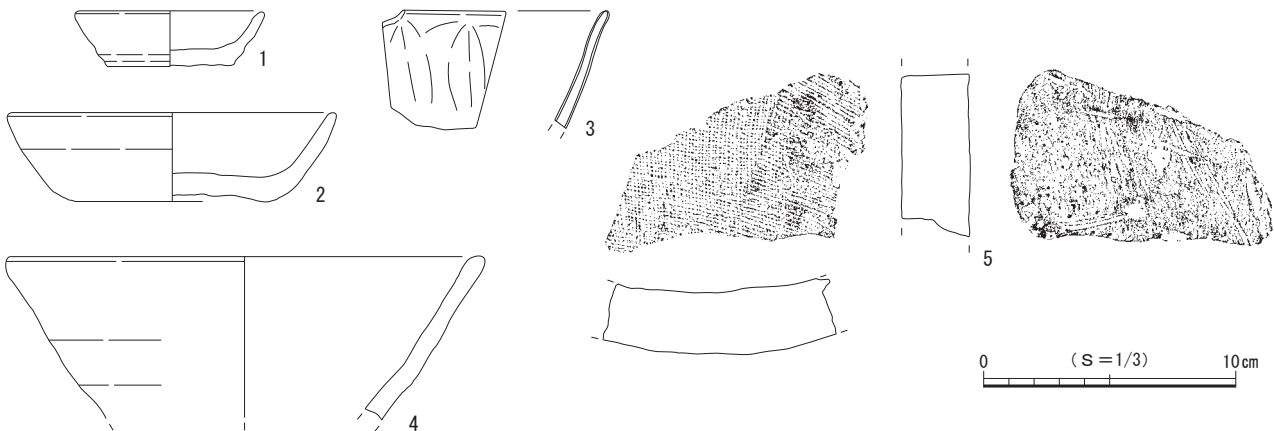


図13 A区第2面 土坑5 出土遺物

土坑6 (図15)

調査区南側に位置する。東側が土坑5・8と重複しており、土坑8より新しく、土坑5より古い。東側を土坑5に壊されているため、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は隅丸方形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北1.02m、東西現存長46cm、深さ12cmで、坑底面の標高は7.60mを測る。西壁を基準にすると主軸方位はN-25°-Eを指す。覆土は小泥岩ブロックと炭を含む暗褐色砂質土である。

遺物はかわらけ5点、瓦質土器1点が出土した。

土坑7 (図15)

調査区南側に位置する。土坑5・8と重複しており、土坑8より新しく、土坑5より古い。北側を土坑5、東側の一部をサブトレンチによって壊されており、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は円形を基調とするものと推定される。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は長軸現存長56cm、短軸50cm、深さ13cmで、坑底面の標高は7.50mを測る。覆土は小泥岩ブロックと炭を含む暗褐色砂質土である。

遺物はかわらけ18点、陶器2点が出土した。

土坑8 (図15)

調査区中央やや南側に位置する。土坑4～7・10およびピット10・12・13・15と重複しており、土坑10より新しく、土坑4～7およびピットより古い。平面形は溝状を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸5.16m、短軸1.22m、深さ51cmで、坑底面の標高は6.10mを測る。主軸方位はN-15°-Eを指す。覆土は小泥岩ブロックを多く含む暗褐色砂質土を主体として構成され、中ほどに厚さ約5cmの炭層が認められる。

出土遺物 (図14)

遺物はかわらけ55点、陶器12点、瓦質土器2点、瓦1点が出土し、このうち30点を図示した。

1～26はロクロ成形によるかわらけである。4・10には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。26の底部には焼成前穿孔が認められる。27は瀬戸窯産の小壺、28・29は瓦質土器の火鉢、30は丸瓦である。

土坑9 (図15)

調査区西壁北側に位置する。本址は第3面で確認したが、調査区西壁の土層断面において第2面に相当する堆積土層の6・7層に掘り込まれていることを確認したため、第2面の遺構として取り扱う。なお、本址は平面図の記録では南側が土坑10と重複しているが、両者の重複関係は明らかにできなかった。本址の西側は調査区外に及ぶため、遺構の全容は明らかでない。中央にはピット11が重複しており、本址が古い。検出した範囲では、東壁は直線的で北東の角は隅丸となる。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長2.26m、短軸現存長41cm、深さ39cmで、坑底面の標高は6.14mを測る。東壁を基準にすると主軸方位はN-15°-Eを指す。覆土は小泥岩ブロックを多く、被熱した泥岩を含む暗褐色砂質土である。

遺物はかわらけ14点、磁器1点、陶器5点、石製品1点が出土した。

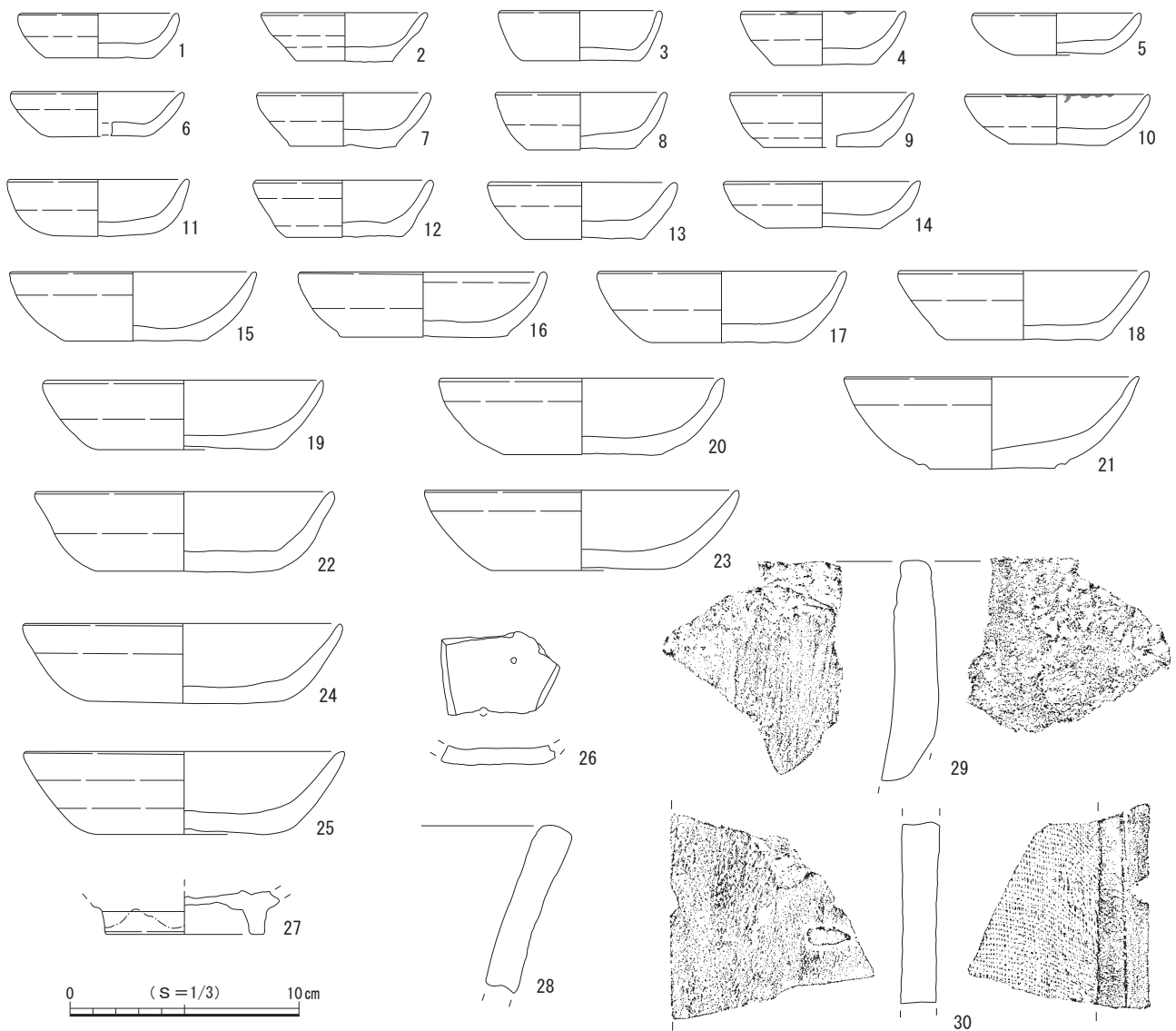


図14 A区第2面 土坑8出土遺物

土坑10 (図15)

調査区西壁中央に位置する。本址は第3面で検出したが、調査区西壁の土層断面において第2面に相当する堆積土層の6層に掘り込まれていることを確認したため、第2面の遺構として取り扱う。なお、本址は平面図の記録では北側が土坑9と重複しているが、重複関係は明らかにできなかった。本址の西側は調査区外に及ぶため、遺構の全容は明らかでない。東側は土坑8およびピット12と重複しており、本址が古い。検出した範囲からは、平面形は隅丸方形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北84cm、東西現存長48cm、深さ9cmで、坑底面の標高は6.16mを測る。南壁を基準にすると主軸方位はN-78°-Wを指す。覆土は小泥岩ブロックを多く含む暗褐色砂質土である。

遺物はかわらけ8点が出土した。

土坑11 (図15)

調査区南西隅に位置する。南西側が調査区外に及ぶため、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲

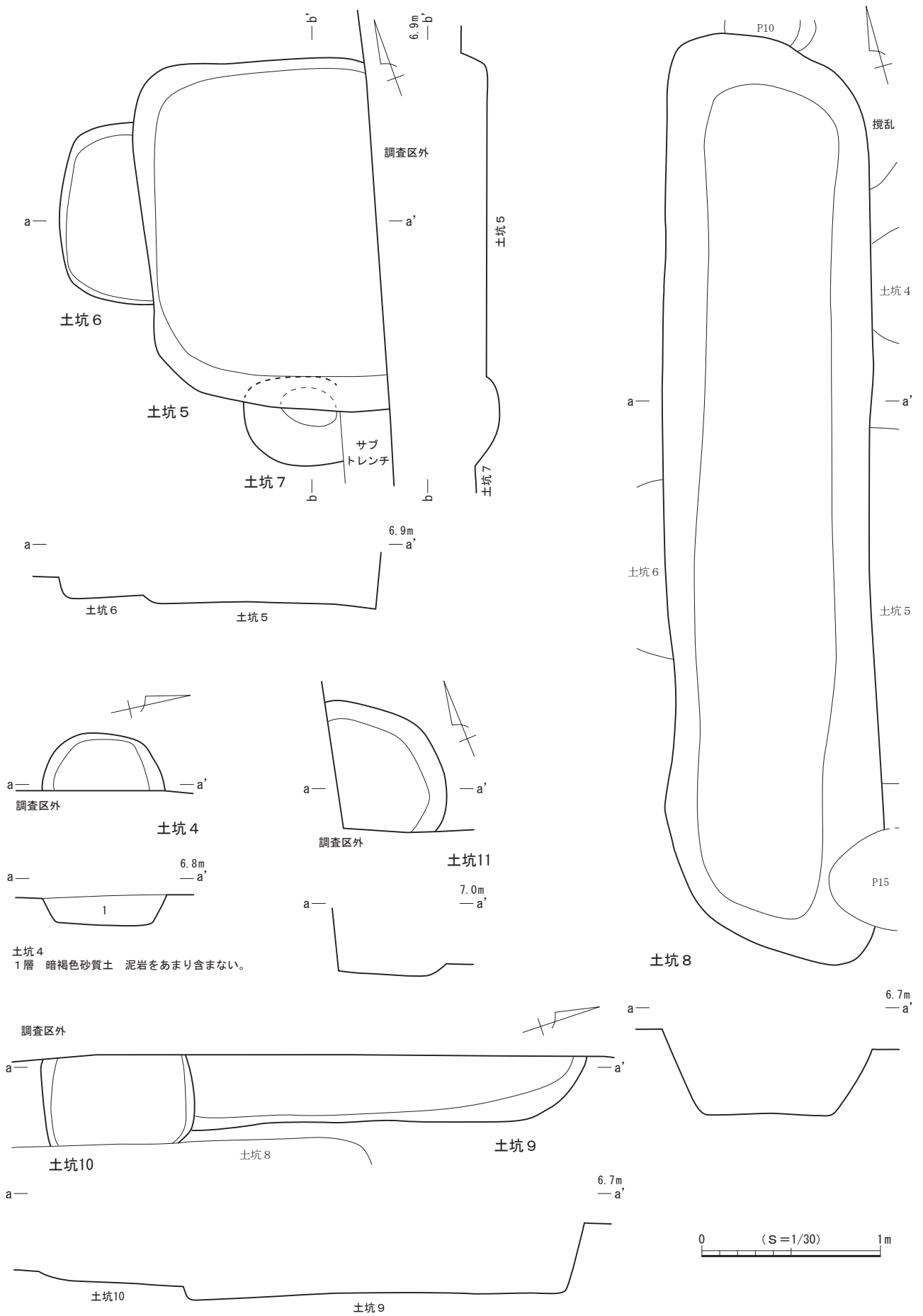


図15 A区第2面 土坑4~11

からは、平面形は円形を基調とするものと推定される。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長78cm、東西現存長61cm、深さ7cmで、坑底面の標高は6.59mを測る。

遺物はかわらけ17点、金属製品1点が出土した。

(2) ピット (図11)

第2面では、8基を検出した。主に調査区の中央から北側にかけて分布しており、建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は略円形ないし楕円形を呈し、規模は長軸現存長・径31~57cm、深さ6~26cmを測る。覆土は暗褐色砂質土で構成されている。礎板や礎石を伴うピットは確認されなかった。

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表12)を参照されたい。

(3) 遺構外出土遺物 (図16)

第2面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち12点を図示した。

1~5はロクロ成形によるかわらけである。6~9は陶器で、6が山茶碗、7・8が常滑窯産の甕である。9は産地不明の鉢である。10は瓦質土器の火鉢である。11・12は銭貨で、11が開元通寶(南唐・960)、12が嘉定通寶(南宋・1208)である。

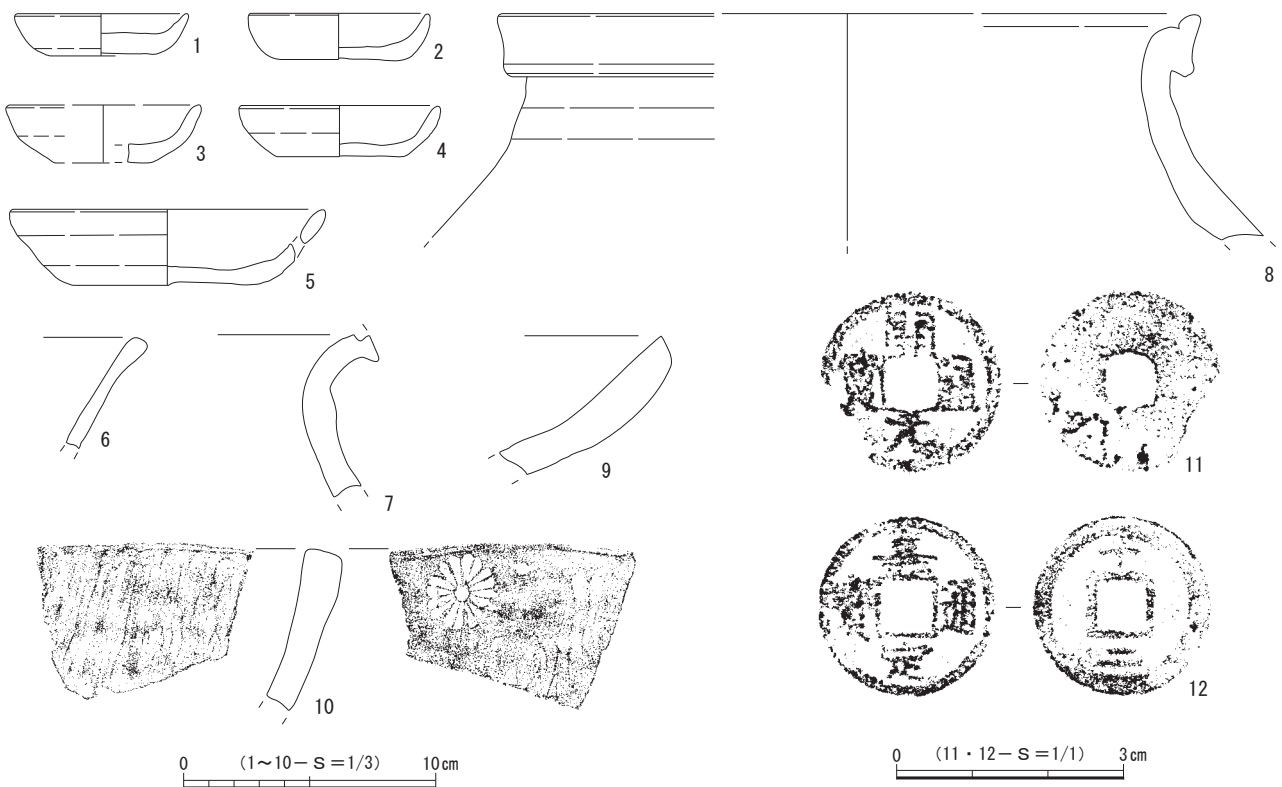


図16 A区第2面 遺構外出土遺物

第3節 第3面の遺構と遺物

第3面の遺構は堆積土層の10層上面で検出され、確認面の標高は約6.5～6.6mを測る。よく締まった整地層で、上面に部分的に炭を多く含む暗褐色砂質土が堆積しており、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は、土坑8基、ピット2基である(図18)。第2面に帰属する遺構の掘り込みが多く残存するため、調査区内で本面の遺構が確認できた面積は少ないものの、遺構密度は比較的高いといえよう。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉～後葉頃に属すると考えられる。

(1) 土坑

第3面では、8基を検出した。調査区中央付近は第2面の遺構に大きく壊されており、本面が島状に残存する調査区北側および南側に土坑が分布していた。面積に対して遺構密度は高く、半数が調査区外に及んでいる。平面形は不明なものが大半だが、楕円形を基調とするものがある。規模は長軸の現存長で最小58cm、最大で2.16m、深さ11～96cmを測り、規模に幅がある。

土坑12(図19)

調査区北東隅に位置する。調査時に設けた排水溝によって北側と東側の一部が失われており、さらに調査区外に及ぶと考えられることから、遺構の全容は明らかでない。西側が土坑14と重複しており、本址が新しい。確認できたのはごく一部であるため平面形は不明だが、検出した範囲では直線的な西壁と丸みを帯びた角が認められる。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると考えられる。規模は南北現存長1.00m、東西現存長28cm、東壁の土層断面において深さ96cmまで確認されたが、底面には達していない。西壁を基準にすると主軸方位はN-6°-Eを指す。覆土は小泥岩ブロックと炭を多く含む暗褐色砂質土である。

出土遺物(図17)

遺物はかわらけ9点が出土し、このうち1点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。

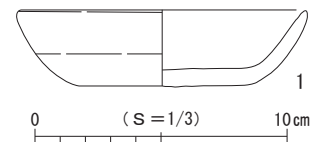


図17 A区第3面 土坑12出土遺物

土坑13(図19)

調査区北西隅に位置する。調査時に設けた排水溝によって北側の一部が失われており、西側は調査区外に及んでいることから、遺構の全容は明らかでない。土坑14と重複しており、本址が新しい。検出した範囲からは、平面形は円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると考えられる。規模は東西現存長51cm、南北現存長38cm、深さ34cmで、坑底面の標高は6.08mを測る。覆土は小泥岩ブロックと炭を多く含む暗褐色砂質土である。

遺物はかわらけ3点、陶器1点が出土した。

土坑14(図19)

調査区北壁中央に位置する。調査時に設けた排水溝によって北側の一部が失われており、さらに調査区外に及んでいる。東側が土坑12、西側が土坑13と重複しており、本址が古い。平面形は不明だが、検

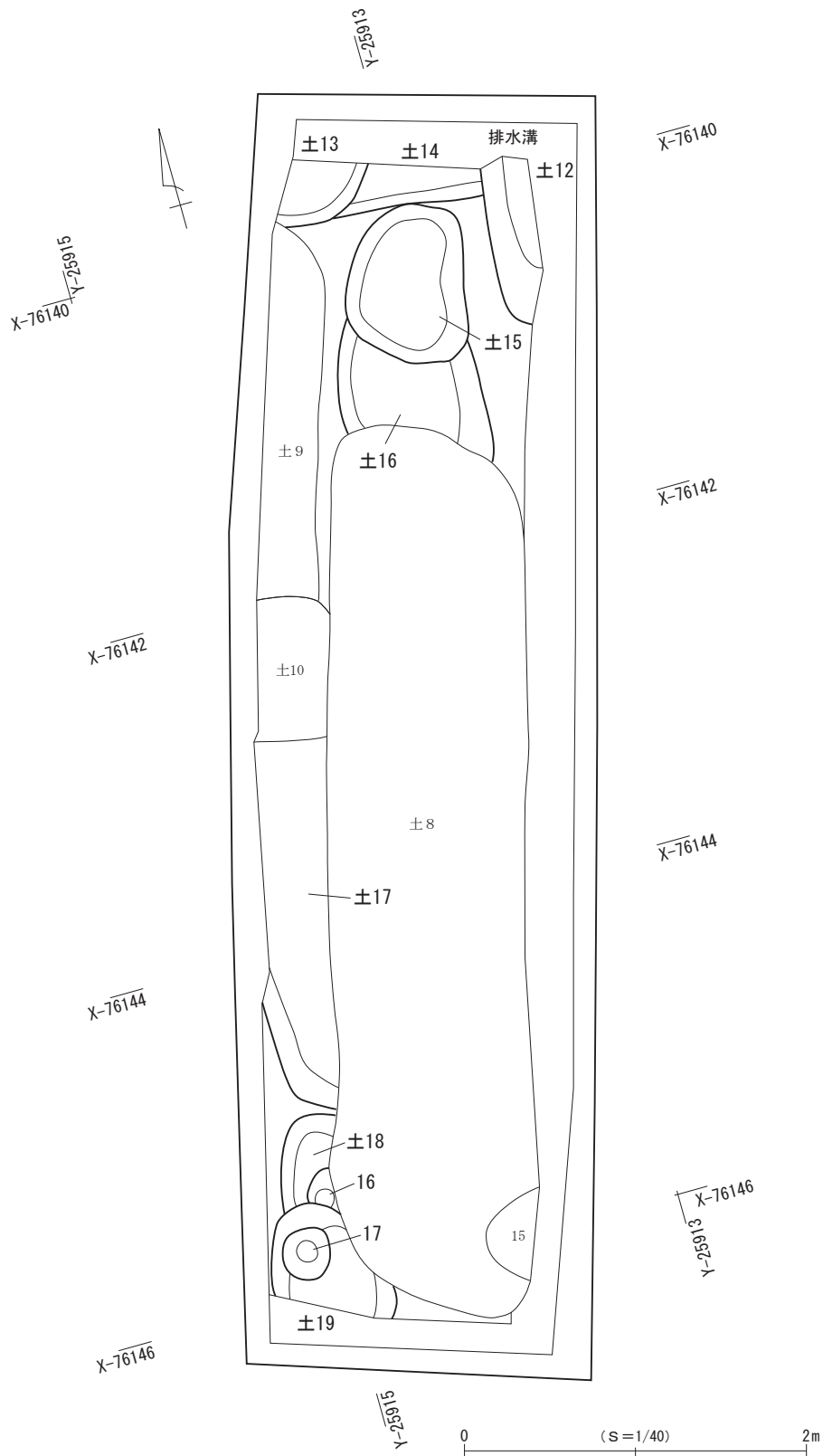


図18 A区第3面 遺構分布図

出した範囲では直線的な南壁が確認されている。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると考えられる。規模は東西現存長90cm、南北現存長26cm、深さ13cmで、坑底面の標高は6.16mを測る。覆土は小泥岩ブロックと炭を多く含む暗褐色砂質土である。

遺物はかわらけ15点、金属製品1点が出土した。

土坑15 (図19)

調査区北側に位置する。南側が土坑16と重複しており、新旧関係は不明である。平面形は不整楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸94cm、短軸71cm、深さ35cmで、坑底面の標高は6.18mを測る。主軸方位はN-25°-Eを指す。覆土は小泥岩ブロックと炭を含む暗褐色砂質土である。

遺物はかわらけ13点が出土した。

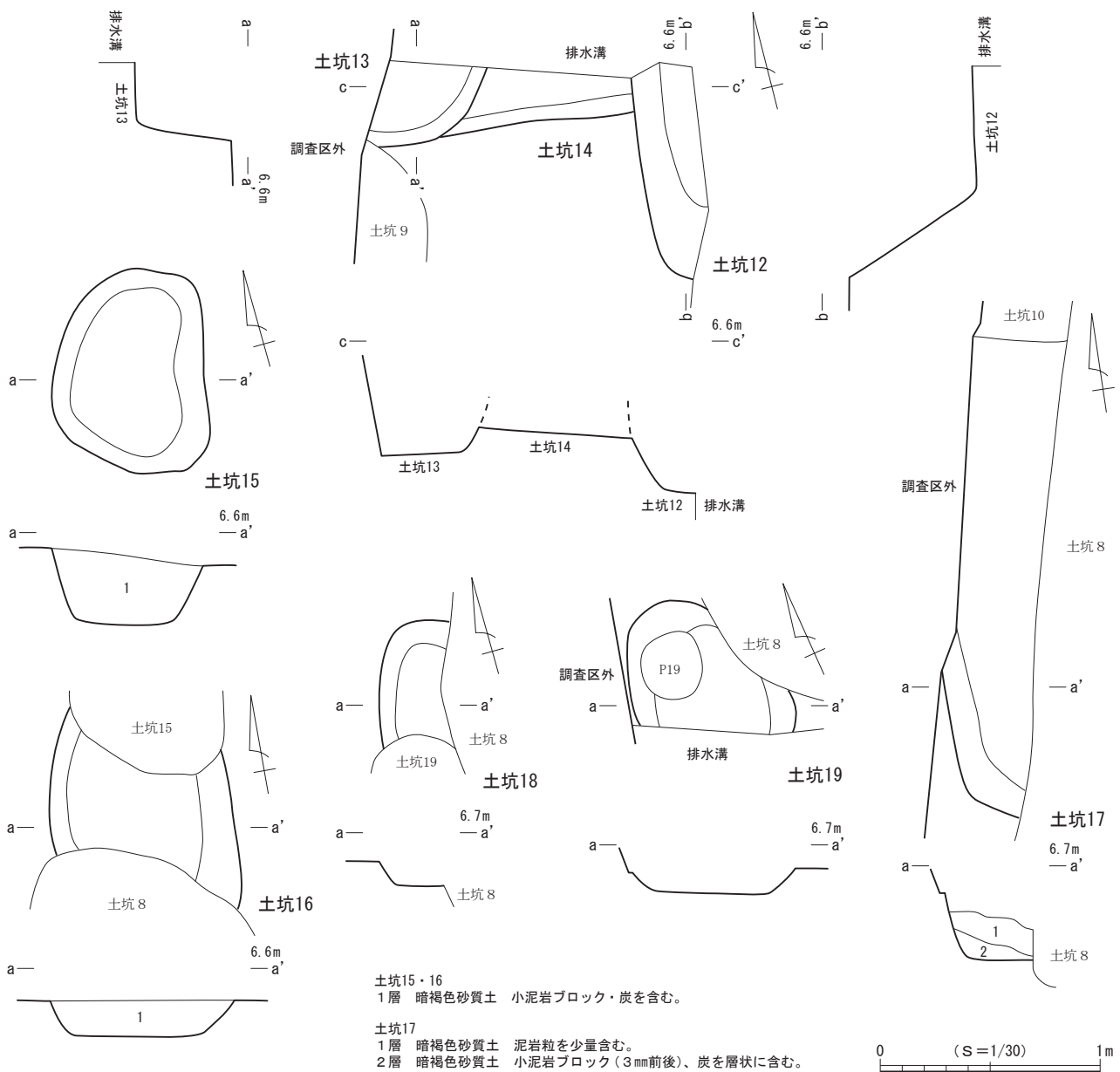


図19 A区第3面 土坑12～19

土坑16 (図19)

調査区北側に位置する。南側が第2面の土坑8と重複して壊されており、北側が土坑15と重複して新旧関係は不明である。確認された部分は全体の半分ほどと考えられ、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は楕円形を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長92cm、短軸83cm、深さ17cmで、坑底面の標高は6.29mを測る。東壁を基準にすると主軸方位はほぼ南北を指す。覆土は小泥岩ブロックと炭を多く含む暗褐色砂質土である。

出土遺物 (図20)

遺物はかわらけ15点、陶器2点が出土し、このうち2点を図示した。

1は瀬戸窯産の片口鉢、2は常滑窯産の片口鉢I類である。

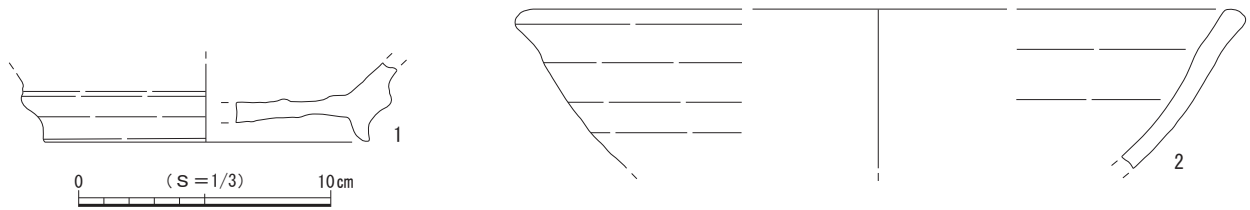


図20 A区第3面 土坑16出土遺物

土坑17 (図19)

調査区西壁南側に位置する。第2面の土坑8・10と重複しており、北側および東側を壊されている。西側は調査区外に及んでおり、確認された部分は全体のごく一部であると考えられ、遺構の全容は明らかでない。平面形は不明だが、南西側に緩やかな角が認められる。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈するものと考えられる。規模は南北現存長2.16m、東西現存長41cm、深さ32cmで、坑底面の標高は6.28mを測る。覆土は上層に泥岩粒を含む暗褐色砂質土、下層に泥岩粒と炭を層状に含む暗褐色砂質土が堆積している。

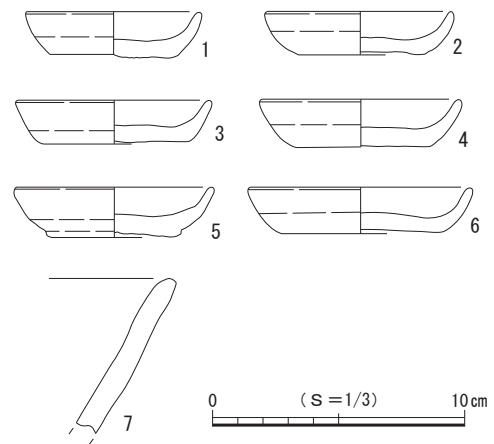


図21 A区第3面 土坑17出土遺物

出土遺物 (図21)

遺物はかわらけ33点、陶器2点が出土し、このうち7点を図示した。

1～6はロクロ成形によるかわらけである。7は常滑窯産の片口鉢I類である。

土坑18 (図19)

調査区南西側に位置する。第2面の土坑8と重複しており東側が壊され、南側に土坑19およびピット16が重複しており新旧関係は不明である。検出した範囲からは、平面形は楕円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は南北現存長58cm、東西現存長33cm、深さ11cmで、坑底面の標高は6.46mを測る。

遺物はかわらけ5点が出土した。

土坑19 (図19)

調査区南西隅に位置する。調査時に設けた排水溝によって南側が失われ、北東側が第2面の土坑8に壊されており、遺構の全容は不明である。土坑18およびピット16・17と重複しており、新旧関係は不明である。検出した範囲からは、平面形は楕円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長84cm、短軸現存長69cm、深さ11cmで、坑底面の標高は6.48mを測る。

遺物はかわらけ12点、磁器1点、陶器2点、石製品1点が出土した。

(2) ピット (図18)

第3面では、2基を検出した。調査区の南側に分布し、全容が明らかなものは1基である。礎板や礎石を伴うピットはないが、ピット16から柱材が出土している。ピットの平面形は略円形ないし楕円形と推定され、規模は長軸現存長・径22・29cm、深さ12・13cmを測る。

ピット16からは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表12)を参照されたい。

(3) 遺構外出土遺物 (図22)

第3面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち14点を図示した。

1は白かわらけである。2~14はロクロ成形によるかわらけである。4・11には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。また、13は煤ではないが、内底の黒変が著しい。

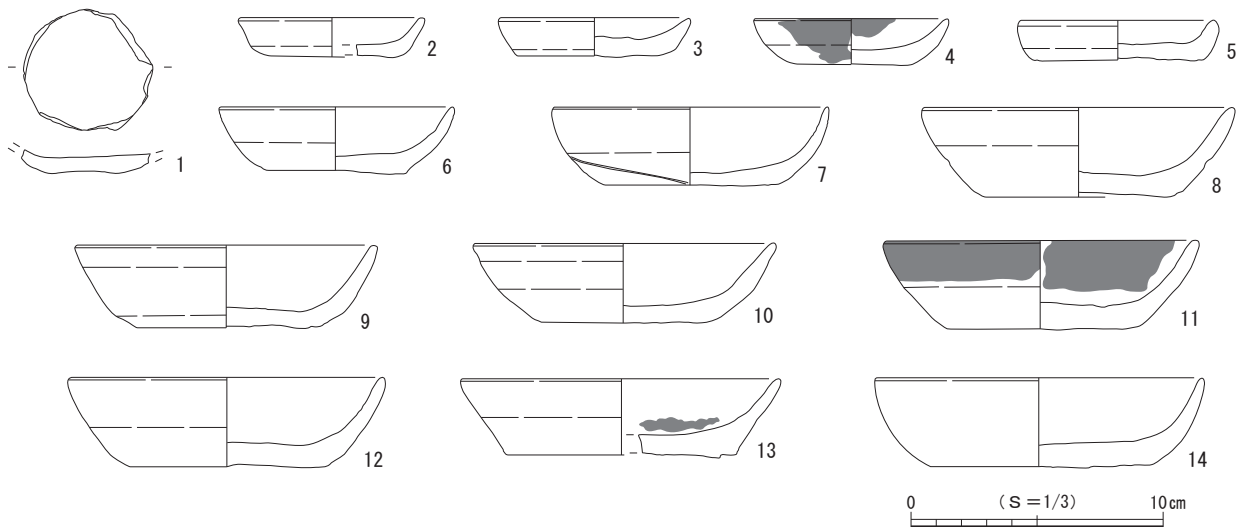


図22 A区第3面 遺構外出土遺物

第四章 B区の発見された遺構と遺物

B区の調査では、遺構確認面は第1～6面までの合計6面である。検出した遺構は、竪穴状遺構1基、溝状遺構2条、地業1カ所、土坑33基、ピット101基である。出土遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して17箱を数える。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと(第1～6面)に説明する。

第1節 第1面の遺構と遺物

第1面の遺構は堆積土層の3層ないし4層上面で検出され、確認面の標高は約7.2～7.3mを測る。3層は泥岩ブロックを非常に多く含む暗茶褐色砂質土、4層は泥岩粒・小泥岩ブロックをやや多く含む暗褐色砂質土である。各層の上面はやや凹凸がみられ部分的に現代の攪乱が及んでおり、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は、地業1カ所、土坑2基、ピット19基で、これらの遺構は調査区の中央から南側を中心に分布している(図24)。

遺物は主にかわらけ、船載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉～15世紀代に属すると考えられる。

(1) 地業

第1面では、調査区南側で大小の泥岩が帯状に分布する状況が認められた。ここでは遺構として取り扱う。

地業1(図23)

調査区南側に位置する。泥岩が東西方向に帯状に分布する状態で検出した。東西両端は調査区外に及んでおり、北西端の一部が攪乱によって失われている。東西約4.0m、南北約1.3～1.6mの範囲に泥岩が集中するが、泥岩の大きさや分布は均一でない。西側は5～15cm大の比較的小振りの泥岩が多く敷き詰められ、中央から東側には30～60cm大の泥岩が多いが、その配置に明瞭な規則性などは見出せない。泥岩の厚さは最大33cm、上面の標高は7.2m～7.35m前後を測り、凹凸がある。泥岩の下は幅81～91cm、深さ14cmほどの浅い溝状の掘り込みを有すが、泥岩は溝の範囲を超えて分布している。溝状遺構を基準にすると、主軸方位はN-73°-Wを指す。土層断面の観察では、下層を中心に1～5cm大の泥岩を含む暗茶褐色砂質土が充填され、上層に人頭大の泥岩が敷かれる状況が認められる。本遺構は溝状の掘り方を伴うものとして捉えられるが、同じ位置で下層に存在する溝状遺構1の窪みを埋めて整地したものと捉えることもできよう。

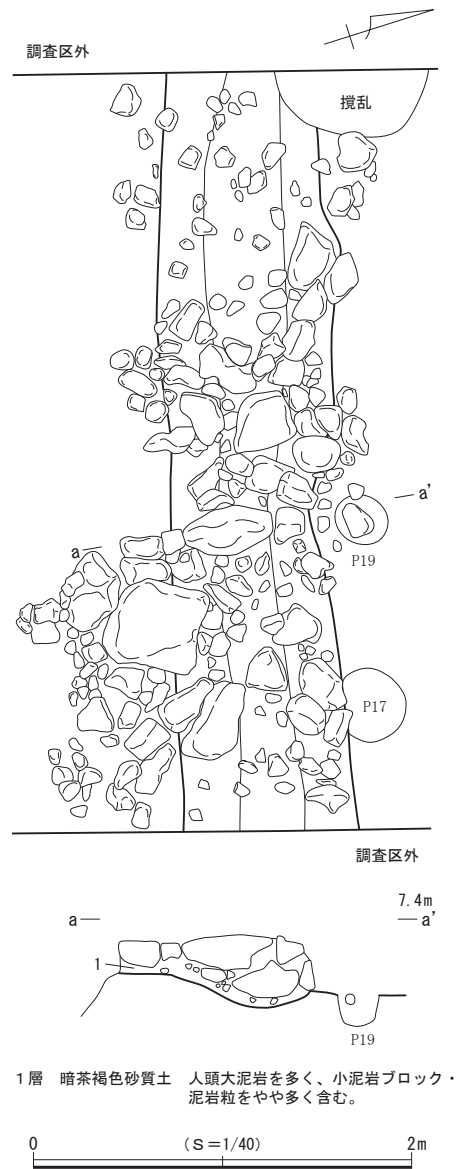


図23 B区第1面 地業1

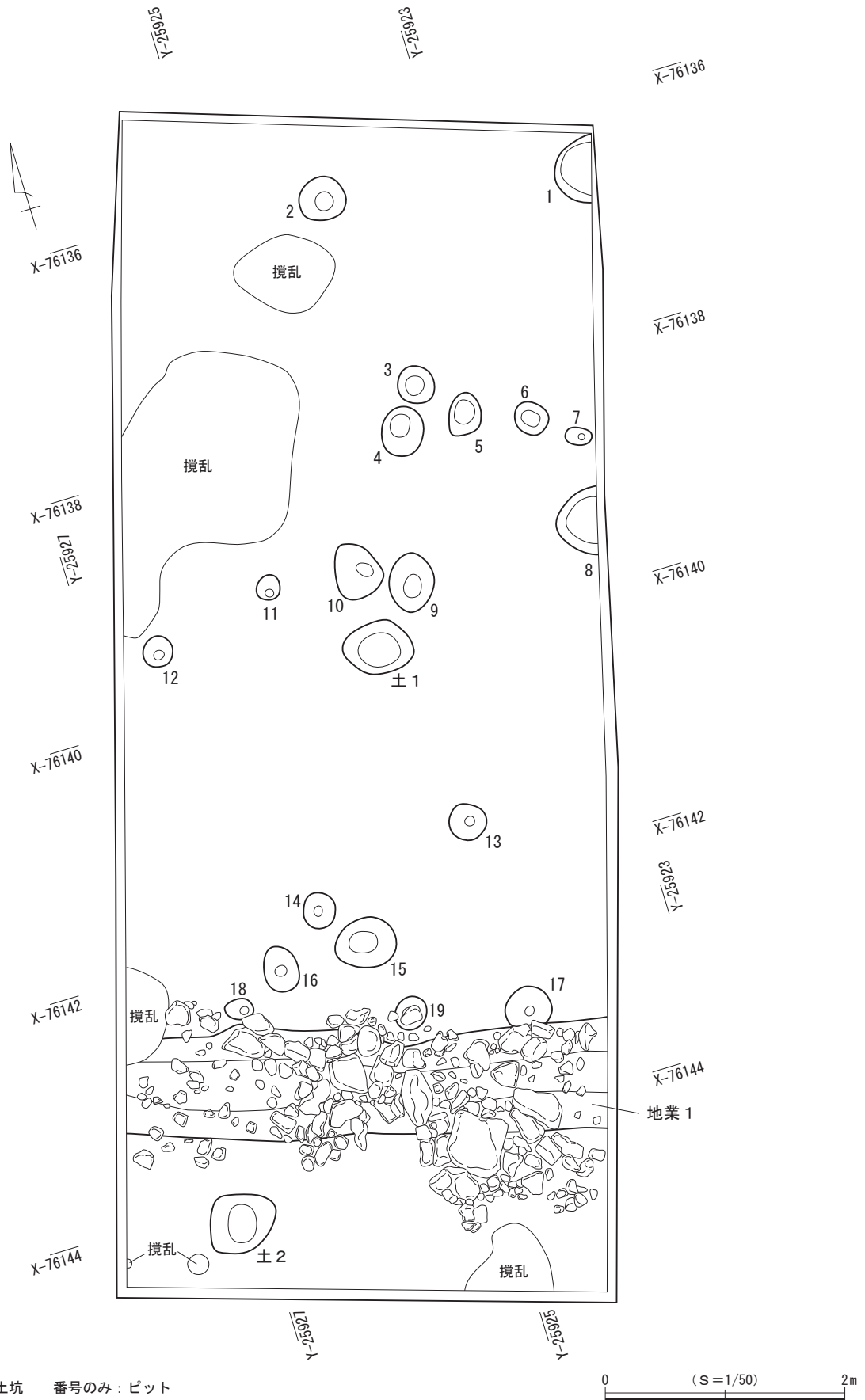


図24 B区第1面 遺構分布図

出土遺物 (図25)

遺物はかわらけ621点、磁器4点、陶器31点、瓦質土器2点、石製品2点、金属製品5点が出土し、このうち8点を図示した。

1～3はロクロ成形によるかわらけである。4・5は陶器類で、4が山茶碗窯系の片口鉢、5が常滑窯産の片口鉢Ⅱ類である。6は砥石である。7・8は錢貨で、天聖元寶(北宋・1023)である。

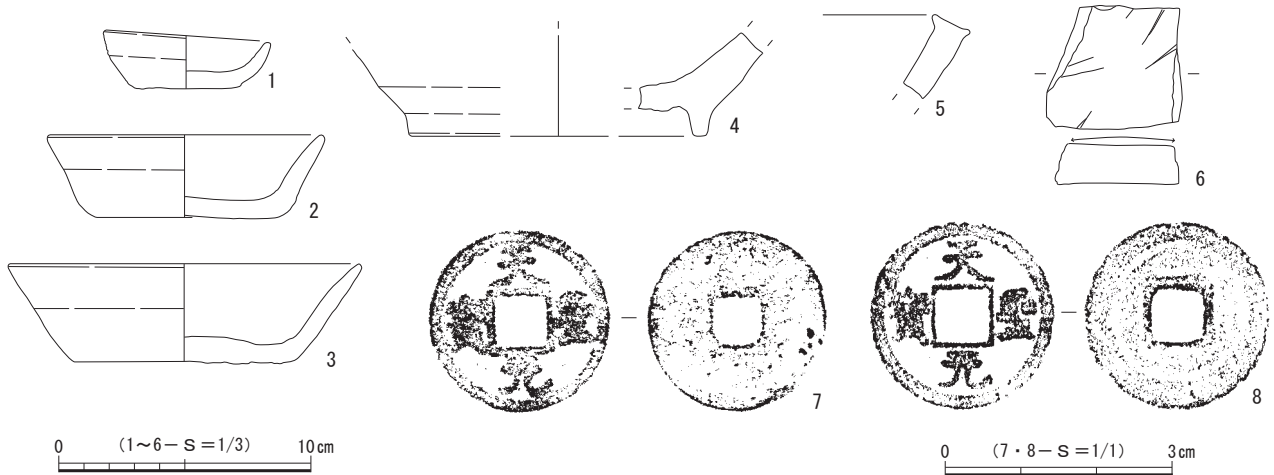


図25 B区第1面 地業1出土遺物

(2) 土 坑

第1面では、2基を検出した。調査区中央と南西側に分布する。平面形は楕円形を基調とし、規模は長軸60cmと62cm、深さ6cmと40cmである。

土坑1 (図26)

調査区中央に位置する。平面形は楕円形を呈する。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸60cm、短軸48cm、深さ6cmで、坑底面の標高は7.20mを測る。主軸方位はN-74°-Wを指す。覆土は茶褐色砂質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑2 (図26)

調査区南西側に位置する。平面形は不整隅丸方形を呈する。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62cm、短軸52cm、深さ40cmで、坑底面の標高は6.82mを測る。下端の長軸を基準にすると、主軸方位はN-14°-Eを指す。覆土は茶褐色砂質土である。

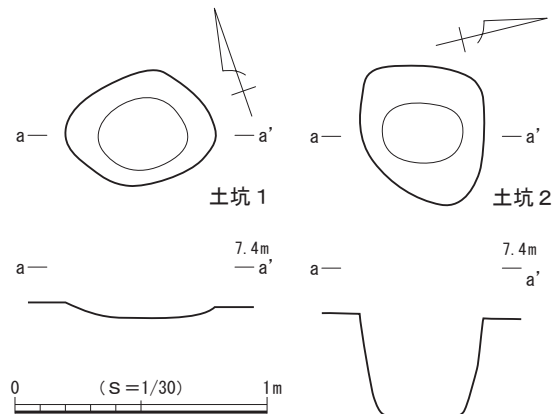


図26 B区第1面 土坑1・2

出土遺物 (図27)

遺物はかわらけ24点、土器1点が出土し、このうち1点を図示した。

1は土器のとりべである。

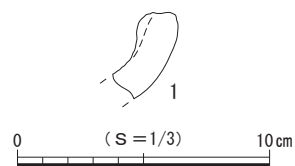


図27 B区第1面 土坑2出土遺物

(3) ピット(図24)

第1面では、19基を検出した。調査区のほぼ全面に分布する。他の遺構と重複するものや、一部が調査区外に及ぶものもある。建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。ピットの平面形は略円形ないし楕円形を主体とし、規模は長軸現存長・径21~57cm、深さ7~46cmを測る。礎板や礎石を伴うピットは確認されなかった。覆土は茶褐色粘質土・黒褐色粘質土・暗褐色粘質土・暗褐色砂質土などである。

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表12)を参照されたい。

(4) 遺構外出土遺物(図28)

第1面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち2点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。2は銭貨で、皇宋通寶(北宋・1038)である。

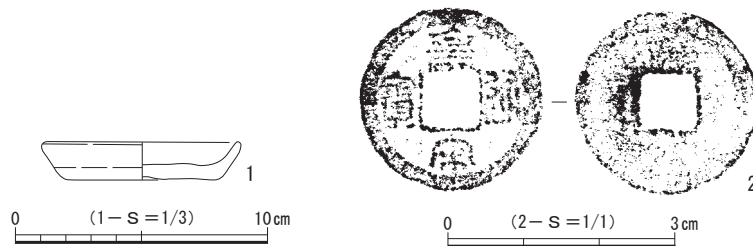


図28 B区第1面 遺構外出土遺物

第2節 第2面の遺構と遺物

第2面の遺構は堆積土層の6層上面で検出され、確認面の標高は約6.7~7.1mを測る。6層は泥岩粒と炭を多く含む暗茶褐色砂質土で、一部に現代の攪乱が及んでいる。東西で約20cmの高低差が認められ、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は、土坑3基、ピット13基で、これらの遺構は調査区の中央から北側に分布している(図29)。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉頃に属すると考えられる。

(1) 土 坑

第2面では、3基を検出した。調査区北東側に分布する。このうち2基については大半が調査区外に及んでおり、ほぼ全容が把握できたのは1基のみである。規模は長軸の現存長で最小68cm、最大1.87mを測り、深さは19~28cmである。

土坑3(図31)

調査区北壁のほぼ中央に位置する。大半が調査区外に及ぶと考えられるため、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲では、南壁が直線的に延びて、東西両端は丸みを帯びる。底面は平坦で東側が低く、壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長1.87m、南北現存長33cm、深さ28cmで、坑底面の標高は6.58mを測る。南壁を基準にすると主軸方位はN-69°-Wを指す。覆土は泥岩粒と炭を含む暗褐色弱粘質土である。

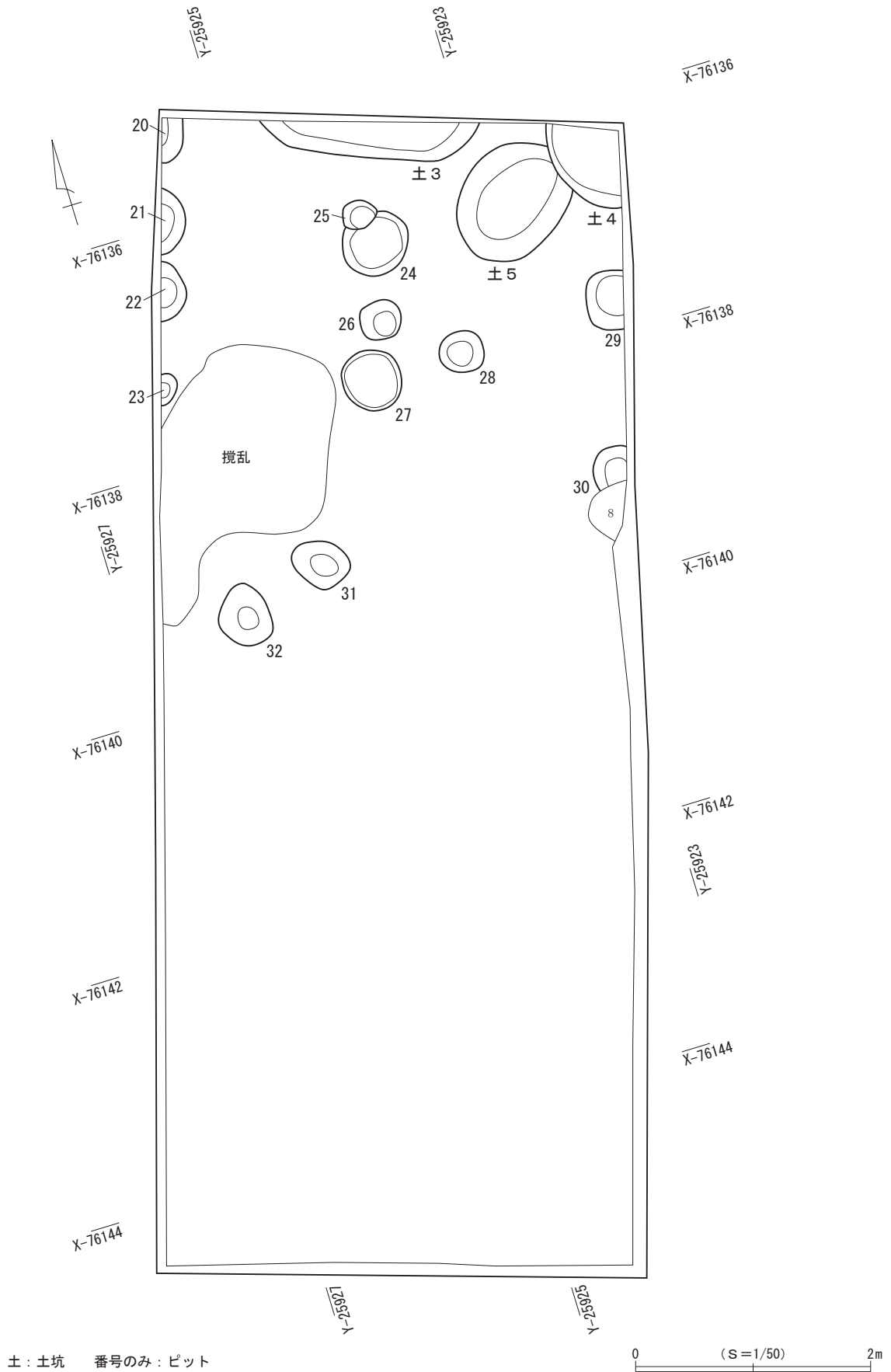


図29 B区第2面 遺構分布図

出土遺物 (図30)

遺物はかわらけ32点、陶器10点が出土し、このうち2点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。2は常滑窯産の片口鉢I類である。

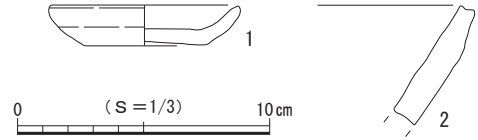


図30 B区第2面 土坑3出土遺物

土坑4 (図31)

調査区北東隅に位置する。大半が調査区外に及ぶと考えられるため、遺構の全容は明らかでない。南西側が土坑5と重複しており新旧関係は不明である。検出した範囲からは、平面形は円形を基調とし、壁はやや開いて立ち上がって断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は南北現存長68cm、東西現存長62cm、深さ22cmで、坑底面の標高は6.65mを測る。覆土は泥岩粒と炭を含む暗褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ12点、陶器1点が出土した。

土坑5 (図31)

調査区北東側に位置する。北東側が土坑4と重複しており、新旧関係は不明である。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.11m、短軸86cm、深さ19cmで、坑底面の標高は6.70mを測る。主軸方位はN-60°-Eを指す。覆土は泥岩粒と炭を含む暗褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ18点、磁器1点、陶器2点が出土した。

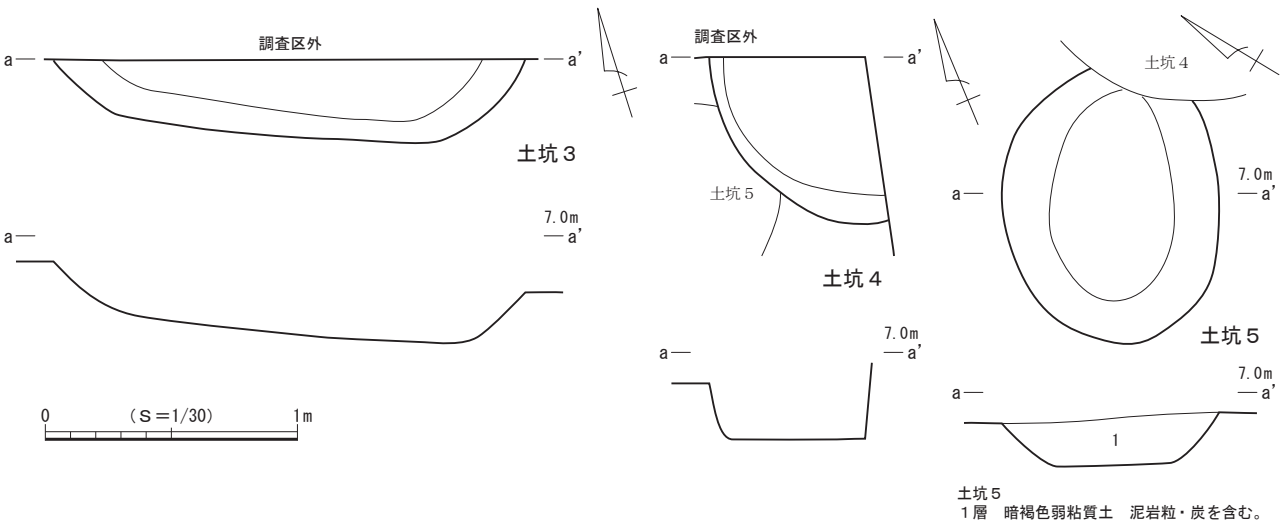


図31 B区第2面 土坑3～5

(2) ピット (図29)

第2面では、13基を検出した。調査区の中央から北側に分布する。他の遺構と重複するものや、一部が調査区外に及ぶものもある。建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。ピットの平面形は略円形ないし楕円形を主体とし、規模は長軸現存長29～59cm、深さ12～26cmを測る。礎板や礎石を伴うピットは確認されなかった。覆土は暗褐色弱粘質土・暗褐色砂質土などである。

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表12)を参照されたいが、このうちピット31より出土した2点を図示した。

出土遺物 (図32)

1・2はピット31から出土した。1はロクロ成形によるかわらけ、2は常滑窯産の甕である。

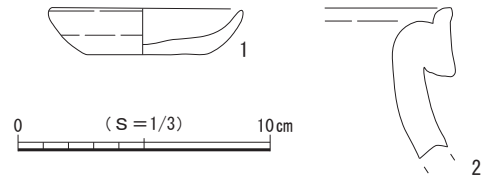


図32 B区第2面 ピット31出土遺物

(3) 遺構外出土遺物 (図33)

第2面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち21点を図示した。

1～4はロクロ成形によるかわらけである。5～15は陶器類である。5～11は常滑窯産の製品で、5～8が甕、9～11が片口鉢Ⅱ類である。12～15は山茶碗窯系の片口鉢である。16・17は瓦質土器の火鉢、18は土器のとりべである。19～21は銭貨で、19は開元通寶(南唐・960)、20は皇宋通寶(北宋・1038)、21は大観通寶(北宋・1107)である。

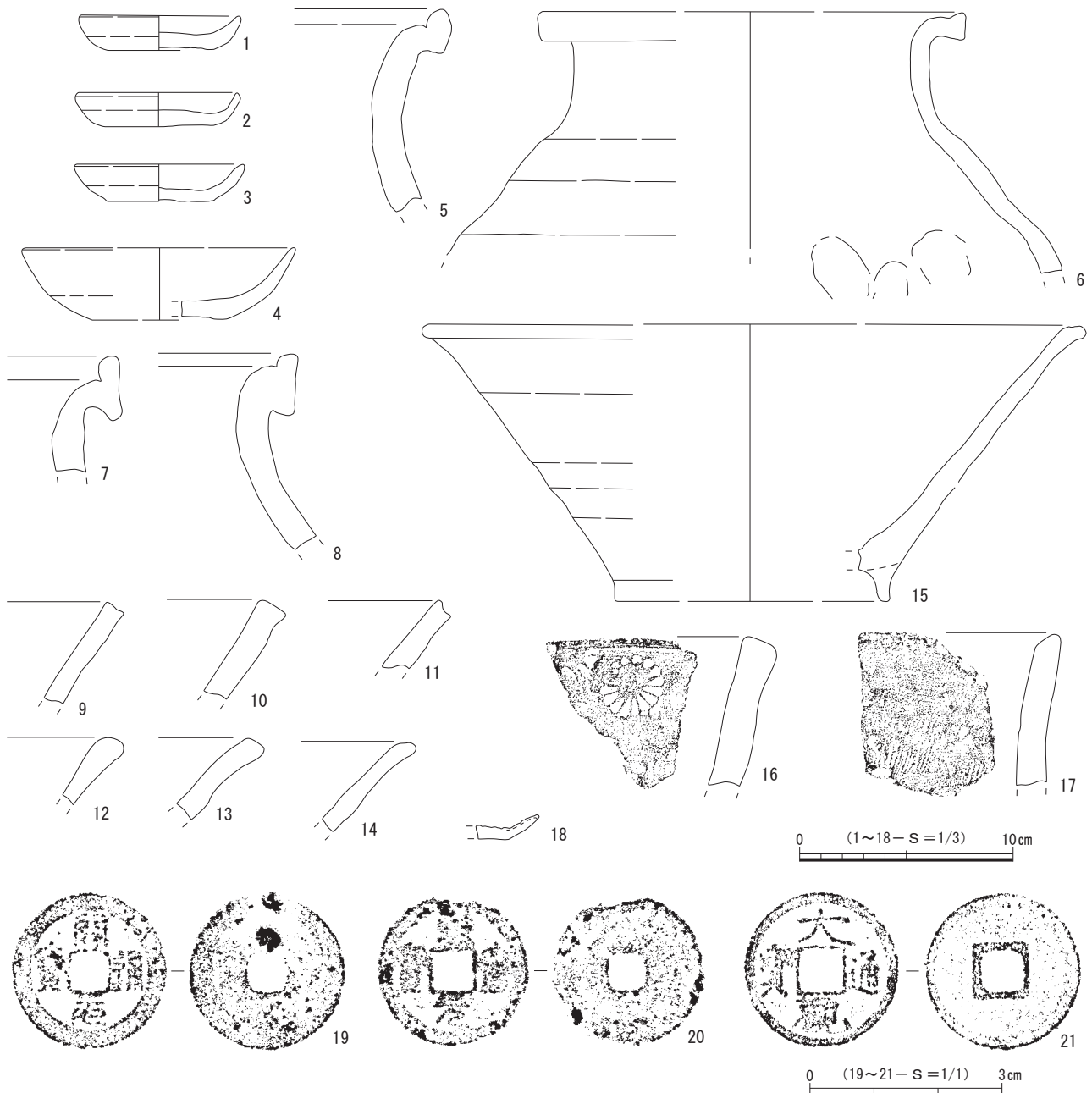


図33 B区第2面 遺構外出土遺物

第3節 第3面の遺構と遺物

第3面の遺構は堆積土層の7・8・10・12層上面で検出され、確認面の標高は約6.6～6.9mを測る。北東側に向かってやや下がっており、主に暗茶褐色砂ないし暗褐色砂だが、部分的に茶褐色砂質土による整地層が遺存している。これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は、竪穴状遺構1基、溝状遺構1条、土坑15基、ピット42基で、これらの遺構は調査区の全面に分布している(図36)。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉頃に属すると考えられる。

(1) 竪穴状遺構

第3面では、1基を検出した。北東側に位置し、大半が調査区外に及んでいる。

竪穴状遺構1(図34)

調査区北東側に位置する。東側が調査区外に及ぶため、遺構の全容は明らかでない。土坑7・13・15およびピット34～37・39・46・62と重複しており本址が古く、北壁は壊されている。平面形は西壁が直線的で隅は丸みを帯びることから、隅丸方形を基調としているものと推定される。底面は直床式の構造でほぼ平坦だが、東壁の土層断面を参考にするにすると南側がやや高くなっており、壁は開いて立ち上がる。規模は南北現存長3.40m、東西現存長1.08m、壁高は50cmで、底面の標高は6.06～6.15mを測る。西壁を基準にすると主軸方位はN-9°-Eを指す。覆土は泥岩ブロックと炭を多く含む暗褐色砂質土で構成され、被熱した泥岩も含まれる。

出土遺物(図35)

遺物はかわらけ24点、磁器2点、陶器21点、金属製3品が出土し、このうち2点を図示した。

1・2は常滑窯産の製品で、1が玉縁口縁壺、2が片口鉢Ⅱ類である。

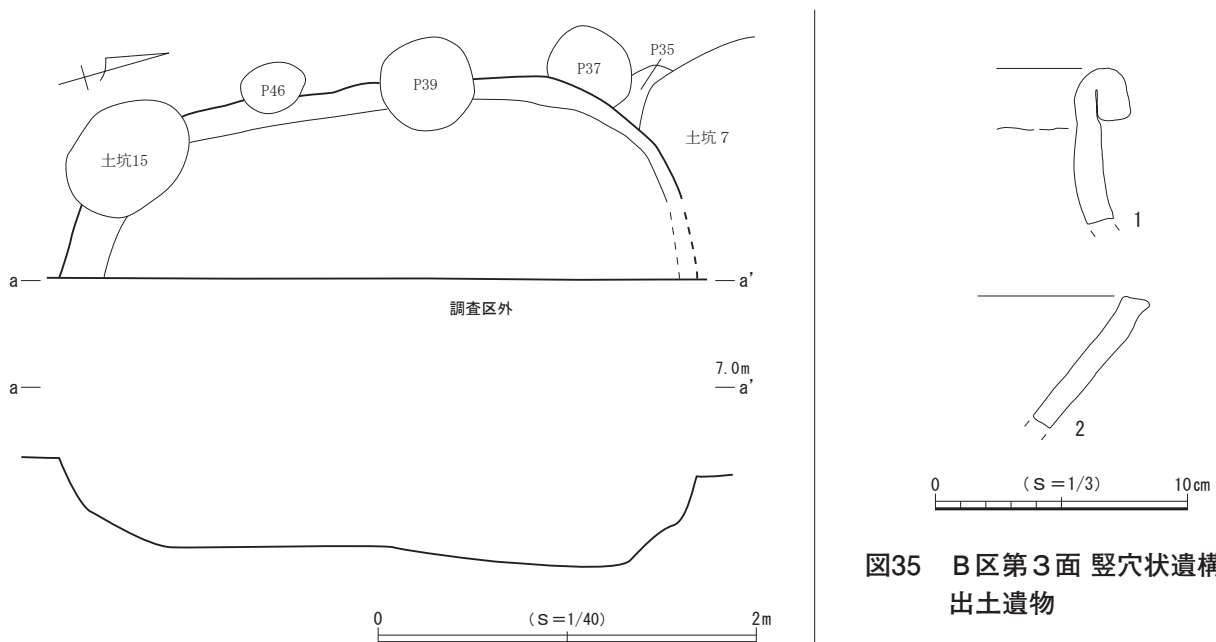


図34 B区第3面 竪穴状遺構1

図35 B区第3面 竪穴状遺構1
出土遺物

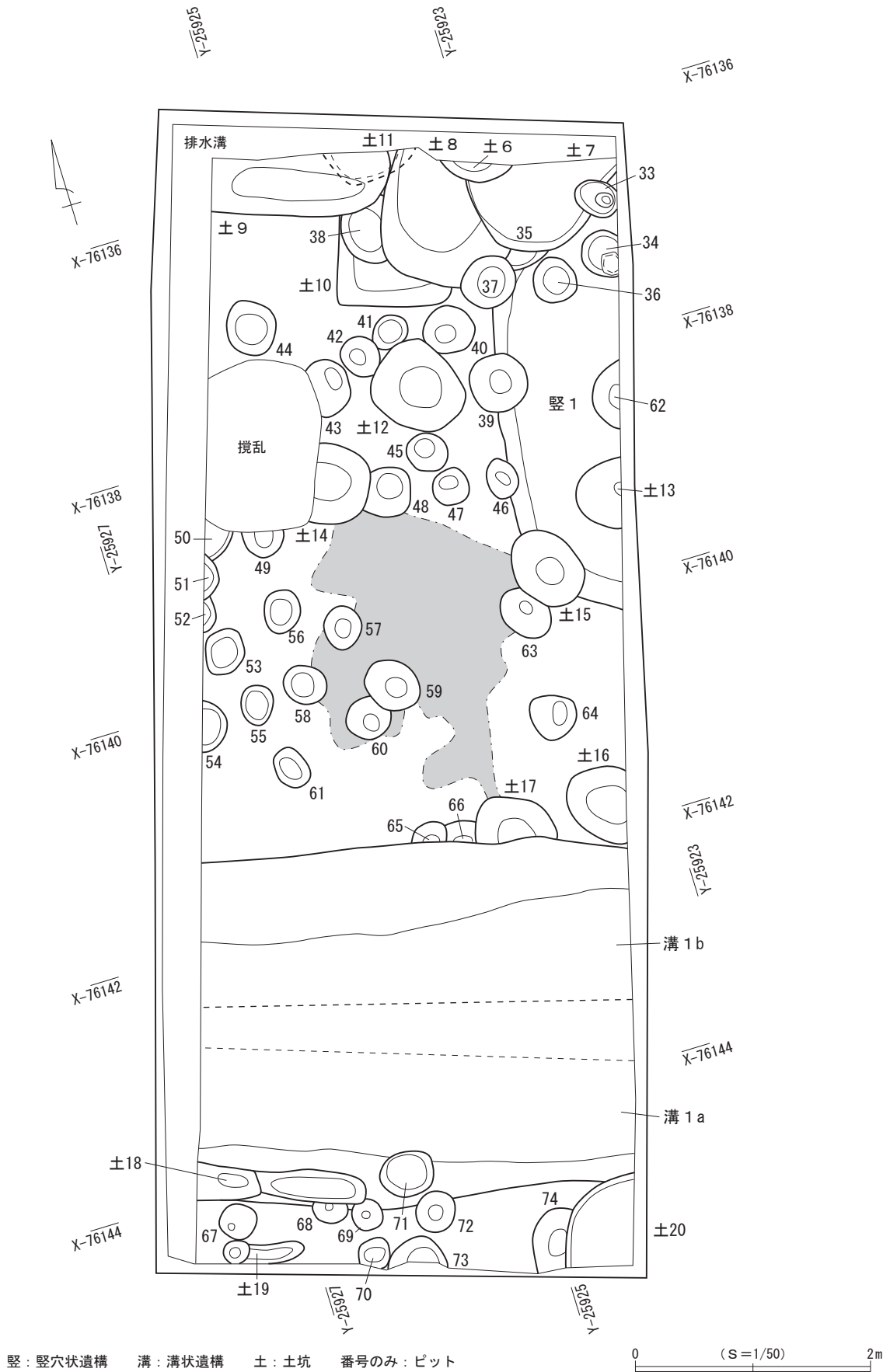


図36 B区第3面 遺構分布図

(2) 溝状遺構

第3面では、1条を検出した。東西方向に走り、2回の掘り直しが認められる。

溝状遺構 1 (図37)

調査区南側に位置する。東西方向に延び、両端は調査区外に及んでいる。南側が土坑18・20およびピット68・69・71・72と重複しており、本址が古い。北側は土坑17およびピット65・66と重複しており、本址が新しい。本址は大きく3段階に分けられることが確認されており、平面プランは一致しないが、前段階の区画を踏襲する意図で溝状遺構が作り直されたものと考えられることから、ここでは同一の遺構として新しい段階から a・b・c として説明する。いずれも現存長4.00m、主軸方位はN-73°-Wを指す。なお、a・bは同時に調査され、cはトレンチ調査の土層断面において底面が確認されたのみで、それぞれ平面記録が部分的であるため、調査区壁の土層断面から想定されるプランを平面図に破線で示した。なお、cについては掘り込み面が不明だが、煩雑になるため全測図では平面図 a・b と分離し第4面に図示している (図51)。

最も新しい a は、土層断面で確認すると幅1.62~1.64m、深さ54~68cmを測る。壁は開いて立ち上がり、上端はやや開いて、断面形は逆台形を呈する。底面の標高は東端で6.12m、西端で6.27mを測り、東側がやや低い。覆土は泥岩ブロックと炭を多く含む暗褐色砂質土である。

b は a と重複し、より北側に位置する。南壁が a に壊されるが、上端の幅は1.8~2.0mほどと考えられ、深さは53~72cmを測る。壁は開いて立ち上がり、断面

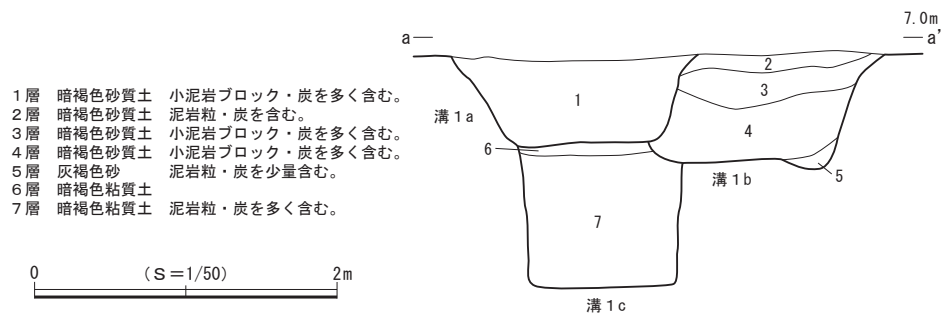
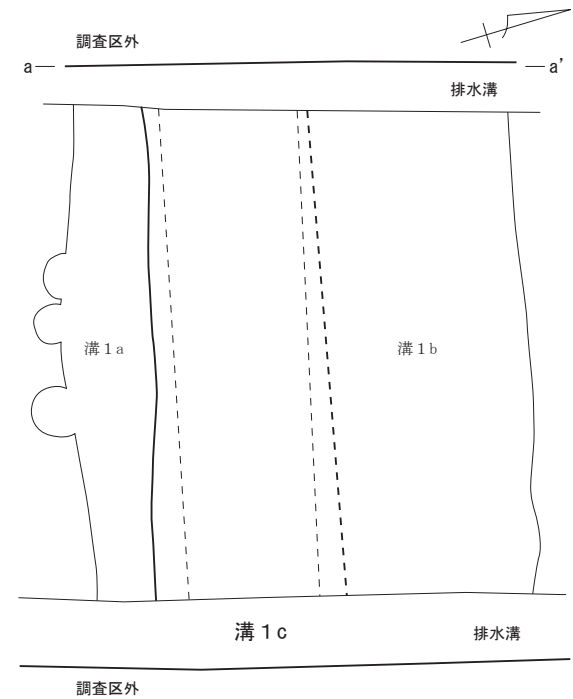
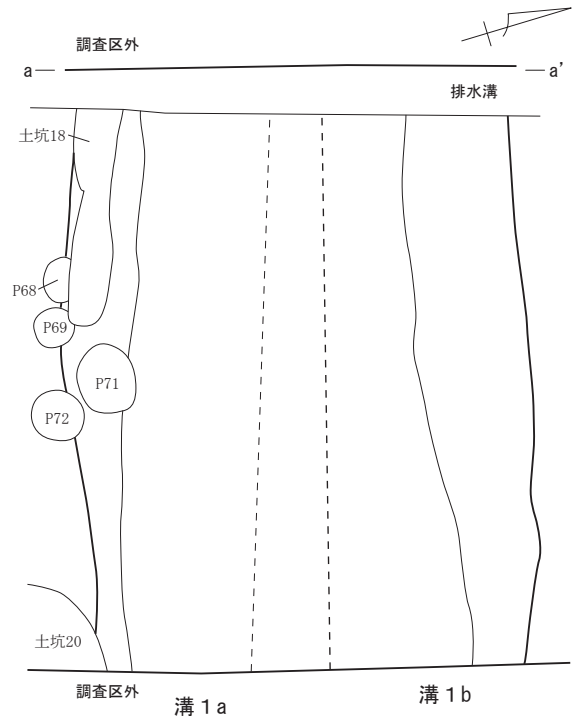


図37 B区第3面 溝状遺構 1

形は逆台形を呈すると推定される。底面の標高は東端で6.12m、西端で6.18mを測り、東側がわずかに低い。覆土は泥岩粒・泥岩ブロック・炭を含む暗褐色砂質土である。

cは完掘されていないが、東西壁の土層断面からaとほぼ同じ位置に掘り込まれていることが確認された。土層断面で確認すると幅1.06~1.22m、深さ97cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形を呈する。底面の標高は西端で5.34mを測る。覆土は泥岩粒と炭を多く含む暗褐色粘質土である。

出土遺物 (図38)

遺物はかわらけ127点、磁器5点、陶器32点、土器3点、瓦質土器4点、石製品2点、骨製品2点、金属製品7点が出土し、このうち32点を図示した。

1~20はロクロ成形によるかわらけである。8・13には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。21~30は陶器類で、21は瀬戸窯産の入子である。22~26は常滑窯産の片口鉢I類、27~29は山茶碗窯系の片口鉢、30は常滑窯産の甕を転用した摩耗陶片である。31・32は土器のとりべである。

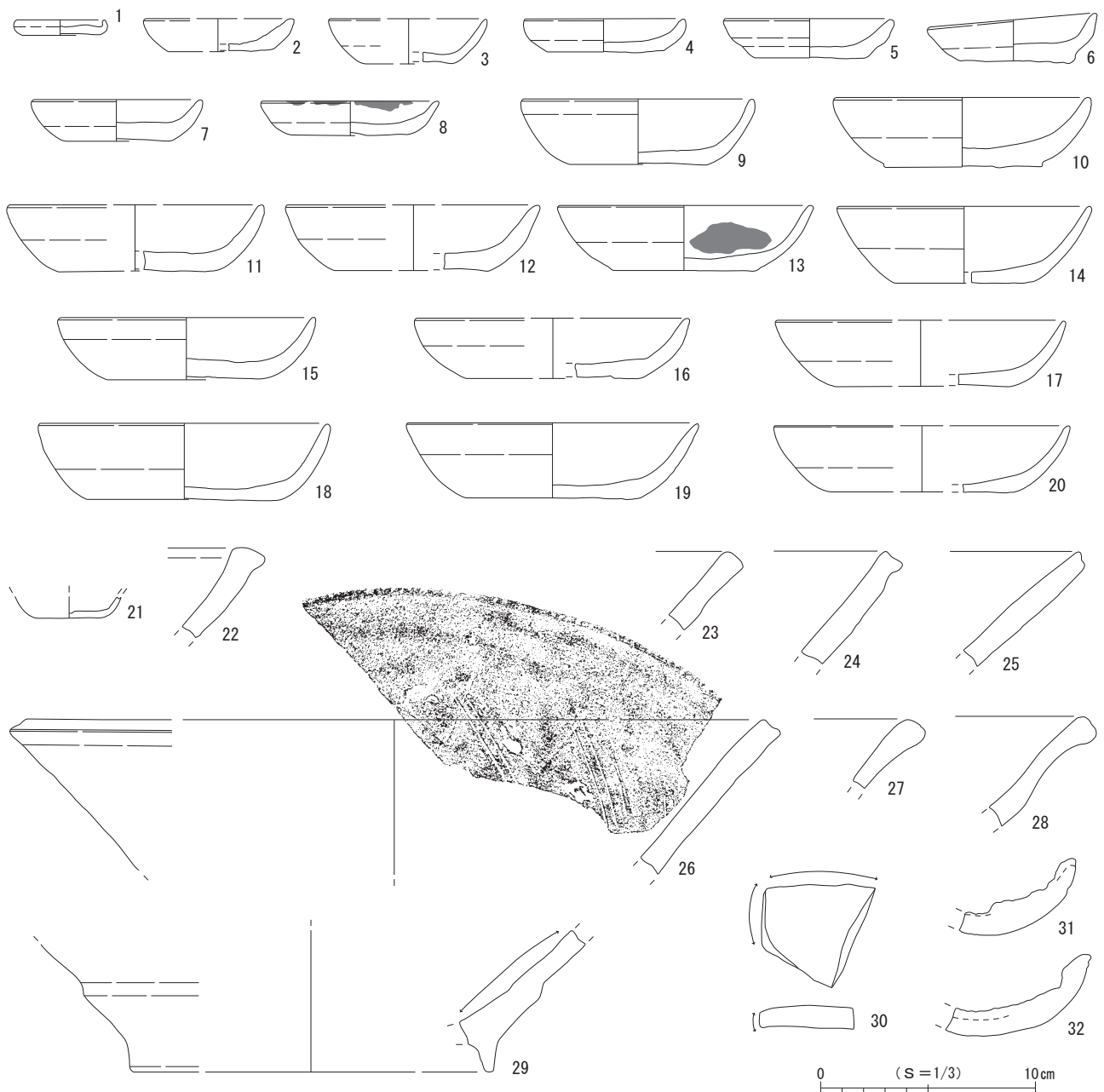


図38 B区第3面 溝状遺構1 出土遺物

(3) 土 坑

第3面では、15基を検出した。調査区中央東側から北側にやや集中する傾向があり、部分的に激しく重複するが、ほぼ全面に分布している。平面形は楕円形、方形、溝状など様々な形態が認められるが、調査区外に及んで全容が不明なものも多い。規模は長軸の現存長で最小61cm、最大1.52m、深さ9～46cmである。

土坑6 (図40)

北壁中央のやや東側に位置する。調査時に設けた排水溝によって北側が失われているため、全容は明らかでない。土坑7・8と重複しており、本址が新しい。検出した範囲からは、平面形は円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長61cm、南北現存長17cm、深さ17cmで、坑底面の標高は6.52mを測る。覆土は泥岩と炭を多く含む暗褐色砂質土である。遺物はかわらけ10点が出土した。

土坑7 (図40)

調査区北東隅に位置する。竪穴状遺構1、土坑6・8、ピット33・35と重複しており、土坑6およびピット33より古く、竪穴状遺構1・土坑8・ピット35より新しい。また、調査時に設けた排水溝によって北側が失われており、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲では、平面形はやや歪んだ半円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は東西現存長1.28m、南北現存長73cm、深さ12cmで、坑底面の標高は6.62mを測る。覆土は泥岩と炭を多く含む暗褐色砂質土である。

遺物はかわらけ7点、陶器1点が出土した。

土坑8 (図40)

調査区北壁中央に位置する。土坑6・7・10・11、ピット35・37・38と重複しており、土坑6・7およびピット37より古く、土坑10・11およびピット35・38より新しい。調査時に設けた排水溝によって北側が失われており、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は隅丸方形ないし楕円形を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.20m、短軸1.13m、深さ22cmで、坑底面の標高は6.46mを測る。主軸方位はN-15°-Eを指す。覆土は泥岩と炭を多く含む暗褐色砂質土である。

出土遺物 (図39)

遺物はかわらけ12点、陶器1点が出土し、このうち1点を図示した。

1は常滑窯産の玉縁口縁壺である。

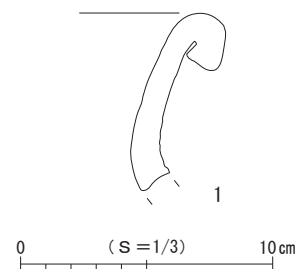


図39 B区第3面 土坑8出土遺物

土坑9 (図40)

調査区北西隅に位置する。東側が土坑11およびピット38と重複しており、本址が新しい。調査時に設けた排水溝によって北側および西側が失われており、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は楕円形を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.52m、短軸現存長53cm、深さ30cmで、坑底面の標高は6.40mを測る。南壁上端を基準にする

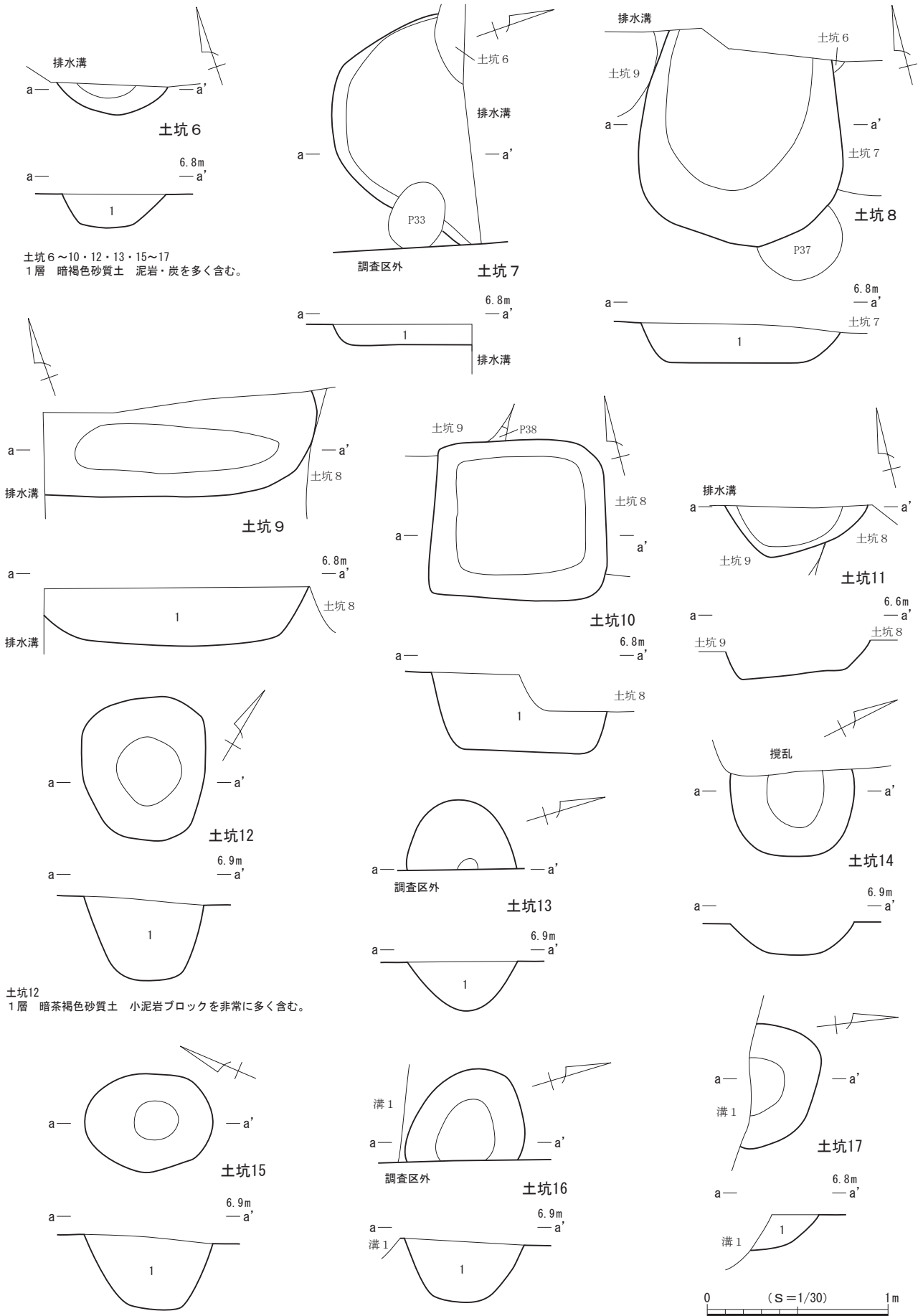


図40 B区第3面 土坑6~17

と主軸方位はN-70°-Wを指す。覆土は泥岩と炭を多く含む暗褐色砂質土である。

出土遺物(図41)

遺物はかわらけ8点、陶器1点が出土し、このうち1点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。煤が付着しており灯明具としての使用が認められる。

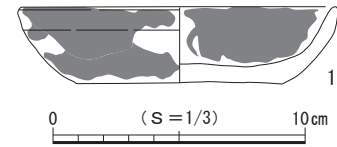


図41 B区第3面 土坑9出土遺物

土坑10(図40)

調査区北側に位置する。北側から東側が土坑8およびピット38と重複しており、本址が古い。平面形は隅丸方形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸95cm、短軸89cm、深さ44cmで、坑底面の標高は6.26mを測る。南壁を基準にすると主軸方位はN-74°-Wを指す。覆土は泥岩と炭を多く含む暗褐色砂質土である。

出土遺物(図42)

遺物はかわらけ3点、陶器1点が出土し、このうち3点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。3は山茶碗窯系の片口鉢である。

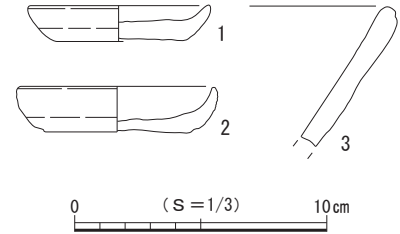


図42 B区第3面 土坑10出土遺物

土坑11(図40)

調査区北壁の中央西寄りに位置する。土坑8・9と重複しており、本址が古い。調査時に設けた排水溝によって北側が失われており、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は楕円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長79cm、南北現存長28cm、深さ22cmで、坑底面の標高は6.26mを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑12(図40)

調査区北側に位置する。ピット40~42とわずかに重複しており、新旧関係は不明である。平面形は北西-南東方向にやや長く、隅丸長方形に近い。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸79cm、短軸68cm、深さ46cmで、坑底面の標高は6.31mを測る。主軸方位はN-33°-Wを指す。覆土は小泥岩ブロックを非常に多く含む暗茶褐色砂質土である。

出土遺物(図43)

遺物はかわらけ32点、陶器3点が出土し、このうち2点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。

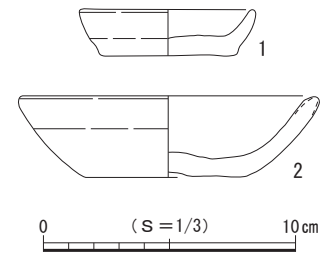


図43 B区第3面 土坑12出土遺物

土坑13(図40)

調査区東壁の中央北側に位置する。竪穴状遺構1と重複しており、本址が新しい。東側は調査区外に

及ぶため、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は楕円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は南北現存長61cm、東西現存長38cm、深さ26cmで、坑底面の標高は6.56mを測る。覆土は泥岩と炭を多く含む暗褐色砂質土である。

出土遺物 (図44)

遺物はかわらけ 8 点、陶器 1 点が出土し、このうち 1 点を図示した。

1 は山茶碗窯系の片口鉢である。

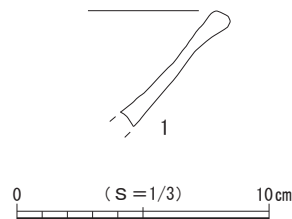


図44 B区第3面 土坑13出土遺物

土坑14 (図40)

調査区北側に位置する。東側がピット48と重複しており、本址が新しい。西側は攪乱によって失われており、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北68cm、東西現存長46cm、深さ18cmで、坑底面の標高は6.63mを測る。

遺物はかわらけ 5 点、陶器 1 点が出土した。

土坑15 (図40)

調査区中央東側に位置する。竪穴状遺構 1 およびピット63と重複しており、前者より本址が新しく、後者との新旧関係は不明である。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸70cm、短軸54cm、深さ43cmで、坑底面の標高は6.38mを測る。主軸方位はN-35°-Wを指す。覆土は泥岩と炭を多く含む暗褐色砂質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑16 (図40)

調査区東壁中央に位置する。東側が調査区外に及ぶため、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は楕円形を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長70cm、短軸現存長59cm、深さ36cmで、坑底面の標高は6.48mを測る。覆土は泥岩と炭を多く含む暗褐色砂質土である。

出土遺物 (図45)

遺物はかわらけ16点、磁器 1 点、陶器 7 点、瓦質土器 1 点が出土し、このうち 3 点を図示した。

1 はロクロ成形によるかわらけである。2 は常滑窯産の広口壺大である。3 は常滑窯産の製品を利用した摩耗陶片である。

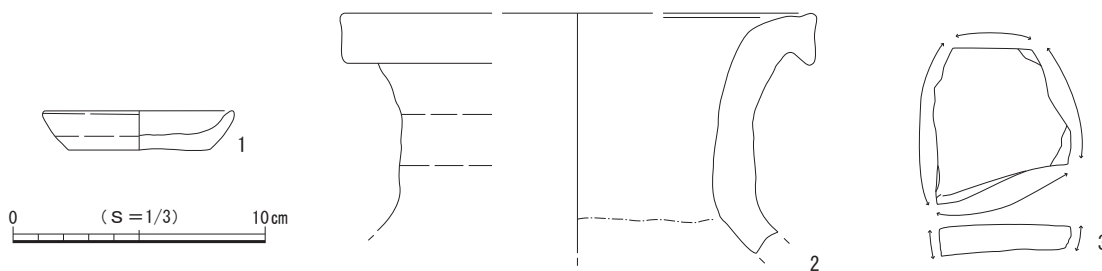


図45 B区第3面 土坑16出土遺物

土坑17 (図40)

調査区中央に位置する。南側が溝状遺構1と重複しており、本址が古い。西側に重複するピット66との新旧関係は不明である。検出した範囲からは、平面形は円形を基調とするものと推定される。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は東西70cm、南北現存長39cm、深さ19cmで、坑底面の標高は6.48mを測る。覆土は泥岩と炭を多く含む暗褐色砂質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑18 (図46)

調査区南側に位置する。溝状遺構1と重複しており本址が新しく、東側に重複するピット68・69との新旧関係は不明である。調査時に設けた排水溝によって西側が失われており、遺構の全容は明らかでない。平面形は楕円形の土坑が2基連結した溝状を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸現存長1.43m、短軸30cm、深さ9cmで、坑底面の標高は6.72mを測る。主軸方位はN-70°-Wを指す。覆土は泥岩と炭を多く含む暗褐色砂質土である。

遺物はかわらけ9点が出土した。

土坑19 (図46)

調査区南西隅に位置する。平面形は小ピットと溝状の部分が連結した不整形な形状を呈する。溝状の土坑とピットが重複した可能性があるが、調査時に一連の遺構とした。壁は開いて立ち上がり、断面形はピット状の部分は逆台形、溝状の部分は皿状を呈する。規模は長軸68cm、短軸20cm、深さ4~22cmで、坑底面の標高は6.63~6.80mを測る。主軸方位はN-74°-Wを指す。覆土は泥岩と炭を多く含む暗褐色砂質土である。

遺物はかわらけ7点、陶器1点が出土した。

土坑20 (図46)

調査区南東隅に位置する。北側が溝状遺構1、西側がピット74と重複しており、本址が新しい。東側および南側が調査区外に及ぶため、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は丸みを帯びており円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長79cm、東西現存長56cm、深さ12cmで、坑底面の標高は6.70mを測る。覆土は泥岩と炭を多く含む暗褐色砂質土である。

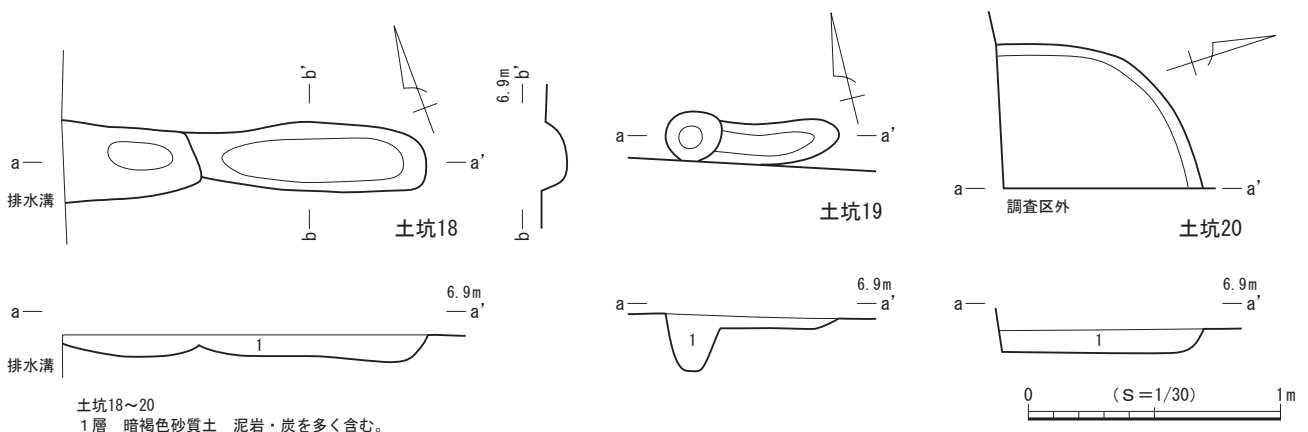


図46 B区第3面 土坑18~20

出土遺物 (図47)

遺物はかわらけ3点が出土し、このうち1点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。

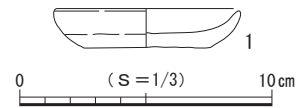


図47 B区第3面 土坑20出土遺物

(4) ピット (図36)

第3面では、42基を検出した。調査区全面に分布し、遺構密度は高いといえる。他の遺構と重複するものや、一部が遺構外へ及ぶものも多い。建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。ピットの平面形は略円形ないし楕円形を主体とする。規模は長軸現存長・径24~58cm、深さ6~40cmを測る。礎板や礎石を伴うピットは確認されなかった。覆土は主に泥岩と炭を多く含む暗褐色砂質土で構成されている。

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表12)を参照されたいが、このうち9点を図示した。

出土遺物 (図48)

1・2はピット38から出土した。1はロクロ成形によるかわらけ、2は山茶碗窯系の片口鉢である。3はピット39から出土した龍泉窯系青磁坏Ⅲ-3a類である。4はピット42、5はピット43から出土したロクロ成形によるかわらけである。6はピット51から出土した常滑窯産の壺、7はピット67から出土したロクロ成形によるかわらけ、8はピット71から出土した渥美窯産の甕、9はピット74から出土した常滑窯産の甕である。

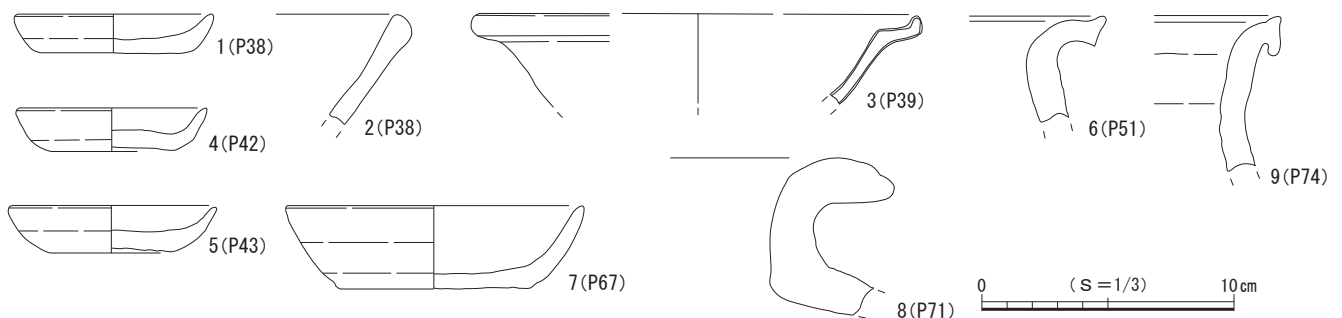


図48 B区第3面 ピット出土遺物

(5) 遺構外出土遺物 (図49・50)

第3面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち42点を図示した。

1は白かわらけである。2~21はロクロ成形によるかわらけである。21の内面には漆が付着しており、パレットとしての使用が考えられる。22は青白磁合子の身、23は龍泉窯系青磁碗Ⅱ類である。24~36は陶器で、24は中国製の緑釉盤である。25~30は常滑窯産の製品で、25~29が甕、30が片口鉢Ⅰ類である。31~35は山茶碗窯系の片口鉢、36は山茶碗である。37・38は石製品で、37は用途不明、38は砥石である。39~42は銭貨である。39は乾元重寶(唐・758)、40は元豊通寶(北宋・1078)、41は元祐通寶(北宋・1086)、42は大観通寶(北宋・1107)である。

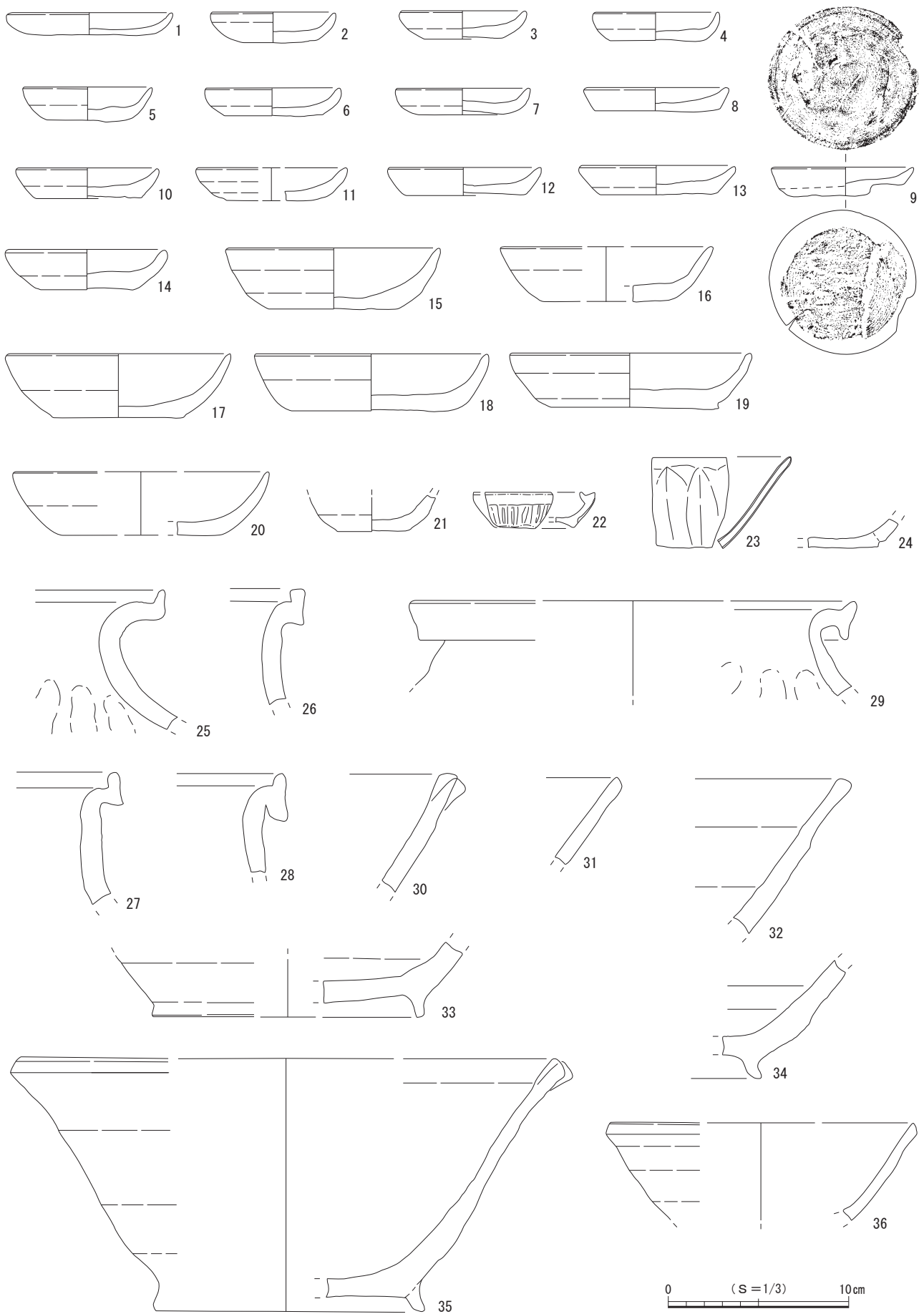


图49 B区第3面 遺構外出土遺物(1)

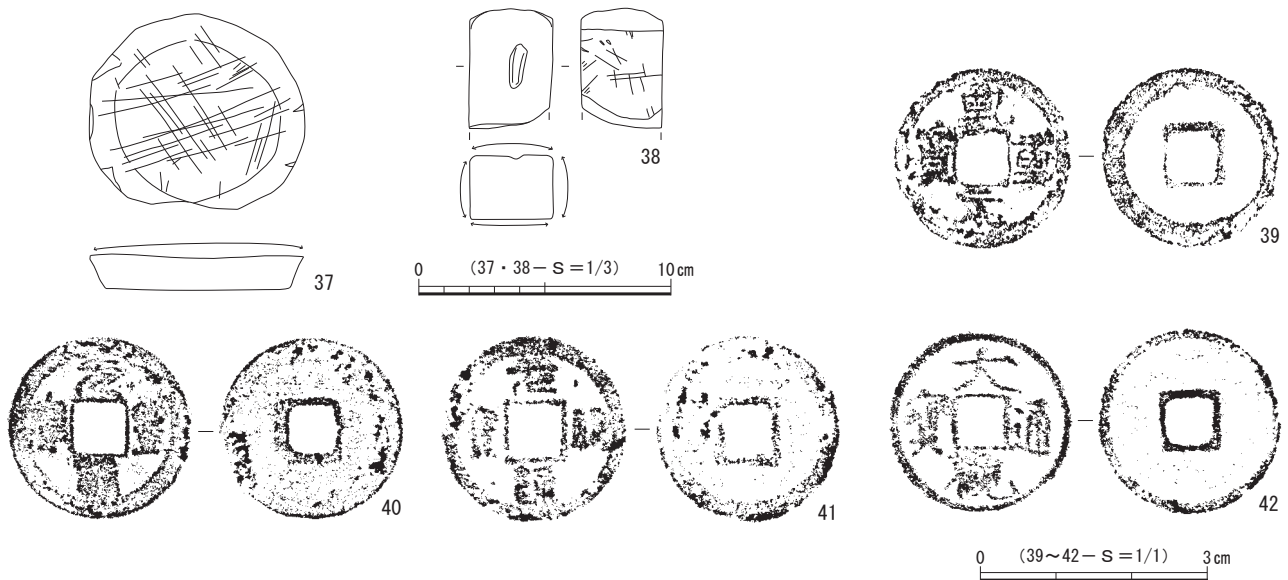


図50 B区第3面 遺構外出土遺物(2)

第4節 第4面の遺構と遺物

第4面の遺構は堆積土層の16・17層上面で検出され、標高は約6.4～6.6mを測る。16層は茶褐色砂、17層は暗褐色砂で、層上面は北東側に向かってやや下がっており、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は、土坑12基、ピット22基で、これらの遺構は調査区の全面に分布している(図51)。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前～中葉頃に属すると考えられる。

(1) 土 坑

第4面では、12基を検出した。調査区のほぼ全面に分布し、重複するものや調査区外に及ぶものも多い。平面形は楕円形および隅丸長方形などがあり、大形のものもある。規模は長軸現存長で最小56cm、最大1.85m、深さ10～25cmである。

土坑21(図52)

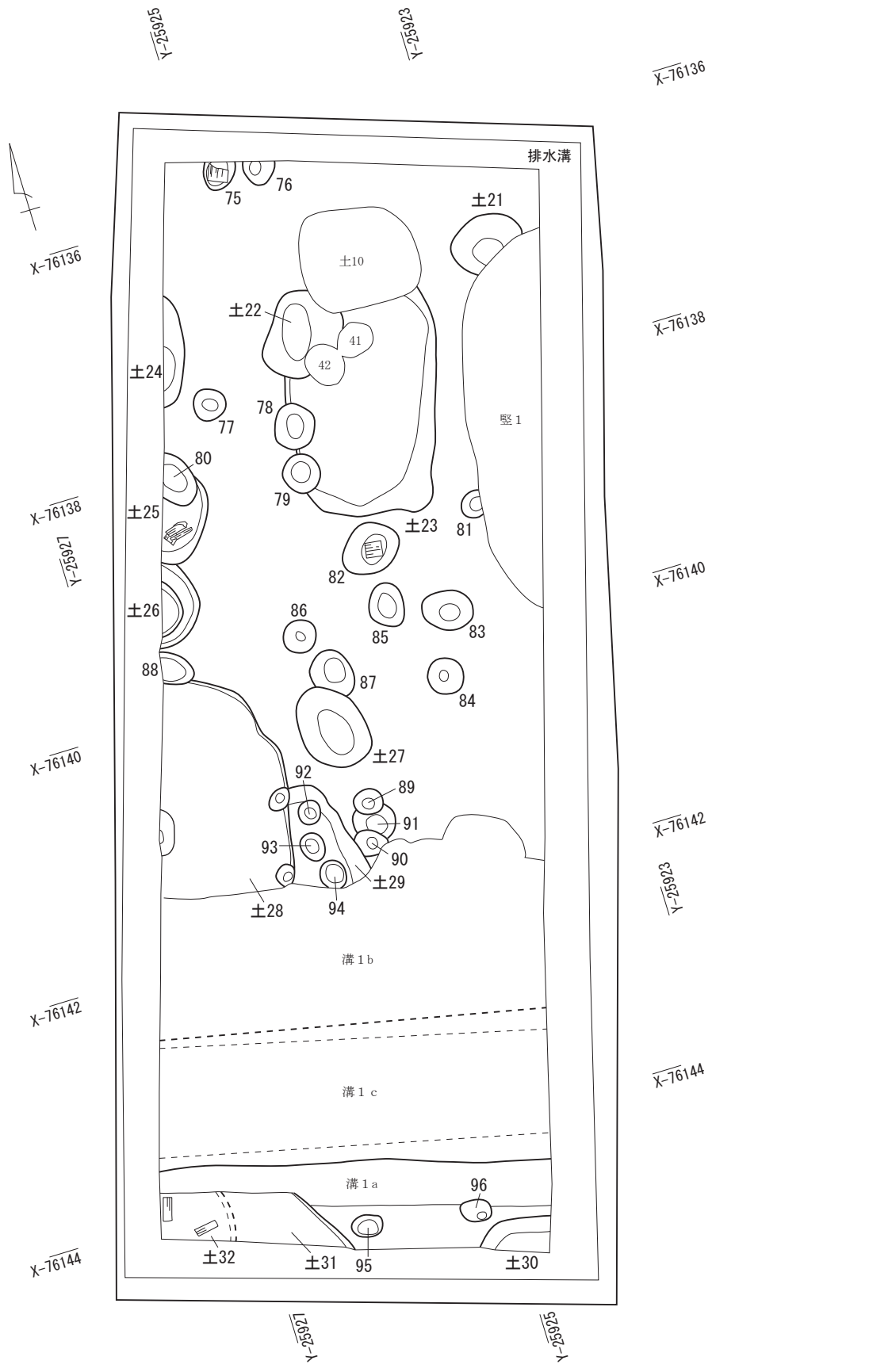
調査区北東隅に位置する。南側が第3面の竪穴状遺構1と重複しており、一部が壊されている。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸61cm、短軸現存長35cm、深さ14cmで、坑底面の標高は6.22mを測る。主軸方位はN-62°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑22(図52)

調査区北側に位置する。第3面の土坑10およびピット41・42に東側を壊されている。また、土坑23と重複しており、本址が新しい。平面形は上端は不整楕円形、下端は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長73cm、短軸現存長56cm、深さ19cmで、坑底面の標高は6.31mを測る。主軸方位は下端の長軸方向を基準にすると、N-11°-Eを指す。

遺物はかわらけ12点が出土した。



土：土坑 番号のみ：ピット

図51 B区第4面 遺構分布図

土坑23 (図52)

調査区北側に位置する。第3面の土坑10およびピット41・42、第4面の土坑22およびピット78・79と重複しており、いずれよりも本址が古く、部分的に壊されている。平面形は不整隅丸長方形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸が1.85mほどと推定され、短軸1.26m、深さ15cmで、坑底面の標高は6.34mを測る。主軸方位はN-16°-Eを指す。

遺物はかわらけ24点、陶器3点が出土した。

土坑24 (図52)

調査区西壁北側に位置する。調査時に設けた排水溝によって西側の一部が失われており、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は楕円形を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は不整逆台形を呈する。規模は南北現存長90cm、東西現存長17cm、深さ25cmで、坑底面の標高は6.30mを測る。東壁を基準にすると主軸方位はN-15°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑25 (図52)

調査区西壁北側に位置する。調査時に設けた排水溝によって西側の一部が失われており、遺構の全容は明らかでない。北側がピット80と重複しており本址が古く、南側が土坑26とわずかに重複しており新旧関係は不明である。検出した範囲からは、平面形は楕円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長75cm、東西現存長40cm、深さ12cmで、坑底面の標高は6.40mを測る。礎板が出土しており、柱穴が重複していた可能性が考えられる。

遺物は出土しなかった。

土坑26 (図52)

調査区西壁中央に位置する。調査時に設けた排水溝によって西側の一部が失われており、遺構の全容は明らかでない。北側が土坑25とわずかに重複しており、新旧関係は不明である。検出した範囲からは、平面形は円形を基調とするものと推定される。底面に段を有し、壁はやや開いて立ち上がり、断面形は階段状を呈する。規模は南北現存長69cm、東西現存長31cm、深さ10~19cmで、坑底面の標高は6.36mを測る。

遺物はかわらけ24点、石製品1点が出土した。

土坑27 (図52)

調査区中央に位置する。北側がピット87と重複しており、新旧関係は不明である。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸72cm、短軸54cm、深さ20cmで、坑底面の標高は6.41mを測る。主軸方位はN-19°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑28 (図52)

調査区西壁中央に位置する。調査時に設けた排水溝および第2面の溝状遺構1と重複して一部が失われており、遺構の全容は明らかでない。また土坑29およびピット88と重複しており、新旧関係は不明である。検出した範囲からは、平面形は楕円形ないし隅丸長方形を基調とするものと推定される。壁は開

いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長1.80m、東西現存長1.10m、深さ12cmで、坑底面の標高は6.43mを測る。東壁を基準にすると主軸方位はN-10°-Eを指す。東壁際に2基、西側に1基の小ピットを伴っており、規模は東壁際のピットは径18・21cm、深さ6・8cm、西側のピットは南北現存長38cm、深さ6cmを測る。

遺物はかわらけ6点、陶器3点、瓦質土器1点が出土した。

土坑29 (図52)

調査区中央に位置する。南側が第2面の溝状遺構1によって失われている。土坑28およびピット90・92~94と重複しており、新旧関係は不明である。直線的な東壁と緩やかな隅丸部分が検出されたのみで、平面形は不明である。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長92cm、東西現存長62cm、深さ10cmで、坑底面の標高は6.52mを測る。東壁を基準にすると主軸方位はN-10°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑30 (図52)

調査区南東隅に位置する。東側と南側が調査時に設けた排水溝によって失われている。緩やかな隅丸部分が検出されたのみで、平面形は不明である。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長56cm、南北現存長30cm、深さ22cmで、坑底面の標高は6.44mを測る。

遺物はかわらけ12点が出土した。

土坑31 (図52)

調査区南西隅に位置する。北側が第2面の溝状遺構1、南側が調査時に設けた排水溝によって失われている。また、西側が土坑32と重複しており、本址が新しい。直線的な壁が検出されているが、平面形は不明である。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は東西現存長1.20m、南北現存長43cm、深さ11cmで、坑底面の標高は6.52mを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑32 (図52)

調査区南西隅に位置する。北側が第2面の溝状遺構1、西側および南側が調査時に設けた排水溝によって失われている。土坑31と重複しており、本址が古い。丸みを帯びた壁が検出されているが、平面形は不明である。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長62cm、南北現存長40cm、深さ14cmで、坑底面の標高は6.36mを測る。木片が2点出土している。

遺物はかわらけ4点、陶器2点が出土した。

(2) ピット (図51)

第4面では、22基を検出した。調査区全面に分布しており遺構密度は比較的高く、他の遺構と重複するものや、一部が遺構外へ及ぶものも多い。礎板を伴うピットが含まれるが、建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。ピットの平面形は略円形ないし楕円形を主体とし、規模は長軸現存長・径19~51cm、深さ4~30cmを測る。以下、礎板が据えられたピットのうちピット75とピット82を図示し、説明する。

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。
詳細は出土遺物一覧表(表12)を参照されたい。

ピット75(図53)

調査区北西隅に位置する。調査時に設けた排水溝によって北側の一部が失われている。平面形は楕円形と推定され、断面形はU字状を呈する。規模は長軸30cmほどと考えられ、深さ12cmを測る。礎板はピット中央の底面直上から出土しており、大きさは長さ18cm、幅12cm、厚さ2cmを測り、礎板上面の標高は6.26mである。

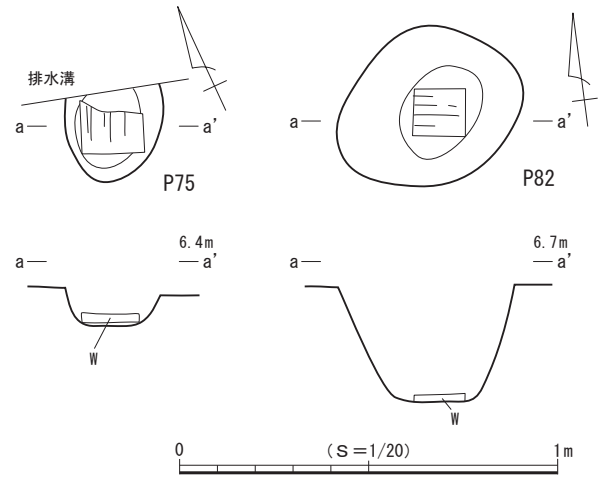


図53 B区第4面 ピット75・82

ピット82(図53)

調査区中央に位置する。平面形は不整楕円形、断面形はU字状を呈し、規模は長軸51cm、短軸41cm、深さ30cmを測る。礎板はピット中央の底面直上から出土しており、大きさは長さ13cm、幅13cm、厚さ2cmを測り、礎板上面の標高は6.35mである。

(3) 遺構外出土遺物(図54)

第4面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち16点を図示した。

1～6はロクロ成形によるかわらけである。4には煤が付着しており、灯明具としての使用が認めら

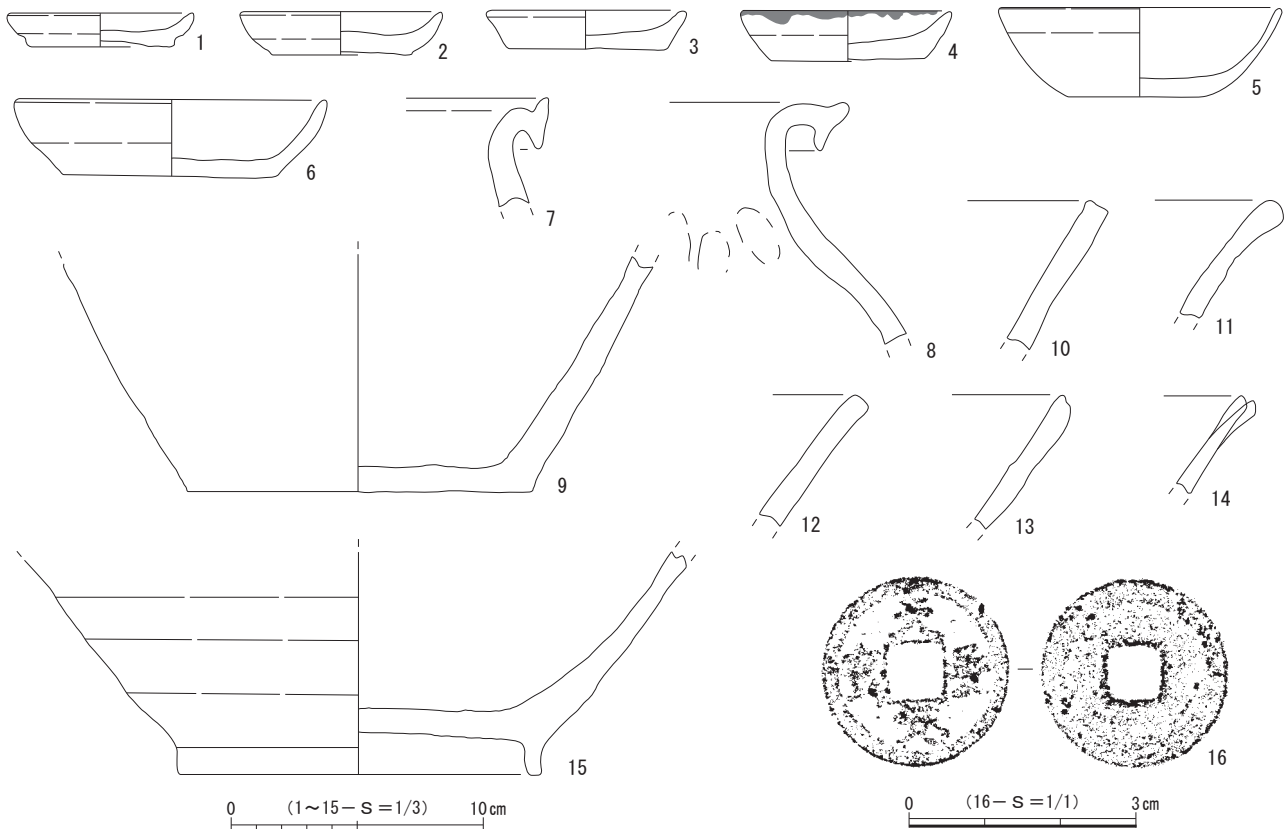


図54 B区第4面 遺構外出土遺物

れる。7～15は陶器で、7～10が常滑窯産の製品で、7～9が甕、10が片口鉢Ⅱ類である。11～15は山茶碗窯系の片口鉢である。16は銭貨で、天聖元寶(北宋・1023)である。

第5節 第5面の遺構と遺物

第5面の遺構は堆積土層の18層上面で検出され、確認面の標高は約6.3～6.5mを測る。18層は砂質の強い暗褐色粘質土で、ほぼ水平に堆積しており、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は、土坑1基、ピット5基で、散漫な分布状況を示し遺構密度は低い(図57)。

遺物は主にかわらけ、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前～中葉頃に属すると考えられる。

(1) 土坑

第5面では、1基を検出した。他の面と比較して、遺構密度は低い。

土坑33(図55)

調査区中央に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は長軸91cm、短軸71cm、深さ14cmで、坑底面の標高は6.26mを測る。主軸方位はほぼ南北を指す。

遺物はかわらけ4点が出土した。

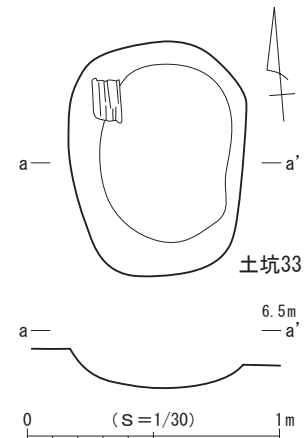


図55 B区第5面 土坑33

(2) ピット(図56)

第5面では、5基を検出した。分布は散漫で遺構密度は低い。礎板を伴うピットが含まれるが、建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。ピットの平面形は略円形ないし楕円形で、規模は長軸23～35cm、深さ9～30cmを測る。以下、礎板が据えられたピット99とピット100を図示し、説明する。

ピット99(図56)

調査区中央に位置する。平面形は略円形、断面形は逆台形を呈し、規模は径35cm、深さ9cmを測る。礎板はピット南壁寄りの底面からわずかに浮いた位置から出土しており、礎板の大きさは長さ13cm、幅6cm、厚さ1cmを測る。礎板上面の標高は6.42mである。

ピット100(図56)

調査区中央に位置する。平面形は略円形、断面形は逆台形を呈し、規模は径32cm、深さ30cmを測る。礎板はピット中央の底面直上から出土しており、礎板の大きさは長さ14cm、幅9cm、厚さ9cmを測る。礎板上面の標高は6.28mである。

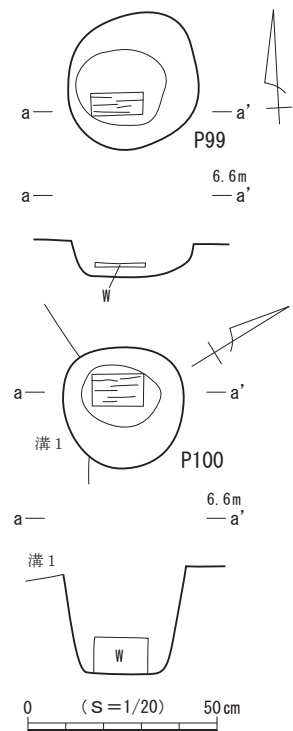


図56 B区第5面 ピット99・100

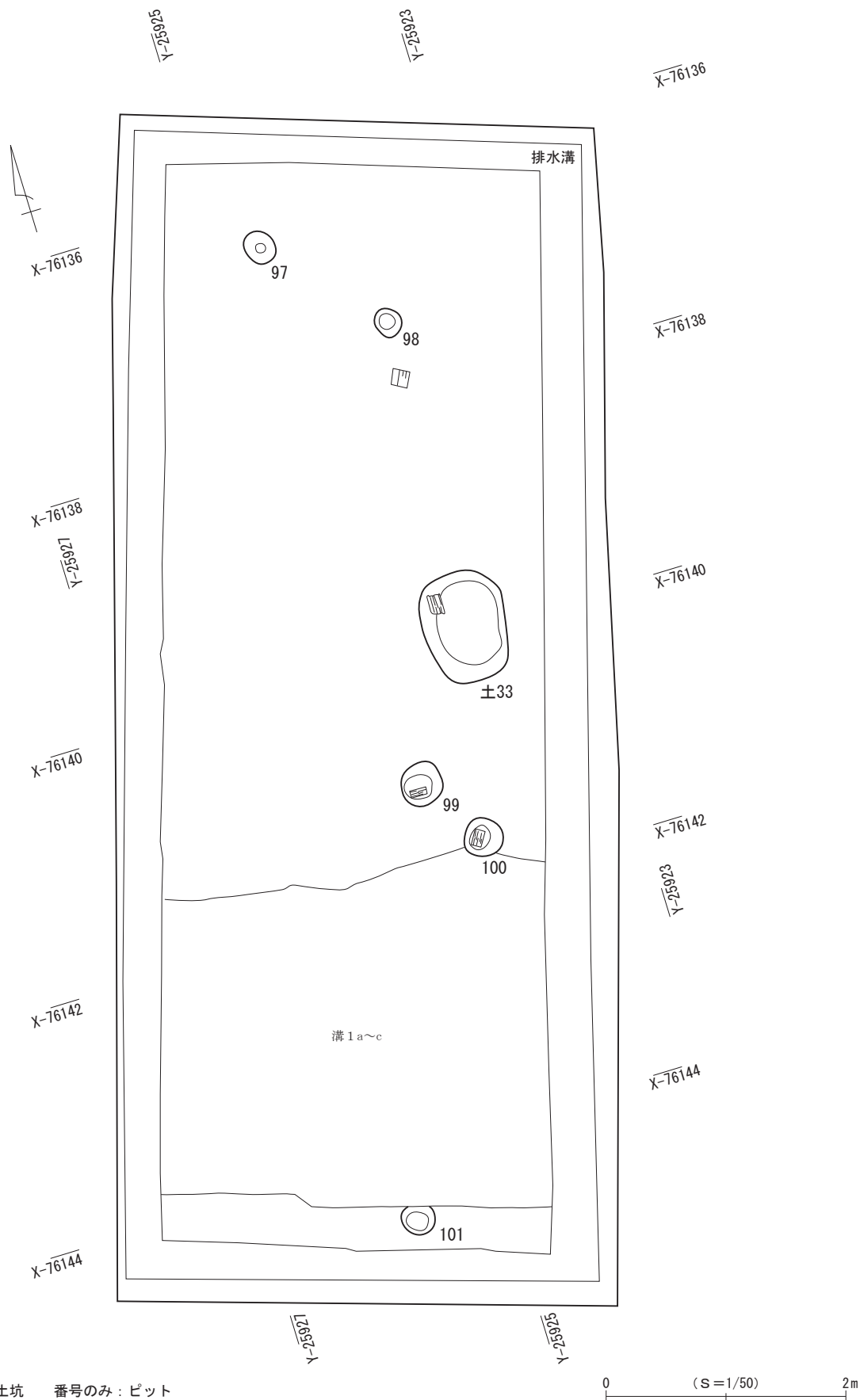


図57 B区第5面 遺構分布図

ピット出土遺物 (図58)

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表12)を参照されたいが、このうち1点を図示した。

1はピット98から出土したロクロ成形によるかわらけである。

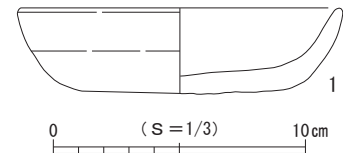


図58 B区第5面 ピット98出土遺物

(3) 遺構外出土遺物 (図59)

第5面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち4点を図示した。

1～4はロクロ成形によるかわらけである。



図59 B区第5面 遺構外出土遺物

第6節 第6面の遺構と遺物

第6面の遺構は堆積土層の19層ないし20層上面で検出され、確認面の標高は約6.1～6.2mを測る。19層はきめの細かい暗褐色粘質土、20層は茶褐色砂を含む黒褐色粘質土で、これらの層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は、溝状遺構1条のみで、遺構密度は希薄である(図61)。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は12世紀末～13世紀前葉頃に属すると考えられる。

(1) 溝状遺構

第6面では、1条を検出した。北側が調査区外に及ぶため、遺構の全容は把握できていない。

溝状遺構2 (図60)

調査区北西側に位置する。南北に延びており、北端は調査時に設けた排水溝によって失われ、南端は幅を減じて途切れている。規模は現存長2.99m、幅0.49～1.08m、深さ20cmを測り、主軸方位はN-4°-Eを指す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面の標高は北端で5.95m、中央で5.98m、南端で6.09mを測り、南から北へやや傾斜している。

遺物にかわらけ3点が出土した。

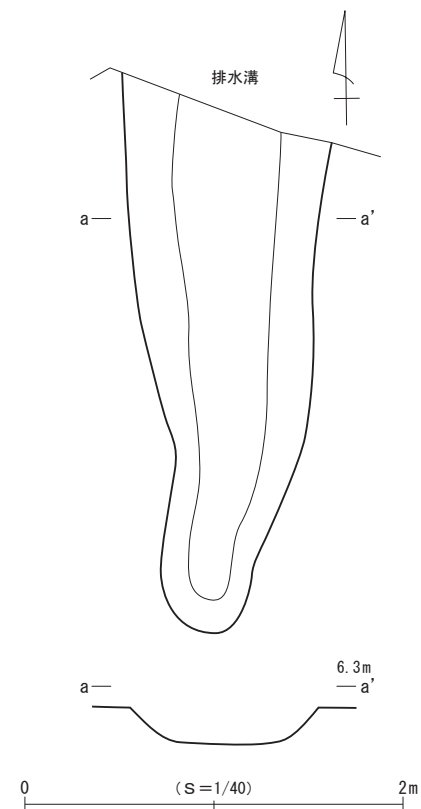


図60 B区第6面 溝状遺構2

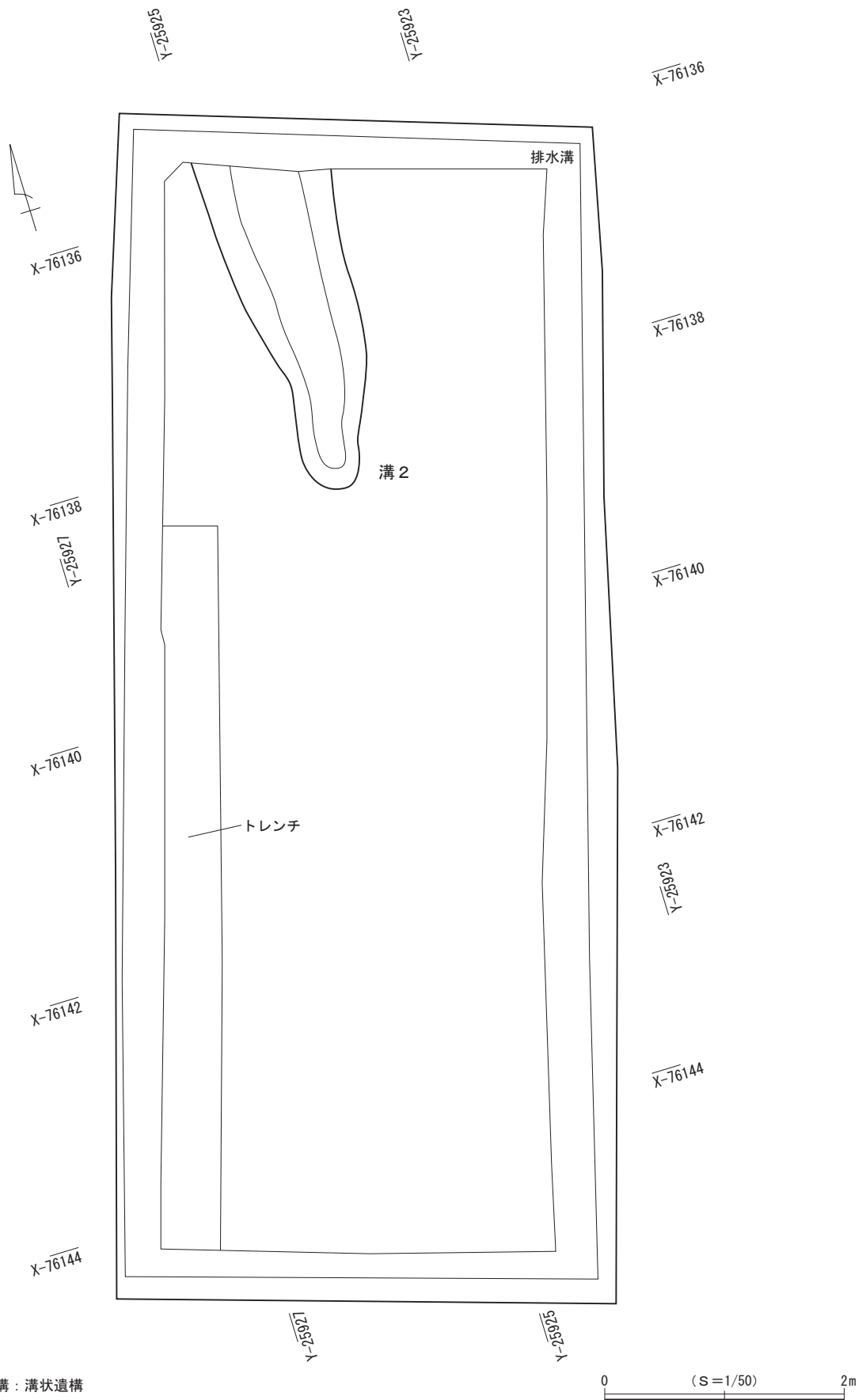


図61 B区第6面 遺構分布図

(2) 遺構外出土遺物 (図62)

第6面では、遺構以外からも多くの遺物が出土した。また、第6面ではさらに下層の状況を探るためにトレンチを設定し、調査を行った。その結果、堆積土層20層から古代の遺物が出土した。このうち23点を図示した。

1は白かわらけである。2～14はロクロ成形によるかわらけである。15～18は手づくね成形によるかわらけである。19は龍泉窯系青磁の小椀I-2類、20は常滑窯産の甕である。21は滑石製石鍋、22は砥石である。23は須恵器高坏の脚部であり、その形態から古墳時代後期～奈良時代のものと推定される。

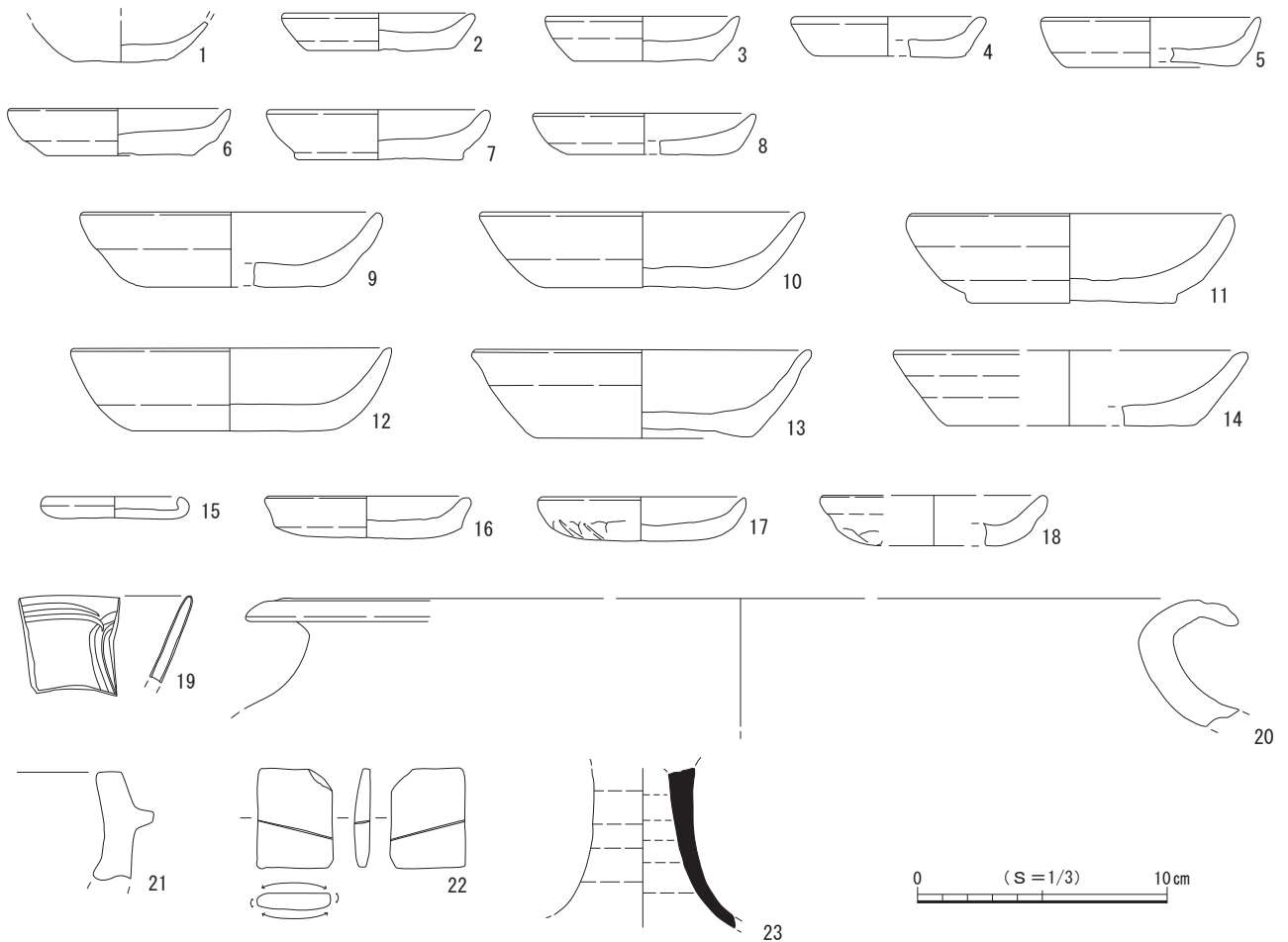


図62 B区第6面 遺構外出土遺物

第五章 今小路西遺跡出土の動物遺体

東京国立博物館客員研究員

金子 浩昌

付表1 検出された動物遺体の種名表

脊椎動物門	
軟骨魚綱	ネコ目
ネズミザメ目	イヌ科
メジロザメ科	イヌ
メジロザメ	ネコ科
サメ類	ネコ
硬骨魚綱	ウマ目
スズキ目	ウマ科
タイ科	ウマ
カンダイ	ウシ目
マダイ	シカ科
鳥綱	ニホンジカ
キジ目	ウシ科
キジ科	ウシ
キジ	ウサギ目
哺乳綱	ウサギ科
クジラ目	ノウサギ
イルカ科	
イルカ類	

魚・鳥・獣骨が出土している。魚類はサメ類で数が少なく、他の地区の人々と分けられたものの一部であったようである。タイ類、カンダイなど魚類が思ったほど多くなかった。元々漁村ではなかったからであろう。キジ、シカも分配されたのであろう。イヌは猟に使われたかも知れない。ネコは身近で飼われていたのであろう。ネズミ類も家屋の中にいたのでやっかい者だったであろう。ウシ・ウマは人々の仕事を支える上で重要であった。

人骨は成人男性の遺体で脛骨であるが、その中央前面に横位に鋭い切痕があった。戦いの際の傷であろうか。その部分が治癒した跡はみられない。

付表2 A区出土動物遺体一覧

出土遺構	帰属面	種別	部位	左右	計測値(mm)	写真番号	備考
竪穴状遺構1	第1面	イス	軸椎				
土坑5	第2面	ノウサギ	寛骨	左		3	解体痕あり。
土坑5	第2面	獣骨片					2片
土坑7	第2面	ニホンジカ	肋骨片	左			
土坑8	第2面	ニホンジカ	大腿骨片				3片、一部に被熱、破損。
土坑8	第2面	ウシ	基節骨	右	最体長：56.77	4	
土坑8	第2面	ウシ・ウマ	破片				
土坑9	第2面	カンダイ	下咽頭骨		幅：31.0 ±	1	
土坑9	第2面	イス	中足骨	左			
土坑11	第2面	マダイ	歯骨片	左	長：33.14	2	
土坑17	第3面	イス	頸椎骨				

付表3 B区出土動物遺体一覧

出土遺構	帰属面	種別	部位	左右	計測値(mm)	写真番号	備考
ビット7	第1面	イルカ類	腰椎片				
ビット30	第2面	人骨	大腿骨				成人
ビット32	第2面	サメ類	椎体片				
溝状遺構1	第3面	メジロザメ	椎骨		内径：5.25 外径：23.89		加工品
溝状遺構1	第3面	キジ	上腕骨	右	近位端：19.03	1	
溝状遺構1	第3面	キジ	脛骨遠位片	右		2	
溝状遺構1	第3面	イルカ類	胸椎体				焦げあり。
溝状遺構1	第3面	ドブネズミ	寛骨	右			破片
溝状遺構1	第3面	ドブネズミ	寛骨	左			破片
溝状遺構1	第3面	イス	上腕骨	左		3	若い個体で近位端は脱れている。
溝状遺構1	第3面	イス	上腕骨	左	近位端幅：61.64	4	近位部
溝状遺構1	第3面	イス	環椎				1/2残存。
溝状遺構1	第3面	ネコ	下顎骨	右			
溝状遺構1	第3面	ウシ	橈骨	左		7	橈骨近位端を輪切りしたもの。著しく破損している。
溝状遺構1	第3面	ウマ	脛骨	右	長さ：63.63	6	若
溝状遺構1	第3面	ウマ	下顎臼歯M ₃	右	高さ：67.0 ±		若
溝状遺構1	第3面	ウマ	中節骨		全長：43.70		
溝状遺構1	第3面	ウマ	下顎肢片	左			
溝状遺構1	第3面	ウマ	下顎臼歯M ₂	右	高さ：71.00		
溝状遺構1	第3面	ウマ	下顎骨片				1点
溝状遺構1	第3面	ニホンジカ	肋骨片				
溝状遺構1	第3面	ニホンジカ	大腿骨片				
溝状遺構1	第3面	ニホンジカ					鹿角枝の先端の切断品。他に骨片1点あり。
溝状遺構1	第3面	獣骨片					
溝状遺構1	第3面	獣骨片					
溝状遺構1	第3面	骨片					
土坑20	第3面	ウマ	上顎切歯 I ¹⁻³	右		5	
土坑20	第3面	ウマ	上顎切歯 I ¹	左		5	
土坑20	第3面	ウマ	骨片				3片
ビット65	第3面	人骨	脛骨	右		8	切痕
土坑23	第4面	ニホンジカ	肋骨片				



写真1 A区出土動物遺体

附表4 A区出土動物遺体写真図版対応表(写真1)

番号	出土遺構	種別	部位	左右
1	土坑9	カンダイ	下咽頭骨	
2	土坑11	マダイ	歯骨片	左
3	土坑5	ノウサギ	寛骨	左
4	土坑8	ウシ	基節骨	右



写真2 B区出土動物遺体

附表5 B区出土動物遺体写真図版対応表(写真2)

番号	出土遺構	種別	部位	左右
1	溝状遺構1	キジ	上腕骨	右
2	溝状遺構1	キジ	脛骨遠位片	右
3	溝状遺構1	イヌ	上腕骨	左
4	溝状遺構1	イヌ	上腕骨	左
5	土坑20	ウマ	上顎切歯 I ¹⁻³	右
			上顎切歯 I ¹	左
6	溝状遺構1	ウマ	脛骨	右
7	溝状遺構1	ウシ	橈骨	左
8	ビット65	人骨	脛骨	右

第六章 まとめ

今回報告する由比ガ浜一丁目147番1の一部地点は、南北に長い今小路西遺跡の南西側に所在する。南北に走る今小路からは西へ約160mに位置し、東西に走る大町大路については、現行の県道鎌倉葉山線311号とする説と、本地点の約70m北を東西に走る現行道路とする説などがあり、大町大路を仮に前者とすれば南へ約70m、後者とすれば北へ約270mの位置となる。広大な面積を有する今小路西遺跡ではこれまでに多くの調査が行われているが、図2に示した範囲内においては、本地点を含めて20地点で調査が行われている。特に御成小学校内第3次・第5次調査では、発見された遺構群から鎌倉時代後～末期に属するとみられる武家屋敷、庶民層の居住する町屋地域、倉庫地域、被官屋敷、商人・職人の居住地域が想定され、さらにそれらが塀や道路などで明瞭に区画された土地利用のあり方が捉えられ、大きな成果が上がっている(河野・宮田ほか1990、河野1993)。

本地点は調査区をA・B区の2カ所に設け、並行して調査を行った。両調査区間は約8.5m離れており、発見された遺構と遺物の内容や面の年代観などはそれぞれに異なる。また、本書収録の別地点(今小路西遺跡由比ガ浜一丁目147番2外地点)は本地点から約6m北東側に位置し隣接地といえる距離にあるが、やはり調査で明らかになった面の年代観などは詳細にみていくと異なる部分もある。しかし、竪穴状遺構や溝状遺構、土坑などの遺構が共通して発見されている。

本地点周辺の調査事例に目を向けると、北西約50mに位置する由比ガ浜一丁目157番7外地点では東西道路の南側側溝と思われる溝状遺構や建物、土坑などが検出されており、出土遺物の様相と合わせて「町人の住む狭い居住空間、あるいは工房空間である可能性」が考えられると指摘されている(馬淵・沖元ほか2012)。また、北東約30mに位置する由比ガ浜一丁目148番5地点では、「本道からの路地的役割を持った通路」とされた南北道路遺構や方形竪穴建築址、井戸、土坑などが検出されている(滝澤・宮田2004)。北東60mに位置する由比ガ浜一丁目141番5地点では、鎌倉地域において初の事例とみられる未焼成のかわらけが出土しており、「付近に焼成施設を伴う製作工房が存在するものと想定することができる」と指摘されている(香川ほか2007)。今回の調査で発見された遺構群はこれらと類似した様相を呈しており、調査区面積の制約などもあり一概にはいえないものの、これまでに明らかにされてきた周辺区域での土地利用のあり方と矛盾するものではない。

最後に本地点の調査成果の概要を記すと、A区での遺構確認面は3面で、最終面の調査終了後にトレンチを設けて深掘り調査を行い、それ以下の土層堆積状況を確認した。検出した遺構は、竪穴状遺構1基、土坑19基、ピット17基である。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土しており、出土量は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して8箱を数える。

B区での遺構確認面は6面に及び、A区同様に最終面の調査終了後にトレンチを設けて深掘り調査を行った。検出した遺構は、竪穴状遺構1基、溝状遺構2条、地業1カ所、土坑33基、ピット101基である。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土しており、遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して17箱を数える。

以下、面ごとに検出した遺構と出土遺物について整理し、簡単なまとめとしたい。

A区

〈第1面〉

第1面の遺構は堆積土層の4層上面で検出された。確認面の標高は約7.1～7.2mを測る。4層は泥岩粒・小泥岩ブロックをやや多く含みよく締まる暗褐色砂質土である。現代の攪乱が多く、影響を受けている遺構がある。検出した遺構は堅穴状遺構1基、土坑3基、ピット7基で遺構数は少ない。また、調査区が狭小であることから、全容が把握できた遺構はわずかである。このうち堅穴状遺構1のみ、第1面の遺構確認面より1層上の土層に掘り込まれていることを確認した。便宜上第1面の遺構として取り扱ったが、掘り込み面が異なることから若干の時期差が考えられる。堅穴状遺構は方形ないし長方形を呈するものと推定され、覆土は泥岩が充填されており、廃絶後に泥岩を用いて整地された可能性がある。また、後述する第2面の遺構と主軸方位が一致しており、基本的な土地利用のあり方は前段階から引き継いでいるものと思われる。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土しており、これらの年代観から第1面は13世紀後葉～15世紀代と考えられる。

〈第2面〉

第2面の遺構は堆積土層の6層ないし7層上面で検出された。確認面の標高は約6.7～6.8mを測る。6層は泥岩粒・小泥岩ブロックをやや多く、炭を少量含む暗褐色砂質土、7層は小泥岩ブロック・炭を多く含む暗褐色砂質土である。検出した遺構は土坑8基、ピット8基で、各遺構は重複し合うものが多く遺構密度は高いといえる。土坑の規模は大小あるが、平面形は方形および長方形で比較的整った形状のものが多い。その中でも土坑8は規模が大きく、平面形も溝状を呈しており特徴的な遺構である。また、各遺構の主軸方位は約N-15°-Eと揃う。東側に位置する今小路の軸方位はN-25°-Eを指すためおおよそこれと平行であり、今小路を意識した地割のあり方がうかがえる。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土しており、これらの年代観から第2面は13世紀後葉頃と考えられる。

〈第3面〉

第3面の遺構は堆積土層の10層上面で検出された。確認面の標高は約6.5～6.6mを測る。強く締まった整地層だが、調査区内のほぼすべてが第2面ないし第3面の遺構覆土である。検出した遺構は土坑8基、ピット2基である。第2面の遺構の影響が大きく、本面に帰属する遺構が検出できた範囲は調査区北東側と南西側に限られるが、調査面積に対して遺構数は多いといえよう。しかしながら、大半の遺構が調査区外に及んでいるため、全容が把握できた遺構は少ない。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土しており、これらの年代観から第3面は13世紀中～後葉頃と考えられる。

B区

〈第1面〉

第1面の遺構は堆積土層の3層ないし4層上面で検出された。確認面の標高は約7.2～7.3mを測る。3層は泥岩ブロックを非常に多く含む暗茶褐色砂質土、4層は泥岩粒・小泥岩ブロックをやや多く含む暗褐色砂質土である。検出された遺構は地業1ヵ所、土坑2基、ピット19基で、調査区の中央から南側に多く分布するが、規則的な配置などは認められない。地業1は溝状の掘り方をもつ泥岩整地面、あるいは第3面以下の溝状遺構1の覆土が落ち込んだ部分を泥岩で整地したのと考えられる。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土しており、これらの年代観から第1面は13世紀中葉以降と考えられる。

〈第2面〉

第2面の遺構は堆積土層の6層上面で検出された。確認面の標高は約6.7～7.1mを測る。6層は泥岩粒と炭を多く含む暗茶褐色砂質土である。検出した遺構は土坑3基、ピット13基で、全て調査区の中央から北側に分布する。土坑はほぼ全容が把握できたものは1基のみで、ピットは調査区北西側に4基が並ぶが半分ほどが調査区外に及んでいるため、いずれも詳細は明らかにできなかった。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土しており、これらの年代観から第2面は13世紀中葉頃と考えられる。

〈第3面〉

第3面の遺構は堆積土層の7・8・10・12層上面で検出された。確認面の標高は約6.6～6.9mを測る。北東側に向かってやや下がっており、調査区中央で茶褐色砂質土による整地面がわずかに認められる。検出した遺構は竪穴状遺構1基、溝状遺構1条、土坑15基、ピット42基である。これらの遺構は調査区全面に密度高く分布し、重複し合うものも多い。このうち、調査区南側で検出した溝状遺構1は北西－南東方向に走り、東側に位置する今小路に直交する方位角をもつ。溝状遺構1 a・1 b・1 cとしたが、1 a・1 bは第3面で平面的に分離して調査することが難しく、調査区壁の土層断面で新旧があることを確認した。また、下層の1 cは深掘り調査の際にトレンチの壁断面で確認したものであり、実際の掘り込み面は不明である。これらは同一の位置と方向に重複して掘り込まれていることから、掘り直しなどを行いながら継続して使用されたものと考えられる。この溝状遺構1を東側へ延長するとA区の南端にぶつかるが、A区では溝状遺構は発見されていないため、A区とB区の間で走行方向が変化しているものと考えられる。なお、本地点の北東側に位置する由比ガ浜一丁目147番2外地点でも同様の溝状遺構は検出されていないことから、現状では南側へ屈曲する可能性が最も高いと考えられる。次に竪穴状遺構1の主軸方位にふれると、A区の遺構と同様に今小路に平行しており、A・B区の遺構配置には共通する点が見られる。後述する第4面においても遺構の主軸方位は同様であり、当地域では広く土地利用のあり方に共通性が見出されよう。ピットについては多数認められたが、規格性をもつ配置は認められなかった。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土しており、これらの年代観から第3面は13世紀中葉頃と考えられる。

〈第4面〉

第4面の遺構は堆積土層の16・17層上面で検出された。標高は約6.4～6.6mを測る。16層は茶褐色砂、17層は暗褐色砂である。検出した遺構は土坑12基、ピット22基で、調査区中央付近にピットが多く分布する。第3面の竪穴状遺構1や溝状遺構1の掘り込みが残存する影響があるが、なお遺構密度は比較的高い。土坑は全容が把握できなかったものが多いが、大小のバラエティが認められた。土坑23の主軸方位は、ほぼ今小路と平行している点は第3面と同様である。また、ピットは2基に礎板が認められた。第3面の遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土しており、これらの年代観から、第4面は13世紀前～中葉頃と考えられる。

〈第5面〉

第5面の遺構は堆積土層の18層上面で検出された。確認面の標高は約6.3～6.5mを測る。18層は砂質の強い暗褐色粘質土である。検出した遺構は土坑1基、ピット5基である。第1～4面までの状況と明瞭に異なり、遺構の分布は密度が低い。ピットは礎板をもつものが2基認められたが、関連性などは不明

である。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土しており、これらの年代観から第5面は13世紀前～中葉頃と考えられる。

〈第6面〉

第6面の遺構は堆積土層の19層ないし20層上面で検出された。確認面の標高は約6.1～6.2mを測る。19層はきめの細かい暗褐色粘質土、20層は茶褐色砂を含む黒褐色粘質土である。検出した遺構は溝状遺構1条のみで、遺構密度は希薄である。溝状遺構2も調査区北端で部分的に確認されたものであり、全容の把握には至らなかった。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土しており、これらの年代観から第6面は12世紀末～13世紀前葉頃と考えられるが、古墳時代後期～奈良時代のものと思われる須恵器高坏破片も含まれていた。

引用・参考文献(著者五十音順)

- 赤星直忠 1983「由比ガ浜一丁目148-11所在遺跡」『発掘調査概要』由比ガ浜一丁目148-11所在遺跡発掘調査団
- 石井 進・大三輪龍彦編 1989『武士の都鎌倉』よみがえる中世3 平凡社
- 伊丹まどか・渡邊美佐子 2017「今小路西遺跡(No201)由比ガ浜一丁目134番4地点」『平成28年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書33 鎌倉市教育委員会
- 香川達郎ほか 2007『神奈川県鎌倉市 今小路西遺跡発掘調査報告書』玉川文化財研究所
- 鎌倉市教育委員会 2009「今小路西遺跡由比ガ浜一丁目151番1地点」『平成19年度発掘調査の概要』鎌倉の埋蔵文化財12
- 河野真知郎 1993『今小路西遺跡(御成小学校内)第5次発掘調査概報』今小路西遺跡発掘調査団
- 河野真知郎・宮田 眞ほか 1990『神奈川県・鎌倉市今小路西遺跡(御成小学校内)発掘調査報告書(第1分冊本文編)』今小路西遺跡発掘調査団編
- 河野真知郎・宮田 眞ほか 1993『神奈川県・鎌倉市今小路西遺跡発掘調査報告書(社会福祉センター用地・御成町625番2地点)』今小路西遺跡発掘調査団編
- 菊川英政・長澤保崇ほか 2008『神奈川県鎌倉市今小路西遺跡(No201)発掘調査報告書-御成町171番1外地点-』株式会社斉藤建設
- 熊谷 満・降矢順子 2011『今小路西遺跡発掘調査報告書-鎌倉市由比ガ浜一丁目151番1地点-』鎌倉市遺跡調査会
- 汐見一夫 2002「今小路西遺跡(No201)由比ガ浜一丁目183番1地点」『平成13年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18 鎌倉市教育委員会
- 宗墓秀明・宗墓富貴子ほか 1993『今小路西遺跡 由比ガ浜一丁目213番3地点』今小路西遺跡発掘調査団
- 瀬田哲夫 2007『今小路西遺跡発掘調査報告書 由比ガ浜一丁目197番2地点』有限会社鎌倉遺跡調査会
- 滝澤晶子・宮田 眞 2004「今小路西遺跡(No201)由比ガ浜一丁目148番5地点」『平成15年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20 鎌倉市教育委員会
- 野本賢二 2002「今小路西遺跡(No201)由比ガ浜一丁目148番1地点」『平成13年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18 鎌倉市教育委員会
- 馬淵和雄・沖元 道ほか 2012「今小路西遺跡(No201)由比ガ浜一丁目157番7外地点」『平成23年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28 鎌倉市教育委員会
- 『国立国会図書館デジタルコレクション-新編鎌倉志』国立国会図書館
- 『鎌倉市史』考古編 赤星直忠 吉川弘文館 1959
- 『鎌倉事典』白井永二編 東京堂出版 1976

表2 A区第1面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
第1面 遺構外出土遺物(図10)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.2	5.3	1.5	外面黒色化 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや良土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.2	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	4/5
4	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.2	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	4/5
5	土器	ロクロ かわらけ・中	-	(8.0)	現 2.0	内底黒色化 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	底部 小破片
6	磁器	白磁 壺	(12.0)	-	現 2.7	色調:胎土-灰色、釉-灰白色	口縁部 小破片
7	磁器	青磁 碗	-	-	現 4.8	外面-鎚蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-淡青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部 小破片
8	陶器	山茶碗	-	(7.0)	現 2.5	胎土:微砂、白色粒 色調:胎土-灰色、自然釉-灰色 備考:7型式	底部 小破片
9	陶器	常滑 甕	-	-	現 11.0	胎土:微砂、白色粒 色調:胎土-灰黒色、自然釉-暗褐色 備考:8型式	口縁部 小破片
10	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 5.3	胎土:微砂、白色粒 色調:胎土-灰色、自然釉-暗褐色 備考:9型式	口縁部 小破片
11	陶器	摩耗陶片	(4.2)	(6.2)	1.1	常滑甕の破片を転用、破断面が摩耗 胎土:微砂、白色粒 色調:胎土-灰褐色、自然釉-茶褐色	完形
12	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 10.0	黒色処理 外面-印花による菱文・巴文、鏽部は欠損 胎土:微砂、黒色粒、小石粒 色調:黒色~灰白色	1/8
13	石製品	砥石	現長 9.1	幅 2.3	厚 2.2	4面に使用痕跡 中砥 石材-粘板岩 備考:伊予産	

表3 A区第2面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
土坑4 出土遺物(図12)							
1	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.2	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	2/3
土坑5 出土遺物(図13)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.0	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	8.0	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	4/5
3	磁器	青磁 碗	-	-	現 4.7	外面-鎚蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部 小破片
4	陶器	山茶碗	(18.8)	-	現 6.5	胎土:微砂、白色粒 色調:胎土-灰色、自然釉-灰色 備考:5型式	口縁部 小破片
5	瓦	平瓦	現長 6.4	現幅 9.2	2.6	凹面-布目痕 凸面-ヘラ調整 胎土:精良 色調:灰黒色	1/6
土坑8 出土遺物(図14)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.6	2.0	底面-回転糸切 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	4.1	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや良土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	5.1	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.5	2.3	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	3/4
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.0	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(4.2)	(1.9)	底面-回転糸切 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.5	2.3	内底黒色化 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	3/4
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.8	2.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	完形
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.0)	(2.4)	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(4.2)	2.2	口唇部に煤付着 底面-回転糸切 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.0	2.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	3/4
12	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	2.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	略完形
13	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.2	3.5	内面に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	略完形
14	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	5.0	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	略完形

15	土器	ロクロ かわらけ・中	10.5	6.0	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	完形
16	土器	ロクロ かわらけ・中	10.8	7.0	3.0	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/4
17	土器	ロクロ かわらけ・中	10.8	6.4	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	4/5
18	土器	ロクロ かわらけ・中	10.8	6.9	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
19	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	8.0	3.0	薄手の器壁 底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/2
20	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	6.9	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
21	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	6.5	4.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
22	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	7.9	3.5	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
23	土器	ロクロ かわらけ・大	13.6	8.2	3.5	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	4/5
24	土器	ロクロ かわらけ・大	13.8	8.0	3.5	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/3
25	土器	ロクロ かわらけ・大	13.8	8.0	3.6	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや良土 色調：赤橙色 焼成：良好	2/3
26	土器	ロクロ かわらけ・中	現長 5.0	現幅 3.2	0.7	底面一回転糸切+板状圧痕 焼成前穿孔(径0.4cm) 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや良土 色調：灰黄色 焼成：良好	底部 小破片
27	陶器	瀬戸 小壺	-	6.7	現 1.5	胎土：緻密 色調：胎土-灰色、釉-灰緑色	底部 小破片
28	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 6.4	内外面黒色処理、二次焼成のため器壁剝離 胎土：微砂、雲母、小石粒、やや粗土 色調：灰黒色 焼成：良好	口縁部 小破片
29	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 9.4	内外面器壁剝離 外面-印花による菊花文 内面-縦位のヘラによる整形 胎土：微砂、雲母、小石粒、やや粗土 色調：灰赤色 焼成：良好	口縁部 小破片
30	瓦	丸瓦	(9.0)	(8.5)	1.5	凸面-縄目敲き 凹面-布目痕 側縁-ヘラによる整形 胎土：精良 色調：灰黒色	

第2面 遺構外出土遺物(図16)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.4	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：赤橙色 焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	5.0	1.9	口唇部~内面黒色化 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(4.0)	(2.3)	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
5	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.5	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	2/3
6	陶器	山茶碗	-	-	現 4.4	胎土：微砂、白色粒 色調：胎土-灰黒色、自然釉-灰黒色 備考：4型式	口縁部 小破片
7	陶器	常滑 甕	-	-	現 6.2	胎土：微砂、白色粒 色調：胎土-灰色、自然釉-灰褐色 備考：5型式	口縁部 小破片
8	陶器	常滑 甕	(27.4)	-	現 9.0	胎土：微砂、白色粒 色調：胎土-灰色、自然釉-灰色 備考：6 b型式	口縁部 小破片
9	陶器	産地不明 鉢	-	-	現 5.5	内面-ヘラ状工具による磨き痕 外面-丁寧な整形 胎土：微砂質、長石粒、雲母 色調：灰色	口縁部 小破片
10	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 6.5	輪花形、内外面黒色処理 外面-印花による16弁菊花、縦位のミガキ 内面-縦位のミガキ 胎土：微砂、雲母、小石粒 色調：灰褐色	口縁部 小破片
11	銅製品	銭貨	径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名-開元通寶(南唐・960)	4/5
12	銅製品	銭貨	径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名-嘉定通寶(南宋・1208)、背文-「十二」	完形

表4 A区第3面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

土坑12出土遺物(図17)

1	土器	ロクロ かわらけ・中	11.4	6.8	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	略完形
---	----	---------------	------	-----	-----	--	-----

土坑16出土遺物(図20)

1	陶器	瀬戸 片口鉢	-	(12.8)	現 3.0	底部貼り付け 胎土：微砂、白色粒 色調：胎土-灰褐色、釉-黄灰色	底部 小破片
2	陶器	常滑 片口鉢I類	(27.6)	-	現 6.3	胎土：微砂、白色粒、雲母 色調：灰色 備考：5型式	口縁部 小破片

土坑17出土遺物(図21)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	5.0	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.0	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：赤橙色 焼成：良好	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.2	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/2

5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：赤橙色 焼成：良好	2/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.4	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	略完形
7	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 6.2	胎土：微砂、白色粒 色調：胎土-灰褐色、自然釉-茶褐色 備考：6a型式	口縁部 小破片

第3面 遺構外出土遺物(図22)

1	土器	白かわらけ	-	-	現 0.8	底面-回転糸切 胎土：微砂、雲母、やや粗土 色調：黄白色 焼成：良好	底部 小破片
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.0	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.5	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：赤橙色 焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	4.4	1.8	内外面口縁~体部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	略完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.2	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	9.2	5.4	2.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	略完形
7	土器	ロクロ かわらけ・中	10.8	7.0	3.1	薄手の器壁 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	4/5
8	土器	ロクロ かわらけ・中	10.8	7.5	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：赤橙色 焼成：良好	1/2
9	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.5	3.2	底面-回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/3
10	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	6.5	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/3
11	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	7.5	3.5	内外面口縁~体部に厚く煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：赤橙色 焼成：良好	2/3
12	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	7.4	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：赤橙色 焼成：良好	4/5
13	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	9.1	3.0	内底が黒色化 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/2
14	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	9.0	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	4/5

表5 B区第1面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

地業1出土遺物(図25)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.6	4.2	2.1	歪み大きい 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・中	10.8	7.4	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、海綿骨針、小石粒、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・大	13.8	8.2	3.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、小石粒、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
4	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	(11.8)	現 4.1	内面摩耗 胎土：微砂、長石粒 色調：灰色	底部 小破片
5	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 3.4	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色	口縁部 小破片
6	石製品	砥石	長 5.0	幅 5.5	厚 1.5	上面に使用痕跡 石材-凝灰岩	小破片
7	銅製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名-天聖元寶(北宋・1023)	完形
8	銅製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名-天聖元寶(北宋・1023)	完形

土坑2出土遺物(図27)

1	土器	とりべ	-	-	現 3.5	内面に金属滓付着 胎土：微砂、粗土 色調：橙色 焼成：良好	口縁部 小破片
---	----	-----	---	---	----------	-------------------------------	------------

第1面 遺構外出土遺物(図28)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.0	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：灰橙色 焼成：良好	略完形
2	銅製品	銭貨	径 2.4	孔径 0.8	厚 0.1	銭名-皇宋通寶(北宋・1038)	完形

表6 B区第2面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

土坑3出土遺物(図30)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.8	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：浅橙色 焼成：良好	3/4
2	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 4.8	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色	口縁部 小破片

ピット31出土遺物(図32)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.0	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
---	----	---------------	-----	-----	-----	--	-----

2	陶器	常滑 甕	-	-	現 6.0	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：6 a 型式	口縁部 小破片
---	----	---------	---	---	----------	---------------------------	------------

第2面 遺構外出土遺物 (図33)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.2	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	3/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.0	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：灰橙色 焼成：良好	2/3
4	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	6.0	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：明橙色 焼成：良好	1/3
5	陶器	常滑 甕	-	-	現 9.5	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：5 型式	口縁部 小破片
6	陶器	常滑 甕	(20.0)	-	現 12.3	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：5 型式	口縁部~ 頸部小破片
7	陶器	常滑 甕	-	-	現 5.5	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：6 a 型式	口縁部 小破片
8	陶器	常滑 甕	-	-	現 9.2	胎土：粗、白色粒 色調：暗灰褐色 備考：6 a 型式	口縁部 小破片
9	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 4.8	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色	口縁部 小破片
10	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 4.6	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色	口縁部 小破片
11	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 3.1	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色	口縁部 小破片
12	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 3.1	内面摩耗 胎土：やや粗土 色調：暗灰色	口縁部 小破片
13	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 3.9	内面摩耗 胎土：やや粗土 色調：暗灰色	口縁部 小破片
14	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 4.2	内面摩耗 胎土：やや粗土 色調：暗灰色	口縁部 小破片
15	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	(30.0)	12.7	13.0	内面摩耗 胎土：やや粗土 色調：灰色	1/4
16	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 7.0	外面-印花による菊花文 胎土：緻密 色調：白灰色 焼成：良好	口縁部 小破片
17	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 7.0	胎土：緻密 色調：白灰色 焼成：良好	口縁部 小破片
18	土器	とりべ	-	-	現 1.2	内面に金属滓付着 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	口縁部 小破片
19	銅製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名-開元通寶(南唐・960)	完形
20	銅製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.8	厚 0.1	銭名-皇宋通寶(北宋・1038)	完形
21	銅製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.8	厚 0.1	銭名-大観通寶(北宋・1107)	完形

表7 B区第3面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

竪穴状遺構1 出土遺物 (図35)

1	陶器	常滑 玉縁口縁壺	-	-	現 6.1	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：6 a~6 b 型式	口縁部~ 頸部小破片
2	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 5.3	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色	口縁部 小破片

溝状遺構1 出土遺物 (図38)

1	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.1	3.2	0.7	コースター形 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(4.8)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：赤褐色 焼成：良好	1/4
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(4.2)	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：灰橙色 焼成：良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.7	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：淡橙色 焼成：良好	完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.2	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：淡橙色 焼成：良好	2/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.1	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：淡橙色 焼成：良好	完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.8	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：濃茶褐色 焼成：良好	3/4
8	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.5	1.5	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：淡橙色 焼成：良好	略完形
9	土器	ロクロ かわらけ・中	10.8	6.5	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：明橙色 焼成：良好	略完形
10	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.4	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
11	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	6.8	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
12	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(7.2)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3

13	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	6.6	3.0	内面に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：茶 橙色 焼成：良好	2/3
14	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(6.8)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
15	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.5	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：淡橙色 焼成：良 好	2/3
16	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	3.0	2.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
17	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4	8.3	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：明橙色 焼成：良 好	1/2
18	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4	9.0	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：濃橙色 焼成：良 好	略完形
19	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4	8.0	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：濃橙色 焼成：良 好	3/4
20	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(9.0)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：明橙色 焼成：良 好	1/4
21	陶器	瀬戸 入子	-	3.1	現 1.0	胎土：緻密 色調：灰白色 備考：古瀬戸前期様式？	1/3
22	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 3.3	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色	口縁部 小破片
23	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 3.6	胎土：粗、白色粒 色調：灰色	口縁部 小破片
24	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 5.2	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色	口縁部 小破片
25	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 5.3	胎土：粗、白色粒 色調：灰褐色	口縁部 小破片
26	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	(34.2)	-	現 7.0	胎土：粗、白色粒 色調：灰色	口縁部～体 部上半破片
27	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 3.2	胎土：粗、白色粒 色調：灰褐色	口縁部 小破片
28	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 5.1	内面摩耗 胎土：きめ細かい 色調：暗褐色	口縁部 小破片
29	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	(16.5)	現 6.6	内面摩耗 胎土：きめ細かい 色調：暗褐色	底部 小破片
30	陶器	摩耗陶片	長 4.5	幅 5.0	厚 1.0	常滑甕の破片を転用、破断面が摩耗 胎土：粗土 色調：暗褐色	完形
31	土器	とりべ	-	-	現 3.5	内面に溶解した金属付着 胎土：微砂、粗土 色調：暗褐色 焼成：良好	口縁部～ 底部小破片
32	土器	とりべ	-	-	現 3.7	内面に溶解した金属付着 胎土：微砂、粗土 色調：暗褐色 焼成：良好	口縁部～ 底部小破片

土坑8出土遺物(図39)

1	陶器	常滑 玉縁口縁壺	-	-	現 7.0	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：6a～6b型式	口縁部～ 頸部小破片
---	----	-------------	---	---	----------	----------------------------	---------------

土坑9出土遺物(図41)

1	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	8.0	3.0	全面に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙 色 焼成：良好	3/4
---	----	---------------	------	-----	-----	---	-----

土坑10出土遺物(図42)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.1)	(5.2)	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
3	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 5.5	内面摩耗 胎土：きめ細かい 色調：灰色	口縁部 小破片

土坑12出土遺物(図43)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(5.3)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：赤橙色 焼成：良 好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	8.2	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2

土坑13出土遺物(図44)

1	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 4.6	内面摩耗 胎土：きめ細かい 色調：暗褐色	口縁部 小破片
---	----	--------------	---	---	----------	----------------------	------------

土坑16出土遺物(図45)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.5	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：淡橙色 焼成：良 好	略完形
2	陶器	常滑 広口壺大	(18.6)	-	現 9.5	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：6a型式	口縁部～ 頸部小破片
3	陶器	摩耗陶片	長 6.6	幅 5.3	厚 1.0	常滑甕の破片を転用、破断面が摩耗 胎土：粗土 色調：暗褐色	完形

土坑20出土遺物(図47)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.0	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：薄橙色 焼成：良 好	3/4
---	----	---------------	-----	-----	-----	---	-----

ピット出土遺物(図48)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.9)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好 出土遺構：ピット38	1/2
2	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 4.5	内面摩耗 胎土：きめ細かい 色調：灰色 出土遺構：ピット38	口縁部 小破片

3	磁器	青磁 坏	(17.3)	-	現 3.5	内外面-無文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁坏Ⅲ-3a類 出土遺構:ピット39	口縁部 小破片
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:灰橙色 焼成:良 好 出土遺構:ピット42	4/5
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(5.0)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良 好 出土遺構:ピット43	1/3
6	陶器	常滑 壺	-	-	現 4.2	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式 出土遺構:ピット51	口縁部~ 頸部小破片
7	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(7.6)	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:橙 色 焼成:良好 出土遺構:ピット67	1/3
8	陶器	渥美 甕	-	-	現 6.2	胎土:砂質 色調:灰色 備考:2a型式 出土遺構:ピット71	口縁部 小破片
9	陶器	常滑 甕	-	-	現 6.1	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:6a型式 出土遺構:ピット74	口縁部 小破片

第3面 遺構外出土遺物 (図49・50)

1	土器	白かわらけ	(8.8)	-	1.2	底面-底部指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、良土 色調:乳白色 焼成:良 好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(4.0)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:濃橙色 焼成:良 好	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.4	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良 好	3/4
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(5.2)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良 好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	4.7	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良 好	略完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.5)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良 好	1/2
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.7	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良 好	1/2
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	7.0	1.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良 好	1/2
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.4	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕+修理貼り付け 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:浅 橙色 焼成:良好	略完形
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良 好	完形
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	4.5	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良 好	1/2
12	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.2	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:淡橙色 焼成:良 好	略完形
13	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良 好	完形
14	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	5.1	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良 好	3/4
15	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	7.2	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:浅 橙色 焼成:良好	1/2
16	土器	ロクロ かわらけ・中	11.6	6.8	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良 好	1/2
17	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	7.1	(3.5)	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	1/2
18	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	(9.0)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:明橙色 焼成:良 好	1/4
19	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	9.3	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:浅橙色 焼 成:良好	3/4
20	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.8)	(9.5)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:橙 色 焼成:良好	1/3
21	土器	ロクロ かわらけ・小	-	4.0	現 2.0	内面に漆附着、パレットに転用か 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨 針、粗土 色調:黒色~橙色 焼成:良好	1/3
22	磁器	青白磁 合子身	6.7	4.4	2.0	外面-縦沈線 口唇部-釉掻き取り 色調:胎土-乳白色、釉-淡青色	1/6
23	磁器	青磁 碗	-	-	現 5.0	外面-鎬蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部 小破片
24	陶器	緑釉 盤	-	-	現 1.5	胎土:緻密 色調:胎土-灰白色、釉-緑色 産地:中国	見込み 小破片
25	陶器	常滑 甕	-	-	現 7.7	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
26	陶器	常滑 甕	-	-	現 6.5	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5~6a型式	口縁部 小破片
27	陶器	常滑 甕	-	-	現 7.3	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5~6a型式	口縁部 小破片
28	陶器	常滑 甕	-	-	現 5.5	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:6a型式	口縁部 小破片
29	陶器	常滑 甕	(24.4)	-	現 5.3	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:6a型式	口縁部 小破片
30	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 6.5	胎土:粗、白色粒 色調:灰色	口縁部 小破片
31	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 4.8	内面摩耗 胎土:やや粗 色調:暗灰色	口縁部 小破片
32	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 8.5	内面摩耗 胎土:きめ細かい 色調:暗褐色	口縁部 小破片
33	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	(14.8)	現 4.2	内面摩耗 胎土:きめ細かい 色調:暗灰色	底部 小破片

34	陶器	山茶碗窯系片口鉢	-	-	現 6.6	内面摩耗 胎土：きめ細かい 色調：暗灰色	底部 小破片
35	陶器	山茶碗窯系片口鉢	(29.5)	(14.7)	14.0	内面摩耗 胎土：きめ細かい 色調：暗褐色	1/6
36	陶器	山茶碗	(16.8)	-	現 5.5	胎土：黒色粒 色調：灰褐色	1/6
37	石製品	用途不明	上径 8.4	底径 7.3	厚 1.4	上面-刃物状の痕跡? 色調：灰褐色 石材-滑石	略完形
38	石製品	砥石	現長 4.7	幅 3.3	厚 2.5	4面に使用痕跡 石材-凝灰岩	略完形
39	銅製品	銭貨	径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名-乾元重寶(唐・758)	完形
40	銅製品	銭貨	径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名-元豊通寶(北宋・1078)	完形
41	銅製品	銭貨	径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名-元祐通寶(北宋・1086)	完形
42	銅製品	銭貨	径 2.4	孔径 0.8	厚 0.1	銭名-大観通寶(北宋・1107)	完形

表8 B区第4面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

第4面 遺構外出土遺物(図54)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.7	1.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	3/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.2	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：淡橙色 焼成：良好	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.0	1.8	口縁部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：淡橙色 焼成：良好	略完形
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.0)	(5.5)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：明橙色 焼成：良好	1/3
6	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	8.5	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：灰橙色 焼成：良好	完形
7	陶器	常滑 甕	-	-	現 4.3	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：6a型式	口縁部 小破片
8	陶器	常滑 甕	-	-	現 9.5	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：6a型式	口縁部~ 肩部小破片
9	陶器	常滑 甕	-	14.0	現 9.5	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色	底部 小破片
10	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 5.8	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色	口縁部 小破片
11	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 4.6	内面摩耗 胎土：微砂質、長石粒 色調：灰色	口縁部 小破片
12	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 5.2	内面摩耗 胎土：微砂質、長石粒 色調：灰色	口縁部 小破片
13	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 5.5	内面摩耗 胎土：微砂質、長石粒 色調：灰色	口縁部 小破片
14	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 3.8	内面摩耗 胎土：微砂質、長石粒 色調：灰色	口縁部 小破片
15	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	14.6	現 8.8	内面摩耗 胎土：微砂質、長石粒 色調：灰色	1/4
16	銅製品	銭貨	径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名-天聖元寶(北宋・1023)	完形

表9 B区第5面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

ピット98出土遺物(図58)

1	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	8.0	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	3/4
---	----	---------------	------	-----	-----	--	-----

第5面 遺構外出土遺物(図59)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.2	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：淡橙色 焼成：良好	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(6.0)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：淡橙色 焼成：良好	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.8	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：橙色 焼成：良好	1/2
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.9)	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、海綿骨針、粗土 色調：淡橙色 焼成：良好	1/4

表10 B区第6面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
第6面 遺構外出土遺物 (図62)							
1	土器	白かわらけ	-	(4.0)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、粗土 色調:乳白色 焼成:良好	1/4
2	土器	ロクロかわらけ・小	(7.5)	(6.0)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:灰橙色 焼成:良好	1/3
3	土器	ロクロかわらけ・小	7.7	5.5	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:灰橙色 焼成:良好	1/2
4	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	6.0	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/2
5	土器	ロクロかわらけ・小	8.6	6.5	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、粗土 色調:灰橙色 焼成:良好	1/2
6	土器	ロクロかわらけ・小	8.7	6.0	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、粗土 色調:浅橙色 焼成:良好	1/2
7	土器	ロクロかわらけ・小	8.8	6.7	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:灰橙色 焼成:良好	1/2
8	土器	ロクロかわらけ・小	(8.8)	(6.0)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/3
9	土器	ロクロかわらけ・中	11.8	7.8	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/2
10	土器	ロクロかわらけ・中	12.8	8.0	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、粗土 色調:灰橙色 焼成:良好	略完形
11	土器	ロクロかわらけ・中	12.8	8.4	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:灰橙色 焼成:良好	1/2
12	土器	ロクロかわらけ・中	(12.8)	(8.0)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、粗土 色調:灰橙色 焼成:良好	1/3
13	土器	ロクロかわらけ・大	13.3	8.5	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、海綿骨針、小石粒、粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
14	土器	ロクロかわらけ・大	(13.8)	(10.0)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:薄茶橙色 焼成:良好	1/4
15	土器	手づくねかわらけ・極小	(5.5)	-	0.9	コースター形 底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、良土 色調:乳白色 焼成:良好	1/4
16	土器	手づくねかわらけ・小	(8.0)	-	1.6	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:灰橙色 焼成:良好	1/4
17	土器	手づくねかわらけ・小	(8.2)	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、良土 色調:橙色 焼成:良好	1/6
18	土器	手づくねかわらけ・小	(8.8)	-	2.0	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、海綿骨針、良土 色調:橙色 焼成:良好	1/4
19	磁器	青磁小碗	-	-	現3.5	内面-片刃彫で区画 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁小碗 I-2類	口縁部小破片
20	陶器	常滑甕	(40.0)	-	現5.0	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:2~3型式	口縁部小破片
21	石製品	滑石製石鍋	-	-	現4.2	色調:灰褐色	口縁部小破片
22	石製品	砥石	長4.0	幅3.0	厚0.7	4面に使用痕跡 石材-凝灰岩	略完形
23	須恵器	須恵器高坏	-	脚径4.0	現6.4	胎土:密、白色粒 色調:灰色	脚部破片

表11 遺構計測表

A区					B区									
遺構名	帰属面	規模 (cm)			遺構名	帰属面	規模 (cm)			遺構名	帰属面	規模 (cm)		
		長軸	短軸	深さ			長軸	短軸	深さ			長軸	短軸	深さ
竪穴状遺構1	第1面	369	(69)	34	土坑6	第2面	102	(46)	12	ピット15	第2面	57	(44)	10
土坑1	第1面	(58)	(57)	44	土坑7	第2面	(56)	50	13	土坑12	第3面	100	28	(96)
土坑2	第1面	(60)	(29)	32	土坑8	第2面	516	122	51	土坑13	第3面	(51)	(38)	34
土坑3	第1面	60	(52)	6	土坑9	第2面	(226)	(41)	39	土坑14	第3面	(90)	(26)	13
ピット1	第1面	(39)	33	5	土坑10	第2面	84	(48)	9	土坑15	第3面	94	71	35
ピット2	第1面	48	40	9	土坑11	第2面	(78)	(61)	7	土坑16	第3面	(92)	83	17
ピット3	第1面	(40)	(23)	5	ピット8	第2面	38	-	15	土坑17	第3面	(216)	(41)	32
ピット4	第1面	23	19	19	ピット9	第2面	47	36	16	土坑18	第3面	(58)	(33)	11
ピット5	第1面	49	(25)	6	ピット10	第2面	42	-	14~23	土坑19	第3面	(84)	(69)	11
ピット6	第1面	(43)	(37)	9	ピット11	第2面	41	(27)	13	ピット16	第3面	(22)	(21)	12
ピット7	第1面	34	(29)	35	ピット12	第2面	31	-	26	ピット17	第3面	29	-	13
土坑4	第2面	67	(32)	17	ピット13	第2面	55	46	12					
土坑5	第2面	198	(133)	18	ピット14	第2面	(35)	(8)	6					

遺構名	帰属面	規模 (cm)			遺構名	帰属面	規模 (cm)			遺構名	帰属面	規模 (cm)		
		長軸	短軸	深さ			長軸	短軸	深さ			長軸	短軸	深さ
土坑4	第2面	<68>	<62>	22	ピット38	第3面	58	50	40	土坑23	第4面	(185)	126	15
土坑5	第2面	<111>	86	19	ピット39	第3面	49	-	34	土坑24	第4面	<90>	<17>	25
ピット20	第2面	<38>	<17>	13	ピット40	第3面	43	-	36	土坑25	第4面	<75>	<40>	12
ピット21	第2面	<57>	<20>	16	ピット41	第3面	32	26	38	土坑26	第4面	<69>	<31>	10~19
ピット22	第2面	<50>	<21>	17	ピット42	第3面	37	31	40	土坑27	第4面	72	54	20
ピット23	第2面	<26>	<17>	19	ピット43	第3面	48	<30>	35	土坑28	第4面	<180>	<110>	12
ピット24	第2面	<59>	55	15	ピット44	第3面	50	43	25	土坑29	第4面	<92>	<62>	10
ピット25	第2面	29	<24>	18	ピット45	第3面	36	-	36	土坑30	第4面	<56>	<30>	22
ピット26	第2面	35	32	14	ピット46	第3面	34	26	16	土坑31	第4面	<120>	<43>	11
ピット27	第2面	53	50	14	ピット47	第3面	31	-	25	土坑32	第4面	<62>	<40>	14
ピット28	第2面	38	-	15	ピット48	第3面	43	-	39	ピット75	第4面	26	<24>	12
ピット29	第2面	50	<32>	26	ピット49	第3面	<36>	<22>	11	ピット76	第4面	27	<20>	10
ピット30	第2面	<33>	<29>	17	ピット50	第3面	<34>	<23>	6	ピット77	第4面	26	-	13
ピット31	第2面	49	38	12	ピット51	第3面	<38>	<13>	7	ピット78	第4面	37	33	14
ピット32	第2面	52	43	18	ピット52	第3面	<28>	<11>	7	ピット79	第4面	32	-	7
竪穴状遺構1	第3面	<340>	<108>	50	ピット53	第3面	41	35	10	ピット80	第4面	<45>	31	19
溝状遺構1a	第3面	<400>	162~164	54~68	ピット54	第3面	<43>	<21>	8	ピット81	第4面	22	<17>	12
溝状遺構1b	第3面	<400>	<180~200>	53~72	ピット55	第3面	33	27	8	ピット82	第4面	51	41	30
溝状遺構1c	第3面	<400>	106~122	97	ピット56	第3面	37	31	6	ピット83	第4面	43	33	24
土坑6	第3面	<61>	<17>	17	ピット57	第3面	36	32	8	ピット84	第4面	29	-	16
土坑7	第3面	<128>	<73>	12	ピット58	第3面	38	31	8	ピット85	第4面	38	30	13
土坑8	第3面	<120>	<113>	22	ピット59	第3面	48	40	16	ピット86	第4面	29	-	19
土坑9	第3面	<152>	<53>	30	ピット60	第3面	38	-	15	ピット87	第4面	41	33	28
土坑10	第3面	95	89	44	ピット61	第3面	35	27	6	ピット88	第4面	<28>	25	9
土坑11	第3面	<79>	<28>	22	ピット62	第3面	<58>	<22>	23	ピット89	第4面	25	20	5
土坑12	第3面	79	68	46	ピット63	第3面	47	33	26	ピット90	第4面	<28>	21	5
土坑13	第3面	<61>	<38>	26	ピット64	第3面	41	39	37	ピット91	第4面	36	<26>	6
土坑14	第3面	68	<46>	18	ピット65	第3面	28	<17>	18	ピット92	第4面	19	-	4
土坑15	第3面	70	54	43	ピット66	第3面	<24>	<18>	16	ピット93	第4面	24	19	17
土坑16	第3面	<70>	<59>	36	ピット67	第3面	30	-	20	ピット94	第4面	24	-	20
土坑17	第3面	<70>	<39>	19	ピット68	第3面	30	16	24	ピット95	第4面	26	18	11
土坑18	第3面	<143>	30	9	ピット69	第3面	25	-	29	ピット96	第4面	26	17	11
土坑19	第3面	68	20	4~22	ピット70	第3面	28	<26>	13	土坑33	第5面	91	71	14
土坑20	第3面	<79>	<56>	12	ピット71	第3面	46	38	10	ピット97	第5面	29	24	13
ピット33	第3面	39	29	24~35	ピット72	第3面	34	-	17	ピット98	第5面	23	-	14
ピット34	第3面	40	<30>	14	ピット73	第3面	<50>	<26>	12	ピット99	第5面	35	-	9
ピット35	第3面	53	-	20	ピット74	第3面	<44>	42	21	ピット100	第5面	32	-	30
ピット36	第3面	38	-	13	土坑21	第4面	61	<35>	14	ピット101	第5面	26	-	14
ピット37	第3面	48	32	32	土坑22	第4面	<73>	<56>	19	溝状遺構2	第6面	<299>	49~108	20

表12 出土遺物一覧表

A区第1面				【かわらけ】				瀬戸			
竪穴状遺構1				かわらけ ロクロ成形				御皿			
産地	器種	破片数		合計				14			
【かわらけ】								常滑			
かわらけ ロクロ成形				5				片口鉢Ⅰ類			
【陶器】								片口鉢Ⅱ類			
常滑	甍	2		ピット5				摩耗陶片			
合計				7				山茶碗			
				かわらけ ロクロ成形				【瓦質土器】			
				合計				火鉢			
				1				【瓦】			
				1				平瓦			
								【石製品】			
								滑石製石鍋			
								砥石			
								【金属製品】			
								釘			
								合計			
								70			
A区第2面				【かわらけ】				土坑4			
土坑1				かわらけ ロクロ成形				産地			
産地	器種	破片数		合計				器種			
【かわらけ】								破片数			
かわらけ ロクロ成形				12				【かわらけ】			
合計				12				かわらけ ロクロ成形			
								12			
								【陶器】			
								常滑			
								甍			
								合計			
								3			
								15			
								土坑5			
								産地			
								器種			
								破片数			
								【かわらけ】			
								かわらけ ロクロ成形			
								27			
								【青磁】			
								龍泉窯系			
								椀Ⅱ類			
								1			

【陶器】		
常滑	甍	8
	片口鉢Ⅰ類	1
山茶碗窯	片口鉢	1
山茶碗		1
【瓦】		
	平瓦	1
		合計 40

土坑6		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
【瓦質土器】		
	火鉢	1
		合計 6

土坑7		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	18
【陶器】		
常滑	甍	2
		合計 20

土坑8		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	53
	かわらけ 手づくね成形	2
【陶器】		
瀬戸	小壺	1
	折縁深皿	1
常滑	甍	8
	片口鉢Ⅰ類	2
【瓦質土器】		
	火鉢	2
【瓦】		
	丸瓦	1
		合計 70

土坑9		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	14
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	1
【陶器】		
常滑	甍	5
【石製品】		
	砥石	1
		合計 21

土坑10		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	8
		合計 8

土坑11		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	17
【金属製品】		
	釘	1
		合計 18

ピット8		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ピット9		

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
		合計 4

ピット10		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ピット11		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ピット13		
産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甍	1
		合計 1

ピット15		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
		合計 2

第2面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	31
【白磁】		
	皿	1
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	1
【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
常滑	甍	12
山茶碗		1
産地不明	鉢	1
【瓦質土器】		
	火鉢	1
【瓦】		
	平瓦	3
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	銭貨	2
	釘	2
		合計 57

A区第3面		
土坑12		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	9
		合計 9

土坑13		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	3
【陶器】		
常滑	甍	1
		合計 4

土坑14		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	15
【金属製品】		
	釘	1
		合計 16

土坑15		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	13
		合計 13

土坑16		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	15
【陶器】		

瀬戸	片口鉢	1
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
		合計 17

土坑17		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	31
	かわらけ 手づくね成形	2
【陶器】		
常滑	甍	1
	片口鉢Ⅰ類	1
		合計 35

土坑18		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
		合計 5

土坑19		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	12
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	1
【陶器】		
常滑	甍	2
【石製品】		
	砥石	1
		合計 16

ピット16		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
		合計 4

第3面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ ロクロ成形	68
	かわらけ 手づくね成形	12
【白磁】		
	皿	2
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	2
【陶器】		
瀬戸	折縁深皿	2
常滑	甍	24
	片口鉢Ⅰ類	4
【瓦質土器】		
	火鉢	2
【瓦】		
	平瓦	3
【石製品】		
	砥石	3
【金属製品】		
	釘	5
		合計 128

B区第1面

地業1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	621
【白磁】		
	口元皿	1
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	1
	椀Ⅱ類	2
【陶器】		
瀬戸	瓶類	1
	折縁深皿	1
	卸皿	2
常滑	甕	20
	片口鉢Ⅰ類	2
	片口鉢Ⅱ類	2
山茶碗窯	片口鉢	3
【瓦質土器】		
	火鉢	2
【石製品】		
	砥石	2
【金属製品】		
	銭貨	2
	釘	3
合計 665		

土坑2		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	24
【土器】		
	とりべ	1
合計 25		

ビット1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
合計 5		

ビット2		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	3
合計 3		

ビット3		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	7
合計 7		

ビット4		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
合計 2		

ビット5		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	6
合計 6		

ビット6		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
合計 4		

ビット8		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
合計 1		

ビット9		
産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計 1		

ビット10		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
合計 1		

ビット11		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	3
合計 3		

ビット13		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
合計 2		

ビット14		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
合計 5		

ビット15		
産地	器種	破片数
【石製品】		
	砥石	1
合計 1		

ビット16		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
合計 1		

ビット17		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	1
【金属製品】		
	釘	1
合計 8		

ビット24		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
合計 5		

第1面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	34
【陶器】		
瀬戸	折縁深皿	1
	卸皿	1
常滑	甕	8
	片口鉢Ⅱ類	2
山茶碗窯	片口鉢	2
【土器】		
	火鉢	1
【金属製品】		
	銭貨	1
合計 50		

ビット25		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
合計 3		

ビット26		
産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計 1		

ビット27		
産地	器種	破片数
【金属製品】		
	釘	1
合計 1		

ビット28		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
瀬戸	卸皿	1
常滑	甕	7

土坑4		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	12
【陶器】		
常滑	甕	1
合計 13		

土坑5		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	18
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅰ類	1
合計 21		

ビット20		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
合計 1		

ビット21		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	3
合計 3		

ビット22		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
合計 2		

ビット23		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	3
合計 3		

ビット24		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
合計 5		

ビット25		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
合計 3		

ビット26		
産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
合計 1		

ビット27		
産地	器種	破片数
【金属製品】		
	釘	1
合計 1		

ビット28		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
瀬戸	卸皿	1
常滑	甕	7

かわらけ	ロクロ成形	1	
【石製品】			
砥石		1	
合計			2

ピット29			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
かわらけ	ロクロ成形	3	
合計			3

ピット30			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
かわらけ	ロクロ成形	2	
合計			2

ピット31			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
かわらけ	ロクロ成形	1	
【陶器】			
常滑	甕	1	
合計			2

ピット32			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
かわらけ	ロクロ成形	4	
合計			4

第2面 遺構外			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
白かわらけ		2	
かわらけ	ロクロ成形	132	
かわらけ	手づくね成形	4	
【白磁】			
口元皿		1	
【青磁】			
龍泉窯系	椀Ⅰ類	1	
	椀Ⅱ類	2	
【陶器】			
瀬戸	折縁深皿	3	
	甕	42	
常滑	片口鉢Ⅰ類	5	
	片口鉢Ⅱ類	7	
山茶碗窯	片口鉢	4	
【瓦質土器】			
	火鉢	7	
【土器】			
	とりべ	1	
【石製品】			
	滑石製石鍋	1	
	砥石	2	
【金属製品】			
	銭貨	3	
	釘	2	
合計			219

B区第3面

竪穴状遺構 1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	24
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	2
【陶器】		
瀬戸	卸皿	1
	甕	13
	玉縁口縁壺	1
常滑	片口鉢Ⅰ類	1
	片口鉢Ⅱ類	2
	山茶碗	1
山茶碗窯	片口鉢	2
【金属製品】		

釘	3	
合計		50

溝状遺構 1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	125
かわらけ	手づくね成形	2

【白磁】		
	瓶類	1

【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	1
	椀Ⅱ類	3

【陶器】		
瀬戸	入子	1
	甕	27
常滑	摩耗陶片	1
山茶碗窯	片口鉢	3

【土器】		
	とりべ	3

【瓦質土器】		
	火鉢	4

【石製品】		
	砥石	2

【骨製品】		
	用途不明	2

【金属製品】			
	釘	5	
	用途不明	2	
合計			182

土坑 6			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
かわらけ	ロクロ成形	10	
合計			10

土坑 7			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
かわらけ	ロクロ成形	7	
【陶器】			
常滑	甕	1	
合計			8

土坑 8			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
かわらけ	ロクロ成形	12	
【陶器】			
常滑	玉縁口縁壺	1	
合計			13

土坑 9			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
かわらけ	ロクロ成形	8	
【陶器】			
山茶碗窯	片口鉢	1	
合計			9

土坑 10			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
かわらけ	ロクロ成形	3	
【陶器】			
山茶碗窯	片口鉢	1	
合計			4

土坑 11		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	32
【陶器】		
常滑	甕	3

土坑 12		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	32
【陶器】		
常滑	甕	3

合計		35
----	--	----

土坑13			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
かわらけ	ロクロ成形	8	
【陶器】			
山茶碗窯	片口鉢	1	
合計			9

土坑14			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
かわらけ	ロクロ成形	5	
【陶器】			
常滑	甕	1	
合計			6

土坑16		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	16
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	1

【陶器】		
瀬戸	卸皿	1
	甕	4
常滑	広口壺大	1
	摩耗陶片	1

【瓦質土器】			
	火鉢	1	
合計			25

土坑18			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
かわらけ	ロクロ成形	9	
合計			9

土坑19			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
かわらけ	ロクロ成形	7	
【陶器】			
常滑	甕	1	
合計			8

土坑20			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
かわらけ	ロクロ成形	3	
合計			3

ピット33			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
かわらけ	ロクロ成形	12	
合計			12

ピット34			
産地	器種	破片数	
【かわらけ】			
かわらけ	ロクロ成形	22	
合計			22

ピット35			
産地	器種	破片数	
【陶器】			
常滑	甕	1	
合計			1

ピット36		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	12

【陶器】		
常滑	甍 片口鉢Ⅰ類	1 1
		合計 14

ビット37		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
		合計 2

ビット38		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
【陶器】		
山茶碗窯	片口鉢	1
		合計 3

ビット39		
産地	器種	破片数
【青磁】		
龍泉窯系	坏Ⅲ-3a類	1
		合計 1

ビット42		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	3
		合計 3

ビット43		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ビット44		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ビット48		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
		合計 4

ビット49		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ビット50		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	8
		合計 8

ビット51		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	壺	1
		合計 5

ビット53		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ビット54		

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	3
		合計 3

ビット55		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ビット57		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
		合計 5

ビット59		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
		合計 2

ビット61		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ビット62		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
		合計 4

ビット63		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
		合計 2

ビット64		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
		合計 5

ビット67		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ビット70		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ビット71		
産地	器種	破片数
【陶器】		
渥美	甍	1
		合計 1

ビット72		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ビット73		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ビット74		
産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甍	2
		合計 2

第3面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	3
	かわらけ ロクロ成形	458
	かわらけ 手づくね成形	32
【青白磁】		
	合子身	1

【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	2

【陶器】		
中国	緑釉盤	1
瀬戸	折縁深皿	2
常滑	甍	22
	片口鉢Ⅰ類	3
	片口鉢Ⅱ類	1
山茶碗窯	片口鉢	5
山茶碗		1

【瓦質土器】		
	火鉢	4

【瓦】		
	平瓦	3

【石製品】		
	砥石	1
	用途不明	1

【金属製品】		
	銭貨	4
	釘	5
		合計 549

B区第4面		
土坑22		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	12
		合計 12

土坑23		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	24
【陶器】		
常滑	甍	2
山茶碗窯	片口鉢	1
		合計 27

土坑26		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	24
【石製品】		
	砥石	1
		合計 25

土坑28		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甍	3

【瓦質土器】		
	火鉢	1
		合計 10

土坑30		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	12
		合計 12

土坑32		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	2
		合計 6

ピット81		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ピット82		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ピット83		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
		合計 4

ピット84		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	3
		合計 3

ピット85		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ピット86		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ピット87		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ピット88		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
		合計 4

ピット93		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ピット95		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

第4面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	87
【白磁】		
	皿	1
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	2

【陶器】		
瀬戸	入子	1
	甕	24
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
	山茶碗	1
山茶碗窯	片口鉢	5

【瓦質土器】		
	火鉢	3

【瓦】		
	平瓦	3

【石製品】		
	滑石製石鍋	1
	砥石	2

【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	4
		合計 136

B区第5面

土坑33		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
		合計 4

ピット101		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	6
		合計 6

第5面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	52
	かわらけ 手づくね成形	2
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	1
	椀Ⅱ類	1

【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
	折縁深皿	1
	卸皿	1
常滑	甕	28
	片口鉢Ⅰ類	4
	片口鉢Ⅱ類	3

【瓦質土器】		
	火鉢	1

【瓦】		
	丸瓦	1
	平瓦	2

【石製品】		
	砥石	3

【金属製品】		
	釘	4
		合計 105

B区第6面

溝状遺構2		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	3
		合計 3

ピット96		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
		合計 2

第6面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ ロクロ成形	49
	かわらけ 手づくね成形	5
【青磁】		
龍泉窯系	小椀Ⅰ-2類	1

ピット98		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

【陶器】		
常滑	甕	11
	片口鉢Ⅰ類	4

ピット99		
産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
		合計 1

【瓦質土器】		
	火鉢	1

【瓦】		
	丸瓦	1
	平瓦	2

【石製品】		
	滑石製石鍋	1
	砥石	1

【須恵器】		
	高坏	1
		合計 78



1. A区西壁土層断面北側(南東から)



2. A区西壁土層断面中央(北東から)



3. A区西壁土層断面南側(北東から)



1. A区第1面全景(南から)



2. A区第1面全景(北から)



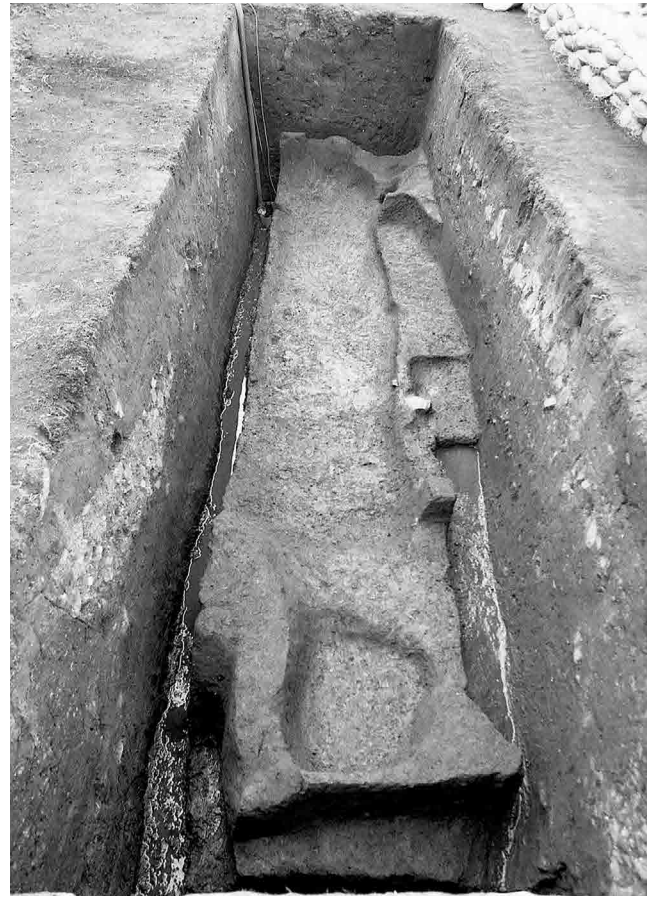
3. A区第2面全景(南から)



4. A区第2面全景(北から)



1. A区第3面全景(南から)



2. A区第3面全景(北から)



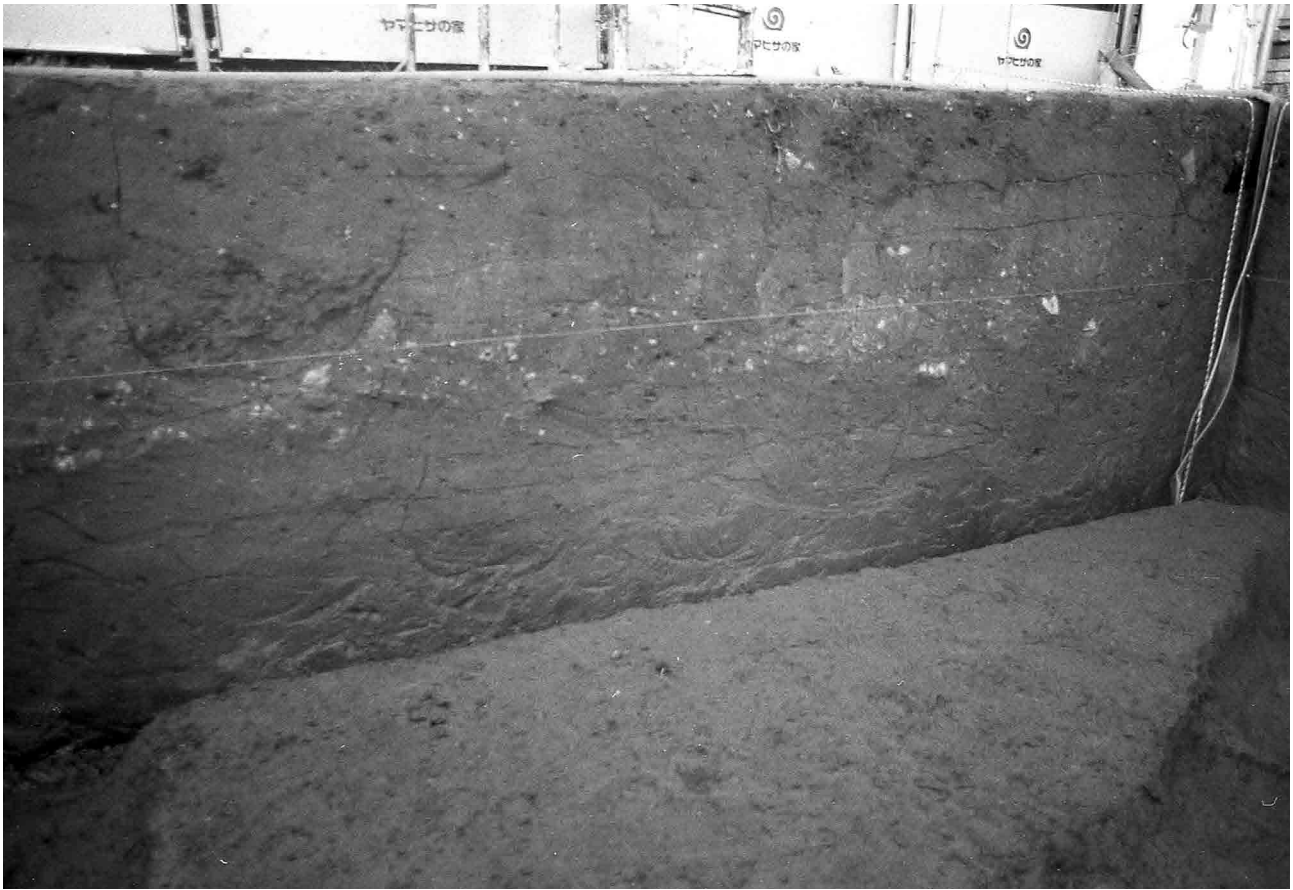
3. A区第1面 竪穴状遺構1 泥岩出土状況(北から)



4. A区第3面 土坑15(南から)



5. A区トレンチ完掘状況(東から)



1. B区西壁北側土層断面(南東から)



2. B区西壁南側土層断面(北東から)



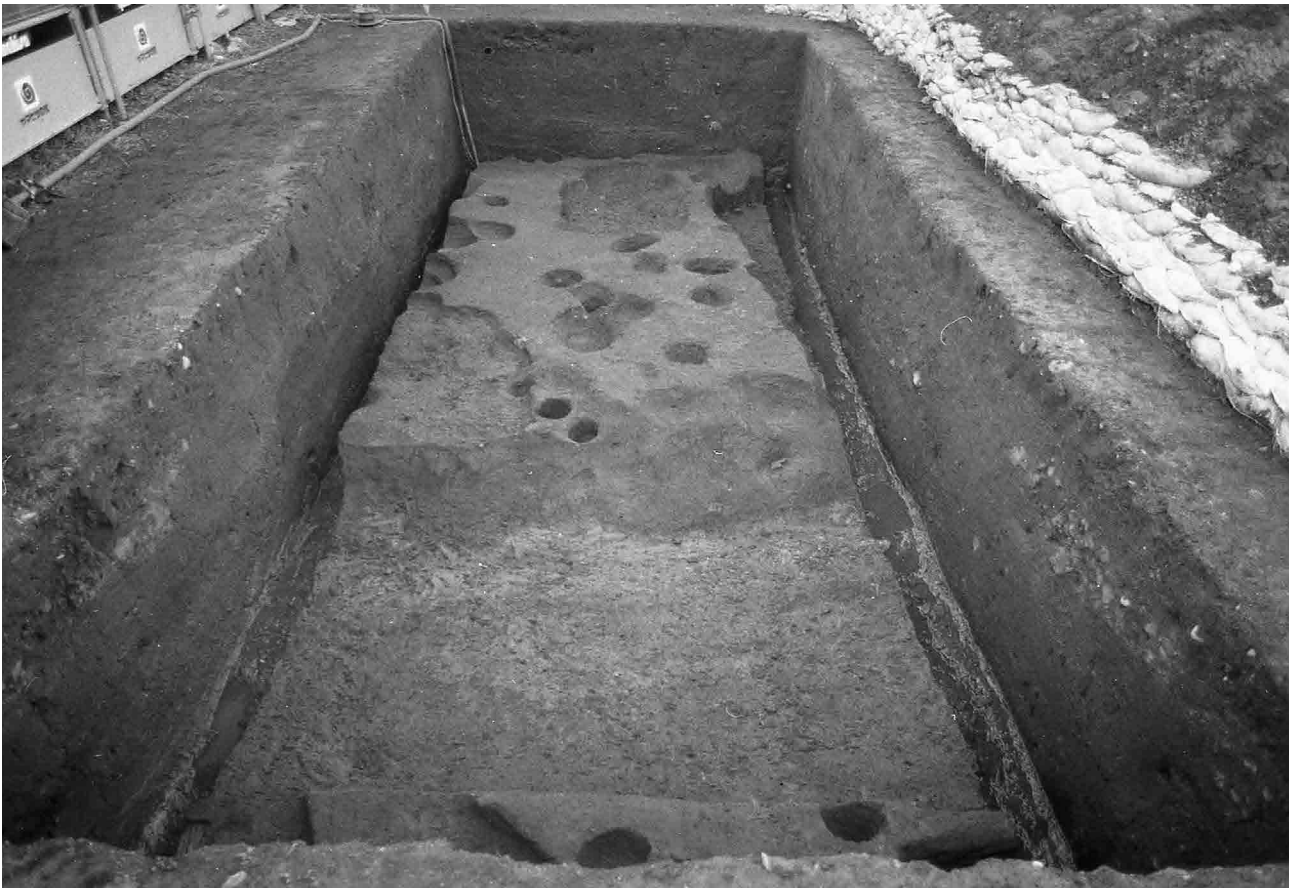
1. B区第1面全景(南東から)



2. B区第2面全景(南から)



1. B区第3面全景(南から)



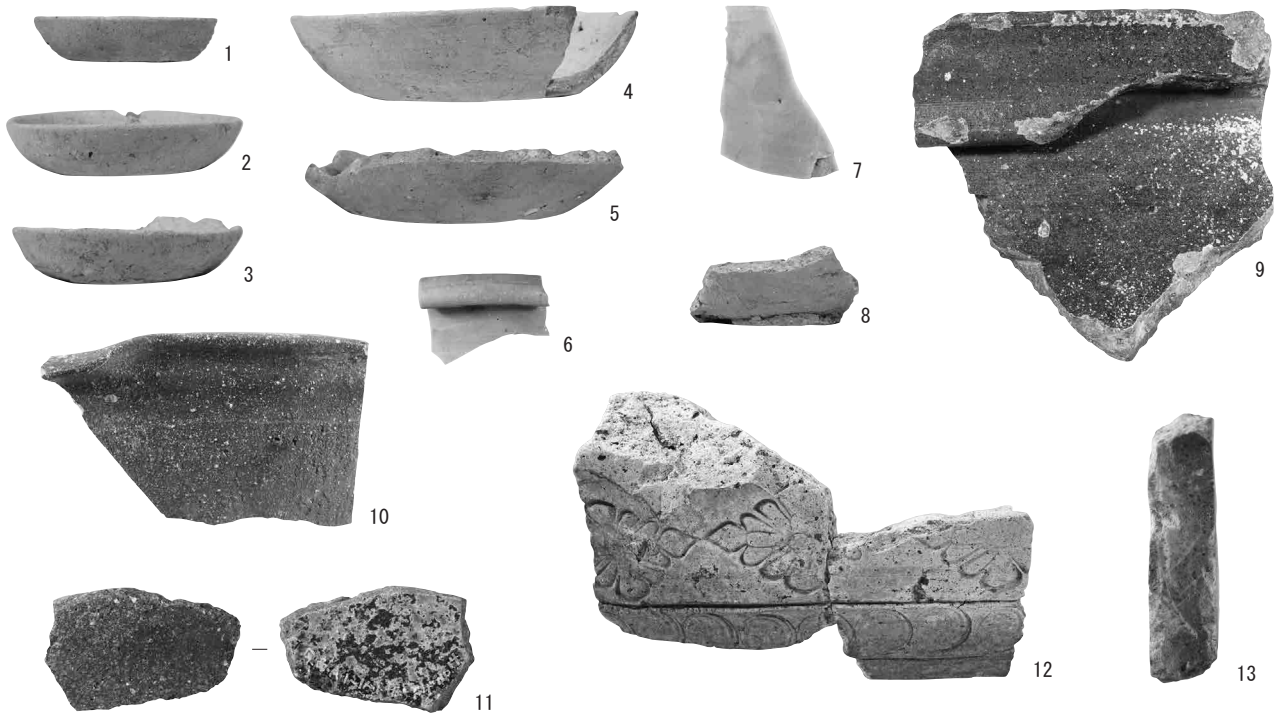
2. B区第4面全景(南から)



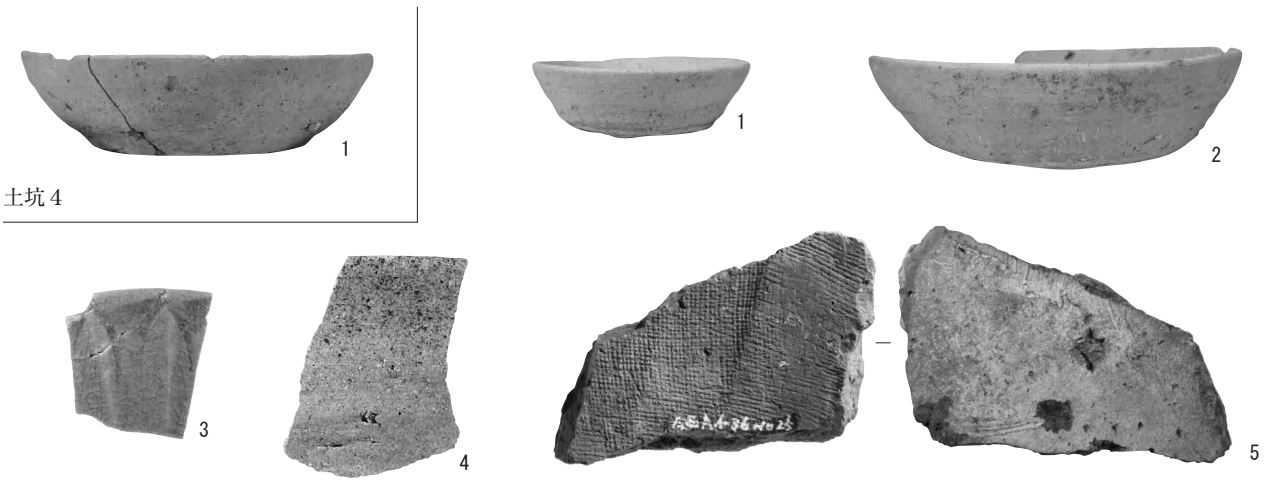
1. B区第5面全景(南から)



2. B区第6面全景(南から)

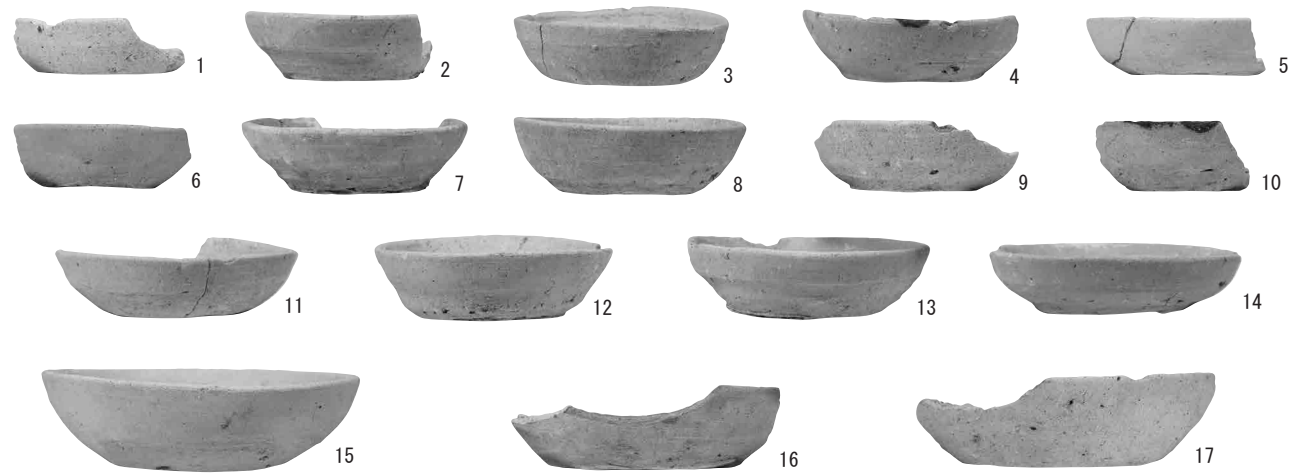


1. A区第1面 遺構外出土遺物



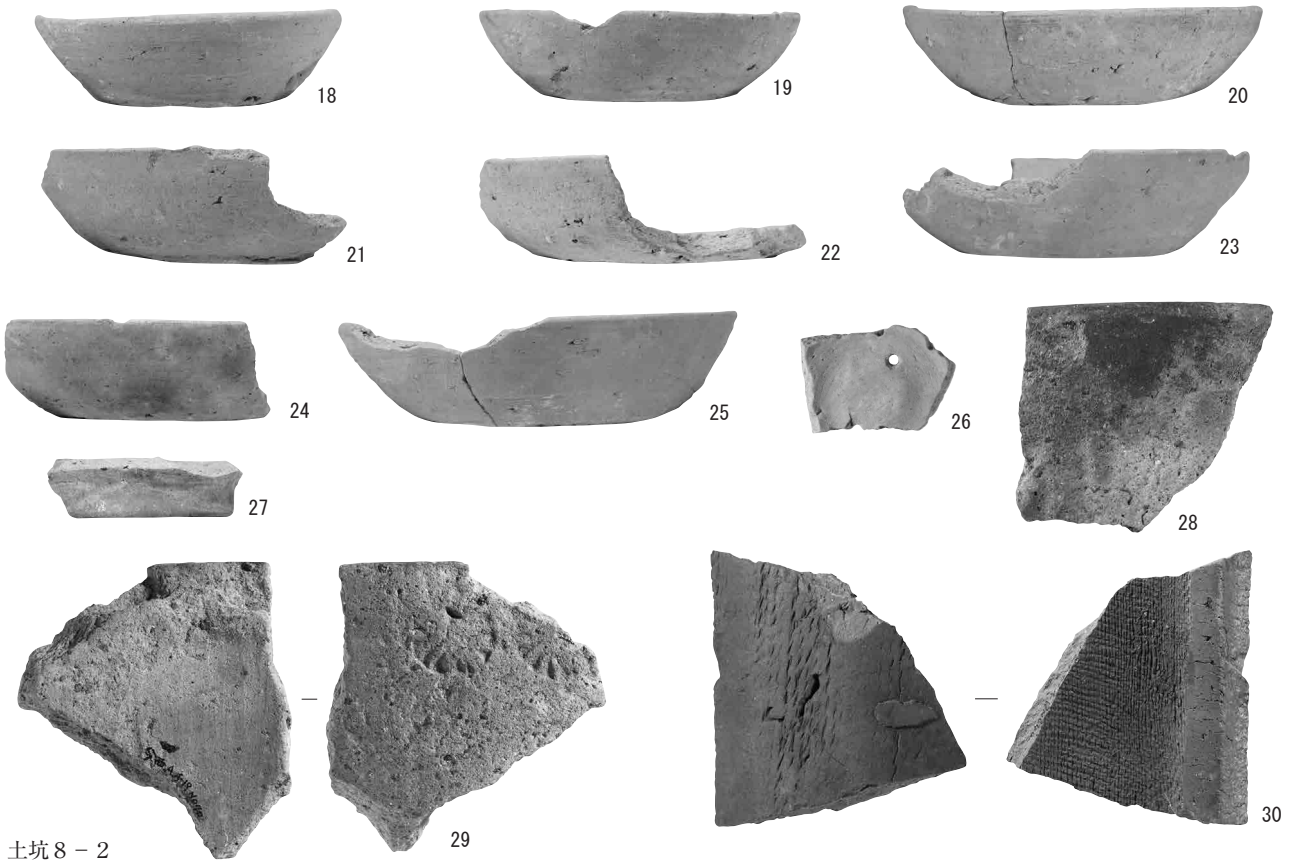
土坑4

土坑5

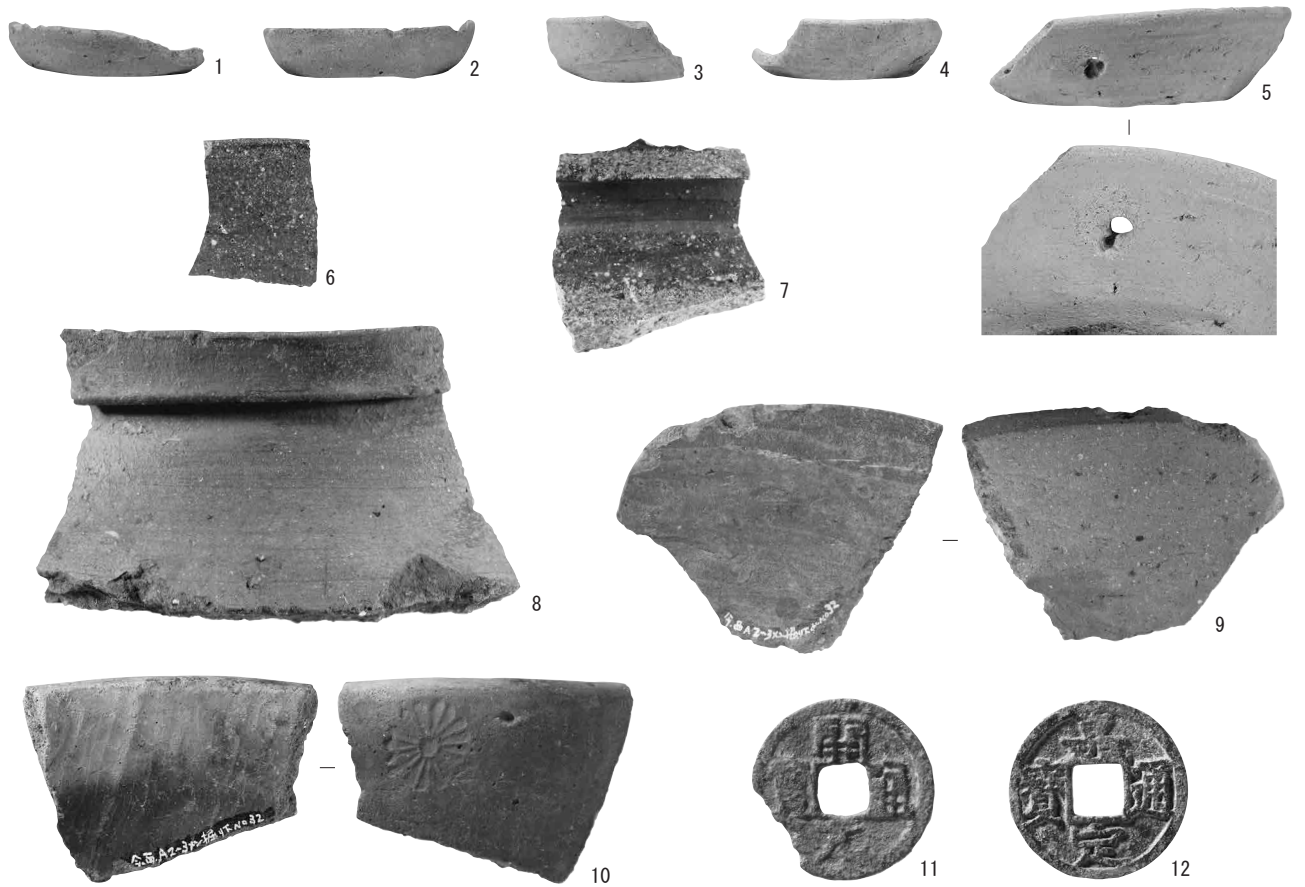


土坑8-1

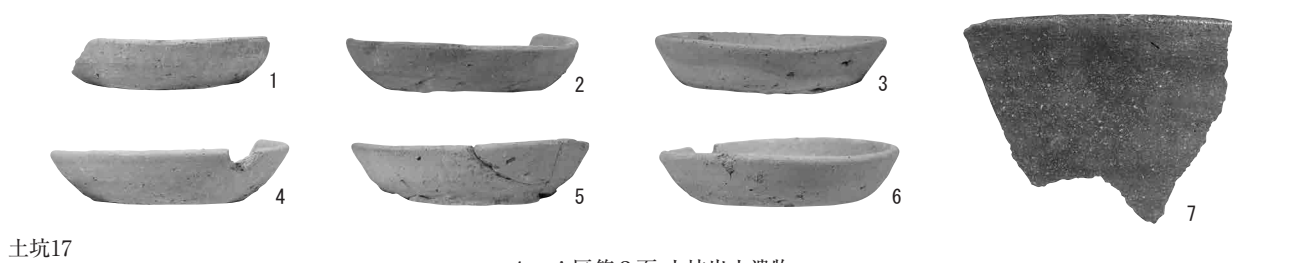
2. A区第2面 土坑出土遺物(1)



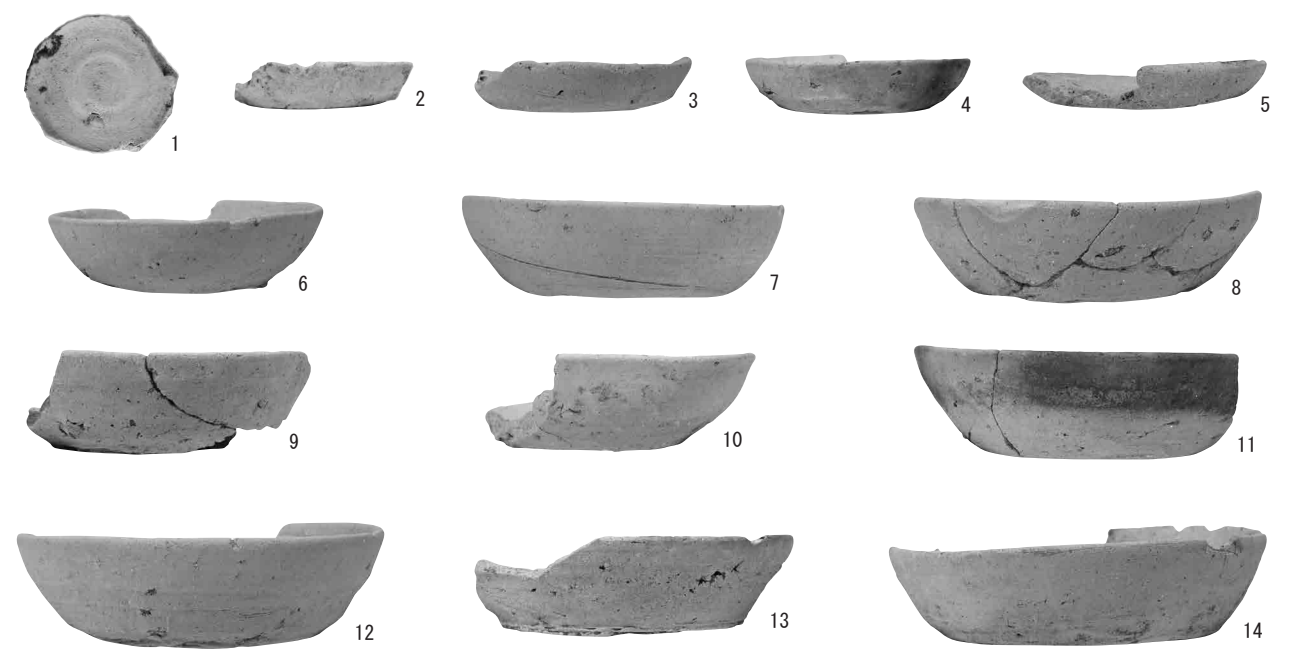
1. A区第2面 土坑出土遗物(2)



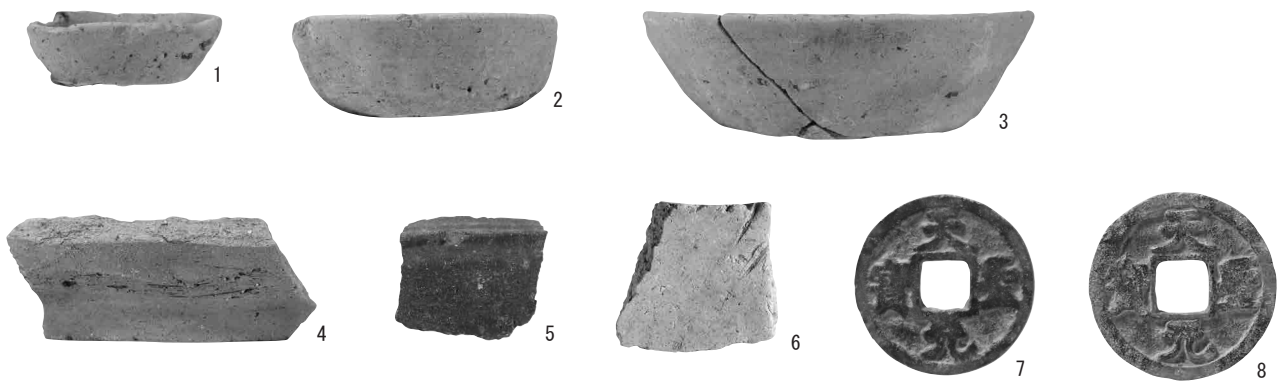
2. A区第2面 遺構外出土遺物



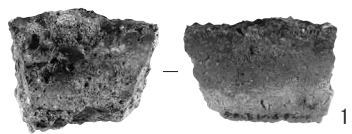
1. A区第3面 土坑出土遺物



2. A区第3面 遺構外出土遺物



1. B区第1面 地業1出土遺物



2. B区第1面 土坑2出土遺物



3. B区第1面 遺構外出土遺物



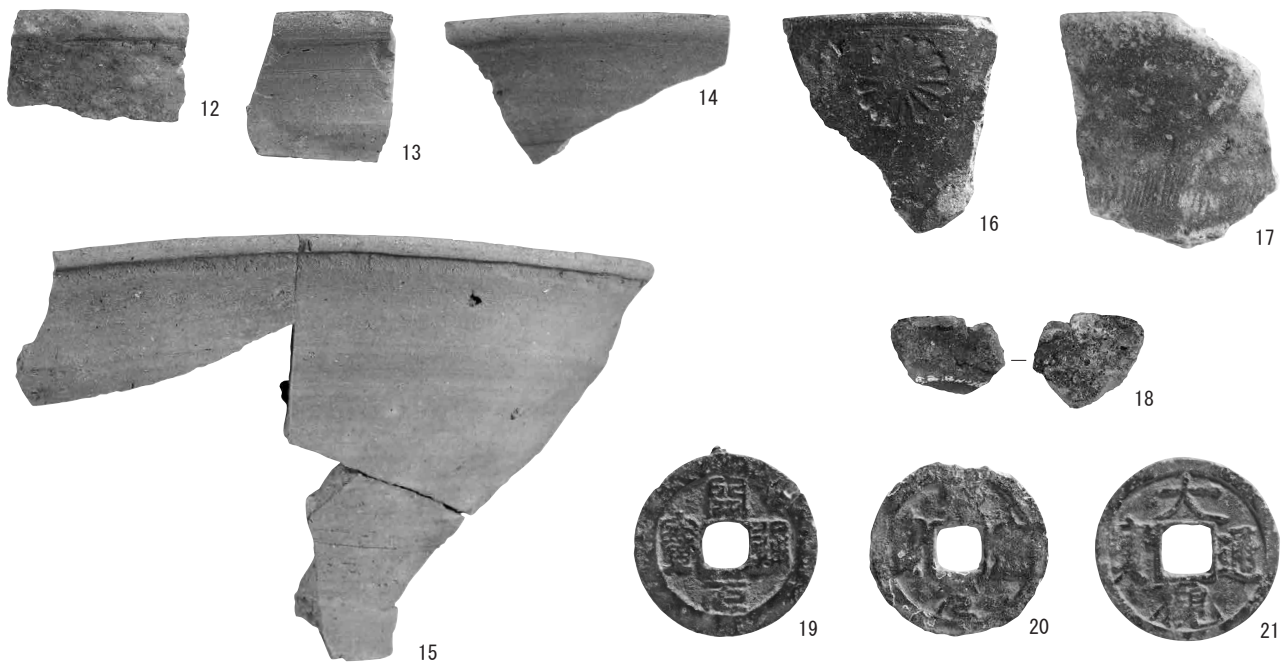
4. B区第2面 土坑3出土遺物



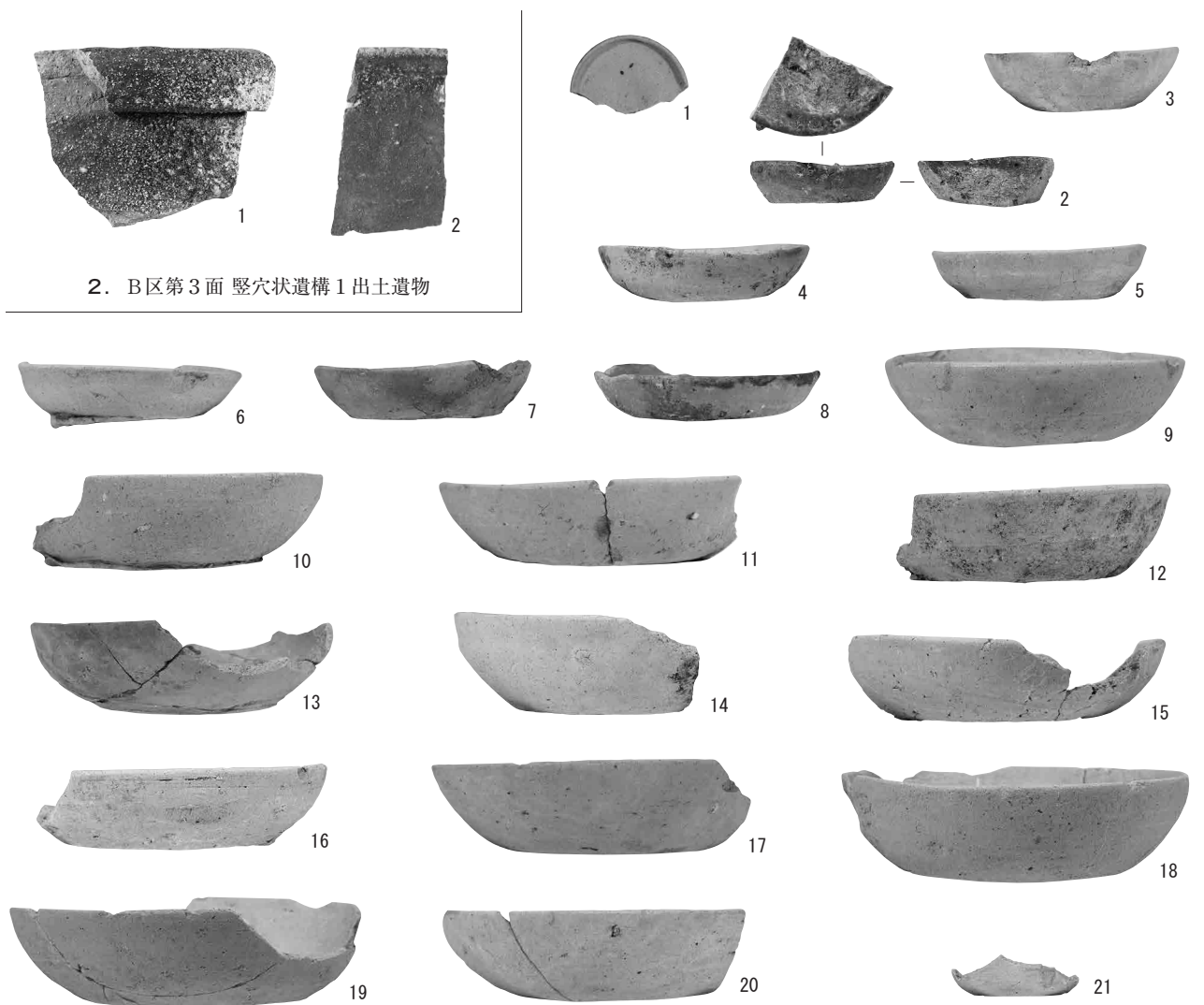
5. B区第2面 ピット31出土遺物



6. B区第2面 遺構外出土遺物(1)

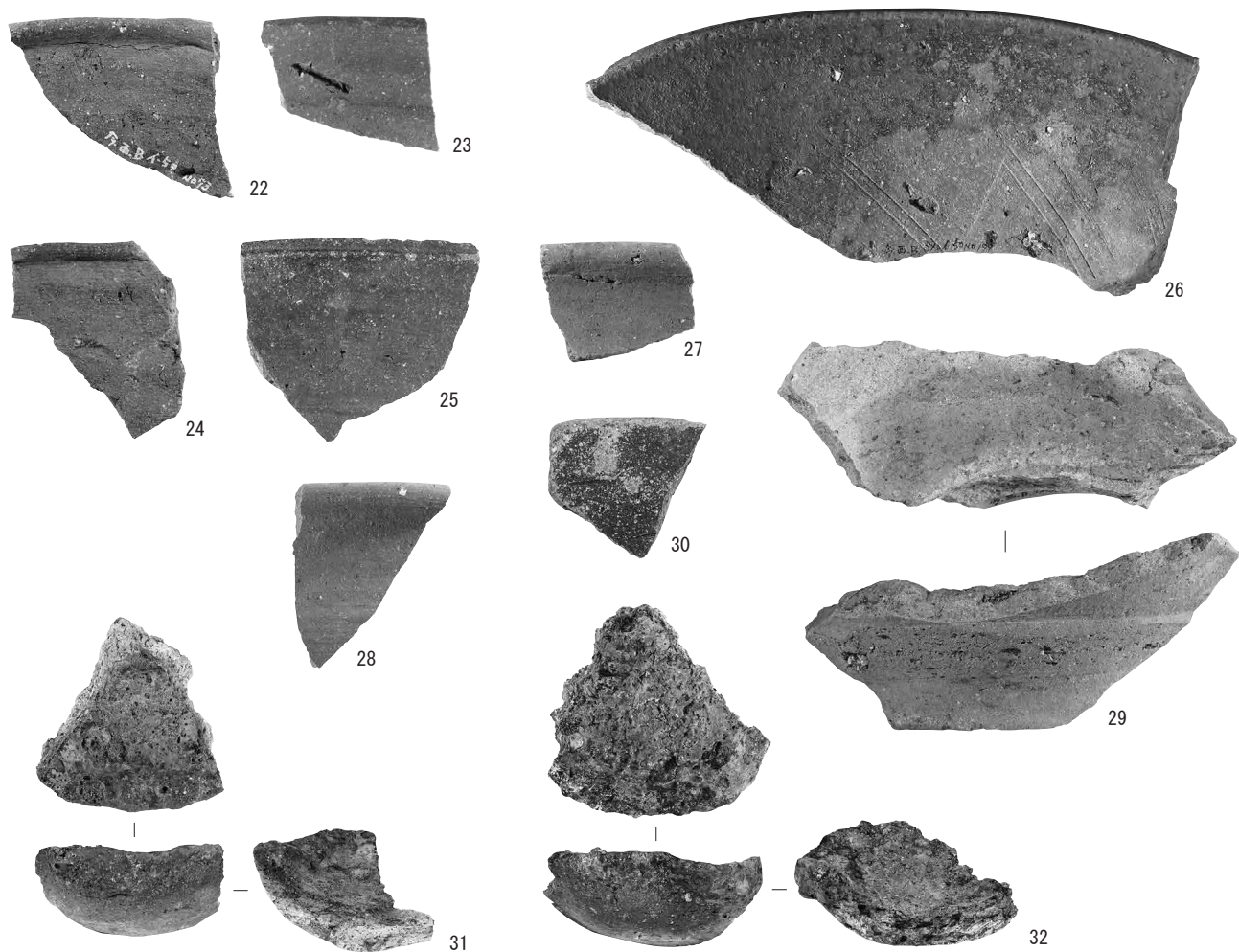


1. B区第2面 遺構外出土遺物(2)

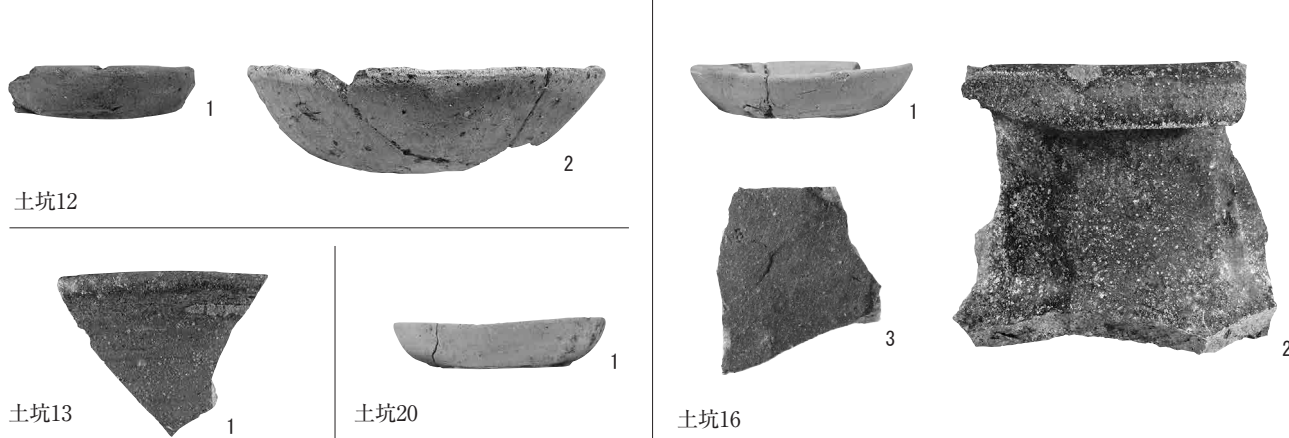
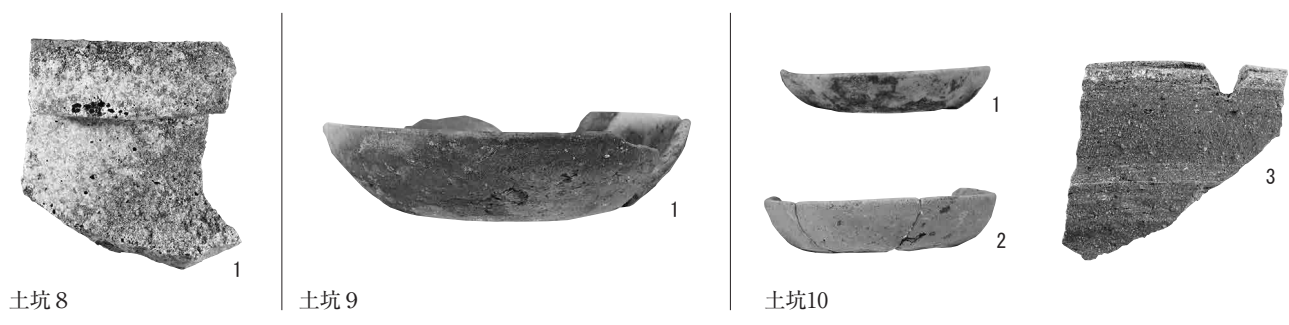


2. B区第3面 竖穴状遺構 1 出土遺物

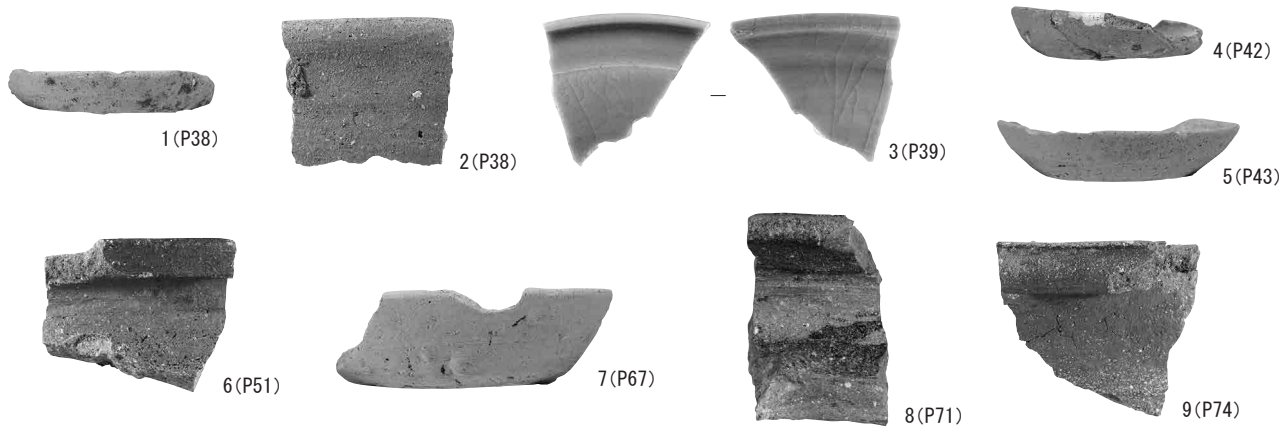
3. B区第3面 溝状遺構 1 出土遺物(1)



1. B区第3面 沟状遗構1出土遺物(2)



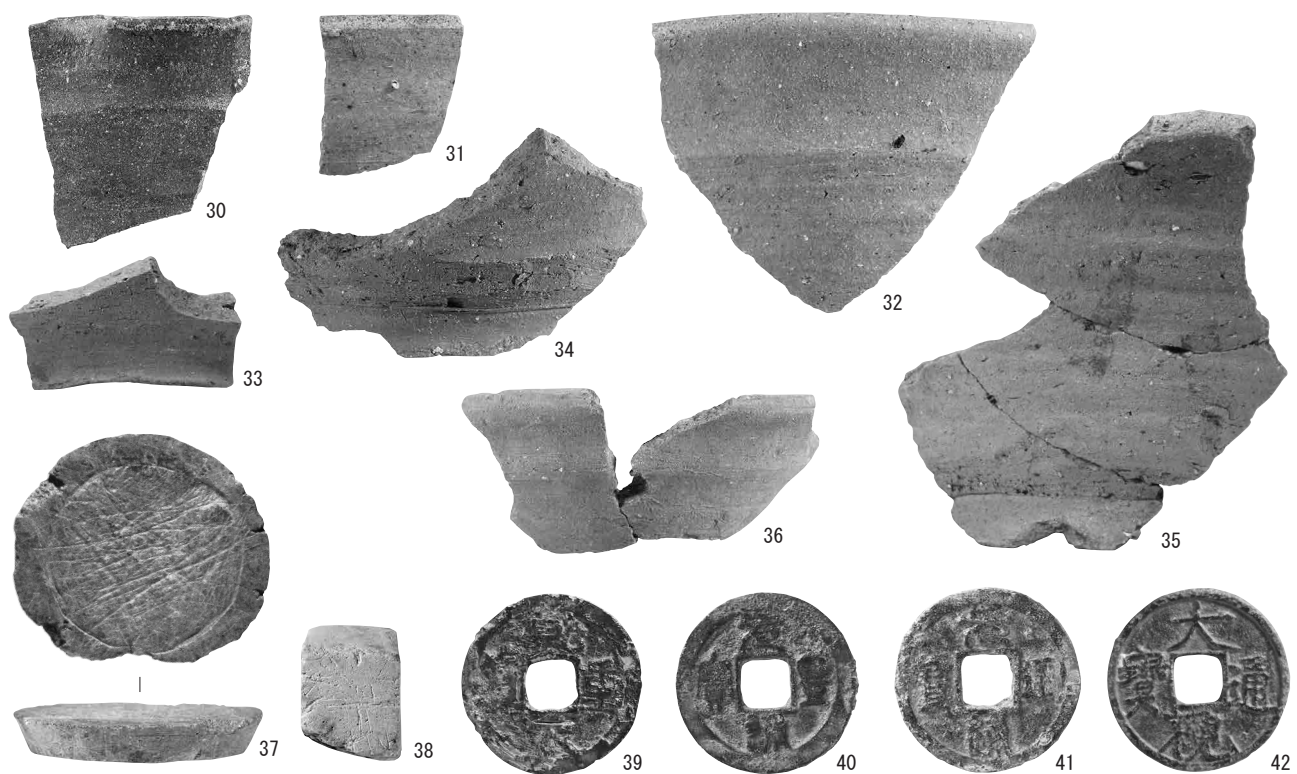
2. B区第3面 土坑出土遺物



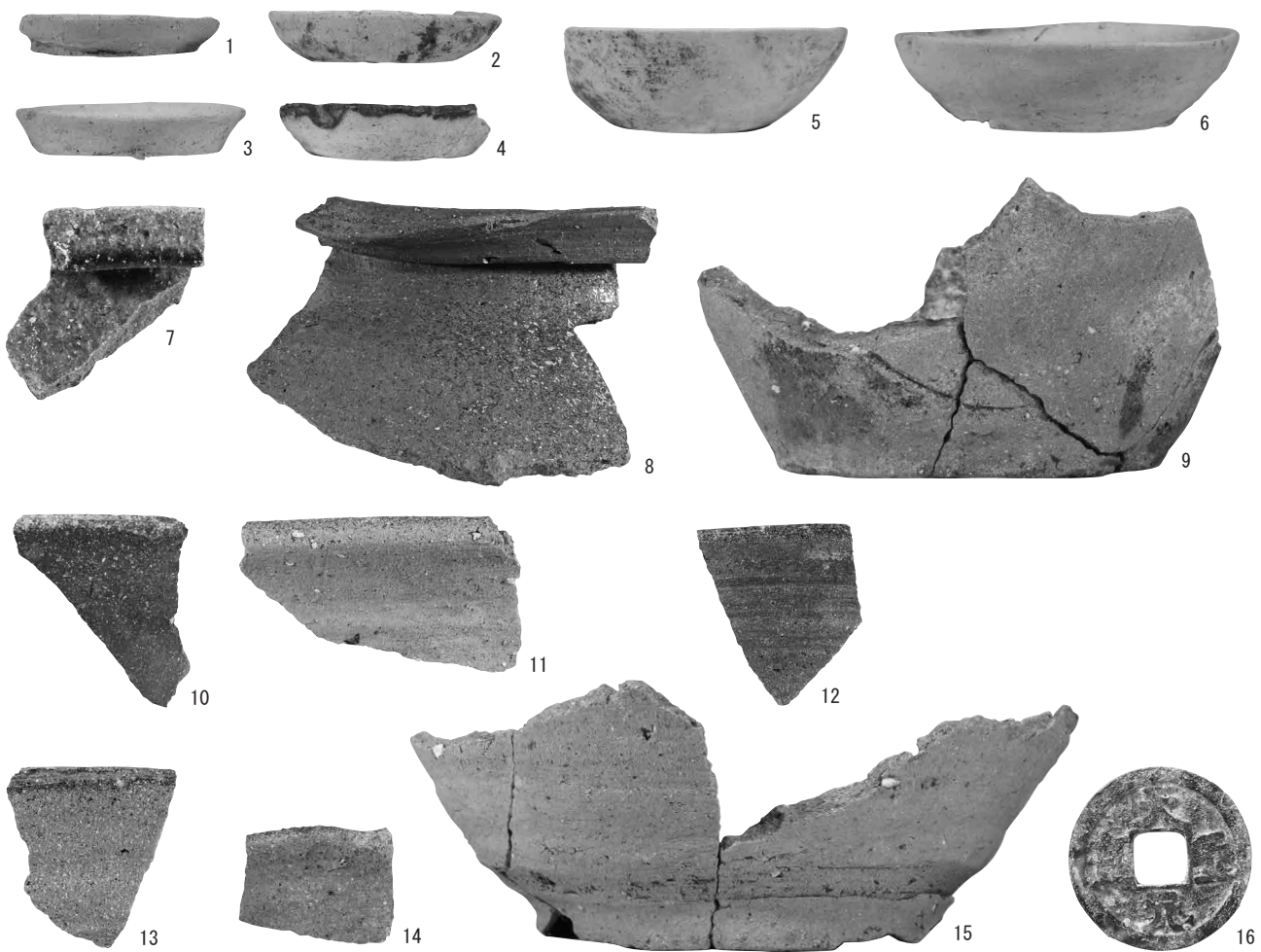
1. B区第3面ピット出土遺物



2. B区第3面遺構外出土遺物(1)



1. B区第3面 遺構外出土遺物(2)



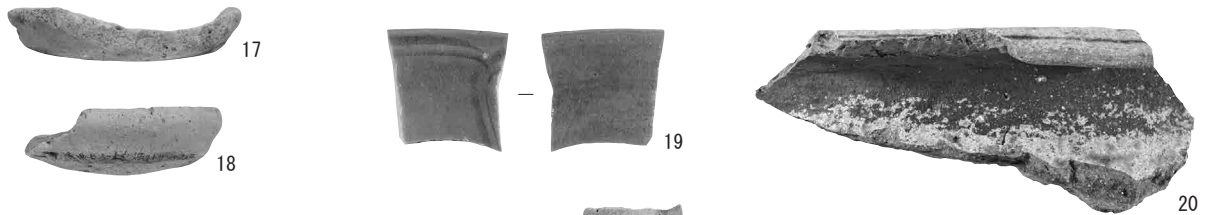
2. B区第4面 遺構外出土遺物



1. B区第5面 ピット98出土遺物



2. B区第5面 遺構外出土遺物



3. B区第6面 遺構外出土遺物

今小路西遺跡 (No.201)

由比ガ浜一丁目147番2外地点

例 言

1. 本報は「今小路西遺跡」（神奈川県遺跡台帳No.201）内、鎌倉市由比ガ浜一丁目147番2外地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 発掘調査は平成19年7月27日～同年9月28日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は約112㎡である。
3. 発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者 原 廣志
調査員・調査補助員 梅岡ケイト・小野夏菜・須佐直子・須佐仁和・鈴木絵美・高橋奈美・平井里永子・山口正紀
作業員 石井清司・浅香文保・秋田公祐・宝珠山秀雄・舟田峰夫
(公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター)
4. 本報告書の作成並びに編集は鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。
5. 第四章の出土動物遺体の鑑定・執筆は、東京国立博物館客員研究員金子浩昌氏に依頼した。
6. 本報に掲載した写真は、遺構を原 廣志、遺物を赤間和重が撮影した。
7. 測量基準杭の設置にあたっては、日本測地系（座標系AREA 9）を用い、図4に座標値を示した。
8. 発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「IN0706」とした。
10. 遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60cm以上の掘り込みを土坑とし、60cm未満のものをピットとして扱った。
11. 遺物挿図中の網掛けおよび指示は、以下のとおりである。

■ 煤およびタール状の黒色物が付着している部分・炭化範囲
■ 溶解金属が付着している部分
・石製品の矢印は磨面範囲を示す。
12. 遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。

かわらけ：鎌倉かわらけ研究会 2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』
瀬 戸：愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史別編 窯業2 中世・近世 瀬戸編』
渥美・常滑：愛知県史編さん委員会 2012『愛知県史別編 窯業3 中世・近世 常滑編』
貿易陶磁：太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』
13. 出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである（順不同）。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・小森明美・西本正憲・西野吉論・齊藤武士・玉川久子・赤間和重・御代七重・木村百合子・田村正義・唐原賢一・大貫由美・花本晶子・浅野真里・御代祐子・深澤繁美・山田浩介（玉川文化財研究所）
14. 報告書作成にあたっては、伊丹まどか氏からご協力を賜った。ここに記して感謝する次第である。

目次

第一章 遺跡と調査地点の概観	132
第1節 調査に至る経緯と経過	132
第2節 調査地点の位置と歴史的環境	132
第3節 周辺の考古学的調査	134
第二章 堆積土層	138
第三章 発見された遺構と遺物	140
第1節 第1面の遺構と遺物	140
第2節 第2面の遺構と遺物	156
第3節 第3面の遺構と遺物	169
第4節 第4面の遺構と遺物	189
第5節 第5面の遺構と遺物	192
第四章 今小路西遺跡出土の動物遺体	195
第五章 まとめ	198

挿図目次

図1 遺跡位置図	133	図17 第1面 土坑21出土遺物	150
図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡	135	図18 第1面 土坑16～27	151
図3 調査区位置図	137	図19 第1面 土坑23出土遺物	153
図4 調査区配置図	137	図20 第1面 土坑24出土遺物	153
図5 調査区土層断面図	139	図21 第1面 土坑25出土遺物	153
図6 第1面 遺構分布図	141	図22 第1面 土坑27出土遺物	153
図7 第1面 掘立柱建物1	142	図23 第1面 ピット出土遺物	154
図8 第1面 掘立柱建物1出土遺物	143	図24 第1面 遺構外出土遺物	155
図9 第1面 土坑4出土遺物	144	図25 第2面 遺構分布図	157
図10 第1面 土坑1～7	145	図26 第2面 井戸1出土遺物	158
図11 第1面 土坑7出土遺物	146	図27 第2面 井戸1・2	159
図12 第1面 土坑8出土遺物	146	図28 第2面 土坑28出土遺物	160
図13 第1面 土坑10出土遺物	147	図29 第2面 土坑29出土遺物	160
図14 第1面 土坑11出土遺物	147	図30 第2面 土坑30出土遺物	160
図15 第1面 土坑8～15	148	図31 第2面 土坑28～33	161
図16 第1面 土坑12出土遺物	149	図32 第2面 土坑33出土遺物	162

図33	第2面	土坑34出土遺物	162	図57	第3面	土坑60出土遺物	177
図34	第2面	土坑34~37	163	図58	第3面	土坑61出土遺物	178
図35	第2面	土坑35出土遺物	164	図59	第3面	土坑62出土遺物	178
図36	第2面	土坑36出土遺物	164	図60	第3面	土坑63出土遺物	178
図37	第2面	土坑38出土遺物	164	図61	第3面	土坑57~63	179
図38	第2面	土坑42出土遺物	165	図62	第3面	土坑67出土遺物	180
図39	第2面	土坑38~46	166	図63	第3面	土坑64~71	181
図40	第2面	土坑45出土遺物	167	図64	第3面	土坑69出土遺物	182
図41	第2面	土坑46出土遺物	167	図65	第3面	土坑70出土遺物	182
図42	第2面	ピット出土遺物	168	図66	第3面	土坑79出土遺物	184
図43	第2面	遺構外出土遺物(1)	168	図67	第3面	土坑80出土遺物	184
図44	第2面	遺構外出土遺物(2)	169	図68	第3面	土坑72~80	185
図45	第3面	遺構分布図	170	図69	第3面	土坑81~84	186
図46	第3面	井戸3	171	図70	第3面	土坑82出土遺物	186
図47	第3面	井戸3出土遺物	171	図71	第3面	ピット出土遺物	187
図48	第3面	木組遺構1	172	図72	第3面	遺構外出土遺物(1)	188
図49	第3面	木組遺構1出土遺物	172	図73	第3面	遺構外出土遺物(2)	189
図50	第2面	土坑47~50	173	図74	第4面	遺構分布図	190
図51	第3面	土坑49出土遺物	174	図75	第4面	溝状遺構1	191
図52	第3面	土坑51出土遺物	174	図76	第4面	土坑85	191
図53	第3面	土坑53出土遺物	175	図77	第4面	遺構外出土遺物	192
図54	第3面	土坑54出土遺物	175	図78	第5面	遺構分布図	193
図55	第3面	土坑51~56	176	図79	第5面	土坑86~88	194
図56	第3面	土坑58出土遺物	177	図80	第5面	遺構外出土遺物	194

表 目 次

表1	今小路西遺跡 調査地点一覧	136	表5	第4面 出土遺物観察表	209
表2	第1面 出土遺物観察表	201	表6	第5面 出土遺物観察表	209
表3	第2面 出土遺物観察表	203	表7	遺構計測表	210
表4	第3面 出土遺物観察表	206	表8	出土遺物一覧表	211

図 版 目 次

<p>図版 1 1. 北壁西側土層断面(南西から)・・ 219 2. 北壁東側土層断面(南西から)・・ 219</p> <p>図版 2 1. 調査区西側第 1 面全景 (南東から)・・・・・・・・ 220 2. 調査区東側第 1 面全景 (南東から)・・・・・・・・ 220</p> <p>図版 3 1. 調査区西側第 2 面全景 (北西から)・・・・・・・・ 221 2. 第 2 面 井戸 2 (南から)・・・・ 221</p> <p>図版 4 1. 調査区西側第 3 面全景 (北西から)・・・・・・・・ 222 2. 調査区東側第 3 面全景 (北西から)・・・・・・・・ 222</p> <p>図版 5 1. 第 3 面 井戸 3 井戸枠検出状況 (南西から)・・・・・・・・ 223 2. 第 3 面 木組遺構 1 (西から)・・・・ 223 3. 第 3 面 木組遺構 1 南隅構築材検出 状況(北西から)・・・・・・・・ 223</p> <p>図版 6 1. 調査区北側第 4・5 面全景 (南東から)・・・・・・・・ 224 2. 第 5 面 土坑 87・88 全景 (北西から)・・・・・・・・ 224</p> <p>図版 7 1. 第 1 面 掘立柱建物 1 出土遺物・・ 225</p>	<p>2. 第 1 面 土坑出土遺物(1)・・・・ 225</p> <p>図版 8 1. 第 1 面 土坑出土遺物(2)・・・・ 226 2. 第 1 面 ピット出土遺物(1)・・・・ 226</p> <p>図版 9 1. 第 1 面 ピット出土遺物(2)・・・・ 227 2. 第 1 面 遺構外出土遺物(1)・・・・ 227</p> <p>図版 10 1. 第 1 面 遺構外出土遺物(2)・・・・ 228 2. 第 2 面 井戸 1 出土遺物・・・・ 228 3. 第 2 面 土坑出土遺物(1)・・・・ 228</p> <p>図版 11 1. 第 2 面 土坑出土遺物(2)・・・・ 229 2. 第 2 面 ピット出土遺物・・・・ 229 3. 第 2 面 遺構外出土遺物(1)・・・・ 229</p> <p>図版 12 1. 第 2 面 遺構外出土遺物(2)・・・・ 230 2. 第 3 面 井戸 3 出土遺物・・・・ 230 3. 第 3 面 木組遺構 1 出土遺物・・・・ 230 4. 第 3 面 土坑出土遺物(1)・・・・ 230</p> <p>図版 13 1. 第 3 面 土坑出土遺物(2)・・・・ 231</p> <p>図版 14 1. 第 3 面 土坑出土遺物(3)・・・・ 232 2. 第 3 面 ピット出土遺物・・・・ 232</p> <p>図版 15 1. 第 3 面 遺構外出土遺物(1)・・・・ 233</p> <p>図版 16 1. 第 3 面 遺構外出土遺物(2)・・・・ 234 2. 第 4 面 遺構外出土遺物・・・・ 234 3. 第 5 面 遺構外出土遺物・・・・ 234</p>
---	---

第一章 遺跡と調査地点の概観

第1節 調査に至る経緯と経過

今回の発掘調査は、鎌倉市由比ガ浜一丁目147番2外地点で実施した個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である今小路西遺跡(神奈川県遺跡台帳No201)の範囲内にあたり、近隣地における過去の発掘調査成果から、地下に埋蔵文化財が存在することが確実であった。建築主から鋼管杭工事を伴う建築計画について相談を受けた鎌倉市教育委員会は、文化財保護法に基づく発掘調査等の措置について建築主と協議した。その結果、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される範囲の約112㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、原 廣志が現地調査を担当した。

現地調査期間は平成19年7月27日～同年9月28日までの2ヵ月あまりで、調査面積は約112㎡である。現地表の標高は約8.1～8.3mを測る。掘削に伴う残土を場内処理する都合から調査区をほぼ同面積で南北に区分し、便宜上西側をⅠ区、東側をⅡ区と呼称した。調査はⅠ区から実施することとし、まず重機により30～50cmほどの表土を除去することから始め、その後はすべて人力による作業となった。調査の結果、中世に属する第1～3面を検出し、さらに調査区北壁際にトレンチを設定して深掘り調査を行ったところ、中世前期以前に属する第4・5面を検出した。合計5面にわたる遺構確認面が検出され、各面において遺構を精査し、測量と写真撮影などの記録作業を行った。Ⅰ区の調査終了後に重機による埋め戻しを行い、その後Ⅱ区の調査に着手した。Ⅰ区と同様に重機による表土の除去から始め、Ⅰ区に対応する中世の遺構面および、中世前期以前の遺構面をそれぞれ確認し、調査を実施した。Ⅱ区はⅠ区に比べ湧水が多く、遺構および調査区の掘り下げには困難を伴った。また、当該地は表土以下は海岸由来の砂質土が堆積しており、掘削中に調査壁が崩落する危険が生じたため、2面以下については、犬走りを広く取り、調査区を適宜狭めながら調査せざるを得なかった。なお、Ⅰ区では1面以下3面まで3時期の面を確認したが、Ⅱ区では、2面に当たる確認面は明確に確認することができなかった。

なお、測量に際しては日本測地系(座標系AREA 9)に準じた、鎌倉市四級基準点2点($X = -76117.762$ 、 $Y = -25923.054$)、($X = -76089.440$ 、 $Y = -25914.691$)を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。また海拔標高値は、鎌倉市三級基準点No53119(標高9.947m)を基に移設した。

第2節 調査地点の位置と歴史的環境

今小路西遺跡(No201)は、現在の鎌倉市立御成小学校の校門前を南北方向に走る「今小路」の西側一帯の山際までを含み、北は寿福寺門前の手前、南は長谷小路沿い(県道鎌倉葉山線)の笹目谷の入口までを含む、南北1km以上、東西300mにも及ぶ広い範囲である。

遺跡地周辺の地形は、鎌倉の旧市街地を形成している平野部の西端付近にあたり、多少の起伏はあるものの標高8～9mほどの平坦面となっている。また、西側には源氏山南麓から派生する尾根筋(通称御成山)が南側に張り出しており、本調査地点の北側100mほどで平野部と接している。また、本調査地点の南側には佐助川が東流している。この川は、佐助稲荷、銭洗弁天を源に佐助ヶ谷を南流し、谷戸の開口部付近では東流して、下馬交差点付近を経て滑川に合流している。



図1 遺跡位置図

本地点は、鎌倉市由比ガ浜一丁目147番2外に所在し、J R 鎌倉駅の南西約550mの地点に位置している。調査地点の北70mほどを東西に走る街路は、鎌倉市街地を東西に貫いており、この道を東に進むと今小路と交差し、一带には「塔ノ辻」の地名が残っている。江戸時代の地誌『新編鎌倉志』には、今小路の項に「今小路は寿福寺の前に石橋あり、勝橋と云う。鎌倉十橋の一なり。ここより南を今小路と云う。巽荒神の辺より南を長谷までの間は長谷小路と云うなり」とある。本地点を含む今小路西遺跡も鎌倉の都市計画の中で形成された遺跡であったといえよう。

第3節 周辺の考古学的調査

本調査地点を含む今小路西遺跡およびその周辺地域では、律令制下の相模国鎌倉郡衙跡や中世の武家屋敷の構造が明らかにされた御成小学校内の発掘調査がよく知られているが、これまでも大小様々な規模の発掘調査が行われてきた。特に、①御成小学校内地点(河野・宮田ほか 1990、河野 1993)や、隣接する②社会福祉センター用地内・御成町625番2地点(河野・宮田ほか 1993)は本地点とも近く、関連性があるものと考えられる。本節ではこれら近隣の遺跡を中心に概観したい。

はじめに御成小学校内の発掘調査からみていきたい。昭和59年から60年にかけて校舎の改築に伴って行われた調査で約6,000㎡が発掘調査された。本調査地点を含め御成小学校校地と現鎌倉市役所用地の大半は、かつての皇室御用邸であったことから、調査時に御用邸に関する記録も取られている。郡衙遺構は最下層で確認された。掘立柱建物の配置やその重複関係から6期(古代I～VI期)の変遷が明らかにされた。長大な側柱建物3棟が「コ」の字状に配された郡庁域や、複数棟からなる総柱建物の正倉域はのちに基壇構造の正倉域に変わり、周囲には多数の雑舎群も確認された。県下では武蔵国都筑郡衙に次ぐ調査事例で、従来不明瞭だった古代の鎌倉の姿を一挙に明るみに出したといえよう。

この小学校内の発掘調査では、中世(14世紀前葉頃)の南北に並ぶ大きな二つの武家屋敷跡とそれを取り巻く庶民の居住区(町屋)や道路跡までもが確認された。南側で確認された武家屋敷は、北側の屋敷とは土塁で、南側と東側は柱穴列で仕切られていた。また、南側と東側にはそれぞれ門も認められた。屋敷地全体は東西60～70m、南北60mほどと推定され、面積は3,600㎡を超えるとみられている。南側で発見された母屋と推定されている建物は、南北5間、東西4間の三面に廂がつく礎石建物である。一方、北側にはあまり大きくない掘立柱建物群が配されており、母屋とは柱穴列(目隠堀か)で仕切られている。北側の隣家との境界には東西方向の長大な土坑が掘られており、多量の木製品を含む遺物が廃棄されていた。出土遺物の中には茶道具や舶載磁器も若干数はあるが、基本的には日常雑器類が多く、屋敷地内の建物構成などについても報告書では屋敷の主人に仕える郎従や下人らの住居や厨などがあった区域と推定している。北側の武家屋敷は、その一部が明らかにされただけで、屋敷地の形状や面積は不明であるが、建物の配置や規模などからみて南側よりも広い屋敷地であったと推定されている。また、南側屋敷との境界に設けられた土塁は、北側屋敷の築造時に築かれたもので、土塁の内側に掘られた大溝は若宮大路の側溝と同じ木組の構造のものであったという。規模は異なるが同様の溝は屋敷地内にもみられ、大溝に注ぐ排水溝であったと推定されている。この屋敷地内では、隙間なく大形の建物が検出された。10棟のうち7棟が礎石建物で、他の2棟も大形の掘立柱形式の建物であった。いずれの建物も軸線を揃えており、計画的な築造であったという。当初の中心的建物は基壇構造の5間四方の礎石建物で、四面に廂がつき、付近から軒瓦が出土したことから瓦葺き建物であったと考えられている。この建物は、渡り廊下で連結されており、その先の建物は主殿ともみられている。屋敷地の奥には基壇構造の5間四



図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡

方の礎石建物や、倉庫と推定されている土居建物など、生活感があまり感じられない建物が作られている。また、奥の空間には大形の井戸が発見されている。六角形を呈する木組の井戸で、鎌倉では唯一のものであり、内部からは舶載磁器の高級品が出土している。これらの建物は火災ですべて失われているが、調査担当者は関連書(石井・大三輪編 1989)などにおいて、屋敷地内の変遷の中で終焉の時期を幕府滅亡までの間に求めている。また、武家屋敷の構造についても踏み込んだ考察が行われている。

さらに、御成小学校内の調査では屋敷地の外から「庶民居住区」とされる遺構と道路が確認されている。庶民居住区は「町屋」に相当するもので、武家の屋敷地との違いが示されている。いくつかを挙げると、土地では大規模な地業は行われず、礎石建物はまずない。建物の基本は掘立柱形式で、柱間も狭い。掘立柱建物の他に方形竪穴建物を伴っている。井戸は雑なつくりで、深さも概して浅い。また、排水溝や地境溝などにも武家屋敷では木組溝を設えているが、町屋では計画性に乏しい。なお、出土遺物からは階級性を示すような高級品ないし一括性の高い資料以外では、武家屋敷と庶民居住区の判断は難しいようである。

次に御成小学校の南100mほどに位置している社会福祉センター用地の調査成果を紹介したい。古代では小学校内の遺跡と同様に、大規模な掘立柱建物が2棟検出された。その一つは桁行5間の片面廂の建物で、両者ともに政庁域の真南にあたることから官衙に関係する雑舎群の一部と推定されている。

中世の遺構は、大きく前期と後期に二分され、前期では調査区の北側を東流する旧河川(佐助川の古流路)の南側に広がる平地で遺構が検出されている。また、この調査区内は両側溝をもつ南北道路によって大きく東西に二分されている。東側区画には、側溝に沿って門と思われる柱穴群があり、武家の屋敷地の一角が想定されている。一方、西側には小規模な掘立柱建物を中心に、方形竪穴建物や井戸、柵列、土坑などの遺構が検出され、北側とは様相の異なる町屋的な性格であろうと位置づけられている。後期に至ると様相は一変して衰退の色合いを濃くする。御成小学校内での武家屋敷の衰退と軸を同じくしていると考えられている。

図中外であるが、鎌倉市役所のすぐ北側で行われた今小路西遺跡御成町171番1外地点(菊川・長澤ほか 2008)でも、古代の総柱建物の配置が確認され、正倉域の広がり北側に広がっていることが明らかされた。また、中世では梁行4間以上の掘立柱建物が21棟、礎石建物も確認され、調査区内で最大の桁行7間の掘立柱建物は三方に廂をもつものであった。屋敷地の規模は不明であるが、柱穴列(板塀)もし

表1 今小路西遺跡 調査地点一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目147番2外地点	
①	今小路西遺跡 (No.201)	御成小学校内地点	河野・宮田ほか 1990、河野 1993
②	今小路西遺跡 (No.201)	社会福祉センター用地・御成町625番2地点	河野・宮田ほか 1993
③	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目157番7外地点	馬淵・沖元ほか 2012
④	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目151番1地点	鎌倉市教育委員会 2009
⑤	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目147番2地点	
⑥	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目147番1地点	
⑦	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目148番11地点	赤星 1983
⑧	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目148番5地点	滝澤・宮田 2004
⑨	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目148番1地点	野本 2002
⑩	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目141番5地点	香川ほか 2007
⑪	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目197番2地点	瀬田 2007
⑫	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目165番2地点	
⑬	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目136番1地点	
⑭	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目134番4地点	伊丹・渡邊 2017
⑮	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目183番1地点	汐見 2002
⑯	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目213番3地点	宗墓(秀)・宗墓(富)ほか 1993
⑰	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目213番12地点	
⑱	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目211番18・19地点	
⑲	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目147番1の一部地点	

※遺跡Noは神奈川県遺跡台帳による。



図3 調査区位置図

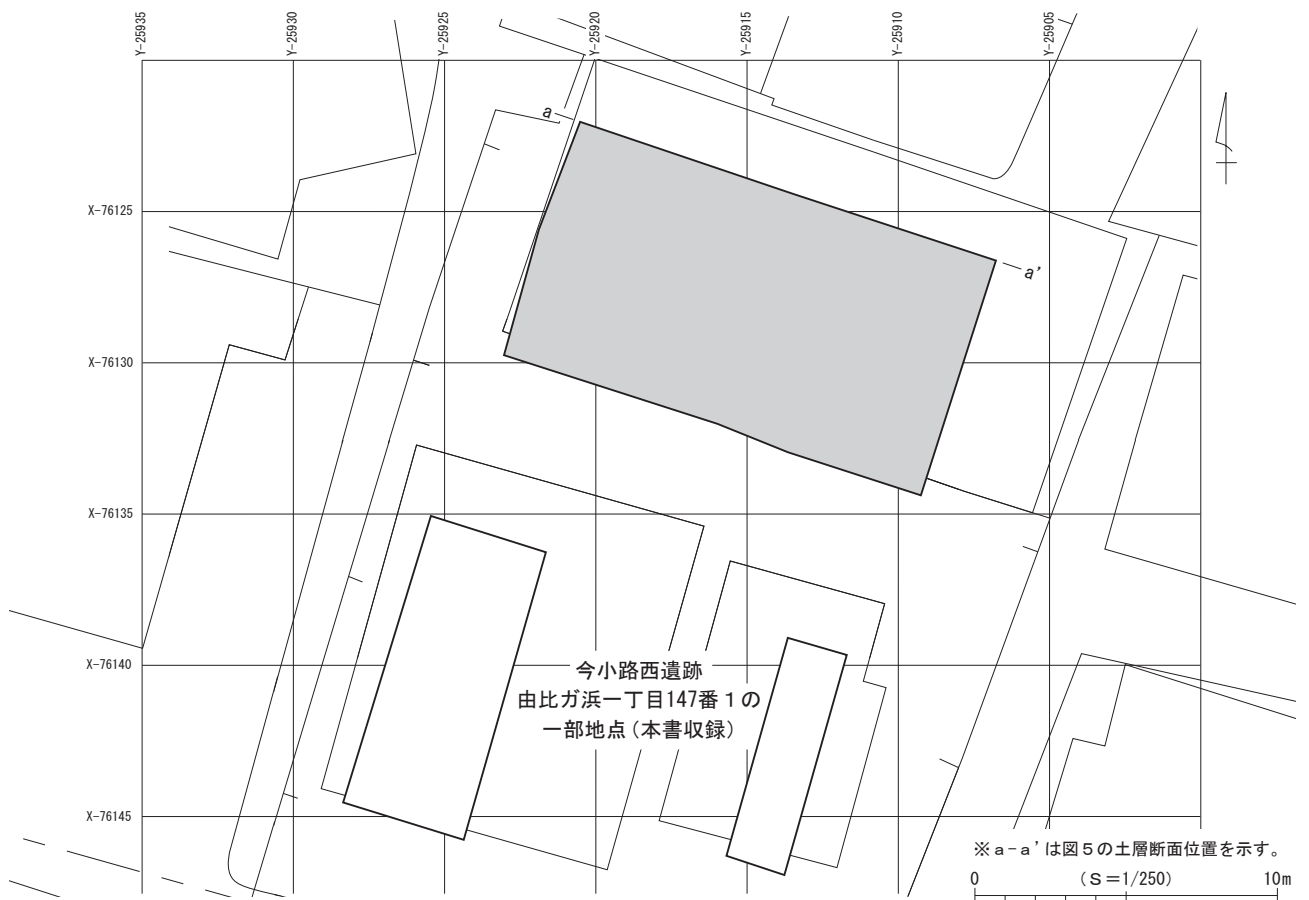


図4 調査区配置図

くは溝で南北に二分され、南側では両側溝をもつ東西道路によって敷地が区画されている。また、それぞれに独立した井戸を有している。屋敷地を含む境界などの検討が今後は必要であろうが、現状をみる限りでは御成小学校内での南側武家屋敷と近似している武家屋敷の様相が捉えられている。

一方、本地点を含む社会福祉センター前の道路以南の街区になると、前述までの官衙や武家屋敷が並ぶ景観とは遺跡の内容に大きな変化がみられる。多くは100㎡にも満たない狭い調査例であり、ここでは詳細まではふれられないが、該当地区内に所在する調査例は、本調査地点および本書収録の⑨由比ガ浜一丁目147番1の一部地点を加えると17地点に及んでいる。これらの中には幅の広い東西道路なども④の地点で発見されているが、道路遺構は概して幅が狭く、区画溝も同様である。そのために狭い地割であることが考えられている。また、各地点でよくみられる遺構は、小規模な掘立柱建物や井戸、方形竪穴遺構、土坑、小穴などで、排水溝や地境溝などの木組溝も概して浅いものとなっている。本調査地点や本誌収録の⑨地点でも掘立柱建物や井戸、方形竪穴遺構、溝状遺構、土坑、小穴などが確認されている。この2地点についても調査面積の制約により遺構の配置状況を俯瞰的にみることはできていないが、御成小学校や周辺の詳細事例と合わせて、今小路西遺跡の実態を解明する上で参考事例となろう。

第二章 堆積土層

今回の調査では、第1～5面の合計5面にわたる遺構確認面が認められた。ここでは調査区北壁面の土層断面を図示し、遺構確認面に相当する土層を中心に詳述していきたい。なお、土層断面で確認されたが平面的には不明瞭であった遺構、また、平面で確認されたが土層断面では不明瞭であった遺構がいくつか認められた。

現地表面は約8.7～8.9mを測る。表土層は厚さ約30～50cmを測り、厚さはおおそ均等である。直下に5～10cm大の泥岩ブロックと泥岩粒を多量、炭化物と小石を少量含む締まりのない茶褐色弱粘質土で構成される中世遺物包含層が堆積している。

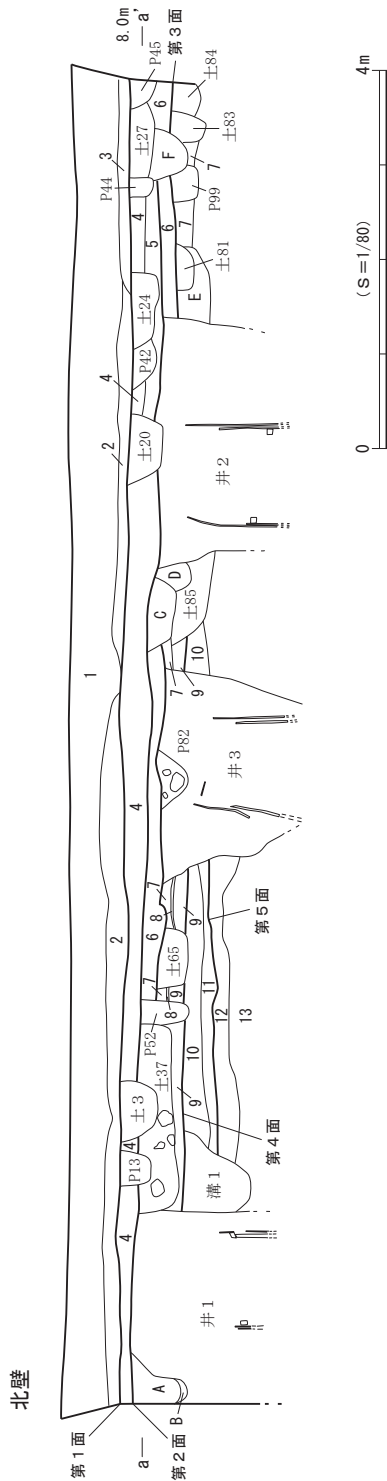
第1面の遺構は堆積土層の4層上面で確認した。確認面の標高は約8.1～8.3m、層厚は10～30cm前後である。1cm大の泥岩粒を多量、炭化物を中量、かわらけ片を少量含み、締まりのある茶褐色弱粘質土に遺構が掘り込まれている。小穴状を呈する現代の攪乱が多く及んでいる。

第2面の遺構は堆積土層の6層上面で確認した。確認面の標高は約7.8～8.1m、層厚は15cm前後である。西側が高く、東側へごく緩やかに傾斜している。3～5cm大の泥岩ブロックと泥岩粒を多量、炭化物を中量、かわらけ粒と拳大の泥岩ブロックを少量含み、やや締まりのある茶褐色弱粘質土である。

第3面の遺構は堆積土層の7層上面で確認した。確認面の標高は約7.6～7.8m、層厚は10～20cm前後である。第2面と同様に調査区西側が高く、東側が20cmほど低くなる。炭化物を少量含み、締まりが非常に強い茶褐色砂質土である。

第4面の遺構は調査区の北壁際に設定したトレンチの西半部において、堆積土層の10層上面で確認した。確認面の標高は約7.5～7.6m、層厚は15～30cm前後で、西側が高く、東側へ傾斜している。トレンチの東側では、調査終了時の掘削深度が本面の標高に到達しなかった。泥岩粒と炭化物を微量、褐鉄を多量含み、やや砂質を帯びて締まりが非常に強い茶褐色弱粘質土である。

第5面の遺構は第4面と同様に、調査区の北壁際に設定したトレンチの西半部で確認した。本面に帰属する遺構は標高約7.2mで確認しており、堆積土層に対比させると12層上面が本面に該当すると考えられる。12層は、黒褐色粘土ブロックを多く含み、締まりのない明黄褐色砂質土である。



- 表土
- 1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物・かわらけ片・かわらけ粒・小石少量含む。縮まりなし。
 - 2層 明茶褐色土 泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物少量、かわらけ粒微量含む。縮まりややあり。
 - 3層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒多量、炭化物中量、かわらけ片少量含む。縮まりあり。(第1面)
 - 4層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物中量、かわらけ粒微量、茶褐色砂質土ブロックをやや多く含む。縮まりややあり。(第2面)
 - 5層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物中量、かわらけ粒・拳大の泥岩ブロック少量含む。縮まりややあり。(第3面)
 - 6層 暗茶褐色粘質土 炭化物少量含む。縮まり非常に強い。(第3面)
 - 7層 暗茶褐色粘質土 泥岩粒少量含む。明黄灰色粘質土ブロックとの互層。縮まりあり。
 - 8層 茶褐色砂質土 炭化物・かわらけ片少量含む。縮まりややあり。
 - 9層 茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物微量、褐鉄多量含む。やや砂質を帯びる。縮まり非常に強い。(第4面)
 - 10層 暗黄灰色粘質土 黄褐色砂土ブロック含む。縮まりあり。
 - 11層 暗黄褐色粘質土 黒褐色粘土ブロック多く含む。縮まりなし。(第5面)
 - 12層 明黄褐色砂質土 褐鉄多く含む。縮まりあり。
 - 13層 黄褐色砂質土 褐鉄多く含む。縮まりあり。
- 〔遺構〕
- ピット13 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物・かわらけ粒少量含む。縮まりなし。
 - ピット42 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物・かわらけ粒微量含む。縮まりややあり。
 - ピット44 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物・かわらけ粒微量含む。縮まりややあり。
 - ピット45 茶褐色弱粘質土 炭化物多量、泥岩粒やや多く含む。縮まりあり。
 - ピット82 茶褐色弱粘質土 泥岩粒少量含む。縮まりなし。
 - ピット89 茶褐色弱粘質土 拳大～人頭大の泥岩ブロック・炭化物少量含む。縮まりややあり。
 - ピット99 茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・かわらけ粒微量含む。縮まりなし。
- A層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩ブロック中量、炭化物少量含む。縮まりなし。
 - B層 茶褐色砂質土 泥岩粒少量含む。縮まりなし。
 - C層 泥岩粒多量、かわらけ片・かわらけ粒中量、炭化物少量含む。縮まりなし。
 - D層 茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物中量、かわらけ粒微量含む。縮まりなし。
 - E層 茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・かわらけ粒微量含む。縮まりなし。
 - F層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物・かわらけ粒少量含む。縮まりややあり。

図5 調査区土層断面図

第三章 発見された遺構と遺物

今回の調査では、遺構確認面は第1～5面までの合計5面である。調査区東半部では調査区壁の崩落防止といった安全対策を考慮しながらの調査となったため、掘削深度に応じて調査面積が異なっている。検出した遺構は、掘立柱建物1棟、溝状遺構1条、井戸3基、木組遺構1基、土坑88基、ピット101基である。出土遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して19箱を数える。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと(第1～5面)に説明する。なお、第2面以下の面においては、上面で検出された遺構の掘り込みが残存していても、煩雑さを避けるために全体図に表記していない場合がある。

第1節 第1面の遺構と遺物

第1面の遺構は堆積土層の4層上面で検出され、確認面の標高は約8.1～8.3mを測る。4層は多量の泥岩粒と中量の炭化物を含み、締まりのある茶褐色弱粘質土で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。調査区の全面に多数の小規模な攪乱が及んでおり、影響を受けている遺構がある。検出した遺構は、掘立柱建物1棟、土坑27基、ピット45基で、掘立柱建物およびピットは調査区西側、土坑は調査区東側を中心に分布している(図6)。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は14世紀代～15世紀前葉頃に属すると考えられる。

(1) 掘立柱建物

第1面では、1棟を検出した。現状では東西3間、南北3間の床東建物と考えられ、出入口に関連するとみられるピットも確認された。

掘立柱建物1(図7)

調査区北側に位置する。多数のピットを同一面で検出したが、16基のピット(P1～P16)について、東西3間、南北3間の床東建物とみられる配置を確認した。また、北側柱列中央間の外側には、4基の小ピット(P17～P20)が柱筋に沿って等間隔で並んでいることから、これらは本建物に伴う施設であると判断した。複数のピットあるいは土坑と重複しており、直接の重複関係にある遺構との関係は、ピット21・25・26より古く、土坑2より新しい。ピット12との関係は不明である。規模は心々間で東西総長5.6～5.7m、南北総長約5.5mを測り、東西方向がわずかに長いがほぼ正方形である。柱間寸法は個々で微妙な差が認められ、東西方向の柱筋は西側から1間目が1.7～2.1m、2間目が1.9～2.1m、3間目が1.6～2.0mを測る。南北方向の柱筋は北から1間目が1.7～1.9m、2間目が1.5～1.9m、3間目が1.7～2.1mである。各掘り方の平面形は円形ないし楕円形、断面形は逆台形またはU字状を呈し、規模は長軸現存長48～74cm、短軸現存長32～62cm、深さ23～51cmを測る。覆土は茶褐色弱粘質土および暗茶褐色弱粘質土が主体となり、泥岩粒やかわらけ粒を含むものが大半で、炭化物を含むものも多い。

北側柱列の中央間(P5～P6間)に沿って列をなすP17～P20は、建物本体を構成するP1～P16に比べて規模が小さく、長軸35～47cm、短軸26～33cm、深さ22～29cmを測り、覆土は茶褐色弱粘質土で泥岩粒や炭化物を含む。柱間は40～50cmでほぼ等間隔に並んでいる。以上の規模や配置から、P17～P20

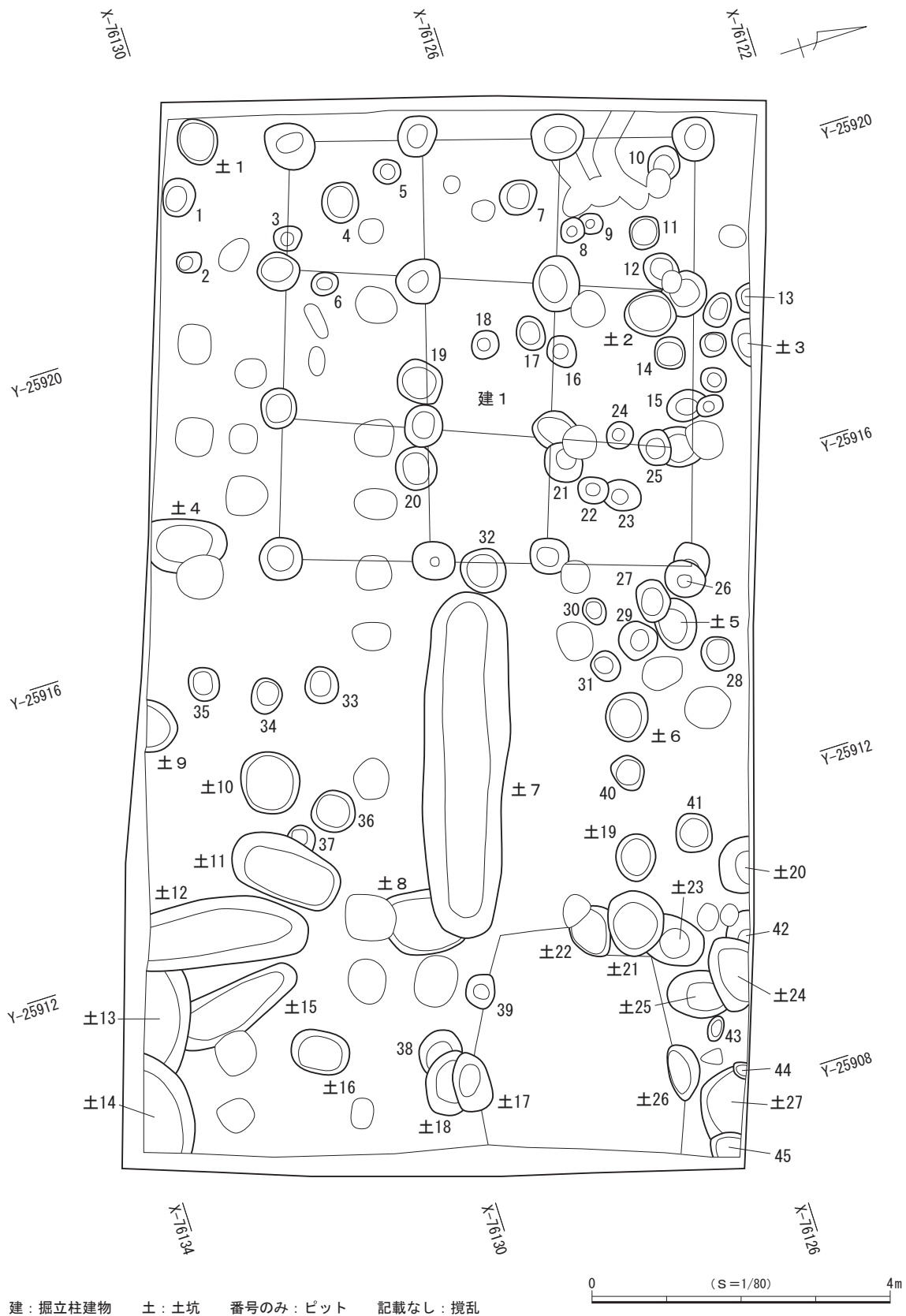
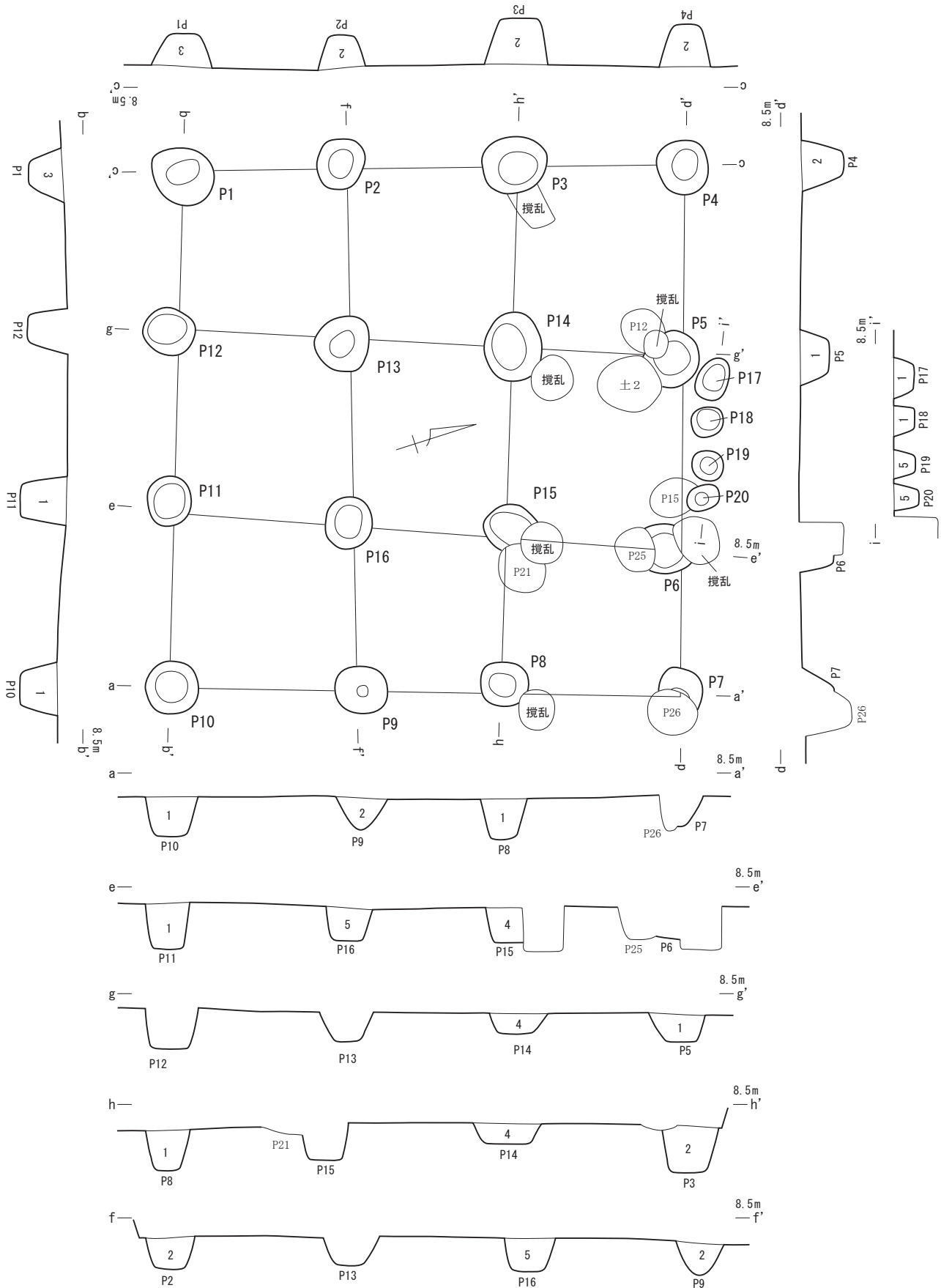


図6 第1面 遺構分布図



1層 茶褐色弱粘質土	泥岩粒多量、炭化物少量含む。	4層 茶褐色弱粘質土	泥岩粒多量含む。
2層 暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒多く、炭化物少量含む。	5層 茶褐色弱粘質土	泥岩ブロック多量、炭化物少量含む。
3層 明茶褐色弱粘質土	泥岩ブロック多量、炭化物少量含む。		

0 (S=1/60) 2m

図7 第1面 掘立柱建物1

は建物の出入口に関連するピットであると考えられ、この出入口を建物の正面と捉えれば、主軸方位はN-19°-Eを指す。

確認した建物はやや歪んでいるが、柱間がおおよそ等間隔に配され、かつ北側柱列の中央間の外側に出入口が設けられていたと目されることから、現状では3間四方の建物であったと考えられる。しかし、西側および南側の調査区外に柱列が延びている可能性も考えられ、その場合には建物の規模や形式が異なる点を考慮しておきたい。

出土遺物(図8)

遺物はかわらけ174点、磁器8点、陶器43点、土器1点、瓦質土器7点、瓦1点、石製品1点、金属製品6点が出土し、このうち9点を図示した。

1～5はロクロ成形によるかわらけである。1には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。6・7は舶載磁器で、6が白磁碗、7が龍泉窯系青磁の香炉である。8は常滑窯産の片口鉢Ⅱ類、9は瓦質土器の火鉢である。

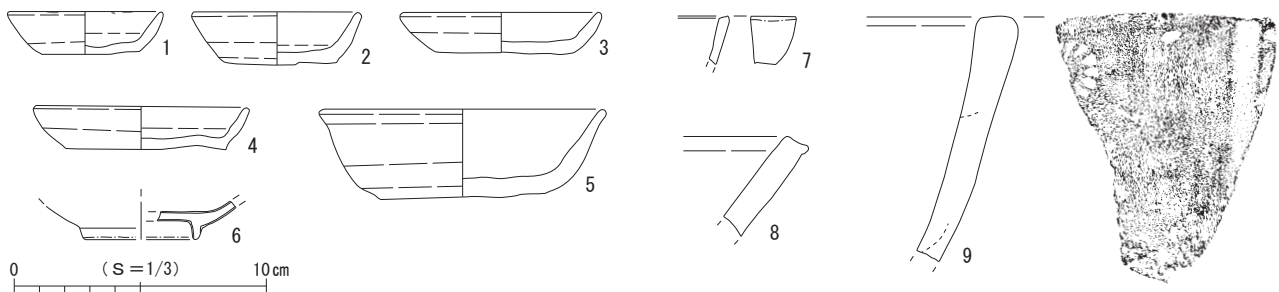


図8 第1面 掘立柱建物1 出土遺物

(2) 土 坑

第1面では、27基を検出した。大半が調査区の東側に分布しており、比較的密集する傾向が認められ重複するものも多い。平面形は円形ないし楕円形が中心となるが、溝状を呈するものもある。現状での規模は長軸0.63～4.63m、深さ10～54cmで、各遺構で差が大きい。

土坑1(図10)

調査区南西隅に位置する。平面形は略円形を呈する。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は径63cm、深さ10cmで、坑底面の標高は8.21mを測る。覆土は泥岩粒を多く、かわらけ粒を中量含む、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑2(図10)

調査区北西側に位置する。北側が掘立柱建物1のP5と重複しており、本址が古い。平面形は略円形を呈する。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は径69cm、深さ21cmで、坑底面の標高は8.08mを測る。覆土は泥岩粒を多く、炭化物を少量含む、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

遺物は土器1点が出土した。

土坑3 (図10)

調査区北壁西側に位置する。北側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は円形ないし楕円形を基調とするものと推定される。壁は緩やかに立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は長軸現存長64cm、短軸現存長22cm、深さ41cmで、坑底面の標高は7.84mを測る。覆土は泥岩粒と泥岩ブロックを多量、炭化物とかかわらけ粒を中量含み、やや締まりのある茶褐色弱粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑4 (図10)

調査区南壁中央に位置する。北東側の一部が攪乱によって失われ、南西側が調査区外に及んでいるが、おおよそ全容が把握できたと考えられる。平面形は楕円形を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、坑底面は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.02m、短軸74cm、深さ27cmで、坑底面の標高は7.98mを測る。主軸方位はN-18°-Eを指す。覆土は2層に分けられ、上層が泥岩ブロックを多量、炭化物を少量含む茶褐色弱粘質土、下層が泥岩粒とかかわらけ片を中量、炭化物を少量含む、やや締まりのある暗茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図9)

遺物はかわらけ17点、磁器2点、陶器4点、石製品1点、金属製品3点が出土し、このうち1点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。

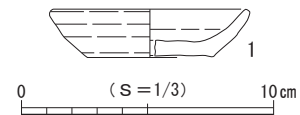


図9 第1面 土坑4出土遺物

土坑5 (図10)

調査区中央北側に位置する。南西側がピット27と重複しており、本址が古い。平面形は楕円形を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸71cm、短軸54cm、深さ22cmで、坑底面の標高は7.99mを測る。主軸方位はほぼ東西を指す。

遺物は出土しなかった。

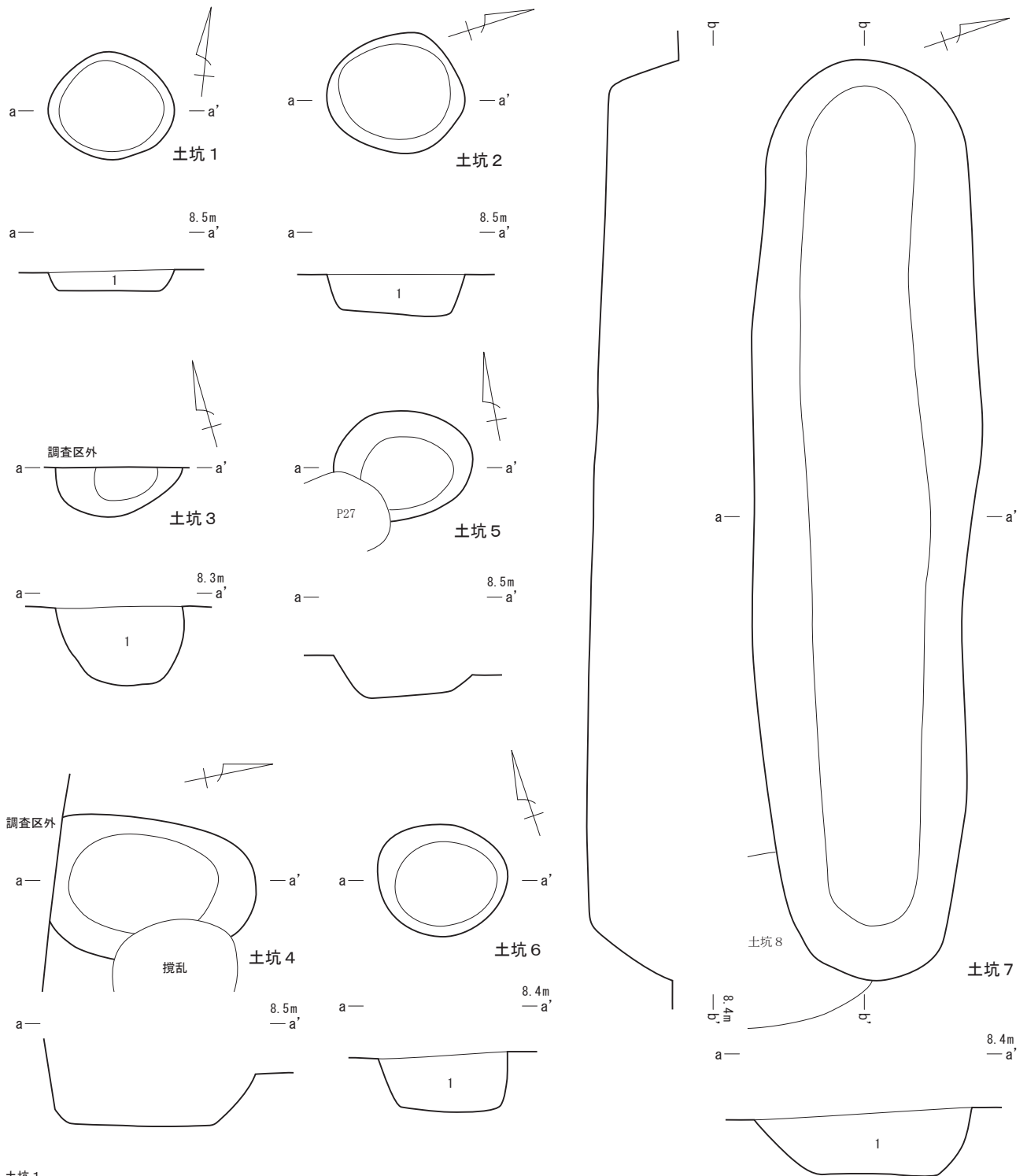
土坑6 (図10)

調査区中央北側に位置する。平面形は略円形を呈する。壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は箱形に近い逆台形を呈する。規模は径67cm、深さ27cmで、坑底面の標高は7.86mを測る。覆土は炭化物とかかわらけ粒をやや多く含む、締まりの弱い茶褐色弱砂質土である。

遺物はかわらけ5点、磁器1点、陶器2点が出土した。

土坑7 (図10)

調査区中央東側に位置する。南東側が土坑8と重複しており、本址が古い。平面形は隅丸の溝状を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸4.63m、短軸1.16m、深さ44cmで、坑底面の標高は7.80mを測る。主軸方位はN-71°-Wを指す。覆土は泥岩ブロックを中量、炭化物とかかわらけ粒を少量含む、やや締まりのある茶褐色弱粘質土である。



- 土坑 1
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒多く、かわらけ粒中量含む。締まりなし。
- 土坑 2
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒多く、炭化物少量含む。締まりなし。
- 土坑 3
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物・かわらけ粒中量含む。締まりややあり。
- 土坑 6
1層 茶褐色弱粘質土 炭化物・かわらけ粒やや多く含む。締まりなし。
- 土坑 7
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩ブロック中量、炭化物・かわらけ粒少量含む。締まりややあり。

図10 第1面 土坑1～7

出土遺物 (図11)

遺物はかわらけ148点、磁器1点、陶器34点、瓦質土器1点、瓦1点、金属製品4点が出土し、このうち20点を図示した。

1～19はロクロ成形によるかわらけである。1・19には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。20は銭貨で、開元通寶(南唐・960)である。

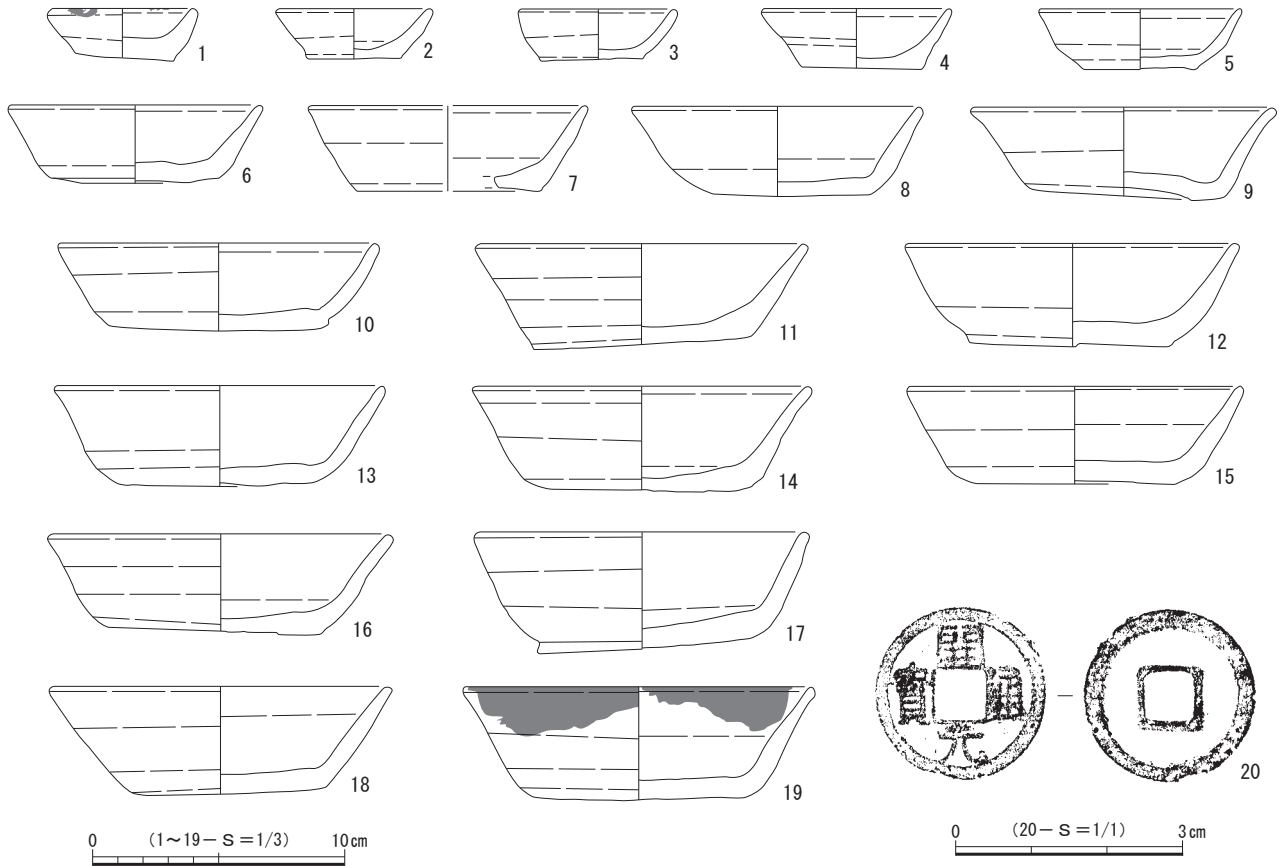


図11 第1面 土坑7出土遺物

土坑8 (図15)

調査区中央南側に位置する。北西側が土坑7と重複しており本址が新しいことが確認されたが、平面図は両土坑の完掘後に実測されたため、本址の一部は掘削されて記録されなかった。また、南西側が攪乱によって失われている。検出した範囲からは、平面形は楕円形と推定される。壁は東側はほぼ垂直に立ち上がるが西側はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長97cm、短軸86cm、深さ29cmで、坑底面の標高は7.88mを測る。主軸方位はN-9°-Eを指す。覆土は泥岩ブロック・泥岩粒を多量、炭化物とかわらけ粒を中量含み、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図12)

遺物はかわらけ69点、磁器1点、陶器9点、金属製品1点が出土し、このうち2点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。2は瀬戸窯産の入子である。

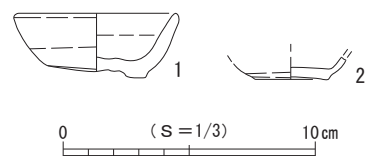


図12 第1面 土坑8出土遺物

土坑9 (図15)

調査区南壁のほぼ中央に位置する。南西側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は円形を基調とするものと推定される。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長71cm、短軸現存長41cm、深さ28cmで、坑底面の標高は7.81mを測る。

遺物はかわらけ5点、陶器3点が出土した。

土坑10 (図15)

調査区南東側に位置する。平面形は略円形を呈する。壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は箱形に近い逆台形を呈する。規模は径83cm、深さ27cmで、坑底面の標高は7.81mを測る。覆土は泥岩粒とかわらけ粒を多量、炭化物を微量含む、やや縮まりのある茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図13)

遺物はかわらけ17点、陶器7点、金属製品1点が出土し、このうち3点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。2は常滑窯産の甕である。3は銭貨で、咸平元寶(北宋・998)である。

土坑11 (図15)

調査区南東側に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸1.53m、短軸82cm、深さ13cmで、坑底面の標高は7.90mを測る。主軸方位はN-39°-Eを指す。覆土は炭化物とかわらけ粒をやや多く含む、縮まりのない茶褐色弱砂質土である。

出土遺物 (図14)

遺物はかわらけ24点、陶器2点、金属製品4点が出土し、このうち1点を図示した。

1は銭貨で、宣徳通寶(明・1433)ではないかと思われる。

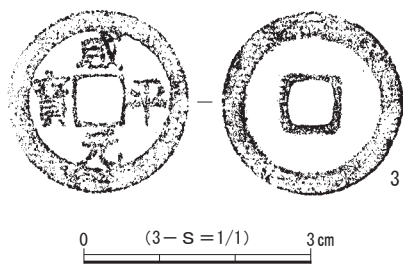
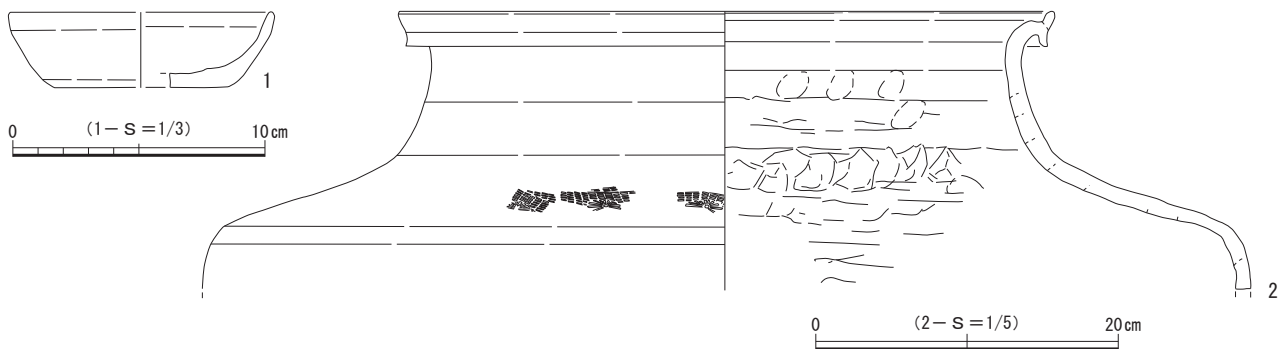


図13 第1面 土坑10出土遺物

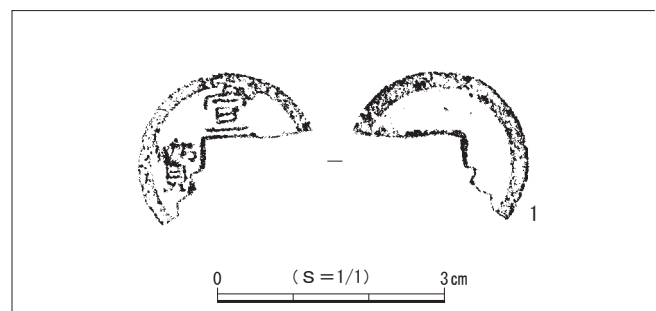
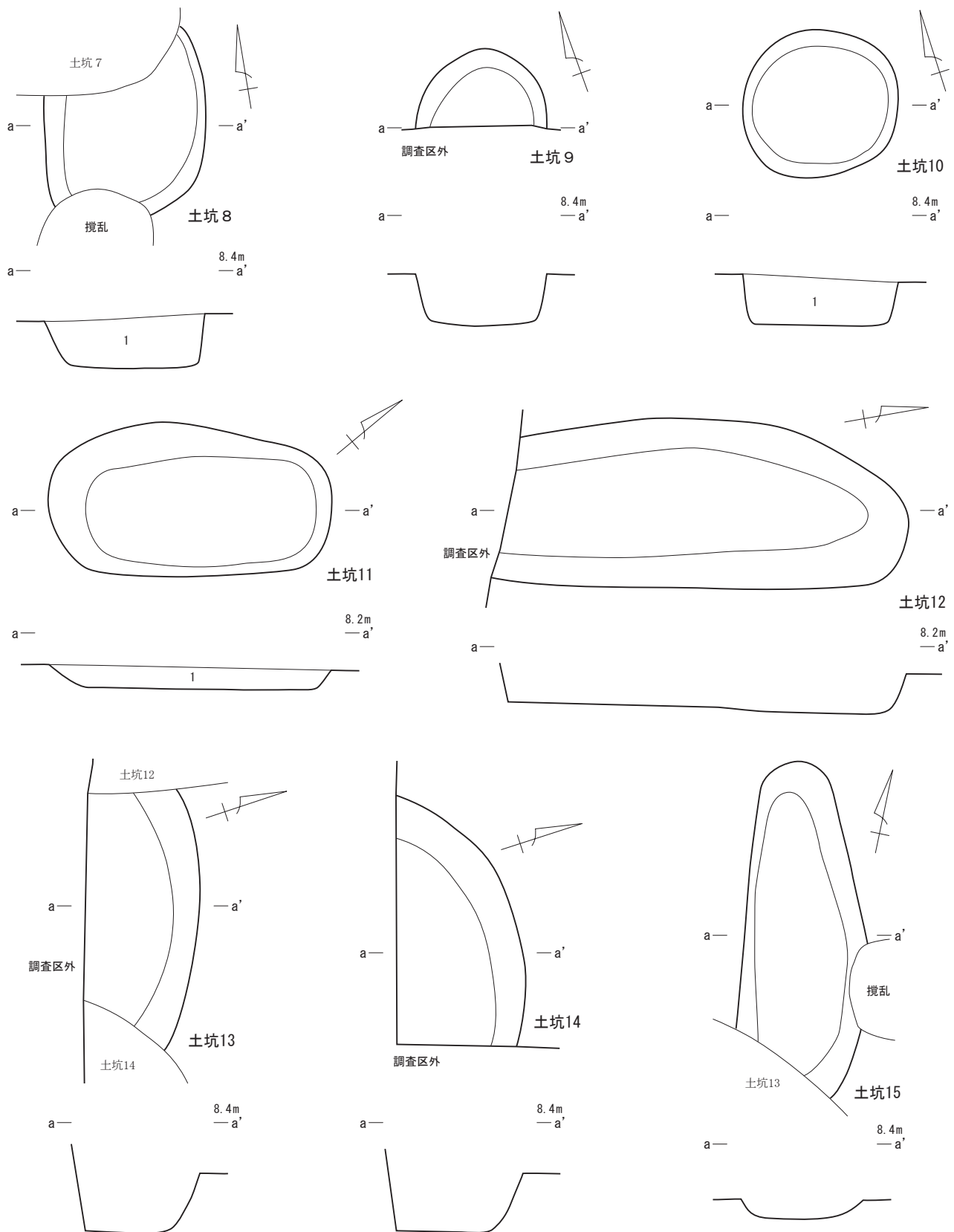


図14 第1面 土坑11出土遺物



土坑8
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物・かわらけ粒中量含む。締まりなし。

土坑10
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・かわらけ粒多量、炭化物微量含む。締まりややあり。

土坑11
1層 茶褐色弱砂質土 炭化物・かわらけ粒やや多く含む。締まりなし。

図15 第1面 土坑8~15

土坑12 (図15)

調査区南壁東側に位置する。南東側が土坑13と重複しており、本址が新しい。南側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は東側が直線的な溝状を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長2.14m、短軸90cm、深さ21cmで、坑底面の標高は7.85mを測る。主軸方位はN-10°-Eを指す。

出土遺物 (図16)

遺物はかわらけ15点、陶器7点、瓦質土器1点が出土し、このうち2点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。2は瀬戸窯産の折縁深皿である。

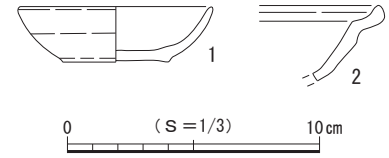


図16 第1面 土坑12出土遺物

土坑13 (図15)

調査区南壁東側に位置する。重複関係では、北側の土坑15より新しく、西側の土坑12および東側の土坑14より古い。また、南側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は円形ないし楕円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈するものと推定される。規模は東西現存長1.40m、南北現存長62cm、深さ32cmで、坑底面の標高は7.82mを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑14 (図15)

調査区南東隅に位置する。西側が土坑13と重複しており、本址が新しい。また、東側および南側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は円形ないし楕円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈するものと推定される。規模は東西現存長1.34m、南北現存長68cm、深さ31cmで、坑底面の標高は7.82mを測る。

遺物はかわらけ4点、陶器4点、金属製品1点が出土した。

土坑15 (図15)

調査区南東隅に位置する。南側が土坑13と重複しており、本址が古く一部を壊されるが、おおよそ全容が把握できたものと考えられる。平面形は東側がやや膨らみ、西側が直線的な楕円形を呈するものと推定される。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸現存長1.83m、短軸67cm、深さ11cmで、坑底面の標高は8.00mを測る。主軸方位はN-11°-Wを指す。

遺物はかわらけ102点、陶器3点、金属製品5点が出土した。

土坑16 (図18)

調査区南東側に位置する。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸79cm、短軸58cm、深さ26cmで、坑底面の標高は7.85mを測る。主軸方位はN-30°-Eを指す。覆土は泥岩粒・炭化物・粗砂を少量含み、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ36点、陶器5点、石製品1点、金属製品1点が出土した。

土坑17 (図18)

調査区東端に位置する。南側が土坑18と重複しており、本址が新しい。平面形は東側がやや角張った楕円形を呈する。壁は緩やかに開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸81cm、短軸50cm、深さ30cmで、坑底面の標高は7.84mを測る。主軸方位はほぼ東西を指す。

遺物は出土しなかった。

土坑18 (図18)

調査区東端に位置する。北側が土坑17と重複しており、本址が古い。平面形は楕円形を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸88cm、短軸現存長56cm、深さ28cmで、坑底面の標高は7.86mを測る。主軸方位はN-55°-Wを指すと考えられる。覆土は泥岩粒と泥岩ブロックを多量、炭化物をやや多く、かわらけ粒を少量含む、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ4点、磁器1点、陶器7点が出土した。

土坑19 (図18)

調査区北東側に位置する。平面形は略円形を呈する。壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は箱形に近い逆台形を呈する。規模は径65cm、深さ41cmで、坑底面の標高は7.75mを測る。覆土は泥岩粒・泥岩ブロック・かわらけ粒を多量含む、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ20点、陶器5点、金属製品1点が出土した。

土坑20 (図18)

調査区北壁東側に位置する。北側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長75cm、南北現存長40cm、深さ38cmで、坑底面の標高は7.78mを測る。覆土は泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物を多量、かわらけ片を少量含む、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑21 (図18)

調査区北東側に位置する。北東側が土坑23、南側が土坑22と重複しており、本址が新しい。平面形は略円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は径89cm、深さ43cmで、坑底面の標高は7.74mを測る。覆土は上層が泥岩ブロックを多量に含む締まりのない茶褐色弱粘質土、下層は泥岩粒・かわらけ粒・炭化物微量を含む、やや砂質で締まりのない茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図17)

遺物はかわらけ18点、陶器7点、土器2点が出土し、このうち3点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。3は土器の羽釜である。

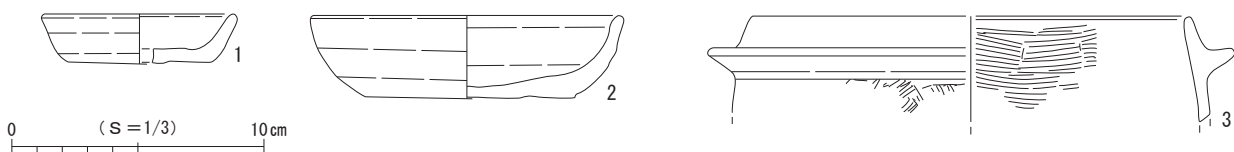
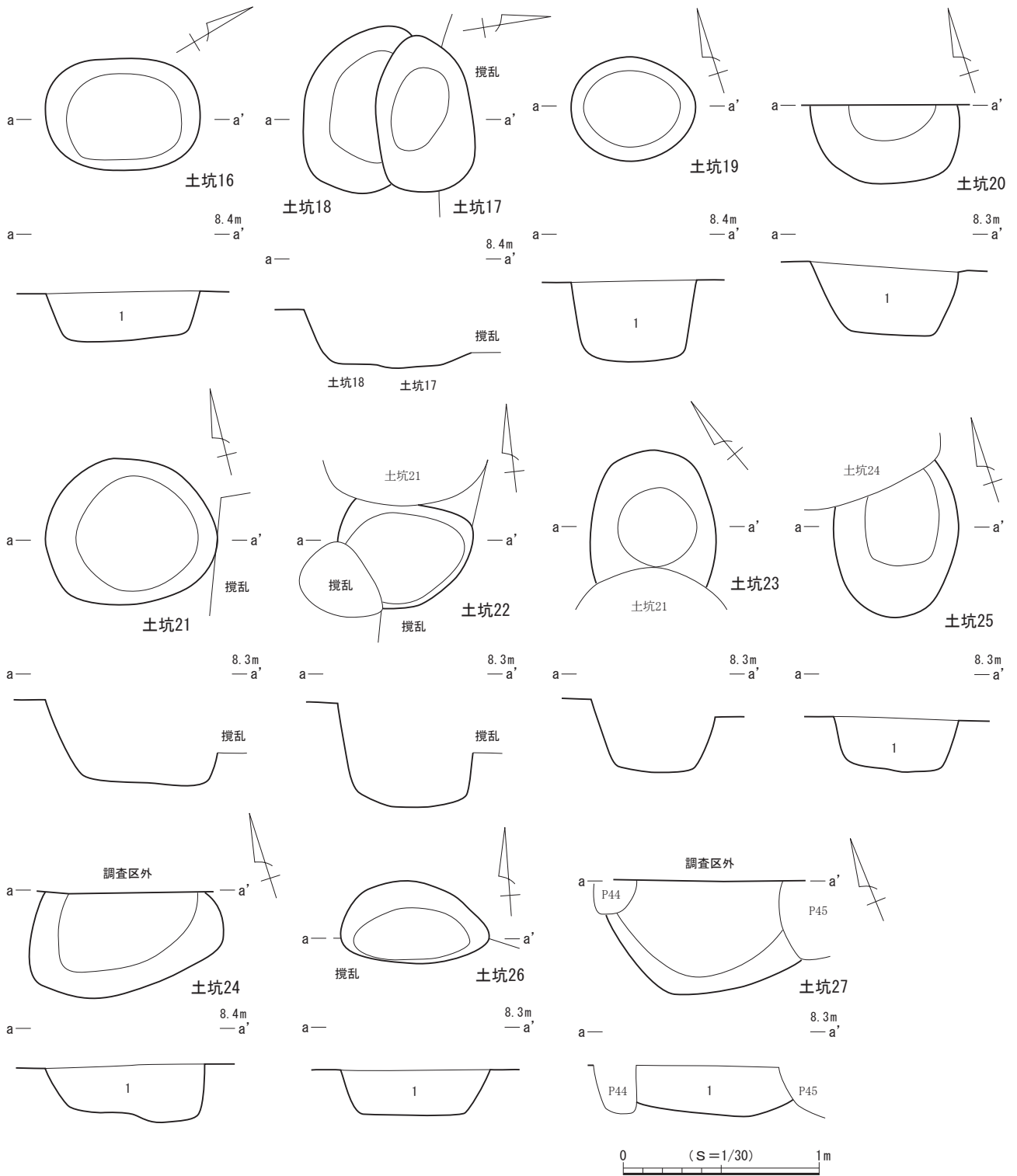


図17 第1面 土坑21出土遺物



土坑16
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物・粗砂少量含む。締まりなし。

土坑18
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物やや多く、かわらけ粒少量含む。締まりなし。

土坑19
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩ブロック・かわらけ粒多量含む。締まりなし。

土坑20
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物多量、かわらけ片少量含む。締まりなし。

土坑24
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩ブロック多量、かわらけ粒や多く、炭化物少量含む。締まりややあり。

土坑25
1層 茶褐色弱砂質土 炭化物・かわらけ粒微量含む。締まりなし。

土坑26
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物多量、かわらけ粒少量含む。締まりなし。

土坑27
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物多量、かわらけ粒少量含む。締まりなし。

図18 第1面 土坑16~27

土坑22 (図18)

調査区北東側に位置する。北側が土坑21と重複しており、本址が古い。また、南西側が攪乱により失われている。検出した範囲からは、平面形は楕円形を基調とするが歪であると推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は東側の底面がやや低い逆台形を呈する。規模は長軸現存長68cm、短軸現存長60cm、深さ54cmで、坑底面の標高は7.62mを測る。主軸方位はN-80°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑23 (図18)

調査区北東側に位置する。南西側が土坑21と重複しており、本址が古い。検出された範囲からは、平面形は楕円形を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長69cm、短軸64cm、深さ37cmで、坑底面の標高は7.80mを測る。主軸方位はN-45°-Eを指すと考えられる。

出土遺物 (図19)

遺物はかわらけ11点、陶器4点が出土し、このうち3点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。2・3は常滑窯産の製品で、2が甕、3が片口鉢I類である。

土坑24 (図18)

調査区北壁東側に位置する。南東側が土坑25と重複しており、本址が新しい。また、北東側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は楕円形を基調とするものと推定される。壁は緩やかに開いて立ち上がり、底面はやや凹凸があって東側が低く、断面形は歪な逆台形を呈する。規模は長軸1.01m、短軸現存長61cm、深さ30cmで、坑底面の標高は7.82mを測る。主軸方位はN-80°-Eを指すと考えられる。覆土は泥岩粒・泥岩ブロックを多量、かわらけ粒をやや多く、炭化物を少量含み、やや締まりのある茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図20)

遺物はかわらけ5点、陶器6点、金属製品2点が出土し、このうち1点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

土坑25 (図18)

調査区北東側に位置する。北側が土坑24と重複しており、本址が古い。平面形は楕円形を呈するものと推定される。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は東側がやや低い逆台形を呈する。規模は長軸現存長80cm、短軸64cm、深さ28cmで、坑底面の標高は7.80mを測る。主軸方位はN-22°-Eを指すと考えられる。覆土は炭化物・かわらけ粒を微量含む、締まりのない茶褐色弱砂質土である。

出土遺物 (図21)

遺物はかわらけ4点、磁器1点、陶器2点が出土し、このうち2点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。

土坑26 (図18)

調査区北東隅に位置する。南側が攪乱によって失われており、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は円形ないし楕円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面

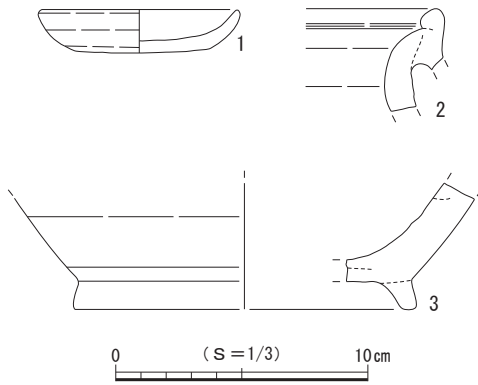


図19 第1面 土坑23出土遺物

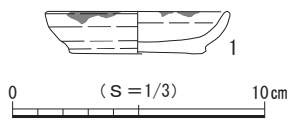


図20 第1面 土坑24出土遺物

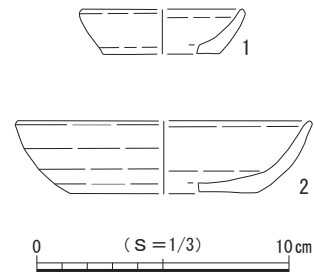


図21 第1面 土坑25出土遺物

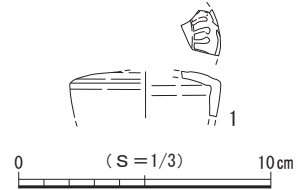


図22 第1面 土坑27出土遺物

形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長76cm、短軸現存長42cm、深さ23cmで、坑底面の標高は7.85mを測る。覆土は泥岩粒と炭化物を多量、かわらけ粒を少量含む、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ4点、磁器1点、陶器2点、金属製品1点が出土した。

土坑27 (図18)

調査区北東隅に位置する。北西側がピット44、南東側がピット45と重複しており、本址が古い。また、北東側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は円形を基調とするものと推定される。壁は緩やかに開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸現存長98cm、短軸現存長58cm、深さ25cmで、坑底面の標高は7.88mを測る。覆土は泥岩粒と炭化物を多量、かわらけ粒を少量含む、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図22)

遺物はかわらけ3点、磁器2点、陶器9点、金属製品2点が出土し、このうち1点を図示した。

1は龍泉窯系青磁の壺蓋と考えられる。

(3)ピット (図6)

第1面では、45基を検出した。分布状況としては、調査区西側にやや集中し、東側は希薄な傾向が認められた。遺構の密度が比較的高く、他の遺構と重複するものも多い。建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。各ピットの平面形は円形ないし略円形を主体としており、現状での規模は長軸22~59cm、深さ5~53cmを測る。覆土は茶褐色弱粘質土を主体として、泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物・かわらけ片などの混入物を含むものでほぼ占められる。なお、ピット26は柱痕が認められた。

出土遺物 (図23)

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表8)を参照されたいが、このうち12点を図示した。

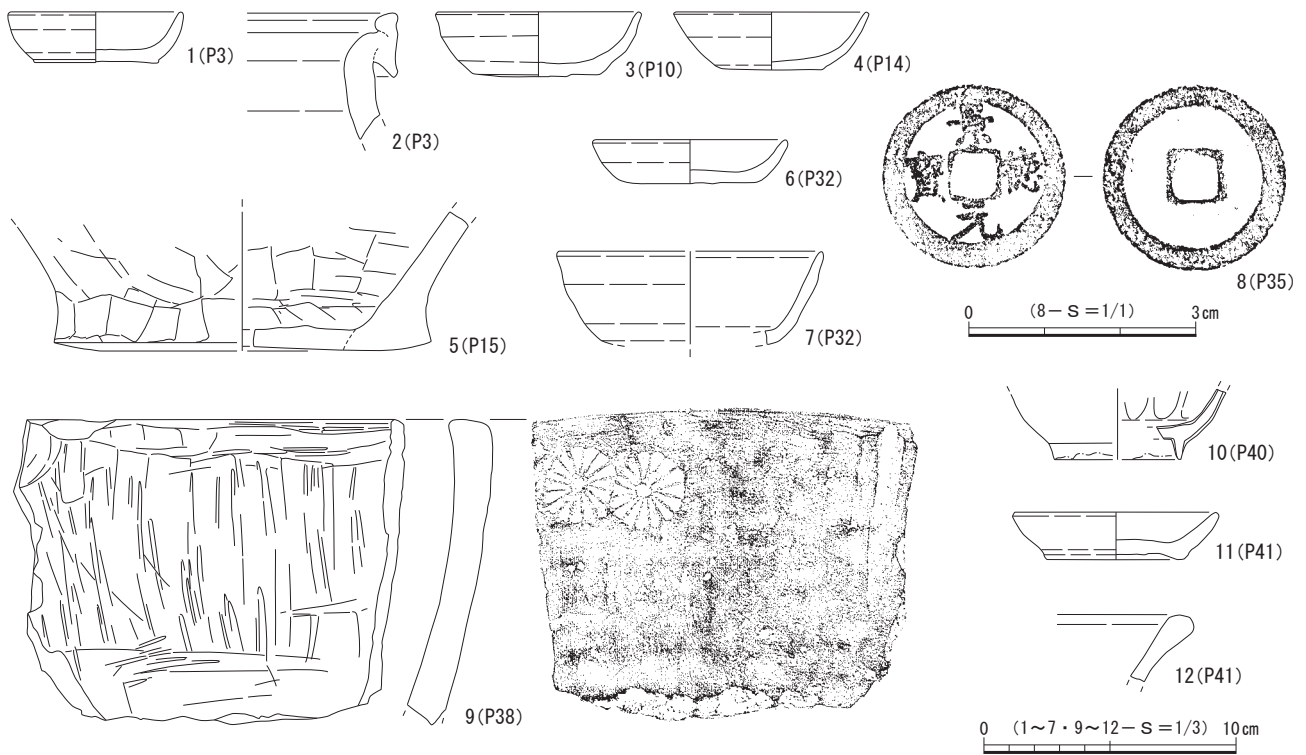


図23 第1面 ピット出土遺物

1・2はピット3から出土した。1はロクロ成形によるかわらけ、2は常滑窯産の甕である。3はピット10から出土したロクロ成形によるかわらけである。4はピット14から出土したロクロ成形によるかわらけである。5はピット15から出土した常滑窯産の甕である。6・7はピット32から出土した。6はロクロ成形によるかわらけ、7は龍泉窯系青磁小椀Ⅰ類である。8はピット35から出土した銭貨で、景德元寶(北宋・1004)である。9はピット38から出土した瓦質土器の火鉢である。10はピット40から出土した龍泉窯系青磁坏Ⅲ類である。11・12はピット41から出土した。11はロクロ成形によるかわらけ、12は山茶碗窯系の片口鉢である。

(4) 遺構外出土遺物(図24)

第1面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち36点を図示した。

1～19はロクロ成形のかわらけである。6・13には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。20・21は舶載磁器で、20が青白磁の香炉、21が龍泉窯系青磁椀Ⅱ類である。22～32は陶器である。22・23は瀬戸窯産の製品で、22が折縁深皿、23が卸皿である。24～32は常滑窯産の製品で、24～26が甕、27～32が片口鉢Ⅱ類である。33・34は瓦質土器の火鉢、35は滑石製石鍋を転用した用途不明の石製品である。36は銭貨で、元祐通寶(北宋・1086)である。

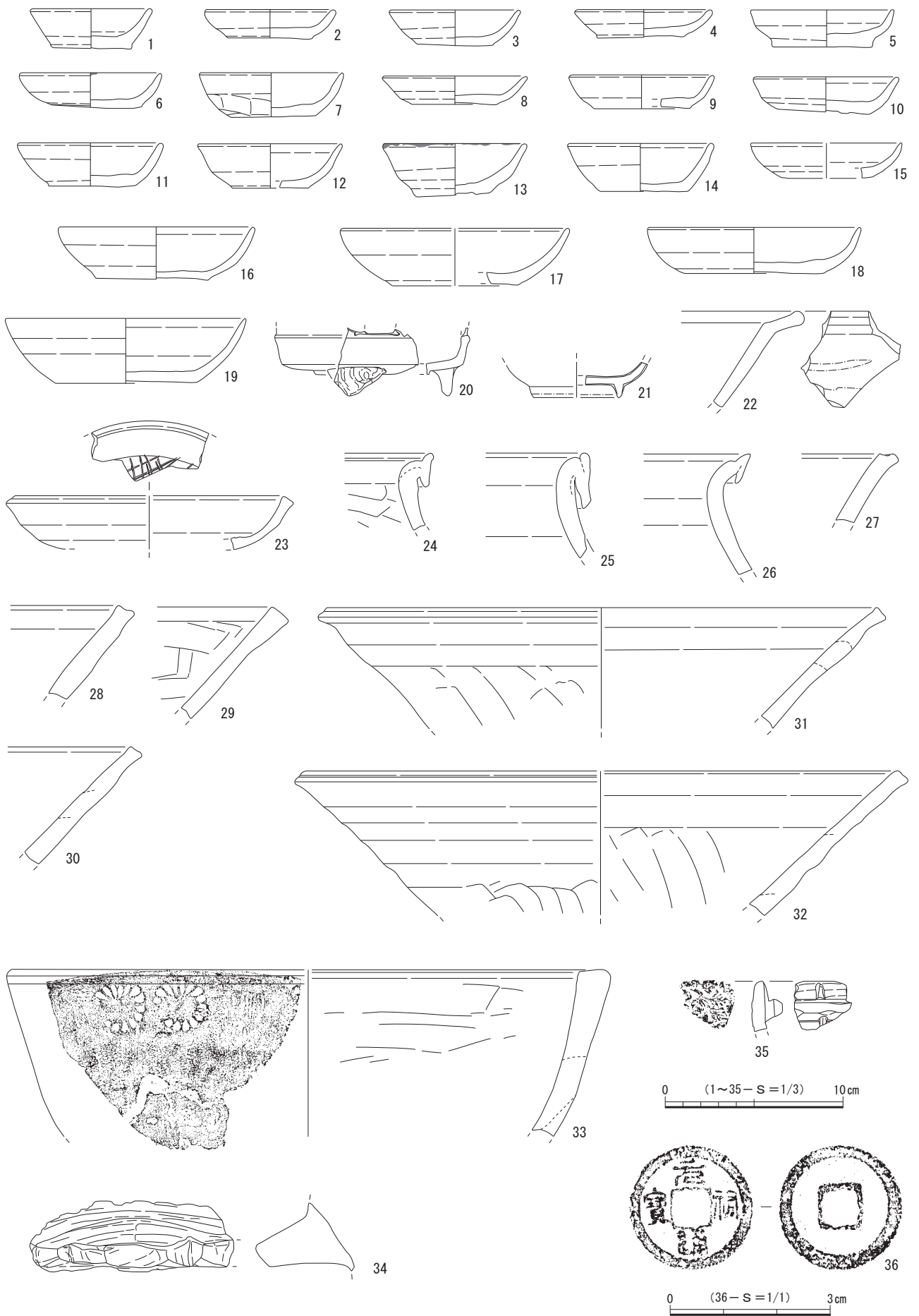


图24 第1面 遺構外出土遺物

第2節 第2面の遺構と遺物

第2面の遺構は堆積土層の6層上面で検出され、確認面の標高は約7.8～8.1mを測る。6層は泥岩粒・泥岩ブロックを多量、炭化物を中量、かわらけ粒を少量含み、やや締まりのある茶褐色弱粘質土で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。面はほぼ平坦だが西側が高く、東側へごく緩やかに傾斜し下がっている。調査区東半部(Ⅱ区)は壁の崩落防止など安全を考慮し、第1面より調査区を狭めて調査を行った。検出した遺構は、井戸2基、土坑19基、ピット25基で、現地調査の過程では調査区東半部で第2面で遺構を明確に確認することができなかったため、ほとんどの遺構が調査区西側に分布している(図25)。なお、調査区の東側に位置する井戸2および土坑46は、調査時には第3面において検出した遺構だが、調査区北壁の土層断面の検討をもとに第2面に帰属すると判断したものである。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉～14世紀前葉頃に属すると考えられる。

(1) 井戸

第2面では、2基を検出した。いずれも調査区北壁にかかり全体の半分ほどが調査区外となることから、全容は把握できなかった。

井戸1(図27)

本址は第3面で上層部分を検出し、下部に遺存していた井戸枠などは第4面調査時に検出したが、調査区北壁の土層断面を検討した結果、第2面に帰属することを確認した。また、掘り方の平面プランは写真記録から推定し破線であらわした。なお、本址は湧水あるいは崩落防止など安全対策上の理由から、標高約6.6mまで掘り下げた時点で調査を終了している。

本址は調査区北西隅に位置し、北側および西側が調査区外に及ぶことから、検出した部分は遺構全体の1/3ほどとみられる。掘り方の平面形は円形を呈すると推定され、掘り方の東端に木製の井戸枠が遺存していた。井戸枠は方形を呈し、縦板を隅柱と横棧で留める構造である。井戸枠の規模は一辺約1.0mを測り、横棧に用いられた断面方形の角材は幅4～5cm、隅柱は幅5～8cm、縦板の厚さは1～2cmで、縦板の長さは掘削が及んだ範囲で最大42cmが確認された。板材は火を受けていたとみられることから、井戸枠には転用材が用いられた可能性がある。底面まで掘削が及んでいないことから、下部施設の有無は不明である。

掘り方の規模は東西現存長がおおよそ2.0m、南北現存長がおおよそ1.0m、深度は1.41mまでが確認された。土層断面を観察すると、上層は崩落して大きく落ち込んでいる様相が捉えられ、下部は井戸枠の外側で裏込めに相当する土層に縦位の不整合面が認められる(図27中の14層と16層間)。これは、時期を異にする井戸との重複または井戸の作り替えが想定されるが、裏込め土を掘り方の壁際から段階的に充填するという工法上の過程があらわれたものと捉えることも可能であり、いずれの可能性も考えておきたい。

出土遺物(図26)

遺物はかわらけ103点、磁器6点、陶器45点、石製品1点、金属製品2点が出土し、このうち14点を図示した。

1～9はロクロ成形によるかわらけである。10・11は舶載磁器で、10が青白磁の梅瓶、11が龍泉窯系

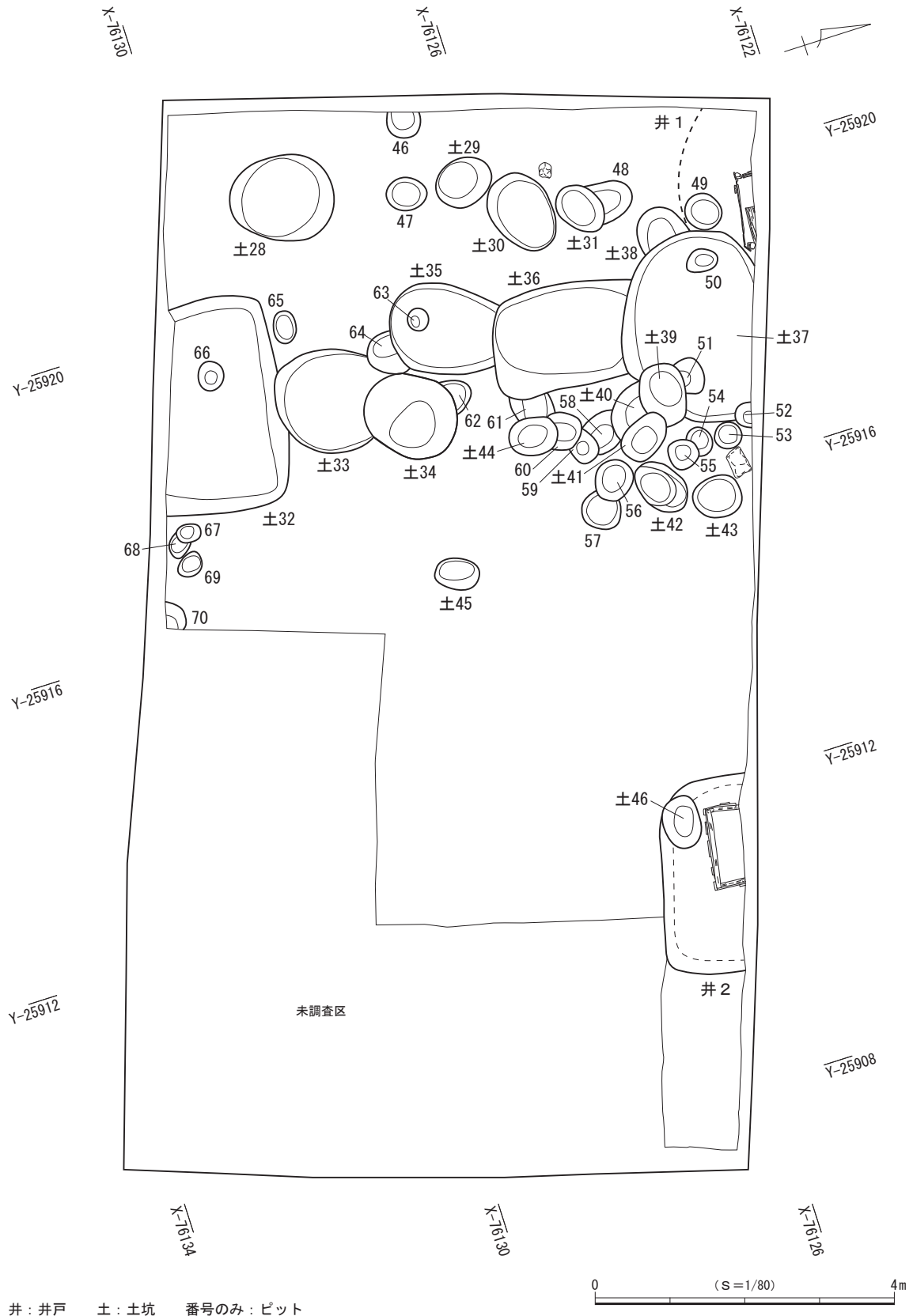


図25 第2面 遺構分布図

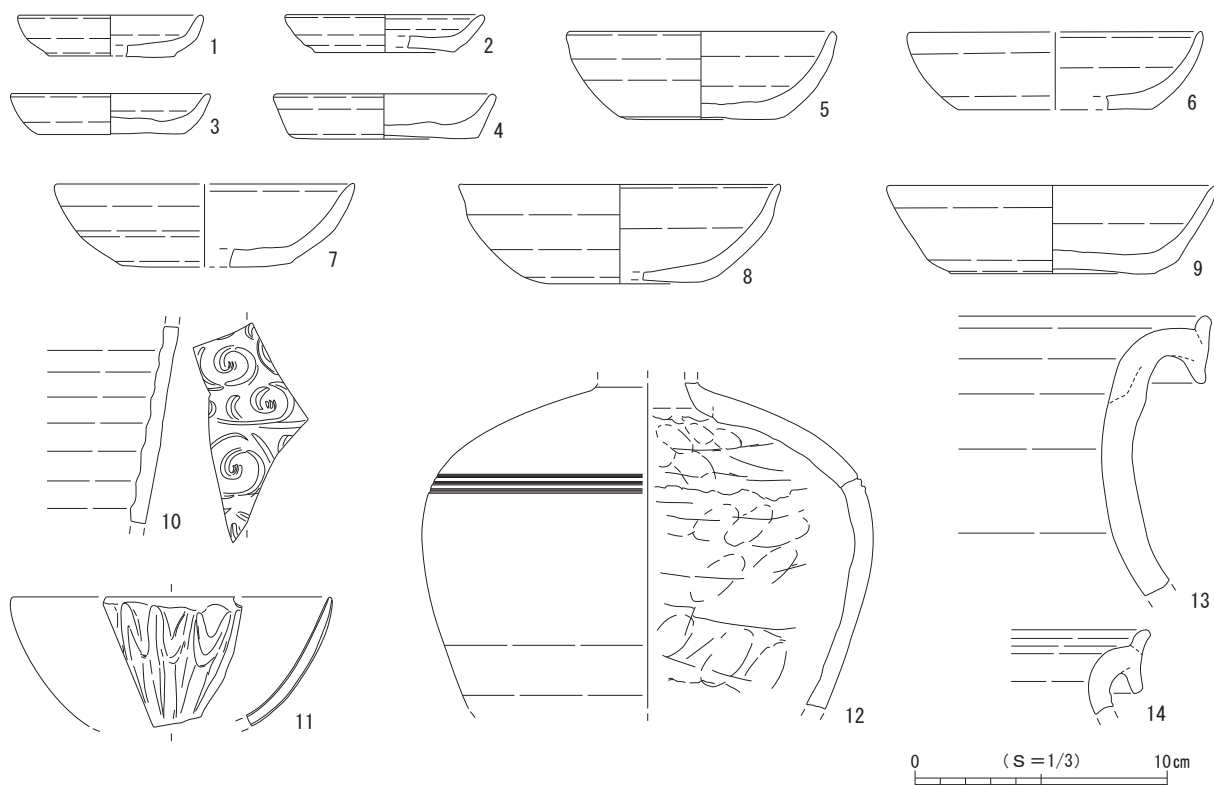


図26 第2面 井戸1 出土遺物

青磁碗Ⅱ類である。12～14は陶器で、12が瀬戸窯産の瓶子、13・14が常滑窯産の甕である。

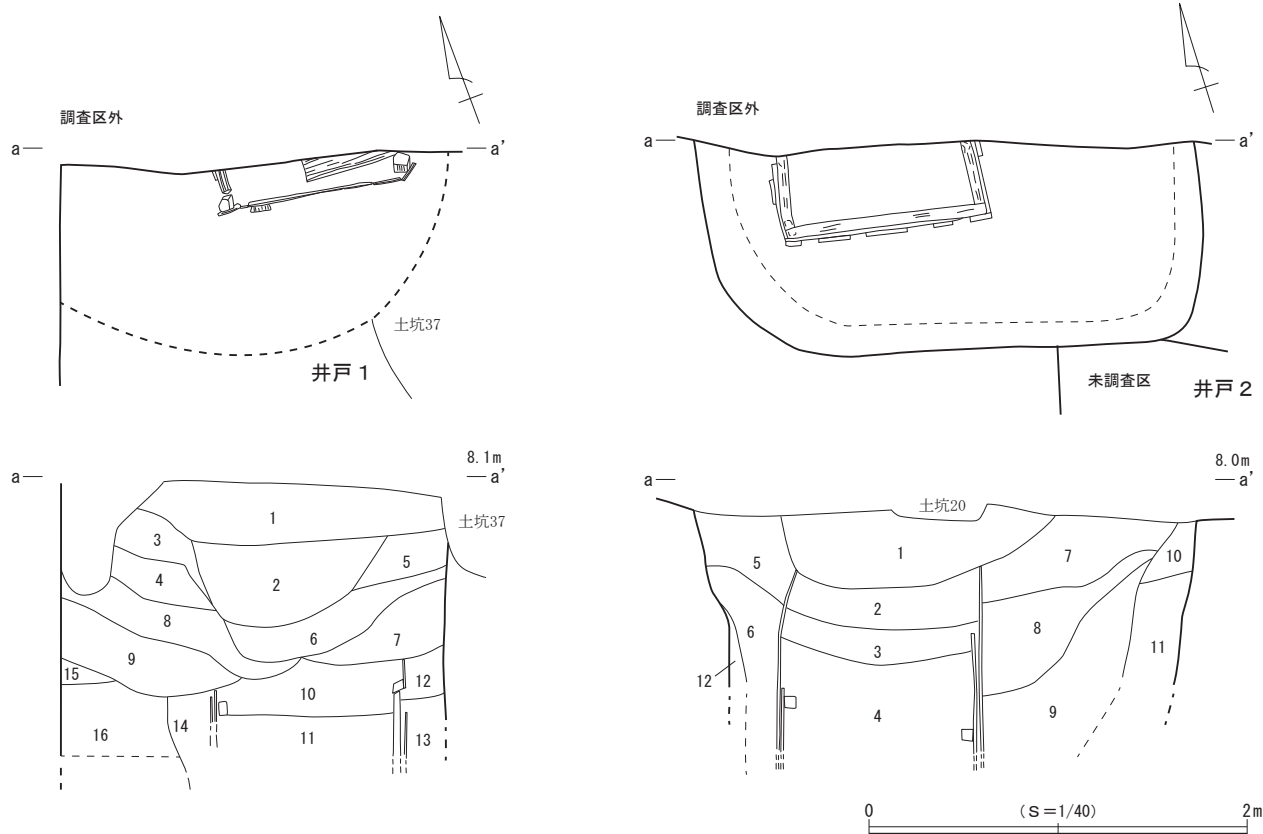
井戸2 (図27)

調査時には第3面で検出したが、調査区北壁の土層断面を観察した結果、第2面に帰属することが確認された。本址は湧水あるいは崩落防止など安全対策上の理由から、標高約6.5mまで掘り下げた時点で調査を終了している。

本址は調査区北壁の東側に位置し、遺構の北側およそ1/2が調査区外に及んでいるとみられる。掘り方の平面形は、調査区内で確認できた範囲については隅丸方形を呈しており、中央よりやや西側に木製の井戸枠が遺存していた。井戸枠は方形を呈し、縦板を横棧で留める形式で作られている。調査時に実測された図面および写真などの記録からは隅柱をもたない構造と判断される。井戸枠の規模は一辺1.1mを測り、横棧に用いられた断面方形の角材は幅約5～6cm、縦板の厚さは約2cmで、縦板は掘削が及んだ範囲で最長約1.0mが確認された。また、北壁の土層断面から、上部は1枚、下部は2枚の縦板が重なっている状況が認められた。掘削深度が底面まで達していないため、下部施設の有無は不明である。

掘り方の規模は長軸現存長2.65m、短軸現存長1.09m、深度は1.32mまでが確認された。覆土は井戸枠内が泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物などを含む茶褐色粘質土と灰褐色粘質土である。なお、本址の北壁土層断面には、掘り方内の裏込めと考えられる土層に縦位の不整合面が認められる(図27中の6層と12層間および7～9層と10・11層間)。これは、井戸1と同様に、異なる時期の井戸との重複または作り替えの可能性があると同時に、井戸の構築時に裏込め土を壁際から段階的に充填する工程があらわれたものとも考えられよう。

遺物はかわらけ22点、磁器2点、陶器3点、土器1点、瓦1点が出土した。



井戸 1

- 1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒中量、炭化物・かわらけ粒少量含む。締まりややあり。
- 2層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒多量、炭化物中量、締まりややあり。
- 3層 茶褐色砂質土 泥岩粒中量、炭化物少量含む。締まりなし。
- 4層 黄灰色砂質土 泥岩粒・炭化物微量含む。締まりなし。
- 5層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒多量、炭化物中量含む。締まりややあり。
- 6層 暗茶褐色弱粘質土 泥岩粒中量、炭化物・かわらけ粒少量含む。締まりなし。
- 7層 黄灰色砂質土 暗茶褐色粘質土ブロック多量、泥岩粒・炭化物・かわらけ粒少量含む。締まりなし。
- 8層 明茶褐色砂質土 泥岩粒・黒褐色粘土ブロック少量含む。締まりあり。
- 9層 黒褐色粘質土 泥岩粒・黄褐色砂ブロック・暗茶褐色砂質土ブロック多量含む。締まりあり。
- 10層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物多量、かわらけ粒少量含む。締まりややあり。
- 11層 暗茶褐色粘質土 泥岩粒・炭化物少量含む。締まりなし。
- 12層 暗茶褐色粘質土 黄褐色砂ブロック多量、泥岩粒中量含む。締まりあり。
- 13層 黒褐色粘質土 泥岩粒少量含む。締まりあり。
- 14層 黒褐色粘質土 泥岩粒多量、黄灰色砂ブロック少量含む。締まりあり。
- 15層 暗黄灰色粘質土 黄褐色砂ブロック含む。締まりあり。
- 16層 黒褐色粘質土 黄褐色砂ブロック多量、泥岩粒中量含む。締まりあり。

井戸 2

- 1層 茶褐色粘質土 泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物多量、かわらけ粒微量含む。3cmの灰層入る。締まりなし。
- 2層 茶褐色粘質土 泥岩粒・炭化物中量、かわらけ粒少量、木片微量含む。締まりなし。
- 3層 茶褐色粘質土 2層より泥岩粒が減少する。締まりなし。
- 4層 灰褐色粘質土 泥岩粒・炭化物中量、木片多量含む。締まりなし。
- 5層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩ブロック多く、炭化物・かわらけ粒少量含む。締まりなし。
- 6層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物・灰黄色砂ブロック多量含む。締まりなし。
- 7層 茶褐色砂質土 泥岩粒・泥岩ブロック少量、炭化物・かわらけ粒微量含む。締まりなし。
- 8層 茶褐色砂質土 泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物中量、かわらけ粒少量含む。締まりややあり。
- 9層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物・かわらけ粒少量、明黄褐色砂ブロック多く含む。締まりあり。
- 10層 茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物少量含む。締まりややあり。
- 11層 黄灰色砂 黄褐色粘土ブロック多く混入する。締まりややあり。
- 12層 暗茶褐色粘質土 黄褐色砂混入する。締まりあり。

図27 第2面 井戸 1・2

(2) 土 坑

第2面では、19基を検出した。1基を除きすべて調査区西半部に分布する。大形のものが帯状に連なっており、遺構間の重複も多い。平面形は円形、楕円形、隅丸長方形を呈し、現状での規模は長軸0.61~2.90m、深さ12~59cmで、規模に幅がある。

土坑28 (図31)

調査区南西側に位置する。平面形は上端は楕円形を呈するが、底面は略円形を呈する。壁は大きく開いて立ち上がり、底面は北側が低いことから、断面形は歪んだ逆台形を呈する。規模は長軸1.41m、短軸1.17m、深さ23cmで、坑底面の標高は7.65mを測る。主軸方位はN-25°-Eを指す。覆土は上下2層に分けられ、上層は泥岩粒と炭化物を多量に含み、やや締まりがある茶褐色弱粘質土、下層は泥岩粒とかかわらけ粒を少量含み、やや砂質を帯びて締まりのない茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図28)

遺物はかわらけ10点、磁器1点が出土し、このうち3点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。3は龍泉窯系青磁椀I類である。

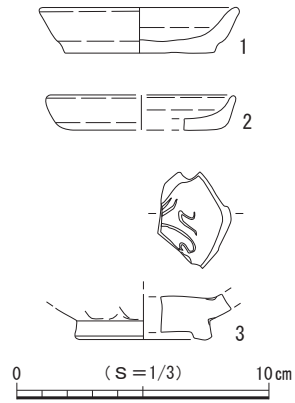


図28 第2面 土坑28出土遺物

土坑29 (図31)

調査区西端に位置する。北東側が土坑30と接している。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がるが南西側はほぼ垂直で、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸77cm、短軸62cm、深さ45cmで、坑底面の標高は7.46mを測る。主軸方位はN-6°-Wを指す。覆土は泥岩粒を多量、炭化物とかわらけ粒を中量含み、拳大の泥岩が混入する、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図29)

遺物はかわらけ12点、陶器8点、土器1点が出土し、このうち1点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。

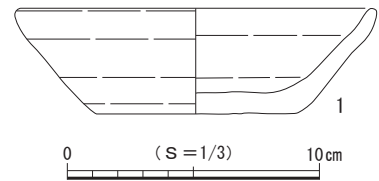


図29 第2面 土坑29出土遺物

土坑30 (図31)

調査区西端に位置する。南西側が土坑29と接している。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.10m、短軸79cm、深さ20cmで、坑底面の標高は7.68mを測る。主軸方位はN-77°-Eを指す。覆土は泥岩粒を少量含む、締まりのない茶褐色砂質土である。

出土遺物 (図30)

遺物はかわらけ121点、陶器1点、石製品1点が出土し、このうち2点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。

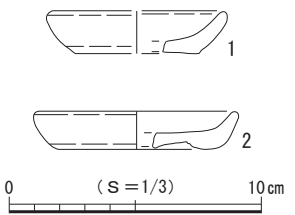


図30 第2面 土坑30出土遺物

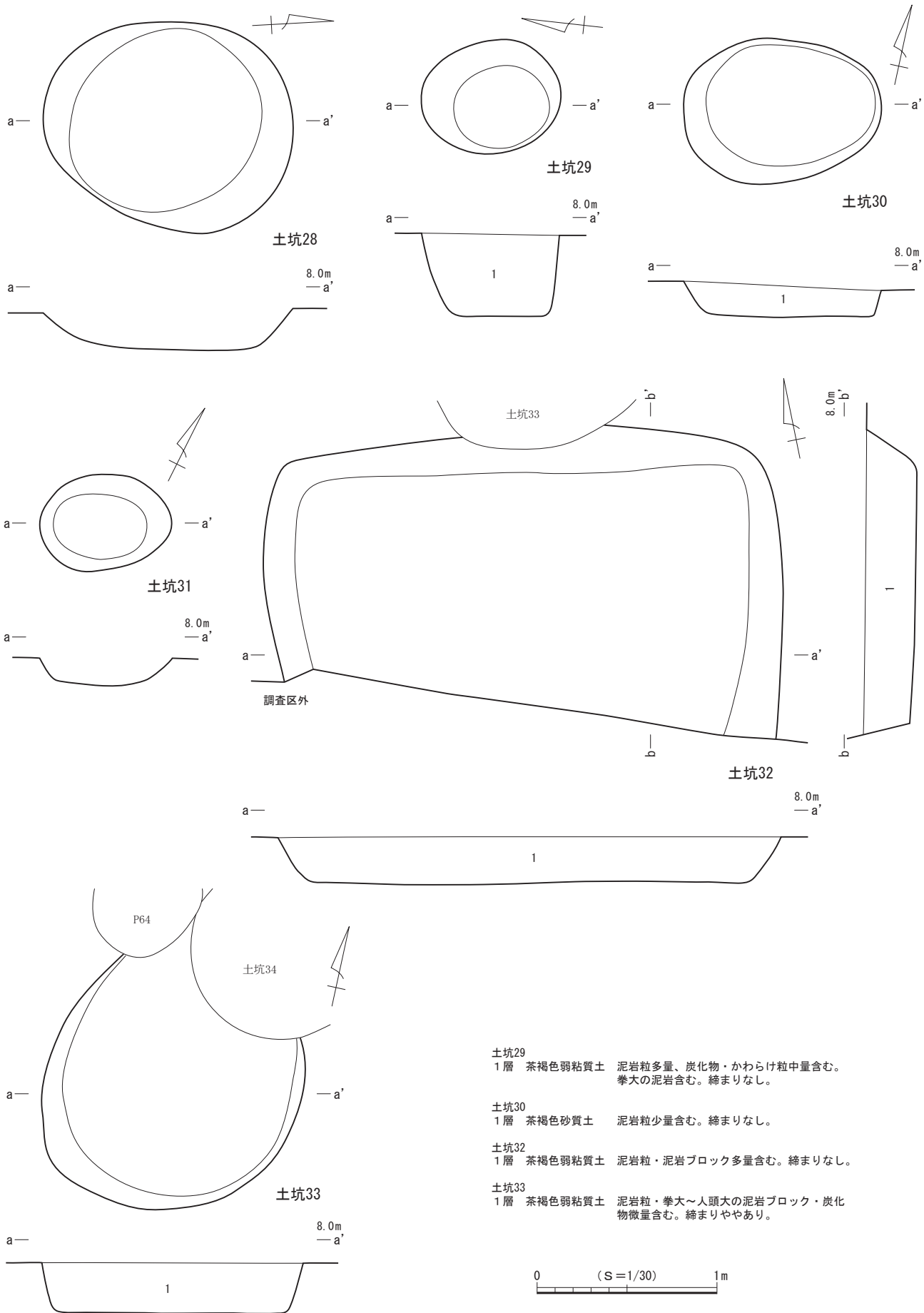
土坑31 (図31)

調査区西端に位置する。北側がピット48と重複しており、本址が新しい。また、南西側が土坑30と近接する。平面形は楕円形を呈する。壁は緩やかに開いて立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は長軸74cm、短軸53cm、深さ15cmで、坑底面の標高は7.73mを測る。主軸方位はN-59°-Eを指す。覆土は2層に分けられ、上層は泥岩ブロックを多量に含む締まりのない茶褐色弱粘質土、下層は混入物がみられず締まりのない茶褐色砂質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑32 (図31)

調査区南壁西側に位置する。北東側が土坑33と重複しており、本址が新しい。ほぼ中央に重複するピット66との新旧関係は不明である。南側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。全体の形



- 土坑29
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒多量、炭化物・かわらけ粒中量含む。
拳大の泥岩含む。締まりなし。
- 土坑30
1層 茶褐色砂質土 泥岩粒少量含む。締まりなし。
- 土坑32
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・泥岩ブロック多量含む。締まりなし。
- 土坑33
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・拳大～人頭大の泥岩ブロック・炭化物微量含む。締まりややあり。

図31 第2面 土坑28～33

状や規模が把握できていないことからここでは土坑としたが、検出した部分は比較的大形で方形に近い整った形状を呈することから、竪穴状遺構の可能性も考慮すべきであると思われる。検出した範囲からは、平面形は隅丸方形ないし隅丸長方形を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸2.90m、短軸現存長1.70m、深さ27cmで、坑底面の標高は7.60mを測る。北壁を基準にすると、主軸方位はN-81°-Wを指す。覆土は泥岩粒と泥岩ブロックを多量に含む、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑33 (図31)

調査区西側に位置する。南側で土坑32、北西側でピット64と重複しており、本址が古い。北東側で重複する土坑34との新旧関係は不明である。平面形は略円形を呈するものと推定される。壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は箱形に近い逆台形を呈する。規模は径1.40m、深さ28cmで、坑底面の標高は7.59mを測る。覆土は泥岩粒・拳大～人頭大の泥岩ブロック・炭化物を微量含む、やや締まりのある茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図32)

遺物はかわらけ16点、陶器2点が出土し、このうち2点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。

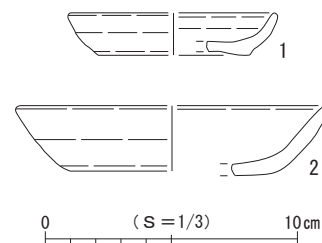


図32 第2面 土坑33出土遺物

土坑34 (図34)

調査区西側に位置する。北西側がピット62と重複しており、本址が新しい。南西側で重複する土坑33との新旧関係は不明である。平面形は楕円形を呈するが、底面は西側が狭まり不整楕円形を呈する。壁は南西側が大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.27m、短軸1.09m、深さ59cmで、坑底面の標高は7.27mを測る。主軸方位はN-40°-Eを指す。覆土は2層に分けられ、上層は泥岩粒と泥岩ブロックを少量、炭化物を微量含む茶褐色弱粘質土で、下層はさらに微量のかわらけ粒を含む茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図33)

遺物はかわらけ21点、陶器5点が出土し、このうち3点を図示した。

1～3はロクロ成形によるかわらけである。

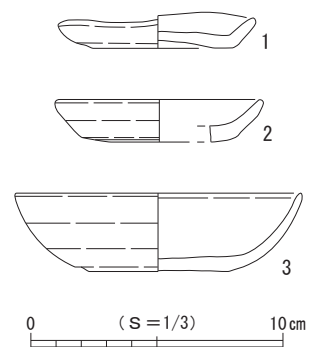


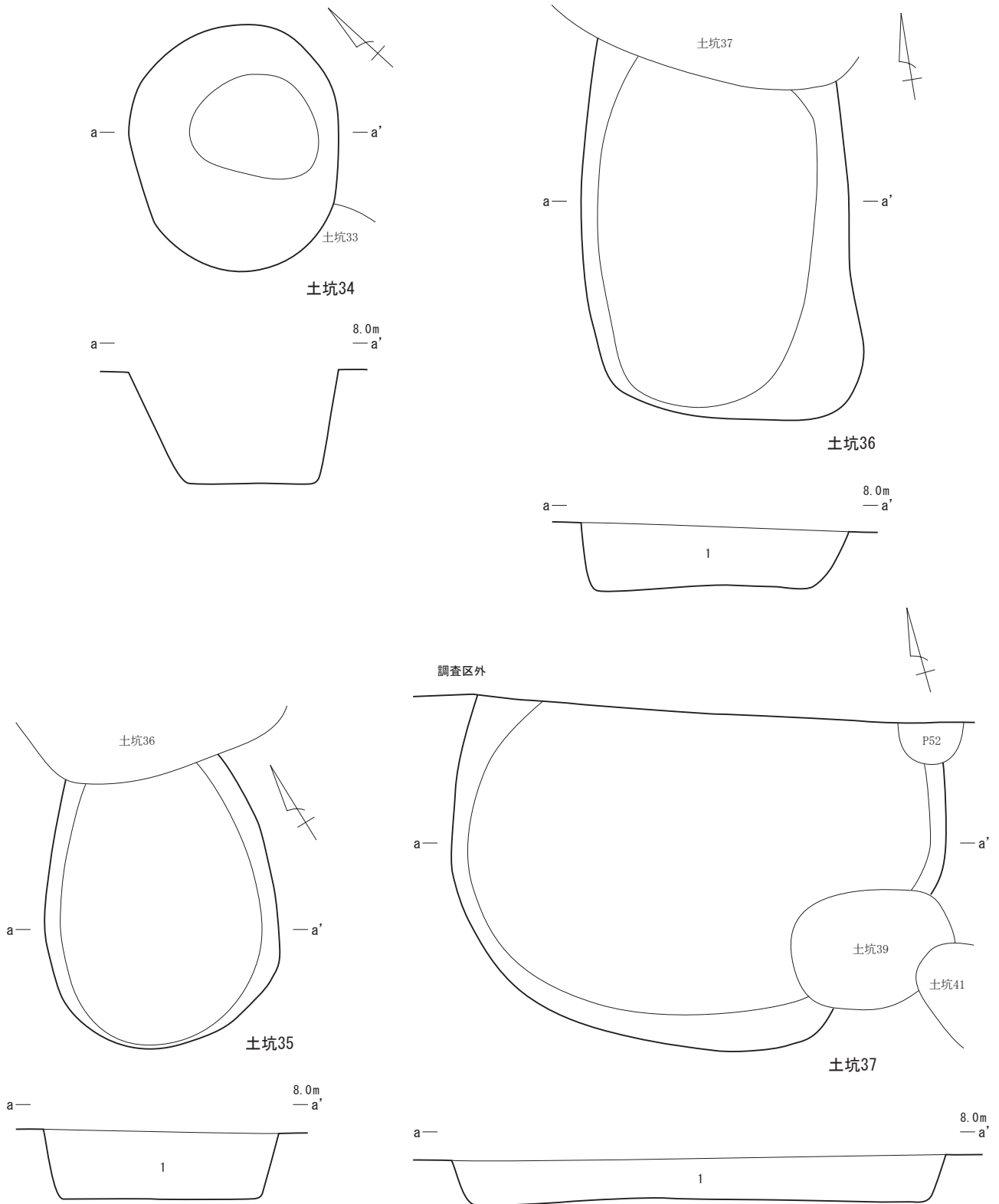
図33 第2面 土坑34出土遺物

土坑35 (図34)

調査区西側に位置する。南東側で重複するピット64より新しく、北東側で重複する土坑36より古い。内側に重複するピット63との新旧関係は不明である。平面形は楕円形を呈するものと推定される。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.50m、短軸1.21m、深さ36cmで、坑底面の標高は7.51mを測る。主軸方位はN-27°-Eを指す。覆土は泥岩粒と人頭大の泥岩ブロックを多量、炭化物・かわらけ粒を少量含む茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図35)

遺物はかわらけ23点、陶器2点が出土し、このうち2点を図示した。



土坑35
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・人頭大の泥岩ブロック多量、炭化物・かわらけ粒少量含む。締まりなし。

土坑36
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・拳大～人頭大の泥岩ブロック多量、かわらけ片少量含む。締まりややあり。

土坑37
1層 茶褐色弱粘質土 拳大～人頭大の泥岩ブロック多量、かわらけ粒・粗砂少量含む。締まりなし。

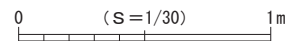


図34 第2面 土坑34～37

1・2はロクロ成形によるかわらけである。

土坑36 (図34)

調査区北西側に位置する。重複関係では、南西側の土坑35、南東側のピット61より新しく、北東側の土坑37より古い。部分的に他の遺構に壊されるがおおよそ全容が把握できたと考えられ、平面形は隅丸長方形を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長2.00m、短軸1.40m、深さ35cmで、坑底面の標高は7.56mを測る。主軸方位はN-9°-Eを指す。覆土は泥岩粒と拳大～人頭大の泥岩ブロックを多量、かわらけ片を少量含み、やや締まりのある茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図36)

遺物はかわらけ45点、陶器4点、金属製品2点が出土し、このうち4点を図示した。

1～3はロクロ成形によるかわらけである。3には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。4は銭貨で、元豊通寶(北宋・1078)である。

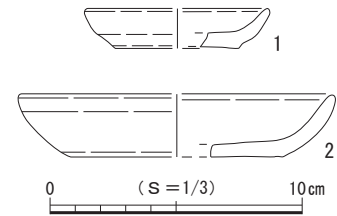


図35 第2面 土坑35出土遺物

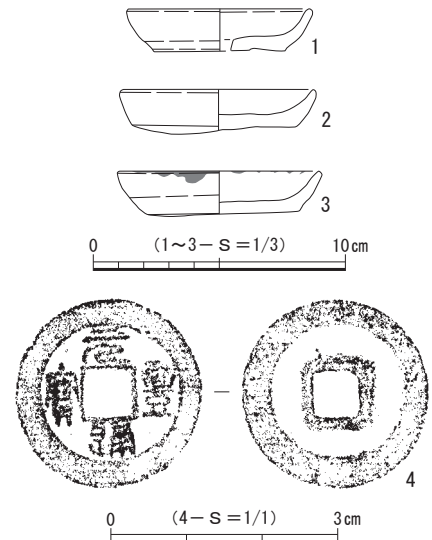


図36 第2面 土坑36出土遺物

土坑37 (図34)

調査区北西側に位置する。重複関係では、北西側の井戸1、南側の土坑36、西側の土坑38より本址が新しく、北東側のピット52、南東側の土坑39およびピット51より古い。内側にあるピット50との新旧関係は不明である。北側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は略円形を呈するものと推定される。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸2.55m、短軸現存長1.74m、深さ23cmで、坑底面の標高は7.62mを測る。覆土は拳大～人頭大の泥岩ブロックを多量、かわらけ粒・粗砂を少量含み、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ34点、陶器1点が出土した。

土坑38 (図39)

調査区北西側に位置する。東側が土坑37と重複しており、本址が古い。検出した範囲からは、平面形は略円形ないし楕円形を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北66cm、東西現存長47cm、深さ24cmで、坑底面の標高は7.62mを測る。覆土は泥岩粒とかわらけ粒を多量、炭化物を少量含む、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図37)

遺物はかわらけ31点、磁器1点が出土し、このうち1点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。

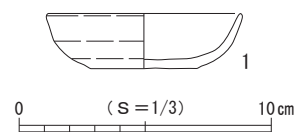


図37 第2面 土坑38出土遺物

土坑39 (図39)

調査区北西側に位置する。北西側で土坑37とピット51、南東側で土坑40・41と重複しており、土坑37・土坑40・ピット51より新しく、土坑41より古い。平面形は楕円形を呈する。壁は緩やかに開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸85cm、短軸61cm、深さ22cmで、坑底面の標高は7.65mを測る。主軸方位はN-82°-Wを指す。覆土は泥岩ブロックを多量、褐鉄を少量含み、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ2点が出土した。

土坑40 (図39)

調査区北西側に位置する。重複関係では、南東側のピット58より新しく、北側の土坑39および東側の土坑41より古い。検出した範囲からは、平面形は円形ないし楕円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長81cm、短軸現存長44cm、深さ19cmで、坑底面の標高は7.67mを測る。覆土は泥岩ブロックを多量含む、締まりのある黒褐色粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑41 (図39)

調査区北西側に位置する。北西側で土坑39、西側で土坑40と重複しており、本址が新しい。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸70cm、短軸47cm、深さ22cmで、坑底面の標高は7.65mを測る。主軸方位はN-31°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑42 (図39)

調査区北西側に位置する。西側で土坑41、南西側でピット56と接している。北東側に幅の狭いテラス状の段を有し、南西側に深い掘り込みを伴う。遺構の規模からここでは土坑としたが、ピットの可能性も考えられる。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸79cm、短軸54cm、深さ23cmで、坑底面の標高は7.64m、坑底面と北東側の段との差は18cmを測る。主軸方位はN-51°-Eを指す。覆土は2層に分けられ、上層は泥岩ブロックを多量、かわらけ片・かわらけ粒を少量、炭化物を微量含むやや締まりのある茶褐色弱粘質土、下層は泥岩粒を少量含む締まりのない茶褐色砂質土である。

出土遺物 (図38)

遺物はかわらけ3点、陶器2点が出土し、このうち1点を図示した。

1は常滑窯産の甕である。

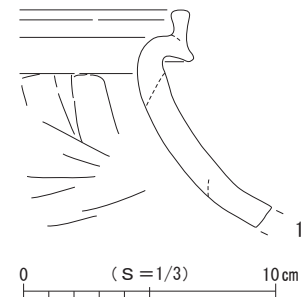


図38 第2面 土坑42出土遺物

土坑43 (図39)

調査区中央北側に位置する。平面形は略円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は径65cm、深さ12cmで、坑底面の標高は7.80mを測る。覆土は泥岩粒とかわらけ粒を少量含む、締まりのない茶褐色砂質土である。

遺物はかわらけ3点が出土した。

土坑44 (図39)

調査区北西側に位置する。北東側でピット60、西側でピット61と重複しており、本址が新しい。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸65cm、短軸50cm、深さ38cmで、坑底面の標高は7.48mを測る。主軸方位はN-5°-Eを指す。覆土は人頭大の泥岩ブロックを多量、泥岩粒を多く含む、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ5点が出土した。

土坑45 (図39)

調査区中央に位置する。平面形は楕円形を呈する。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸61cm、短軸41cm、深さ29cmで、坑底面の標高は7.55mを測る。主軸方位はN-23°-E

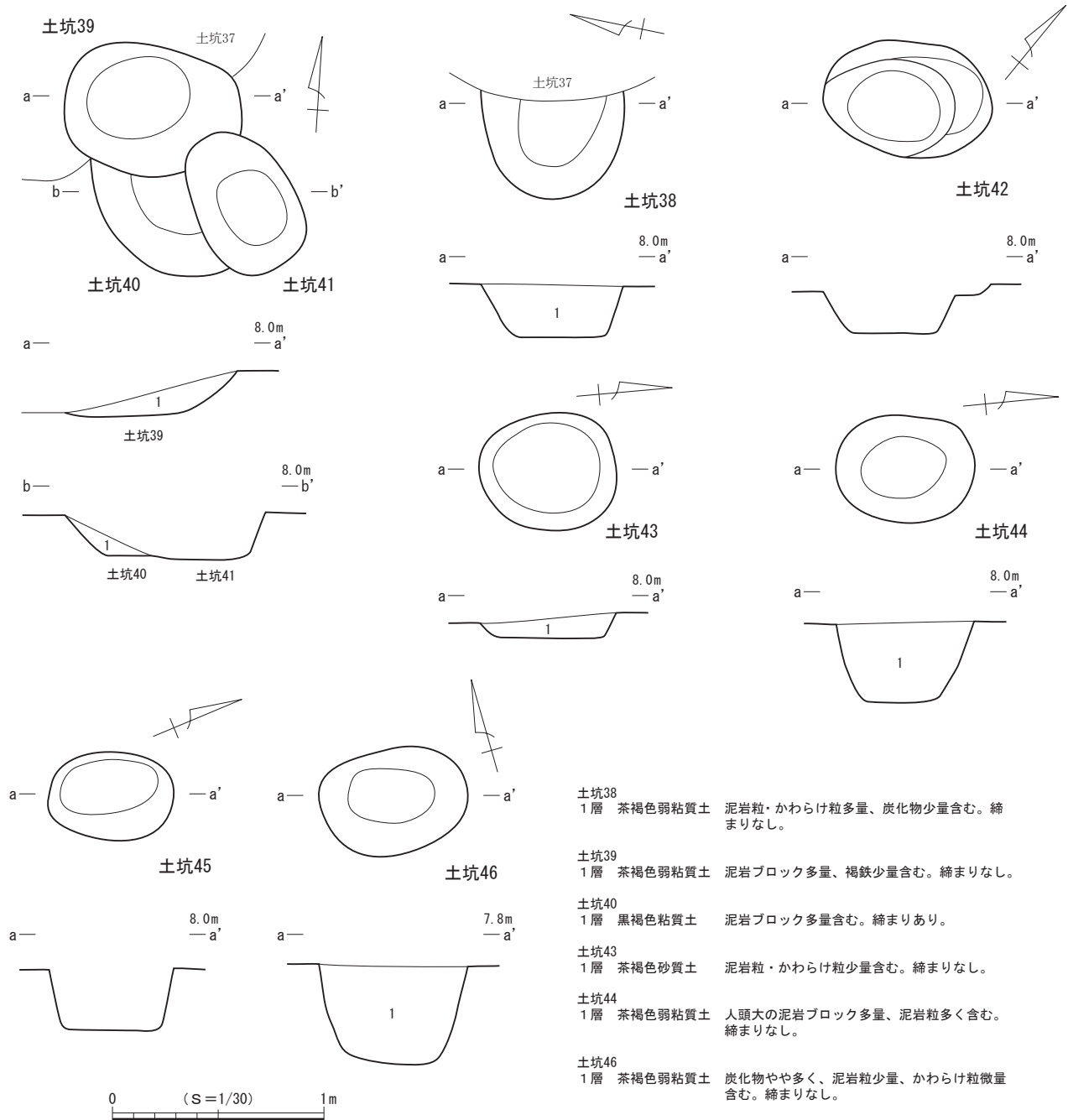


図39 第2面 土坑38~46

を指す。覆土は2層に分けられ、上層は泥岩粒と泥岩ブロックを中量、炭化物とかわらけ粒を微量含む締まりのない茶褐色弱粘質土、下層は泥岩粒を多量含む茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図40)

遺物はかわらけ10点、磁器1点、陶器2点が出土し、このうち1点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。

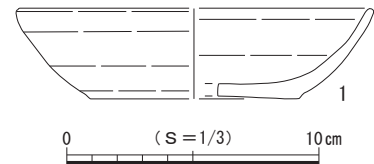


図40 第2面 土坑45出土遺物

土坑46 (図39)

調査区北東側に位置する。井戸2と重複しており、本址が新しい。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸69cm、短軸50cm、深さ48cmで、坑底面の標高は7.19mを測る。主軸方位はほぼ東西を指す。覆

土は炭化物をやや多く、泥岩粒を少量、かわらけ粒を微量含む、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図41)

遺物はかわらけ9点、陶器5点、金属製品1点が出土し、このうち1点を図示した。

1は常滑窯産の片口鉢I類である。

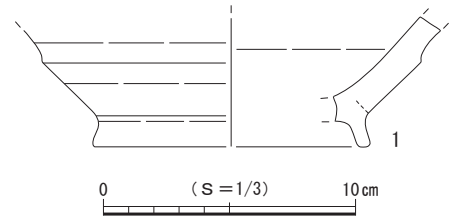


図41 第2面 土坑46出土遺物

(3) ピット (図25)

第2面では、25基を検出した。すべて調査区西側に分布しており、東側では検出されず、分布状況に偏りがある。特に調査区中央北側では密集しているが、建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形ないし楕円形で、規模は現状で長軸26~59cm、深さ13~72cmを測る。礎板や礎石を伴うピットは確認されなかった。覆土は茶褐色弱粘質土が主体で、茶褐色砂質土が堆積しているものも少数見受けられた。泥岩粒・泥岩ブロック・炭化物・かわらけ片などが含まれる。

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表8)を参照されたいが、このうち16点を図示した。

出土遺物 (図42)

1はピット47、2~9はピット48、10~13はピット49、14はピット52、15はピット57、16はピット62から出土したロクロ成形によるかわらけである。15には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

(4) 遺構外出土遺物 (図43・44)

第2面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち44点を図示した。

1~25はロクロ成形によるかわらけ、26は手づくね成形のかわらけである。10には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。また、12の内面には溶解した金属が付着しており、埴塼としての転用が考えられる。27~33は龍泉窯系青磁である。27は碗I類、28・29は碗II類、30は小碗II類、31は皿II類、32は折縁鉢、33は香炉である。34~41は常滑窯産の製品で、34~37が甕、38が片口鉢I類、39~41が片口鉢II類である。42は硯である。43・44は銭貨で、43が開元通寶(南唐・960)、44が紹聖元寶(北宋・1094)である。

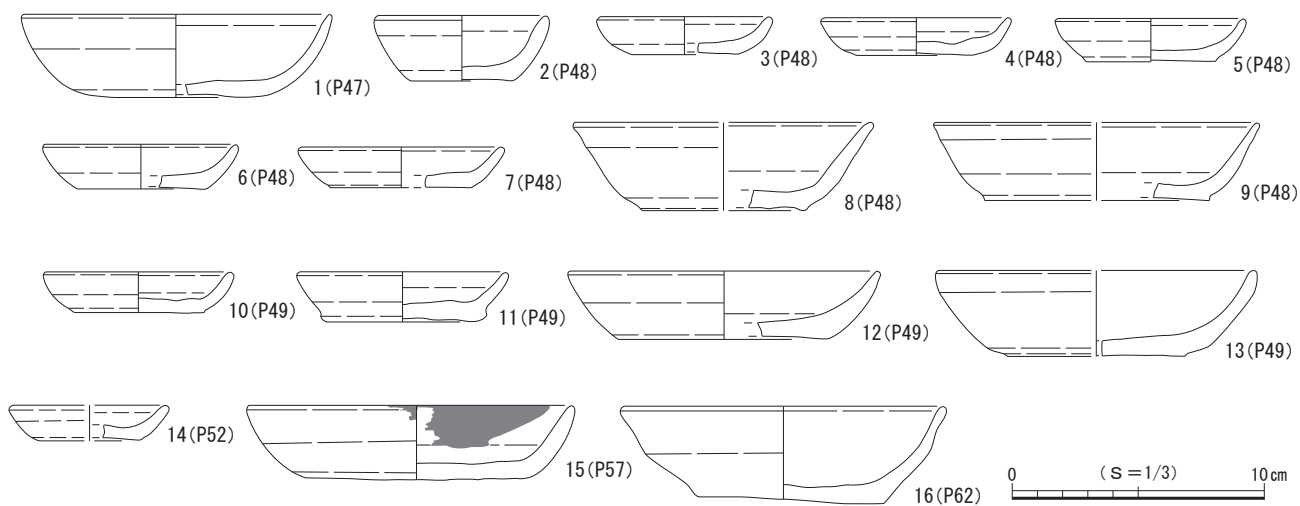


図42 第2面 ピット出土遺物

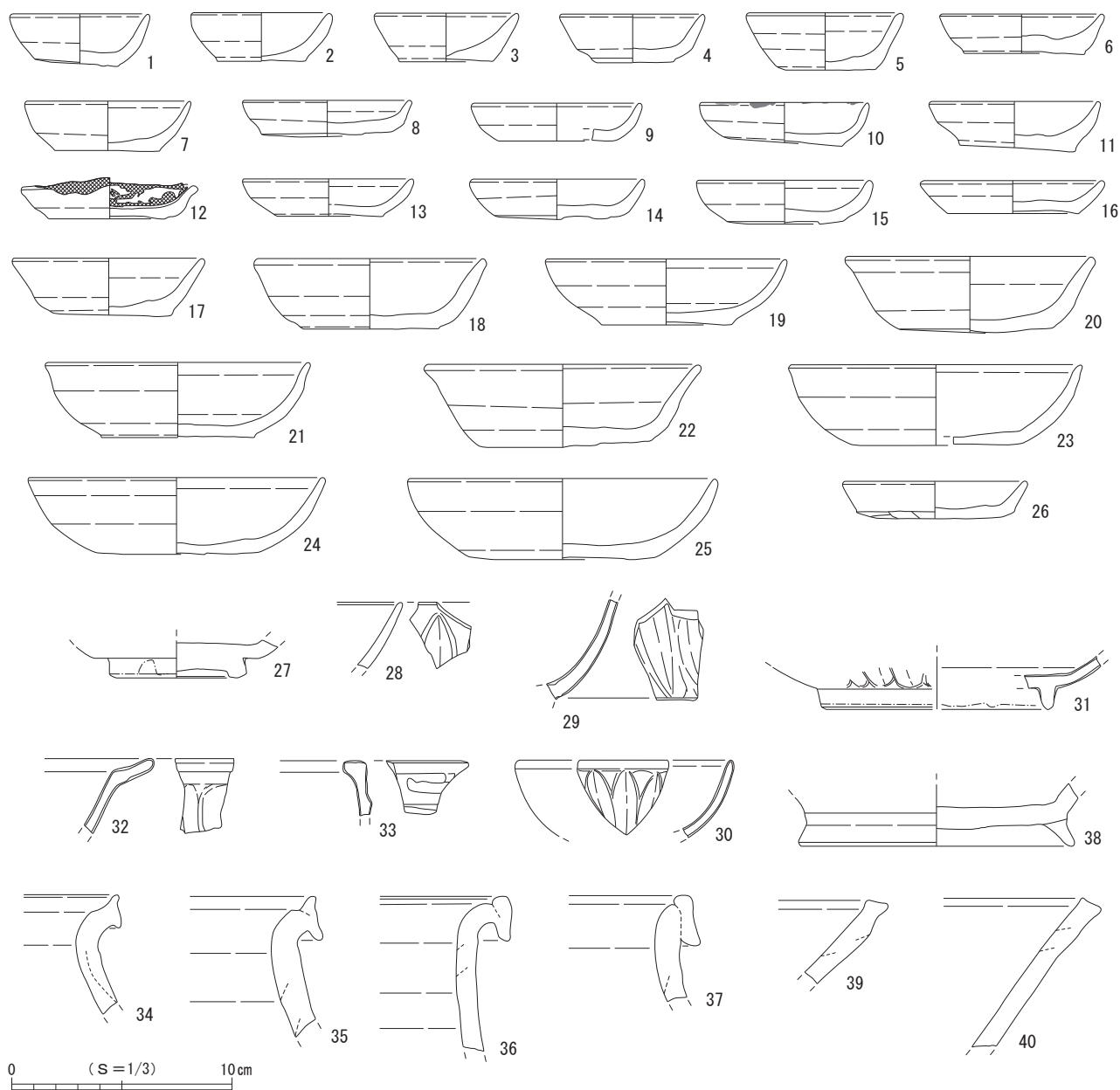


図43 第2面 遺構外出土遺物(1)

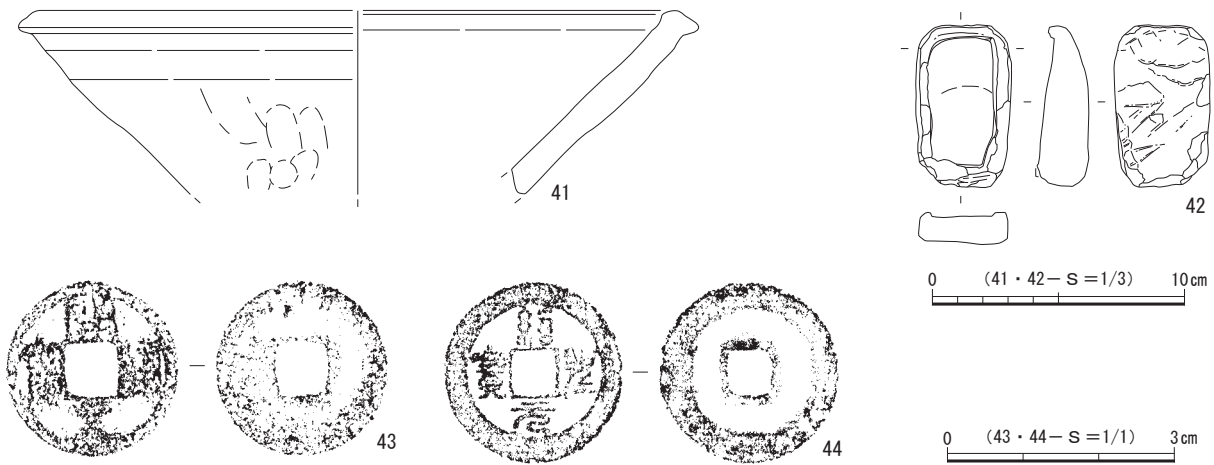


図44 第2面 遺構外出土遺物(2)

第3節 第3面の遺構と遺物

第3面の遺構は堆積土層の7層上面で検出され、確認面の標高は約7.6~7.8mを測る。7層は炭化物を少量含み、締まりが非常に強い茶褐色砂質土で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は、井戸1基、木組遺構1基、土坑38基、ピット31基である(図45)。調査区全体に分布しており、遺構密度は高いといえよう。なお、第2面の遺構の掘り込みが本面に達して本面の遺構を壊している部分もあるが、煩雑さを避けるために図面上では省略している場合がある。また、調査区の中央から東側の範囲については第2面での遺構確認が困難であり、本面で第2面と第3面の遺構を同時に確認している。したがって本面の全体図に示した遺構群には、本来は第2面に帰属する遺構が含まれている可能性が考えられる。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉~中葉頃に属すると考えられる。

(1) 井戸

第3面では、1基を検出した。調査区北壁にかかり全体の半分ほどが調査区外に及んでいることから、全容は明らかでない。

井戸3(図46)

本址は他の井戸と同様に、湧水あるいは崩落防止など安全対策上の理由から、遺構底面まで完掘せずに標高約6.5mまで掘り下げた時点で調査を終了した。そのため、下端は想定される形状を破線で示した。また、残土処理の都合により調査区を東西に2分割して調査が進められたが、その境界部分が本址の中央を分断していることから、本址の調査も東西に分割して行われた。

本址は調査区北壁の中央に位置し、遺構の北側およそ1/2が調査区外に及んでいるとみられる。掘り方の平面形は、調査区内で確認できた範囲については隅丸方形を呈し、南東側がわずかに歪んで内側に入る。掘り方のほぼ中央に木製の井戸枠の一部が遺存していた。また、井戸枠の平面図は湧水より上の部分のみが表現されたものとなっている。井戸枠の平面形は方形を呈するものと推定され、縦板を隅柱と

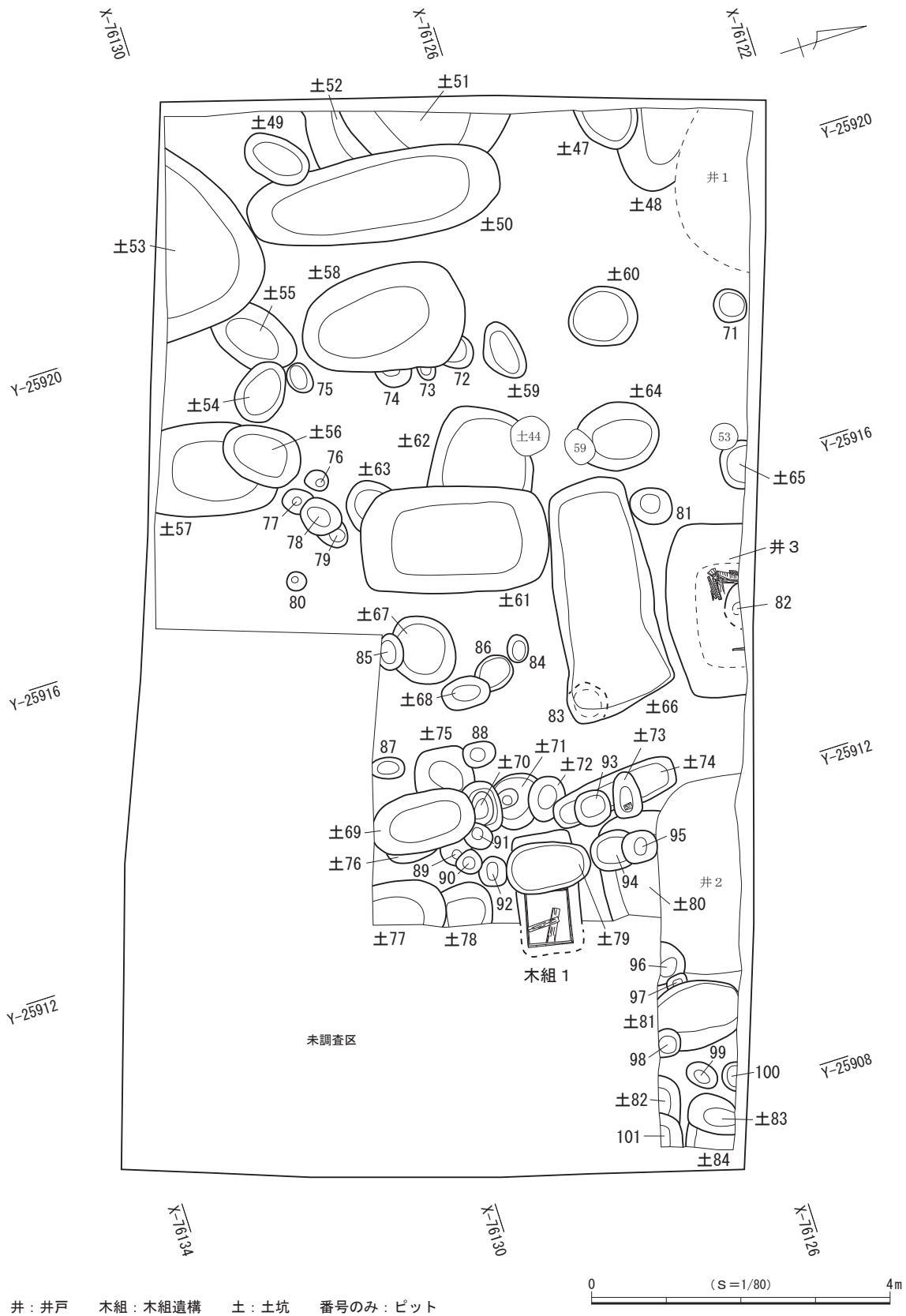
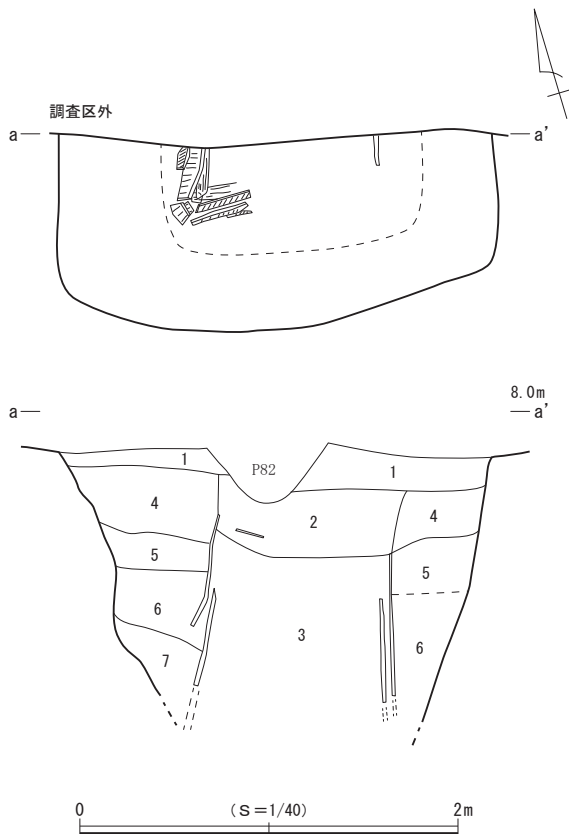


図45 第3面 遺構分布図



- | | | |
|----|----------|-------------------------------------|
| 1層 | 茶褐色弱粘質土 | 泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物・かわらけ粒少量含む。締まりややあり。 |
| 2層 | 暗茶褐色弱粘質土 | 泥岩粒・炭化物少量、木片・玉石含む。締まりややあり。 |
| 3層 | 暗茶褐色弱粘質土 | 泥岩粒中量、炭化物少量、粗砂多く含む。締まりなし。 |
| 4層 | 茶褐色弱粘質土 | 泥岩粒・泥岩ブロック多量、炭化物・かわらけ粒少量含む。締まりなし。 |
| 5層 | 暗茶褐色粘質土 | 泥岩粒・黄灰色砂ブロック多く、炭化物微量含む。締まりややあり。 |
| 6層 | 暗茶褐色粘質土 | 泥岩粒多量、炭化物少量、黄灰色砂ブロック微量含む。締まりややあり。 |
| 7層 | 暗茶褐色粘質土 | 泥岩粒少量、黄灰色砂ブロック多量含む。締まりなし。 |

図46 第3面 井戸3

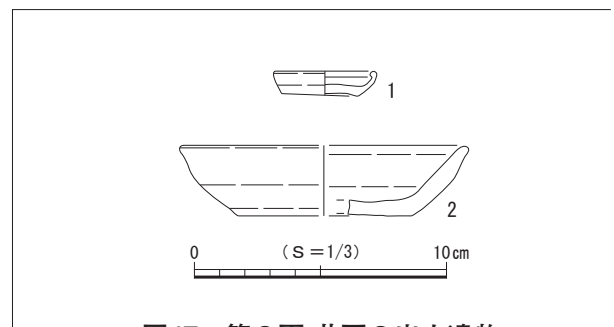


図47 第3面 井戸3 出土遺物

横棧で留める構造である。さらに縦板は複数枚が重ねられている。調査区北壁の土層断面図で確認すると、規模は一辺が1.0mほどと推定される。さらに横棧は幅6cm、隅柱は幅12cm、縦板の厚さは1～3cmで、縦板の長さは掘削が及んだ範囲で最大75cmが確認された。底面まで掘削が及んでいないことから、下部施設の有無は不明である。

掘り方の規模は東西現存長2.32m、南北現存長1.05m、深度は1.48mまでが確認された。覆土は井戸枠内が泥岩粒・炭化物などを含む暗茶褐色弱粘質土、裏込めに相当する土層が泥岩粒・泥岩ブロック・黄灰色砂ブロックなどを含む茶褐色弱粘質土と暗茶褐色粘質土である。

出土遺物 (図47)

遺物はかわらけ13点、磁器1点、陶器4点が出土し、このうち2点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。

(2) 木組遺構

第3面では、1基を検出した。今回の調査で唯一の事例である。方形の木組が連続しているもので、遺構の性格は不明である。

木組遺構 1 (図48)

調査区東側に位置する。東端が未調査区に及ぶが、一部拡張して調査した。湧水が著しいために、遺構下部までの調査はできなかった。したがって、図48の平面図は実測図だが、断面図は模式図を示した。

本址は西側の上層に土坑79が重複し、上端の一部が壊されている。掘り方のすぐ内側から板材を組み

合わせた木組が出土しており、板材の上端は確認面から約45cm下がっている。遺構全体の深さは、確認面から約80cmまでが調査されている。木組の平面形は長方形を呈し、規模は長軸1.38m、短軸58~61cmを測り、縦板の長さは35cmまでが確認された。ほぼ中央に間仕切り状の縦板が付設されていることから、同じ規模の方形の木組が連結したものとみることができよう。木組の構造は縦板が横棧で留められ、隅柱はもたないようであり、底板の有無は確認できていない。西側の方形部分は4面すべてで内側に横棧がめぐり、東側は横棧が北・東・南の3面に「コ」字状にめぐっている。横棧は上下2段が確認されており、その間隔は約20cmである。東側の方形部分で木材が2点出土しているが、本址を構成する部材が壊れたものなどではないと思われる。

掘り方の平面形は現状で隅丸長方形で、推定長軸1.65m、短軸84cmを測る。下部の木組と掘り方はほぼ同形かつ同規模とみられ、木組の規格に則って掘り込まれたものと考えられる。なお、東側の未調査区については可能な限り拡張して調査を行ったが、さらに東側へ延びる可能性も考えられる。本址の性格は特定できないが、収納・貯蔵施設、水溜などが想定し得る。

出土遺物 (図49)

遺物はかわらけ14点、陶器3点が出土し、このうち4点を図示した。

1~3はロクロ成形によるかわらけである。2には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。4は山茶碗窯系の片口鉢である。

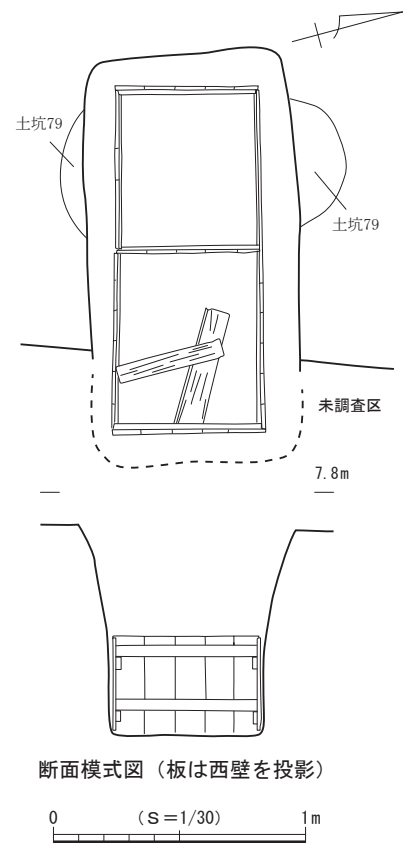
(3) 土 坑

第3面では、38基を検出した。調査区のほぼ全面に分布している。遺構密度が高いことから、遺構同士の重複も多い。平面形は円形、楕円形、隅丸長方形が主体となり、現状での規模は長軸0.62~3.42m、深さ0.12~1.01mで、第2面同様に個々の土坑で差が大きい。

土坑47 (図50)

調査区西壁北側に位置する。北東側が土坑48と重複しており、本址が新しい。また、西側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は円形ないし楕円形を呈するものと推定される。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長84cm、東西現存長52cm、深さ12cmで、坑底面の標高は7.49mを測る。

遺物はかわらけ28点が出土した。



断面模式図 (板は西壁を投影)

0 (S=1/30) 1m

図48 第3面 木組遺構 1

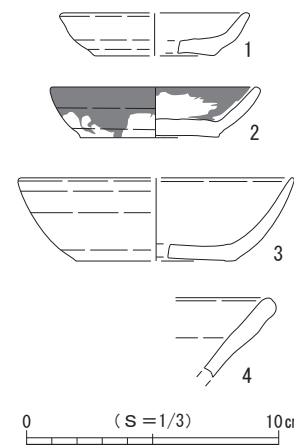


図49 第3面 木組遺構 1 出土遺物

土坑48 (図50)

調査区西壁北側に位置する。北東側が井戸1、南西側が土坑47と重複しており、本址が古い。また、西側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は楕円形を基調とするものと推定される。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長1.11m、東西現存長1.11m、深さ26cmで、坑底面の標高は7.32mを測る。

遺物は出土しなかった。

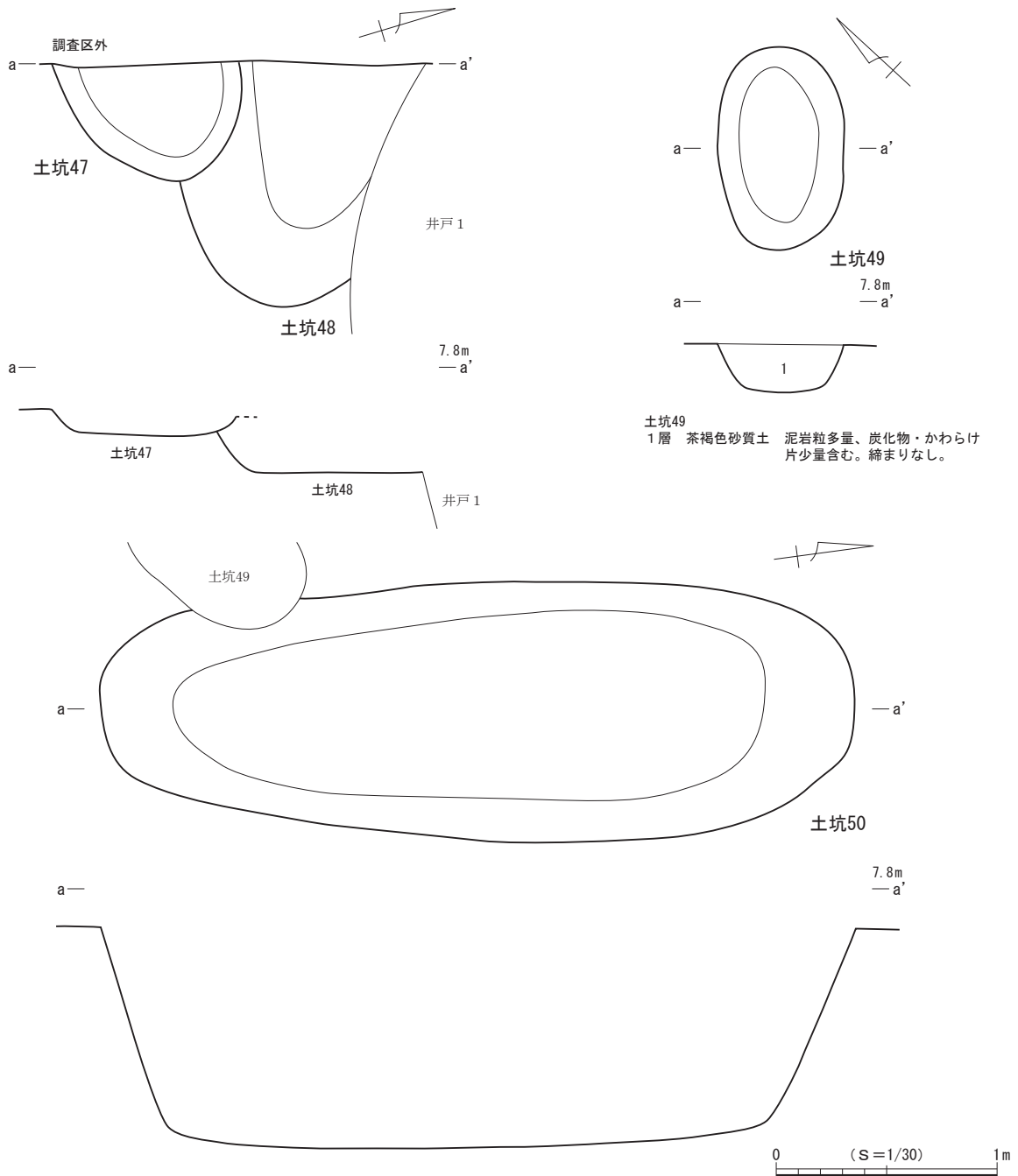


図50 第2面 土坑47~50

土坑49 (図50)

調査区南西隅に位置する。北東側が土坑50と重複しており、本址が新しい。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸93cm、短軸56cm、深さ22cmで、坑底面の標高は7.39mを測る。主軸方位はN-45°-Eを指す。覆土は泥岩粒を多量、炭化物とかわらけ片を少量含み、締まりのない茶褐色砂質土である。

出土遺物 (図51)

遺物がかわらけ103点、陶器5点が出土し、このうち2点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。2は常滑窯産の片口碗である。

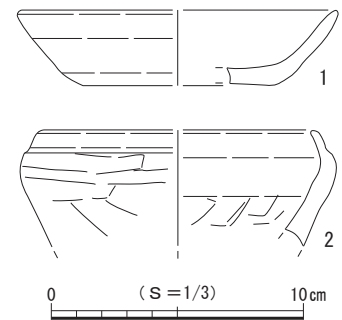


図51 第3面 土坑49出土遺物

土坑50 (図50)

調査区西端に位置する。南西側が土坑49と重複しており、本址が古い。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸3.42m、短軸1.21m、深さ1.01mで、坑底面の標高は6.64mを測る。主軸方位はN-8°-Eを指す。覆土は3層に分けられ、上層は泥岩粒を多量、かわらけ粒を少量含む茶褐色弱粘質土、中層は明黄褐色砂ブロックを中量含む黒褐色粘質土、下層は混入物のない茶褐色粘質土である。

遺物がかわらけ21点、陶器4点、木製品8点が出土した。

土坑51 (図55)

調査区西壁中央に位置する。南側で重複する土坑52より新しく、東側で重複する土坑50より古い。また、西側の大半が調査区外に及んでいるとみられ、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は円形ないし隅丸方形を呈する可能性が考えられるが、確認された範囲が少なく明瞭でない。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長2.28m、短軸現存長60cm、深さ94cmで、坑底面の標高は6.73mを測る。

出土遺物 (図52)

遺物がかわらけ36点、磁器3点、陶器35点、土器2点、石製品1点、金属製品5点が出土し、このうち2点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。2は常滑窯産の甕である。

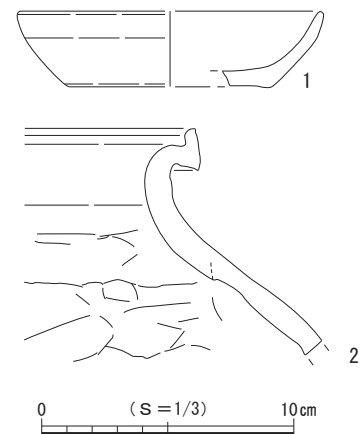


図52 第3面 土坑51出土遺物

土坑52 (図55)

調査区西壁南側に位置する。東側が土坑50、北側が土坑51と重複しており、本址が古い。また、西側の大半が調査区外に及んでいるとみられ、遺構の全容は明らかでない。土坑51に大きく壊されることから平面形は不明であるが、検出した範囲はやや丸みを帯びている。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈するものと推定される。規模は南北現存長82cm、東西現存長78cm、深さ95cmで、坑底面の標高は6.72mを測る。覆土は炭化物を少量含み、明黄褐色砂ブロックが混入する、締まりのある黒褐色粘質土

である。

遺物はかわらけ4点、陶器1点が出土した。

土坑53 (図55)

調査区南壁西側に位置する。北東側が土坑55と重複しており本址が新しく、北側で土坑50と接している。また、南西側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は隅丸長方形を基調とするものと推定されるが、部分的であるため明瞭でない。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長2.60m、南北1.30m、深さ50cmで、坑底面の標高は7.24mを測る。覆土は泥岩粒を多量、炭化物を中量含む、やや締まりのある暗茶褐色粘質土である。

出土遺物 (図53)

遺物はかわらけ64点、磁器3点、陶器14点、土器2点、金属製品1点が出土し、このうち2点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけ、2は手づくね成形によるかわらけである。

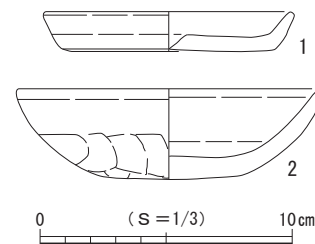


図53 第3面 土坑53出土遺物

土坑54 (図55)

調査区南西側に位置する。北西側が土坑55と重複しており、本址が新しい。平面形は楕円形を呈する。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は箱形に近い逆台形を呈する。規模は長軸85cm、短軸62cm、深さ31cmで、坑底面の標高は7.28mを測る。主軸方位はN-45°-Wを指す。覆土は泥岩粒を中量、炭化物を少量含む、締まりのない暗茶褐色粘質土である。

出土遺物 (図54)

遺物はかわらけ12点、磁器2点が出土し、このうち7点を図示した。

1～5はロクロ成形によるかわらけである。6は青白磁の小壺、7は白磁の口元皿である。

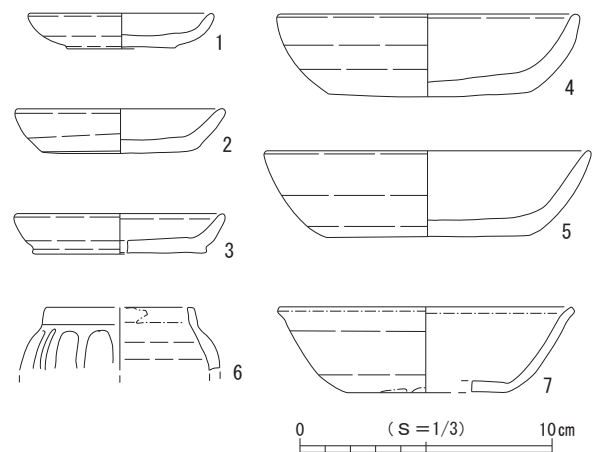


図54 第3面 土坑54出土遺物

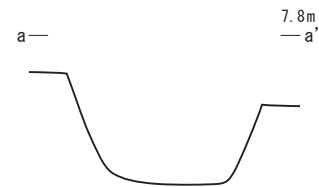
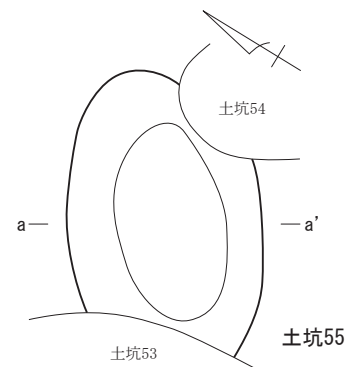
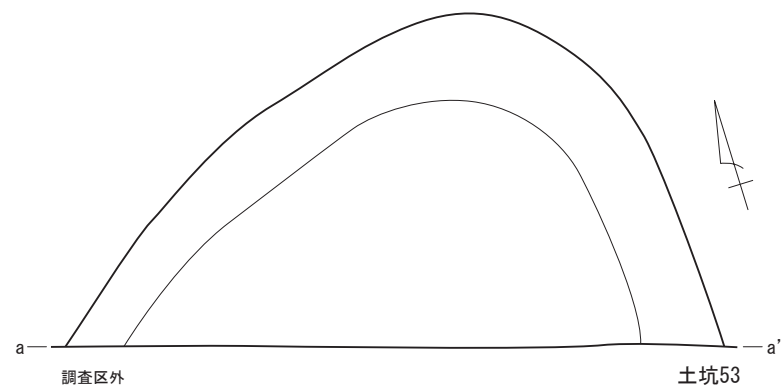
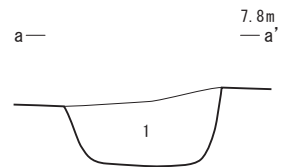
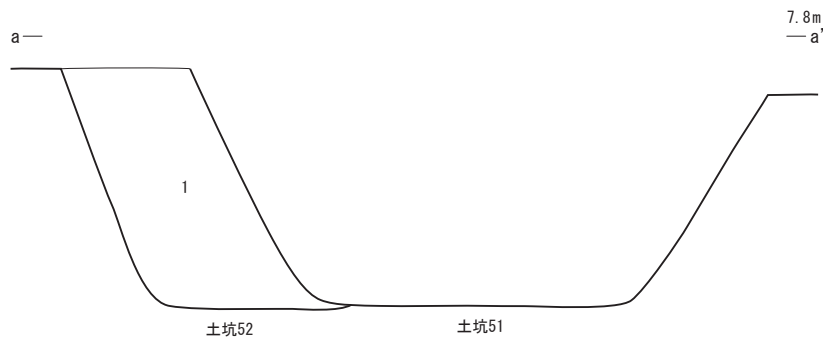
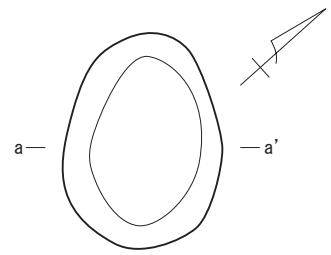
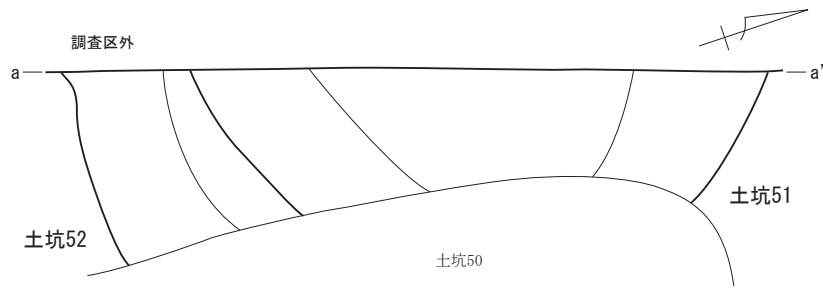
土坑55 (図55)

調査区南西側に位置する。北東側が土坑54、南西側が土坑53と重複しており、本址が古い。おおよそ全容が確認されたとみられ、平面形は楕円形と推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.21m、短軸76cm、深さ44cmで、坑底面の標高は7.21mを測る。主軸方位はN-44°-Eを指す。

遺物はかわらけ15点、磁器1点、陶器2点、金属製品1点が出土した。

土坑56 (図55)

調査区南西側に位置する。南側が土坑57と重複しており、本址が新しい。平面形は楕円形を呈する。



土坑52
1層 黒褐色粘質土 炭化物少量含む。明黄褐色砂ブロック混入する。締まりあり。

土坑53
1層 暗茶褐色粘質土 泥岩粒多量、炭化物中量含む。締まりややあり。

土坑54
1層 暗茶褐色粘質土 泥岩粒中量、炭化物少量含む。締まりなし。

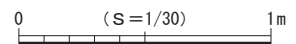
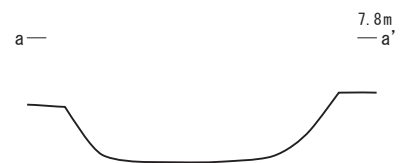
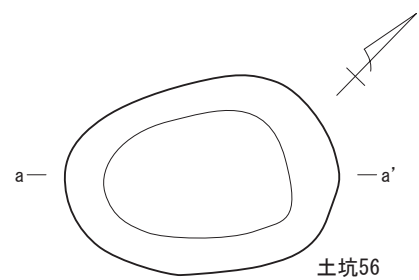


図55 第3面 土坑51~56

壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.09m、短軸76cm、深さ27cmで、坑底面の標高は7.31mを測る。主軸方位はN-38°-Eを指す。覆土は2層に分けられ、上層は泥岩粒と拳大～人頭大の泥岩ブロックを多量、炭化物とかわらけ片を微量含む、やや締まりのある茶褐色弱粘質土、下層は拳大～人頭大の泥岩ブロックを中量含む、締まりのない茶褐色砂質土である。

遺物はかわらけ7点、陶器1点が出土した。

土坑57 (図61)

調査区南壁西側に位置する。北側が土坑56と重複しており、本址が古い。また、南西側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は楕円形を呈するものと推定される。壁は丸みを帯びて開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.61m、短軸1.26m、深さ52cmで、坑底面の標高は7.28mを測る。主軸方位はN-21°-Eを指す。

遺物はかわらけ2点が出土した。

土坑58 (図61)

調査区中央西側に位置する。平面形は楕円形を呈し、北東側がやや広がっている。壁は緩やかに開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸2.22m、短軸1.49m、深さ35cmで、坑底面の標高は7.29mを測る。主軸方位はほぼ南北を指す。覆土は3層に分けられ、上層は泥岩粒と泥岩ブロックを多量、炭化物を少量含むやや締まりのある茶褐色弱粘質土、下層は炭化物をわずかに含む明茶褐色砂質土と、泥岩粒を多量、かわらけ粒をわずかに含む茶褐色砂質土である。

出土遺物 (図56)

遺物はかわらけ9点、陶器1点が出土し、このうち1点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけで、煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

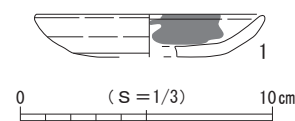


図56 第3面 土坑58出土遺物

土坑59 (図61)

調査区中央西側に位置する。平面形は楕円形を呈し、南側がわずかに張り出す。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸83cm、短軸51cm、深さ32cmで、坑底面の標高は7.29mを測る。主軸方位はN-79°-Eを指す。

遺物はかわらけ6点が出土した。

土坑60 (図61)

調査区中央西側に位置する。平面形は略円形を呈する。壁は緩やかに開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は径93cm、深さ19cmで、坑底面の標高は7.34mを測る。覆土は泥岩粒と炭化物を微量含む、締まりがなく粘性のある明茶褐色砂質土である。

出土遺物 (図57)

遺物はかわらけ3点が出土し、すべてを図示した。

1～3はロクロ成形によるかわらけで、2には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。

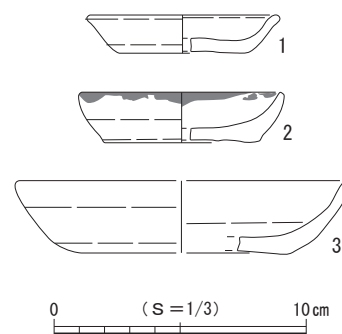


図57 第3面 土坑60出土遺物

土坑61 (図61)

調査区中央に位置する。北西側が土坑62、南西側が土坑63と重複しており、本址が新しい。また、北東側が土坑66と接しており、主軸方位がほぼ直交する。平面形は隅丸長方形を呈する。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸2.53m、短軸1.45m、深さ46cmで、坑底面の標高は7.30mを測る。主軸方位はN-14°-Eを指す。

出土遺物 (図58)

遺物はかわらけ36点、磁器2点、陶器37点、土器2点、金属製品4点が出土し、このうち1点を図示した。1はロクロ成形によるかわらけである。

土坑62 (図61)

調査区中央に位置する。南東側が土坑61と重複しており、本址が古い。また、北側の一部を第2面の土坑44に壊される。検出した範囲からは、平面形は隅丸方形に近いものと考えられる。壁は緩やかに立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は南北現存長1.41m、東西現存長1.07m、深さ42cmで、坑底面の標高は7.28mを測る。南壁を基準にすると、主軸方位はN-56°-Wを指す。

出土遺物 (図59)

遺物はかわらけ22点、磁器1点、陶器6点、金属製品2点が出土し、このうち6点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。3は白磁の合子身である。4は瀬戸窯産の卸皿、5は山茶碗、6は常滑窯産の甕である。

土坑63 (図61)

調査区中央に位置する。北東側が土坑61と重複しており、本址が古い。検出した範囲からは、平面形は円形ないし楕円形を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は北西-南東方向の現存長68cm、北東-南西方向の現存長33cm、深さ45cmで、坑底面の標高は7.31mを測る。

出土遺物 (図60)

遺物はかわらけ4点、陶器1点が出土し、このうち1点を図示した。

1は常滑窯産の片口鉢Ⅱ類である。

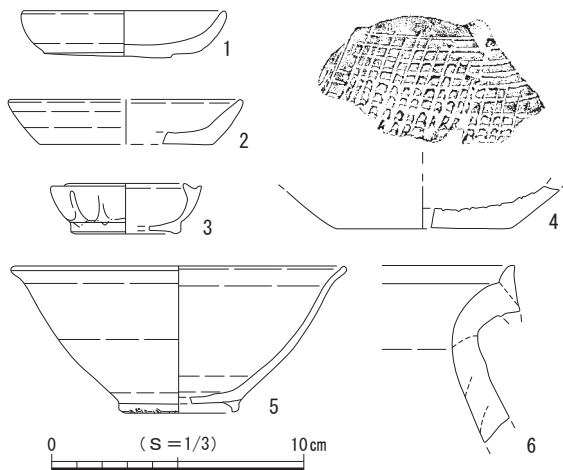


図59 第3面 土坑62出土遺物

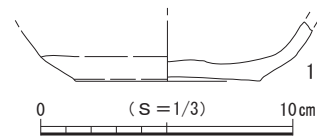


図58 第3面 土坑61出土遺物

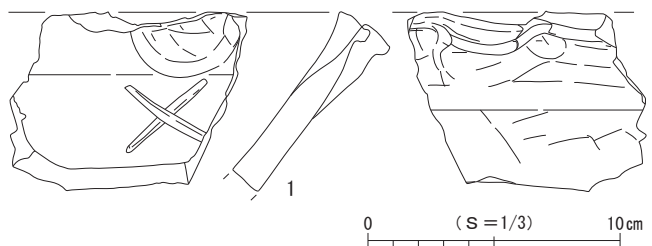


図60 第3面 土坑63出土遺物

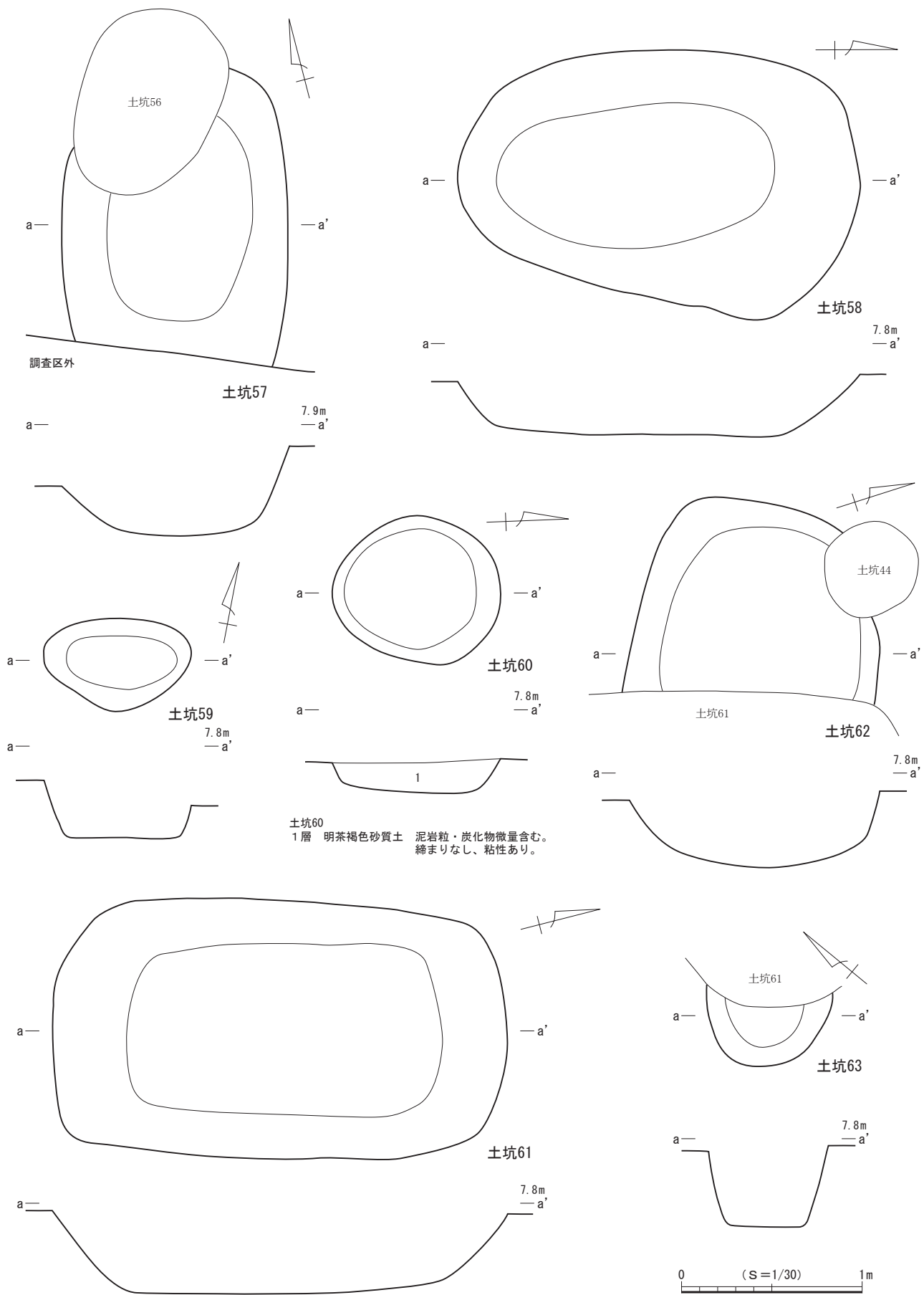


図61 第3面 土坑57~63

土坑64 (図63)

調査区中央に位置する。南側の一部が第2面のピット59に壊されている。平面形は楕円形を呈するものと推定される。壁は緩やかに開いて立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は長軸現存長1.04m、短軸91cm、深さ22cmで、坑底面の標高は7.46mを測る。主軸方位はN - 7° - Wを指す。

遺物はかわらけ2点、磁器1点、陶器4点、石製品1点、金属製品1点が出土した。

土坑65 (図63)

調査区北壁中央に位置する。南西側が第2面のピット53に壊されている。また、北東側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は円形を基調とするものと推定される。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は箱形に近い逆台形を呈する。規模は東西現存長65cm、南北現存長36cm、深さ32cmで、坑底面の標高は7.50mを測る。覆土は泥岩粒を多量、かわらけ粒を少量含み下部に炭層が堆積する、締まりのない茶褐色砂質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑66 (図63)

調査区中央に位置する。南東側にピット83が重複しており、本址が新しい。また、南西側が土坑61と接している。平面形は隅丸長方形を呈し、東側が幅が広くやや不整形である。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸3.04m、短軸1.50m、深さ34cmで、坑底面の標高は7.41mを測る。主軸方位はN - 85° - Wを指す。

遺物はかわらけ19点、陶器5点、土器1点、瓦1点、石製品1点、金属製品1点が出土した。

土坑67 (図63)

調査区中央に位置する。南側がピット85と重複しており、本址が古い。平面形は略円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は径98cm、深さ29cmで、坑底面の標高は7.39mを測る。

出土遺物 (図62)

遺物はかわらけ12点、土器1点が出土し、このうち7点を図示した。

1～6はロクロ成形によるかわらけである。2・4には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。7は土器で、東海系の甕である。

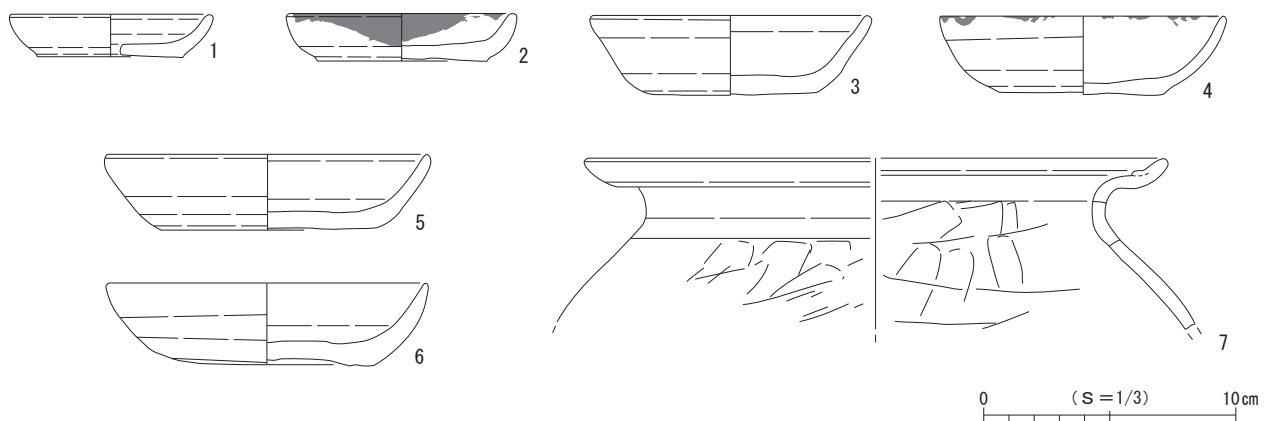


図62 第3面 土坑67出土遺物

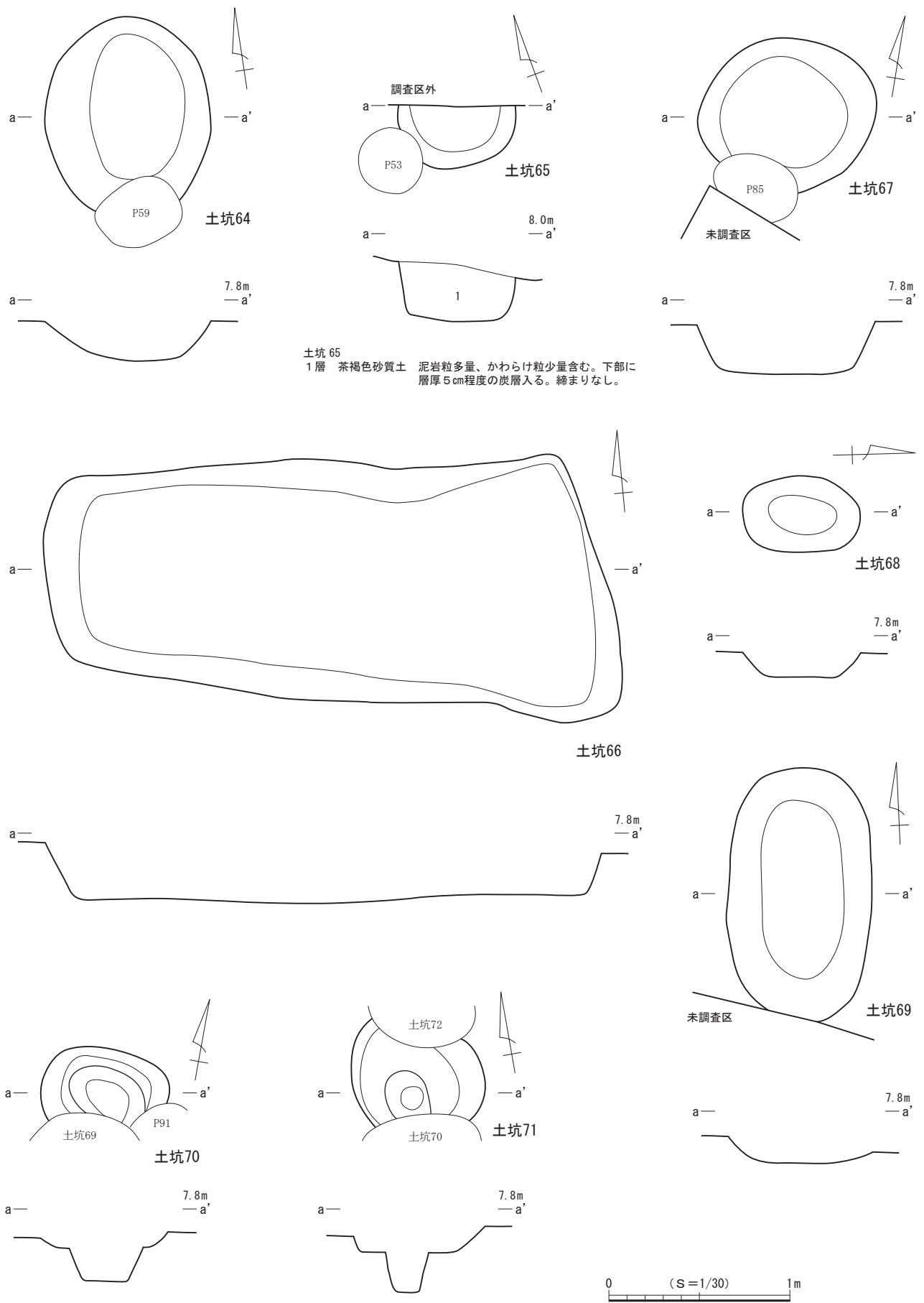


図63 第3面 土坑64~71

土坑68 (図63)

調査区中央に位置する。北西側がピット86と重複しており、本址が新しい。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸64cm、短軸43cm、深さ15cmで、坑底面の標高は7.57mを測る。主軸方位はN-8°-Eを指す。覆土は2層に分けられ、上層は炭化物を多量、泥岩粒とかかわらけ粒を微量含み、焼骨が少量混入する締まりのない暗茶褐色弱粘質土、下層は泥岩粒を微量含む締まりのない茶褐色砂質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑69 (図63)

調査区東側に位置する。北側で土坑70とピット89・91、南東側で土坑76、西側で土坑75と重複しており、本址が新しい。平面形は楕円形を呈する。壁は緩やかに開いて立ち上がり、断面形は皿状に近い逆台形を呈する。規模は長軸1.41m、短軸80cm、深さ15cmで、坑底面の標高は7.51mを測る。主軸方位はN-3°-Eを指す。

出土遺物 (図64)

遺物はかわらけ49点、陶器19点、金属製品1点が出土し、このうち2点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。

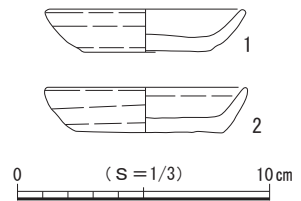


図64 第3面 土坑69出土遺物

土坑70 (図63)

調査区東側に位置する。北側で重複する土坑71より新しく、南側で重複する土坑69およびピット91より古い。浅い土坑状の掘り込みの中央に小ピット状の掘り込みを伴う。遺構の規模からここでは土坑としたが、ピットの可能性も考えられる。平面形は楕円形を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は段差をもつ逆台形を呈する。規模は長軸70cm、短軸現存長45cm、深さ9~27cmで、坑底面の標高は7.40mを測る。主軸方位はN-86°-Wを指す。

出土遺物 (図65)

遺物はかわらけ5点、陶器3点が出土し、このうち3点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。1には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。3は常滑窯産の甕である。

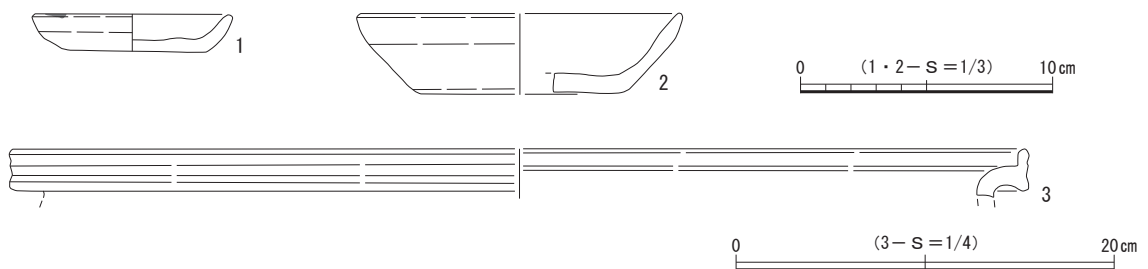


図65 第3面 土坑70出土遺物

の掘り込みの中央に小ピット状の掘り込みを伴う。遺構の規模からここでは土坑としたが、ピットの可能性も考えられる。平面形は略円形を呈するものと推定される。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は階段状の逆台形を呈する。規模は長軸78cm、短軸現存長61cm、深さ14～36cmで、坑底面の標高は7.34mを測る。

遺物はかわらけ11点、陶器3点が出土した。

土坑72 (図68)

調査区東側に位置する。南西側で土坑71と重複しており本址が新しく、北東側で土坑74と重複しており本址が古い。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸62cm、短軸現存長48cm、深さ14cmで、坑底面の標高は7.50mを測る。主軸方位はN-55°-Wを指す。

遺物はかわらけ8点、陶器2点が出土した。

土坑73 (図68)

調査区東側に位置する。土坑74と重複しており、本址が新しい。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸63cm、短軸37cm、深さ41cmで、坑底面の標高は7.26mを測る。底面から約10cm浮いた位置から厚さ約1cmの板材が出土しており礎板の可能性が考えられるため、遺構の規模からここでは土坑としたが、ピットの可能性も考えられる。主軸方位はN-73°-Wを指す。

遺物はかわらけ12点、陶器2点が出土した。

土坑74 (図68)

調査区東側に位置する。南西側で重複する土坑72より新しく、中央に重複する土坑73およびピット93より古い。平面形は隅丸長方形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.75m、短軸51cm、深さ16cmで、坑底面の標高は7.51mを測る。主軸方位はN-5°-Wを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑75 (図68)

調査区東側に位置する。東側が土坑69・70、北側がピット88と重複しており、本址が古い。平面形は北東側がやや張り出した不整隅丸方形を呈する。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸80cm、短軸71cm、深さ17cmで、坑底面の標高は7.40mを測る。西壁を基準にすると主軸方位はN-5°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑76 (図68)

調査区東側に位置する。土坑69と重複しており、本址が古い。平面形は楕円形を呈する。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸75cm、短軸55cm、深さ38cmで、坑底面の標高は7.21mを測る。主軸方位はほぼ南北を指す。

遺物はかわらけ1点、陶器2点が出土した。

土坑77 (図68)

調査区南東隅に位置する。北東側が土坑78と重複しており、本址が新しい。東側から南側にかけて遺構の大部分が未調査区に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は楕円形を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈すると推定される。規模は南北現存長99cm、東西現存長60cm、深さ38cmで、坑底面の標高は7.27mを測る。覆土は泥岩粒と炭化物を少量含む、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ4点、磁器1点、陶器2点が出土した。

土坑78 (図68)

調査区南東隅に位置する。南側が土坑77と重複しており、本址が古い。また、東側が未調査区に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は円形を基調とするものと推定される。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は播鉢状に近い逆台形を呈するものと推定される。規模は南北現存長68cm、東西現存長57cm、深さ14cmで、坑底面の標高は7.46mを測る。

遺物は石製品1点が出土した。

土坑79 (図68)

調査区東側に位置する。木組遺構1と重複しており、本址が新しい。平面形は楕円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.13m、短軸69cm、深さ29cmで、坑底面の標高は7.38mを測る。主軸方位はN-9°-Eを指す。覆土は炭化物をやや多く、泥岩粒を少量含む、締まりのない茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図66)

遺物はかわらけ11点、陶器8点、土器1点、金属製品1点が出土し、このうち2点を図示した。

1・2は常滑窯産の製品で、1が片口鉢I類、2が甕である。

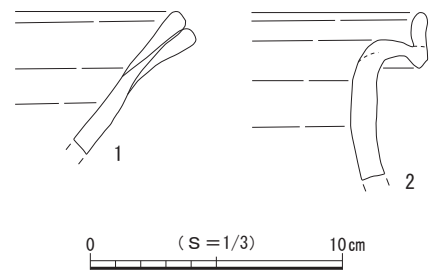


図66 第3面 土坑79出土遺物

土坑80 (図68)

調査区東側に位置する。北側で井戸2、西側で土坑73、中央でピット94・95と重複しており、本址が古い。また、東側は未調査区に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は隅丸方形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長1.40m、南北現存長85cm、深さ43cmで、坑底面の標高は7.22mを測る。

出土遺物 (図67)

遺物はかわらけ37点、陶器2点、土器1点、金属製品1点が出土し、このうち4点を図示した。

1～4はロクロ成形によるかわらけである。

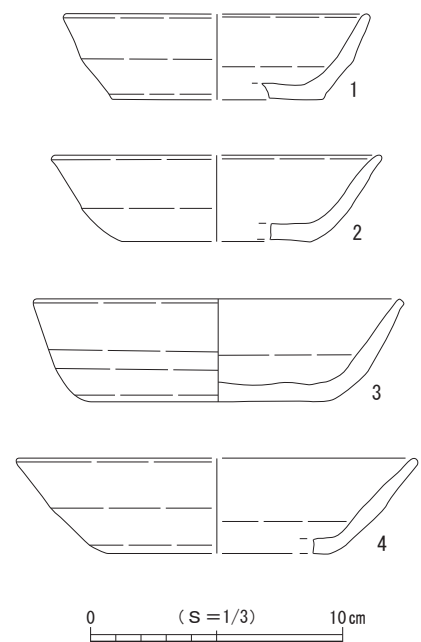
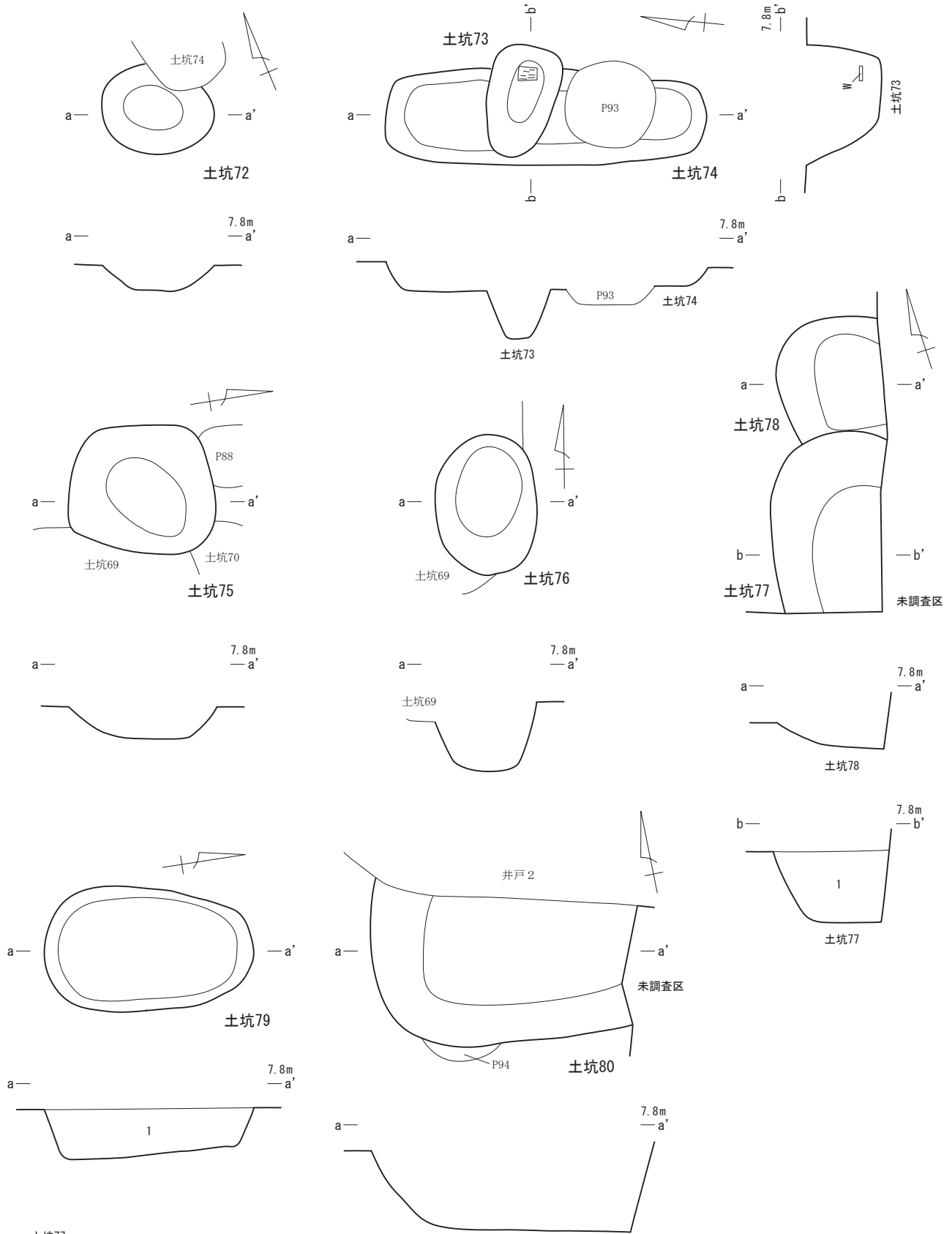


図67 第3面 土坑80出土遺物



土坑77
1層 茶褐色弱粘質土 泥岩粒・炭化物少量含む。締まりなし。

土坑79
1層 茶褐色弱粘質土 炭化物やや多く、泥岩粒少量含む。締まりなし。

0 (S=1/30) 1m

図68 第3面 土坑72~80

土坑81 (図69)

調査区東端に位置する。西側のピット97より新しく、南東側のピット98より古い。また、南北両端が調査区外または未調査区に及んでいる。平面形は楕円形を呈する。壁は東側が開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長1.07m、短軸90cm、深さ40cmで、坑底面の標高は7.32mを測る。主軸方位はN-5°-Eを指す。覆土は灰黄色砂ブロック多量、炭化物を微量含む茶褐色砂質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑82 (図69)

調査区東端に位置する。南東側がピット101と重複しており、本址が古い。また、南側が未調査区に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は円形ないし楕円形を基調とするものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長60cm、南北現存長29cm、深さ17cmで、坑底面の標高は7.42mを測る。

出土遺物 (図70)

遺物はかわらけ19点、磁器2点、陶器4点が出土し、このうち5点を図示した。

1～3はロクロ成形によるかわらけである。4・5は龍泉窯系青磁碗Ⅱ類である。

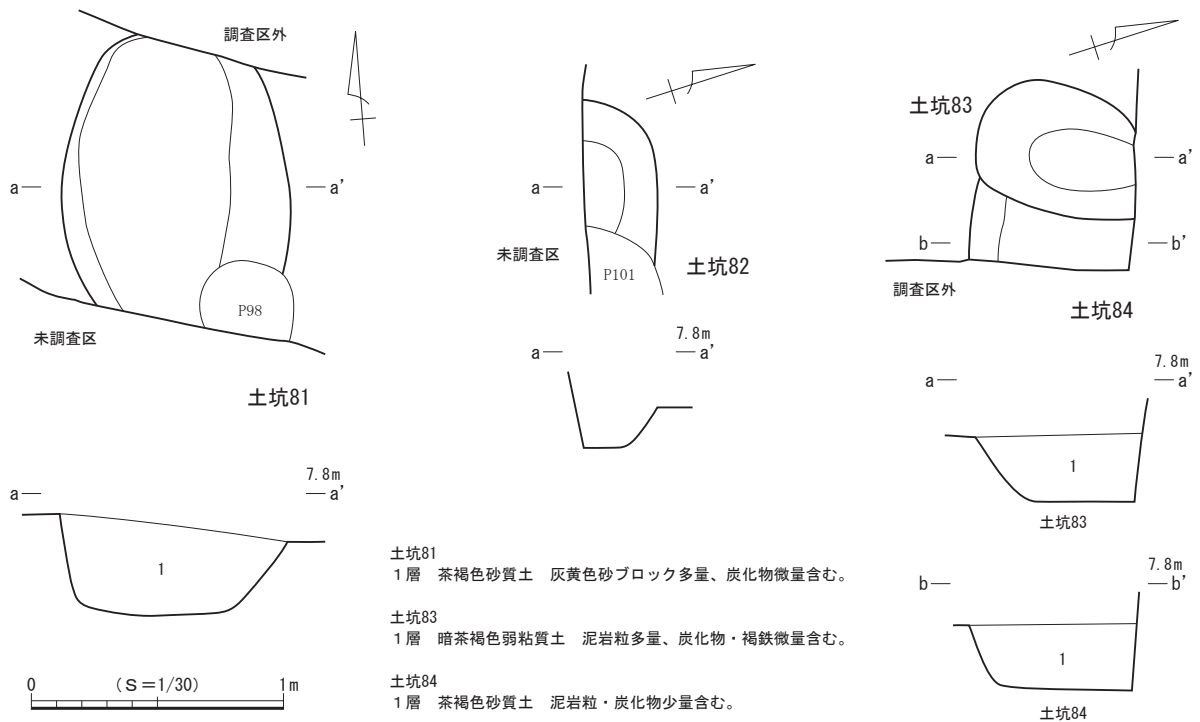


図69 第3面 土坑81～84

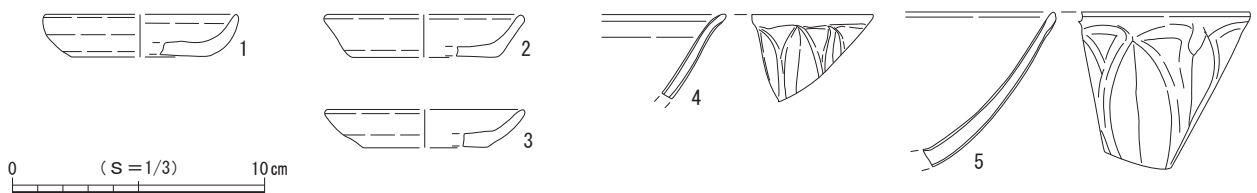


図70 第3面 土坑82出土遺物

土坑83 (図69)

調査区北東隅に位置する。東側が土坑84と重複しており、本址が新しい。また、北側が調査区外に及んでいる。平面形は楕円形を呈すると推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長70cm、短軸50cm、深さ28cmで、坑底面の標高は7.32mを測る。主軸方位はN-31°-Eを指すと考えられる。覆土は泥岩粒多量、炭化物と褐鉄を微量含む暗茶褐色弱粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑84 (図69)

調査区北東隅に位置する。西側が土坑83と重複しており、本址が古い。また、北側および東側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。大半が調査区外に及ぶため、平面形は不明である。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は南北現存長64cm、東西現存長33cm、深さ26cmで、坑底面の標高は7.38mを測る。覆土は泥岩粒と炭化物を少量含む茶褐色砂質土である。

遺物は陶器3点が出土した。

(4) ピット (図45)

第3面では、31基を検出した。調査区の西端付近では希薄であり、中央から東側に分布している。特に調査区東側で比較的密度が高いが、建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形ないし楕円形で、規模は現状で長軸24~59cm、深さ7~47cmを測る。礎板や礎石を伴うピットは確認されなかった。覆土は茶褐色砂質土、明茶褐色砂質土、茶褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図71)

各ピットからは少量ながら遺物が出土している。詳細は出土遺物一覧表(表8)を参照されたいが、このうち10点を図示した。

1はピット72から出土したロクロ成形によるかわらけである。2~5はピット83から出土した。2・3はロクロ成形によるかわらけ、4は龍泉窯系青磁の折縁皿、5は常滑窯産の鳶口壺である。6はピット90から出土した白かわらけである。7はピット97から出土したロクロ成形によるかわらけである。8・9はピット99から出土した。8はロクロ成形によるかわらけ、9は青白磁の梅瓶である。10はピット101から出土したロクロ成形によるかわらけである。

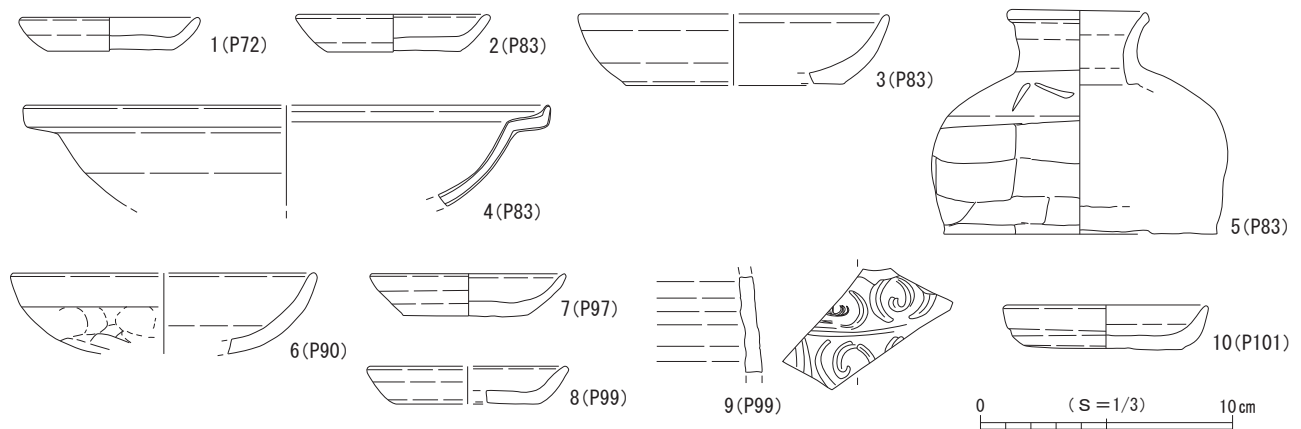


図71 第3面 ピット出土遺物

(5) 遺構外出土遺物 (図72・73)

第3面では、遺構以外からも多くの遺物が出土し、このうち53点を図示した。

1～19はロクロ成形によるかわらけである。20～22は白磁の口元皿、23～33は龍泉窯系青磁で、23が椀Ⅰ類、24～33が椀Ⅱ類である。34・35は瀬戸窯産の製品で、34が折縁深皿、35が蓋と思われる製品である。36～45は常滑窯産の製品で、36が短頸壺、37～41が甕、42・43が片口鉢Ⅰ類、44・45が片口鉢Ⅱ類である。46・47は瓦質土器の火鉢、48は土器の羽釜である。49は硯、50・51は砥石である。52・53は銭貨で、52が祥符通寶(北宋・1008)、53が聖宋元寶(北宋・1101)である。

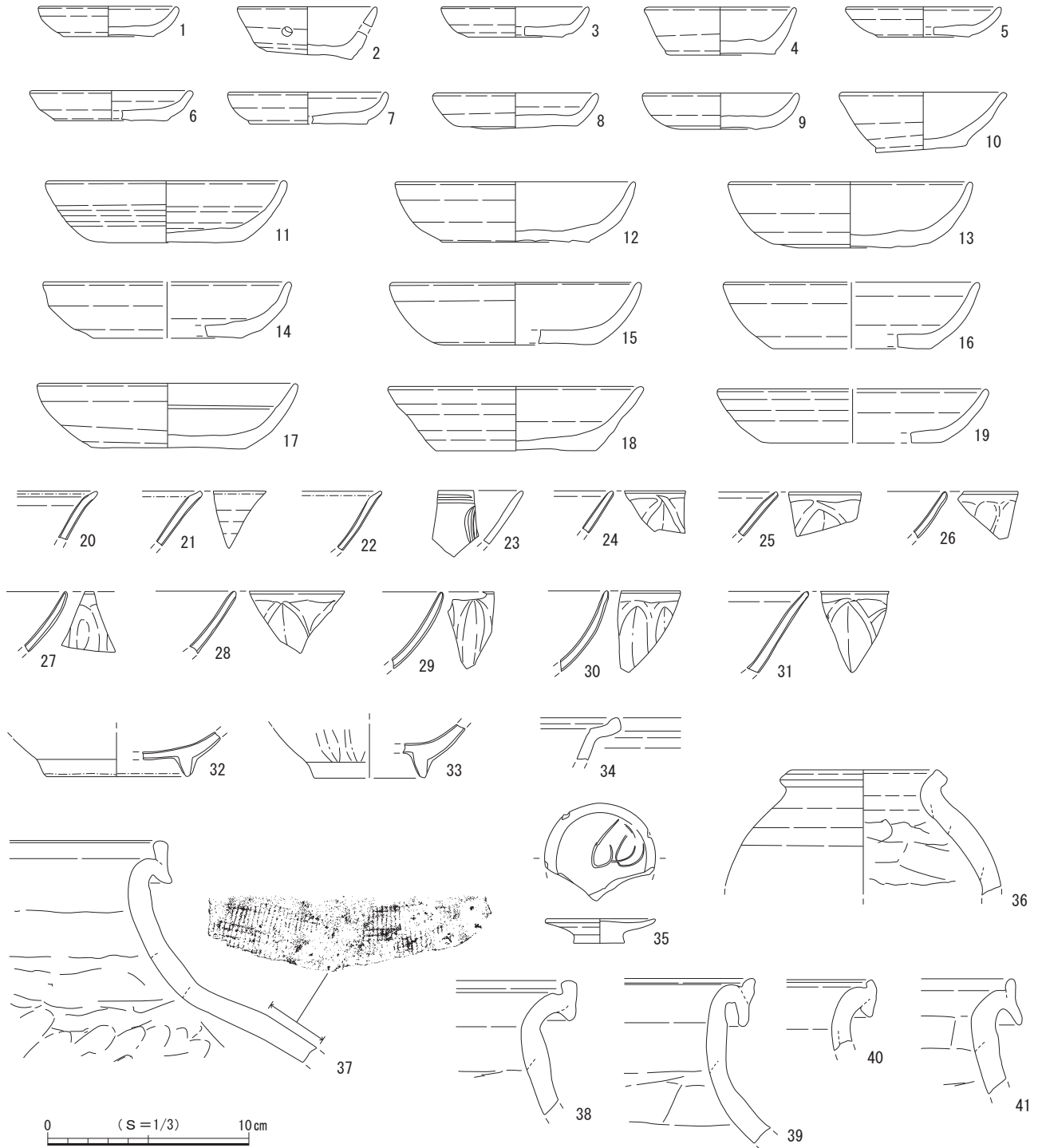


図72 第3面 遺構外出土遺物(1)

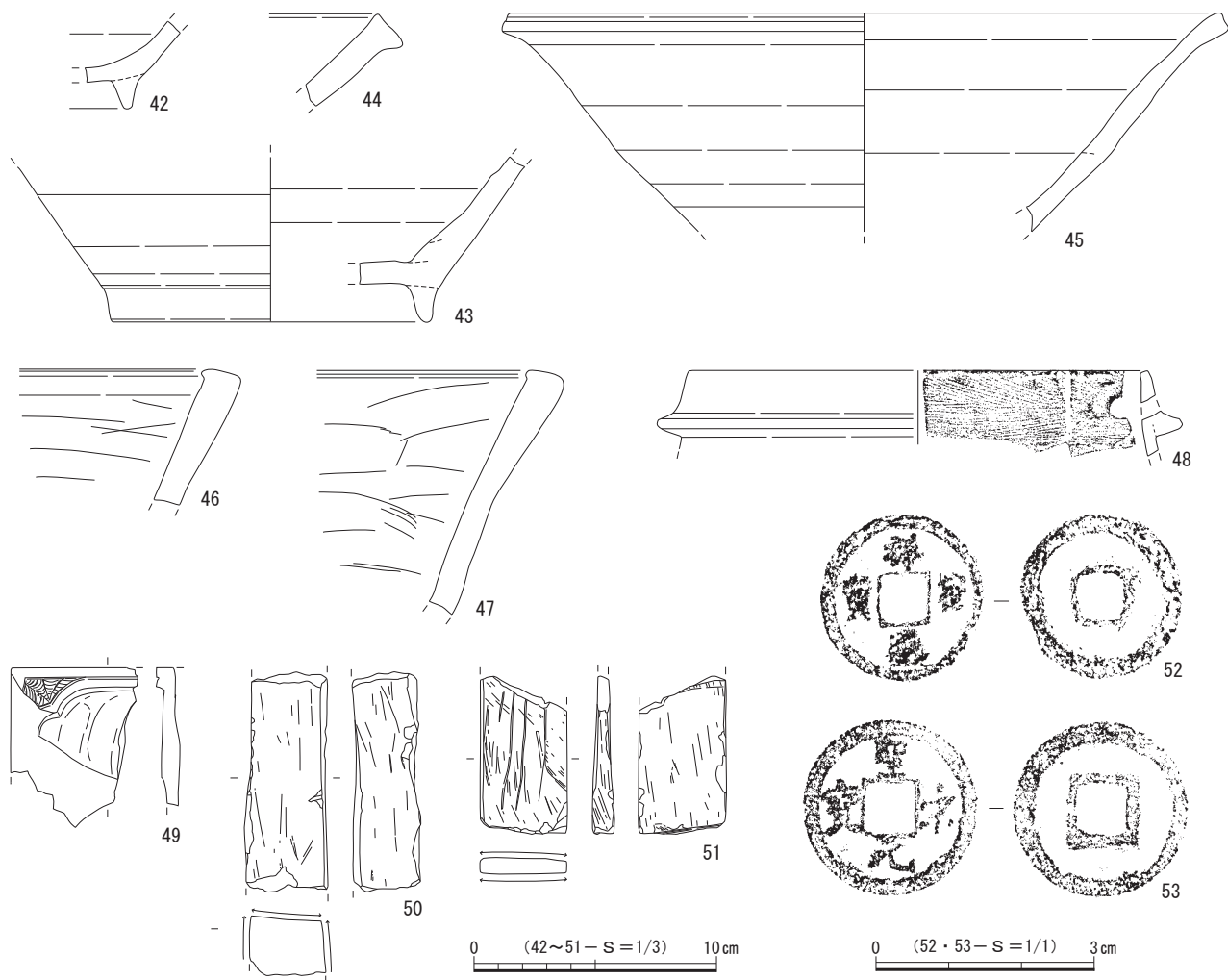


図73 第3面 遺構外出土遺物(2)

第4節 第4面の遺構と遺物

第4面の調査は調査区北壁際に設定したトレンチ内で行い、遺構はトレンチの中央から西半部にかけて堆積土層の10層上面で検出した。確認面の標高は約7.5~7.6mを測り、確認面は西側が高く、東側へやや傾斜している。トレンチの東側では、調査終了時の掘削深度が本面が露出する標高に達しなかったため、本面の遺構は検出されていない。10層は締まりが非常に強い茶褐色弱粘質土で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は、溝状遺構1条、土坑1基で、トレンチの面積が狭い点を加味しても遺構密度は低く、生活の痕跡は薄い(図74)。なお、土坑85は第4面とした10層の直上に堆積する9層に掘り込まれており、10層上面で確認された溝状遺構1とは多少の時間差があると考えられるものだが、便宜上本面に含めて説明することとする。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉~中葉頃に属すると考えられる。

(1) 溝状遺構

第4面では、1条を検出した。今回の調査において発見された唯一の溝状遺構であるが、部分的な調査にとどまるため詳細は明らかにできなかった。

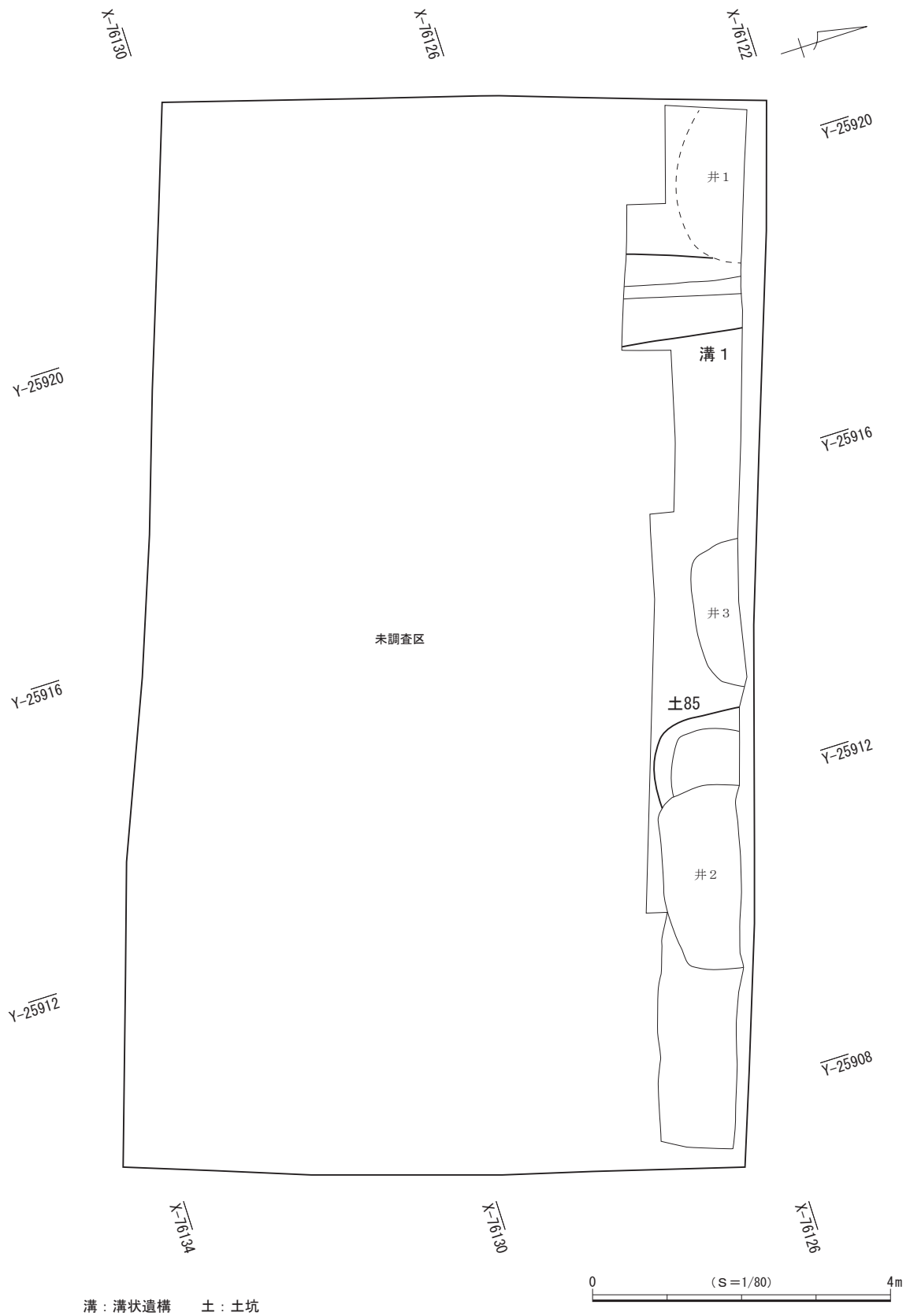


图74 第4面 遺構分布図

溝状遺構 1 (図75)

トレンチ西側に位置する。北東-南西方向に延び、南北両端は未調査区または調査区外に及んでいる。北西側が第2面の井戸1により部分的に壊されている。規模は現存長1.58m、幅1.24m、深さ69cmを測り、主軸方位はN-15°-Eを指す。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形はV字状を呈する。底面の標高は北端で6.88m、南端で6.99mを測り、約10cmの比高差があるものの検出された範囲がごく一部であるため遺構全体の傾斜は明瞭ではない。覆土は2層に分けられ、上層は褐鉄を多量、炭化物を微量含み、やや締まりのある茶褐色砂質土、下層は炭化物・明黄褐色砂ブロック・褐鉄を少量含み、締まりが非常に強い黒褐色粘質土である。

遺物は出土しなかった。

(2) 土 坑

第4面では、1基を検出した。他の遺構と重複し、一部が検出されたのみである。

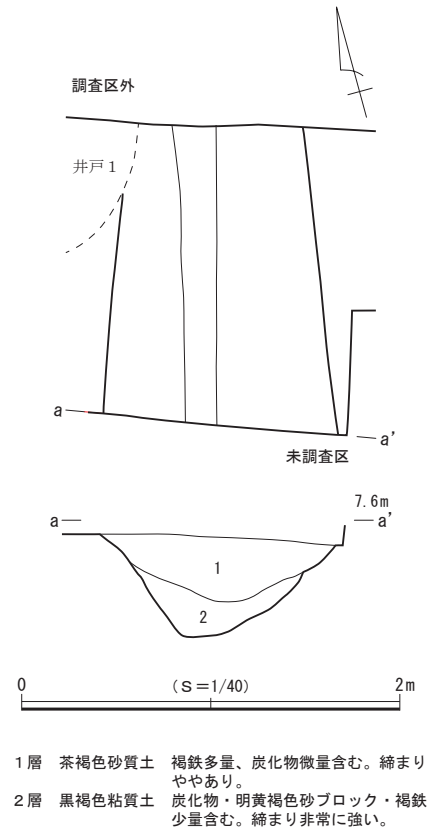


図75 第4面 溝状遺構 1

土坑85 (図76)

本址は調査時には第4面で検出されたが、調査区北壁の土層断面において、第4面とした堆積土層の10層の直上に堆積する9層に掘り込まれていることが確認された。したがって第4面の遺構とは多少の時間差が認められるが、同一の遺構確認面で検出されたことから便宜的にここで説明する。

本址はトレンチ中央東側に位置する。東側が井戸2と重複しており壊されている。また、北側が調査区外に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。隅丸の角とみられる部分を検出したが、部分的な調査

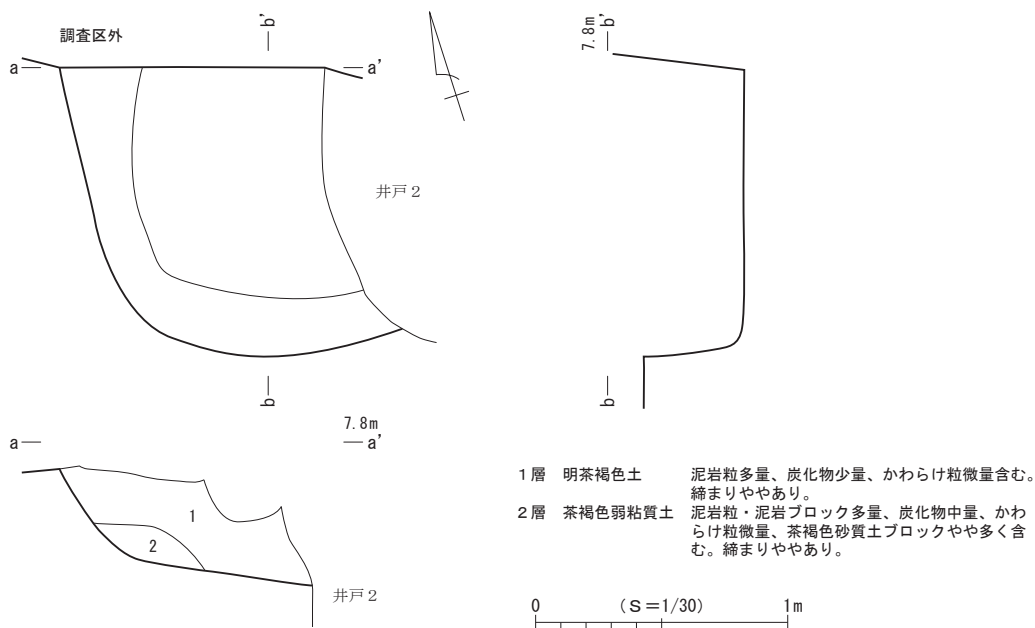


図76 第4面 土坑85

にとどまるため、平面形は不明である。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長1.20m、南北現存長1.15m、深さ46cmで、坑底面の標高は7.26mを測る。覆土は上層が泥岩粒を多量、炭化物を少量、かわらけ粒を微量含み、やや締まりのある明茶褐色土、下層が泥岩粒・泥岩ブロックを多量、炭化物を中量、かわらけ粒を微量、茶褐色砂質土ブロックをやや多く含み、やや締まりのある茶褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ21点が出土した。

(3) 遺構外出土遺物(図77)

第4面からは遺構以外からも遺物が出土し、そのうち5点を図示した。

1・2はロクロ成形によるかわらけである。3は龍泉窯系青磁椀Ⅰ類と思われる。4・5は瀬戸窯産の製品で、4が縁釉皿、5が折縁深皿である。

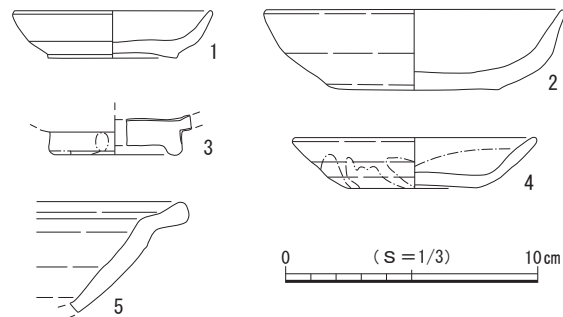


図77 第4面 遺構外出土遺物

第5節 第5面の遺構と遺物

第5面の調査は調査区北壁際のトレンチ西半部を掘り下げて行った。本面の遺構は標高約7.2mで検出され、堆積土層の12層上面が本面に該当すると考えられる。12層は黒褐色粘土ブロックを多く含み、締まりのない明黄褐色砂質土である。検出した遺構は土坑3基である(図78)。

遺物はかわらけや古墳時代の土器などが出土しているが、遺物量は極めて少ない。詳細な年代を特定することは困難であり、第4面(13世紀前葉～中葉頃)以前としておく。

(1) 土 坑

第5面では、3基を検出した。他の遺構との重複および調査範囲の制約により部分的な検出にとどまることから、遺構全体が確認されたものはない。平面形は円形ないし隅丸長方形と推定され、そのうちの1基は相対的に大形である。

土坑86(図79)

トレンチ西側に位置する。第2面の井戸1、第4面の溝状遺構1と重複しており、上端の一部を壊されている。また、南側は未調査区に及んでおり、遺構の全容は明らかでない。検出した範囲からは、平面形は隅丸長方形を呈するものと推定される。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は東西現存長1.50m、南北現存長1.13m、深さ76cmで、坑底面の標高は6.50mを測る。西壁を基準にすると主軸方位はN-17°-Eを指す。覆土は4層に分けられ、褐鉄あるいは黄褐色砂ブロックを含む黒褐色粘質土を主体としており、下層は黄褐色砂ブロックの量が多い。

遺物は出土しなかった。

土坑87(図79)

トレンチ東側に位置する。南東側が土坑88と重複しており、本址が古い。また、北東側を第3面の井戸3に壊されている。平面形は略円形を呈する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規

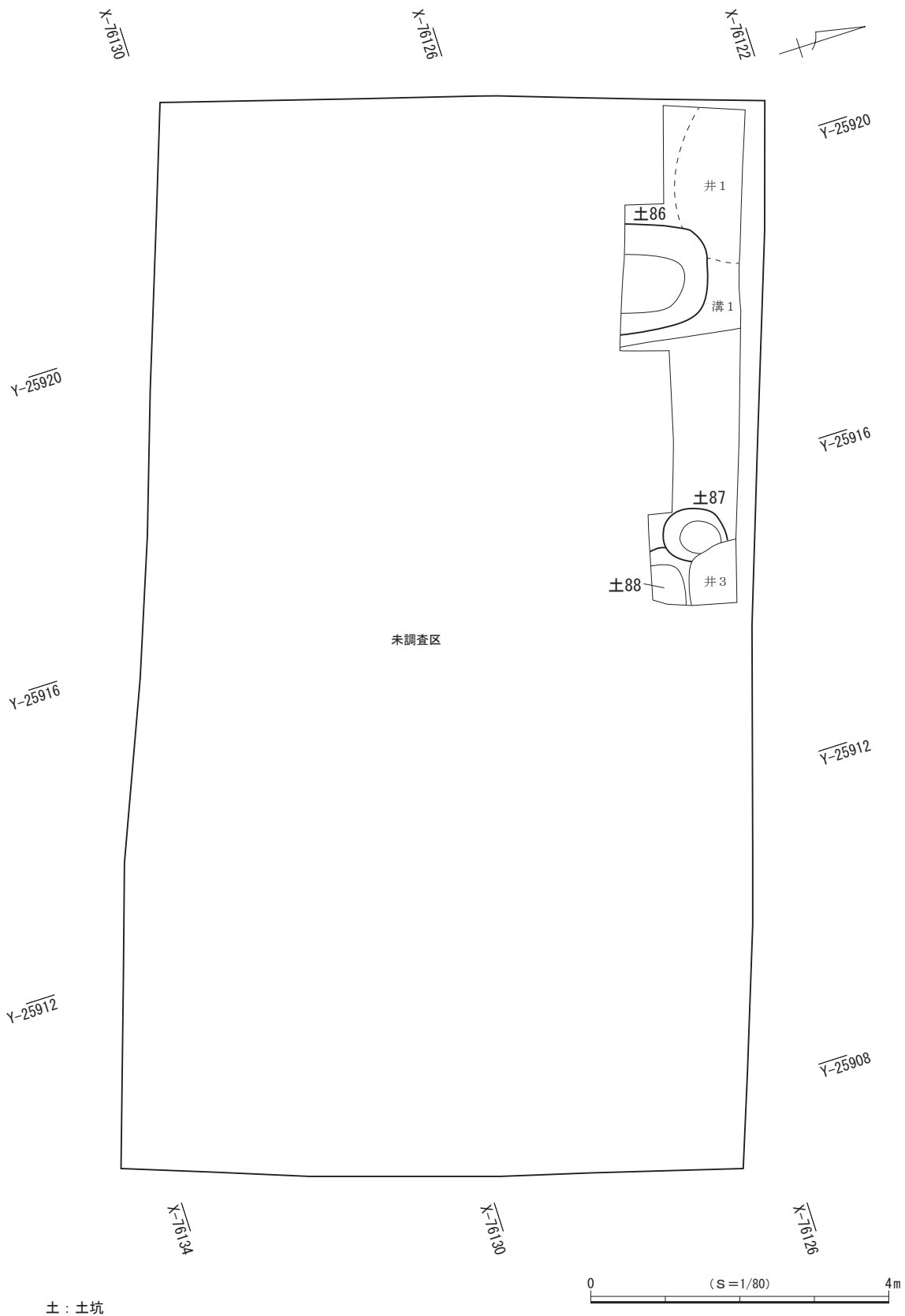


图78 第5面 遺構分布図

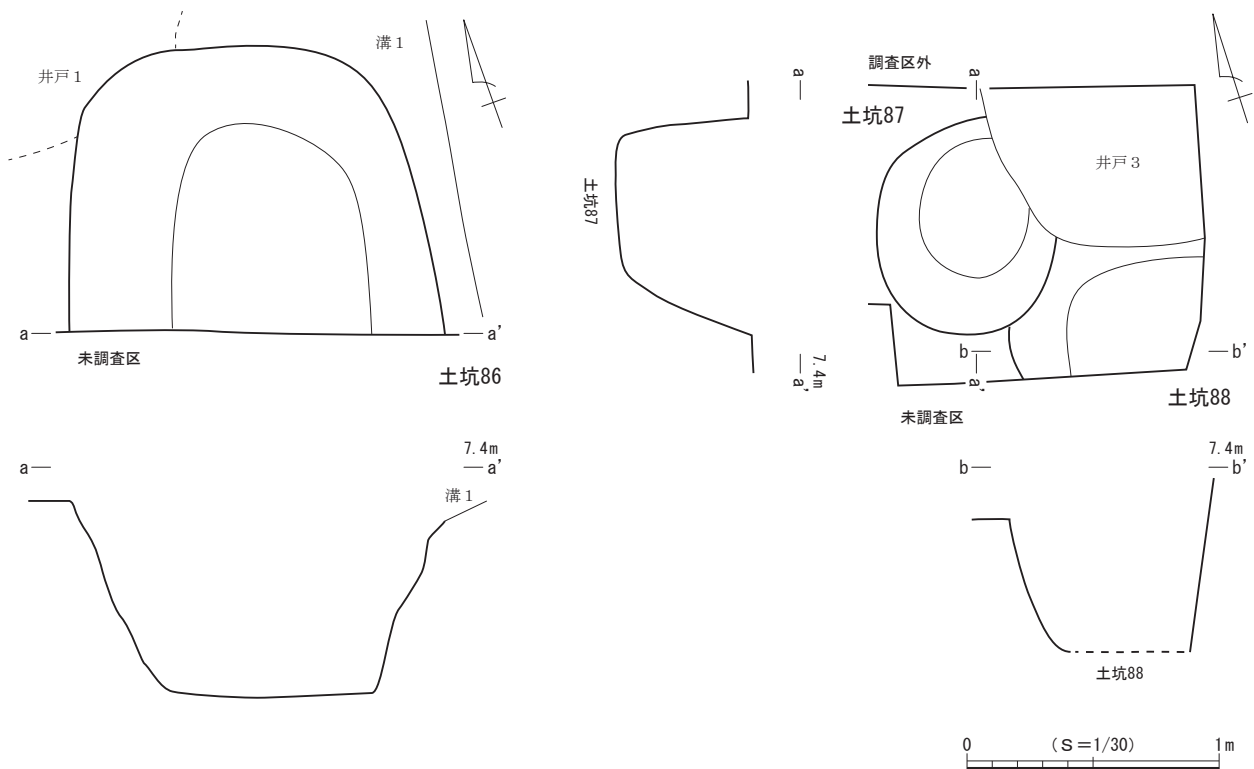


図79 第5面 土坑86～88

模は長軸88cm、短軸71cm、深さ54cmで、坑底面の標高は6.67mを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑88 (図79)

トレンチ東側に位置する。北西側が土坑87と重複しており、本址が新しい。また、北東側が第3面の井戸3に壊され、南東側が未調査区に及んでおり、底面は湧水により完掘できなかったことから、遺構の全容は明らかでない。部分的な検出にとどまるが、検出した範囲からは、平面形は円形を基調とするものと推定される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は底面が緩やかに丸いU字状を呈すると思われる。規模は東西現存長76cm、南北現存長54cmで、深さおよび坑底面の標高は不明である。覆土は3層に分けられ、上層は褐鉄を多く含み締まりがある黒褐色粘質土、中層は黒褐色粘土ブロックを少量含みやや締まりのある黄褐色砂質土、下層は黄褐色砂ブロックを少量含み締まりのない黒褐色粘質土である。

遺物は出土しなかった。

(2) 遺構外出土遺物 (図80)

第5面での出土遺物は極めて少なく、図示し得る資料にも乏しいが、中世以前の遺物が含まれており、それを図示した。

1は古墳時代前期初頭に比定されるS字状口縁甕である。

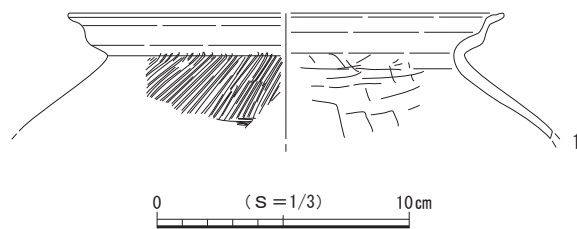


図80 第5面 遺構外出土遺物

第四章 今小路西遺跡出土の動物遺体

東京国立博物館客員研究員

金子 浩昌

付表1 検出された動物遺体の種名表

脊椎動物門	
軟骨魚綱	クジラ目
ネズミザメ目	マイルカ科
メジロザメ科	イルカ類
メジロザメ類	ネコ目
硬骨魚綱	イヌ科
スズキ目	イヌ
タイ科	ウマ目
カンダイ	ウマ科
マダイ	ウマ
タイ類	ウシ目
サバ垂目	イノシシ科
サバ科	イノシシ
マグロ類	シカ科
鳥綱	ニホンジカ
ガンガモ目	ウシ科
ガンガモ科	ウシ
カモ類	ウサギ目
哺乳綱	ウサギ科
ネズミ目	ノウサギ
ネズミ科	
ドブネズミ	

魚類はサメ類、カンダイ、マダイ、マグロ類と多かった。イルカ類の骨も多く、魚と一緒に運び込まれたのであろう。マグロのような大物は入手する機会も少なかったろうが、切り身は大きく人々を喜ばせたのではなかろうか。

イノシシ、シカの量も多かった。山の猟もさかんだったようである。肉や毛皮はもちろんのこと、骨、角も様々な道具の素材として使われている。鹿角の切断品は1点のみが残されていたが、それほどに鹿角は使われたことを示しているのであろう。

付表2 出土動物遺体一覧

出土遺構	層位	種別	部位	左右	計測値(mm)	写真番号	備考
掘立柱建物1P5	第1面	ニホンジカ	上腕骨	右	遠位端幅：38.89	12	
土坑7	第1面	獣骨片					
土坑10	第1面	獣骨片					
土坑11	第1面	イルカ類	下顎骨枝部分				
土坑14	第1面	ニホンジカ	大腿骨遠位端	左	幅：50.0 ±	14	打欠く。
土坑27	第1面	イルカ類	骨片				
ピット7	第1面	イルカ類	上腕骨	左		5	削りあり。
井戸2	第2面	マダイ	上後頭骨		復原長：34.0 ±	2	
井戸2	第2面	マグロ類	尾椎		椎体長：49.98	3	
井戸2	第2面	ウマ・ウシ	肢骨片				
ピット49	第2面	大型鳥類	上腕骨片				
遺構外	第2面	メジロザメ類	椎骨		径：32.22 長さ：25.25	1	
遺構外	第2面	イルカ類	椎骨		長さ：20.82	4	
遺構外	第2面	イルカ類	肋骨片				2片
遺構外	第2面	イルカ類	肋骨片				2片
遺構外	第2面	イルカ類	骨片				
遺構外	第2面	イノシシ	肩甲骨	左	幅：22.74		
遺構外	第2面	イノシシ	尺骨		幅：43.47	8	橈骨を外す際についた切痕か。
遺構外	第2面	ニホンジカ	鹿角			18	切断加工品
遺構外	第2面	ウシ	肩甲骨	左	幅：57.05	16	
土坑50	第3面	獣骨片					
土坑58	第3面	ニホンジカ	中心足根骨	右			
土坑61	第3面	ニホンジカ	頸椎			11	
土坑61	第3面	ウマ	中足骨近位端			17	加工品、切断面あり。
土坑62	第3面	ウマ	足根骨片				
土坑69	第3面	タイ類	舌顎骨片	右			
土坑79	第3面	ウマ	坐骨結節	右			
ピット83	第3面	イヌ	上犬歯	右	歯冠長：8.06		破損
ピット83	第3面	イノシシ	踵骨	左	長さ：72.48	9	近位端未骨化
遺構外	第3面	カンダイ	歯骨	左			大型個体
遺構外	第3面	イヌ	環椎		最大幅：69.30	6	
遺構外	第3面	イヌ	尺骨近位	左		7	
遺構外	第3面	イノシシ	基節	右	長さ：36.8 ±	10	
遺構外	第3面	ニホンジカ	踵骨	左		15	
遺構外	第3面	ニホンジカ	橈骨遠位	右		13	
遺構外	第3面	ニホンジカ	胸椎				
遺構外	第3面	骨片					3片
遺構外	不明	カモ類	鳥口骨片	右			
遺構外	不明	ウマ	下顎切歯 I ₂	右			
遺構外	不明	ノウサギ	第4中足骨		長さ：46.86		
遺構外	不明	獣骨片					3片

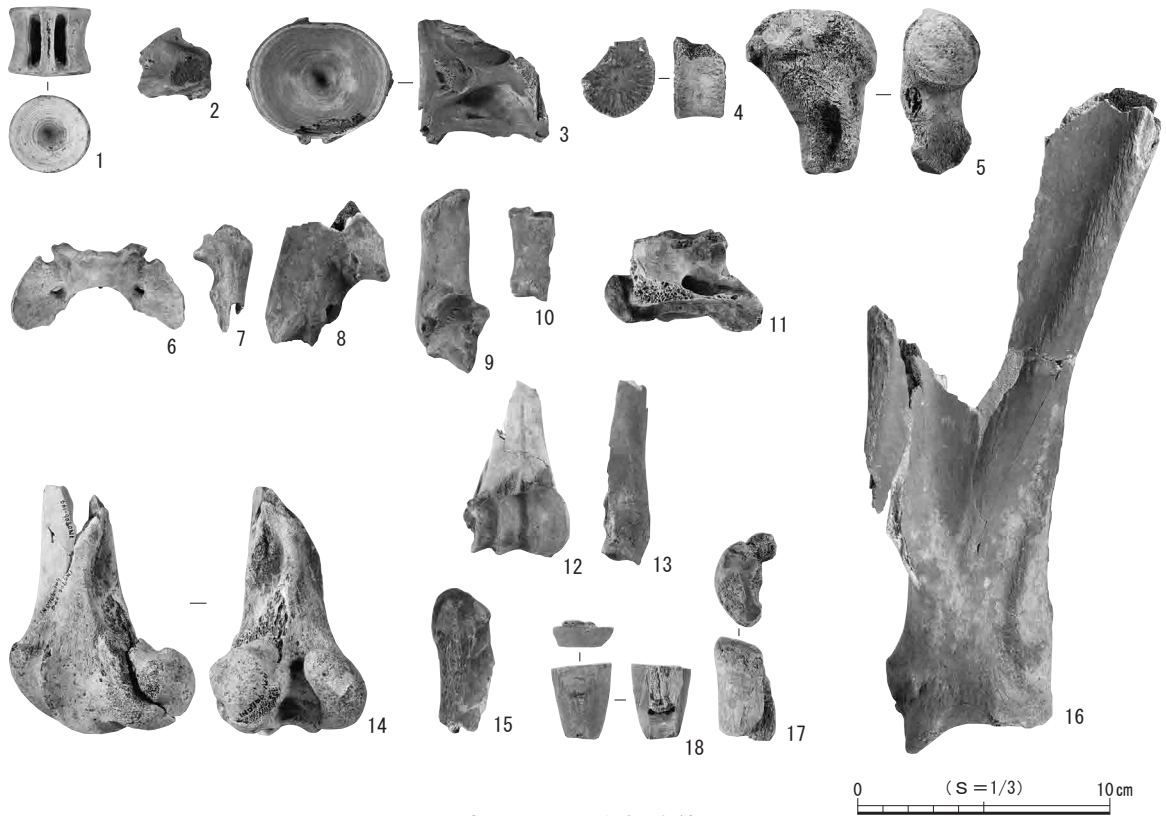


写真1 出土動物遺体

付表3 出土動物遺体写真図版対応表(写真1)

番号	出土遺構	種別	部位	左右
1	第2面	メジロザメ類	椎骨	
2	井戸2	マダイ	上後頭骨	
3	井戸2	マグロ類	尾椎	
4	第2面	イルカ類	椎骨	
5	ピット7	イルカ類	上腕骨	左
6	第3面	イヌ	環椎	
7	第3面	イヌ	尺骨	左
8	第2面	イノシシ	尺骨	
9	ピット83	イノシシ	踵骨	左
10	第3面	イノシシ	基節	右
11	土坑61	ニホンジカ	頸椎	
12	掘立柱建物1P5	ニホンジカ	上腕骨	右
13	第3面	ニホンジカ	橈骨	右
14	土坑14	ニホンジカ	大腿骨	左
15	第3面	ニホンジカ	踵骨	左
16	第2面	ウシ	肩甲骨	左
17	土坑61	ウマ	中足骨加工品	
18	第2面	ニホンジカ	鹿角加工品	

第五章 まとめ

今回報告する由比ガ浜一丁目147番2外地点は、南北に長い今小路西遺跡の南西側に所在する。南北に走る今小路からは西へ約160mに位置し、東西に走る大町大路については、現行の県道鎌倉葉山線311号とする説と、本地点の約55m北を東西に走る現行道路とする説などがあり、大町大路を仮に前者とすれば南へ約55m、後者とすれば北へ約250mの位置となる。広大な面積を有する今小路西遺跡ではこれまでに多くの調査が行われているが、図2に示した範囲内においては、本地点を含めて20地点で調査が行われている。特に御成小学校内地点の第3次・第5次調査では、発見された遺構群から鎌倉時代後期から末期に属するとみられる武家屋敷、庶民層の居住する町屋地域、倉庫地域、被官屋敷、商人・職人の居住地域が想定され、さらにそれらが塀や道路などで明瞭に区画された土地利用のあり方が捉えられ、大きな成果が上がっている(河野・宮田ほか 1990、河野 1993)。

本地点を取り巻く径50mほどの範囲は、今小路西遺跡内の由比ガ浜地域では調査事例が比較的集中している地域である(本地点および図2③～⑩・⑲)。このうち本報告が行われた地域は本地点を含めて8地点あり、これらの調査事例をみていくと、本地点の周辺地域は地割が狭く、道路や建物なども規模が小さく、検出された遺構は竪穴状遺構、井戸、土坑が多い点などが共通しており、町屋的な様相として理解されている。

今回の調査では5面で遺構を確認し、そのうち主となるのは第1～3面で、時期は第1面が14世紀代～15世紀前葉、第2面が13世紀後葉～14世紀前葉頃、第3面が13世紀中～後葉である。第3面および第2面の主な遺構は井戸と多数の土坑であり、土坑は調査区全面に分布している。井戸は時期差があるもののすべて調査区北壁に沿って並んで掘り込まれており、本地点は水場として継続して利用されていたと考えられる。これに対し、第1面では井戸が埋められ、継続して作られる土坑に加えて掘立柱建物が現れる。また、この掘立柱建物を含む柱穴群は調査区西側に、土坑群は調査区東側に分布しており、溝状遺構や柵列など区画性のある遺構は認められないものの、調査区中央付近を境に東西で土地の利用方法が区分されている様相が見受けられる。土坑中心で町屋の裏手といった性格が考えられる第3面・第2面に対し、第1面は掘立柱建物が建てられ土地の利用方法に変化が認められる。以上の点から、本地点では第3面から第2面までは土地利用のあり方がおおむね引き継がれ、第1面までのある時期(およそ14世紀代)に土地利用の変化があったと想定されよう。なお、第2面・第3面で検出した3基の井戸を結んだ方位と第1面の掘立柱建物の主軸方位は直交しており、地割の基準となる軸方位は継続しているものと考えられる。

本地点の調査成果の概要を記すと、遺構確認面は5面で、そのうち第4・5面は調査区北壁際に設定したトレンチ内で確認した。検出した遺構は掘立柱建物1棟、溝状遺構1条、井戸3基、木組遺構1基、土坑88基、ピット101基である。遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して19箱が出土した。

以下、面ごとに検出した遺構と出土遺物について整理し、簡単なまとめとしたい。

〈第1面〉

第1面の遺構は標高約8.1～8.3mで確認した。多量の泥岩粒と中量の炭化物を含み、締まりのある茶褐色弱粘質土で構成される。小ピット状の攪乱が多く、部分的に壊される遺構がある。検出した遺構は掘立柱建物1棟、土坑27基、ピット45基で、掘立柱建物およびピットは調査区西側、土坑は調査区東側に主体的に分布する。掘立柱建物1は現状において、柱筋がやや歪んでいるが、北側に出入口をもつ方形

の床東構造の建物と考えられる。主軸方位はN-19°-Eを指し、東側に位置する今小路におおよそ軸方位が揃っている。土坑は形状や大きさが様々あるが、このうち土坑7と土坑12は共通して大形で溝状を呈し、掘立柱建物1と主軸方位が直交ないし並行しており、関連性が指摘できる。ピットはそのほとんどを調査区西側で検出した。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は14世紀代～15世紀前葉頃に属すると考えられる。

〈第2面〉

第2面の遺構は標高約7.8～8.1mで確認した。泥岩粒・泥岩ブロックを多量、炭化物、かわらけ粒を含み、やや締めのある茶褐色弱粘質土で構成される。検出した遺構は井戸2基、土坑19基、ピット25基である。ほとんどの遺構が調査区西側に分布するが、これは調査区東側では本面で遺構を確認することが困難であったため、土坑46と井戸2は調査区北壁断面の観察によって本面に帰属することが確認されたものである。2基の井戸はいずれも調査区北壁にかかり、およそ半分を検出した。底面まで掘削することはできなかったが、それぞれ方形の井戸枠が遺存していた。本面においても土坑は形状や大きさに差異がみられるが、調査区西側では大形のもの重複しながら南北に並んでおり、特徴的な分布状況を示している。ピットについては施設に伴う配置などは見出せなかった。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀後葉～14世紀前葉頃に属すると考えられる。

〈第3面〉

第3面の遺構は標高約7.6～7.8mで確認した。炭化物を少量含み、締めりが非常に強い茶褐色砂質土で構成される。検出した遺構は井戸1基、木組遺構1基、土坑38基、ピット31基で、調査区全体に分布する。このうち調査区の中央から東側は、第2面での遺構確認が困難であったことから本面まで確認面を下げた遺構を確認したため、本来は第2面に帰属する遺構が含まれる可能性がある。本面で確認した井戸3は、第2面の井戸1・2と同様に調査区北壁に半分ほどがかかっており、これらは直線的に並んでいる。本面の井戸3も湧水のため底面まで掘削できなかったが、井戸枠が遺存していた。土坑は特に大形のもの目立ち、それぞれの主軸方位が並行あるいは直交している。ピットは調査区東側に多く、密集する分布状況だが、関連性などは明らかにできなかった。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀中葉～後葉頃に属すると考えられる。

〈第4面〉

第4面の遺構は標高約7.5～7.6mで確認した。締めりが非常に強い茶褐色弱粘質土で構成される。調査区北壁際にトレンチを設定して調査を行ったが、東側では掘削深度が本面に到達しなかった。土坑85は本面の直上に堆積する土層に掘り込まれているものだが、便宜上本面に含めている。これを含めて検出した遺構は、溝状遺構1条、土坑1基で、遺構密度は希薄である。溝状遺構1は部分的な確認にとどまるため詳細は不明だが、軸方位は第1～3面の主な遺構群とほぼ同じである。土坑85は井戸2に壊され、北側は調査区外となることから、全容は把握できなかった。遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は13世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

〈第5面〉

第5面の遺構は標高約7.2mで確認しており、黒褐色粘土ブロックを多く含み、締めりのない明黄褐色

砂質土である12層に掘り込まれたものとみられる。検出した遺構は土坑3基である。調査面積が狭小であり全容が把握できてはいないが、土坑86は大形で特徴的である。遺物はかわらけや古墳時代の土器などが出土しているが、遺物量は極めて少ない。詳細な年代を特定することは困難であり、第4面(13世紀前葉～中葉頃)以前としておく。

引用・参考文献(著者五十音順)

- 赤星直忠 1983「由比ガ浜一丁目148-11所在遺跡」『発掘調査概要』由比ガ浜一丁目148-11所在遺跡発掘調査団
- 石井 進・大三輪龍彦編 1989『武士の都鎌倉』よみがえる中世3 平凡社
- 伊丹まどか・渡邊美佐子 2017「今小路西遺跡(No.201)由比ガ浜一丁目134番4地点」『平成28年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書33 鎌倉市教育委員会
- 香川達郎ほか 2007『神奈川県鎌倉市 今小路西遺跡発掘調査報告書』玉川文化財研究所
- 鐘方正樹 2003『井戸の考古学』ものが語る歴史8 同成社
- 鎌倉市教育委員会 2009「今小路西遺跡由比ガ浜一丁目151番1地点」『平成19年度発掘調査の概要』鎌倉の埋蔵文化財12
- 河野真知郎 1993『今小路西遺跡(御成小学校内)第5次発掘調査概報』今小路西遺跡発掘調査団
- 河野真知郎・宮田 眞ほか 1990『神奈川県・鎌倉市今小路西遺跡(御成小学校内)発掘調査報告書(第1分冊本文編)』今小路西遺跡発掘調査団編
- 河野真知郎・宮田 眞ほか 1993『神奈川県・鎌倉市今小路西遺跡発掘調査報告書(社会福祉センター用地・御成町625番2地点)』今小路西遺跡発掘調査団編
- 菊川英政・長澤保崇ほか 2008『神奈川県鎌倉市今小路西遺跡(No.201)発掘調査報告書-御成町171番1外地点-』株式会社斉藤建設
- 熊谷 満・降矢順子 2011『今小路西遺跡発掘調査報告書-鎌倉市由比ガ浜一丁目151番1地点-』鎌倉市遺跡調査会
- 汐見一夫 2002「今小路西遺跡(No.201)由比ガ浜一丁目183番1地点」『平成13年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18 鎌倉市教育委員会
- 瀬田哲夫 2007『今小路西遺跡発掘調査報告書 由比ガ浜一丁目197番2地点』有限会社鎌倉遺跡調査会
- 宗墓秀明・宗墓富貴子ほか 1993『今小路西遺跡 由比ガ浜一丁目213番3地点』今小路西遺跡発掘調査団
- 滝澤晶子・宮田 眞 2004「今小路西遺跡(No.201)由比ガ浜一丁目148番5地点」『平成15年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20 鎌倉市教育委員会
- 野本賢二 2002「今小路西遺跡(No.201)由比ガ浜一丁目148番1地点」『平成13年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18 鎌倉市教育委員会
- 馬淵和雄・沖元 道ほか 2012「今小路西遺跡(No.201)由比ガ浜一丁目157番7外地点」『平成23年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28 鎌倉市教育委員会
- 『国立国会図書館デジタルコレクション-新編鎌倉志』国立国会図書館
- 『鎌倉市史』考古編 赤星直忠 吉川弘文館 1959
- 『鎌倉事典』白井永二編 東京堂出版 1976

表2 第1面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
掘立柱建物1 出土遺物(図8)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.0	3.8	1.7	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	3/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	6.5	5.0	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.1~6.4	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、やや粗土 色調:浅褐色 焼成:良好	略完形
5	土器	ロクロ かわらけ・中	11.1	6.6	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	3/4
6	磁器	白磁 碗	-	(4.4)	現 1.5	疊付-無釉 色調:胎土-白色、釉-白色	底部 小破片
7	磁器	青磁 香炉	-	-	現 1.8	口唇部-無釉 胎土:灰白色、釉-淡緑灰色	口縁部 小破片
8	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 4.0	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色	口縁部 小破片
9	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 9.7	外面-印花による菊花文 胎土:緻密 色調:黒色 焼成:良好	口縁部 小破片

土坑4 出土遺物(図9)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/2
---	----	---------------	-----	-----	-----	---	-----

土坑7 出土遺物(図11)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	5.5	3.9	2.1	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	4/5
2	土器	ロクロ かわらけ・小	6.0	3.8	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡褐色 焼成:良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	6.0	4.0	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.9	2.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	4.5	2.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	2/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.8)	(6.5)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
7	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.8)	(7.4)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/5
8	土器	ロクロ かわらけ・中	11.0~ 11.4	5.9~6.3	3.1	歪みが大きい 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	略完形
9	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	7.5	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:褐色 焼成:良好	3/4
10	土器	ロクロ かわらけ・中	11.7~ 12.5	8.0~8.7	3.5	歪みが大きい 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	完形
11	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	8.6	4.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡褐色 焼成:良好	4/5
12	土器	ロクロ かわらけ・中	12.9	7.9~8.1	4.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:褐色 焼成:良好	3/4
13	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	7.9	4.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	略完形
14	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	8.5	4.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:褐色 焼成:良好	5/6
15	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	(8.0)	3.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/5
16	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	8.5	4.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:褐色 焼成:良好	略完形
17	土器	ロクロ かわらけ・大	12.9~ 13.2	8.4	3.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	略完形
18	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0~ 13.3	7.5	4.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡褐色 焼成:良好	略完形
19	土器	ロクロ かわらけ・大	13.8	8.5	4.5	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	略完形
20	銅製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名-開元通寶(南唐・960)	完形

土坑8 出土遺物(図12)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.3~6.6	4.0~4.2	2.6	歪みが大きい 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:褐色 焼成:良好	完形
2	陶器	瀬戸 入子	-	2.9	現 0.9	胎土:緻密 色調:灰白色	底部 小破片

土坑10 出土遺物(図13)

1	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.4)	(7.0)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:浅褐色 焼成:良好	1/5
2	陶器	常滑 甕	(44.0)	-	現 18.3	外面肩部-格子+菊花文の連続刻印 胎土:粗、白色粒 色調:胎土-暗褐色、自然釉-暗緑灰色 備考:6b型式	口縁部~ 肩部小破片
3	銅製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.6	厚 0.1	銭名-咸平元寶(北宋・998)	完形

土坑11出土遺物(図14)

1	銅製品	銭貨	直径 2.4	孔径 -	厚 0.1	銭名-宣(徳通)寶(明・1433)	1/2
---	-----	----	-----------	---------	----------	-------------------	-----

土坑12出土遺物(図16)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(4.3)	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	1/3
2	陶器	瀬戸 折縁深皿	-	-	現 3.0	胎土:緻密 色調:胎土-灰白色、釉-淡緑灰色	口縁部~ 体部小破片

土坑21出土遺物(図17)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.8)	1.9	歪みが大きい 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	8.4	3.3	歪みが大きい 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	3/4
3	土器	羽釜	(17.5)	-	現 4.2	内外面-横ナデ・ハケメ 胎土:微砂、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	口縁部 小破片

土坑23出土遺物(図19)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5~7.8	5.0~5.3	1.7	歪みが大きい 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	完形
2	陶器	常滑 甕	-	-	現 4.1	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:6a~6b型式	口縁部 小破片
3	陶器	常滑 片口鉢I類	-	(13.6)	現 5.0	胎土:粗、白色粒 色調:褐灰色	底部 小破片

土坑24出土遺物(図20)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.2)	1.7	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/2
---	----	---------------	-------	-------	-----	---	-----

土坑25出土遺物(図21)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.6)	(4.5)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	1/5
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(7.4)	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	1/6

土坑27出土遺物(図22)

1	磁器	青磁 壺蓋?	(6.0)	-	現 1.8	外面-蓮弁文?の陽刻 内面-無釉 色調:胎土-灰白色、釉-淡緑灰色	小破片
---	----	-----------	-------	---	----------	-----------------------------------	-----

ピット出土遺物(図23)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.7)	(5.0)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:浅橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット3	1/4
2	陶器	常滑 甕	-	-	現 5.0	胎土:粗、白色粒 色調:暗灰色、褐灰色 備考:6b型式 出土遺構:ピット3	口縁部 小破片
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8~8.2	4.9~5.1	2.6	歪みが大きい 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット10	5/6
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.0	2.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、粗土 色調:浅橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット14	略完形
5	陶器	常滑 甕	-	(15.0)	現 5.5	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐灰色 出土遺構:ピット15	底部 小破片
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	5.2	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット32	2/3
7	磁器	青磁 小碗	(10.5)	-	現 3.7	内外面-無文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁小碗I類 出土遺構:ピット32	1/3
8	銅製品	銭貨	直径 2.5	孔径 0.6	厚 0.1	銭名-景德元寶(北宋・1004) 出土遺構:ピット35	完形
9	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 12.2	外面-印花による菊花文 胎土:緻密 色調:灰白色、灰黒色 焼成:良好 出土遺構:ピット38	口縁部 小破片
10	磁器	青磁 坏	-	(5.0)	現 2.8	外面-蓮弁文 高台・畳付-露胎 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁坏Ⅱ類 出土遺構:ピット40	底部~体部 小破片
11	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	5.5	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット41	1/3
12	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 2.7	内面摩耗 胎土:きめ細かい 色調:灰色 出土遺構:ピット41	口縁部 小破片

第1面 遺構外出土遺物(図24)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.5	4.5~5.0	2.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	3/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.7	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.3	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	4.9	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/2
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.1	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.1	2.0	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	4/5
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	4.7	2.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	3/4
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	4.7	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	2/3
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.5)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3

10	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.2	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	4/5
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.9	2.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(4.3)	2.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	1/4
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	4.2	3.0	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/2
14	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.9	2.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	略完形
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(5.2)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/4
16	土器	ロクロ かわらけ・中	10.8	6.8	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	3/4
17	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	(7.2)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/5
18	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.9)	(7.8)	2.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/3
19	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.5)	8.0	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/5
20	磁器	青白磁 香炉	-	-	現 3.8	脚部1ヵ所遺存 外面-ヘラ彫りによる唐草文 上面-透かし 脚畳付~底面-無釉 色調:胎土-灰白色、釉-淡青色	底部 小破片
21	磁器	青磁 碗	-	(4.8)	現 2.0	畳付-露胎 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類?	底部 小破片
22	陶器	瀬戸 折縁深皿	-	-	現 5.4	胎土:緻密 色調:胎土-灰黄色、釉-淡灰黄色	口縁部 小破片
23	陶器	瀬戸 卸皿	(15.2)	-	3.0	胎土:緻密 色調:胎土-灰白色、釉-淡灰黄色 備考:古瀬戸後期様式Ⅰ期	1/8
24	陶器	常滑 甕	-	-	現 4.3	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:6b~7型式	口縁部 小破片
25	陶器	常滑 甕	-	-	現 5.9	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:7~8型式	口縁部 小破片
26	陶器	常滑 甕	-	-	現 6.8	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:7~8型式	口縁部 小破片
27	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 3.9	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色	口縁部 小破片
28	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 5.3	胎土:粗、白色粒 色調:褐色	口縁部 小破片
29	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 6.3	胎土:粗、白色粒 色調:橙褐色	口縁部 小破片
30	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 6.6	胎土:粗、白色粒 色調:暗赤褐色	口縁部 小破片
31	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(31.0)	-	現 6.8	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:7~8型式	1/7
32	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(33.4)	-	現 8.1	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:7~8型式	1/8
33	瓦質 土器	火鉢	(33.2)	-	現 9.4	外面-印花による菊花文 胎土:緻密 色調:白灰色 焼成:良好	1/8
34	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 3.8	外面-ミガキ・ヘラケズリ 胎土:緻密 色調:白灰色 焼成:良好	把手 小破片
35	石製品	用途不明	-	-	現 2.8	石鍋をスタンプに転用? 裏面-葉文の陰刻 色調:灰褐色 石材-滑石	
36	銅製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名-元祐通寶(北宋・1086)	完形

表3 第2面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
井戸1出土遺物(図26)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.0)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.5	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.8	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.4)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
5	土器	ロクロ かわらけ・中	10.5	6.6	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/4
6	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(7.8)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/5
7	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(6.8)	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色~橙色 焼成:良好	1/4
8	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	(6.5)	3.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色~橙色 焼成:良好	1/3
9	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(8.2)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
10	磁器	青白磁 梅瓶	-	-	現 7.8	上面-ヘラ彫りによる唐草文 色調:胎土-乳白色、釉-淡青色	体部 小破片

11	磁器	青磁碗	12.6	-	現 5.1	外面-蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部~ 体部小破片
12	陶器	瀬戸 瓶子	胴径 (18.0)	-	現 12.9	肩部-沈線3条 胎土:緻密 色調:胎土-灰白色、釉-灰オリーブ色	体部上半 破片
13	陶器	常滑 甕	-	-	現 11.1	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:6a型式	口縁部 小破片
14	陶器	常滑 甕	-	-	現 3.3	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:6a型式	口縁部 小破片

土坑28出土遺物(図28)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(6.0)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:橙色 焼成:良好	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	6.3	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:黄橙色 焼成:良好	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/4
3	磁器	青磁 碗	-	(5.4)	現 1.8	外面-割花文 高台・畳付-露胎 色調:胎土-灰色、釉-淡緑灰色 備考:龍泉窯 系青磁碗Ⅰ類	底部 小破片	

土坑29出土遺物(図29)

1	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.0)	8.0	4.2	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:橙色 焼成:良好	胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土	1/3
---	----	---------------	--------	-----	-----	-----------------------------	--------------------------	-----

土坑30出土遺物(図30)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(5.0)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:黄橙色 焼成:良好	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/5
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.5)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:黄橙色 焼成:良好	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/4

土坑33出土遺物(図32)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.0)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:黄橙色 焼成:良好	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/6
2	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	8.2	2.8	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:黄橙色 焼成:良好	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/6

土坑34出土遺物(図33)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2~7.7	5.5	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:黄橙色 焼成:良好	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.4)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:灰黄色 焼成:良好	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.3)	(5.6)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:橙色 焼成:良好	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/4

土坑35出土遺物(図35)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(4.9)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:黄灰色 焼成:良好	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/7
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	(8.4)	2.5	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:黄橙色 焼成:良好	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/6

土坑36出土遺物(図36)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.2)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:灰黄色 焼成:良好	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	6.5	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:黄橙色 焼成:良好	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.1	1.8	口縁部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、 海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	4/5	
4	銅製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭名-元豊通寶(北宋・1078)	完形	

土坑38出土遺物(図37)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	4.3	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:浅橙色 焼成:良好	胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土	2/3
---	----	---------------	-------	-----	-----	------------------------------	--------------------------	-----

土坑42出土遺物(図38)

1	陶器	常滑 甕	-	-	現 8.7	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 焼成:良好 備考:5型式	口縁部 小破片
---	----	---------	---	---	----------	------------------------------	------------

土坑45出土遺物(図40)

1	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.0)	(8.3)	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、泥岩 粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
---	----	---------------	--------	-------	-----	--	-----

土坑46出土遺物(図41)

1	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	(11.0)	現 5.1	胎土:粗、白色粒 色調:灰色	底部 小破片
---	----	-------------	---	--------	----------	----------------	-----------

ピット出土遺物(図42)

1	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(7.0)	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット47	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.7)	(4.2)	2.6	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット48	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(4.2)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット48	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/4
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(4.1)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット48	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/4
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.2)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット48	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨 針、粗土	1/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.2)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット48	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/4
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.6)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット48	胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土	1/3

8	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(6.6)	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット48	1/8
9	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	9.0	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:淡黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット48	1/8
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.2)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、泥岩粒、海綿骨 針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット49	1/3
11	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.0)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、泥岩粒、海綿骨 針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット49	2/3
12	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(8.4)	2.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:淡黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット49	1/4
13	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(7.1)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:淡黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット49	1/4
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.0)	(4.0)	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット52	1/5
15	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	8.7	3.0	内外面に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、 海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット57	4/5
16	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	7.5	3.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:淡黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット62	1/2

第2面 遺構外出土遺物(図43・44)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.1	3.7	7.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:黄褐色 焼成:良好	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.2)	4.1	2.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.3)	4.3	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	6.5	3.7	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨 針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	6.6~6.9	4.0~4.5	2.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨 針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0~7.2	5.4	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.8	2.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.9	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	2/3
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(5.4)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/3
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.2	2.0	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、 海綿骨針、粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	1/2
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.3	2.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
12	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1~7.7	4.9~5.2	1.5	内面に溶解金属付着 埴埴に転用 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、 赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	4/5
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(4.9)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/4
14	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5~7.7	5.8	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	完形
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.2)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
16	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.0)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨 針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
17	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2~8.6	5.5	2.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨 針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	完形
18	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.2)	(6.2)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/4
19	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.8)	6.0	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄褐色 焼成:良好	1/3
20	土器	ロクロ かわらけ・中	11.0~ 11.3	7.0	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨 針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	完形
21	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.9)	7.0	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨 針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
22	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.7	3.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨 針、粗土 色調:黄褐色 焼成:良好	3/4
23	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(7.8)	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄 褐色 焼成:良好	1/2
24	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.3)	7.4	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調:黄 褐色 焼成:良好	2/3
25	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.0)	8.6	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨 針、粗土 色調:黄褐色 焼成:良好	2/3
26	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	(7.2)	1.7	底面-ヘラナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色 調:黄褐色 焼成:良好	1/4
27	磁器	青磁 碗	-	6.3	現 1.7	高台・畳付-露胎 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅰ類	底部 小破片
28	磁器	青磁 碗	-	-	現 3.0	外面-鎚蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部~ 体部小破片
29	磁器	青磁 碗	-	-	現 4.5	外面-鎚蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	体部 小破片
30	磁器	青磁 碗	(9.7)	-	現 3.5	外面-蓮弁文 高台・畳付-露胎 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯 系青磁小碗Ⅱ類	口縁部~ 体部小破片
31	磁器	青磁 皿	-	(10.6)	現 2.4	裏面-鎚蓮弁文 畳付-無釉 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青 磁皿Ⅱ類	底部 小破片

32	磁器	青磁折縁鉢	-	-	現 3.4	裏面- 鑄蓮弁文 色調: 胎土- 灰白色、釉- 緑青色	口縁部 小破片
33	磁器	青磁香炉	-	-	現 2.5	外面- 意匠不明文 色調: 胎土- 灰白色、釉- 緑青色	口縁部 小破片
34	陶器	常滑 甍	-	-	現 5.3	胎土: 粗、白色粒 色調: 暗褐色 備考: 6 a 型式	口縁部 小破片
35	陶器	常滑 甍	-	-	現 6.4	胎土: 粗、白色粒 色調: 暗褐色 備考: 6 a 型式	口縁部 小破片
36	陶器	常滑 甍	-	-	現 7.0	胎土: 粗、白色粒 色調: 暗褐色 備考: 6 b ~ 7 型式	口縁部 小破片
37	陶器	常滑 甍	-	-	現 4.8	胎土: 粗、白色粒 色調: 暗褐色 備考: 6 b ~ 7 型式	口縁部 小破片
38	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	(12.4)	現 2.8	胎土: 粗、白色粒 色調: 灰色	底部 小破片
39	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 4.0	胎土: 粗、白色粒 色調: 暗褐色	口縁部 小破片
40	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 6.7	胎土: 粗、白色粒 色調: 暗褐色	口縁部 小破片
41	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(25.3)	-	現 7.3	胎土: 粗、白色粒 色調: 暗褐色	口縁部~ 体部小破片
42	石製品	硯	長 6.4	幅 3.8	厚 2.1	部分的に欠け 石材- 凝灰岩	略完形
43	銅製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.8	厚 0.1	銭名- 開元通寶(南唐・960)	完形
44	銅製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名- 紹聖元寶(北宋・1094)	完形

表4 第3面 出土遺物観察表

法量内() = 推定値

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
井戸3出土遺物(図47)							
1	土器	ロクロ かわらけ・極小	3.9	3.0	1.0	底面- 回転糸切+ 板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 淡橙色 焼成: 良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.3)	(8.0)	2.8	底面- 回転糸切+ 板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	1/6
木組遺構1出土遺物(図49)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(4.7)	1.7	底面- 回転糸切+ 板状圧痕 内底- ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	1/6
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7~8.0	5.1~5.5	2.0	内外面に煤付着、歪みあり 底面- 回転糸切+ 板状圧痕 内底- ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 橙色 焼成: 良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.8)	(6.3)	3.3	底面- 回転糸切+ 板状圧痕 内底- ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	1/8
4	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	-	現 3.2	内面摩耗 胎土: 微砂質、長石粒 色調: 灰色	口縁部 小破片
土坑49出土遺物(図51)							
1	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	(7.7)	3.0	底面- 回転糸切+ 板状圧痕 内底- ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	1/7
2	陶器	常滑 片口碗	(10.8)	-	現 4.6	胎土: 粗、白色粒 色調: 暗褐色 備考: 4 ~ 5 型式	1/4
土坑51出土遺物(図52)							
1	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(8.0)	3.0	底面- 回転糸切+ 板状圧痕 内底- ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 赤橙色 焼成: 良好	1/6
2	陶器	常滑 甍	-	-	現 9.0	胎土: 粗、白色粒 色調: 暗褐色 備考: 5 型式	口縁部 小破片
土坑53出土遺物(図53)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.8)	8.4	1.6	底面- 回転糸切+ 板状圧痕 内底- ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	1/3
2	土器	手づくね かわらけ・中	(12.1)	(6.6)	3.6	底面- 指頭ナデ・ヘラナデ 内底- ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、良土 色調: 橙色 焼成: 良好	1/3
土坑54出土遺物(図54)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(4.3)	1.4	底面- 回転糸切+ 板状圧痕 内底- ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.2	1.8	底面- 回転糸切+ 板状圧痕 内底- ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	4/5
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.9)	1.6	底面- 回転糸切+ 板状圧痕 内底- ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(7.9)	3.3	底面- 回転糸切+ 板状圧痕 内底- ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調: 赤橙色 焼成: 良好	1/3
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	(8.0)	3.4	底面- 回転糸切+ 板状圧痕 内底- ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、粗土 色調: 赤橙色 焼成: 良好	2/3
6	磁器	青白磁 小壺	(6.0)	-	現 2.5	口唇部袖掻き取り 外面- 縦沈線 色調: 胎土- 灰白色、釉- 淡青色	1/6
7	磁器	白磁 口元皿	(11.6)	(6.3)	3.4	底面- ヘラ切り、施釉 色調: 胎土- 白色、釉- 白色 備考: 白磁皿Ⅸ類	1/3

土坑58出土遺物(図56)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(6.2)	1.7	内面に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	1/4
---	----	---------------	-------	-------	-----	---	-----

土坑60出土遺物(図57)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(5.2)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.2)	2.0	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
3	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(8.3)	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	1/8

土坑61出土遺物(図58)

1	土器	ロクロ かわらけ・中	-	(7.4)	現 2.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/4
---	----	---------------	---	-------	----------	---	-----

土坑62出土遺物(図59)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.2	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	4/5
2	土器	ロクロ かわらけ・小	9.1	(7.0)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/7
3	磁器	白磁 合子身	(4.6)	(4.2)	2.0	外面-蓮弁文 口唇部・底部-無軸 色調:胎土-白色、釉-白色	1/4
4	陶器	瀬戸 卸皿	-	(7.0)	現 1.7	胎土:緻密 色調:胎土-灰白色、釉-灰黄色	見込み 小破片
5	陶器	山茶碗	(13.2)	(4.7)	現 5.8	内面に重ね焼痕 暈付-粗粒圧痕 胎土:きめ細かい 色調:灰白色	1/4
6	陶器	常滑 甕	-	-	現 6.5	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片

土坑63出土遺物(図60)

1	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 7.1	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色	口縁部 小破片
---	----	-------------	---	---	----------	-----------------	------------

土坑67出土遺物(図62)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.7)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.8)	1.9	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
3	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.0)	7.0	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	2/3
4	土器	ロクロ かわらけ・中	11.2	6.5	3.1	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
5	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	8.2~8.5	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	2/3
6	土器	ロクロ かわらけ・中	12.7	8.1	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	略完形
7	土器	甕	(22.9)	-	現 6.7	口唇部-折り返し 内外面-ヘラナデ 胎土:微砂、小石粒、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好 備考:東海系	口縁部 小破片

土坑69出土遺物(図64)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	5.2	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.8	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	略完形

土坑70出土遺物(図65)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.5	1.5	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	略完形
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	(8.1)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	1/5
3	陶器	常滑 甕	(53.6)	-	現 2.6	胎土:粗、白色粒 色調:黒赤褐色 備考:5型式	口縁部 小破片

土坑79出土遺物(図66)

1	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 5.7	胎土:粗、白色粒 色調:灰色	口縁部 小破片
2	陶器	常滑 甕	-	-	現 6.6	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片

土坑80出土遺物(図67)

1	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(8.4)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/6
2	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	(7.5)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
3	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4~ 14.3	8.6~10.0	4.1	歪みあり 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
4	土器	ロクロ かわらけ・大	(15.8)	(8.8)	3.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/6

土坑82出土遺物(図70)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.5)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡橙色 焼成:良好	1/6
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.9)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/5
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.0)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/7

4	磁器	青磁碗	-	-	現3.4	外面-鎚蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-灰緑色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部小破片
5	磁器	青磁碗	-	-	現6.2	外面-鎚蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-オリブ灰色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部小破片

ピット出土遺物(図71)

1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.0)	(5.0)	1.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好 出土遺構:ピット72	1/4
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.5	5.3	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好 出土遺構:ピット83	1/2
3	土器	ロクロかわらけ・中	(12.1)	(8.7)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット83	1/5
4	磁器	青磁折縁皿	(21.0)	-	現3.8	色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁 出土遺構:ピット83	口縁部~体部小破片
5	陶器	常滑蔦口壺	5.3	10.6~10.9	8.9	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:6a~7型式 出土遺構:ピット83	略完形
6	土器	白かわらけ	(12.0)	-	3.2	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、良土 色調:乳白色 焼成:良好 出土遺構:ピット90	1/5
7	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	5.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット97	略完形
8	土器	ロクロかわらけ・小	(7.8)	5.7	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄褐色 焼成:良好 出土遺構:ピット99	1/8
9	磁器	青白磁梅瓶	-	-	現3.8	上面-ヘラ彫りによる唐草文 色調:胎土-乳白色、釉-淡青色 出土遺構:ピット99	体部小破片
10	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	6.3	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好 出土遺構:ピット101	略完形

第3面 遺構外出土遺物(図72・73)

1	土器	ロクロかわらけ・小	(6.8)	(5.5)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄褐色 焼成:良好	1/4
2	土器	ロクロかわらけ・小	(6.8)	4.3	2.6	焼成後穿孔 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
3	土器	ロクロかわらけ・小	(7.2)	(4.6)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡褐色 焼成:良好	1/3
4	土器	ロクロかわらけ・小	7.3	5.3	2.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄褐色 焼成:良好	略完形
5	土器	ロクロかわらけ・小	(7.7)	(4.5)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/3
6	土器	ロクロかわらけ・小	(7.8)	(5.6)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄褐色 焼成:良好	1/3
7	土器	ロクロかわらけ・小	(7.8)	(5.8)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡褐色 焼成:良好	1/4
8	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	5.7	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:黄褐色 焼成:良好	4/5
9	土器	ロクロかわらけ・小	(9.8)	5.6	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
10	土器	ロクロかわらけ・小	7.8~8.1	4.6	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
11	土器	ロクロかわらけ・中	(11.7)	(7.5)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄褐色 焼成:良好	1/4
12	土器	ロクロかわらけ・中	(11.8)	(7.4)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:赤褐色 焼成:良好	1/3
13	土器	ロクロかわらけ・中	(12.0)	(7.8)	3.3	二次焼成 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:赤褐色 焼成:良好	1/3
14	土器	ロクロかわらけ・中	(12.2)	(7.4)	3.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄褐色 焼成:良好	1/6
15	土器	ロクロかわらけ・中	(12.3)	(7.2)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/4
16	土器	ロクロかわらけ・中	(12.5)	(7.8)	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:淡褐色 焼成:良好	1/6
17	土器	ロクロかわらけ・中	12.7	7.6	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調:赤褐色 焼成:良好	1/3
18	土器	ロクロかわらけ・中	(12.8)	(8.0)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄褐色 焼成:良好	1/5
19	土器	ロクロかわらけ・大	(13.4)	(9.0)	2.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄褐色 焼成:良好	1/6
20	磁器	白磁口元皿	-	-	現2.4	色調:胎土-白色、釉-乳白色 備考:白磁皿Ⅳ類	口縁部小破片
21	磁器	白磁口元皿	-	-	現2.7	色調:胎土-白色、釉-白色 備考:白磁皿Ⅳ類	口縁部小破片
22	磁器	白磁口元皿	-	-	現2.9	色調:胎土-白色、釉-乳白色 備考:白磁皿Ⅳ類	口縁部小破片
23	磁器	青磁碗	-	-	現2.7	外面-劃花文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅰ類	口縁部小破片
24	磁器	青磁碗	-	-	現2.2	外面-鎚蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部小破片
25	磁器	青磁碗	-	-	現2.2	外面-鎚蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-灰褐色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部小破片
26	磁器	青磁碗	-	-	現2.3	外面-鎚蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-淡黄緑色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部小破片
27	磁器	青磁碗	-	-	現3.0	外面-鎚蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-明緑灰色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部小破片

28	磁器	青磁碗	-	-	現3.1	外面-鎚蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-灰綠色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部小破片
29	磁器	青磁碗	-	-	現3.8	外面-鎚蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-緑灰色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部小破片
30	磁器	青磁碗	-	-	現4.0	外面-鎚蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-淡緑灰色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部小破片
31	磁器	青磁碗	-	-	現4.0	外面-鎚蓮弁文 色調:胎土-灰白色、釉-灰綠色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	口縁部小破片
32	磁器	青磁碗	-	(7.0)	現2.2	畳付-露胎 色調:胎土-灰白色、釉-明緑灰色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類?	底部小破片
33	磁器	青磁碗	-	(5.5)	現2.7	畳付-露胎 色調:胎土-灰白色、釉-緑灰色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅱ類?	底部小破片
34	陶器	瀬戸折縁深皿	-	-	現2.1	胎土:緻密 色調:胎土-灰色、釉-灰オリープ色	口縁部小破片
35	陶器	瀬戸蓋?	5.5	2.6	1.2	上面-劃花文? 裏面-無釉 胎土:緻密 色調:胎土-灰白色、釉-暗オリープ色	3/4
36	陶器	常滑短頸壺	7.2	-	現6.2	胎土:粗、白色粒 色調:灰色 備考:1a~2型式	口縁部小破片
37	陶器	常滑甕	-	-	現11.0	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5~6a型式	口縁部小破片
38	陶器	常滑甕	-	-	現6.7	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色、自然釉-暗オリープ色 備考:6a型式	口縁部小破片
39	陶器	常滑甕	-	-	現8.2	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:6a型式	口縁部小破片
40	陶器	常滑甕	-	-	現3.5	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:6b型式	口縁部小破片
41	陶器	常滑甕	-	-	現5.7	胎土:粗、白色粒 色調:暗赤褐色 備考:6b型式	口縁部小破片
42	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	-	-	現3.6	胎土:粗、白色粒 色調:灰色	底部小破片
43	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	-	(13.0)	現6.8	胎土:粗、白色粒 色調:灰色	底部小破片
44	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	-	-	現3.8	胎土:粗、白色粒 色調:灰褐色	口縁部小破片
45	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	(29.4)	-	現9.0	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:7型式?	1/3
46	瓦質土器	火鉢	-	-	現5.6	胎土:緻密 色調:白灰色 焼成:良好	口縁部小破片
47	瓦質土器	火鉢	-	-	現10.1	胎土:緻密 色調:白灰色 焼成:良好	口縁部小破片
48	土器	羽釜	(19.0)	-	現3.5	内外面-横ナデ、ハケメ 胎土:微砂、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/8
49	石製品	硯	現長6.5	現幅5.2	厚0.5~0.7	上面-線刻 石材-凝灰岩	1/6
50	石製品	砥石	現長9.0	幅3.5	厚2.8	3面に使用痕跡 石材-凝灰岩	
51	石製品	砥石	現長6.5	幅3.6	厚0.9	2面に使用痕跡 石材-凝灰岩	
52	銅製品	銭貨	直径2.4	孔径0.7	厚0.1	銭名-祥符通寶(北宋・1008)	完形
53	銅製品	銭貨	直径2.4	孔径0.7	厚0.1	銭名-聖宋元寶(北宋・1101)	完形

表5 第4面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

第4面 遺構外出土遺物(図77)

1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.7)	5.2	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	2/3
2	土器	ロクロかわらけ・中	11.8	6.7	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
3	磁器	青磁碗	-	(5.3)	現1.6	高台・畳付-露胎 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅰ類?	底部小破片
4	陶器	瀬戸緑釉皿	(9.6)	5.1	2.0	胎土:緻密 色調:胎土-灰黄褐色、釉-淡灰黄色 備考:古瀬戸後期様式Ⅱ期	1/3
5	陶器	瀬戸折縁深皿	-	-	現4.3	胎土:緻密 色調:胎土-灰黄色、釉-淡灰黄色	口縁部小破片

表6 第5面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

第5面 遺構外出土遺物(図80)

1	土器	S字状口縁甕	(17.4)	-	現5.0	口縁部-横ナデ 体部外面-ハケメ 体部内面-ヘラナデ 胎土:微砂、雲母、白色粒、赤色粒、砂質 色調:灰黄色 焼成:良好	口縁部破片
---	----	--------	--------	---	------	---	-------

表7 遺構計測表

() = 推定値、〈 〉 = 現存値

遺構名	帰属面	規模 (cm)			遺構名	帰属面	規模 (cm)			遺構名	帰属面	規模 (cm)		
		長軸	短軸	深さ			長軸	短軸	深さ			長軸	短軸	深さ
掘立柱建物 1	第1面	560~570	550	22~51	ピット38	第1面	59	〈32〉	18	土坑57	第3面	〈161〉	126	52
土坑1	第1面	63	-	10	ピット39	第1面	46	38	16	土坑58	第3面	222	149	35
土坑2	第1面	69	-	21	ピット40	第1面	47	42	33	土坑59	第3面	83	51	32
土坑3	第1面	〈64〉	〈22〉	41	ピット41	第1面	52	47	37	土坑60	第3面	93	-	19
土坑4	第1面	〈102〉	74	27	ピット42	第1面	〈43〉	〈31〉	26	土坑61	第3面	253	145	46
土坑5	第1面	71	54	22	ピット43	第1面	36	20	10	土坑62	第3面	〈141〉	〈107〉	42
土坑6	第1面	67	-	27	ピット44	第1面	〈22〉	17	26	土坑63	第3面	〈68〉	〈33〉	45
土坑7	第1面	463	116	44	ピット45	第1面	〈40〉	〈34〉	28	土坑64	第3面	〈104〉	91	22
土坑8	第1面	〈97〉	86	29	井戸1	第2面	〈200〉	〈100〉	〈141〉	土坑65	第3面	〈65〉	〈36〉	32
土坑9	第1面	〈71〉	〈41〉	28	井戸2	第2面	〈265〉	〈109〉	〈132〉	土坑66	第3面	304	150	34
土坑10	第1面	83	-	27	土坑28	第2面	141	117	23	土坑67	第3面	98	-	29
土坑11	第1面	153	82	13	土坑29	第2面	77	62	45	土坑68	第3面	64	43	15
土坑12	第1面	〈214〉	90	21	土坑30	第2面	110	79	20	土坑69	第3面	141	80	15
土坑13	第1面	〈140〉	〈62〉	32	土坑31	第2面	74	53	15	土坑70	第3面	70	〈45〉	9~27
土坑14	第1面	〈134〉	〈68〉	31	土坑32	第2面	290	〈170〉	27	土坑71	第3面	78	〈61〉	14~36
土坑15	第1面	〈183〉	67	11	土坑33	第2面	140	-	28	土坑72	第3面	62	〈48〉	14
土坑16	第1面	79	58	26	土坑34	第2面	127	109	59	土坑73	第3面	63	37	41
土坑17	第1面	81	50	30	土坑35	第2面	〈150〉	121	36	土坑74	第3面	175	51	16
土坑18	第1面	88	〈56〉	28	土坑36	第2面	〈200〉	140	35	土坑75	第3面	80	71	17
土坑19	第1面	65	-	41	土坑37	第2面	255	〈174〉	23	土坑76	第3面	75	55	38
土坑20	第1面	〈75〉	〈40〉	38	土坑38	第2面	66	〈47〉	24	土坑77	第3面	〈99〉	〈60〉	38
土坑21	第1面	89	-	43	土坑39	第2面	85	61	22	土坑78	第3面	〈68〉	〈57〉	14
土坑22	第1面	〈68〉	〈60〉	54	土坑40	第2面	〈81〉	〈44〉	19	土坑79	第3面	113	69	29
土坑23	第1面	〈69〉	64	37	土坑41	第2面	70	47	22	土坑80	第3面	〈140〉	〈85〉	43
土坑24	第1面	101	〈61〉	30	土坑42	第2面	79	54	23	土坑81	第3面	〈107〉	90	40
土坑25	第1面	〈80〉	64	28	土坑43	第2面	65	-	12	土坑82	第3面	〈60〉	〈29〉	17
土坑26	第1面	〈76〉	〈42〉	23	土坑44	第2面	65	50	38	土坑83	第3面	〈70〉	50	28
土坑27	第1面	〈98〉	〈58〉	25	土坑45	第2面	61	41	29	土坑84	第3面	〈64〉	〈33〉	26
ピット1	第1面	52	44	27	土坑46	第2面	69	50	48	ピット71	第3面	45	-	13
ピット2	第1面	36	28	35	ピット46	第2面	46	〈35〉	13	ピット72	第3面	〈46〉	〈26〉	30
ピット3	第1面	38	33	33	ピット47	第2面	53	44	72	ピット73	第3面	〈56〉	〈22〉	13
ピット4	第1面	54	50	31	ピット48	第2面	54	〈53〉	26	ピット74	第3面	〈24〉	〈18〉	9
ピット5	第1面	36	33	31	ピット49	第2面	50	-	27	ピット75	第3面	40	31	34
ピット6	第1面	37	30	22	ピット50	第2面	43	30	33	ピット76	第3面	32	26	25
ピット7	第1面	50	47	35	ピット51	第2面	49	〈34〉	28	ピット77	第3面	〈42〉	33	31
ピット8	第1面	36	31	19	ピット52	第2面	35	〈23〉	?	ピット78	第3面	56	48	14
ピット9	第1面	33	29	15	ピット53	第2面	36	-	37	ピット79	第3面	37	〈35〉	14
ピット10	第1面	44	44	14	ピット54	第2面	39	33	20	ピット80	第3面	26	-	27
ピット11	第1面	44	39	35	ピット55	第2面	39	-	29	ピット81	第3面	55	48	22
ピット12	第1面	48	44	45	ピット56	第2面	56	49	27	ピット82	第3面	38	27	30
ピット13	第1面	〈40〉	〈18〉	34	ピット57	第2面	54	〈44〉	23	ピット83	第3面	54	-	47
ピット14	第1面	45	42	17	ピット58	第2面	50	〈47〉	28	ピット84	第3面	37	28	7
ピット15	第1面	56	41	40	ピット59	第2面	42	〈36〉	40	ピット85	第3面	48	〈30〉	46
ピット16	第1面	46	39	17	ピット60	第2面	〈50〉	50	25	ピット86	第3面	〈46〉	46	31
ピット17	第1面	48	38	49	ピット61	第2面	53	〈36〉	16	ピット87	第3面	42	30	10
ピット18	第1面	41	37	21	ピット62	第2面	〈43〉	〈28〉	22	ピット88	第3面	43	34	15
ピット19	第1面	59	54	14	ピット64	第2面	59	〈38〉	52	ピット89	第3面	〈43〉	37	23
ピット20	第1面	58	55	37	ピット65	第2面	44	30	25	ピット90	第3面	33	-	23
ピット21	第1面	55	49	15	ピット66	第2面	40	34	28	ピット91	第3面	〈33〉	34	13
ピット22	第1面	41	35	30	ピット67	第2面	34	24	13	ピット92	第3面	40	-	28
ピット23	第1面	51	42	27	ピット68	第2面	〈30〉	27	23	ピット93	第3面	49	-	21
ピット24	第1面	37	-	33	ピット69	第2面	37	27	14	ピット94	第3面	59	53	39
ピット25	第1面	48	41	35	ピット70	第2面	〈26〉	〈24〉	16	ピット95	第3面	46	-	30
ピット26	第1面	55	48	53	井戸3	第3面	〈232〉	〈105〉	〈148〉	ピット96	第3面	〈59〉	〈32〉	10
ピット27	第1面	56	42	17	木組遺構1	第3面	〈165〉	84	〈88〉	ピット97	第3面	29	-	35
ピット28	第1面	46	43	45	土坑47	第3面	〈84〉	〈52〉	12	ピット98	第3面	37	〈30〉	32
ピット29	第1面	53	-	31	土坑48	第3面	〈111〉	〈111〉	26	ピット99	第3面	45	32	16
ピット30	第1面	37	30	5	土坑49	第3面	93	56	22	ピット100	第3面	38	〈19〉	28
ピット31	第1面	38	-	33	土坑50	第3面	342	121	101	ピット101	第3面	〈46〉	〈30〉	43
ピット32	第1面	59	-	27	土坑51	第3面	〈228〉	〈60〉	94	溝状遺構1	第4面	〈158〉	124	69
ピット33	第1面	48	46	30	土坑52	第3面	〈82〉	〈78〉	95	土坑85	第4面	〈120〉	〈115〉	46
ピット34	第1面	48	41	33	土坑53	第3面	〈260〉	〈130〉	50	土坑86	第5面	〈150〉	〈113〉	76
ピット35	第1面	43	41	31	土坑54	第3面	85	62	31	土坑87	第5面	88	71	54
ピット36	第1面	59	56	22	土坑55	第3面	〈121〉	76	44	土坑88	第5面	〈76〉	〈54〉	-
ピット37	第1面	39	〈24〉	10	土坑56	第3面	109	76	27					

※掘立柱建物の長軸・短軸は心々の計測値である。また、深さは柱穴掘り方の深さを記載している。

表8 出土遺物一覧表

第1面

掘立柱建物1			【青白磁】			瀬戸			折縁深皿		
産地	器種	破片数	梅瓶			常滑			堯		
【かわらけ】			瀬戸			瀬戸			【瓦質土器】		
	かわらけ ロク口成形	173	香炉			火鉢					
	かわらけ 手づくね成形	1	平碗			合計			23		
【白磁】			平皿								
	碗	1	瀧美								
	口元皿	1	堯								
【青磁】			常滑								
龍泉窯系	香炉	1	片口鉢Ⅱ類								
	碗Ⅰ類	1	片口鉢								
	碗Ⅱ類	3	【瓦質土器】								
	碗Ⅲ類	1	香炉								
【陶器】			平瓦								
瀬戸	袴腰香炉	1	【瓦】								
	入子	1	平瓦								
	卸皿	1	【金属製品】								
	縁袖小皿	1	銭貨								
瀧美	堯	2	釘								
	堯	22	鉄滓								
常滑	片口鉢Ⅰ類	10	合計			189					
	片口鉢Ⅱ類	4	土坑8								
備前	播鉢	1	産地			器種			破片数		
【土器】			【かわらけ】			【かわらけ】			ロク口成形		
	火鉢	1	かわらけ			ロク口成形			69		
【瓦質土器】			【白磁】			【陶器】					
	火鉢	6	皿			瀬戸			入子		
	皿?	1	瀬戸			瀧美			堯		
【瓦】			瀬戸			常滑			堯		
	平瓦	1	常滑			常滑			堯		
【石製品】			【金属製品】			常滑			片口鉢Ⅰ類		
	硯	1	釘			常滑			片口鉢Ⅱ類		
【金属製品】			合計			備前			播鉢		
	釘	6	80			備前			播鉢		
合計						合計			241		
土坑2			土坑9			土坑10			土坑11		
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【土器】			【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
	灯明台?	1	かわらけ			かわらけ			ロク口成形		
合計			5			ロク口成形			4		
			【陶器】			【陶器】			【青磁】		
中国	壺	1	中国			壺			1		
常滑	片口鉢Ⅱ類	1	常滑			片口鉢Ⅱ類			1		
山茶碗窯	片口鉢	1	山茶碗窯			片口鉢			1		
合計			8			合計			8		
土坑4			土坑10			土坑11			土坑12		
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
	かわらけ	ロク口成形	かわらけ			かわらけ			ロク口成形		
	口元皿	1	ロク口成形			手づくね成形			1		
【青磁】			【陶器】			【陶器】			【陶器】		
龍泉窯系	碗Ⅱ類	1	常滑			堯			2		
【陶器】			【金属製品】			【金属製品】			【金属製品】		
常滑	堯	4	銭貨			1			1		
【石製品】			合計			25			2		
	基石状	1	土坑11			土坑12			土坑13		
【金属製品】			産地			器種			破片数		
	釘	3	【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
合計			27			かわらけ			ロク口成形		
土坑6			土坑11			土坑12			土坑13		
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
	かわらけ	ロク口成形	かわらけ			手づくね成形			1		
【白磁】			【陶器】			【陶器】			【陶器】		
	口元皿	1	常滑			堯			2		
【陶器】			【金属製品】			【金属製品】			【金属製品】		
常滑	堯	2	銭貨			1			1		
合計			30			碗形滓			2		
土坑7			土坑12			土坑13			土坑14		
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
	かわらけ	ロク口成形	かわらけ			ロク口成形			15		
	かわらけ	手づくね成形	【陶器】			【陶器】			【土器】		
		1	中国			壺			1		
合計			1			合計			30		
			土坑13			土坑14			土坑15		
			産地			器種			破片数		
			【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
			かわらけ			ロク口成形			18		
			【陶器】			【陶器】			【陶器】		
常滑	堯	6	常滑			堯			4		
山茶碗窯	片口鉢	1	山茶碗窯			片口鉢			1		
【土器】			【金属製品】			【金属製品】			【金属製品】		
	羽釜	2	銭貨			1			1		
合計			27			合計			26		
			土坑14			土坑15			土坑16		
			産地			器種			破片数		
			【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
			かわらけ			ロク口成形			4		
			【陶器】			【陶器】			【陶器】		
常滑	堯	4	常滑			堯			2		
【金属製品】			【金属製品】			【金属製品】			【金属製品】		
	碗形滓	1	東播			鉢			1		
合計			9			合計			5		
			土坑15			土坑16			土坑17		
			産地			器種			破片数		
			【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
			かわらけ			ロク口成形			102		
			【陶器】			【陶器】			【陶器】		
常滑	堯	2	常滑			堯			2		
【金属製品】			【金属製品】			【金属製品】			【金属製品】		
	釘	5	東播			鉢			1		
合計			110			合計			110		
			土坑16			土坑17			土坑18		
			産地			器種			破片数		
			【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
			かわらけ			ロク口成形			36		
			【陶器】			【陶器】			【陶器】		
常滑	堯	4	常滑			堯			4		
山茶碗窯	片口鉢	1	山茶碗窯			片口鉢			1		
【石製品】			【石製品】			【石製品】			【石製品】		
	基石状	1	常滑			堯			4		
【金属製品】			【金属製品】			【金属製品】			【金属製品】		
	釘	1	合計			43			43		
合計			43			土坑18			土坑19		
			産地			器種			破片数		
			【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
			かわらけ			ロク口成形			4		
			【青磁】			【青磁】			【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ類	1	龍泉窯系			碗Ⅱ類			1		
【陶器】			【陶器】			【陶器】			【陶器】		
瀧美	堯	1	瀧美			堯			1		
常滑	堯	5	常滑			堯			5		
山茶碗窯	片口鉢	1	山茶碗窯			片口鉢			1		
合計			12			合計			12		
			土坑19			土坑20			土坑21		
			産地			器種			破片数		
			【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
			かわらけ			ロク口成形			20		
			【陶器】			【陶器】			【陶器】		
常滑	堯	4	常滑			堯			4		
山茶碗窯	片口鉢	1	山茶碗窯			片口鉢			1		
【金属製品】			【金属製品】			【金属製品】			【金属製品】		
	銭貨	1	合計			26			26		
土坑21			土坑22			土坑23			土坑24		
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】		
かわらけ			ロク口成形			18			【陶器】		
【陶器】			【陶器】			【陶器】			【陶器】		
常滑	堯	6	常滑			堯			6		
山茶碗窯	片口鉢	1	山茶碗窯			片口鉢			1		
【土器】			【土器】			【土器】			【土器】		
	羽釜	2	合計			27			27		

土坑23		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	11
【陶器】		
常滑	甕	3
	片口鉢Ⅰ類	1
		合計 15

土坑24		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	5
山茶碗窯	片口鉢	1
【金属製品】		
	釘	1
	碗形滓	1
		合計 13

土坑25		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ類	1
【陶器】		
渥美	甕	1
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
		合計 7

土坑26		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
【白磁】		
	器種不明	1
【陶器】		
渥美	甕	2
【金属製品】		
	釘	1
		合計 8

土坑27		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	3
【青磁】		
龍泉窯系	壺蓋?	1
【青白磁】		
	合子蓋	1
【陶器】		
渥美	甕	1
常滑	甕	5
	片口鉢Ⅰ類	1
山茶碗窯	片口鉢	2
【金属製品】		
	刀子	1
	釘	1
		合計 16

ピット2		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ピット3		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
		合計 2

ピット4		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
【陶器】		
瀬戸	緑釉小皿	1
常滑	甕	1
山茶碗窯	片口鉢	1
		合計 4

ピット5		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	1
		合計 2

ピット6		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	7
【陶器】		
常滑	甕	1
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	釘	1
		合計 10

ピット7		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	10
【陶器】		
常滑	甕	1
		合計 11

ピット8		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	6
		合計 6

ピット9		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
		合計 2

ピット10		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
		合計 7

ピット14		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ピット15		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	8
【陶器】		
中国	緑釉盤	1
瀬戸	瓶子	1
常滑	甕	1
		合計 11

ピット16		
-------	--	--

産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	3
		合計 4

ピット17		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
【陶器】		
山茶碗窯	鉢	1
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
		合計 7

ピット19		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	12
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ類	1
【陶器】		
常滑	甕	2
	片口鉢Ⅱ類	1
		合計 16

ピット20		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
【陶器】		
瀬戸	器種不明	1
渥美	甕	1
常滑	甕	1
		合計 8

ピット21		
産地	器種	破片数
【陶器】		
渥美	甕	1
常滑	甕	1
		合計 2

ピット22		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
		合計 1

ピット23		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	甕	2
		合計 6

ピット25		
産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	3
		合計 3

ピット26		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	16
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅱ類	1
【金属製品】		
	釘	1
		合計 19

ビット27		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
【瓦質土器】		
	火鉢	1
		合計 3

ビット28		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅱ類	2
		合計 9

ビット30		
産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
		合計 1

ビット32		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
【青磁】		
龍泉窯系	小椀Ⅰ類	1
【陶器】		
瀬戸	末広碗	1
常滑	片口鉢Ⅱ類	1
【瓦質土器】		
	火鉢	1
		合計 5

ビット34		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
		合計 3

ビット35		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
【金属製品】		
	銭貨	1
		合計 2

ビット36		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
【陶器】		
渥美	甕	1
		合計 2

ビット37		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
【土器】		
	南伊勢系鍋	1
【金属製品】		
	鉄滓	1
		合計 5

ビット38		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4

【瓦質土器】		
産地	器種	破片数
	火鉢	1
		合計 5

ビット39		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
		合計 2

ビット40		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
【青磁】		
龍泉窯系	坏Ⅲ類	1
		合計 3

ビット41		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	6
【陶器】		
常滑	甕	3
山茶碗窯	片口鉢	1
【瓦質土器】		
	火鉢	1
		合計 11

ビット43		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
		合計 2

ビット44		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	3
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅲ類	1
		合計 4

ビット45		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
【白磁】		
	壺	1
【陶器】		
渥美	甕	1
常滑	壺	2
【金属製品】		
	釘	1
		合計 6

第1面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	257
【白磁】		
	碗Ⅸ類	1
	口元皿	5
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ類	4
	碗小破片	1
	坏	2
【青白磁】		
	梅瓶	1
	壺	1
	合子	1
	香炉	1
【陶器】		
中国	壺	1
瀬戸	瓶子	3
	末広碗	1

瀬戸	折縁深皿	3
	卸皿	1
渥美	甕	11
渥美・湖西型	山茶碗	79
	甕	135
常滑	片口鉢Ⅱ類	19
	片口鉢	6
山茶碗窯	片口鉢	6
東播	鉢	4
【土器】		
	基石状	1
	南伊勢系鍋	1
【瓦質土器】		
	火鉢	4
【瓦】		
	平瓦	2
【石製品】		
	砥石	2
	硯	1
	用途不明	4
【金属製品】		
	銭貨	1
	釘	1
	碗形滓	3
		合計 557

第2面		
井戸1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	102
	かわらけ 手づくね成形	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ類	1
	碗Ⅲ類	2
	花瓶	1
【青白磁】		
	梅瓶	2
【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
常滑	甕	43
山茶碗窯	片口鉢	1
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	釘	1
	鉄滓	1
		合計 157

井戸2		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	22
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ類	1
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
常滑	甕	2
【土器】		
	土錘	1
【瓦】		
	平瓦	1
		合計 29

土坑28		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	10
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅰ類	1
		合計 11

土坑29		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	12

【陶器】			かわらけ ロクロ成形	2	山茶碗窯	片口鉢	1	
常滑	甍	5	合計		合計		19	
	片口鉢Ⅱ類	3						
【土器】			土坑42		ピット51			
	鍋	1	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
合計		21	【かわらけ】		【かわらけ】			
			かわらけ ロクロ成形		かわらけ ロクロ成形			
			3		7			
土坑30			【陶器】		【金属製品】			
産地	器種	破片数	常滑	甍	1			
【かわらけ】			山茶碗窯	片口鉢	1			
かわらけ ロクロ成形		121	合計		合計			
			5		8			
【陶器】			土坑43		ピット52			
常滑	片口鉢Ⅱ類	1	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【石製品】			【かわらけ】		【かわらけ】			
滑石製石鍋			かわらけ ロクロ成形		かわらけ ロクロ成形			
合計		123	3		6			
			合計		合計			
			3		7			
土坑33			土坑44		ピット53			
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】		【かわらけ】			
かわらけ ロクロ成形		16	かわらけ ロクロ成形		かわらけ ロクロ成形			
			5		6			
合計		18	合計		合計			
			5		6			
土坑34			土坑45		ピット54			
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】		【かわらけ】			
かわらけ ロクロ成形		19	かわらけ ロクロ成形		かわらけ ロクロ成形			
かわらけ 手づくね成形		2	かわらけ 手づくね成形		かわらけ ロクロ成形			
			9		3			
合計		26	合計		合計			
			13		3			
土坑35			龍泉窯系 椀Ⅱ類		ピット56			
産地	器種	破片数	【陶器】		産地			
【かわらけ】			瀬戸 卸皿		器種			
かわらけ ロクロ成形		23	山茶碗窯 片口鉢		破片数			
			合計		【かわらけ】			
合計		25			かわらけ ロクロ成形			
					3			
土坑36			土坑46		【陶器】			
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	常滑	甍	1
【かわらけ】			【かわらけ】		【金属製品】			
かわらけ ロクロ成形		45	かわらけ ロクロ成形		釘			
			9		1			
合計		51	合計		合計			
			15		5			
土坑37			ピット47		ピット57			
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】		【かわらけ】			
かわらけ ロクロ成形		34	かわらけ ロクロ成形		かわらけ ロクロ成形			
			9		4			
合計		35	合計		合計			
			21		1			
土坑38			ピット48		ピット59			
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】		【かわらけ】			
かわらけ ロクロ成形		30	かわらけ ロクロ成形		かわらけ ロクロ成形			
かわらけ 手づくね成形		1	かわらけ 手づくね成形		かわらけ 手づくね成形			
			39		10			
合計		32	合計		合計			
			40		2			
土坑39			ピット49		ピット60			
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】		【陶器】			
かわらけ ロクロ成形		30	かわらけ ロクロ成形		常滑 甍			
かわらけ 手づくね成形		1	かわらけ 手づくね成形		山茶碗窯 片口鉢			
			39		1			
合計		32	合計		合計			
			16		2			
土坑40			ピット50		ピット61			
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】		【かわらけ】			
かわらけ ロクロ成形		30	かわらけ ロクロ成形		かわらけ ロクロ成形			
かわらけ 手づくね成形		1	かわらけ 手づくね成形		かわらけ 手づくね成形			
			39		7			
合計		32	合計		合計			
			40		1			
土坑41			ピット51		ピット62			
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数
【かわらけ】			【かわらけ】		【かわらけ】			
かわらけ ロクロ成形		30	かわらけ ロクロ成形		かわらけ ロクロ成形			
かわらけ 手づくね成形		1	かわらけ 手づくね成形		かわらけ 手づくね成形			
			39		7			
合計		32	合計		合計			
			40		8			

【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	35
【陶器】		
常滑	甕	1
		合計 36
ビット64		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	66
【陶器】		
瀬戸	卸皿	1
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅱ類	1
		合計 69
ビット65		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	3
		合計 3
ビット66		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	6
		合計 6
第2面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	1,252
かわらけ	手づくね成形	3
【白磁】		
	壺	4
	碗	1
	口元皿	4
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類	1
	椀Ⅱ類	23
	椀Ⅲ類	1
	小椀Ⅱ類	1
	坏	2
	香炉	1
	皿Ⅱ類	1
	折縁鉢	1
	盤	1
【青白磁】		
	梅瓶	4
	香炉	2
	合子	1
	碗	1
【陶器】		
中国	緑釉盤	2
	壺	5
瀬戸	瓶子	5
	平碗	5
	折縁深皿	4
	卸皿	1
	皿	3
渥美	甕	34
常滑	甕	310
	片口鉢Ⅰ類	12
	片口鉢Ⅱ類	26
山茶碗窯	片口鉢	19
山茶碗		3
備前	搦鉢	1
【土器】		
	鍋	4
【瓦質土器】		
	火鉢	30
	皿状	3
【瓦】		
	丸瓦	2
	平瓦	4
【石製品】		
	滑石製石鍋	3
	砥石	3
	硯	4
	碁石状	1
	火打石	2
【金属製品】		
	銭貨	2
	刀子	1
	釘	35
	碗形滓	1
	鉄滓	1
【土師器】		
	坏	1
	台付甕	1
	甕	1
【須恵器】		
	坏H蓋	1
		合計 1,834
第3面		
井戸3		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	12
かわらけ	手づくね成形	1
【白磁】		
	口元皿	1
【陶器】		
中国	緑釉盤	1
常滑	甕	3
		合計 18
木組遺構1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	12
かわらけ	手づくね成形	2
【陶器】		
常滑	甕	2
山茶碗窯	片口鉢	1
		合計 17
土坑47		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	28
		合計 28
土坑49		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	103
【陶器】		
中国	緑釉盤	1
常滑	甕	2
	片口碗	1
山茶碗窯	片口鉢	1
		合計 108
土坑50		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	19
かわらけ	手づくね成形	2
【陶器】		
渥美	甕	1
常滑	甕	3
【木製品】		
	用途不明	8
		合計 33
土坑51		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	35
かわらけ	手づくね成形	1
【白磁】		
	壺	1
【青磁】		
龍泉窯系	瓶類	1
【青白磁】		
	合子身	1
【陶器】		
中国	褐釉陶器	1
瀬戸	卸皿	1
常滑	甕	26
山茶碗窯	片口鉢	3
山茶碗		1
山皿		1
東播	鉢	2
【土器】		
	鍋	1
	羽口	1
【石製品】		
	砥石	1
【金属製品】		
	釘	4
	鉄滓	1
		合計 82
土坑52		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	3
かわらけ	手づくね成形	1
【陶器】		
山茶碗窯	片口鉢	1
		合計 5
土坑53		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	64
【白磁】		
	口元皿	1
【青白磁】		
	小壺	1
	合子蓋	1
【陶器】		
常滑	甕	12
山茶碗窯	片口鉢	2
【土器】		
	S字状口縁甕	1
	高坏	1
【金属製品】		
	釘	1
		合計 84
土坑54		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	12
【白磁】		
	口元皿	1
【青白磁】		
	小壺	1
		合計 14
土坑55		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	15
【青磁】		
龍泉窯系	皿Ⅱ類	1
【陶器】		
渥美	甕	1
常滑	甕	1
【金属製品】		
	釘	1
		合計 19
土坑56		
産地	器種	破片数

【かわらけ】			土坑63			産地	器種	破片数					
	かわらけ	ロクロ成形	7	産地	器種								
【陶器】				【かわらけ】									
常滑	片口鉢Ⅱ類		1		かわらけ	ロクロ成形		11					
合計			8	【陶器】									
				常滑	片口鉢Ⅱ類		1	2					
				合計			5	合計	14				
土坑57			土坑64			土坑72							
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数					
【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】							
	かわらけ	ロクロ成形	1		かわらけ	ロクロ成形		8					
	かわらけ	手づくね成形	1	【青磁】									
合計			2	龍泉窯系	椀Ⅱ類		1	常滑	甕	2			
土坑58			【陶器】			合計			10				
産地	器種	破片数	渥美	甕		2							
【かわらけ】			常滑	甕		2							
	かわらけ	ロクロ成形	7	【石製品】									
	かわらけ	手づくね成形	2		滑石製石鍋		1						
【陶器】			【金属製品】										
渥美	甕		1		釘		1						
合計			10	合計			9						
土坑59			土坑66			土坑73							
産地	器種	破片数	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数					
【かわらけ】			【かわらけ】			【かわらけ】							
	かわらけ	ロクロ成形	6		かわらけ	ロクロ成形		12					
合計			6	【陶器】									
土坑60			瀬戸	瓶子		1							
産地	器種	破片数		折縁大皿		1							
【かわらけ】				卸皿		1							
	かわらけ	ロクロ成形	3	山茶碗窯	片口鉢		1						
合計			3	東播	鉢		1						
土坑61			【土器】			土坑76							
産地	器種	破片数		南伊勢系鍋		1	産地	器種	破片数				
【かわらけ】				【瓦】			【かわらけ】						
	かわらけ	ロクロ成形	35		平瓦		1		かわらけ	ロクロ成形	1		
	かわらけ	手づくね成形	1	【石製品】					【陶器】				
【白磁】					硯		1	常滑	甕		2		
	壺		1	【金属製品】					合計			3	
【青白磁】					釘		1						
	合子身		1	合計			28						
【陶器】			土坑67			土坑77							
中国	壺		1	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数				
瀬戸	卸皿		1	【かわらけ】			【かわらけ】						
常滑	甕		26		かわらけ	ロクロ成形		12		かわらけ	ロクロ成形	4	
山茶碗窯	片口鉢		3	【土器】					【青磁】				
山茶碗			3		甕		1	同安窯系			皿	1	
山皿			1	【金属製品】					【陶器】				
東播	鉢		2		釘		1	常滑	甕		2		
【土器】				合計			13	合計			7		
	南伊勢系鍋		1	土坑69			土坑78						
	羽口		1	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数				
【金属製品】				【かわらけ】			【石製品】						
	釘		4		かわらけ	ロクロ成形		12		砥石		1	
合計			81	【陶器】					合計			1	
土坑62			渥美	甕		4							
産地	器種	破片数	常滑	甕		13							
【かわらけ】			山茶碗窯	片口鉢		1							
	かわらけ	ロクロ成形	21	備前	搦鉢		1						
	かわらけ	手づくね成形	1	【金属製品】									
【白磁】					釘		1						
	合子身		1	合計			69						
【陶器】			土坑70			土坑79							
瀬戸	平碗		1	産地	器種	破片数	産地	器種	破片数				
	卸皿		1	【かわらけ】			【かわらけ】						
常滑	甕		2		かわらけ	ロクロ成形		5		かわらけ	ロクロ成形	11	
	片口鉢Ⅱ類		1	【陶器】					【陶器】				
山茶碗			1	常滑	甕		3	中国			甕	1	
【金属製品】				合計			8	常滑			甕	6	
	釘		2	土坑71			土坑79						
合計			31	土坑71			土坑79						
				産地	器種	破片数	産地	器種	破片数				
					かわらけ	ロクロ成形		37	【陶器】				
				【陶器】					渥美			甕	2
				【金属製品】					【土器】				
					釘		1	南伊勢系鍋				1	
				合計			41	【金属製品】					
					釘		1						
				合計			41						

土坑82		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	19
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	2
【陶器】		
瀬戸	瓶子	1
常滑	甕	3
		合計 25

土坑84		
産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	3
		合計 3

ビット72		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	3
【陶器】		
渥美	甕	3
		合計 6

ビット79		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
【金属製品】		
	刀子	1
		合計 6

ビット83		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	60
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅱ類	1
	折縁皿	1
【陶器】		
常滑	甕	1
	鷹口壺	1
		合計 64

ビット86		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	9
		合計 9

ビット88		
産地	器種	破片数
【陶器】		
常滑	甕	1
備前	播鉢	1
		合計 2

ビット90		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
		合計 1

ビット92		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	2
【陶器】		
常滑	甕	1
		合計 3

ビット93		
産地	器種	破片数

【かわらけ】		
産地	器種	破片数
	かわらけ ロクロ成形	3
【陶器】		
渥美	甕	1
常滑	甕	2
【土器】		
	南伊勢系鍋	1
		合計 7

ビット94		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	9
		合計 9

ビット96		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	1
【陶器】		
常滑	甕	2
		合計 3

ビット97		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	5
【陶器】		
常滑	甕	1
		合計 6

ビット98		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
		合計 4

ビット99		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	10
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
常滑	甕	1
		合計 12

ビット101		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	4
【陶器】		
瀬戸	器種不明	1
		合計 5

第3面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	642
	かわらけ 手づくね成形	6
【白磁】		
	壺	1
	椀Ⅸ類	2
	口元皿	5

【青磁】		
産地	器種	破片数
龍泉窯系	椀Ⅰ類	6
	椀Ⅱ類	12
	椀Ⅲ類	2
	花瓶	2
【青白磁】		
	梅瓶	6
	水注	1
	合子身	1
【陶器】		

中国	緑釉盤	1
	壺	3
瀬戸	瓶子	3
	平碗	1
	折縁深皿	2
	蓋?	1
渥美	甕	29
常滑	甕	227
	短頸壺	1
	片口鉢Ⅰ類	5
	片口鉢Ⅱ類	18
山茶碗窯	片口鉢	20
備前	播鉢	2
【土器】		
	羽釜	1
【瓦質土器】		
	火鉢	5
【石製品】		
	滑石製石鍋	1
	砥石	2
	硯	1
【金属製品】		
	銭貨	2
	釘	11
	碗形滓	3
【土師器】		
	甕	2
【須恵器】		
	甕	2
		合計 1,029

第4面

土坑85		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	21
		合計 21

第4面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	31
	かわらけ 手づくね成形	2
【青磁】		
龍泉窯系	椀Ⅰ類?	1
【陶器】		
瀬戸	緑釉皿	1
	折縁深皿	1
常滑	甕	3
	片口鉢Ⅰ類	1
	片口鉢Ⅱ類	3
		合計 43

第5面

第5面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	16
【土器】		
	S字状口縁甕	1
		合計 17



1. 北壁西側土層断面(南西から)



2. 北壁東側土層断面(南西から)



1. 調査区西側第1面全景(南東から)



2. 調査区東側第1面全景(南東から)



1. 調査区西側第2面全景(北西から)



2. 第2面 井戸2(南から)

図版 4



1. 調査区西側第3面全景(北西から)



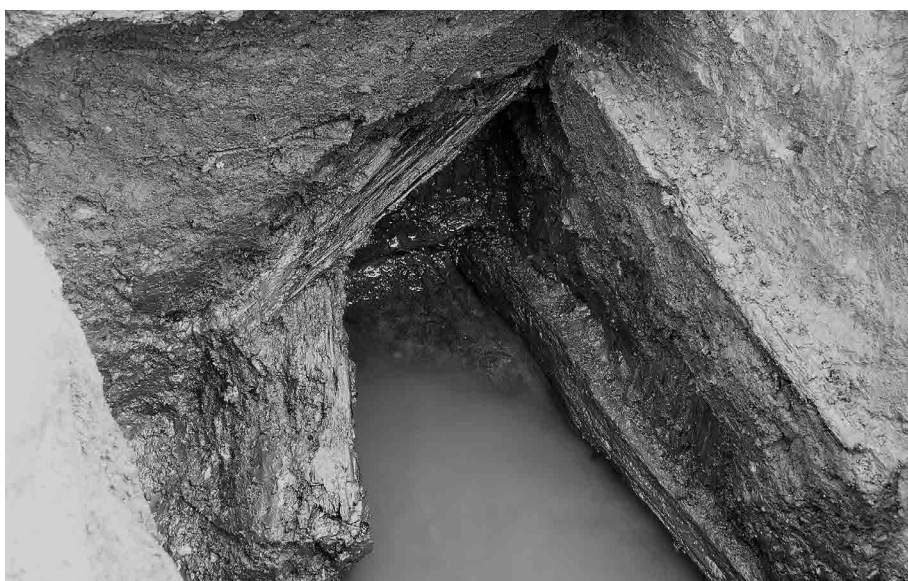
2. 調査区東側第3面全景(北西から)



1. 第3面 井戸3 井戸枠検出状況(南西から)



2. 第3面 木組遺構1(西から)



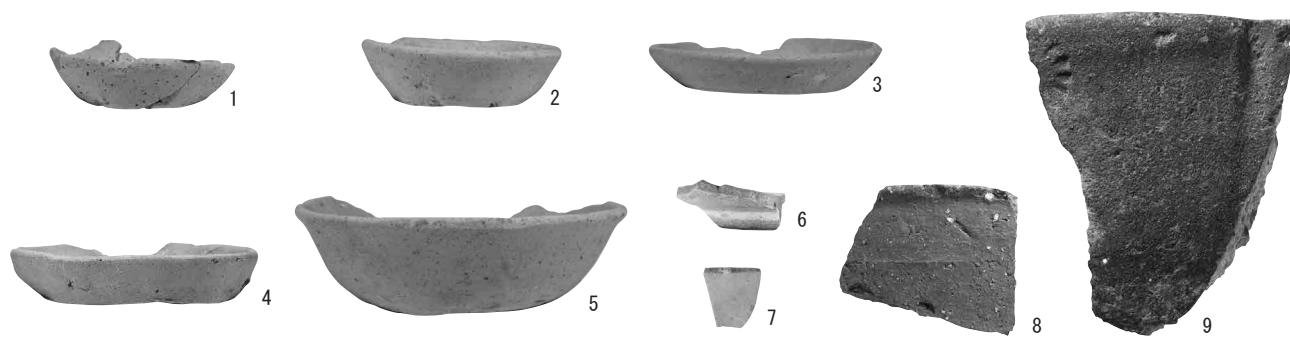
3. 第3面 木組遺構1 南隅構築材検出状況(北西から)



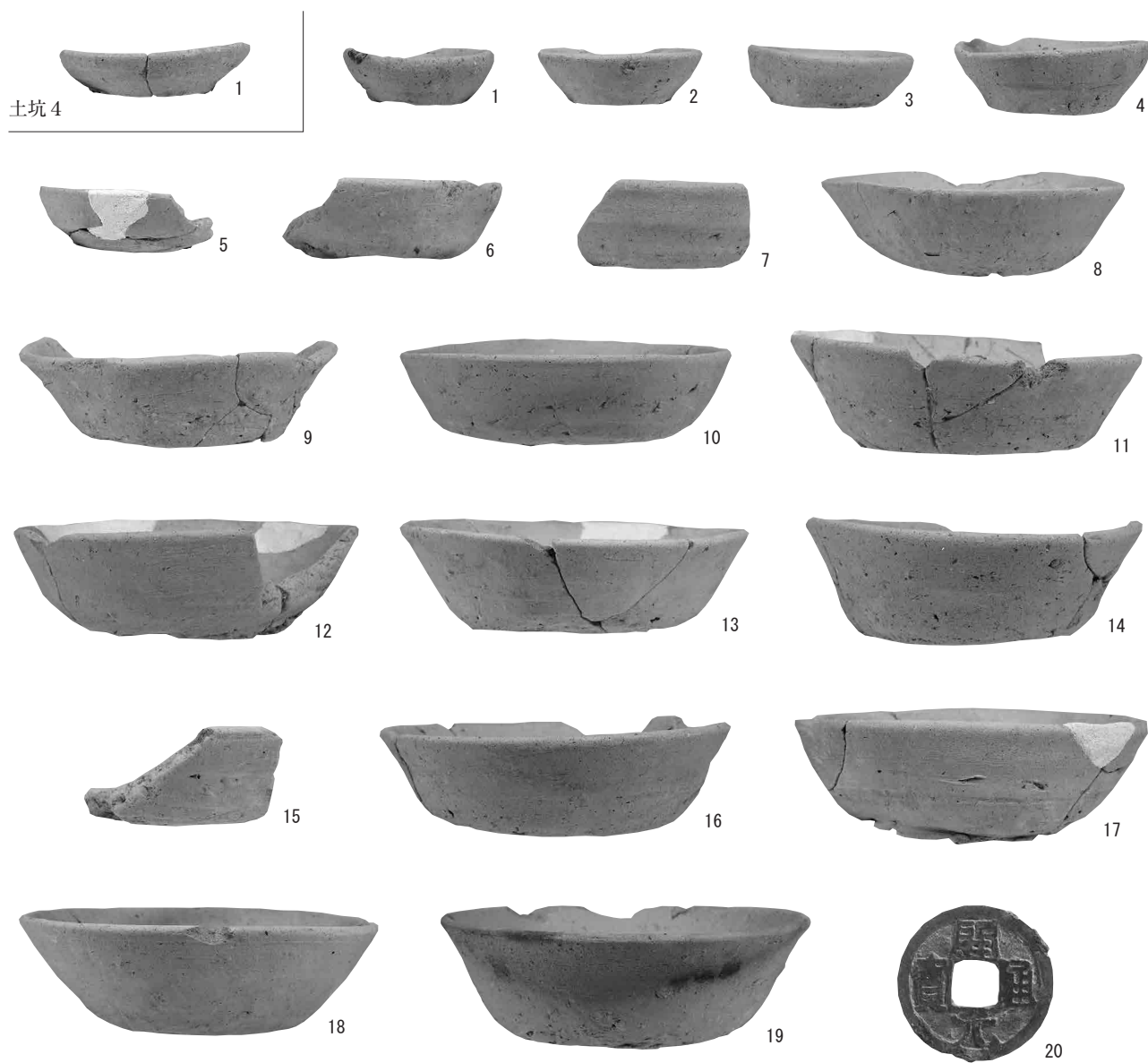
1. 調査区北側第4・5面全景(南東から)



2. 第5面 土坑87・88全景(北西から)



1. 第1面 掘立柱建物1出土遺物



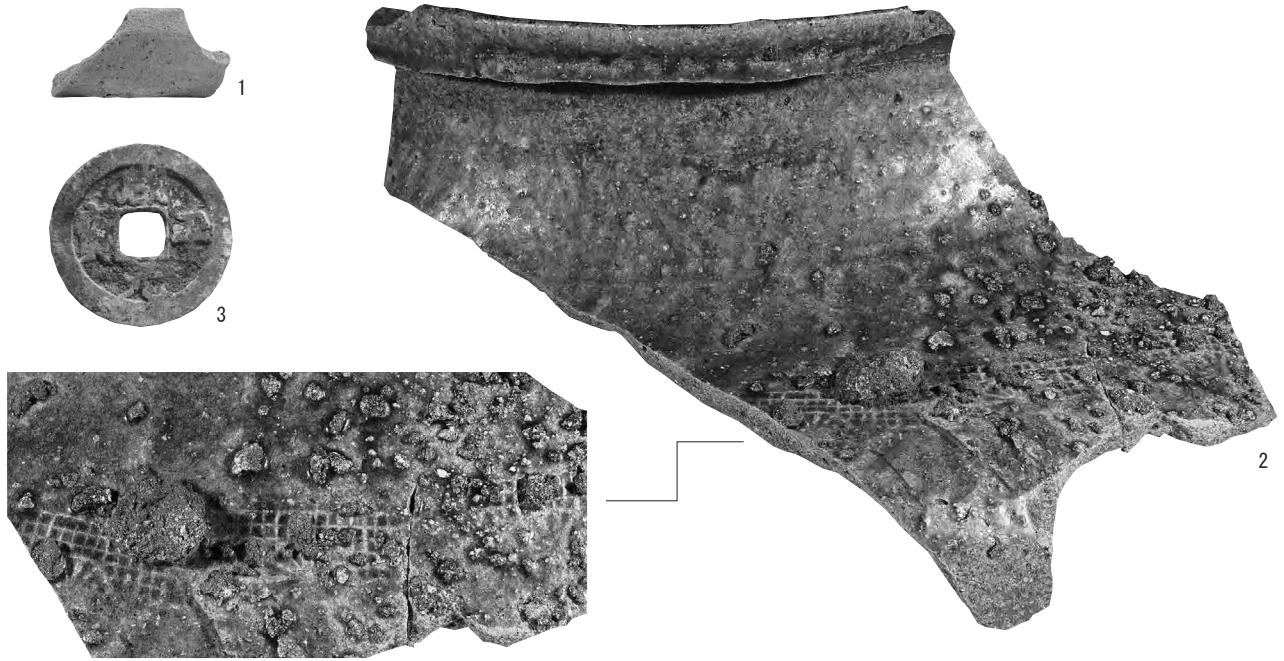
土坑4



土坑7

2. 第1面 土坑出土遺物(1)

図版 8



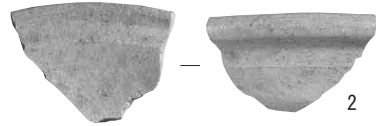
土坑10



土坑11



土坑12



土坑21



土坑23



土坑24

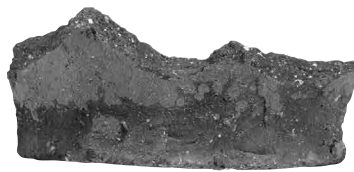


土坑25

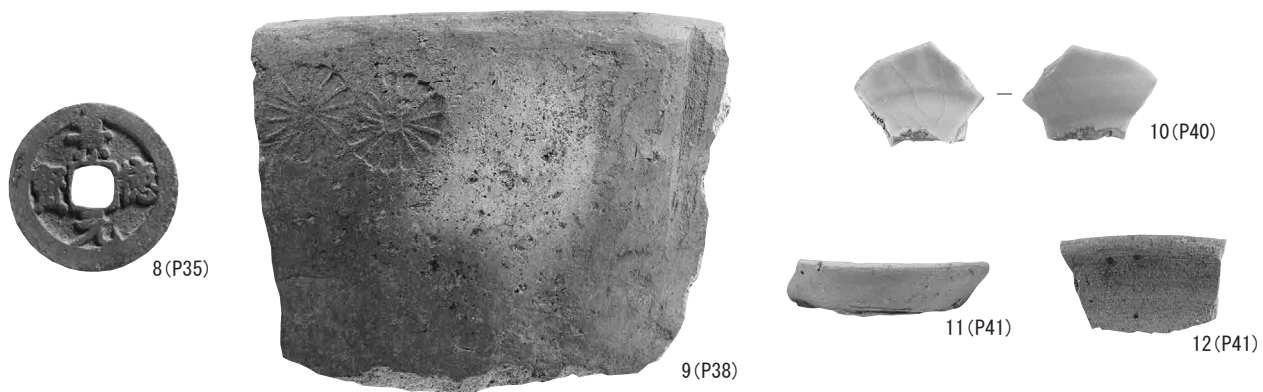


土坑27

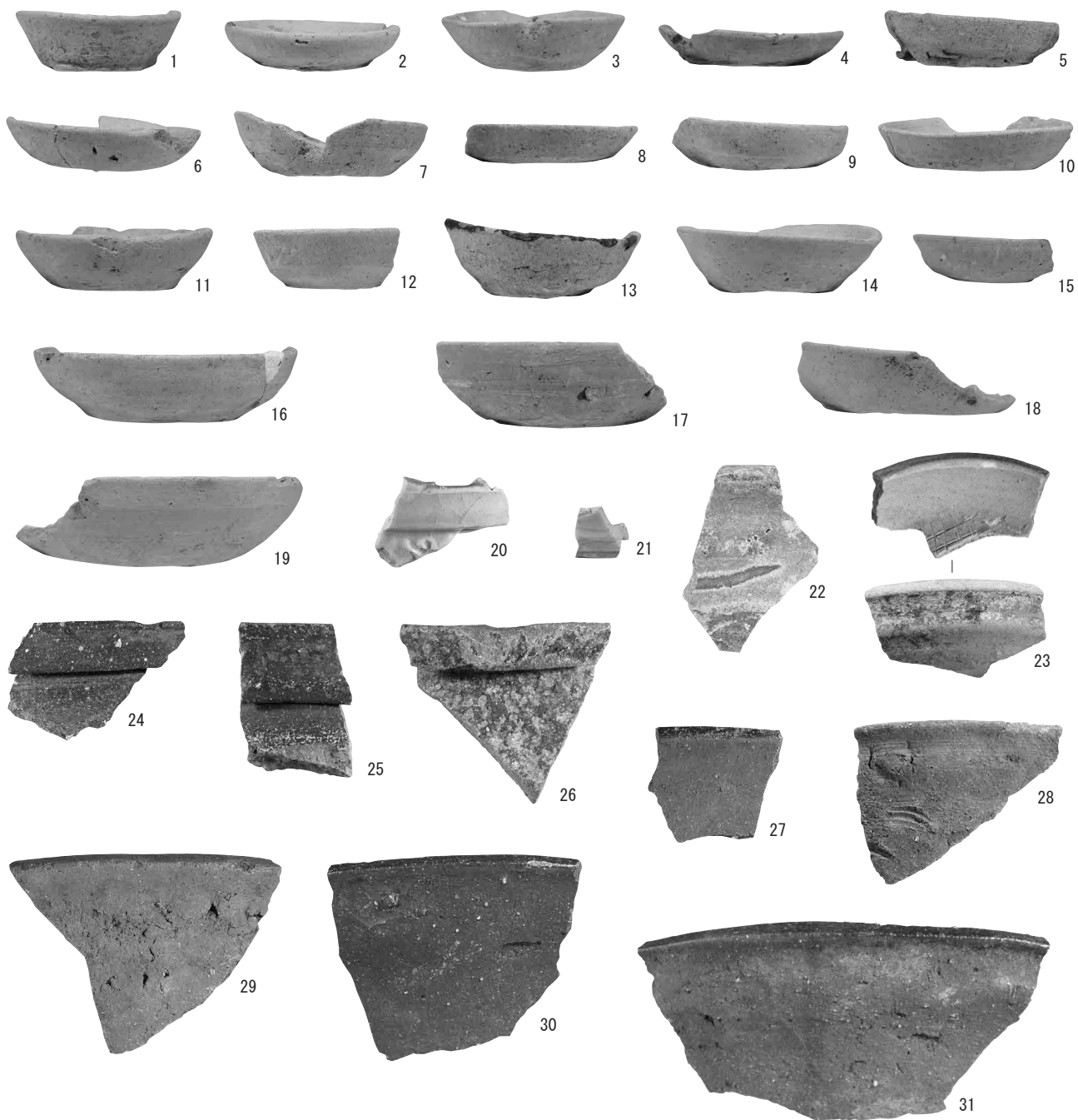
1. 第1面 土坑出土遺物(2)



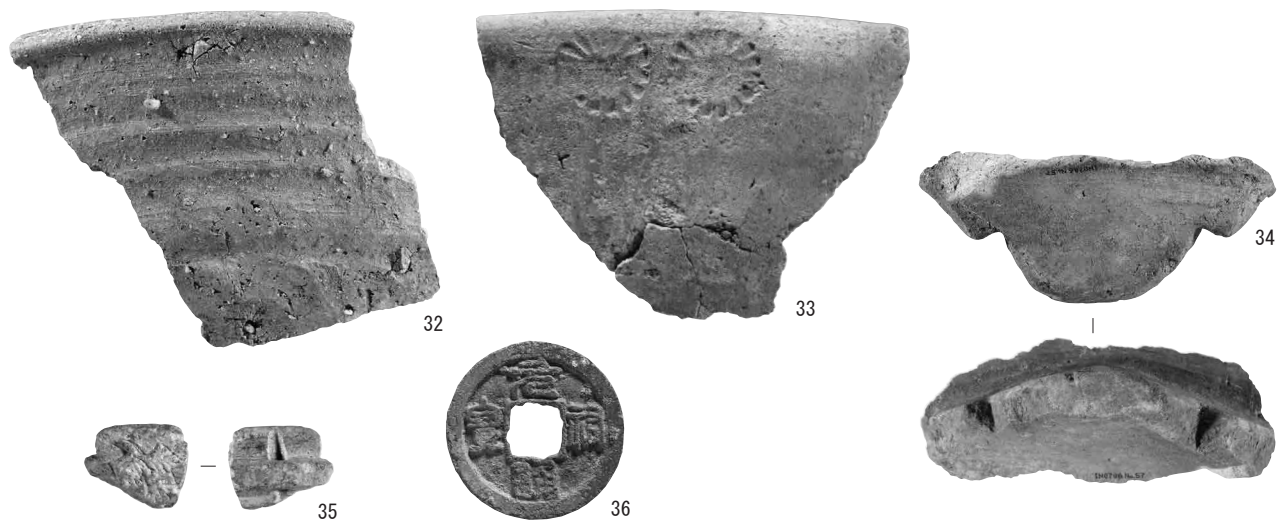
2. 第1面 ピット出土遺物(1)



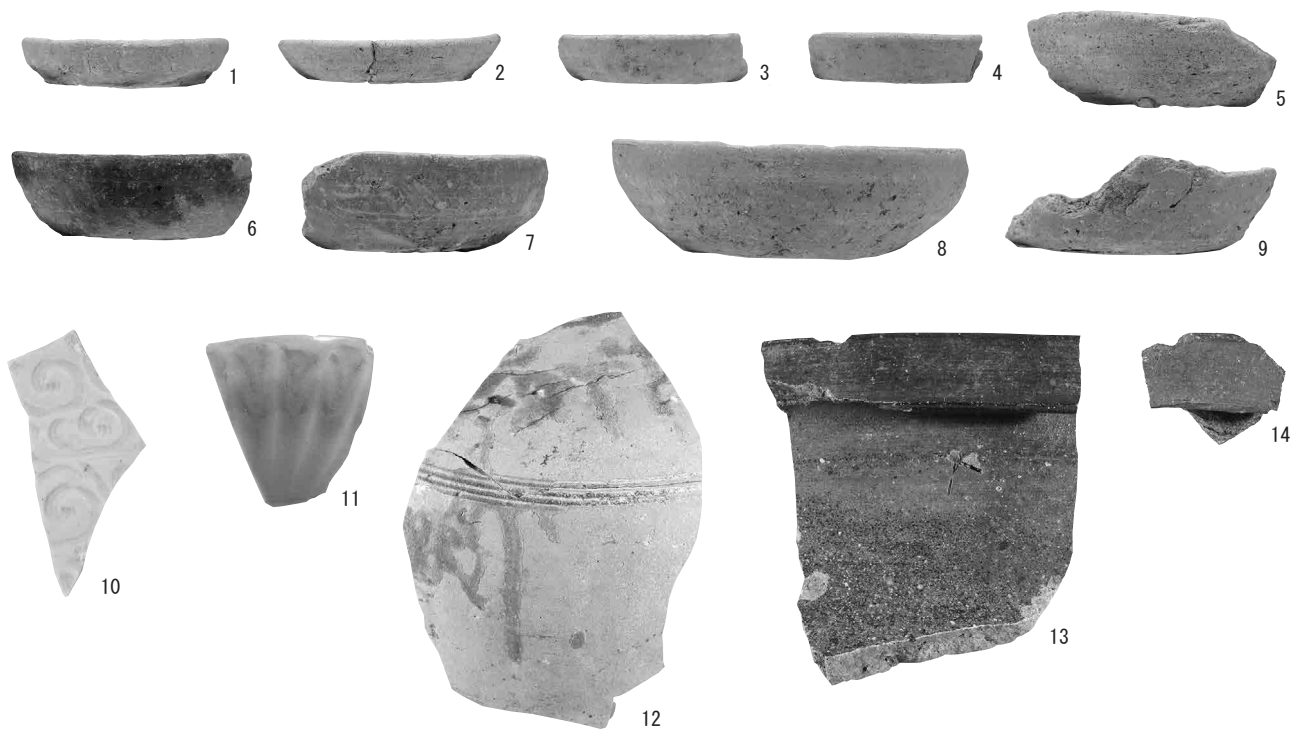
1. 第1面ピット出土遺物(2)



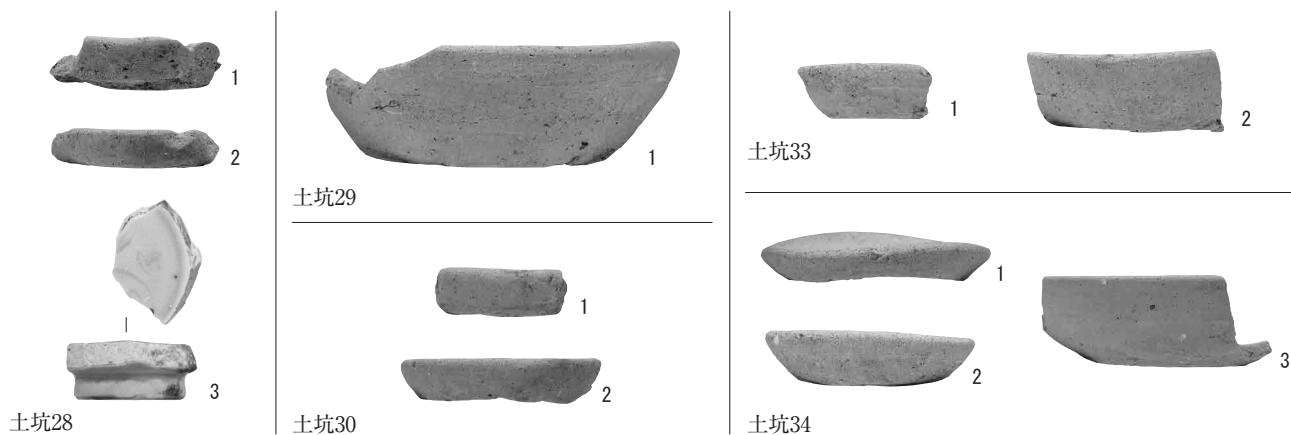
2. 第1面遺構外出土遺物(1)



1. 第1面 遺構外出土遺物(2)



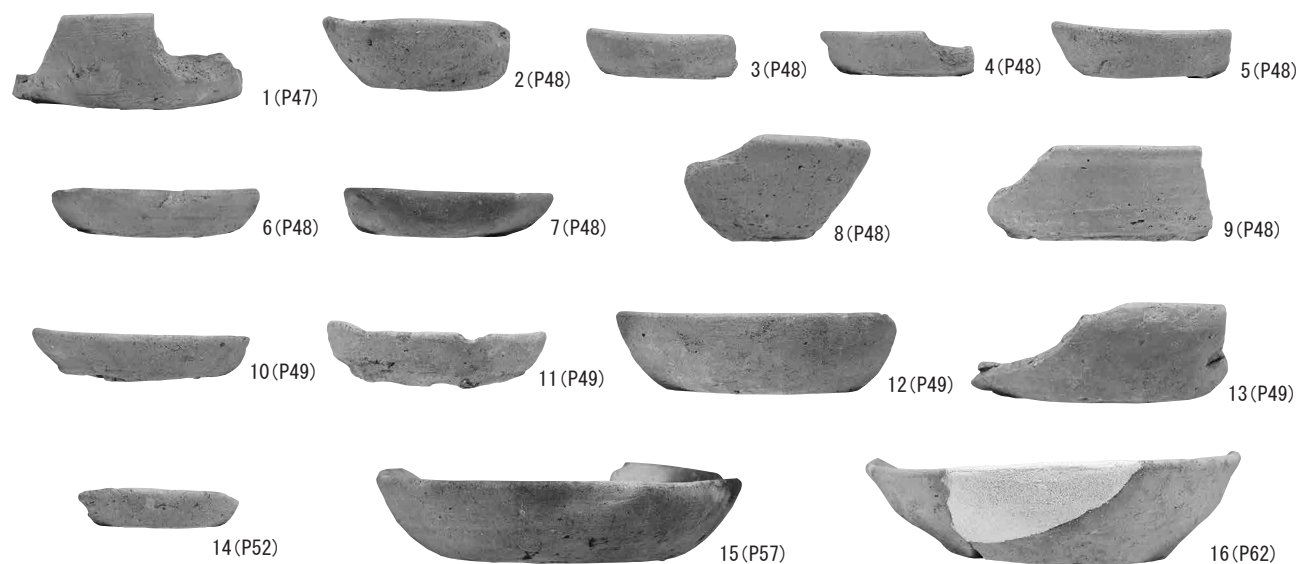
2. 第2面 井戸1出土遺物



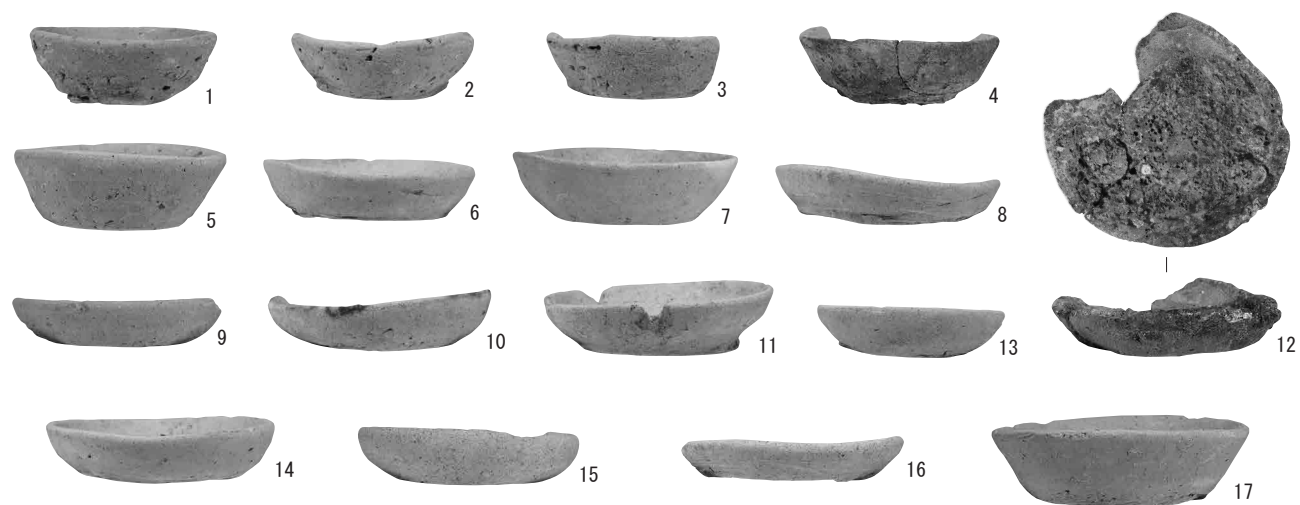
3. 第2面 土坑出土遺物(1)



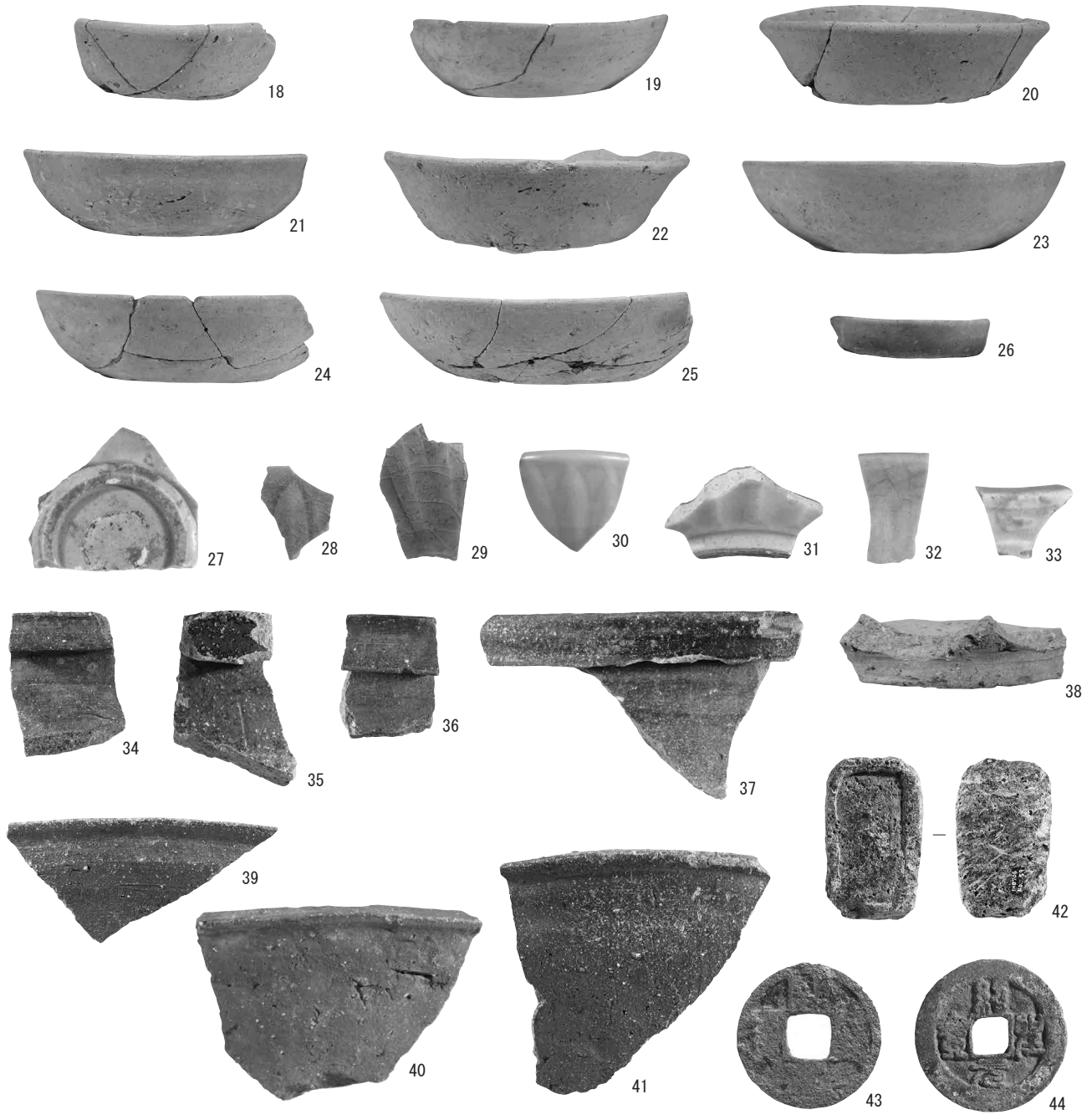
1. 第2面 土坑出土遺物(2)



2. 第2面 ピット出土遺物



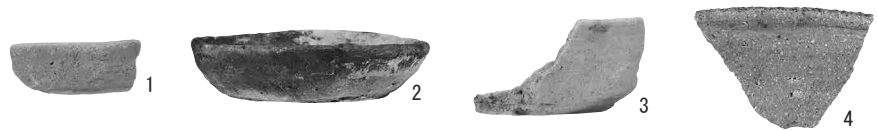
3. 第2面 遺構外出土遺物(1)



1. 第2面 遺構外出土遺物(2)



2. 第3面 井戸3出土遺物



3. 第3面 木組遺構1出土遺物



土坑49

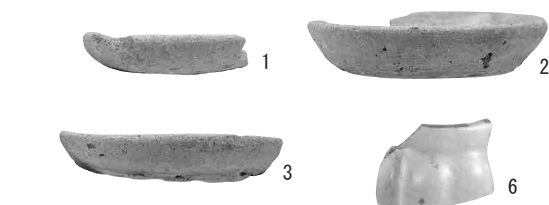
4. 第3面 土坑出土遺物(1)



土坑51



土坑53



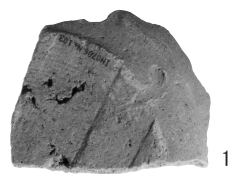
土坑54



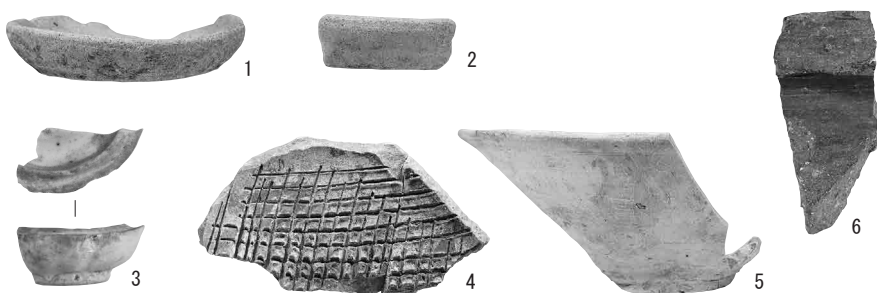
土坑58



土坑60



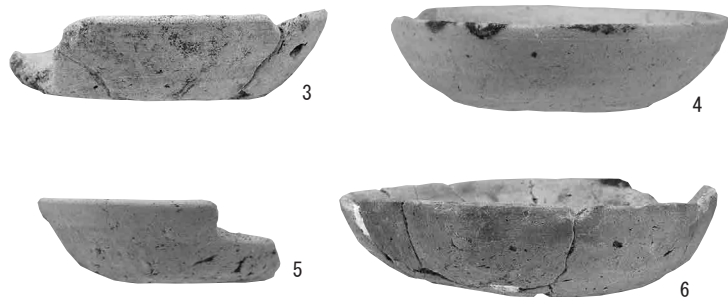
土坑61



土坑62



土坑63



土坑67

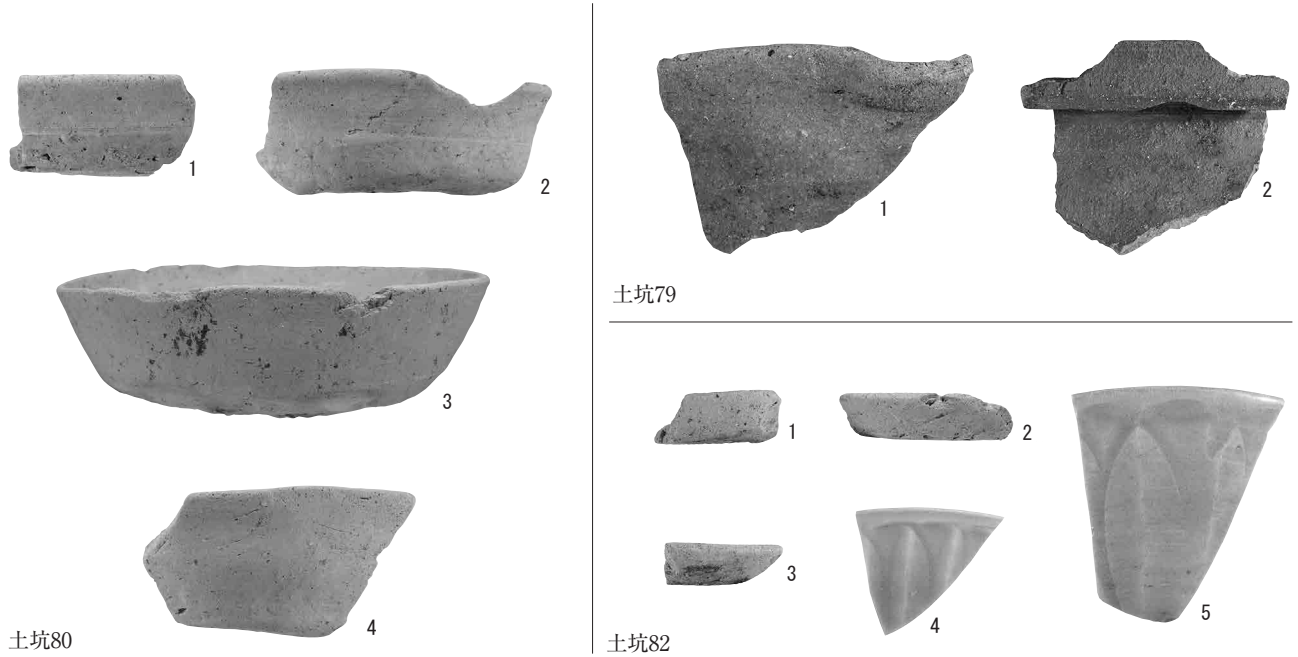
1. 第3面 土坑出土遺物(2)

図版 14



土坑69

土坑70

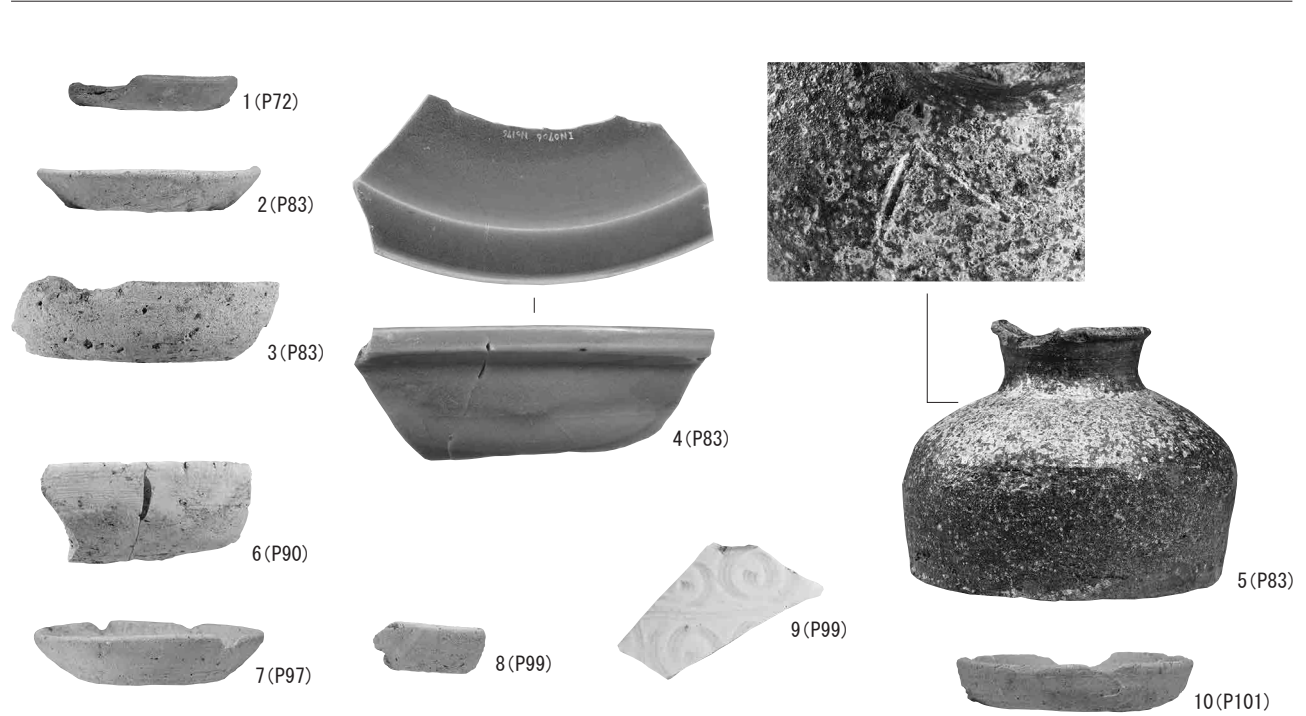


土坑79

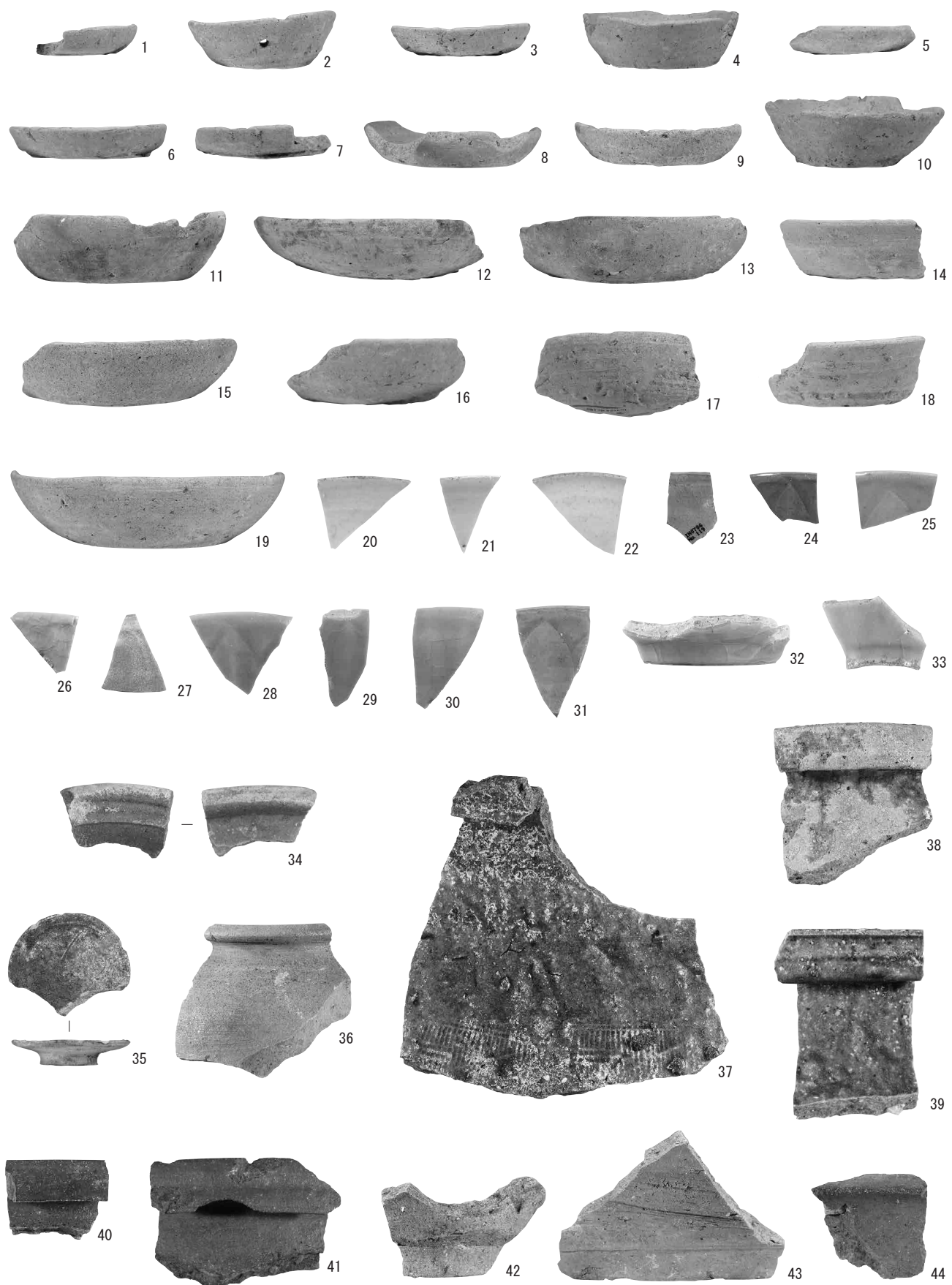
土坑80

土坑82

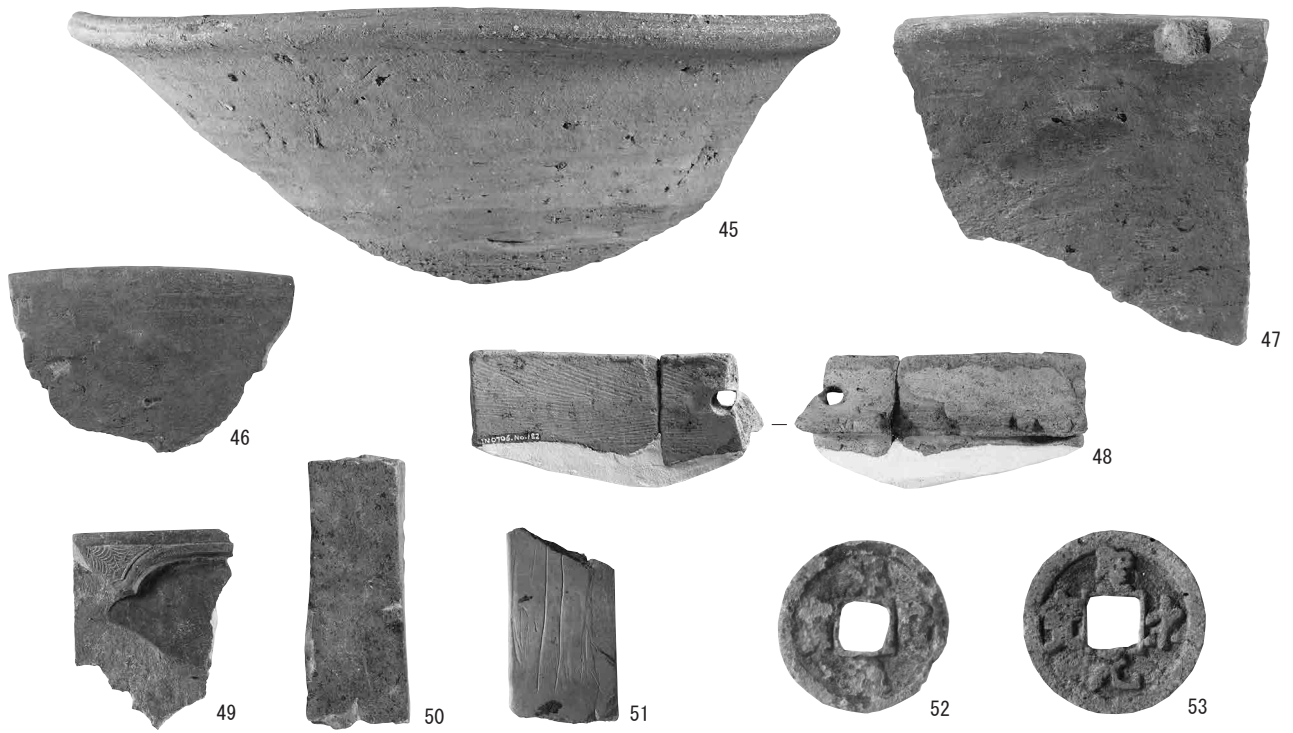
1. 第3面 土坑出土遺物 (3)



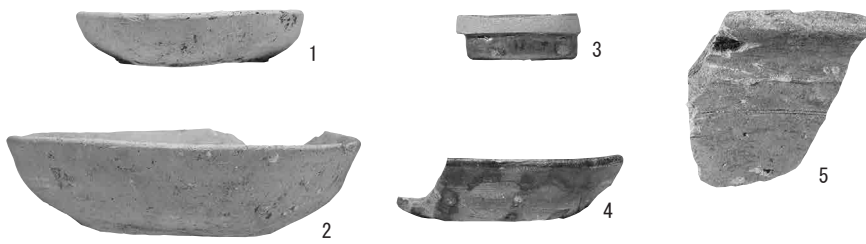
2. 第3面 ピット出土遺物



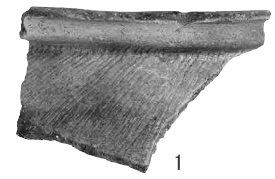
1. 第3面 遺構外出土遺物(1)



1. 第3面 遺構外出土遺物(2)



2. 第4面 遺構外出土遺物



3. 第5面 遺構外出土遺物

名越ヶ谷遺跡 (No.231)

大町三丁目2353番2外地点

例 言

1. 本報は「名越ヶ谷遺跡」(神奈川県遺跡台帳№231)内、鎌倉市大町三丁目2353番2外地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 発掘調査は平成19年12月18日～平成20年2月6日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は約37㎡である。
3. 発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者 宇都洋平

調査員・調査補助員 本城 裕・須佐仁和・梅岡ケイト・小野夏菜

作業員 佐藤美隆・安達越郎・丹野正弘(公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター)
4. 本報告書の作成並びに編集は鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。
5. 第四章第1節の花粉分析の分析・執筆はパレオ・ラボ鈴木 茂氏に依頼し、第四章第2節の出土動物遺体の鑑定・執筆は、東京国立博物館客員研究員金子浩昌氏に依頼した。
6. 本報に掲載した写真は、遺構を宇都洋平、遺物を赤間和重が撮影した。
7. 測量基準杭の設置にあたっては、日本測地系(座標系AREA9)を用い、図4に座標値を示した。
8. 発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「NG0716」とした。
10. 遺物挿図中の網掛けおよび指示は、以下のとおりである。

■ 煤およびタール状の黒色物が付着している部分・炭化範囲

▨ 土器に漆が付着している範囲

 - ・手描き施文が施される漆器は、文様を濃色、地を白で示した。
 - ・石製品の矢印は磨面範囲を示す。
11. 遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。

かわらけ：鎌倉かわらけ研究会 2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』

瀬 戸：愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史別編 窯業2 中世・近世 瀬戸編』

渥美・常滑：愛知県史編さん委員会 2012『愛知県史別編 窯業3 中世・近世 常滑編』

貿易陶磁：太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』
12. 出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである(順不同)。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・小森明美・西本正憲・西野吉論・齊藤武士・玉川久子・赤間和重・御代七重・木村百合子・田村正義・唐原賢一・大貫由美・花本晶子・浅野真里・御代祐子・深澤繁美・山田浩介(玉川文化財研究所)
13. 報告書作成にあたっては、齋木秀雄氏・伊丹まどか氏からご協力を賜った。ここに記して感謝する次第である。

目次

第一章 遺跡と調査地点の概観	240
第1節 調査に至る経緯と経過	240
第2節 調査地点の位置と歴史的環境	240
第3節 周辺の考古学的調査	241
第二章 堆積土層	246
第三章 発見された遺構と遺物	248
第1節 第1面の遺構と遺物	248
第2節 第2面の遺構と遺物	253
第3節 第3面の遺構と遺物	269
第四章 自然科学分析	283
第1節 名越ヶ谷遺跡出土の花粉化石	283
第2節 名越ヶ谷遺跡出土の動物遺体	289
第五章 まとめ	304

挿図目次

図1 遺跡位置図	242	図14 第2面 河川2堆積土出土遺物(1)	257
図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡	243	図15 第2面 河川2堆積土出土遺物(2)	258
図3 調査区位置図	245	図16 第2面 河川2堆積土出土遺物(3)	259
図4 調査区配置図	245	図17 第2面 河川2護岸跡出土遺物(1)	260
図5 調査区土層断面図	247	図18 第2面 河川2護岸跡出土遺物(2)	261
図6 第1面 遺構分布図	249	図19 第2面 河川2護岸跡出土遺物(3)	262
図7 第1面 河川1土層断面図	250	図20 第2面 河川3護岸跡(部分)	263
図8 第1面 遺構外(堆積土層1層) 出土遺物(1)	251	図21 第2面 河川3落ち込み土層断面図	264
図9 第1面 遺構外(堆積土層1層) 出土遺物(2)	252	図22 第2面 河川3落ち込み出土遺物	265
図10 第1面 遺構外(堆積土層2層) 出土遺物	252	図23 第2面 遺構外出土遺物(1)	266
図11 第2面 遺構分布図	254	図24 第2面 遺構外出土遺物(2)	267
図12 第2面 河川2・3土層断面図	255	図25 第2面 遺構外出土遺物(3)	268
図13 第2面 河川2護岸跡	256	図26 第3面 遺構分布図	270
		図27 第3面 河川4土層断面図	271
		図28 第3面 河川4杭列	272
		図29 第3面 河川4堆積土出土遺物(1)	273

図30	第3面 河川4 堆積土出土遺物(2) …… 274	図35	第3面 河川4 護岸跡出土遺物(1) …… 279
図31	第3面 河川4 堆積土出土遺物(3) …… 275	図36	第3面 河川4 護岸跡出土遺物(2) …… 280
図32	第3面 河川4 堆積土出土遺物(4) …… 276	図37	第3面 河川4 護岸跡出土遺物(3) …… 281
図33	第3面 河川4 堆積土出土遺物(5) …… 277	図38	第3面 河川4 護岸跡出土遺物(4) …… 282
図34	第3面 河川4 堆積土出土遺物(6) …… 278	図39	第3面 河川4 落ち込み出土遺物 …… 282

表 目 次

表1	名越ヶ谷遺跡 調査地点および周辺の遺跡一覧 …… 244	表3	第2面 出土遺物観察表 …… 311
表2	第1面 出土遺物観察表 …… 309	表4	第3面 出土遺物観察表 …… 320
		表5	出土遺物一覧表 …… 330

図 版 目 次

図版1	1. 調査区遠景(南西から) …… 333	4.	第3面 河川4 出土燭台 (図33-241) …… 339
	2. 調査区全景 (上空から、写真右は南西) …… 333	5.	第3面 河川4 護岸跡出土ウマ 頭頂骨(写真3-24) …… 339
図版2	1. 北壁土層断面(南から) …… 334	図版8	1. 第1面 遺構外(堆積土層1層) 出土遺物 …… 340
	2. 南壁土層断面(北から) …… 334	図版9	1. 第1面 遺構外(堆積土層2層) 出土遺物 …… 341
図版3	1. 第2面全景(北西から) …… 335		2. 第2面 河川2 堆積土出土遺物 (1) …… 341
	2. 第2面調査風景(北東から) …… 335	図版10	1. 第2面 河川2 堆積土出土遺物 (2) …… 342
図版4	1. 第2面 河川2(南西から) …… 336	図版11	1. 第2面 河川2 堆積土出土遺物 (3) …… 343
	2. 第2面 河川2 護岸跡(南から) …… 336	図版12	1. 第2面 河川2 護岸跡出土遺物 (1) …… 344
図版5	1. 第2面 河川3(東から) …… 337	図版13	1. 第2面 河川2 護岸跡出土遺物 (2) …… 345
	2. 第2面 河川3 落ち込み (東から) …… 337	図版14	1. 第2面 河川2 護岸跡出土遺物 (3) …… 346
	3. 第2面 河川3 護岸跡(南から) …… 337	図版15	1. 第2面 河川3 落ち込み出土 遺物 …… 347
図版6	1. 第3面 河川4(南西から) …… 338		
	2. 第3面 河川4 杭列(東から) …… 338		
	3. 第3面 河川4 杭列(南東から) …… 338		
図版7	1. 第2面 河川4 調査風景 (東から) …… 339		
	2. 第2面 河川2 護岸跡出土草履芯 (図24-57) …… 339		
	3. 第3面 河川4 出土銅製金具 (図34-242) …… 339		

図版16	1. 第2面 遺構外出土遺物(1)……	348	図版24	1. 第3面 河川4堆積土出土遺物	
図版17	1. 第2面 遺構外出土遺物(2)……	349		(6) ……………	356
図版18	1. 第2面 遺構外出土遺物(3)……	350	図版25	1. 第3面 河川4護岸跡出土遺物	
図版19	1. 第3面 河川4堆積土出土遺物			(1) ……………	357
	(1) ……………	351	図版26	1. 第3面 河川4護岸跡出土遺物	
図版20	1. 第3面 河川4堆積土出土遺物			(2) ……………	358
	(2) ……………	352	図版27	1. 第3面 河川4護岸跡出土遺物	
図版21	1. 第3面 河川4堆積土出土遺物			(3) ……………	359
	(3) ……………	353		2. 第3面 河川4落ち込み出土	
図版22	1. 第3面 河川4堆積土出土遺物			遺物 ……………	359
	(4) ……………	354			
図版23	1. 第3面 河川4堆積土出土遺物				
	(5) ……………	355			

第一章 遺跡と調査地点の概観

第1節 調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市大町三丁目2353番2外地点で実施した個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である名越ヶ谷遺跡(神奈川県遺跡台帳No.231)の範囲内にあたる。建築主から柱状改良工事を伴う建築計画についての相談を受けた鎌倉市教育委員会は、当該工事が埋蔵文化財に与える影響の有無を確認するため、遺跡の確認と内容の把握を目的とした試掘確認調査が必要と判断し、平成19年8月21日～同年8月22日に6㎡の調査区を設定して調査を実施した。その結果、中世の遺構が開発予定地に広がっていることが判明したため、鎌倉市教育委員会は文化財保護法に基づく発掘調査等の措置を建築主と協議し、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される約37㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、宇都洋平が現地調査を担当した。

現地調査期間は平成19年12月18日～翌平成20年2月6日までの2ヵ月半あまりで、調査面積は約37㎡である。現地表の標高は約7.3～7.4mを測る。調査はまず重機により30～40cmほどの表土を除去することから始め、その後はすべて人力による作業となった。表土直下から杭列を伴う河川を検出したため調査を行い、その後、地表下約1mのところでは中世に属する河川2本と護岸跡、落ち込み1ヵ所を検出し、これらの遺構掘削および記録作業を行った。その後、河川の下位に堆積する自然堆積土を掘り下げると、地表下1.6～1.8mで河川1本と護岸跡を検出したため、引き続き遺構掘削および記録作業を行った。そして1月25日に空撮を行い、2月6日に現地調査に関わるすべての業務を終了した。

なお、測量に際しては日本測地系(座標系AREA9)に準じた、鎌倉市三級基準点No.53229(X=-76362.102、Y=-24634.864)を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。また海拔標高値は、鎌倉市三級基準点No.53229(標高11.168m)を基に移設した。

第2節 調査地点の位置と歴史的環境

名越ヶ谷遺跡(No.231)は、鎌倉市街地の南東側に所在し、市街地から名越切通しに向かう県道鎌倉葉山線の東側一帯、丘陵部を除いた「名越ヶ谷」のほぼ全域がその包蔵地の範囲となっている。名越ヶ谷は市内でも広大な谷戸のひとつで、東方に延びるその奥行きは1km以上、開口部付近では幅300m以上を有し広い平地をなすが、その先の両岸は複雑な地形から松葉ヶ谷や花ヶ谷、山王ヶ谷、六坊ヶ谷、黄金ヶ谷などの支谷や小支谷をもつ。また、調査地点の遺跡名称「名越ヶ谷」については、『新編相模国風土記稿』鎌倉郡の項に「東方名越町より東南北三方に亘りて総名とす」とあり、「松葉ヶ谷」、「花ヶ谷」、「山王ヶ谷」、「六坊ヶ谷」、「黄金ヶ谷」などの支谷を含む谷戸群を総じて「名越ヶ谷」と称したようである。また、名越ヶ谷には、衣張山麓に水源をもつ逆川が谷戸筋のほぼ中央に沿って北東から南西に向かって流下し、県道鎌倉葉山線に架かる三枚橋の先で西へ流れを変え、材木座一丁目付近で滑川に合流する。谷戸の開口部付近では標高約7mを測り、谷戸の中ほどで12～13m、最奥部の黄金ヶ谷付近では30mを超え、谷戸幅も狭くなっている。両岸に延びた各谷戸や小支谷は雛段状に連なり、その多くが住宅地に変貌している。遺跡地一帯の現住所表記は、鎌倉市大町三丁目・四丁目・六丁目・七丁目に属する。

神奈川県遺跡台帳では丘陵部を除いた「名越ヶ谷」のほぼ全域が名越ヶ谷遺跡の周知範囲であるが、

名越ヶ谷中央の南に延びるやや広い谷戸を慈恩寺遺跡 (No.230)、斜向いの北に延びる幅の狭い支谷を名越山王堂遺跡 (No.234)、谷戸最奥北端部には北条時政邸跡／大町釈迦堂口遺跡 (No.235)、また谷戸開口部の南東端には安国論寺遺跡 (No.323) などが別に周知されている。遺跡地南西を走る県道鎌倉葉山線を境にその南西には米町遺跡 (No.245) の周知範囲が広がる。

現在、谷戸の開口部南東側付近には、鎌倉時代からの法灯を今に伝える安国論寺や妙法寺が、谷戸の開口部北側奥の支谷には大寶寺が、また横須賀線の線路を越えたすぐ南側には長勝寺が所在しており、これらは日蓮宗寺院である。その他にも名越ヶ谷内には、慈恩寺、木束寺、田代観音堂、山王堂などがあったと伝えられている (貫・川副 1980、白井編 1976)。

本調査地点は、名越ヶ谷の開口部中央付近に位置し、鎌倉市街地から県道に沿って名越四つ角を過ぎ、安国論寺に向う二股路を左に入り、逆川の右岸を25mほど上ったところで、河川までは10mほどである。調査地点はおおむね平坦で、調査地点の標高は7.3~7.4mである。また、現住所表記は、鎌倉市大町三丁目2353番2外である。

第3節 周辺の考古学的調査

本地点を含む名越ヶ谷遺跡の発掘調査事例としては図中には落とせなかったが、昭和60年に行われた谷戸の中ほどに所在する大町三丁目1367番4地点が初例であろう (玉林 1986)。この調査地点以降、名越ヶ谷遺跡内での調査事例は、本地点を含めて24例ほどが知られる。以下、過去の調査事例を中心に名越ヶ谷遺跡の様相について概観したい。

はじめに「名越ヶ谷」の谷戸を通してみると、谷戸の開口部付近の平地を中心に15カ所の調査地点を数え、谷戸の中でも調査地点が特に集中していることがうかがえる (図2)。図中外となるが谷戸の中ほどで3カ所、奥部で5カ所、最奥部で1カ所の計24カ所の地点で発掘調査が行われている。

最も調査地点が集中する谷戸の開口部付近では、逆川の右岸域に本地点を含めて8地点 (◀、①~⑦)、同左岸域に7地点 (⑧~⑭) が調査されている。このうち①大町三丁目1217番1地点 (菊川 1995)、⑤大町三丁目2356番3地点 (宮田・諸星ほか 2001)、⑧大町四丁目2406番1地点、⑭大町四丁目1901番16筆地点 (宮田・滝澤ほか 2003) を除けば、調査面積は80㎡以下と全体的に狭い調査地点となっている。

本地点を含む逆川旧流路 (川筋) に近接した調査地点では、石組みや木組みなどの旧逆川の護岸施設と推定される遺構が検出されており、旧逆川の川筋に形成された遺跡の特徴といえる。詳細は次章以降に譲るが、中世の基盤層に掘り込んで築造された川の護岸施設は近世に至るまでその痕跡を残しており、谷戸内を流れる旧逆川の護岸事業は常に人々の関心事であったと考えられる。

また、同様の護岸施設は⑥大町三丁目1826番9地点の調査 (手塚・野本 2002) でも検出されており、旧逆川の右岸に形成された13世紀前半期の木組み単体や、木組みと石組みで構成された護岸施設の変遷が明らかにされている。その後に行われた③大町三丁目2356番10地点の調査 (福田 2003) でも、前述の⑥大町三丁目1826番9地点と本調査地点を繋ぐ旧逆川の川筋であることが確認され、当時は現在よりもやや北西側に流路をとっていたことがうかがえる。また、逆川のような小河川でもその流路制御や改修などの保全がなされ、強力な統制 (幕府) のもとに街づくりが行われていたことが推定される。

一方、⑥地点の北側で行われた⑤大町三丁目2356番3地点 (宮田・諸星ほか 2001) の調査では、13世紀中葉から14世紀後葉に至る3面の整地地業に伴う生活面が確認され、前述の流路を意識して建てられたとみられる礎板をもつ掘立柱建物や柱穴群、井戸、通路状遺構、庭園の一部を連想させる玉砂利敷き面、

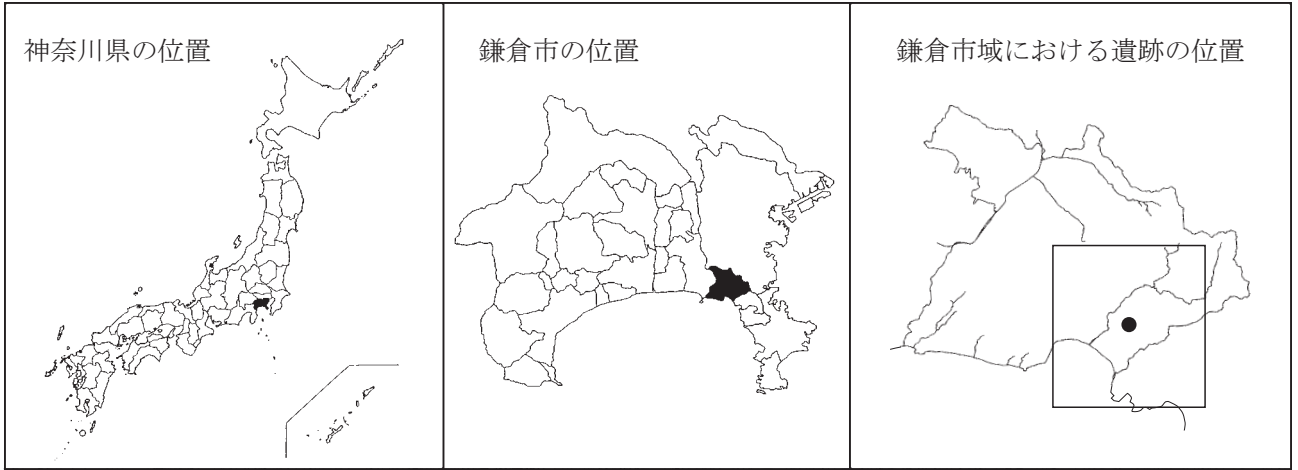


図1 遺跡位置図

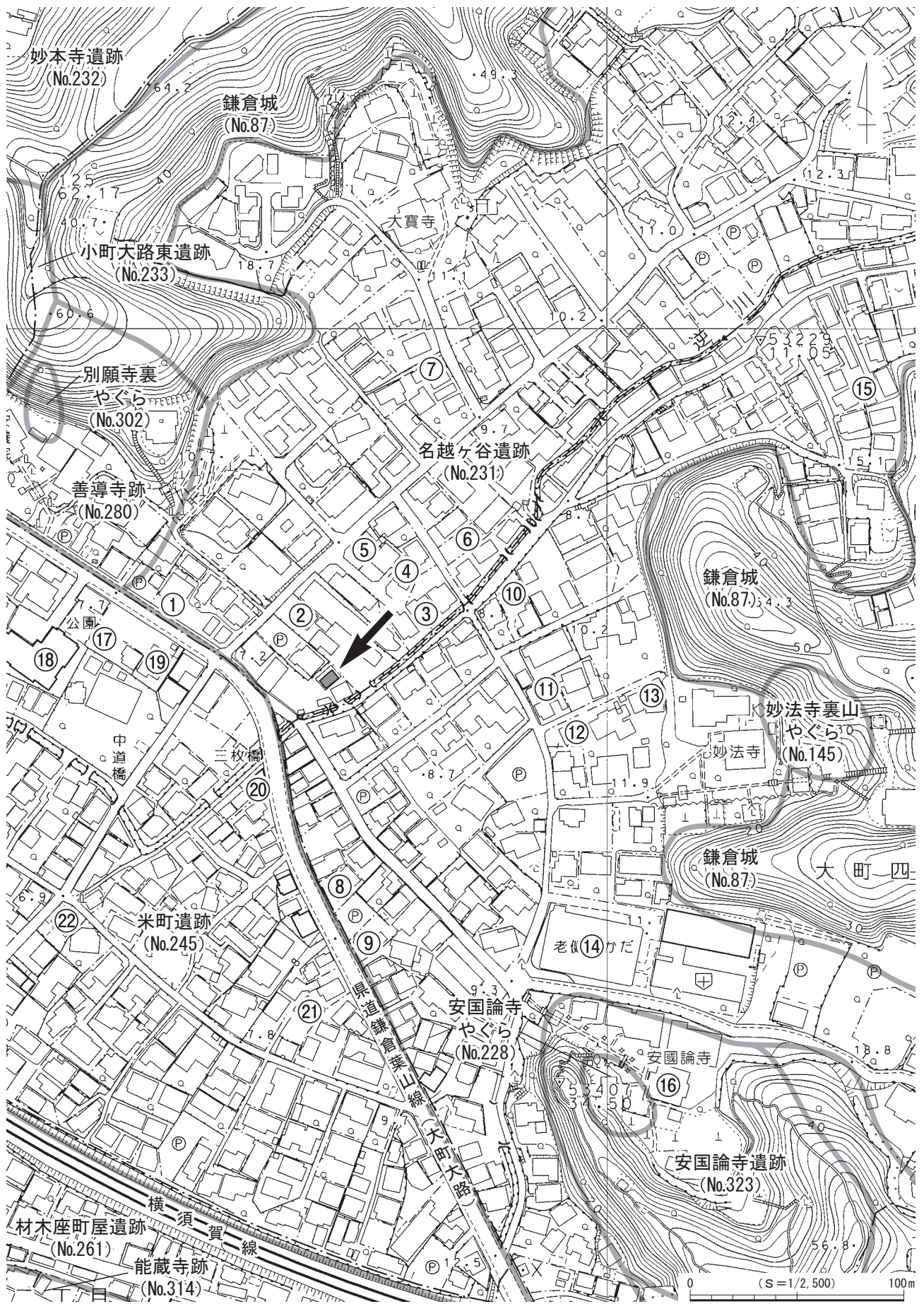


図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡

かわらけ溜まりなどが検出されている。中心的な建物の柱間寸法は、心々間で2.1m(7尺)を有し、調査者は柱穴群などの様相と考え合わせると、逆川の右岸域に形成された谷の開口部側が「表」になるような武家屋敷あるいは玉砂利敷き面(庭園)や通路状遺構などの存在から寺院の存在を推定している。また、名越ヶ谷の開口部西端に位置する①大町三丁目1217番1地点(菊川 1995)でも13世紀中頃から15世紀代に至る5面以上の整地地業に伴う生活面と、県道鎌倉葉山線と同軸方向の掘立柱建物や塀、通路状遺構、井戸、木組施設、土坑などが発見されており、塀や通路などの境界施設の存在からも屋敷地を示唆するような遺跡と考えられている。この他にも逆川の右岸域では②大町三丁目2354番1地点、⑦大町三丁目1230番4外地点などで調査が行われており、中世の掘立柱建物や柱穴、井戸、土坑、溝などの遺構や遺物が発見されている。

左岸域に目を転じると、河川際での調査は⑩大町四丁目1880番6地点(田代・大坪 1995)の1例であるが、名越ヶ谷開口部南東側の平地で4地点(⑪大町四丁目1884番14地点、⑫大町四丁目1888番地点、⑬大町四丁目1888番の一部地点、⑭大町四丁目1901番16筆地点)、県道鎌倉葉山線沿いで2地点(⑧大町四丁目2406番1地点、⑨大町四丁目2395番2の一部外1筆地点)の調査が行われている。この地区は、谷戸の入口に位置し、いずれも開山を日蓮とする、妙法寺や安国論寺、長勝寺などの日蓮宗派の寺院が所在している。この中で、調査対象面積が1,000㎡を超える⑭大町四丁目1901番16筆地点の調査(宮田・滝澤ほか 2003)が注目される。調査地点は妙法寺と安国論寺に挟まれた支谷(松葉ヶ谷)の入口部分に位置し、また付近には北条時政以来、北条氏の山荘があったとの伝承もある。遺跡は13世紀前葉から14世紀後葉に至る大規模な造成を伴う3面の生活面と、3時期以上の遺構群変遷が確認されている。調査区内は東西に走る溝によって大きく南北に区画されており、この溝は柵ないし塀と考えられる柱穴列を伴っている。この他には特大の井戸や、柵列・側溝を伴う道路、玉砂利敷き遺構、門、礎石建物、掘立柱建物、木組遺構などの遺構群が確認されており、さながら大規模な屋敷地を彷彿とさせる。また、出土遺物の中には白磁碗などの優品も多く見受けられることから、相当規模の財力をもった人物、あるいは有力御家人などの屋敷地であったと考えられている。

名越ヶ谷の奥に入っていくと、図中外も含むが谷戸の中ほどで3地点(⑮大町四丁目1858番4地点、大

表1 名越ヶ谷遺跡 調査地点および周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町三丁目2353番2外地点	
①	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町三丁目1217番1地点	菊川 1995
②	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町三丁目2354番1地点	
③	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町三丁目2356番10地点	福田 2003
④	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町三丁目2356番11地点	宮田 2003
⑤	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町三丁目2356番3地点	宮田・諸星ほか 2001
⑥	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町三丁目1826番9地点	手塚・野本 2002
⑦	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町三丁目1230番4外地点	
⑧	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町四丁目2406番1地点	
⑨	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町四丁目2395番2の一部外1筆地点	滝澤 2006
⑩	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町四丁目1880番6地点	田代・大坪 1995
⑪	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町四丁目1884番14地点	
⑫	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町四丁目1888番地点	汐見・野本ほか 2000
⑬	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町四丁目1888番の一部地点	山口 2012
⑭	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町四丁目1901番16筆地点	宮田・滝澤ほか 2003
⑮	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町四丁目1858番4地点	伊丹・松吉 2014
⑯	安国論寺遺跡 (No.323)	大町四丁目1947地点	松尾 1983b
⑰	米町遺跡 (No.231)	大町二丁目2340番1地点	押木 2017a
⑱	米町遺跡 (No.245)	大町二丁目2338番1地点	宮田・滝澤ほか 1997
⑲	米町遺跡 (No.245)	大町二丁目9番10地点	
⑳	米町遺跡 (No.245)	大町二丁目2411番2地点	福田 1989
㉑	米町遺跡 (No.245)	大町二丁目2404番の一部地点	福田 1999
㉒	米町遺跡 (No.245)	大町二丁目2235番3地点	馬淵・鍛冶屋ほか 2008

※遺跡Noは神奈川県遺跡台帳による。



図3 調査区位置図

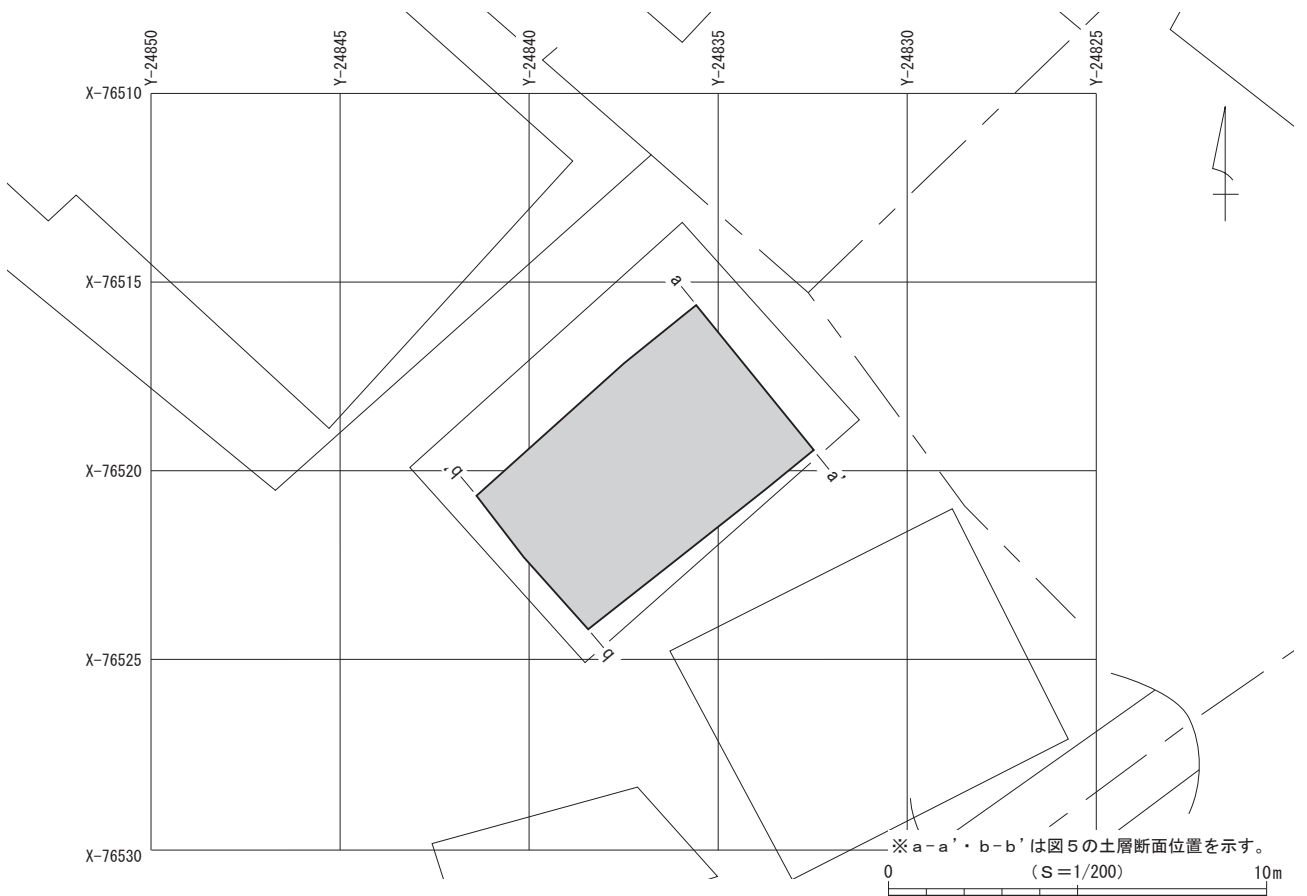


図4 調査区配置図

町三丁目1367番4地点、大町三丁目1364番1の一部外地点)の調査が行われている。⑮大町四丁目1858番4地点(伊丹・松吉 2014)では、限られた調査面積ではあったが地業を伴う8面の生活面が確認され、14世紀代を中心とする生活痕跡の一端が明らかにされている。また、逆川右岸域の大町三丁目1367番4地点では4面の生活面が確認されている。中世基盤層に相当する4面(13世紀中葉～後葉)では掘立柱建物に近接して仕切塀と考えられる板壁が残存しており、報告者は武家屋敷地内にある建物と推定している。また、大町三丁目1364番1の一部外地点(宮田・森 2004)では、14世紀中葉から後葉にかけての道路遺構や炉址、鑄造遺構と想定される遺構なども検出されている。

さらに谷戸の奥部(大町四丁目1736番2外地点、大町三丁目2356番3地点、大町六丁目1708番4地点、大町六丁目1708番23外地点、大町六丁目1506番11の一部地点)から最奥部(大町六丁目1708番4地点、大町七丁目1615番8地点)にかけて7地点の調査が行われている。大町四丁目1736番2外地点の調査(宗墓・遠藤ほか 1998)では5面の中世遺構面が、最奥部に位置する大町七丁目1615番8地点(森 2004)でも同様に5面の中世遺構面が確認されている。いずれも限られた調査面積であるため不明な点も多く推測の域を出ないが、船載磁器の青磁蓮弁文碗や梅瓶などの出土遺物を考え合わせると、名越ヶ谷の開発は支谷の最奥部まで計画的に進められていたことがうかがえる。

これらに関連する遺跡として、谷戸奥部の北端側には、大町釈迦堂口遺跡(No.235)(松尾 1983 a、永田・福田 2009)がある。南に開口する二筋の小支谷が遺跡の中心範囲で、西側の谷奥には丘陵の岩盤をくり抜いて大町と北側の浄明寺を繋ぐ釈迦堂口切通がある。北側の丘陵部分には、地藏やぐらや唐糸やぐら、日月やぐらなどのやぐら群が奥谷の平場を取り囲むように築造されている。この他、谷戸内には名越山王堂遺跡(No.234)(齋木 1990、原 2013)や慈恩寺跡(No.230)、開口部の南東側には安国論寺遺跡(No.323)(⑯松尾 1983 b)、本遺跡の南西側には県道鎌倉葉山線を挟んで米町遺跡(No.245)(⑰押木 2017a、⑱宮田・滝澤ほか 1997、⑲・⑳福田 1989、㉑福田 1999、㉒馬淵・鍛冶屋ほか 2008)が広がっている。

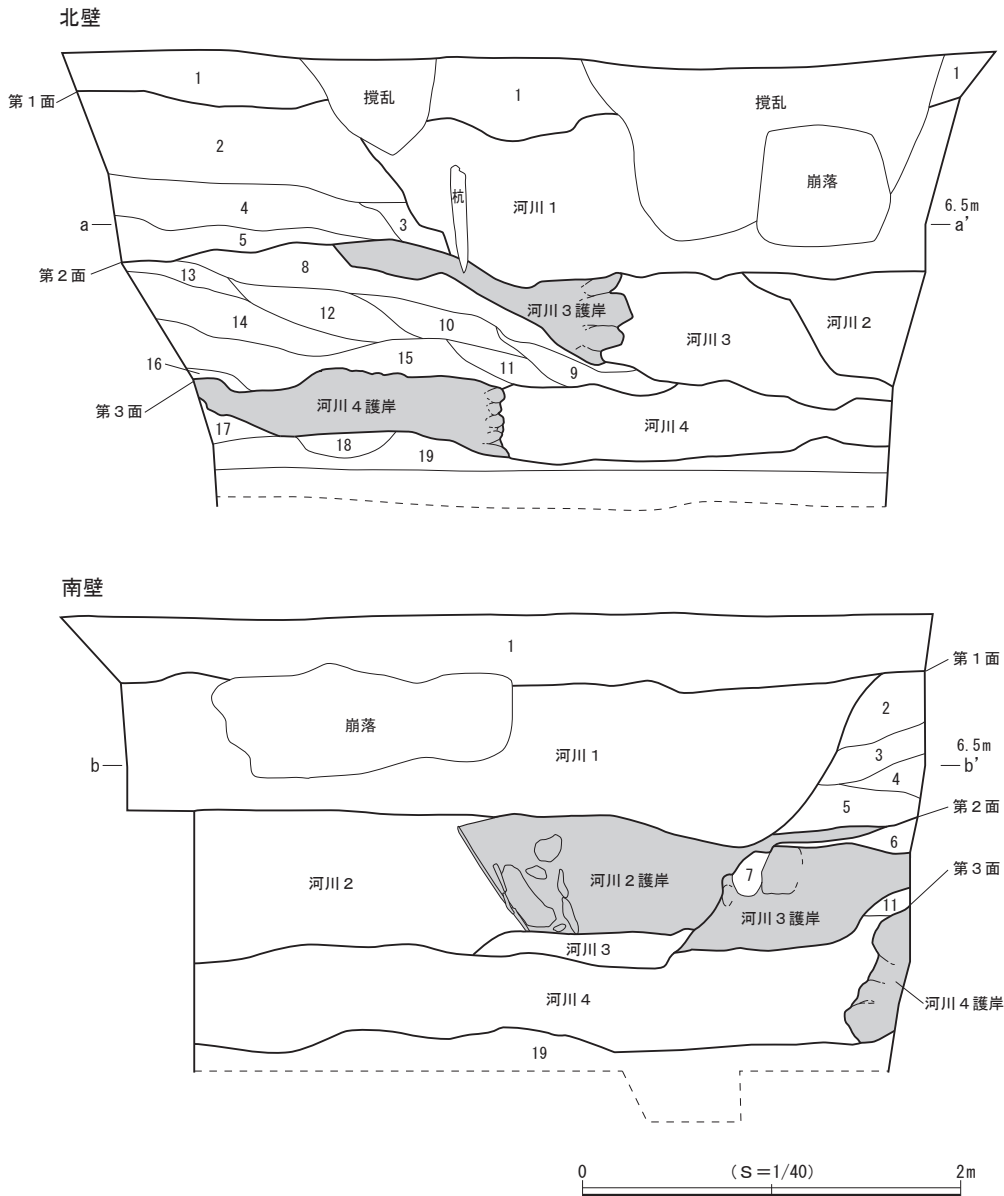
このように名越ヶ谷遺跡を取り巻く広大な「名越ヶ谷」は、開府以降、有力御家人や鎌倉武士たちの居宅や寺院などが所在した地域であったことがうかがえ、また三浦や六浦、房総方面への交通の要衝としてもその重要性がみてとれよう。

第二章 堆積土層

今回の調査では19層の堆積土を確認することができ、遺構確認面は第1～3面の合計3面が認められた(図5)。ここでは調査区北壁と南壁の土層断面を図示し、堆積土層について詳述していきたい。

現在の地表面は標高7.3～7.4mほどで、北から南へ向かって傾斜している。最上部に層厚20～40cmほどの表土(1層)が堆積し、その直下に2層とした泥岩ブロックを多量に含む整地層が検出された。この整地層の層厚は最大で50cmを測り、標高7.0～7.2mほどの層上面で近世の河川1が確認されている(第1面)。2層下に堆積する3～5層は締まりのある茶褐色弱粘質土で、泥岩ブロックや泥岩粒、炭化物などを含む。層厚は20～50cmほどで、この土層を掘り下げると中世の河川2と護岸跡が検出された(第2面)。南壁面の河川2護岸跡の下位と河川3護岸跡の上位には6・7層の堆積が認められ、有機質土と炭化物を含む粘質土が堆積していた。そして主に北壁で確認された8～16層は、河川3護岸跡と河川4護岸跡との間層にあたる。このうち9・11層は有機質土層で多量の木製品が出土し、8・15・16層は山砂を含んでいた。層厚は最大70cmほどを測り、おそらく河川4の埋没後に川岸に堆積した自然堆積土と考えられる。8～16層の下位からは河川4と護岸跡が検出され(第3面)、さらにその下位には19層が堆積する。

19層は貝殻片を多量に含んだ締まりのある暗青灰色砂質土で、遺物を包含しない中世の地山と考えられ、上面の標高は5.4m前後を測る。



- | | | |
|-----|----------|---|
| 1層 | 表土 (造成土) | |
| 2層 | 泥岩整地層 | φ 1~5cmの泥岩整地層。隙間に茶褐色弱粘質土がつまっている。 |
| 3層 | 茶褐色弱粘質土 | 泥岩(φ 1~3cm)少量、泥岩粒中量、炭化物少量含む。粘性ややあり。締まりあり。 |
| 4層 | 暗茶褐色弱粘質土 | 泥岩(φ 1~3cm)少量、泥岩粒中量、炭化物・かわらけ片少量含む。締まりあり。 |
| 5層 | 暗茶褐色弱粘質土 | 4層に似るが、泥岩粒が少ない。 |
| 6層 | 茶褐色粘質土 | 炭化物中量、有機質土少量含む。粘性あり。締まりややあり。 |
| 7層 | 暗褐色粘質土 | 泥岩粒・炭化物・有機質土少量含む。粘性あり。締まりややあり。 |
| 8層 | 暗褐色弱砂質土 | 泥岩粒・炭化物少量、山砂中量含む。締まりややあり。 |
| 9層 | 有機質土層 | 茶褐色有機質土層。泥岩(φ 1~3cm)・中量含む。木製品非常に多い。 |
| 10層 | 暗茶褐色粘質土 | 泥岩粒少量、炭化物微量、有機質土中量含む。粘性・締まりあり。 |
| 11層 | 有機質土層 | 炭化物・泥岩粒少量含む。木製品多く含む。 |
| 12層 | 暗灰色粘質土 | 泥岩(φ 3~5cm)・炭化物中量、有機質土少量含む。粘性・締まりあり。 |
| 13層 | 暗褐色粘質土 | 12層に似るが泥岩は含まない。 |
| 14層 | 暗茶褐色粘質土 | 泥岩粒・炭化物・有機質土少量含む。粘性・締まりあり。 |
| 15層 | 茶灰色粘質土 | 泥岩粒微量、炭化物・有機質土・山砂少量含む。粘性あり。締まり強い。 |
| 16層 | 茶灰色粘質土 | 山砂中量含む。粘性あり。締まりややあり。 |
| 17層 | 暗茶灰色粘質土 | 泥岩(φ 1~5cm)中量、泥岩粒中量、貝砂多量含む。締まりややあり。 |
| 18層 | 有機質土層 | 泥岩粒・炭化物少量含む。 |
| 19層 | 暗青灰色砂質土 | 貝殻片を多量に含む他、包含物なし。締まりあり。 |

図5 調査区土層断面図

第三章 発見された遺構と遺物

今回の調査では、遺構確認面は第1～3面までの合計3面で、検出した遺構は近世の河川1本と杭列1列、中世の河川3本とそれに関わる護岸跡である。中世の河川に付随する護岸跡は、木組みによるものと泥岩を用いた石組みによるものとが認められ、この他に護岸に関わる杭列1列と落ち込み1ヵ所、河川に敷設された何らかの施設と考えられる落ち込み1ヵ所も確認した。出土遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して34箱を数え、調査面積が狭小であるにもかかわらず多くの遺物が出土した。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと(第1～3面)に説明する。

第1節 第1面の遺構と遺物

第1面の遺構は堆積土層の2層上面で検出され、確認面の標高は約7.0～7.2mを測る。2層は泥岩ブロックを主体とする整地層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は河川1本で、杭列1列を伴っていた(図6)。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土し、遺物の年代は13世紀～18世紀中葉頃までの時期幅をもつ。河川が表土直下で検出されたという状況や堆積土層の観察、近世に比定される常滑窯産の甕が出土遺物に含まれている点などから、本面は大枠として近世に属すると考えられる。

(1) 河川・杭列

第1面では、河川1本を検出し、河川の北岸から河床面にかけてを確認した。北岸際より河川の護岸に関わると推定される杭列を1列検出したが、調査範囲の制約から川幅や南岸の様相などは判然としなかった。

河川1(図6・7)

調査区を東西方向に横断して検出した。河川の北岸から河床面までを確認し、南岸側は調査区外の南側へ延びるため把握することができなかった。流路は直線的で、検出した長さは約7mを測り、調査区内における川幅は最大で約4m、深さは最大で88cmである。河床面の標高は東側で6.17m、西側で6.08mと東から西に向かってわずかに傾斜する。流路の主軸方位はN-62°-Eを指す。堆積土は7層に区分され、大きくは1～3層の砂質土と4～7層の粘質土を基調とする土層に大別される。いずれの土層にも泥岩粒や炭化物が含まれている。

河川の北岸に沿って杭列が検出され、護岸に関わる施設と推定される。

杭列(図6)

北岸際の河床面に杭が10本打ち込まれており、これを杭列とした。東端に位置する杭①から南端の杭⑩までの距離は心々で5.45mで、主軸方位はN-61°-Eを指し河川の方角とほぼ同じである。杭の間隔は東端の①と②が1.35m、西端の⑨と⑩が1.0mと広く、他は40～55cm間隔とほぼ一定している。杭は丸杭と角杭の両方が使用され、丸杭の大きさは径8.4～10.8cm、残存長19.4～65.7cmを測り、角杭は杭④のみが大きさを把握でき、幅12.8cm、厚さ9.7cm、現存長29.1cmを測る。

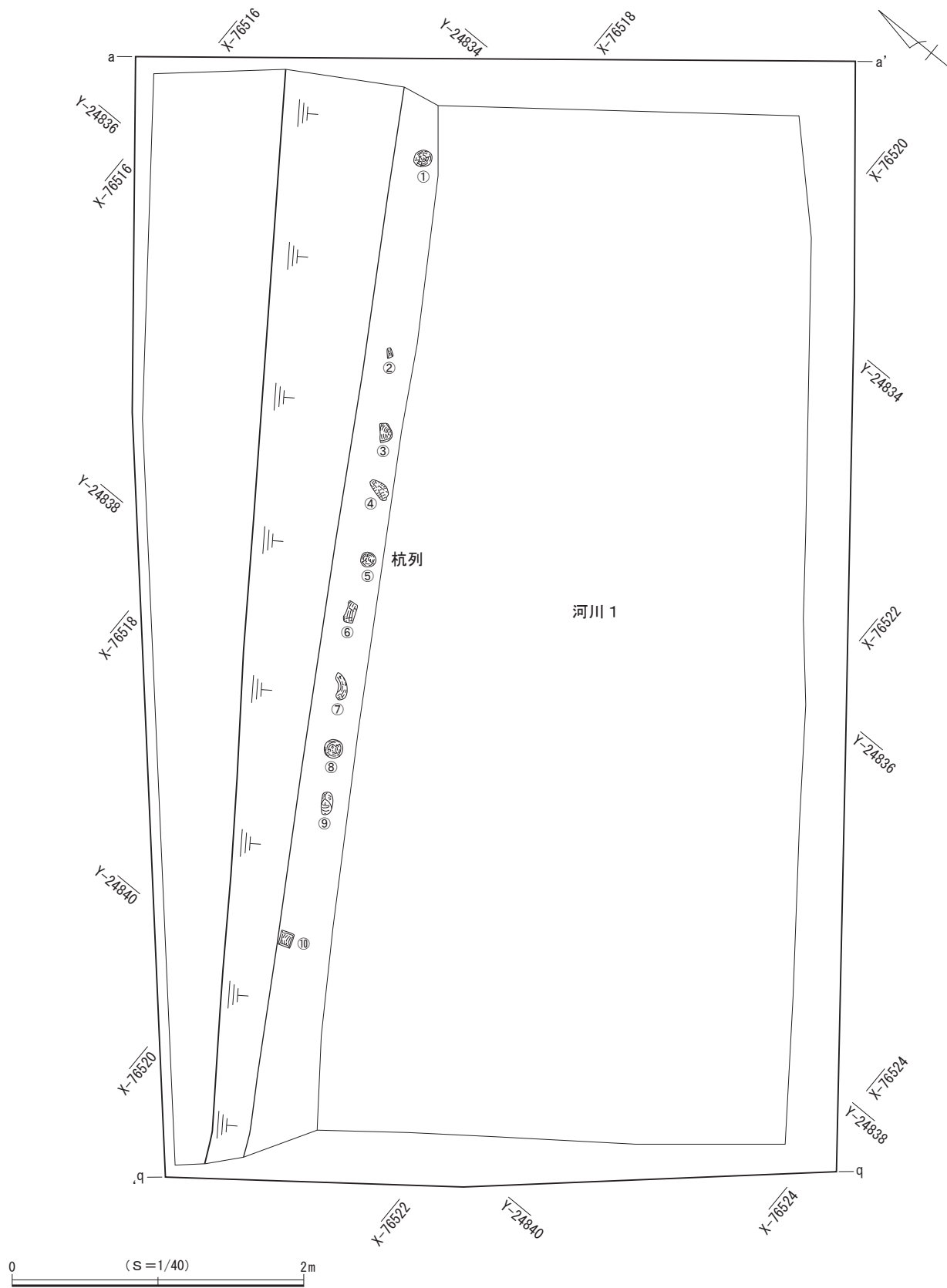
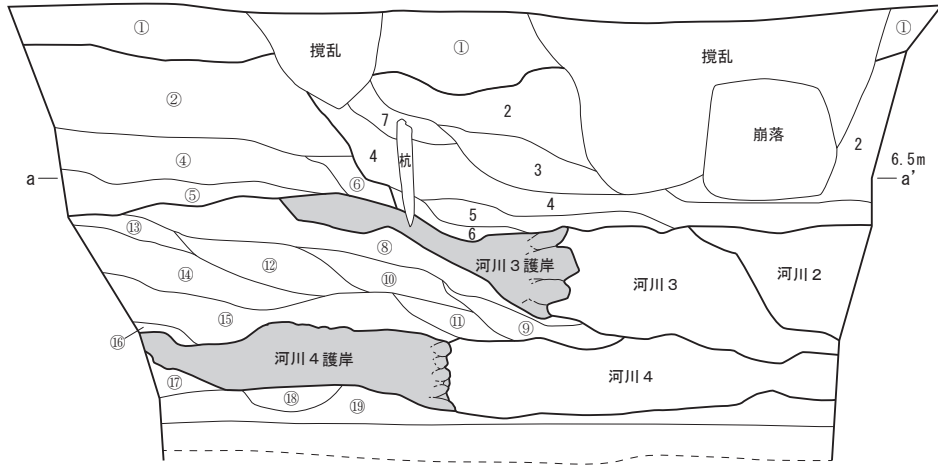
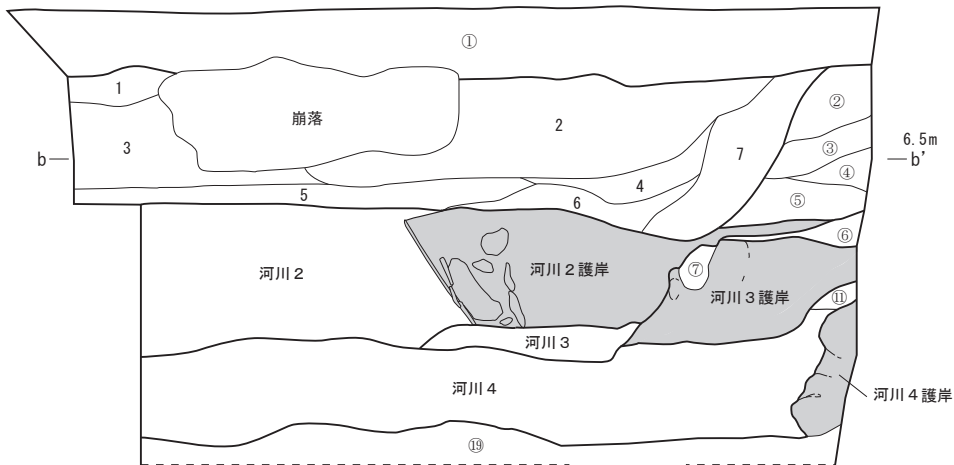


図6 第1面 遺構分布図

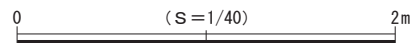
北壁



南壁



※丸数字は堆積土層



河川1覆土

- | | |
|------------|--|
| 1層 茶灰色砂質土 | 泥岩粒少量、暗灰色粘土中量含む。締まりややあり。 |
| 2層 暗黄褐色砂質土 | 炭化物・かわらけ片少量、暗灰色弱粘質土中量含む。締まり弱い。 |
| 3層 暗黄褐色砂質土 | 炭化物少量、暗灰色弱粘質土を斑状に中量含む。締まり弱い。 |
| 4層 暗灰色粘質土 | 泥岩粒・炭化物・かわらけ片少量含む。粘性・締まりあり。 |
| 5層 暗青灰色粘質土 | 泥岩粒・炭化物少量含む。粘性・締まりあり。 |
| 6層 青灰色粘質土 | 泥岩粒中量、炭化物・小石少量含む。粘性・締まりあり。 |
| 7層 明茶灰色粘質土 | 泥岩(φ1~3cm)・泥岩粒中量、炭化物・かわらけ片少量含む。粘性・締まりあり。 |

図7 第1面 河川1土層断面図

(2) 遺構外出土遺物

第1面では河川覆土の他に、遺構以外からも多くの遺物が出土している。ここでは堆積土層の1層と2層とに分けて出土遺物を掲載し、説明する。

堆積土層1層出土遺物(図8・9)

1層出土遺物のうち、ここでは68点を図示した。

1~56はかわらけである。1~31はロクロ成形によるかわらけ、32・33はロクロ成形であるが、底面の回転糸切痕をナデ消しているかわらけ、34~56は手づくね成形によるかわらけである。8・15・22・28・54・55には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。57~59は船載磁器である。57は青白

磁合子である。58・59は龍泉窯系青磁で、58が坏、59が龍泉窯系青磁碗Ⅱ類である。60～68は陶器類である。60・61は瀬戸窯産の製品で、60が花瓶、61が卸皿である。62～68は常滑窯産の製品である。62・63は甕で、63は近世の甕である。64～67は片口鉢あるいは片口鉢Ⅰ類、68は山茶碗である。

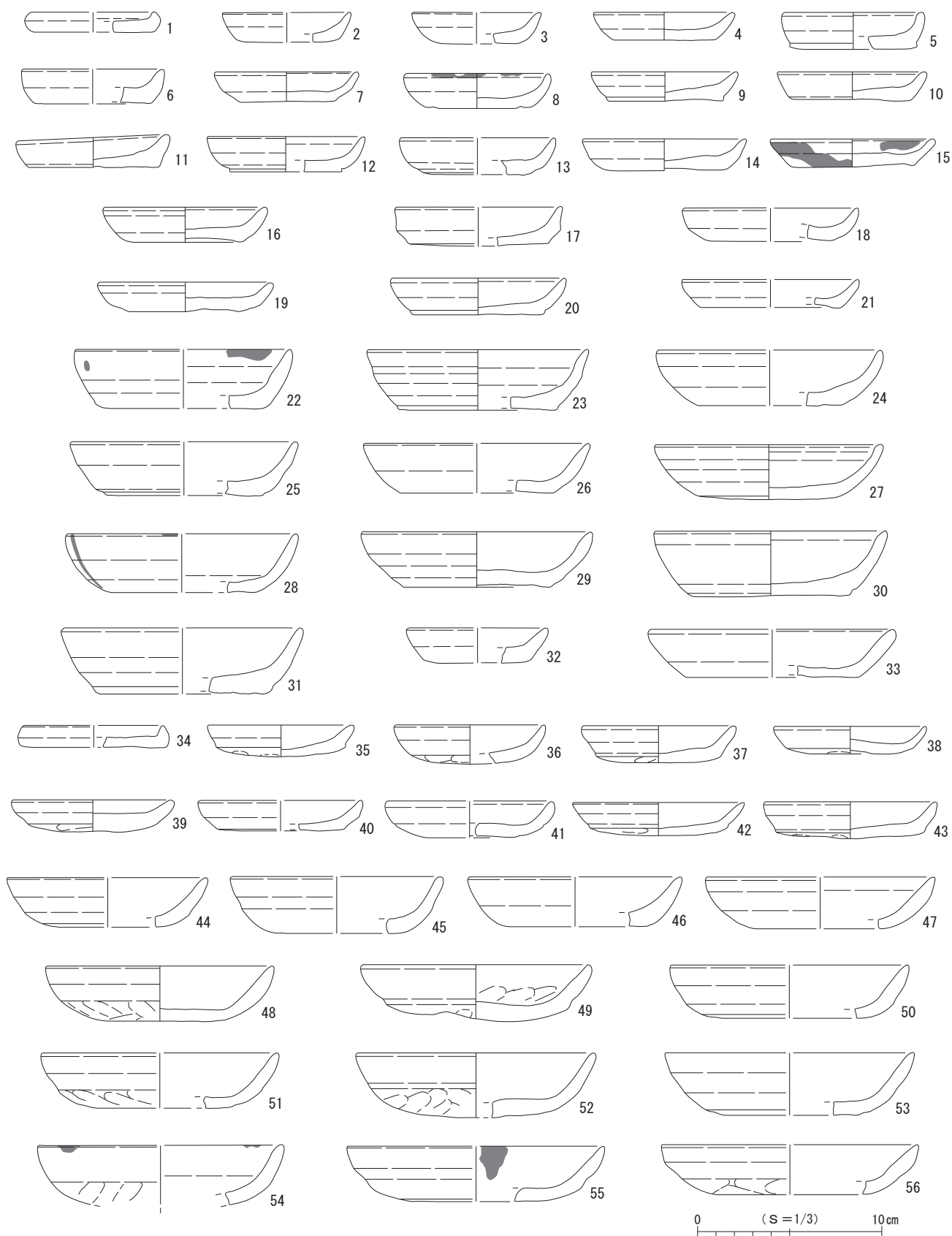


図8 第1面 遺構外(堆積土層1層)出土遺物(1)

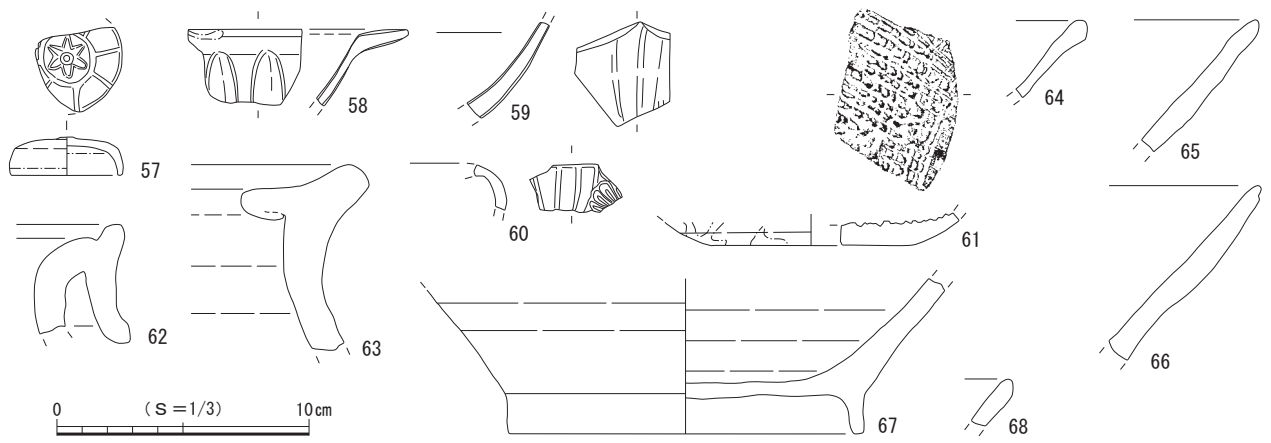


図9 第1面 遺構外(堆積土層1層)出土遺物(2)

堆積土層2層出土遺物(図10)

2層出土遺物のうち、ここでは28点を図示した。

1~21はかわらけである。1~14はロクロ成形によるかわらけ、15はロクロ成形であるが、底面の回転糸切痕をナデ消しているかわらけ、16~21は手づくね成形によるかわらけである。14・19・21には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。22・23は舶載磁器である。22は青白磁合子、23は同安窯系青磁椀Ⅱ類である。24~27は陶器類で、いずれも常滑窯産の製品である。24~26は甕、27は片口鉢Ⅰ類である。28は銭貨で、治平通寶(北宋・1064)である。

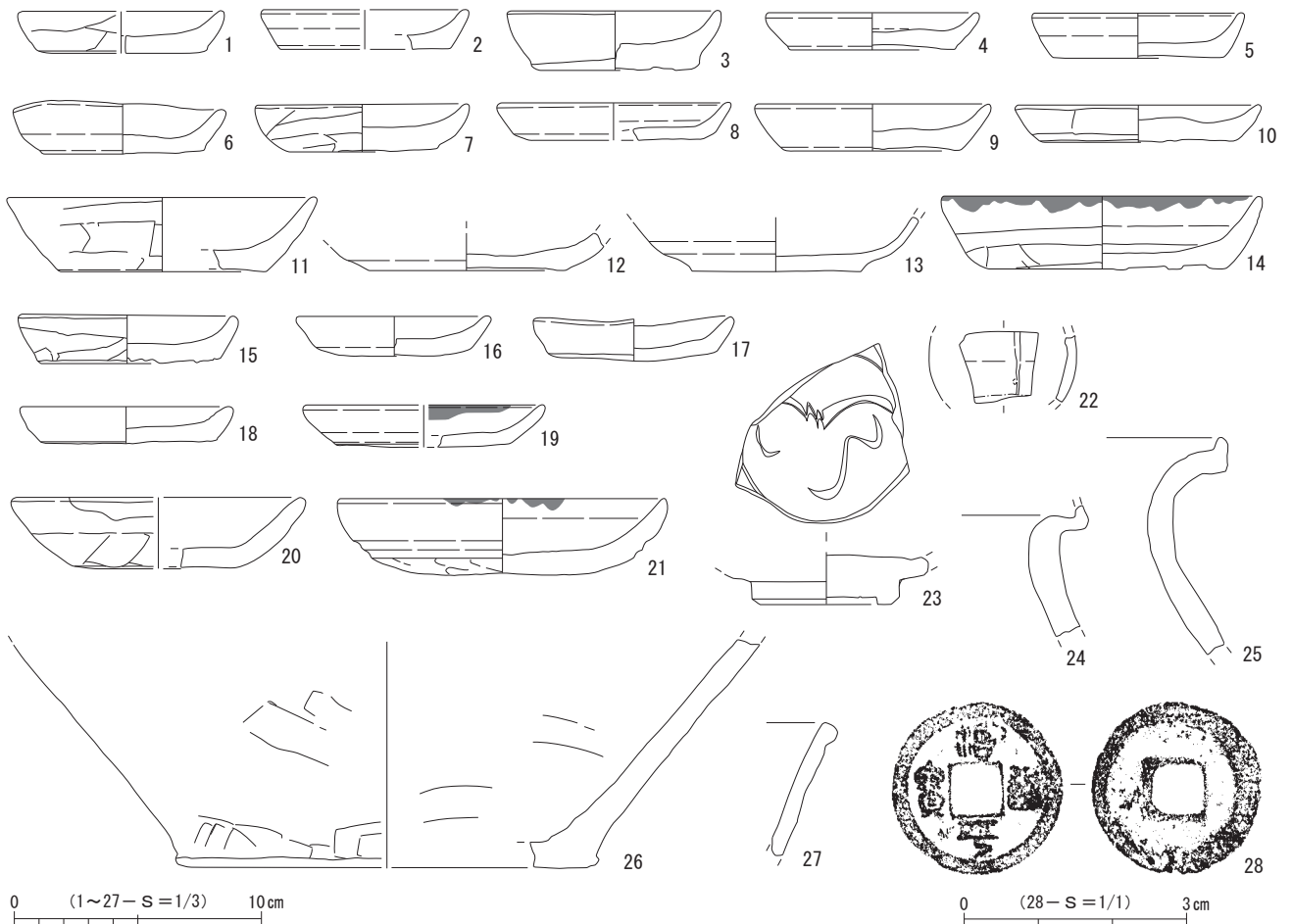


図10 第1面 遺構外(堆積土層2層)出土遺物

第2節 第2面の遺構と遺物

第2面の遺構は堆積土層の5層下位で検出され、確認面の標高は約6.2～6.4mを測る。検出した遺構は河川2本で、両河川ともに調査区を東西方向に横切り、河川の北岸にあたる部分に護岸が構築されていた(図11)。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類、木製品が出土しており、12世紀末～14世紀代と広い時期幅をもつ遺物が流入していた。河川2の護岸跡出土遺物には6 a～6 b型式の常滑窯産の甕が数点含まれており、それを基準とするならば河川2の護岸は13世紀中葉～後葉頃に構築され、14世紀代まで河川とともに機能していたものと推定される。一方で河川3からは出土遺物がないために時期を特定することは困難であるが、河川2と検出面を同一にしていることから、両者の時間差は少ないものと推定される。

(1) 河川・護岸跡

第2面では、護岸を伴う河川2本を検出した。河川3は河川2によって南側が壊されており、新旧関係をもつことが確認された。両河川とも北岸から河床面にかけてを確認し、北岸には護岸が築かれていた。護岸跡は木組みによる構造と石組みによる構造とが認められ、時期的に古い河川3は石組みによる護岸が行われていた。また、河川3の北岸中央付近から北側にかけて落ち込みを検出し、河川3に付随する施設と考えられるが、性格については明らかでない。なお、調査区の制約から川幅や南岸の様相などは判然としなかった。

河川2 (図11・12)

調査区南側で東西方向に検出した。北側で河川3と重複し、流路の南側を破壊している。南岸側は調査区外の南側へ延びると考えられ、把握することはできなかった。流路はほぼ直線的で、検出した長さは5.56m、調査区内における川幅は最大で1.22m、深さ約80cmを測る。河床面の標高は東側で5.65m、西側で5.36mと東から西に向かって傾斜し、河床面の高さは時期的に古い河川3の河床面よりもわずかに高い位置にある。流路の主軸方位はN-65°-Eで、河川3とほぼ同じ方向を指す。堆積土は7～19層までの13層に区分され、7層と13層は砂質土ないし砂層、14・15・18層は有機質土層、その他は粘質土を基調としている。

北岸の西端部から木組みによる護岸跡が検出され、その2.6m東側の北岸際と岸から60cmほど離れた川底に杭が1本ずつ打ち込まれていた。

護岸跡 (図13)

河川2北岸の西端部で検出し、調査区外の西側へ続いている。木組みによる構造で、幅10cmほどの横板を川岸に沿って3段に積み上げ、杭1・2とした幅7～9cmの2本の角杭を川岸に打ち込んで横板を押さえて土留めとする。杭1と2の距離は心々で65cmを測る。横板の裏側には人頭大の泥岩を多量に混入して補強し、粘質土を用いて裏込めを築いている。この裏込め部分は1～6層に分層され、泥岩粒や炭化物、有機質土を含む土層で、5層には貝殻片が少量含まれる。検出した木組護岸の規模は現存幅1.46mで、調査区南壁で確認し得た裏込めは奥行きが2.25m、厚さは最大で60cmを測る。

護岸跡付近では、杭1・2の他に杭3～5の3本の杭が確認され、杭2・3・4は25～30cmの間隔で河川と直交する方向に並んでいた。このうち岸の水際から50cm離れた場所に打ち込まれた杭4は角杭で、残存長1.17m、幅8.5cm、厚さ5.5cmを測る。また、護岸跡から東側へ2.6m離れた杭7も河川2の護岸に関

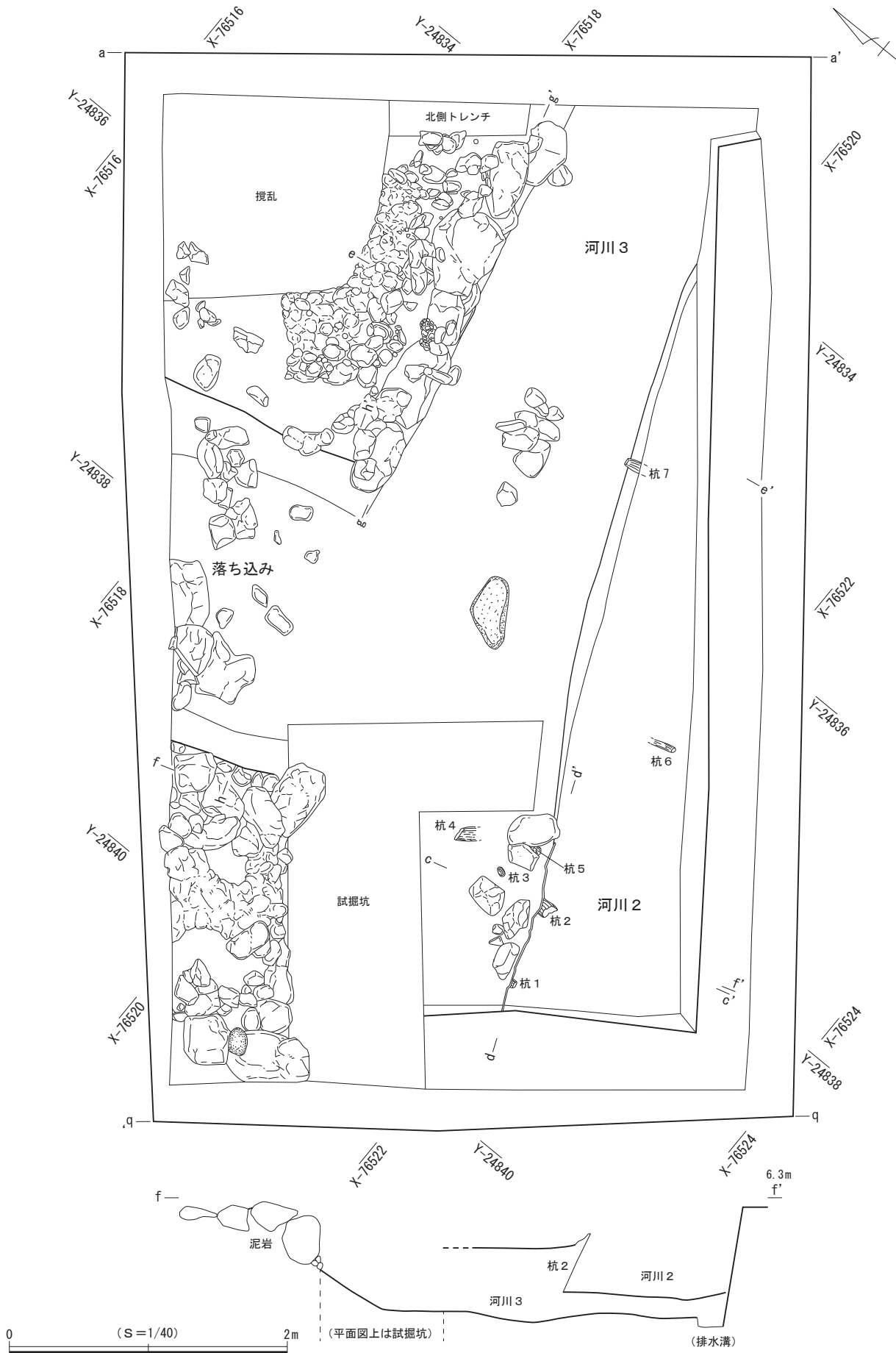
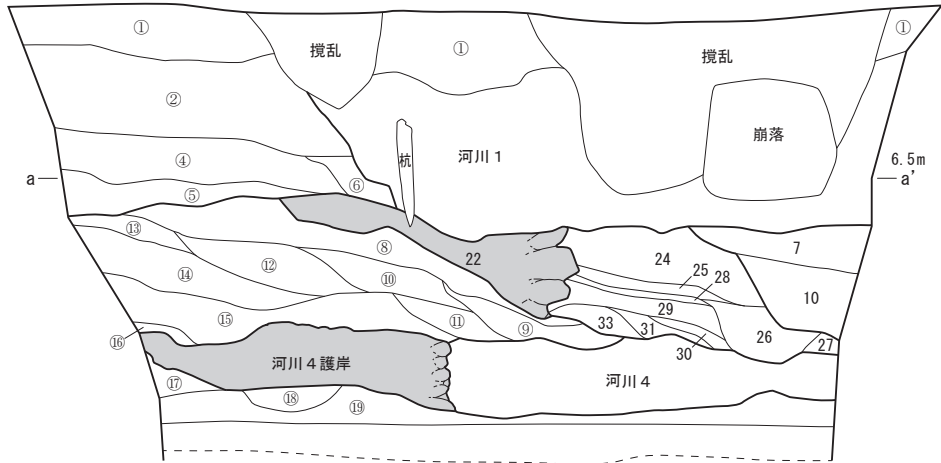
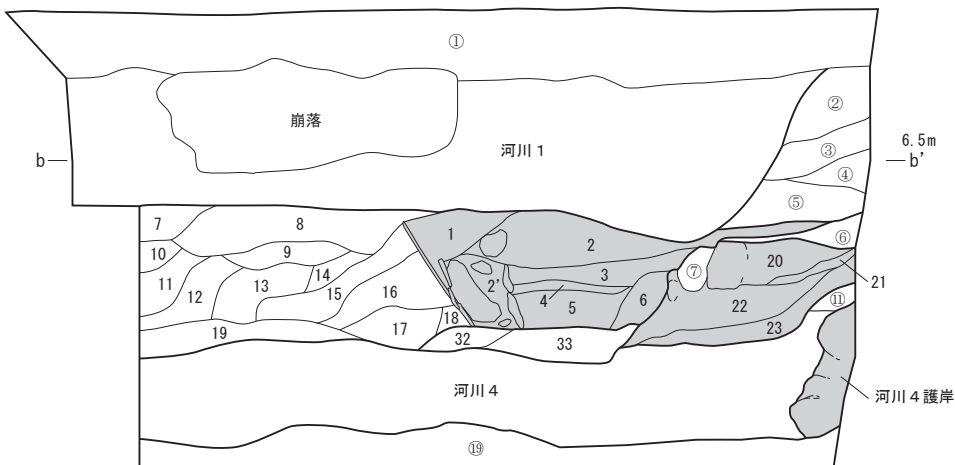


図11 第2面 遺構分布図

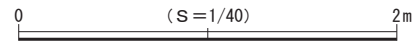
北壁



南壁



※丸数字は堆積土層



河川2護岸跡

- 1層 明青灰色粘質土 泥岩(φ1~5cm)・泥岩粒中量、有機質土少量含む。粘性・締まりあり。
- 2層 暗青灰色粘質土 泥岩(φ3cm~拳大)・泥岩粒・有機質土少量含む。粘性ややあり。締まりあり。
- 2'層 暗青灰色粘質土 2層に非常に似るが、人頭大の泥岩を多量に含む。
- 3層 暗灰色粘質土 泥岩粒少量、炭化物・有機質土中量含む。粘性あり。締まりややあり。
- 4層 灰色粘質土 有機質土中量、炭化物粒少量含む。粘性あり。締まり弱い。
- 5層 暗褐色粘質土 泥岩(φ0.5~1cm)・貝殻片少量、炭化物・有機質土中量含む。粘性・締まりあり。
- 6層 暗褐色粘質土 泥岩(φ3~5cm)少量、炭化物・有機質土中量含む。粘性・締まりあり。

河川2堆積土

- 7層 淡青灰色砂質土 泥岩(φ3~5cm)・泥岩粒多量、炭化物少量含む。粘性なし。締まりややあり。
- 8層 青灰色弱粘質土 泥岩(φ3~5cm)・泥岩粒中量、炭化物・かわらけ片少量含む。粘性・締まりややあり。
- 9層 灰色弱粘質土 泥岩(φ0.5~1cm)中量、泥岩粒・炭化物少量含む。粘性・締まりややあり。
- 10層 暗灰色弱粘質土 泥岩(φ5cm~拳大)・泥岩粒中量、炭化物・有機質土少量含む。粘性・締まりややあり。
- 11層 暗灰色弱粘質土 泥岩(φ1~3cm)・泥岩粒・炭化物・有機質土少量含む。粘性・締まりややあり。
- 12層 暗灰色弱粘質土 泥岩(φ3~10cm)・泥岩粒中量、炭化物少量含む。粘性・締まりややあり。
- 13層 暗青灰色砂層 拳大~泥岩粒までの大小の泥岩を含む。
- 14層 有機質土層 茶褐色有機質土層。炭化物・泥岩粒少量含む。
- 15層 有機質土層 炭化物少量、木製品含む。
- 16層 暗褐色弱粘質土 泥岩(φ1~3cm)・泥岩粒少量、炭化物中量含む。締まりややあり。

- 17層 暗青灰色弱粘質土 泥岩(φ3~5cm)・泥岩粒少量、炭化物・有機質土中量含む。粘性・締まりややあり。
- 18層 有機質土層 泥岩粒少量含む。
- 19層 暗青灰色弱粘質土 泥岩(φ1~5cm)・泥岩粒多量、木製品含む。泥岩の多くは水磨している。締まりややあり。

河川3護岸跡

- 20層 暗褐色粘質土 泥岩(拳大)・炭化物・有機質土少量含む。粘性・締まりあり。
- 21層 暗褐色粘質土 泥岩粒中量、炭化物多量含む。粘性あり。締まりややあり。
- 22層 青灰色泥岩層 泥岩(拳大~人頭大)で構成される層。隙間に川砂・炭化物含む。
- 23層 暗青灰色弱粘質土 泥岩(φ1~3cm)中量、泥岩粒・炭化物・有機質土少量含む。粘性ややあり。締まりあり。

河川3堆積土

- 24層 暗灰色弱粘質土 泥岩(φ3~10cm)・泥岩粒・有機質土少量、山砂多量含む。締まりややあり。
- 25層 暗褐色粘質土 泥岩(φ0.5~1cm)・貝殻片少量、炭化物・有機質土中量含む。粘性・締まりあり。
- 26層 暗青灰色砂質土 泥岩(φ1~5cm)中量、泥岩粒・小石少量、山砂多量含む。締まりややあり。
- 27層 黒褐色粘質土 泥岩粒少量含む。粘性・締まりあり。
- 28層 暗青灰色砂質土 泥岩(φ3~5cm)少量、山砂多量に含む。締まりややあり。
- 29層 暗茶灰色粘質土 泥岩(φ1~3cm)・炭化物少量、有機質土中量含む。粘性あり。締まりややあり。
- 30層 暗茶灰色粘質土 29層に似るが泥岩は含まない。木製品多い。
- 31層 暗灰色弱粘質土 泥岩(φ0.5~1cm)・有機質土少量、炭化物中量含む。締まり弱い。
- 32層 暗青灰色弱粘質土 泥岩粒多量、有機質土中量含む。粘性あまりなし。締まりややあり。
- 33層 有機質土層 茶褐色有機質土層。炭化物・貝殻片少量含む。木製品多く含む。

図12 第2面 河川2・3土層断面図

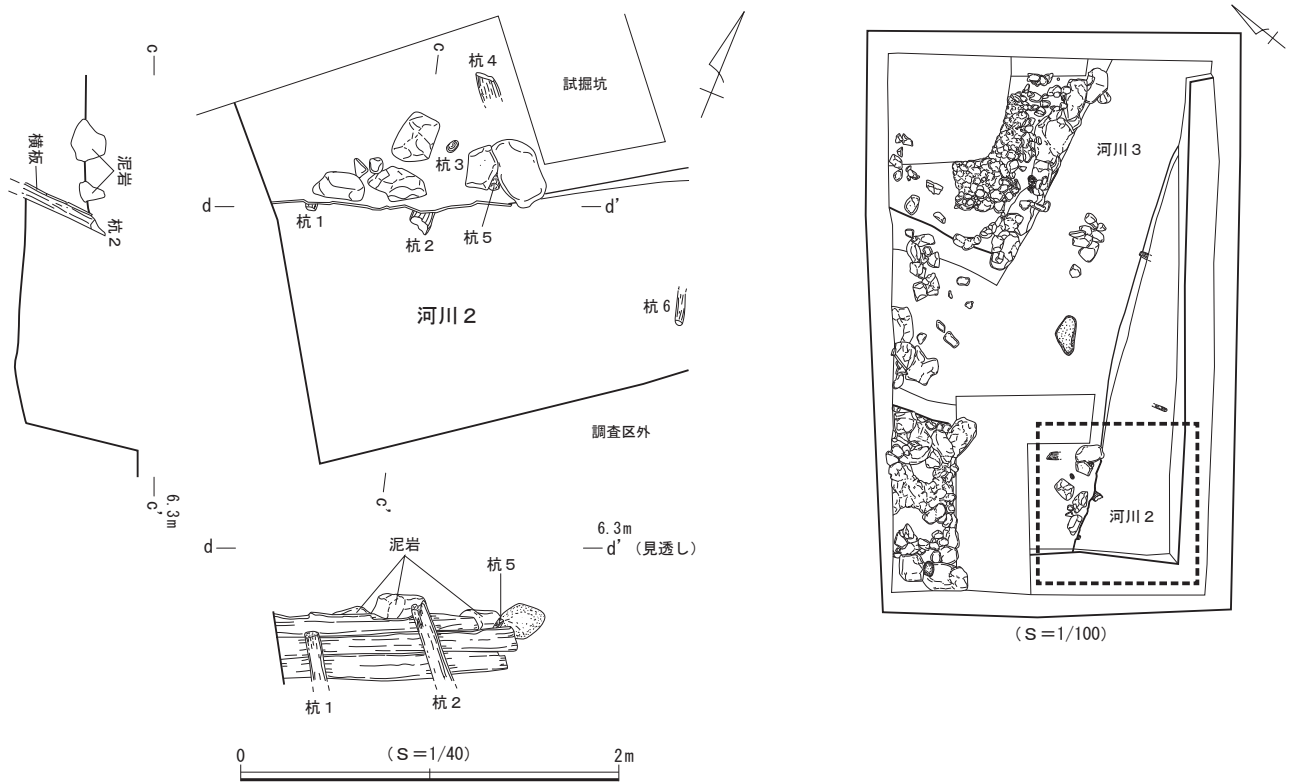


図13 第2面 河川2護岸跡

わる可能性があるものの、周囲からその痕跡は確認されず単独で検出されている。

河川2堆積土出土遺物(図14~16)

遺物はかわらけ354点、磁器3点、陶器92点、石製品1点、木製品64点が出土し、このうち75点を図示した。

1~40はかわらけである。1~30はロクロ成形によるかわらけ、31はロクロ成形であるが、底面の回転糸切痕をナデ消しているかわらけ、32~40は手づくね成形によるかわらけである。21・24には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。41は産地不明の陶器碗である。42~49は常滑窯産の製品で、42~45が甕、46~48が片口鉢Ⅰ類、49が片口鉢Ⅱ類である。50~75は木製品である。50は板折敷、51~54は経木折敷、55は曲物、56~64は草履芯、65は串状、66は籠状、67・68は棒状、69は杭、70~72は用途不明の製品、73~75は箸状である。

河川2護岸跡出土遺物(図17~19)

遺物はかわらけ539点、磁器4点、陶器36点、木製品47点が出土し、このうち135点を図示した。

1~99はかわらけである。1~3は白かわらけ、4~62はロクロ成形によるかわらけ、63~66はロクロ成形であるが、底面の回転糸切痕をナデ消しているかわらけ、67~99は手づくね成形によるかわらけである。36・50・58・93には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。100は舶載磁器の白磁皿である。101~105は常滑窯産の製品で、101~104が甕、105が片口鉢Ⅱ類である。106~135は木製品である。106は漆器椀、107~111は草履芯、112は串状、113・114は棒状、115~122は用途不明の製品、123~135は箸状である。

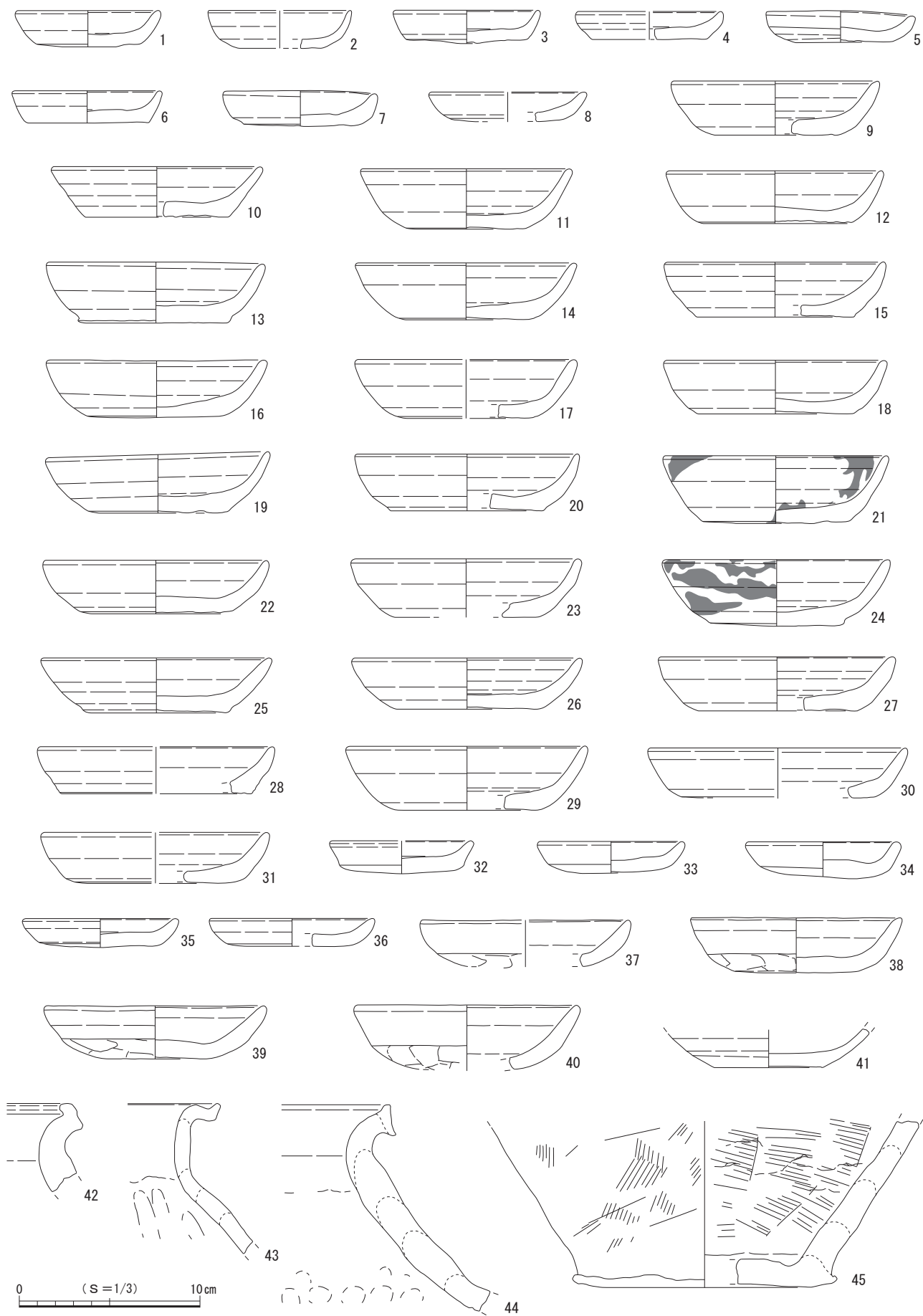


图14 第2面 河川2堆積土出土遺物(1)

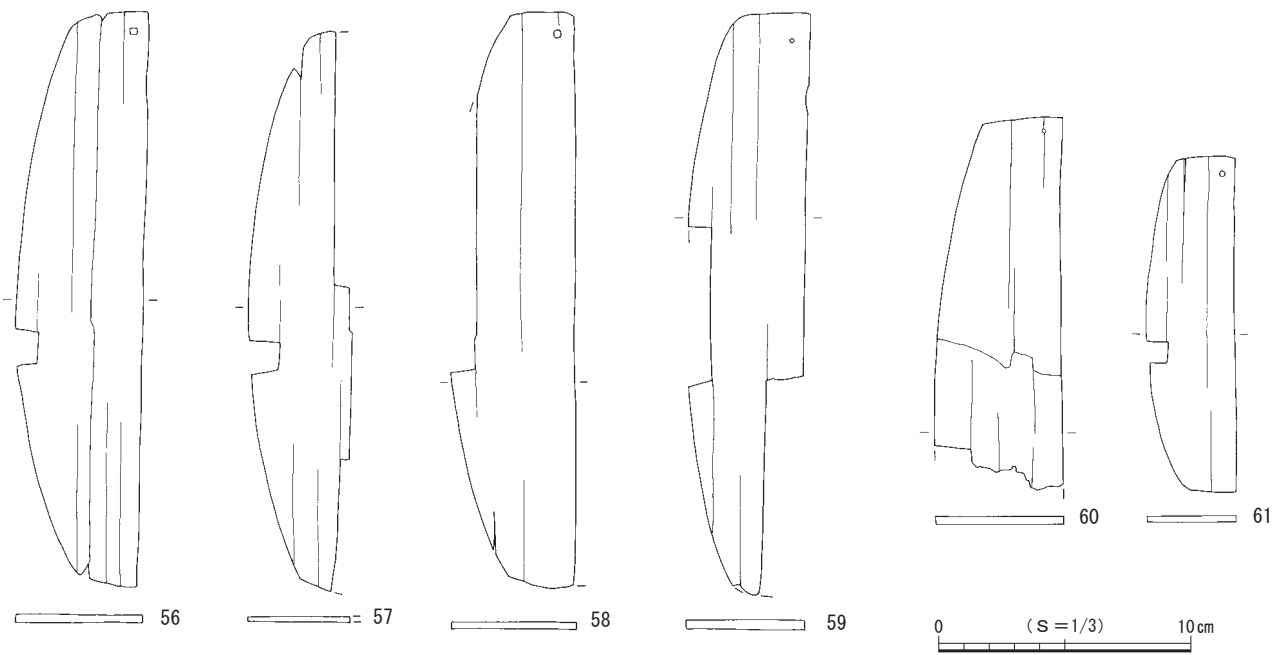
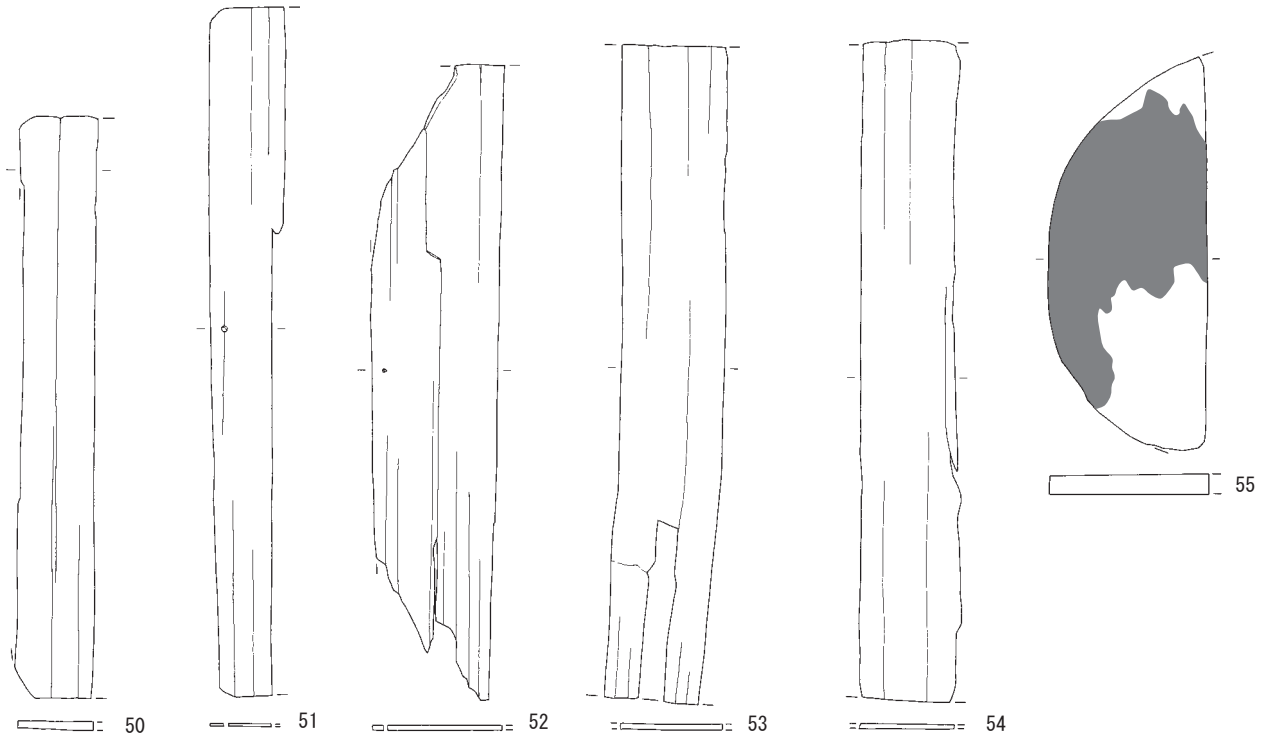
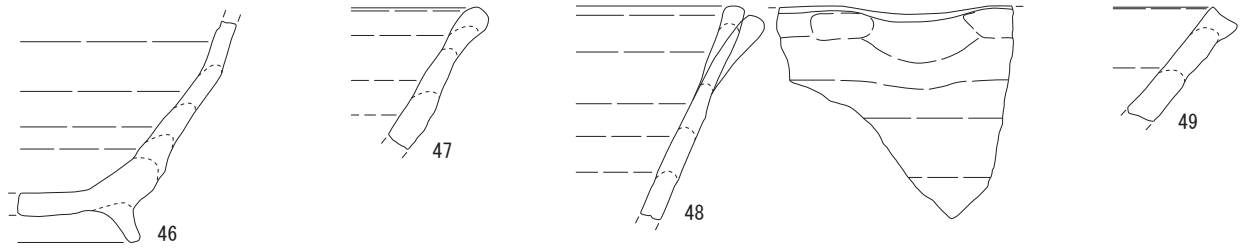


图15 第2面 河川2堆積土出土遺物(2)

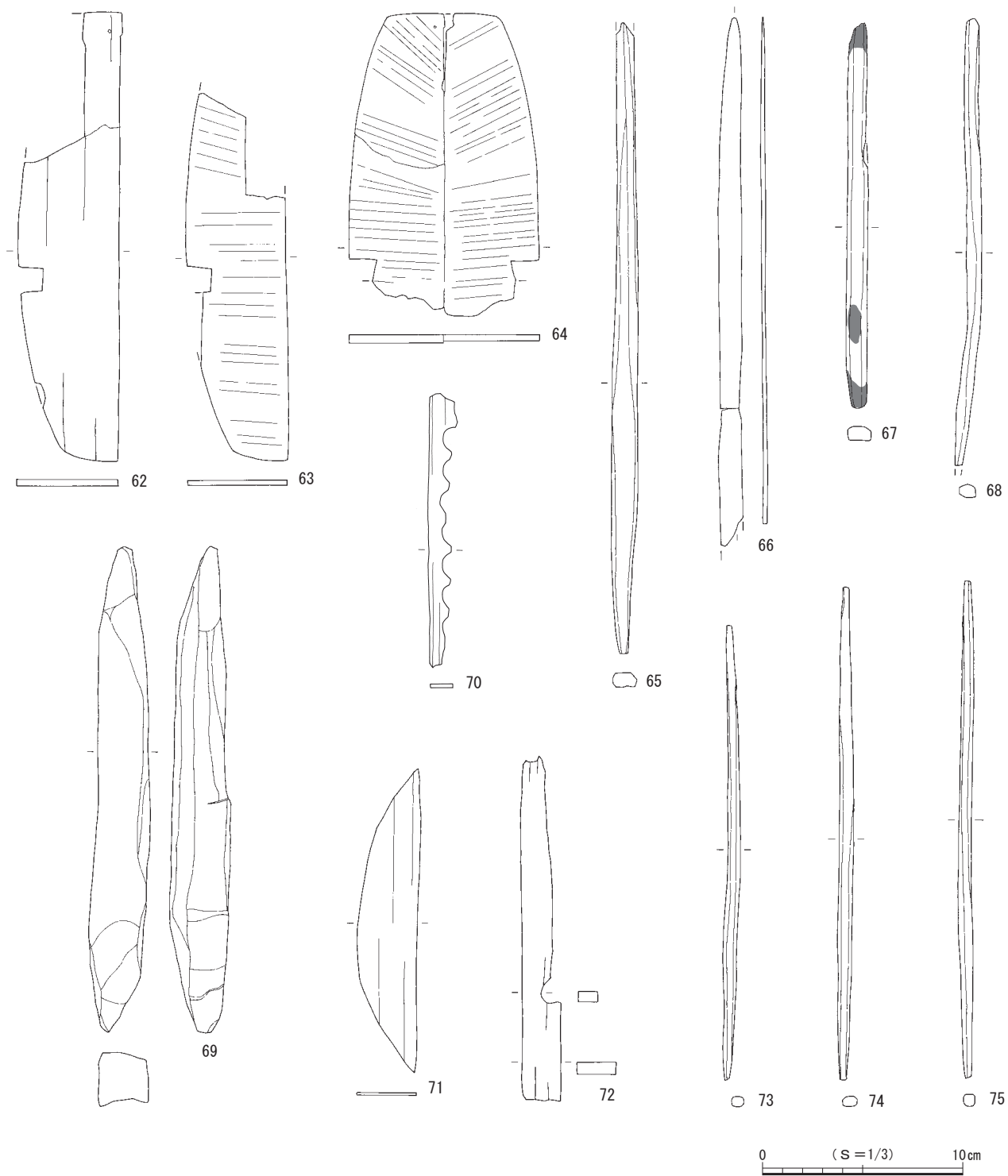


图16 第2面 河川2堆積土出土遺物(3)

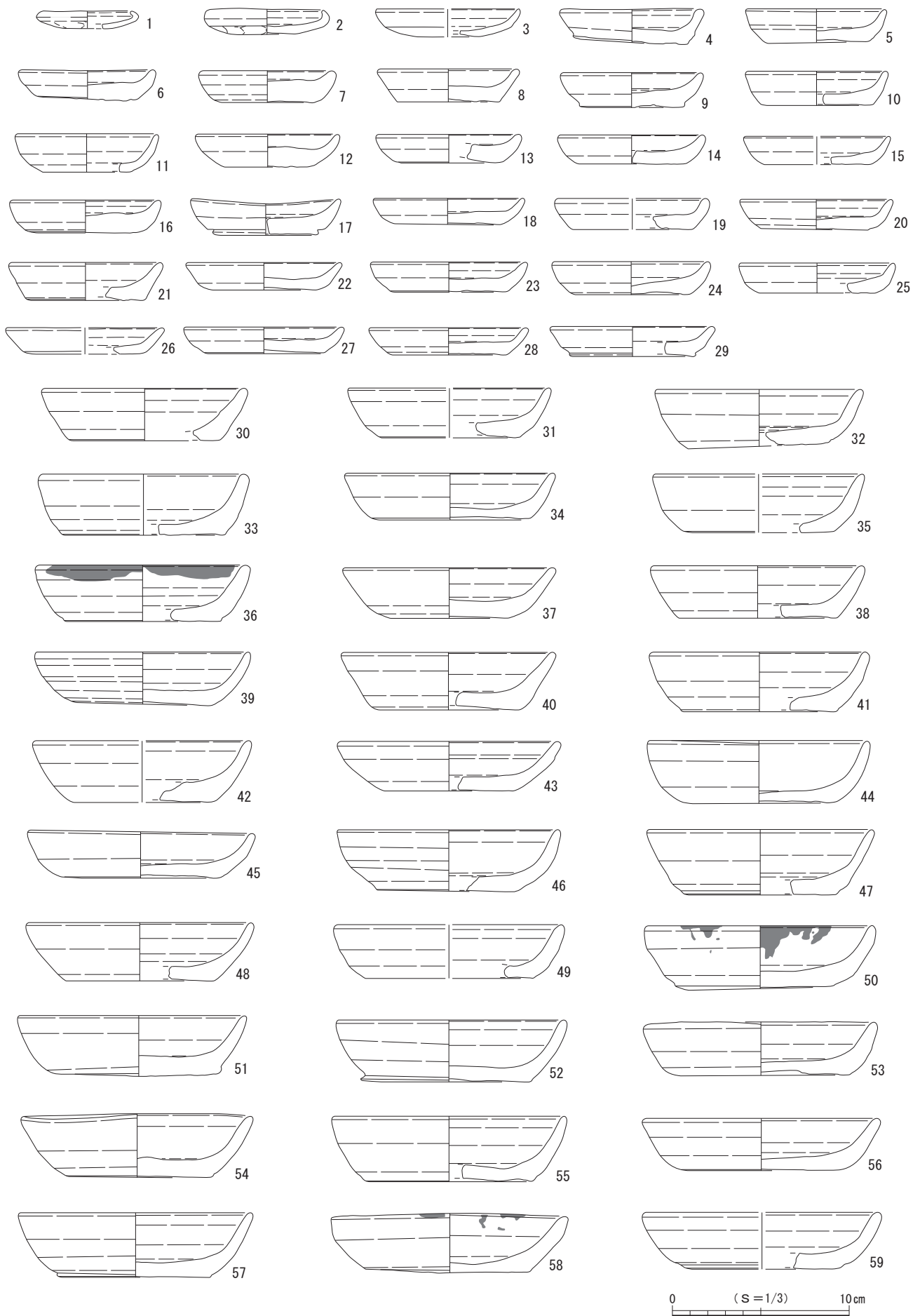


図17 第2面 河川2護岸跡出土遺物(1)

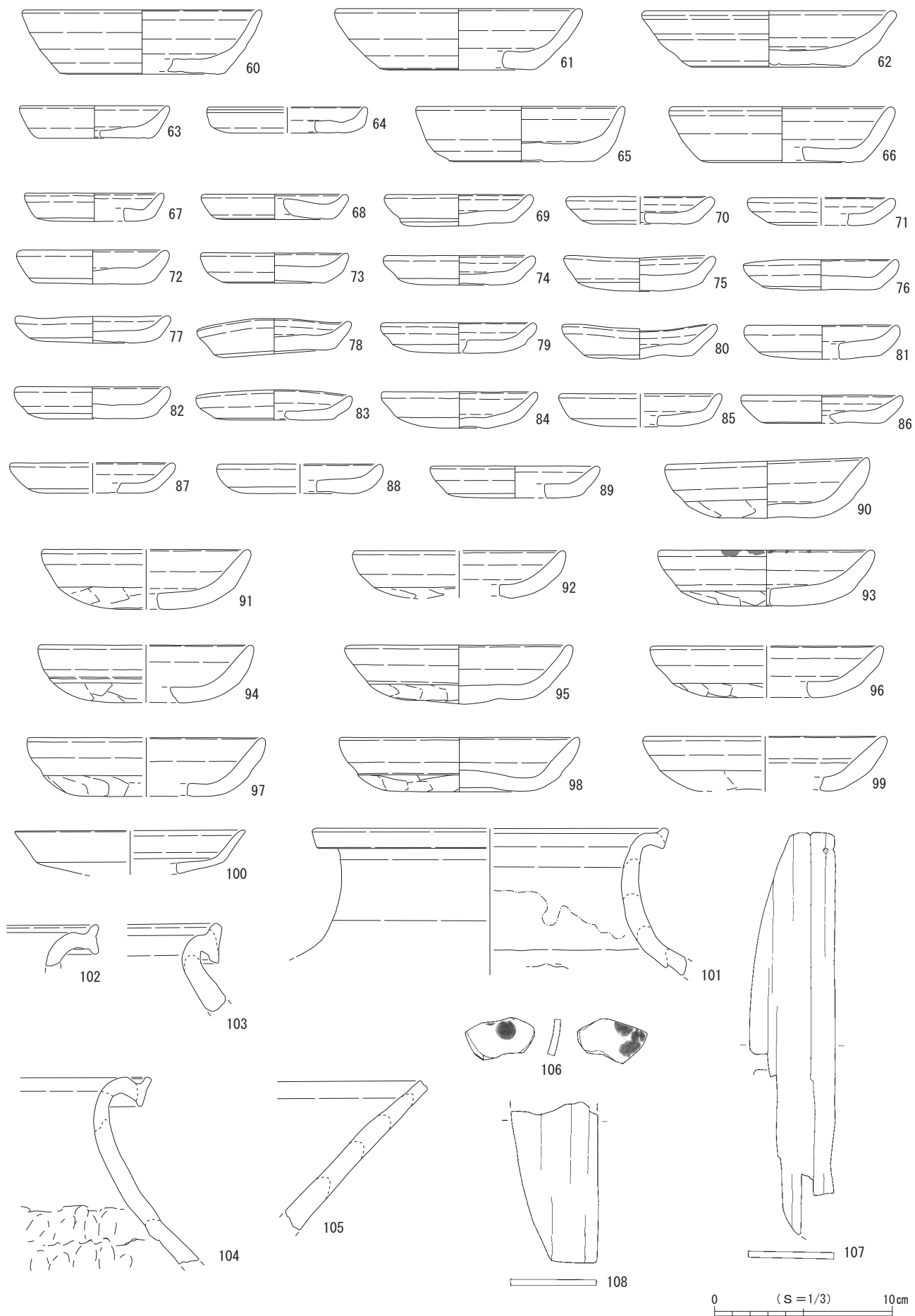


図18 第2面 河川2護岸跡出土遺物(2)

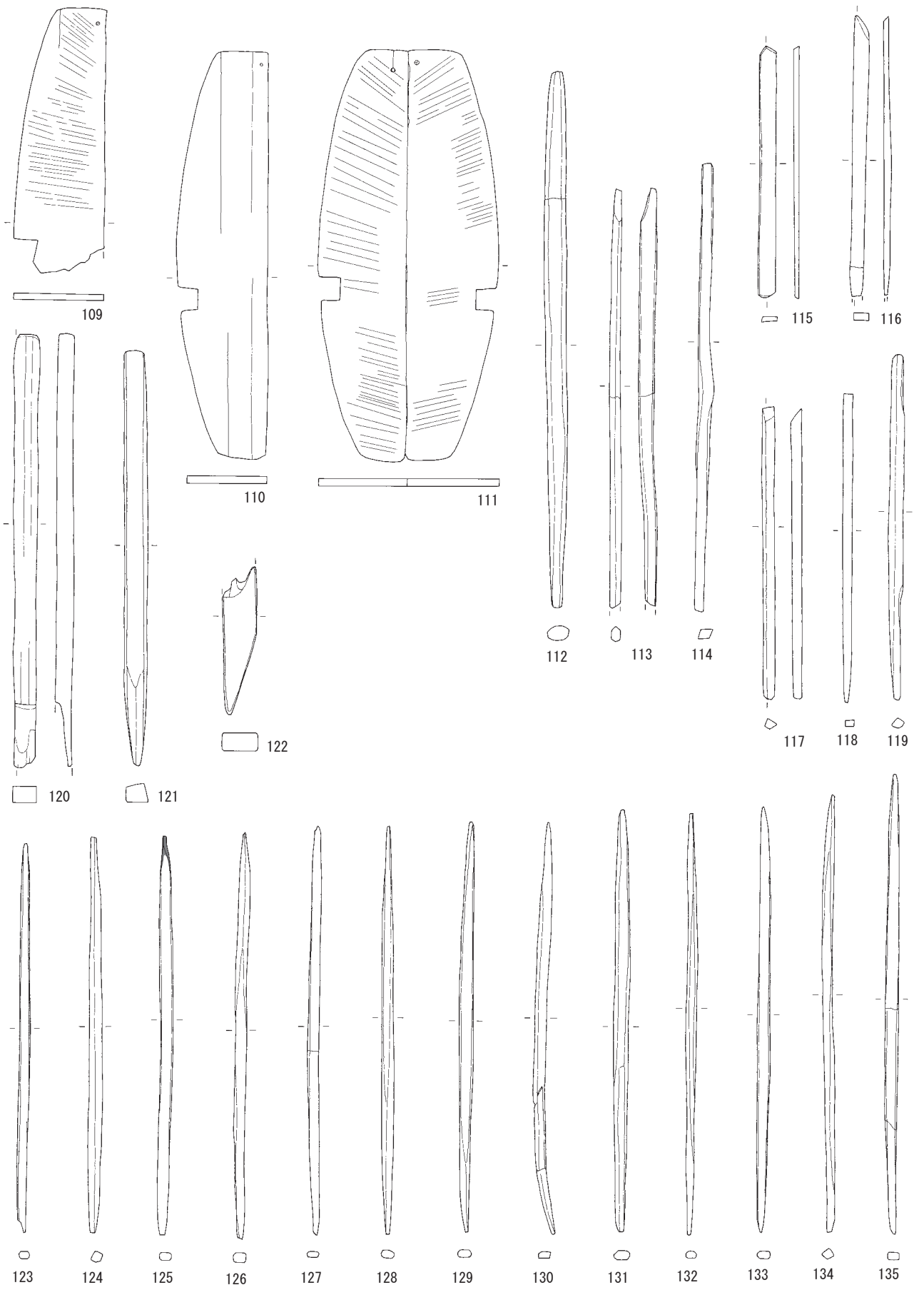


図19 第2面 河川2護岸跡出土遺物(3)

0 (S=1/3) 10cm

河川3 (図11・12)

調査区中央で東西方向に検出した。南側で河川2と重複し、流路の南側を破壊されているため、南岸の様相を把握することはできなかった。また、調査区中央で河川3の北岸から北へと延びる落ち込みが検出され、この付近で流路の方向が若干南寄りへと変化する。検出した長さは7.7mで、調査区内における川幅は最大で約1.8m、深さ約60cmを測る。河床面の標高は東側で5.59m、西側で5.33mと東から西に向かって傾斜し、時期的に新しい河川2の河床面よりもわずかに低い位置にある。流路の主軸方位はN-67°-Eで、河川2と同じ方向を指す。堆積土は24~33層までの10層に区分され、26層と28層は山砂を多量に含む砂質土で、ラミナ状の堆積が認められる。このうち最も北岸寄りに堆積する33層は有機質土層で、木製品が多量に出土した。その他の土層は粘質土を基調としている。

河川の北岸に沿って石組みによる護岸跡が検出され、中央部の落ち込みより東側部分で泥岩を平積みした良好な護岸跡が認められた。

河川の堆積土から遺物は出土しなかった。

護岸跡 (図20)

河川3の北岸に沿って検出した。調査区外の東側および西側へ続いており、落ち込みとの交差部分には護岸が認められなかった。泥岩を用いた石組みによって造成された護岸で、落ち込みの東側と西側で様相が異なることから、ここでは分けて記述する。

まず落ち込みの東側は、北岸の縁に東西3mにわたって大形の泥岩を南面を揃えて平置きし、その東半部は上下2段に積み上げている。泥岩の大きさは最大で長さ70cm、幅35cm、高さ30cmを測る。石組み

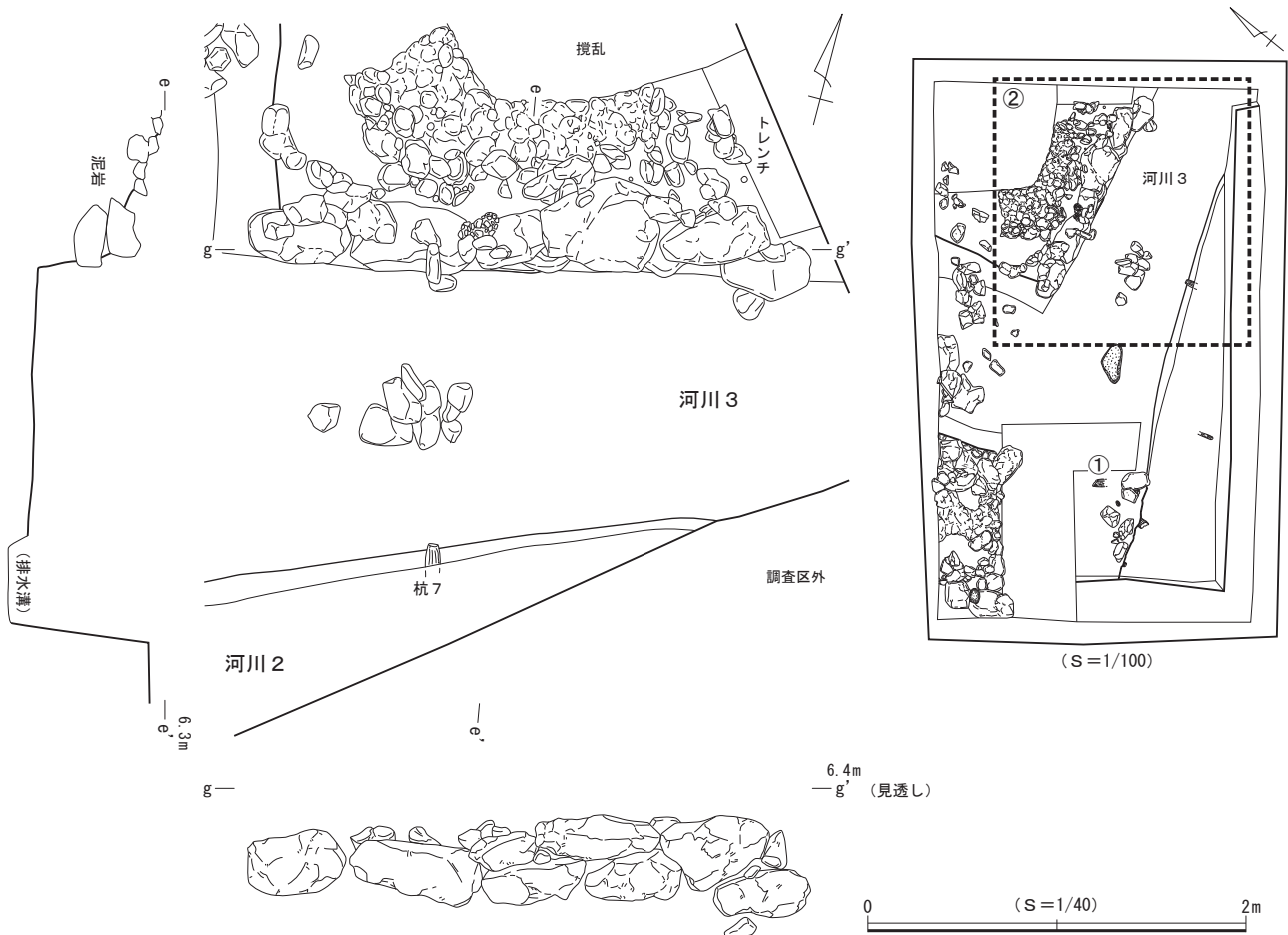


図20 第2面 河川3護岸跡(部分)

の裏込めは拳大から人頭大の泥岩で構成され、泥岩の隙間に川砂と炭化物が貫入する。調査区北壁で確認された裏込めの規模は、南北1.6m、厚さは最大で約35cmである。

次に落ち込みの西側は、拳大から人頭大の泥岩を用いて護岸を築造し、泥岩の隙間には川砂や炭化物が含まれている。また、落ち込みの西壁の縁と調査区西端部には護岸の最上面に30～60cmを測る大形の泥岩を配する。護岸の規模は東西現存長2.2m、南北現存長1.0m、厚さは最大で55cmを測る。

遺物は出土しなかった。

落ち込み (図11・21)

河川3の北岸中央付近から北側にかけて検出した。調査区外の北側へと延びており、全容を把握することができず、土坑状のものかあるいは溝状のものか判然としない。規模は南北現存長1.75m、東西2.36m、深さ60cm前後を測る。壁面は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はわずかな凹凸がみられるがほぼ平坦で、標高は5.6～5.9m前後を測る。覆土は14層に分層され、中層にあたる9層からは木製品の出土が認められた。また、壁際の崩落土中より、最大で長さ50cmを測る泥岩が出土している。

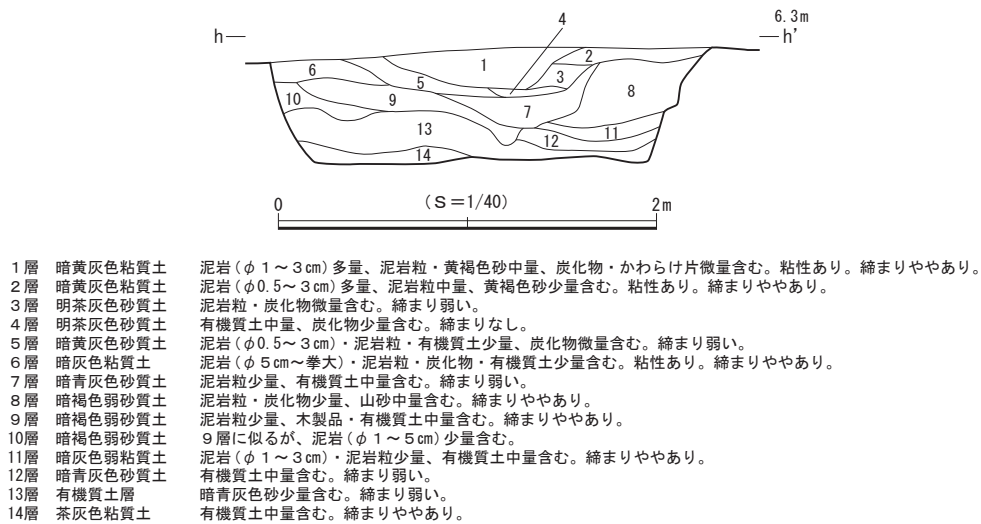


図21 第2面 河川3落ち込み土層断面図

落ち込み出土遺物 (図22)

遺物はかわらけ88点、陶器19点、木製品25点が出土し、このうち33点を図示した。

1～18はかわらけである。1～13はロク口成形によるかわらけ、14～18は手づくね成形によるかわらけである。14・15には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。19～34は木製品である。19・20は草履芯、21は串状、22～25は杭、26～30は用途不明の製品、31～33は箸状である。

(2) 遺構外出土遺物 (図23～25)

第2面では、遺構外からも多くの遺物が出土し、このうち103点を図示した。

1～44はかわらけである。1～35はロク口成形によるかわらけ、36～38はロク口成形であるが、底面の回転糸切痕をナデ消しているかわらけ、39～44は手づくね成形によるかわらけである。19・22・27・36・37には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。45・46は陶器で、いずれも常滑窯産の甕である。47～103は木製品である。47は漆器皿、48は器種不明の漆器、49・50は経木折敷、51は曲物、52は刀子鞘、53～57は草履芯、58は織機、59は火鑽板、60は籠状、61～68は串状、69～75は棒状、76は杭、77～83は用途不明の製品、84～103は箸状である。

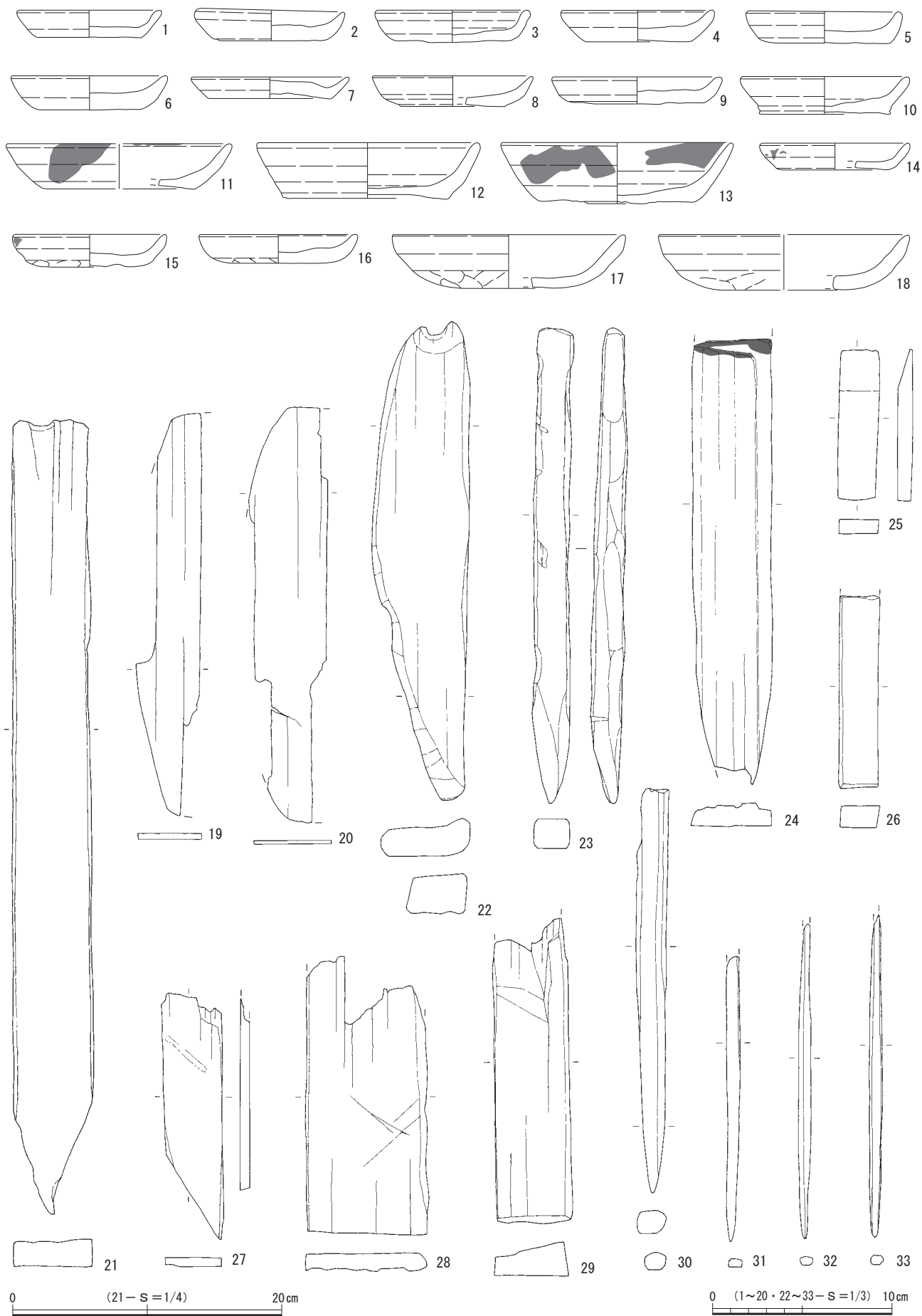


図22 第2面 河川3落ち込み出土遺物

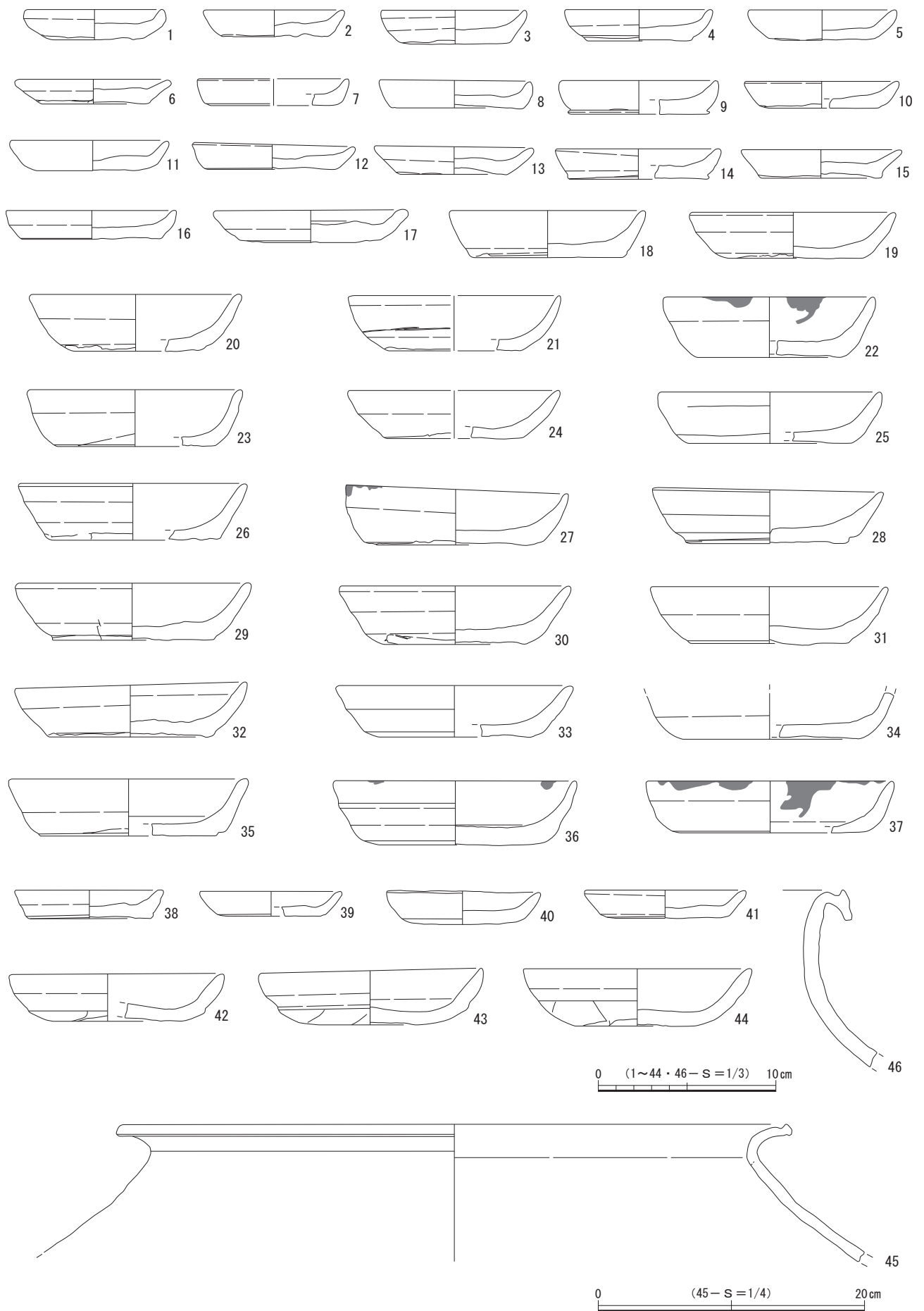


图23 第2面 遺構外出土遺物(1)

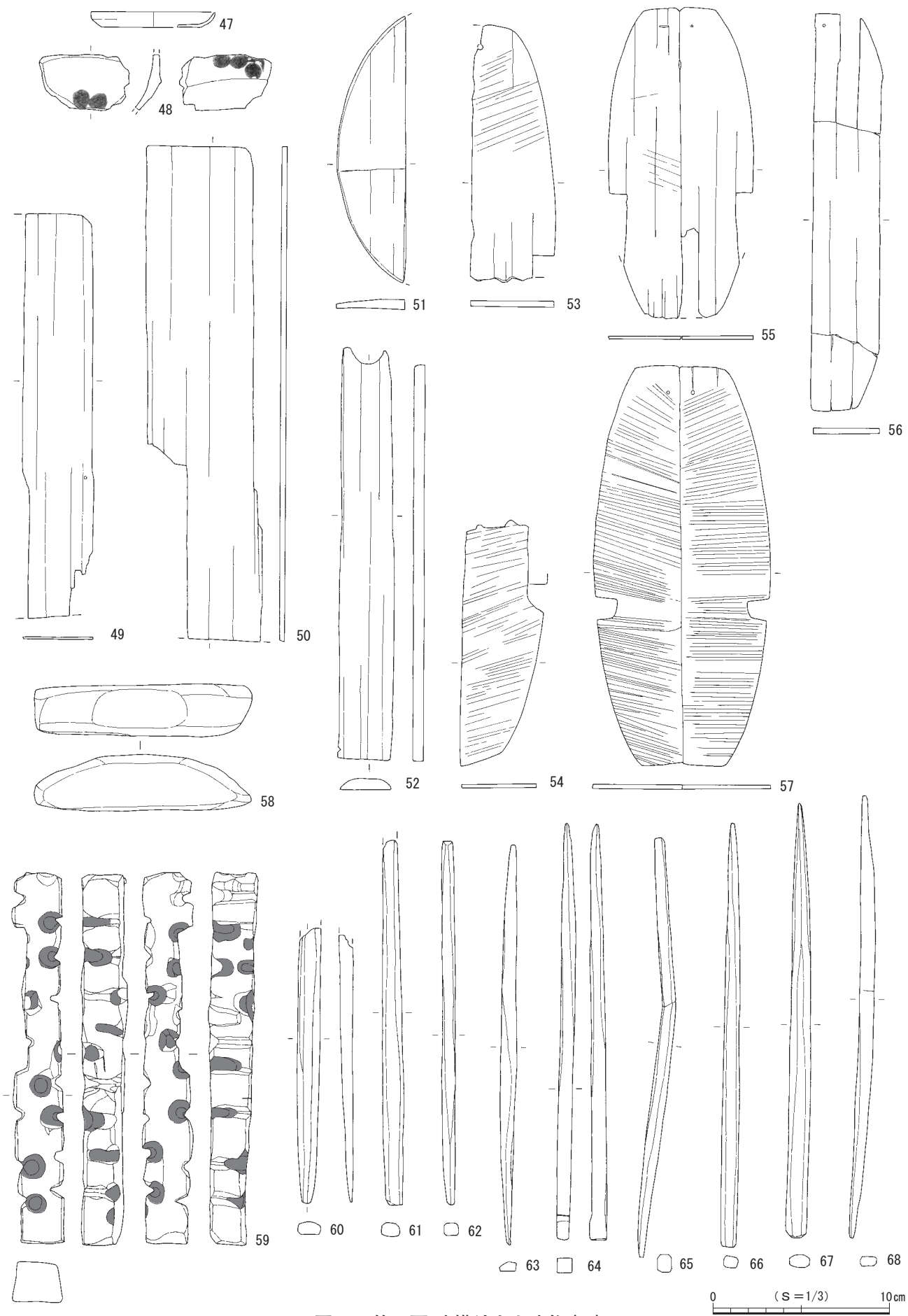


图24 第2面 遺構外出土遺物(2)

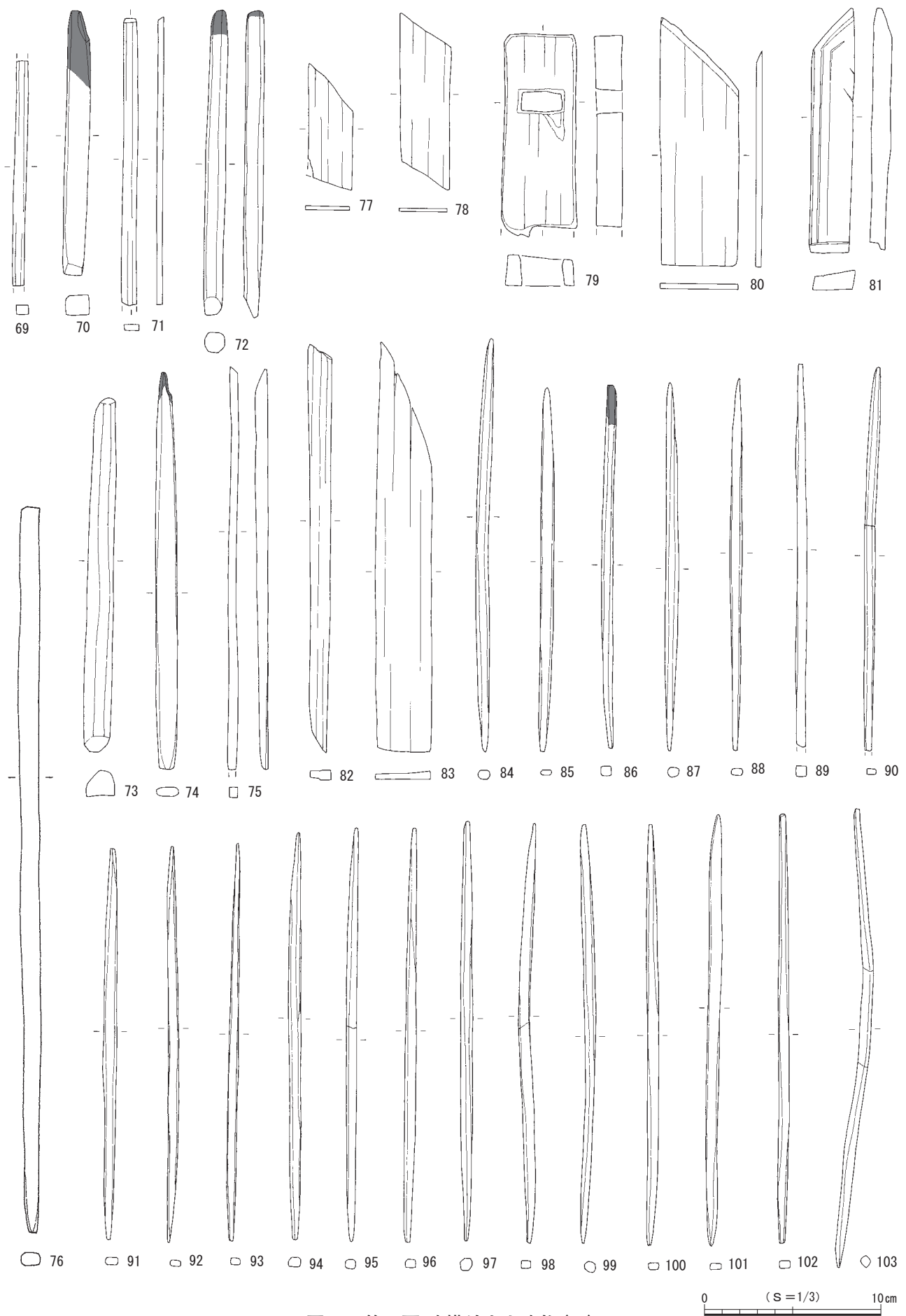


图25 第2面 遺構外出土遺物(3)

第3節 第3面の遺構と遺物

第3面の遺構は、第2面で検出した河川2と河川3の下層に堆積した自然堆積土8～16層の下位より検出され、確認面の標高は約5.7mを測る。検出した遺構は河川1本で、これに伴う護岸跡を河川の北岸にあたる部分で確認した(図26)。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類、木製品が出土しており、12世紀末～14世紀代と広い時期幅をもつが、14世紀代の遺物については河川2からの混入品とも考えられる。河川4の護岸跡出土遺物には5～6 a型式の常滑窯産の甕が数点含まれており、それを基準とするならば河川4の護岸跡は13世紀前葉～中葉頃に構築されたものと考えられ、河川3の護岸跡が構築されるまで河川4とともに機能していたものと推定される。

(1) 河川・護岸跡

第3面では、護岸を伴う河川1本を検出した。河川の北岸から河床面にかけてを確認し、北岸には護岸跡が築かれていた。護岸跡は大小の泥岩を用いた石組みによる構造で、西側部分は大形の泥岩を段状に積み上げた石段状の造成が認められた。また、護岸跡の中央東側で杭列を検出し、これと一部分が重複する落ち込みを認め、ともに護岸に関わる施設と考えられる。なお、調査区の制約から川幅や南岸の様相などは判然としなかった。

河川4 (図26・27)

調査区を東西方向に横断して検出し、河川の南岸は調査区外の南側にあると考えられる。流路はほぼ直線的で、調査区中央付近で河床面が15～20cmほど低くなる。検出した長さは6.8mで、調査区内における川幅は最大で約2.8m、深さ約40cmを測る。河床面の標高は東側で5.22m、西側で4.98mと東から西に向かって傾斜し、高低差は24cmである。流路の主軸方位はN-66°-Eを指す。堆積土は2～24層までの23層に細分され、このうち5・8・9・22層は有機質土層で、5・9層からは木製品が多量に出土した。また、2・3・4・24層は粘質土で、その他の土層は砂質土を基調としている。堆積土中からは多数の獣骨類が出土している。

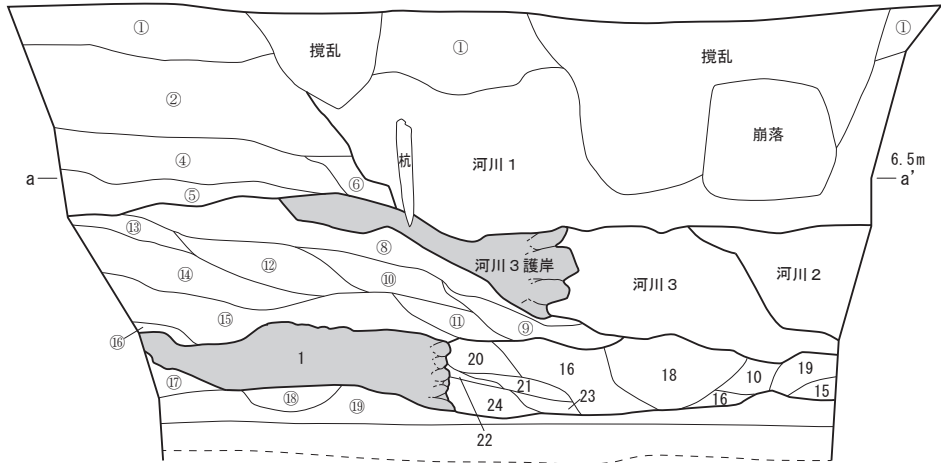
河川の北岸に沿って石組みによる護岸跡が検出され、調査区中央より西側部分では大形の泥岩を平積みした石積みが認められた。

護岸跡 (図26・27)

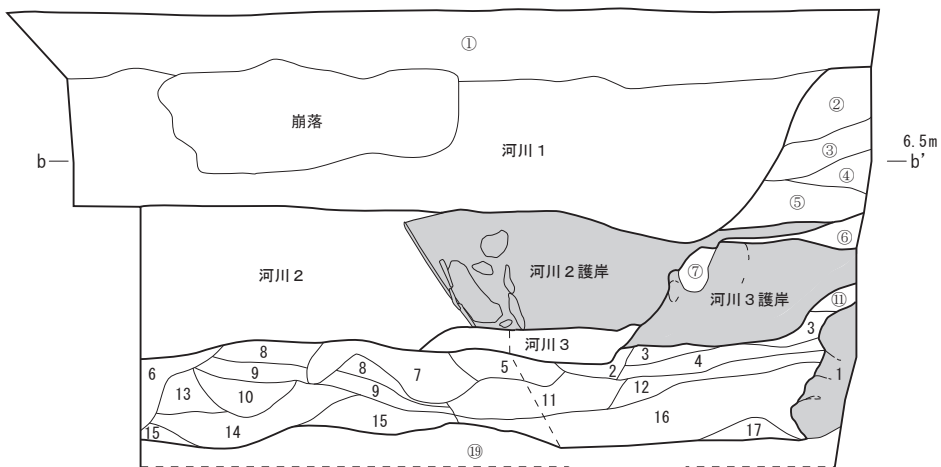
河川4の北岸に沿って検出した。泥岩を用いて造成された護岸跡で、調査区外の東側および西側へと続く。拳大から人頭大の泥岩を用いて北岸の縁に東西5.45mにわたり護岸を行い、南北現存長は1.7m、北壁での造成土の厚さは最大で35cmを測る。泥岩の隙間には暗褐色粘質土が貫入している。護岸の主軸方位は河川4と同じN-66°-Eを指す。

調査区中央西側に、大形の泥岩が南面をほぼ揃えて積み上げられた石段状の造成が認められた。泥岩の大きさは長さが最大で70cm、厚さが25cmほどを測り、造成の規模は東西現存長2.8mで、西端部では南面が傾斜をもち2段に積み上げられている。この石段状の造成は、主軸方位が護岸跡の方位よりもやや北に振れたN-50°-Eを指す。

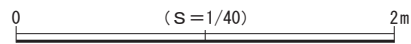
北壁



南壁



※丸数字は堆積土層



河川4護岸跡

1層 青灰色泥岩ブロック 拳大～人頭大の泥岩で構成される層。隙間には暗褐色粘質土がつまっている。

河川4堆積土

- | | | |
|-----|----------|---|
| 2層 | 茶灰色粘質土 | 炭化物少量、有機質土中量含む。粘性あり。締まりややあり。 |
| 3層 | 暗青灰色弱粘質土 | 泥岩粒・有機質土中量、炭化物・貝砂少量含む。粘性・締まりややあり。 |
| 4層 | 茶灰色弱粘質土 | 泥岩粒・炭化物・貝砂少量、有機質土多量含む。粘性・締まりややあり。木製品多く含む。 |
| 5層 | 有機質土層 | 茶褐色有機質土層。泥岩粒・炭化物少量含む。木製品多く含む。 |
| 6層 | 暗青灰色砂質土 | 泥岩(φ0.5～5cm)多量、泥岩粒中量、貝砂少量含む。締まりややあり。 |
| 7層 | 暗青灰色砂質土 | 泥岩(φ1～6cm)・泥岩粒多量、小石・かわらけ片少量含む。締まりややあり。 |
| 8層 | 有機質土層 | 暗青灰色砂を斑状に中量含む。木製品少ない。 |
| 9層 | 有機質土層 | 貝砂少量含む。木製品多く含む。 |
| 10層 | 灰色砂質土 | 有機質土を斑状に中量含む。締まりなし。 |
| 11層 | 暗青灰色砂質土 | 泥岩(φ1cm～拳大)・泥岩粒・貝殻片・かわらけ片多量含む。締まりあり。 |
| 12層 | 暗青灰色砂質土 | 泥岩(φ3～5cm)・泥岩粒・貝砂中量含む。締まりややあり。 |
| 13層 | 灰色砂質土 | 有機質土を斑状に多量、黒褐色粘土を中量含む。締まりあり。 |
| 14層 | 暗青灰色砂質土 | 泥岩(φ1cm～拳大)・貝殻片多量、かわらけ片中量、泥岩粒少量含む。 |
| 15層 | 暗青灰色砂質土 | 有機質土を斑状に中量含む。締まり弱い。 |
| 16層 | 暗青灰色砂質土 | 泥岩(φ3cm～拳大)多量、泥岩粒少量、貝殻片・かわらけ片・貝砂中量含む。締まりややあり。 |
| 17層 | 暗青灰色砂質土 | 有機質土を斑状に少量含む。締まり弱い。 |
| 18層 | 暗青灰色砂質土 | 泥岩(φ3cm～拳大)多量、泥岩粒・小石中・有機質土少量含む。粘性・締まりあり。 |
| 19層 | 暗青灰色砂質土 | 拳大泥岩多量、泥岩粒少量含む。締まりややあり。 |
| 20層 | 灰色砂質土 | 泥岩(φ3～5cm)・泥岩粒少量、有機質土中量、貝砂多量含む。締まり弱い。 |
| 21層 | 青灰色砂質土 | 泥岩粒・貝砂中量、炭化物少量含む。締まり弱い。 |
| 22層 | 有機質土層 | 炭化物少量含む。 |
| 23層 | 暗青灰色砂質土 | 泥岩(φ10cm～拳大)中量、有機質土・貝砂少量含む。締まりややあり。 |
| 24層 | 暗茶灰色粘質土 | 泥岩(φ3～10cm)多量、小石・有機質土少量含む。締まりあり。 |

図27 第3面 河川4土層断面図

杭列 (図28)

調査区北壁際の中央東寄りで検出した。水際からおおよそ1.1m離れた護岸部分に、8本の杭が20~50cm間隔でほぼ直線的に打ち込まれていた。杭①~⑧までの距離は根元で約2.1mを測り、列の軸方位はN-59°-Eを指す。杭は角杭で、大きさは長さ71~115cm、幅6~15cm、厚さ2~5cmを測る。なお、杭③~⑧の下位から不整形の落ち込みが確認された。規模は東西2.9m、南北現存長1.2mで、落ち込みの確認面からの深さは最大で25cmと浅く、護岸跡上面と落ち込み底面との比高差は70cm前後である。護岸跡上面で確認された杭列との関連は判然としないが、護岸跡を造成する際の掘り方の可能性が考えられる。

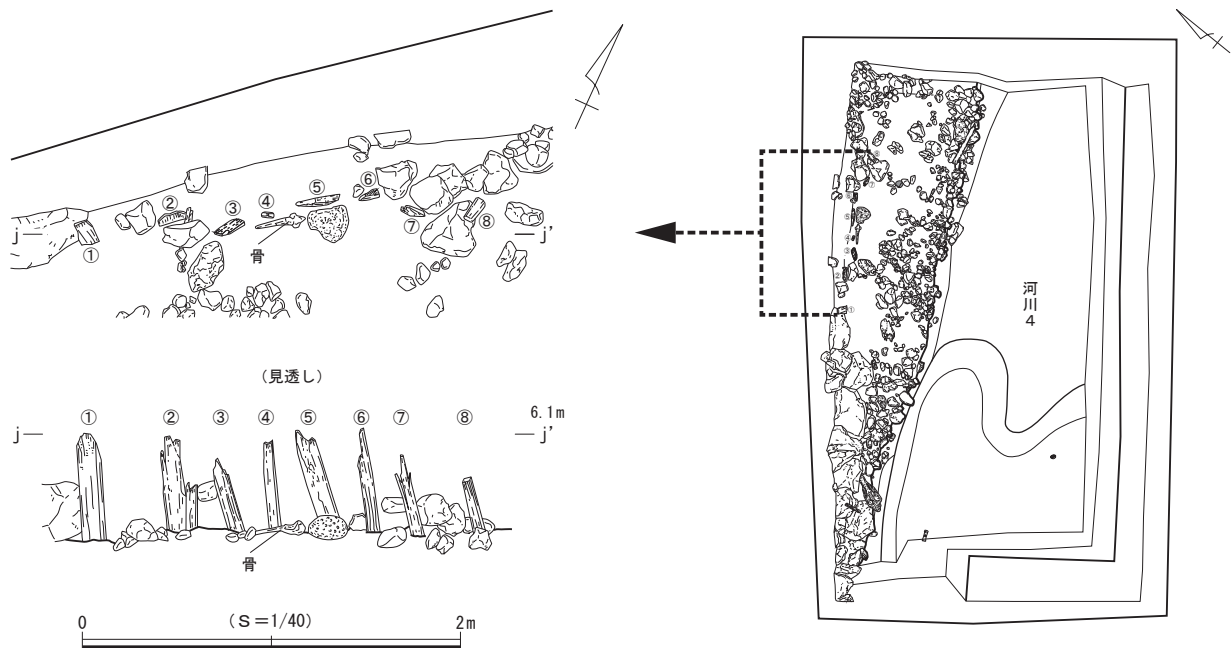


図28 第3面 河川4 杭列

河川4 堆積土出土遺物 (図29~34)

遺物はかわらけ1,781点、磁器12点、陶器95点、瓦質土器2点、瓦1点、石製品1点、木製品18点、金属製品1点、骨製品1点が出土し、このうち257点を図示した。

1~218はかわらけである。1~100はロクロ成形によるかわらけ、101~126はロクロ成形であるが、底面の回転糸切痕をナデ消しているかわらけ、127~218は手づくね成形によるかわらけである。51・61・65・82・120・132・155には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。219~224は船載磁器である。219は白磁壺、220は青白磁梅瓶、221~224は龍泉窯系青磁椀I類である。225~240は陶器類である。225は瀬戸窯産の片口鉢である。226~239は常滑窯産の製品で、226~232が甕、233~237が片口鉢I類、238・239が片口鉢II類である。240は産地不明の鉢である。241は瓦質土器の乗燭脚部である。242は銅製品で、菊花状を呈する飾り金具である。243~256は木製品である。243・244は経木折敷、245は曲物、246は形代、247は草履芯、248は串状、249は棒状、250は杭、251・252は用途不明の製品、253~256は箸状である。257は骨製の筭である。

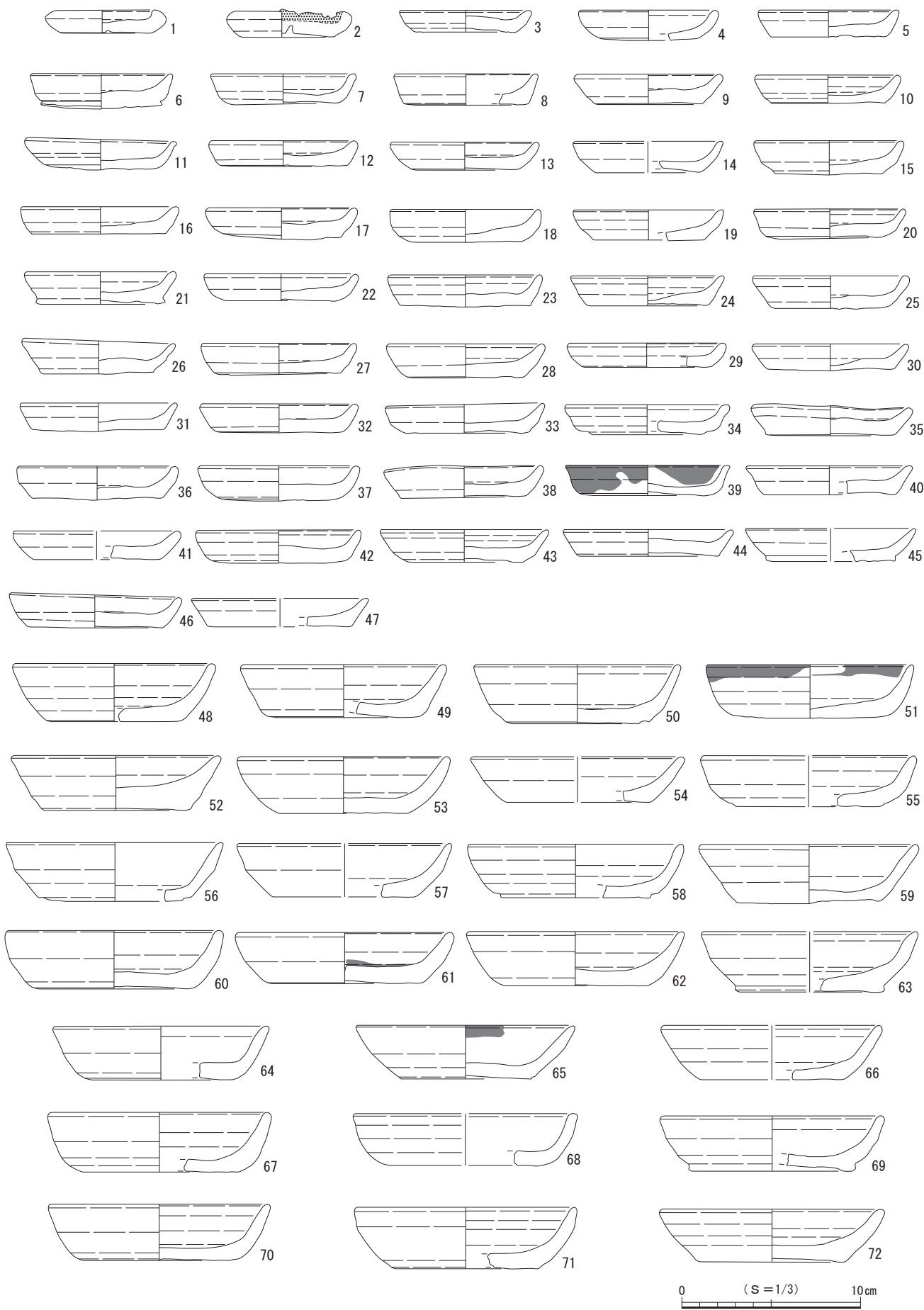


図29 第3面 河川4堆積土出土遺物(1)

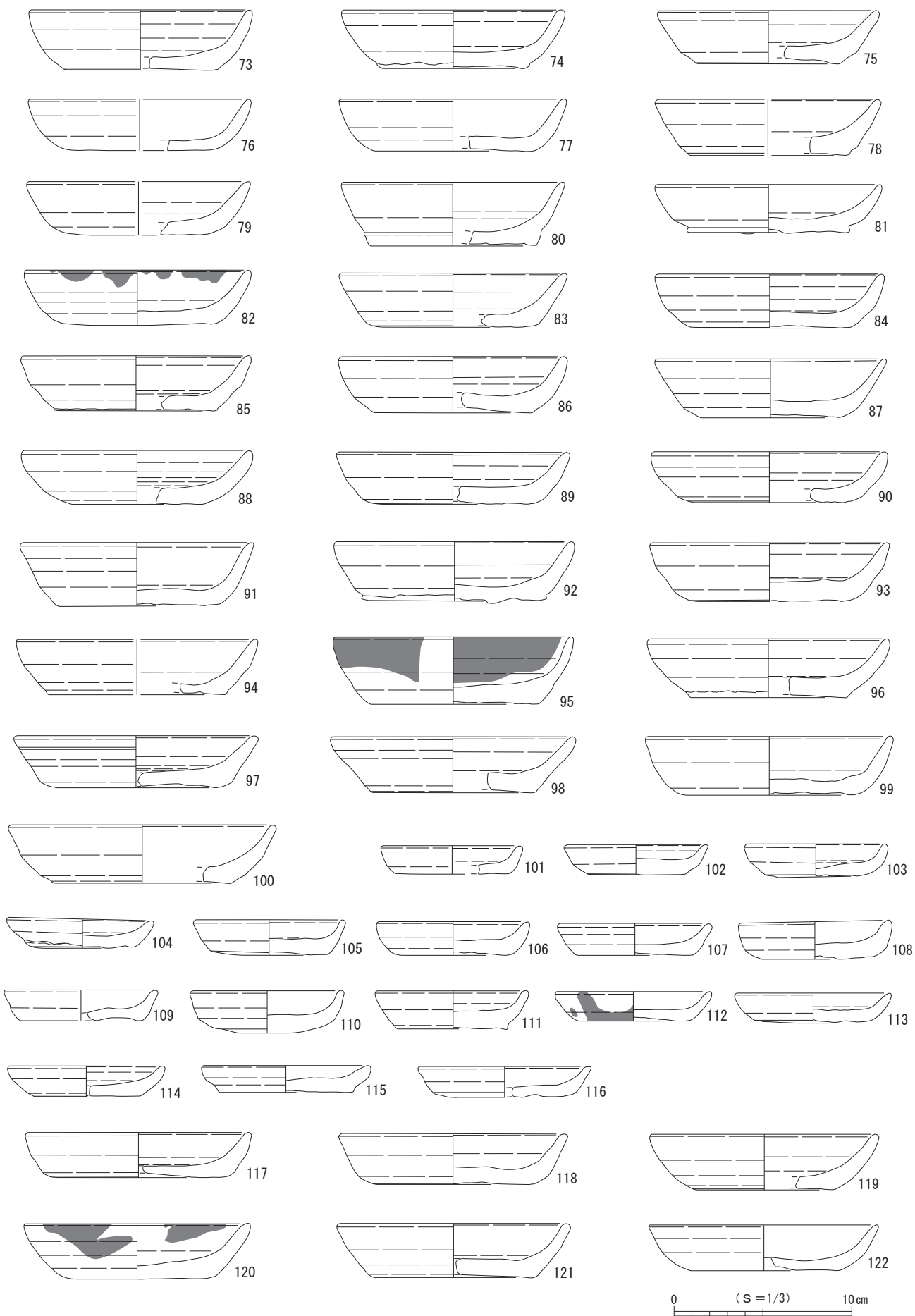


图30 第3面 河川4堆積土出土遺物(2)

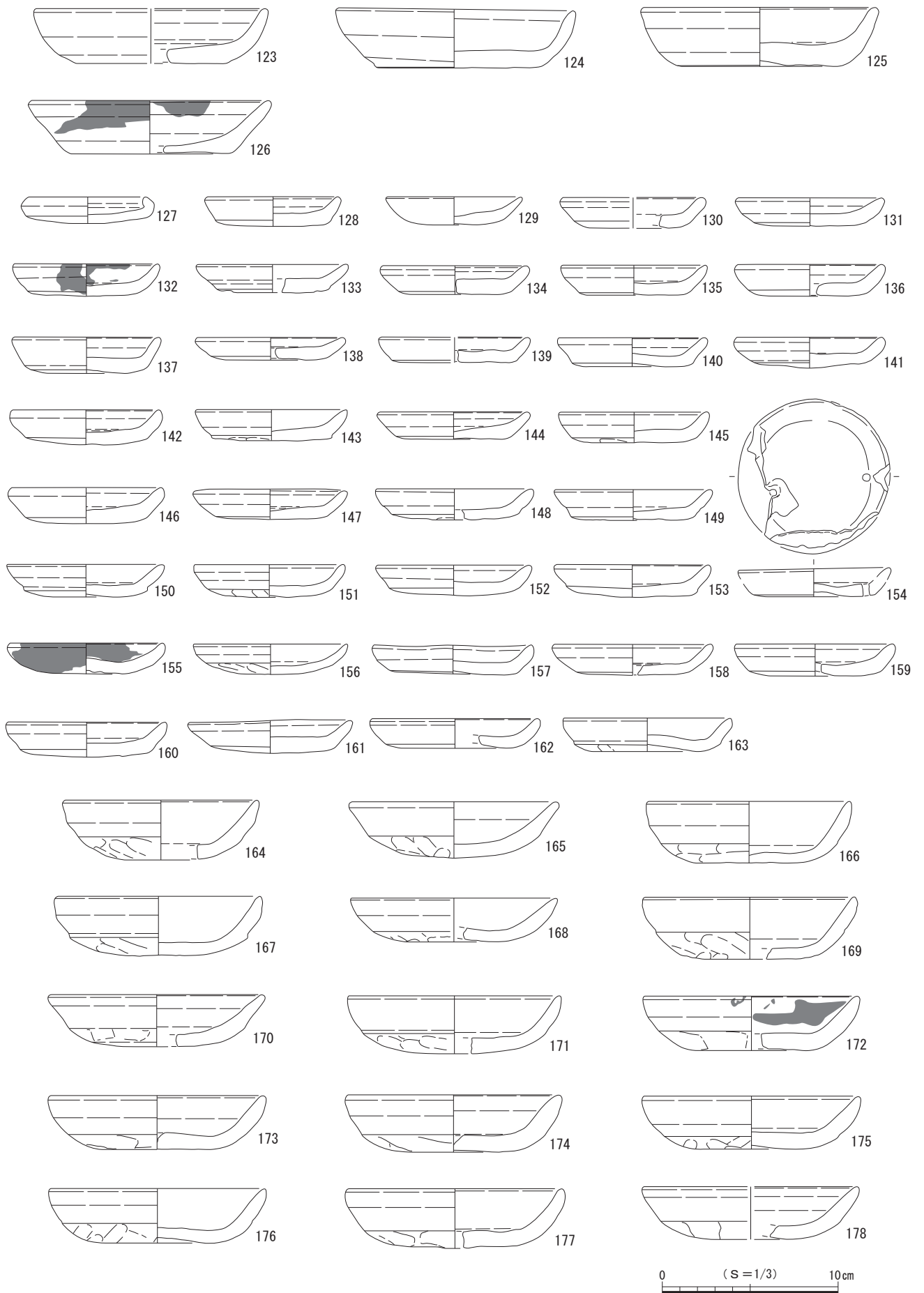


图31 第3面 河川4堆積土出土遺物(3)

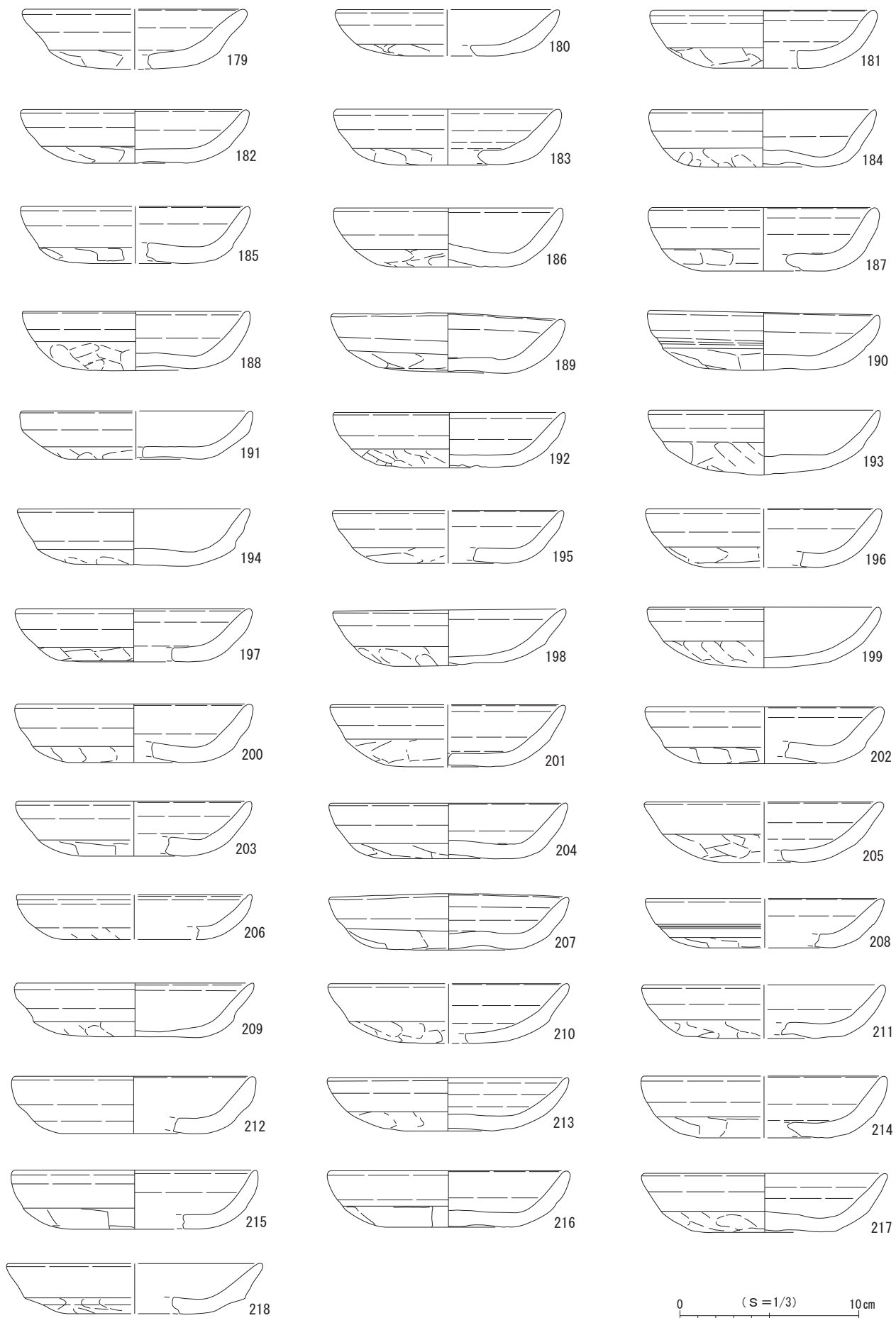


図32 第3面 河川4堆積土出土遺物(4)

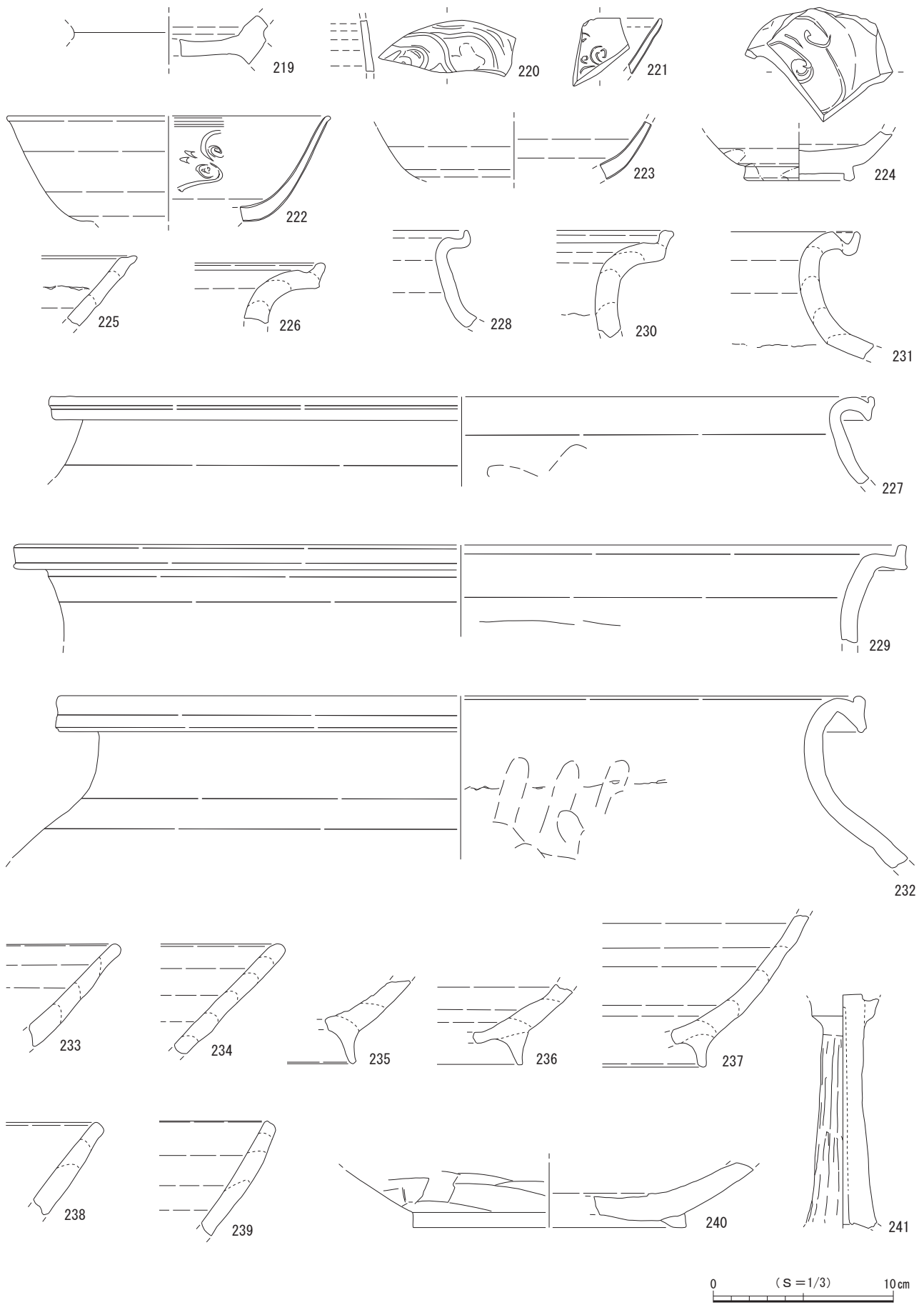


图33 第3面 河川4堆積土出土遺物(5)

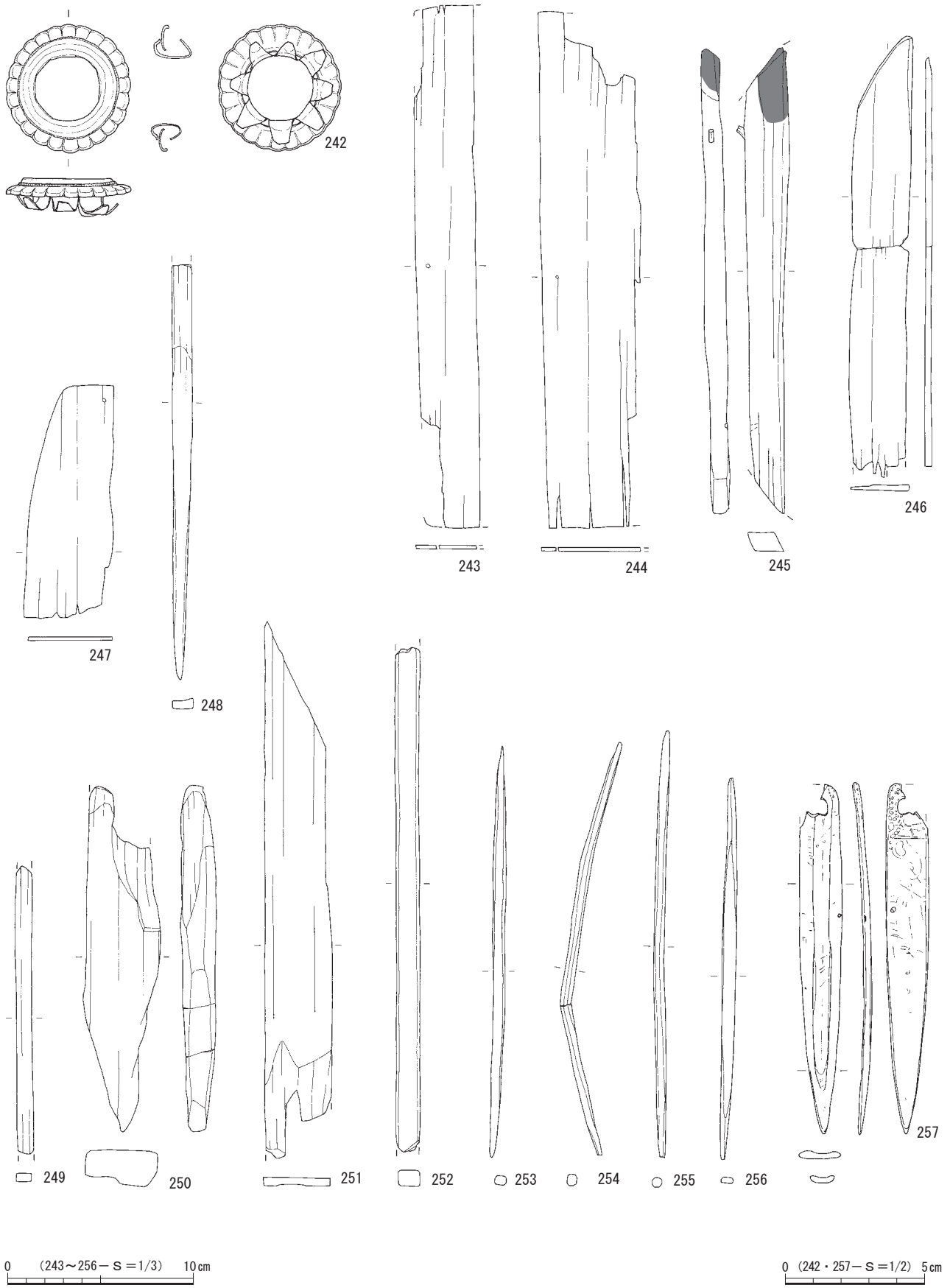


图34 第3面 河川4堆積土出土遺物(6)

河川4 護岸跡出土遺物 (図35~38)

遺物はかわらけ93点、磁器13点、陶器273点、土器2点、瓦質土器2点、瓦3点、石製品5点、木製品19点、金属製品3点が出土し、このうち160点を図示した。

1~129はかわらけである。1~53はロクロ成形によるかわらけ、54~65はロクロ成形であるが、底面の回転糸切痕をナデ消しているかわらけ、66~129は手づくね成形によるかわらけである。18・84には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。130~134は舶載磁器である。130は白磁碗、131・132は龍泉窯系青磁で、131が椀Ⅰ類、132が香炉である。133・134は同安窯系青磁皿である。135~142は陶器類である。135・136は中国製の緑釉の盤と鉢である。137~142は常滑窯産の製品で、137・138が甕、139・140が片口鉢Ⅰ類、141・142が片口鉢Ⅱ類である。143は瓦質土器の碗、144・145は土器で、144が土鍋、145は瀬戸内系の碗である。146~148は石製品である。146は滑石製石鍋、147は砥石、148は用途不明の製品である。149~159は木製品である。149は経木折敷、150は草履芯、151は串状、152~156は用途不明の製品、157~159は箸状、160は棒状である。

河川4 落ち込み出土遺物 (図39)

遺物はかわらけ20点、陶器2点、木製品2点が出土し、このうち2点を図示した。

1・2は木製品で、1が棒状、2が箸状である。

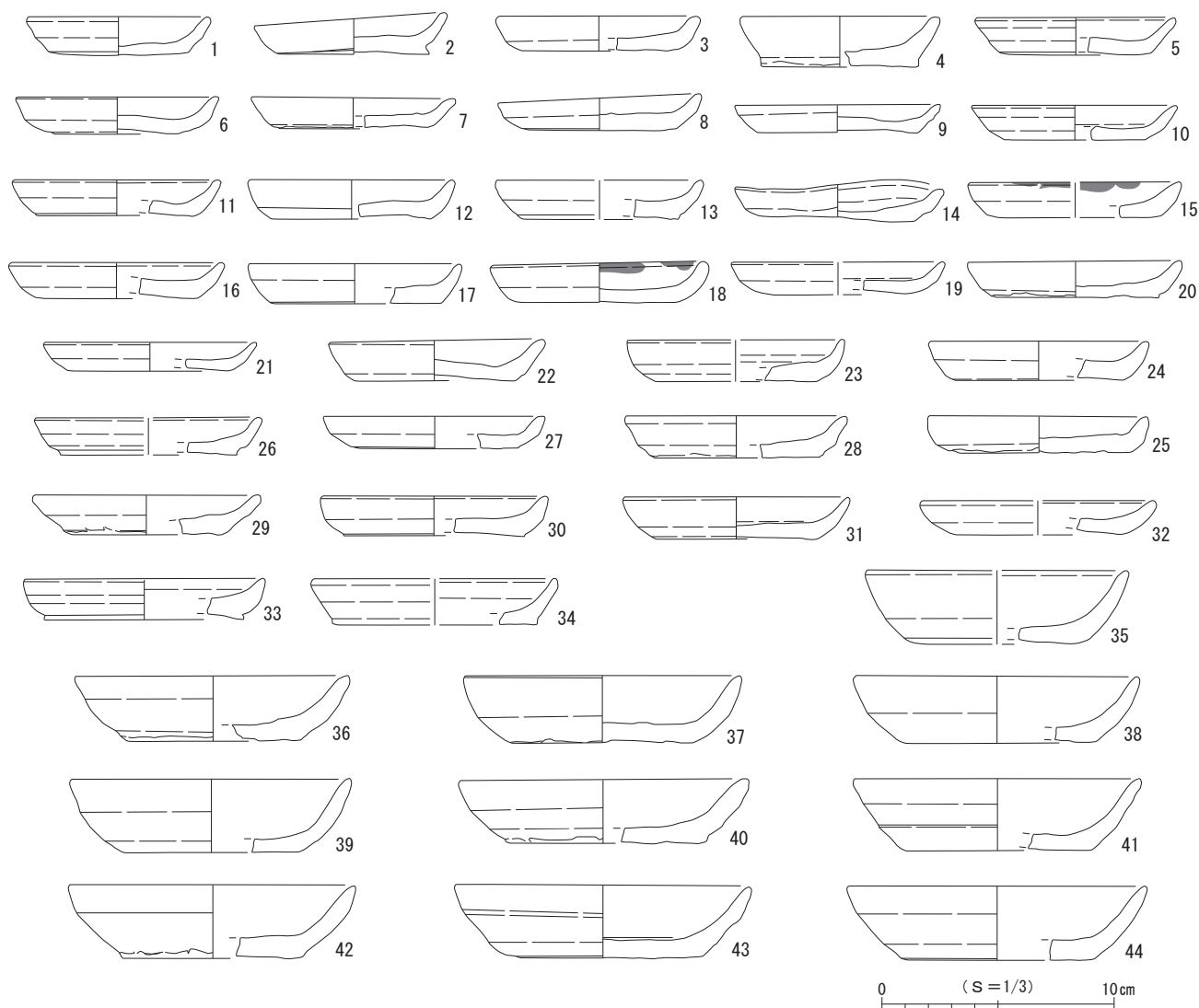


図35 第3面 河川4 護岸跡出土遺物 (1)

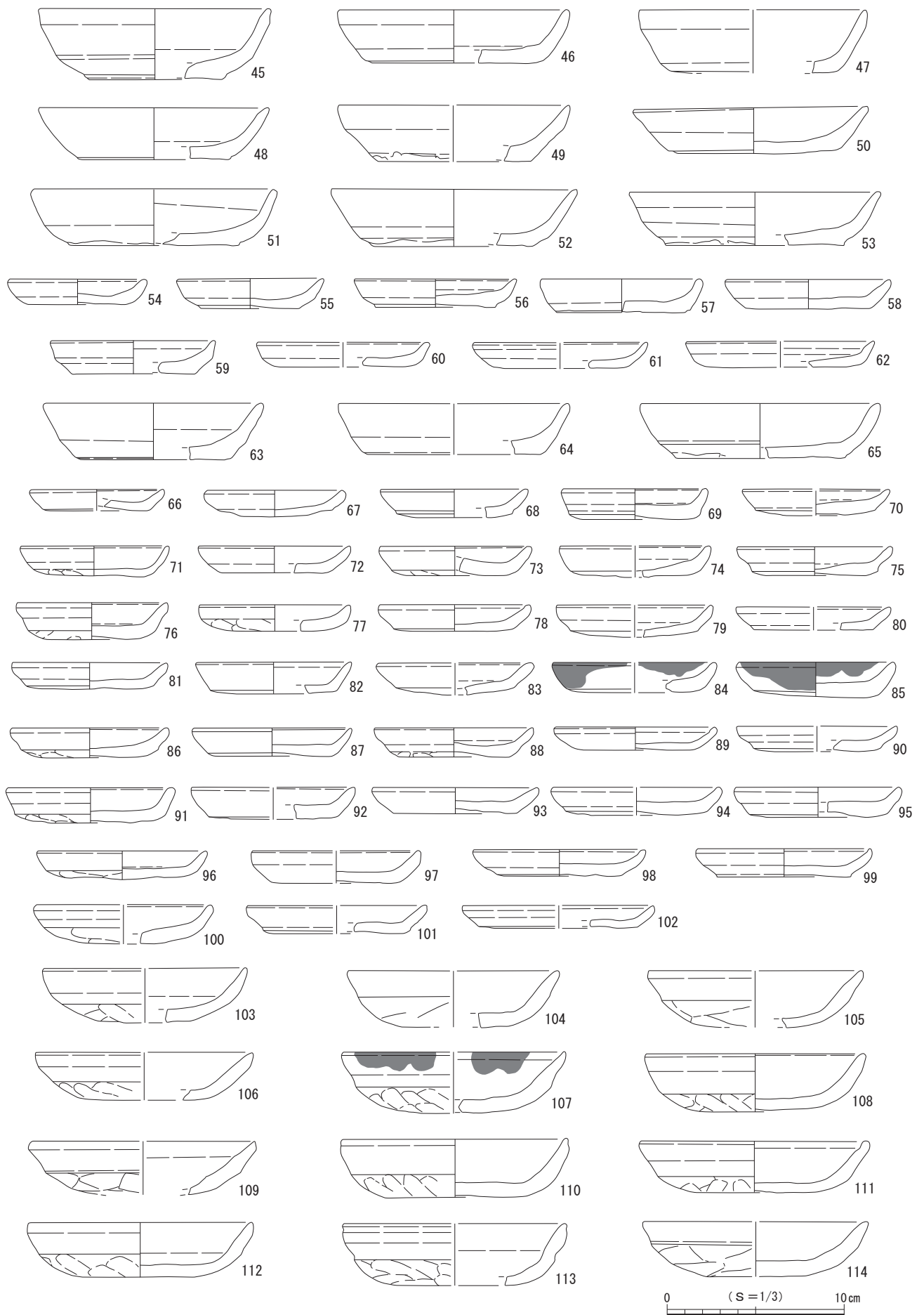


図36 第3面 河川4護岸跡出土遺物(2)

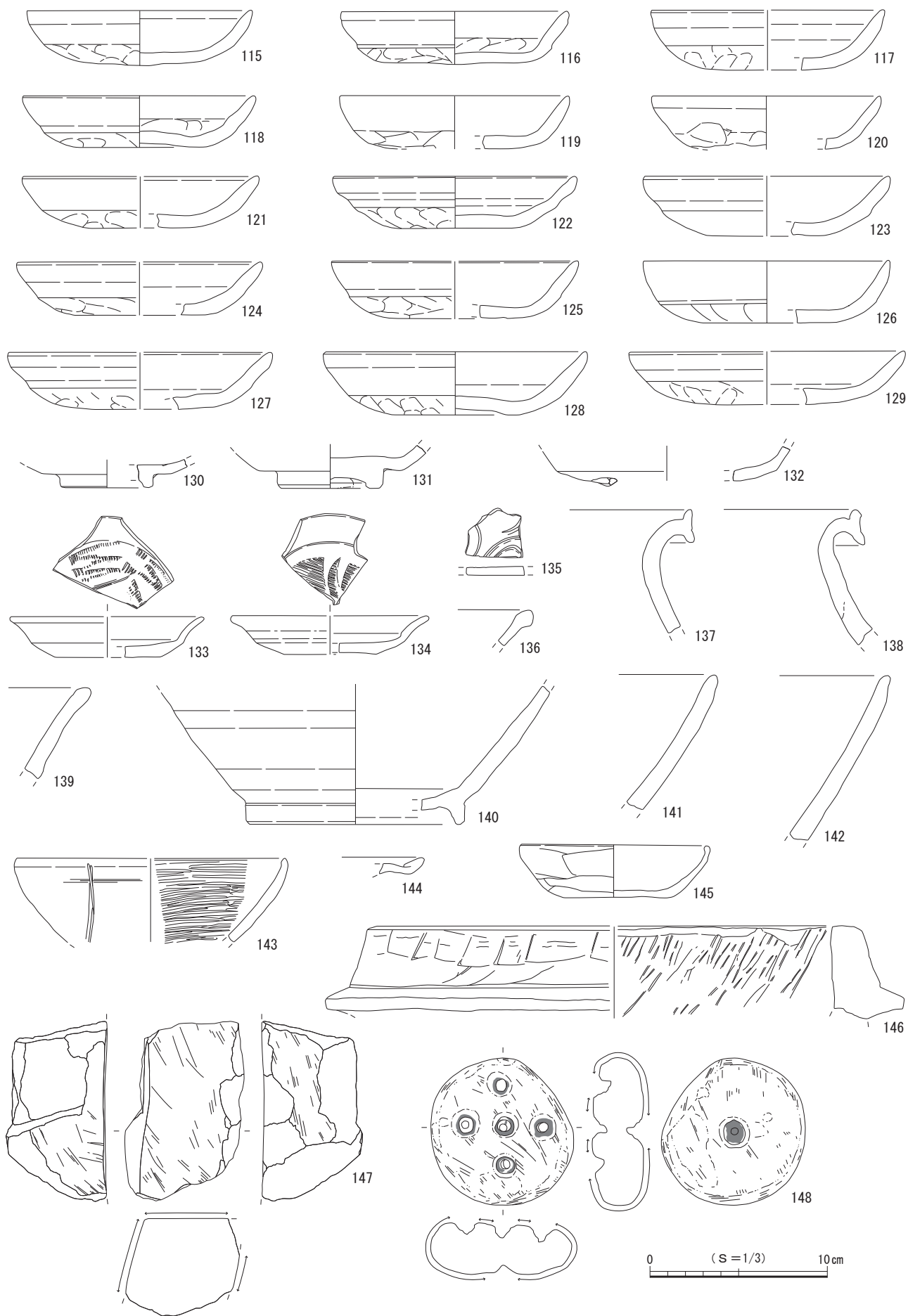


図37 第3面 河川4護岸跡出土遺物(3)

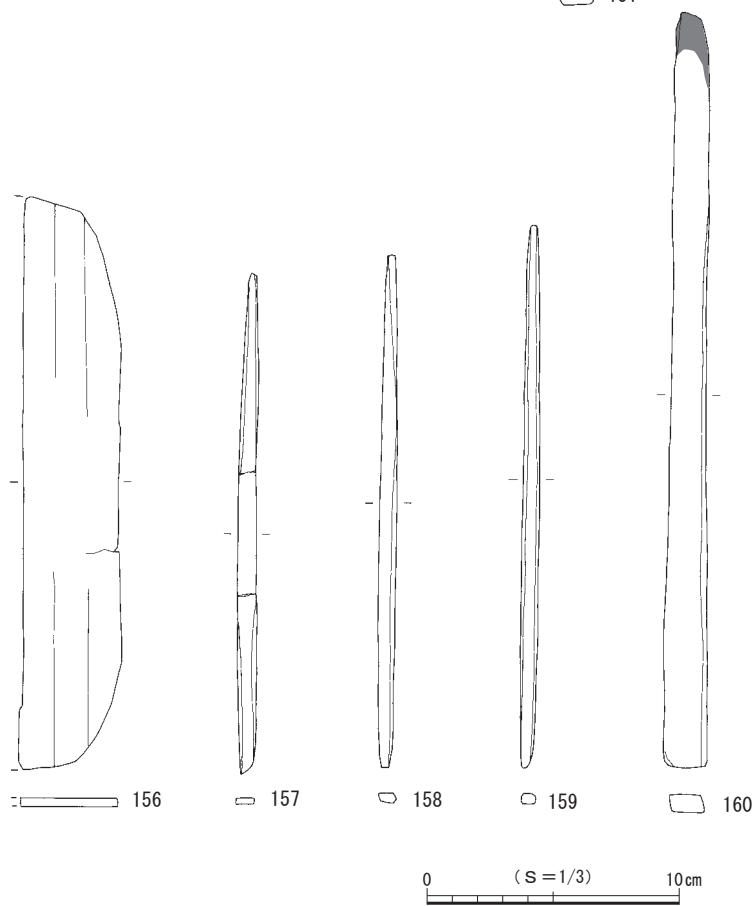
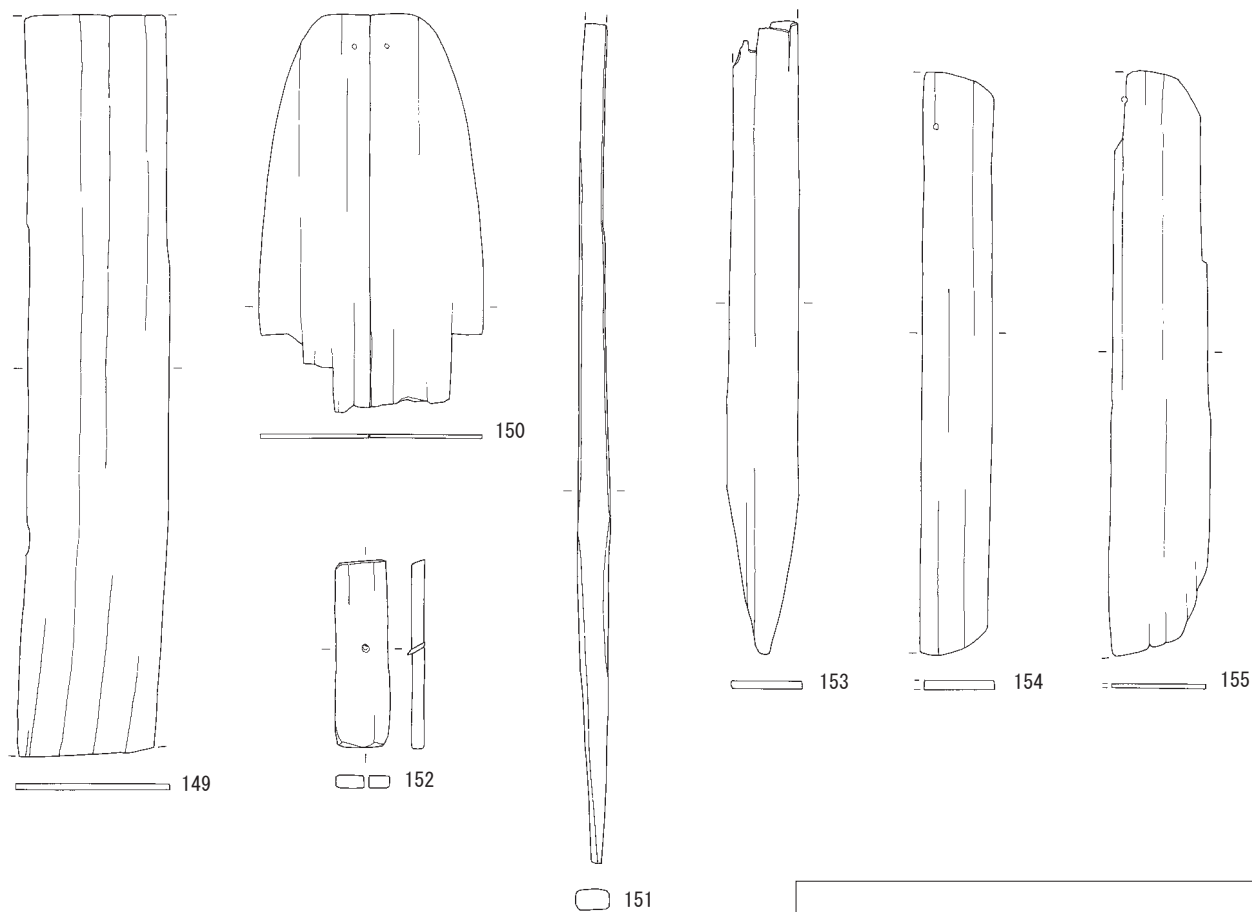


図38 第3面 河川4 護岸跡出土遺物(4)

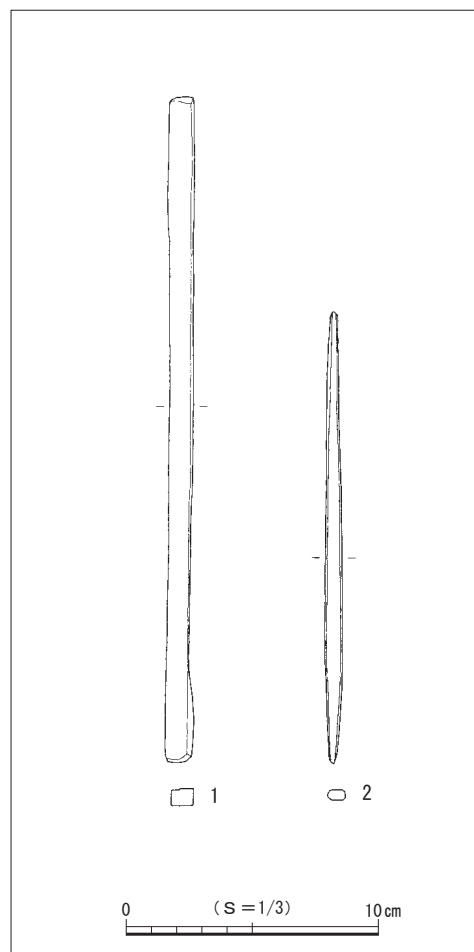


図39 第3面 河川4 落ち込み出土遺物

第四章 自然科学分析

第1節 名越ヶ谷遺跡出土の花粉化石

鈴木 茂(パレオ・ラボ)

大町三丁目2353番2外に所在する名越ヶ谷遺跡において行われた発掘調査で、河川が検出されている。以下には、この河川の堆積土層より採取した土壌試料について行った花粉分析の結果を示し、遺跡周辺における古植生について検討した。

1. 試料

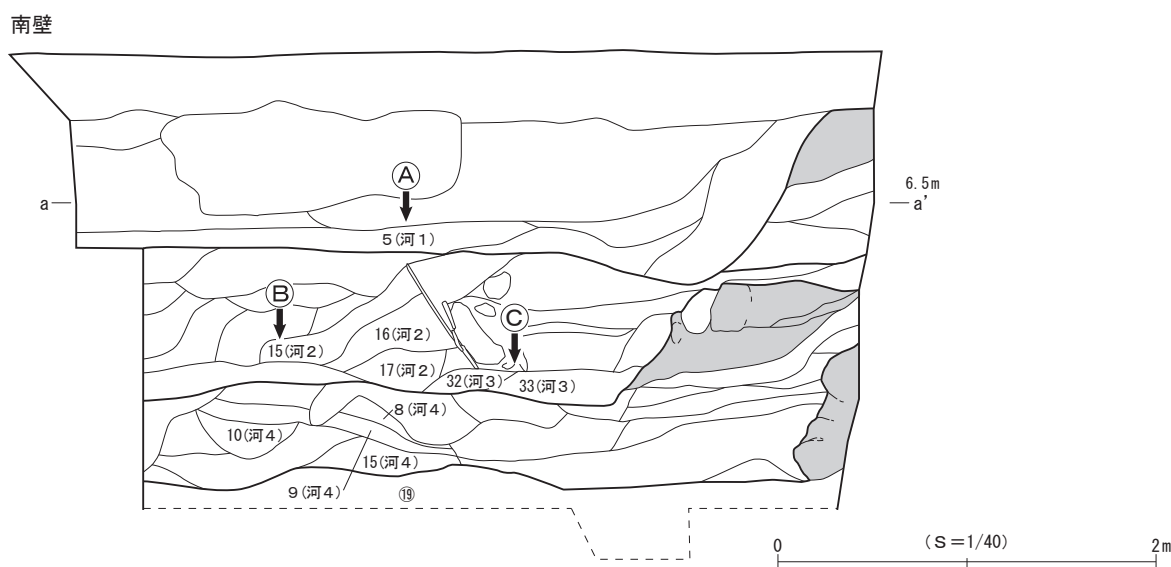
試料は、調査区南壁断面のA地点(試料No.1～6)、B地点(試料No.7・8)、C地点(試料No.9・10)の3地点より採取した10試料である。以下に各試料について簡単に記す。

A地点(南壁中央部)：試料No.1(河川1-5層)は暗青灰色の粘土混じり砂で、灰色の砂塊が散在している。試料No.2(河川2-16層)は黒褐色の粘土質砂で、泥岩片が点在している。試料No.3(河川2-17層)は暗青灰色砂と黒褐色有機質粘土が混じった層で、上部に泥岩が散在している。試料No.4(河川4-8層)は黒褐色の有機質土、試料No.5(河川4-9層)も黒褐色の砂質の有機質土である。試料No.6(河川4-15層)は暗青灰色の砂で、黒褐色の有機質土がラミナ状に認められる。この河川4-15層の下位(堆積土層-19層)は地山に相当する暗灰色の砂で、微小貝殻片が多く混入している。

B地点(A地点の東側)：試料No.7(河川2-15層)は黒褐色の有機質土で、土丹が多く認められる。試料No.8(河川4-10層)は暗青灰色の砂で、最下部2cmは黒褐色の有機質土が多く認められる。

C地点(A地点の西側)：試料No.9(河川3-32層)は暗青灰色砂と黒褐色有機質粘土が混じった層で、土丹片が多く混入している。試料No.10(河川3-33層)はやや有機質の黒褐色粘土で、木製品が多く認められる。

これらのうち試料No.1が河川1(近世以降)の覆土、試料No.2・3・7が河川2の覆土、試料No.9・10が河川3の覆土、試料No.4・5・6・8が河川4の覆土である。



付図1 試料採取位置および土層

付表1 算出花粉化石一覧表

和名	学名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
樹木											
モミ属	<i>Abies</i>	1	2	3	1	4	1	1	1	2	-
ツガ属	<i>Tsuga</i>	1	1	4	1	-	1	1	4	4	-
トウヒ属	<i>Picea</i>	1	-	-	1	-	-	-	1	2	-
マツ属 複維管束亜属	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	81	10	3	-	4	-	-	17	15	3
マツ属 (不明)	<i>Pinus</i> (Unknown)	18	6	3	2	1	1	-	6	4	1
コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	-	1	-	1	-	1	-	2	3	1
スギ	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	73	17	38	70	77	2	13	56	44	3
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	T.-C.	4	1	3	15	8	-	-	1	2	-
ヤナギ属	<i>Salix</i>	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
サワグルミ属-クルミ属	<i>Pterocarya-Juglans</i>	1	1	-	1	2	-	-	-	-	-
クマシデ属-アサダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	2	9	10	3	8	3	3	9	6	3
カバノキ属	<i>Betula</i>	-	-	3	-	1	-	1	1	1	2
ハンノキ属	<i>Alnus</i>	6	5	1	2	-	-	-	2	2	2
コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	13	1	12	21	11	-	3	10	8	2
コナラ属アカガシ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	5	10	39	52	36	2	13	33	39	6
クリ属	<i>Castanea</i>	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
シイノキ属-マテバシイ属	<i>Castanopsis - Pasania</i>	1	7	26	31	38	3	9	27	61	6
ニレ属-ケヤキ属	<i>Ulmus - Zelkova</i>	4	5	3	9	8	2	1	5	5	1
エノキ属-ムクノキ属	<i>Celtis-Aphananthe</i>	-	2	4	3	4	-	3	6	2	3
フウ属	<i>Liquidamber</i>	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
サンショウ属	<i>Zanthoxylum</i>	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-
ユズリハ属	<i>Daphniphyllum</i>	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
シラギ属	<i>Sapium</i>	3	-	-	-	-	-	-	2	-	1
ウルシ属	<i>Rhus</i>	1	5	3	-	1	-	-	4	1	-
カエデ属	<i>Acer</i>	-	-	-	1	8	-	-	1	-	-
トチノキ属	<i>Aesculus</i>	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
ブドウ属	<i>Vitis</i>	1	1	1	-	-	-	1	3	6	1
ツバキ属	<i>Camellia</i>	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サカキ属-ヒサカキ属近似種	cf. <i>Cleyera-Eurya</i>	-	-	-	-	-	-	19	9	1	4
ウコギ科	Araliaceae	-	-	1	-	-	-	-	1	2	-
ミズキ属	<i>Cornus</i>	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
ハイノキ属	<i>Symplocos</i>	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
エゴノキ属	<i>Styrax</i>	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ガマズミ属	<i>Viburnum</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
タニウツギ属	<i>Weigela</i>	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
草本											
ガマ属	<i>Typha</i>	-	-	6	8	20	-	-	3	-	-
オモダカ属	<i>Sagittaria</i>	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
イネ科	Gramineae	71	267	948	141	41	3	1768	476	669	1061
カヤツリグサ科	Cyperaceae	2	6	8	28	23	-	146	24	22	14
ツククサ属	<i>Commelina</i>	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ユリ科	Liliaceae	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1
クワ科	Moraceae	-	2	1	-	1	-	20	7	4	4
ギンギン属	<i>Rumex</i>	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
サナエタデ節-ウナギツカミ節	<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria-Echinocaulon</i>	-	-	1	2	1	-	-	2	2	2
他のタデ属	other <i>Polygonum</i>	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1
ソバ属	<i>Fagopyrum</i>	3	1	1	-	-	-	-	1	-	-
アカザ科-ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	2	434	73	-	1	2	4	129	42	13
ナデシコ科	Caryophyllaceae	1	22	2	-	-	-	-	6	6	3
カラマツソウ属	<i>Thalictrum</i>	-	2	5	1	-	-	6	7	6	3
他のキンポウゲ科	other Ranunculaceae	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
アブラナ科	Cruciferae	8	23	39	-	-	-	2	28	28	21
ワレモコウ属	<i>Sanguisorba</i>	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
他のバラ科	other Rosaceae	-	-	-	-	-	-	-	1	3	2
マメ科	Leguminosae	2	1	1	1	2	-	-	-	6	1
セリ科	Umbelliferae	-	2	4	-	2	-	4	6	3	-
シソ科	Labiatae	-	-	2	-	-	-	-	2	2	-
オオバコ属	<i>Plantago</i>	-	-	1	-	-	-	1	-	-	1
アカネ属-ヤエムグラ属	<i>Rubia - Galium</i>	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-
ヘクソカズラ属	<i>Paederia</i>	-	1	1	-	-	-	-	6	-	-
オミナエシ属	<i>Patrinia</i>	-	-	-	-	-	-	2	1	31	-
ゴキツル属-アマチャヅル属	<i>Actinostemma - Gynostemma</i>	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
キュウリ属	<i>Cucumis</i>	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ベニバナ属	<i>Carthamus</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	2	94	78	-	2	-	962	118	79	148
他のキク亜科	other Tubuliflorae	1	8	9	6	9	-	66	12	6	15
タンポポ亜科	Liguliflorae	5	9	5	-	-	-	1	13	4	5
シダ植物											
ゼンマイ科	Osmundaceae	-	-	-	1	-	-	-	3	1	2
ミズウラボシ属	<i>Ceratopteris</i>	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
アカウキクサ属	<i>Azolla</i>	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
単糸型孢子	Monolete spore	80	12	23	4	3	1	4	30	25	12
三糸型孢子	Trilete spore	6	5	3	1	1	-	1	13	11	2
緑藻類											
クンシヨウモ属	<i>Pediastrum</i>	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
樹木花粉											
樹木花粉	Arboreal pollen	220	89	157	215	215	17	70	205	211	39
草本花粉	Nonarboreal pollen	100	872	1187	187	104	5	2986	846	916	1297
シダ植物孢子	Spores	87	17	26	6	4	1	6	46	37	16
花粉・孢子総数	Total Pollen & Spores	407	978	1370	408	323	23	3062	1097	1164	1352
不明花粉											
不明花粉	Unknown pollen	7	14	9	28	28	1	11	29	40	11

T.-C. はTaxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceaeを示す

2. 分析方法

上記した10試料について以下のような手順にしたがって花粉分析を行った。

試料(湿重約4～8 g)を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5 mm目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46%のフッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理(無水酢酸9：1濃硫酸の割合の混酸を加え3分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作製して行い、その際サフラニンにて染色を施した。

3. 分析結果

検出された花粉・孢子・藻類の分類群数は、樹木花粉35、草本花粉31、形態分類を含むシダ植物孢子5、藻類1の総計72である。これら花粉・シダ植物孢子・藻類の一覧を付表1に、それらの分布を付図2に示した。なお、分布図は全花粉・孢子総数を基数とした百分率で示してある。また、表および図においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示し、クワ科・バラ科・マメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けることが困難なため便宜的に草本花粉に一括して入れてある。なお、これらに加えて3分類群の寄生虫卵も観察されている。

検鏡の結果、試料No.1(河川1の堆積土)では樹木花粉のマツ属複維管束亜属(アカマツ、クロマツなどのいわゆるニヨウマツ類)が最も多く、次いでスギが多く検出されている。草本花粉の占める割合は低く、その中ではイネ科が最も多く、その他ではソバ属が若干得られている。試料No.2・3・7(河川2の堆積土)では草本花粉の占める割合が非常に高く、そのうち試料No.2ではアカザ科-ヒユ科が、試料No.3ではイネ科が、試料No.7はイネ科とヨモギ属が多産している。また、試料No.2・3よりソバ属が、試料No.7より抽水植物のオモダカ属が得られている。試料No.9・10(河川3の堆積土)においても草本花粉の占める割合は高く、両試料ともイネ科が多産している。樹木花粉について、試料No.9においてやや多く検出されており、スギやコナラ属アカガシ亜属、シノキ属-マテバシイ属(以後シイ類と略す)などが出現率1%を超えて得られている。試料No.4・5・6・8(河川4の堆積土)のうち4・5ではスギやアカガシ亜属、シイ類など樹木花粉の占める割合が高くなっている。草本花粉では試料No.4・5よりガマ属がやや多く検出されており、試料No.8においてオモダカ属が観察されている。また、試料No.6については検出された花粉化石数が少ないことから分布図としては示していない。

なお、先にも記したが回虫卵や鞭虫卵、横川吸虫卵といった寄生虫卵が試料No.2・3・10の3試料で観察されており、特に試料No.2では多量の鞭虫卵が検出されている。

4. 遺跡周辺の古植生

河川4堆積土試料においては樹木花粉の占める割合が高く、遺跡周辺の丘陵部にはスギ林や、アカガシ亜属やシイ類などの照葉樹林が広く成立していたことが推察される。これらのうちスギ林は丘陵部の斜面部に、照葉樹林は丘陵尾根部に主に林分を広げていたとみられる。さらに、コナラ亜属やクマシデ属-アサダ属、ニレ属-ケヤキ属などの落葉広葉樹類も一部に分布していたと推測される。また、土手などの河川周辺にはイネ科やカヤツリグサ科などの草本類が生育していたとみられ、淀みや湿性地などには抽水植物のガマ属が生育していたと思われる。試料No.8においては水田雑草を含む分類群であるオ

モダカ属や、ソバ属も検出されていることから、河川周辺において水田稲作やソバの栽培が行われていた可能性が推測される。

河川3堆積土堆積期になると樹木花粉の占める割合が大きく減少しており、遺跡周辺の森林植生は大きく縮小したと思われる。鎌倉では13世紀中頃前後にスギ林や照葉樹林からニヨウマツ類の二次林へと交代したことが知られており、鎌倉幕府の成立に伴う土地改変や人口増加による木材利用の増大でスギ林や照葉樹林は大きく減少し、その跡地にニヨウマツ類が進出したと考えられている(鈴木 1999)。試料No.9においては樹木花粉が減少するなか、スギやアカガシ亜属、ニヨウマツ類がやや目立って検出されており、上記したスギ林や照葉樹林からニヨウマツ類へといった森林要素が交代していく一時期を示しているように思われる。一方で、市内の他の遺跡と比べニヨウマツ類の産出個数は少なく、名越ヶ谷遺跡周辺におけるニヨウマツ類の二次林はそれほど発達しなかったのではないかと思われる。

河川2堆積土堆積期においても樹木花粉の占める割合は低く、遺跡周辺は樹木類の少ない草本類が目立つ植生であったことが推測される。草本類ではイネ科やアカザ科-ヒユ科、ヨモギ属が多産しており、河川の土手などにこれらが多く生育していたとみられる。また、試料No.2・3においてソバ属が検出されていることから、この時期においても遺跡周辺においてソバの栽培が行われていた可能性が推察される。なお、試料No.2から多量の寄生虫卵が検出されている。市内の多くの遺跡からも多量の寄生虫卵が検出されており(鈴木 2008)、当時の鎌倉は衛生的には非常に悪い環境であったことが推測される。

河川1堆積土堆積期になるとニヨウマツ類とスギが多く検出されており、遺跡周辺ではニヨウマツ類やコナラ亜属の二次林が広く成立していたとみられる。また、丘陵部斜面には植林と推測されるスギ林も分布していたことが推察される。草本花粉ではソバ属が検出されており、この時期においても遺跡周辺においてソバの栽培が行われていたことが推察される。

引用文献

鈴木 茂(1999)神奈川県鎌倉市における鎌倉時代の森林破壊. 国立歴史民俗博物館研究報告,81,131-139.

鈴木 茂(2008)鎌倉の遺跡と寄生虫卵. 考古論叢神奈川 16,神奈川県考古学会,77-83.

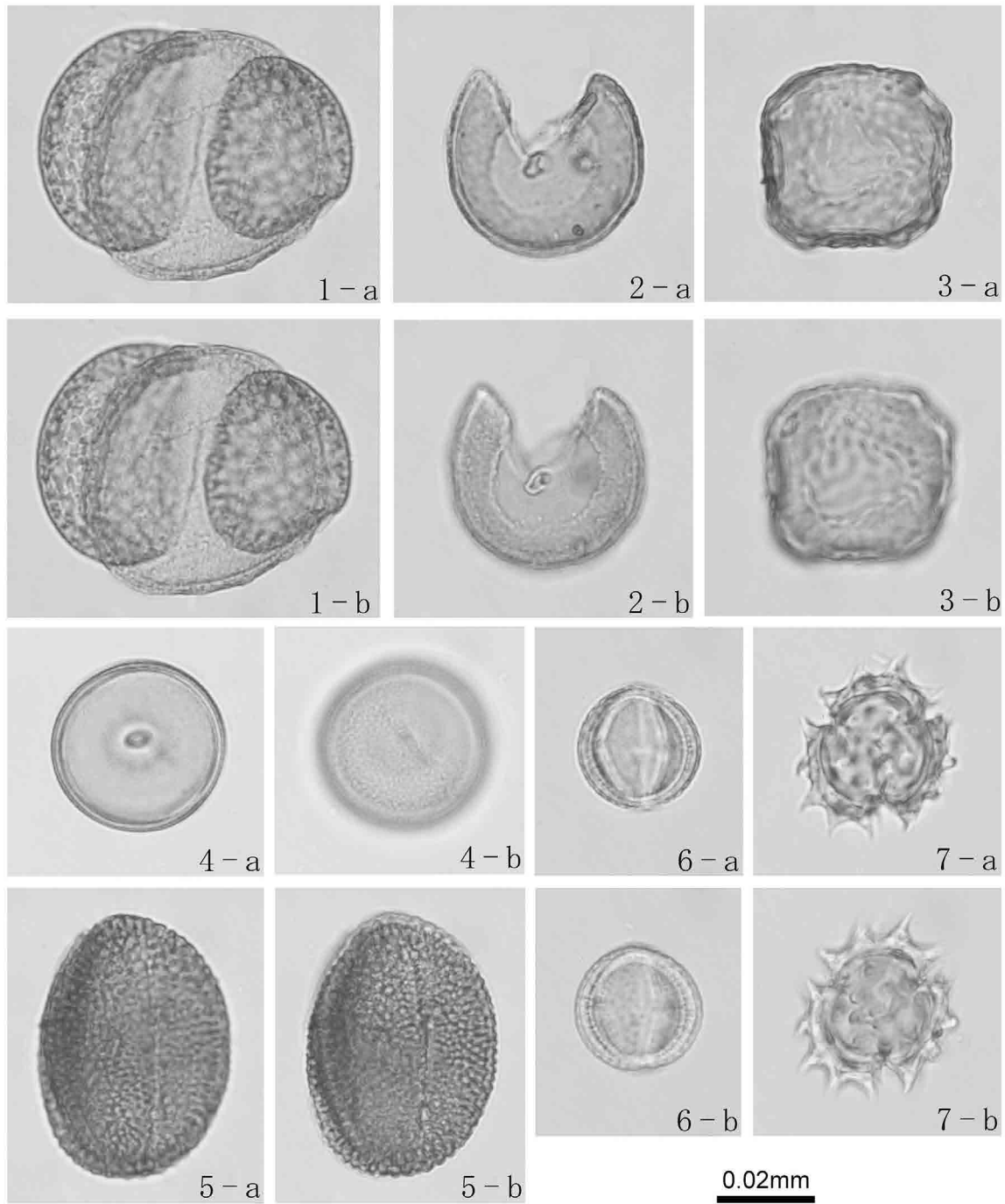


写真1 名越ヶ谷遺跡出土の花粉化石

- 1: マツ属複維管束亜属 PLC. SS 5327 試料No. 1
- 2: スギ PLC. SS 55328 試料No. 1
- 3: ニレ属-ケヤキ属 PLC. SS 55329 試料No. 1
- 4: イネ科 PLC. SS 55331 試料No. 7
- 5: ヨモギ属 PLC. SS 55332 試料No. 7
- 6: 他のキク亜科 PLC. SS 55333 試料No. 7
- 7: ツバ属 PLC. SS 55330 試料No. 1

付表1 検出された動物遺体の種名表

<p>軟体動物門</p> <p>腹足綱</p> <p>前總亜綱</p> <p>古腹足目</p> <p>ミミガイ科 メカイアワビ クロアワビ アワビ類</p> <p>スカシガイ科 マダカアワビ</p> <p>ニシキウズガイ科 バテイラ ダンベイキサゴ</p> <p>サザエ科 サザエ</p> <p>タマガイ科 ホソヤツメタ ツメタガイ</p> <p>エゾバイ科 バイガイ ミガキボラ</p> <p>新腹足目</p> <p>アッキガイ科 アカニシ</p> <p>二枚貝綱</p> <p>マルスダレガイ目</p> <p>フネガイ科 マルサルボウ サトウガイ</p> <p>イガイ科 イガイ</p> <p>イタボガキ科 マガキ カキ類</p> <p>マルスダレガイ科 ハマグリ チョウセンハマグリ オキシジミ カガミガイ ウチムラサキ ヨロイガイ オキアサリ コタマガイ アサリ</p>	<p>バカガイ科 バカガイ シオフキ</p> <p>アシガイ科 サビシラトリ</p> <p>ニッコウガイ科 ゴイサギ イチョウシラトリ ヒメシラトリ フジナミガイ</p> <p>脊椎動物門</p> <p>硬骨魚綱</p> <p>スズキ目 タイ科 マダイ タイ類</p> <p>爬虫類</p> <p>カメ目 ウミガメ上科 ウミガメ</p> <p>鳥綱</p> <p>キジ目 キジ科 ニワトリ</p> <p>ガンガモ目 ガンガモ科 ガン類</p> <p>哺乳綱</p> <p>ネコ目 イヌ科 イヌ ネコ科 ネコ</p> <p>ウマ目 ウマ科 ウマ</p> <p>ウシ目 イノシシ科 イノシシ シカ科 ニホンジカ</p> <p>ウシ科 ウシ</p>
---	--

貝類

ハマグリが主体であった。採り易くて味もよく、肉量も多いのでよく食用とされていたようで、最も多く出土し現代の食べ方にも共通する。実際にどのようにして食べたか、食器との関係も考えたい。アカ

ニシは第2位の出土量で、鎌倉の人の好んだ貝であった。殻を丁寧に割って肉を採りだしている。肉量の多いこと、貝の採りやすいことが出土量が多い理由である。バテイラが少量あったが、小さな巻き貝で意図的に採ったというよりも、アカニシ、ハマグリ採りの際に混じたのであろう。アワビ類・サザエは少なかった。味からすればむしろアカニシに優るが、外海の産であり、採る人も少なく日常的に利用する貝ではなかったことが分かる。その他、採れる貝は何でも利用したようである。日本人と貝との関わり、貝を好むという風習をよく現している。

魚類

第3面の河川4にタイ類があったのみである。骨が残りにくいということもあったかと思う。元々少ない上に調理して食べられるからである。

鳥類

ガン、カモ類は魚とは違った風味であり、味も良かったので好まれたのであろうが、採れる数は少なかったようである。河川4ではニワトリもみられたが、今日のように多食することはなかったのであろう。一般に鳥が食用になることは少なかったと思われる。

哺乳類

身近にいたイヌは遺骸を多く残していたが、特に飼い主はいなかったのではないかと考える。これは周辺の家屋敷の状況とも併せて考えたい。ウマ・ウシはさらに多かった。すべて散乱した状況である。解体されることも多かったのではないかと考えている。

第3面の河川4と河川4の護岸跡では、ウマが哺乳類の約半数を占めている。身近に最も多くみられ、骨も残り易いことにもよるであろう。頭蓋骨、下顎骨(右の略完存)、肩甲骨、橈尺骨、大腿骨(完存)、脛骨、中足骨(完存)、中手骨、寛骨があった。頭蓋骨は2才の若い個体(写真2-23)である。頭蓋骨は脳頭蓋部分を完全に失っている標本で、その破片と思われるものは伴出していないので、流出し、たまたま大形の標本が残ったのかも知れない。頭頂部の破損の状態は明らかに意図的に金属器で割られた様子を示している。頭蓋底部まできれいに割っている。この頭蓋破損は、脳の摘出のための意図的な破壊と思われる。また、脛骨は間半分に割っている。ナタのようなものでたたき割っている。大きな骨を割るにはこうした方法しかなかったのであろうが、何とも荒っぽい方法である。写真3-24の頭蓋骨は、乳切歯と乳臼歯が残り、M³は不完全萌出で、2才と推定される。頭蓋骨全長は440.0mmである。完存するウマ頭蓋骨であるが頭頂部が大きく穿孔されて大孔があく。穿孔の仕方は丁寧に、周縁の様子をみると少しずつ切り込みを入れながら孔を大きくしていたようである。孔の周縁にその際についた切り傷がよく残されている。脳を取り出すのにできるだけ壊さないように、そっくり取り出すということを意図したと思われる。さらに後頭部の部分にも特別な切り込みが認められた。脳がウシ・ウマの皮なめしに使われたことはよく知られている。頭蓋骨の壊された出土例もあるが、本例のように完存する状態で出土し、かつ加工のよく残されている例は稀である。貴重な資料といえる。

中足骨の完存品があったが、このあたりは可食部分はほとんどなかった。橈尺骨のほぼ完存する例(写真4-28)は、尺骨の遠位端に細かい切り傷があり、中手骨以下を外したのであろう。

付表2 出土動物遺体一覧

出土遺構	帰属面	層位	種別	部位	左右	計測値(mm)	写真番号	備考
河川2 護岸跡	第2面		アカニシ					破片
河川2 護岸跡	第2面		アカニシ			殻高：147.0		
河川2 護岸跡	第2面		アカニシ			殻高：117.90		
河川2 護岸跡	第2面		パティラ			殻高：34.74		
河川2 護岸跡	第2面		ハマグリ		左	殻長：55.14		
河川2 護岸跡	第2面		ハマグリ		左	殻長：57.0		
河川2 護岸跡	第2面		ハマグリ		右	殻長：73.66		
河川2 護岸跡	第2面		ハマグリ		右	殻長：80.0±		
河川2 護岸跡	第2面		ハマグリ		右	殻長：58.0±		
河川2 護岸跡	第2面		ハマグリ		左	殻長：57.14		
河川2 護岸跡	第2面		ハマグリ		右	殻長：48.9		
河川2 護岸跡	第2面		マダイ	前上顎骨	左	長さ：43.25		
河川2 護岸跡	第2面		ガン類	上腕骨	右			上端部欠損
河川2 護岸跡	第2面		イス	下顎骨	右	長さ：133.71		♂、P ₁ 、M ₁₋₂ 咬耗なし
河川2 護岸跡	第2面		イス	尺骨	左	全長：162.90		
河川2 護岸跡	第2面		イス	上腕骨	左	全長：143.91		完形
河川2 護岸跡	第2面		イス	M ¹	左	長さ：17.21		切歯2、前臼歯1、犬歯1、咬頭に磨滅？
河川2 護岸跡	第2面		ウシ	下顎骨	右	歯列長：141.20	33	下顎筋突起先端打痕あり、解体時のものか。
河川2 護岸跡	第2面		ウシ	下顎骨	左		33	右左同一もの
河川2 護岸跡	第2面		ウマ	下顎筋突起片				
河川2 護岸跡	第2面		ウマ	M ₃	左	高さ：40.61 長さ：31.85 幅：15.00		
河川2 護岸跡	第2面		ウマ	M ¹	左	高さ：41.56 長さ：24.04 幅：27.06		
河川2 護岸跡	第2面		ウマ	橈側手根骨	右			
河川2 護岸跡	第2面		ウシ・ウマ	肋骨				
河川2 護岸跡	第2面		ウシ・ウマ					
河川2 護岸跡	第2面		ウシ・ウマ	肋骨				破片
河川2 護岸跡	第2面		ニホンジカ	大腿骨		中間幅：23.08		中間両端欠
河川2 護岸跡	第2面		ニホンジカ	肩甲骨	右	頭幅：23.27		保存良好
河川2 護岸跡	第2面		ニホンジカ	肩甲骨片				
河川3 落ち込み	第2面	下層	チョウセンハマグリ		右	殻長：94.59		
河川3 落ち込み	第2面	下層	ウマ	基節骨	左	長さ：76.81 近位端幅：45.98 遠位端幅：38.04		
河川3 落ち込み	第2面	下層	ウシ・ウマ	肋骨				
遺構外	第2面		アカニシ			殻高：118.02		
遺構外	第2面		アカニシ			殻高：102.0		
遺構外	第2面		アカニシ			殻高：109.47		
遺構外	第2面		クロアワビ			径：84.0±		
遺構外	第2面		ハマグリ		左	殻長：40.0		
遺構外	第2面		ハマグリ		左	殻長：41		
遺構外	第2面		ホソヤツメタ			殻高：60.05		
遺構外	第2面		ウマ	肩甲骨	左	頭部幅：58.55		
遺構外	第2面		ウマ	P ₃	右	高さ：69.73 長さ：25.23 幅：16.23		
遺構外	第2面		ウマ	下顎骨片	右			
遺構外	第2面		ウマ	脛骨	左			両端欠
遺構外	第2面		ウマ	P ₂	左	高さ：36.9 長さ：32.79		
遺構外	第2面		ウマ	中足骨	右	全長：270.9		
遺構外	第2面		ウマ	肋骨				
遺構外	第2面		ウシ・ウマ	肋骨片				
遺構外	第2面		ウシ・ウマ	骨片				
遺構外	第2面		ウシ・ウマ	骨片				
遺構外	第2面		ニホンジカ	骨片				
河川4	第3面	上層	アカニシ			殻高：120.1		
河川4	第3面	上層	アカニシ			殻高：96.0		
河川4	第3面	上層	アカニシ	殻口のみ				
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：62.09	6-1	
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：103.83		
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：97.15		
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：130.83		
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：109.51		
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：不明		2個
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：不明		2個
河川4	第3面	上層	アカニシ			殻高：120.28		
河川4	第3面	上層	アカニシ			殻高：160.0±		
河川4	第3面	上層	アカニシ			殻高：113.0±		
河川4	第3面	上層	アカニシ			殻高：123.0±		
河川4	第3面	上層	アカニシ			殻高：116.0±		
河川4	第3面	上層	アカニシ			殻高：116.0±		
河川4	第3面	上層	アカニシ			殻高：115.0±		
河川4	第3面	上層	アカニシ			殻高：115.0±		
河川4	第3面	上層	アカニシ			殻高：129.0±	6-8	

出土遺構	帰属面	層位	種別	部位	左右	計測値(mm)	写真番号	備考
河川4	第3面	上層	アカニシ			殻高：97.0±		
河川4	第3面	上層	アカニシ			殻高：107.9±	6-6	
河川4	第3面	上層	アカニシ			殻高：90.29±	6-2	
河川4	第3面	上層	アカニシ			殻高：103.0±		殻を壊す。
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：101.65	6-4	アカニシは全て体層部を破壊して肉質部を摘出している。殻頂部が破損しているのは発掘時の損傷があるかも知れない。体層部を狙い割ったのであろう。
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：108.28		
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：98.0±		
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：106.0±		
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：115.0±		
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：116.0±		
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：117.0±		
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：108.64		
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：118.0±		
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：115.58		
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：124.64		
河川4	第3面	下層	アカニシ			殻高：136.32	6-9	
河川4	第3面	下層	アサリ		左	殻長：44.96		
河川4	第3面	下層	クロアワビ					破片3個
河川4	第3面	上層	アワビ類			殻高：92.0±		
河川4	第3面	上層	アワビ類			殻高：100.0±		
河川4	第3面	下層	アワビ類					破片5個
河川4	第3面	上層	イガイ		右	殻長：83.0±		被熱
河川4	第3面	上層	ウチムラサキ		右	殻長：63.7		
河川4	第3面	下層	ウチムラサキ		左	殻長：52.77		
河川4	第3面	下層	ウチムラサキ		右	殻長：55.29		
河川4	第3面	下層	ウチムラサキ		右	殻長：57.29		
河川4	第3面	下層	ウチムラサキ		右	殻長：71.9		
河川4	第3面	下層	ウチムラサキ		右	殻長：112.19		
河川4	第3面	下層	ウチムラサキ		右	殻長：72.63	9-2	
河川4	第3面	下層	ウチムラサキ		右	殻長：72.54	9-1	
河川4	第3面	下層	カガミガイ		左	殻長：43.8		合い貝
河川4	第3面	下層	カガミガイ		右	殻長：43.8		合い貝
河川4	第3面	下層	カガミガイ		左	殻長：55.9		合い貝
河川4	第3面	下層	カガミガイ		右	殻長：55.9		合い貝
河川4	第3面	下層	カキ類		左	殻長：49.40		
河川4	第3面	下層	カキ類		右	殻長：52.85		
河川4	第3面	上層	クロアワビ			殻長：63.0		
河川4	第3面	下層	コマタガイ		右	殻長：45.82		
河川4	第3面	下層	サザエ	蓋		径：50.37		
河川4	第3面	下層	サザエ	蓋		径：44.58		
河川4	第3面	下層	サザエ			殻高：122.53	3	
河川4	第3面	下層	サザエ	蓋		長径：50.0±		
河川4	第3面	下層	サザエ	蓋		長径：48.35		
河川4	第3面	下層	サザエ	蓋		長径：40.58		
河川4	第3面	下層	サトウガイ		左	殻長：91.0±		
河川4	第3面	下層	シオフキ		右	殻長：49.05	14	
河川4	第3面	上層	ダンベイキサゴ			径：23.5		
河川4	第3面	下層	チョウセンハマグリ		左	殻長：85.17		
河川4	第3面	下層	チョウセンハマグリ		右	殻長：90.55		
河川4	第3面	下層	チョウセンハマグリ		右	殻長：63.48		
河川4	第3面	下層	チョウセンハマグリ		左	殻長：76.91		
河川4	第3面	下層	チョウセンハマグリ		左	殻長：83.67		
河川4	第3面	下層	チョウセンハマグリ		左	殻長：87.10		
河川4	第3面	下層	チョウセンハマグリ		左	殻長：不明	2個	
河川4	第3面	上層	チョウセンハマグリ		右	殻長：80.0±		
河川4	第3面	上層	チョウセンハマグリ		右	殻長：64.0±		
河川4	第3面	上層	チョウセンハマグリ		右	殻長：93.5±		
河川4	第3面	下層	バイガイ			殻高：46.26		
河川4	第3面	下層	バイガイ			殻高：47.09		
河川4	第3面	下層	バイガイ			殻高：50.04		
河川4	第3面	下層	バカガイ		右	殻長：64.58	13-1	
河川4	第3面	下層	バカガイ		左	殻長：68.40	13-2	
河川4	第3面	上層	パティラ			殻高：28.0 径：30.0		
河川4	第3面	下層	パティラ			殻高：27.66		
河川4	第3面	上層	ハマグリ		右	殻長：40.4		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：62.61		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：48.67		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：51.67		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：66.53±		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：75.72		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：71.38		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：65.0±		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	殻長：67.0±		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	殻長：48.5		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	殻長：58.53±		

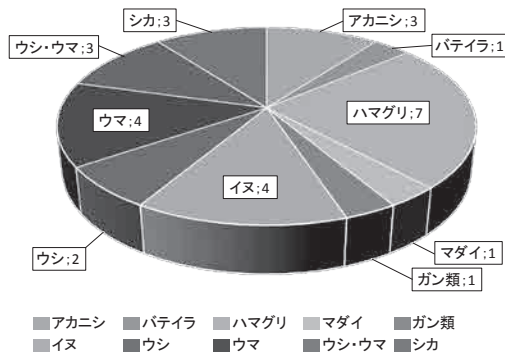
出土遺構	帰属面	層位	種別	部位	左右	計測値(mm)	写真番号	備考
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	殻長：44.47		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	殻長：56.0±		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	殻長：77.88		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	殻長：47.46		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	殻長：42.0±		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：83.44		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：55.66		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：96.33		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：70.0±		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：85.28		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：68.64		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：57.37		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：58.37		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：57.81		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：50.81		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：43.36		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：50.33		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：49.64		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：45.43		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：40.71		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：不明		(中) 2個、(小) 2個
河川4	第3面	下層	ハマグリ					破片
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	(大)殻長：95.83		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	(大)殻長：88.71		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	(大)殻長：不明		1個
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	(中)殻長：64.89		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	(中)殻長：不明		4個
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	(小)殻長：66.47		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	(小)殻長：59.44		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	(小)殻長：66.20		
河川4	第3面	下層	ハマグリ		左	(小)殻長：不明		10個
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：55.0±		
河川4	第3面	上層	ハマグリ		左	殻長：73.02		合い貝を確認できず。
河川4	第3面	上層	ハマグリ		左	殻長：67.43		合い貝を確認できず。
河川4	第3面	上層	ハマグリ		左	殻長：73.16		合い貝を確認できず。
河川4	第3面	上層	ハマグリ		左	殻長：66.32		合い貝を確認できず。
河川4	第3面	上層	ハマグリ		左	殻長：53.18		合い貝を確認できず。
河川4	第3面	上層	ハマグリ		左	殻長：57.0±		合い貝を確認できず。
河川4	第3面	上層	ハマグリ		左	殻長：51.0±		合い貝を確認できず。
河川4	第3面	上層	ハマグリ		左	殻長：46.35		合い貝を確認できず。
河川4	第3面	上層	ハマグリ		左	殻長：不明		3個、合い貝を確認できず。
河川4	第3面	上層	ハマグリ		右	殻長：73.66		
河川4	第3面	上層	ハマグリ		右	殻長：68.93		
河川4	第3面	上層	ハマグリ		右	殻長：68.96		
河川4	第3面	上層	ハマグリ		右	殻長：59.0±		
河川4	第3面	上層	ハマグリ		右	殻長：51.0±		
河川4	第3面	上層	ハマグリ		右	殻長：52.0±		
河川4	第3面	上層	ハマグリ		右	殻長：65.0±		
河川4	第3面	上層	ハマグリ		右	殻長：不明		2個
河川4	第3面	下層	ハマグリ		右	殻長：80.29		
河川4	第3面	下層	ゴイサギ		右	25.05		
河川4	第3面	下層	ヒメシラトリ		右	殻長：31.92		
河川4	第3面	下層	フジナミガイ		左	殻長：97.54		
河川4	第3面	下層	フジナミガイ		右	殻長：74.0±		
河川4	第3面	下層	フジナミガイ		右			破片
河川4	第3面	下層	ホソヤツメタ			殻高：55.59		
河川4	第3面	下層	ホソヤツメタ			殻高：41.98		
河川4	第3面	下層	ホソヤツメタ			殻高：35.66		
河川4	第3面	下層	ホソヤツメタ			殻高：37.99		
河川4	第3面	下層	ホソヤツメタ			殻高：40.99	4-3	
河川4	第3面	下層	ホソヤツメタ			殻高：34.23		
河川4	第3面	下層	ホソヤツメタ			殻高：25.33		
河川4	第3面	下層	ホソヤツメタ			殻高：29.05		
河川4	第3面	下層	ホソヤツメタ			殻高：27.73		
河川4	第3面	下層	ホソヤツメタ			殻高：24.67	4-2	
河川4	第3面	下層	ホソヤツメタ			殻高：17.53		
河川4	第3面	下層	ホソヤツメタ			殻高：18.86	4-1	
河川4	第3面	下層	ホソヤツメタ			殻高：15.84		
河川4	第3面	下層	マガキ		左	殻長：54.43		右とは別個体
河川4	第3面	下層	マガキ		右	殻長：48.36		左とは別個体
河川4	第3面	上層	マダカアワビ					破片
河川4	第3面	上層	マダカアワビ			殻長：160.0±		
河川4	第3面	上層	マダカアワビ			殻長：170.0±		
河川4	第3面	下層	マダカアワビ			殻長：170.0±		
河川4	第3面	下層	マダカアワビ			殻長：170.0±		
河川4	第3面	下層	マダカアワビ			殻長：200.0±	2	
河川4	第3面	下層	マダカアワビ			殻長：120.0±		
河川4	第3面	下層	マダカアワビ			殻長：100.0±		
河川4	第3面	下層	マダカアワビ			殻長：130.0±		

出土遺構	帰属面	層位	種別	部位	左右	計測値(mm)	写真番号	備考
河川4	第3面	下層	マダカアワビ			殻長：150.0		
河川4	第3面	上層	クロアワビ					2個
河川4	第3面	上層	マルサルボウ		左	殻長：74.73		
河川4	第3面	上層	マルサルボウ		右	殻長：37.86		
河川4	第3面	下層	ミガキボラ			殻高：104.34±	5	
河川4	第3面	上層	メカイアワビ					破片
河川4	第3面	下層	メカイアワビ			殻長：180.0±	1	
河川4	第3面	下層	ヨロイガイ		左	殻長：48.0	10-2	
河川4	第3面	下層	ヨロイガイ		左	殻長：36.0	10-1	
河川4	第3面	上層	タイ類	舌顎骨	右			
河川4	第3面	下層	ウミガメ	背甲板片			16	
河川4	第3面	上層	ニワトリ	尺骨	左	長さ：73.91		
河川4	第3面	上層	イス	尺骨	右			近位端破損
河川4	第3面	上層	イス	肋骨	右			
河川4	第3面	上層	イス	中足骨	左	長さ：70.42		第3中足骨
河川4	第3面	上層	イス	胸椎				破片
河川4	第3面	下層	イス	肋骨				
河川4	第3面	下層	イス	肩甲骨	右	全長：106.11		
河川4	第3面	下層	イス	上腕骨		全長：127.26		
河川4	第3面	下層	イス	頭蓋骨		全長：147.73	18	
河川4	第3面	下層	イス	下顎骨	左/右		19	Cは上下とも欠けるが歯槽はあく。
河川4	第3面	上層	イノシシ	大腿骨片	左			骨体部
河川4	第3面	上層	ウマ	脛骨	左	全長：315.0		
河川4	第3面	上層	ウマ	中手骨	左	全長：215.0		
河川4	第3面	上層	ウマ	中手骨	左	全長：214.5		
河川4	第3面	上層	ウマ	基節骨		全長：78.57		
河川4	第3面	上層	ウマ	M ¹	右	高さ：48.15		
河川4	第3面	上層	ウマ	I ¹	左/右			別個体
河川4	第3面	上層	ウマ	肋骨	右			
河川4	第3面	上層	ウマ	肋骨				
河川4	第3面	上層	ウマ					破片
河川4	第3面	上層	ウマ	脛骨	左			近・遠端欠損
河川4	第3面	下層	ウマ	肋骨				
河川4	第3面	下層	ウマ	肩甲骨	左	肩甲骨幅：60.16	26	
河川4	第3面	下層	ウマ	I ₁	左			
河川4	第3面	下層	ウマ	中手/中足骨				
河川4	第3面	下層	ウマ	下顎P ₃ ・4、M ₁ ~ ₃	右		25	
河川4	第3面	下層	ウマ	中手/中足骨				第2/第4
河川4	第3面	下層	ウマ	下顎片				
河川4	第3面	下層	ウマ	肋骨				
河川4	第3面	下層	ウマ	脛骨	右	全長：320.2		
河川4	第3面	上層	ウシ・ウマ	肋骨片				
河川4	第3面	上層	ニホンジカ	大腿骨近位端	右			割る。
河川4	第3面	上層	ニホンジカ	上腕骨遠位端	右			骨端欠(脱れ)、中間割る。
河川4	第3面	上層	ニホンジカ	脛骨	右			近位端、骨体割る。
河川4	第3面	上層	ニホンジカ	肋骨	左			
河川4	第3面	下層	ニホンジカ	脛骨	左			破片
河川4	第3面	下層	ニホンジカ	上腕骨	右			右から遠位端割る。
河川4落ち込み	第3面		アカニシ			殻高：113.0±		
河川4落ち込み	第3面		アサリ		右	殻長：41.83		
河川4落ち込み	第3面		イチョウシラトリ		左	殻長：36.97		
河川4落ち込み	第3面		ウチムラサキ		左	殻長：73.72		
河川4落ち込み	第3面		クロアワビ			殻長：49.0		
河川4落ち込み	第3面		サザエ	蓋		径：39.08		
河川4落ち込み	第3面		サザエ	蓋		径：50.33		
河川4落ち込み	第3面		シオフキ		左	殻長：53.02		
河川4落ち込み	第3面		チョウセンハマグリ		左	殻長：60.77		
河川4落ち込み	第3面		ハマグリ		右	殻長：90.0±		
河川4落ち込み	第3面		ハマグリ			殻長：66.0±		
河川4落ち込み	第3面		ホソヤツメタ			殻高：38.0		
河川4落ち込み	第3面		ホソヤツメタ			殻高：36.0		
河川4落ち込み	第3面		ホソヤツメタ			殻高：29.0		
河川4落ち込み	第3面		マルサルボウ		左	殻長：77.53		
河川4落ち込み	第3面		イス	軸椎				
河川4落ち込み	第3面		ウマ	脛骨	左	近位端幅：90.11	31	近位端から割っている。
河川4落ち込み	第3面		ウマ	肋骨				
河川4落ち込み	第3面		ウマ	寛骨	右	最小径：34.27		
河川4落ち込み	第3面		ウマ	肩甲骨	右	肩甲骨幅：51.29		
河川4護岸跡	第3面		アカニシ			殻高：121.7		殻頂から下端までのほぼ全高が残されている。大小あるが何れも肉を取り出すために殻の奥まで届くように丁寧に割っている。
河川4護岸跡	第3面		アカニシ			殻高：120.4		
河川4護岸跡	第3面		アカニシ			殻高：120.3		
河川4護岸跡	第3面		アカニシ			殻高：94.6	6-3	
河川4護岸跡	第3面		アカニシ			殻高：97.5		
河川4護岸跡	第3面		アカニシ			殻高：不明		
河川4護岸跡	第3面		アカニシ			殻高：124.04		
河川4護岸跡	第3面		アカニシ			殻高：126.31	6-7	

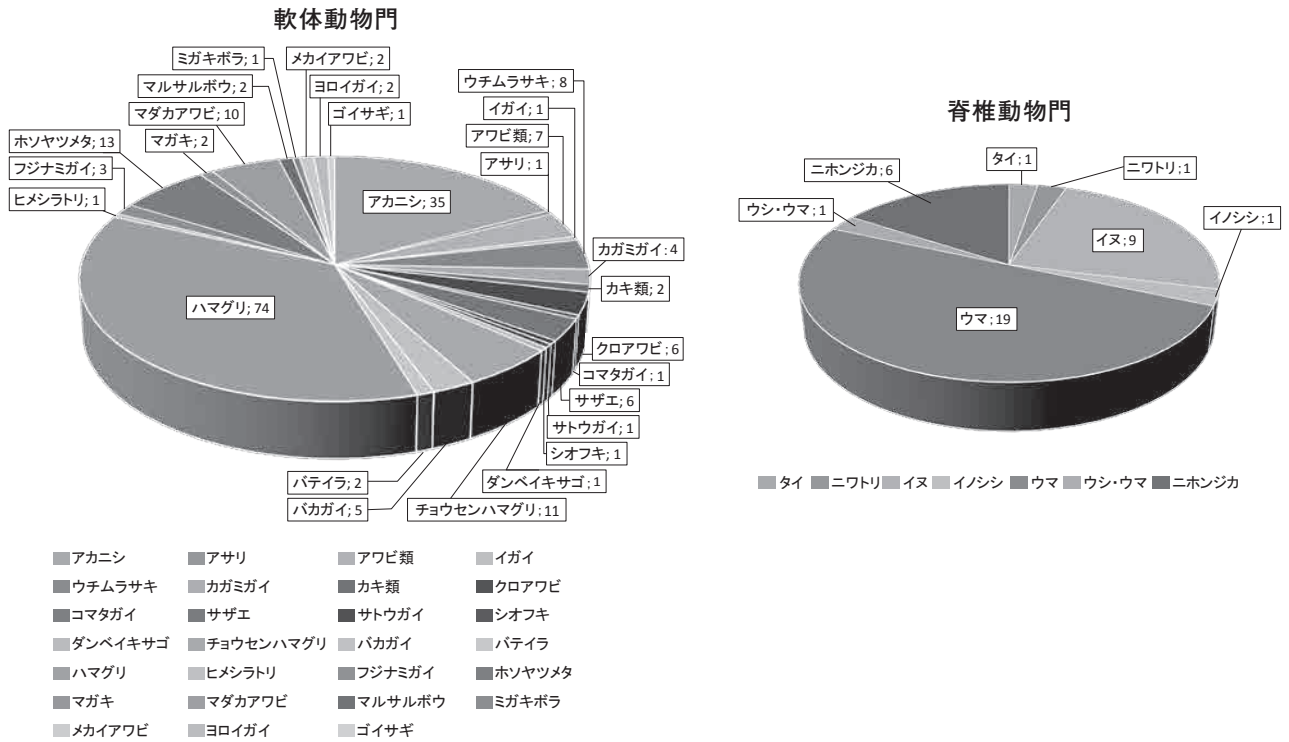
出土遺構	帰属面	層位	種別	部位	左右	計測値(mm)	写真番号	備考
河川4 護岸跡	第3面		アカニシ			殻高：109.69		
河川4 護岸跡	第3面		アカニシ			殻高：106.95	6-5	
河川4 護岸跡	第3面		アカニシ			殻高：不明		
河川4 護岸跡	第3面		アカニシ			殻高：112.06		
河川4 護岸跡	第3面		アカニシ			殻高：114.88		
河川4 護岸跡	第3面		オキアサリ		右	殻長：39.5		
河川4 護岸跡	第3面		オキアサリ		左	殻長：40.26	11	
河川4 護岸跡	第3面		オキアサリ		左			
河川4 護岸跡	第3面		アサリ		左	殻長：43.4		
河川4 護岸跡	第3面		アサリ		左	殻長：29.46	12-1	右と同一個体
河川4 護岸跡	第3面		アサリ		右	殻長：29.33	12-2	左と同一個体
河川4 護岸跡	第3面		アワビ類					破片
河川4 護岸跡	第3面		オキシジミ		左	長さ：38.20	8	
河川4 護岸跡	第3面		ウチムラサキ		右			破片
河川4 護岸跡	第3面		ウチムラサキ		右			
河川4 護岸跡	第3面		ウチムラサキ		左	殻長：71.55		
河川4 護岸跡	第3面		ウチムラサキ		左			破片
河川4 護岸跡	第3面		ウチムラサキ		右	殻長：65.32		
河川4 護岸跡	第3面		サザエ			不明		殻頂～柱中間割る。
河川4 護岸跡	第3面		サザエ	殻柱片		不明		殻を割る。
河川4 護岸跡	第3面		サザエ			殻高：118.02		有棘2個
河川4 護岸跡	第3面		サザエ					小さい殻
河川4 護岸跡	第3面		サビシラトリ		左	殻長：49.7		
河川4 護岸跡	第3面		サビシラトリ		左	殻長：49.5		
河川4 護岸跡	第3面		シオフキ		右	殻長：49.73		
河川4 護岸跡	第3面		シオフキ		右	殻長：44.86		
河川4 護岸跡	第3面		シオフキ		右	殻長：45.97		
河川4 護岸跡	第3面		ダンベイキサゴ			径：24.73		
河川4 護岸跡	第3面		ダンベイキサゴ			径：23.98		
河川4 護岸跡	第3面		ダンベイキサゴ			径：27.88		
河川4 護岸跡	第3面		ダンベイキサゴ			径：24.10		
河川4 護岸跡	第3面		ダンベイキサゴ					
河川4 護岸跡	第3面		ダンベイキサゴ			径：37.07		
河川4 護岸跡	第3面		ダンベイキサゴ			径：37.05		
河川4 護岸跡	第3面		ダンベイキサゴ			径：36.96		
河川4 護岸跡	第3面		チョウセンハマグリ		右	殻長：90.6		
河川4 護岸跡	第3面		チョウセンハマグリ		左	殻長：87.2		
河川4 護岸跡	第3面		チョウセンハマグリ		右	殻長：92.46		
河川4 護岸跡	第3面		チョウセンハマグリ		右	殻長：82.82		
河川4 護岸跡	第3面		チョウセンハマグリ		左	殻長：95.05		
河川4 護岸跡	第3面		チョウセンハマグリ		右	殻長：52.68		
河川4 護岸跡	第3面		バイガイ			殻長：55.95		
河川4 護岸跡	第3面		バイガイ			殻長：46.16		
河川4 護岸跡	第3面		バイガイ			殻高：50.29		
河川4 護岸跡	第3面		バカガイ		右	殻長：64.2		
河川4 護岸跡	第3面		バカガイ		右	殻長：66.2		
河川4 護岸跡	第3面		バカガイ		右	殻長：38.9		
河川4 護岸跡	第3面		バカガイ		左	殻長：64.2		
河川4 護岸跡	第3面		パティラ			殻高：23.73		
河川4 護岸跡	第3面		パティラ		右			
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：88.6		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：63.8		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：65.3		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：58.1		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：53.1		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：48.1		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：47.3		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：46.5		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：53.9		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：47.1		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：51.7		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：不明		2個
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：66.3		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：39.8		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：48.1		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：49.9		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：51.2		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：56.0		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：53.4		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：44.5		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：54.2		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：53.6		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：55.5		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：39.7		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：42.3		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：不明		
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ					破片
河川4 護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：94.09		

出土遺構	帰属面	層位	種別	部位	左右	計測値(mm)	写真番号	備考
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：80.10		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：62.61		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：55.94		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：46.42		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：43.66		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：44.49		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：43.61		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：83.34		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：82.71		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：82.30		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：51.24		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：不明	2個	
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：85.58		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：57.90		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：57.75		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：50.71		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：68.58		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		右	殻長：59.0±		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：62.82		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：66.98		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：48.36		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：46.17		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：53.0±		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：55.27		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：69.0±		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：46.0±		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：36.77		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：69.0±		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：55.33		
河川4護岸跡	第3面		ハマグリ		左	殻長：61.0±		
河川4護岸跡	第3面		カガミガイ		左			
河川4護岸跡	第3面		ヒメシラトリ		右	殻長：43.6		
河川4護岸跡	第3面		ヒメシラトリ		右	殻長：41.4		
河川4護岸跡	第3面		ヒメシラトリ		右	殻長：39.4		
河川4護岸跡	第3面		ヒメシラトリ		左	殻長：37.8		
河川4護岸跡	第3面		ヒメシラトリ		左	殻長：34.10	15-1	
河川4護岸跡	第3面		ヒメシラトリ		右	殻長：39.77	15-3	
河川4護岸跡	第3面		ヒメシラトリ		右	殻長：31.10	15-2	
河川4護岸跡	第3面		ホソヤツメタ			殻高：54.53		
河川4護岸跡	第3面		ホソヤツメタ			殻高：54.6		
河川4護岸跡	第3面		ホソヤツメタ			殻高：39.3		
河川4護岸跡	第3面		ホソヤツメタ			殻高：31.9		
河川4護岸跡	第3面		ホソヤツメタ			殻高：34.2		
河川4護岸跡	第3面		ホソヤツメタ			殻高：32.7		
河川4護岸跡	第3面		ホソヤツメタ			殻高：不明	4個	
河川4護岸跡	第3面		ホソヤツメタ			殻高：37.56		
河川4護岸跡	第3面		ホソヤツメタ			殻高：37.56		
河川4護岸跡	第3面		ホソヤツメタ			殻高：37.27		
河川4護岸跡	第3面		ホソヤツメタ			殻高：31.38		
河川4護岸跡	第3面		ホソヤツメタ			殻高：26.17		
河川4護岸跡	第3面		ホソヤツメタ			殻高：28.03		
河川4護岸跡	第3面		ホソヤツメタ			殻高：40.14		
河川4護岸跡	第3面		ホソヤツメタ			殻高：29.73		
河川4護岸跡	第3面		ホソヤツメタ			殻高：不明		
河川4護岸跡	第3面		マダカアワビ			殻長：98±		
河川4護岸跡	第3面		マダカアワビ			殻長：140		
河川4護岸跡	第3面		マダカアワビ			殻長：124		
河川4護岸跡	第3面		マダカアワビ			殻長：103.06		
河川4護岸跡	第3面		マルサルボウ		右	殻長：78.11		条37本
河川4護岸跡	第3面		マルサルボウ		左	殻長：62.93		
河川4護岸跡	第3面		マルサルボウ		左	殻長：50.57		
河川4護岸跡	第3面		魚片					
河川4護岸跡	第3面		ウミガメ	肋骨板片			17	
河川4護岸跡	第3面		トリ類	肋骨	右			
河川4護岸跡	第3面		イス	脛骨	左	全長：149.55		
河川4護岸跡	第3面		イス	下顎骨	右	全長：132.37		P ₁ 、M ₁ のみ。咬耗なし。♀
河川4護岸跡	第3面		イス	下顎骨 C、P ₂₋₄ 、M ₁₋₃	右	全長：119.87	21	M ₁ が割れている。全歯に咬耗が見られない。♂
河川4護岸跡	第3面		イス	肋骨	右			2個
河川4護岸跡	第3面		イス	大腿骨	右	全長：161.36	22	
河川4護岸跡	第3面		イス	下顎骨	右		20	♂、焼ける。この下顎骨は、M ₁ より遠位部分を残すのみで、近位部分を失う。破損部分は被熱し損失している。骨は焼けこげ崩れたのであろう。
河川4護岸跡	第3面		ネコ	上腕骨	左			近位端脱れ。
河川4護岸跡	第3面		イノシシ	肋骨				

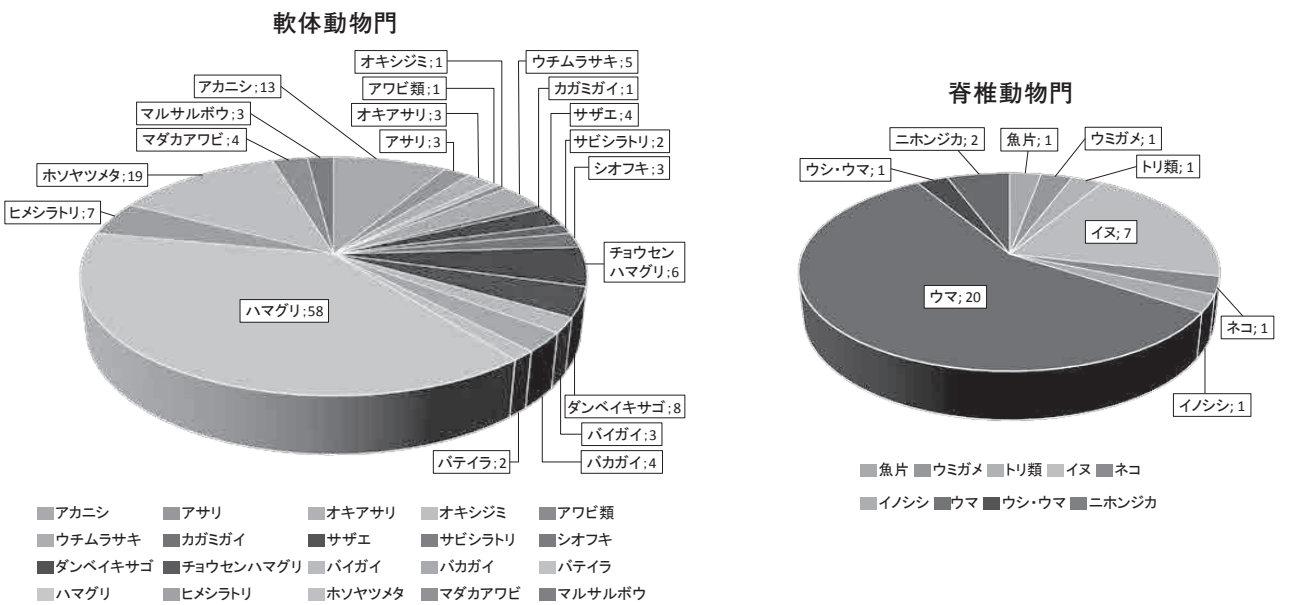
出土遺構	帰属面	層位	種別	部位	左右	計測値(mm)	写真番号	備考
河川4護岸跡	第3面		ウマ	頭頂骨			24	端に切痕があり切り取っている。 (欠 I ₂)I ₃ I ^(1,2,3) 、pd _{2,3,4} P ^(2,3,4) M ^{1,2(3)} 、乳切歯 I ³ 、切歯 1~3未出、乳臼歯 pd ₂ ~4 臼歯 (M ³)未出
河川4護岸跡	第3面		ウマ	中足骨	左	全長：250.3	32	カットマークが多い。解体痕か。
河川4護岸跡	第3面		ウマ	胸椎				
河川4護岸跡	第3面		ウマ	中手骨		全長：220.0		
河川4護岸跡	第3面		ウマ	肋骨				2点
河川4護岸跡	第3面		ウマ	大腿骨	左	全長：366.0	30	
河川4護岸跡	第3面		ウマ	中手骨	左	全長：213.0		第2/第3
河川4護岸跡	第3面		ウマ	頭頂片				
河川4護岸跡	第3面		ウマ	環椎		前位関節面幅 79.07		
河川4護岸跡	第3面		ウマ	環椎		前位関節面幅 89.67		
河川4護岸跡	第3面		ウマ	肩甲骨				幼体
河川4護岸跡	第3面		ウマ	頭蓋骨 P ²⁻⁴ 、M ¹⁻³	左・右		23	吻端と頭蓋部を壊す。
河川4護岸跡	第3面		ウマ	胸椎				
河川4護岸跡	第3面		ウマ	橈尺骨	左	橈骨全長：323.0	27	
河川4護岸跡	第3面		ウマ	中手骨	左	全長：216.0	28	
河川4護岸跡	第3面		ウマ	寛骨	左		29	
河川4護岸跡	第3面		ウマ	肋骨				3点
河川4護岸跡	第3面		ウマ	I ²	左			10歳±
河川4護岸跡	第3面		ウシ・ウマ	骨片				
河川4護岸跡	第3面		ニホンジカ	胸椎				
河川4護岸跡	第3面		ニホンジカ	肋骨				2個
遺構外	第3面		アカニシ			殻高：110.21		割る。
遺構外	第3面		アカニシ					破片
遺構外	第3面		アカニシ			殻高：109.71		
遺構外	第3面		ツメタガイ			殻高：39.04		
遺構外	第3面		ハマグリ		左	殻長 72.87		
遺構外	第3面		ハマグリ		左	殻長 59.0±		
遺構外	第3面		ハマグリ		左	殻長：46.0		
遺構外	第3面		アサリ		左	殻長：45.95		
遺構外	第3面		チョウセンハマグリ		右	殻長：102.11	7	
遺構外	第3面		ホソヤツメタ			殻高：32.0		
遺構外	第3面		ホソヤツメタ			殻高：23.0		
遺構外	第3面		ウマ	中手/中足		近位端幅：18.45 遠位端幅：45.48		第2/第4
遺構外	第3面		ウマ	中節骨		長さ：44.15		近位端幅：48.45、遠位端幅：45.48



付表3 第2面 河川2護岸跡 動物遺体出土点数



付表4 第3面 河川4 動物遺体出土点数



付表5 第3面 河川4護岸跡 動物遺体出土点数

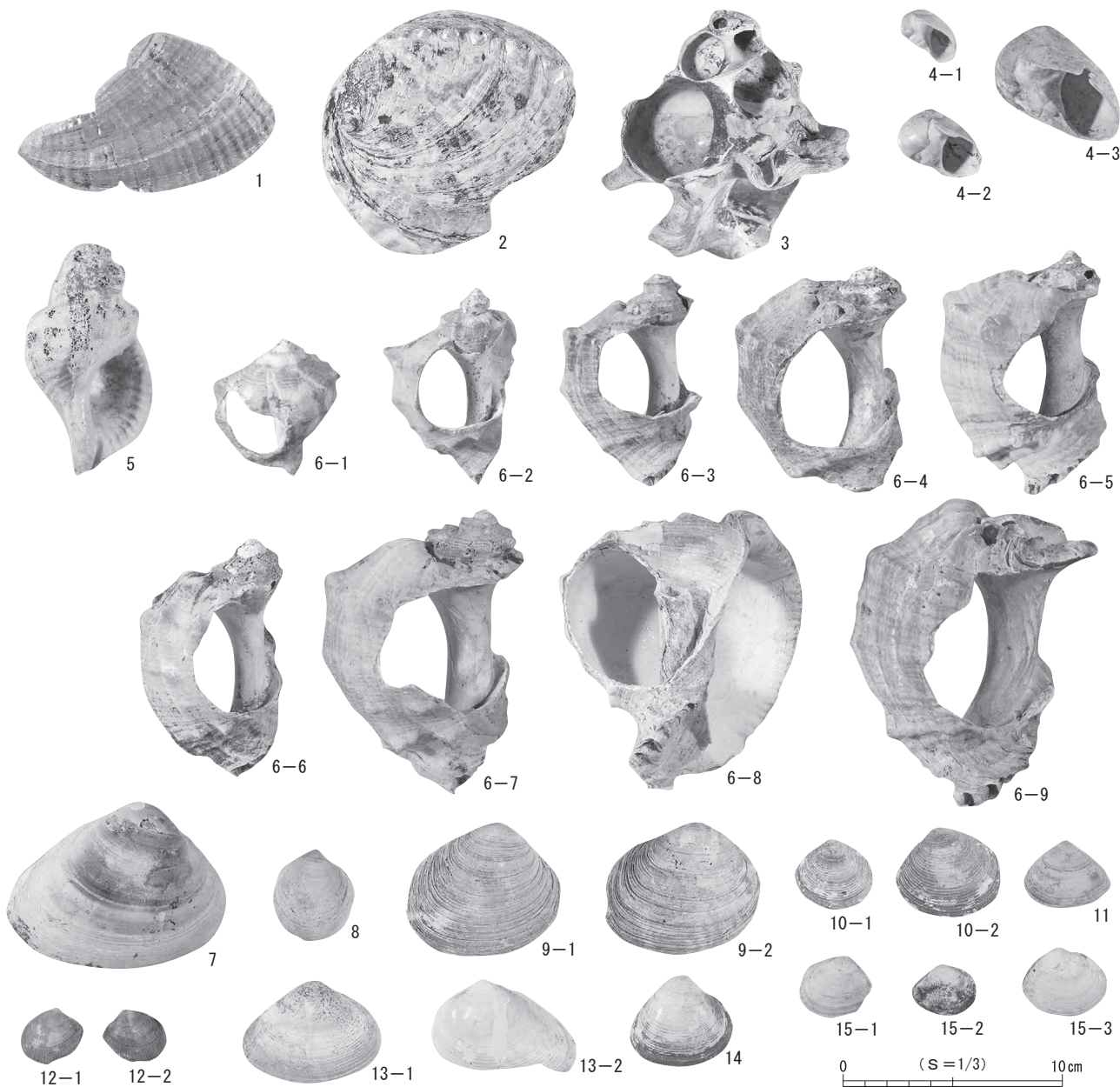
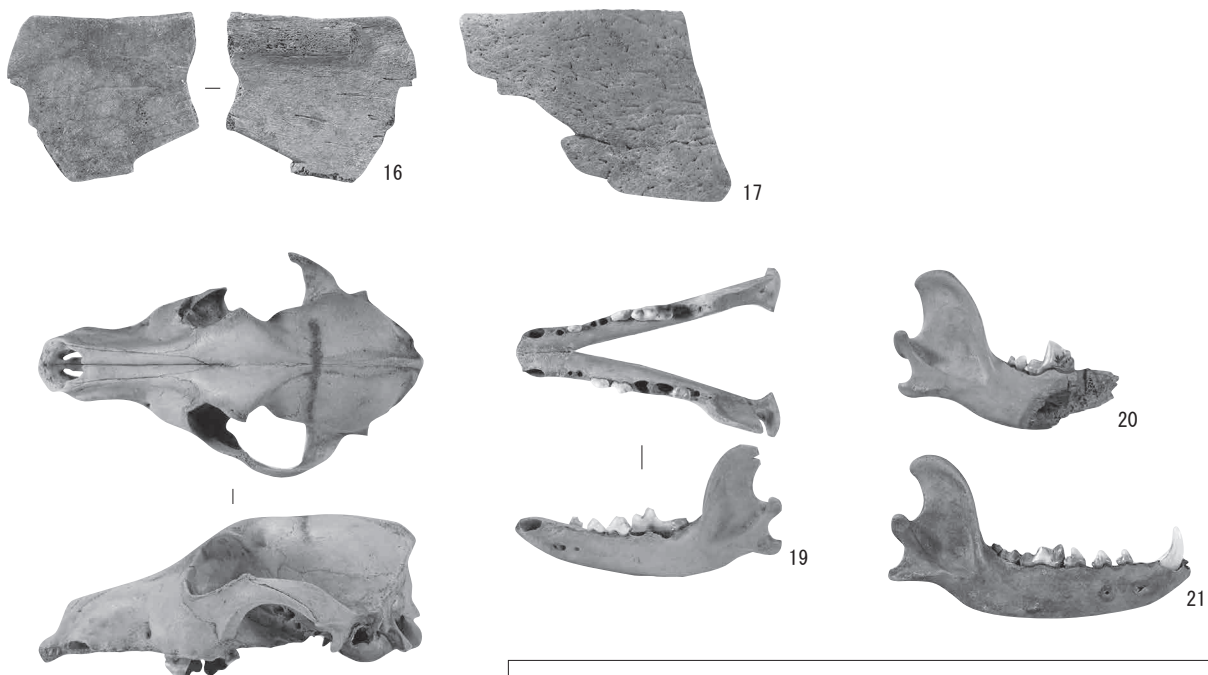


写真1 出土動物遺体(1)

附表6 出土動物遺体写真図版対応表(写真1~5)

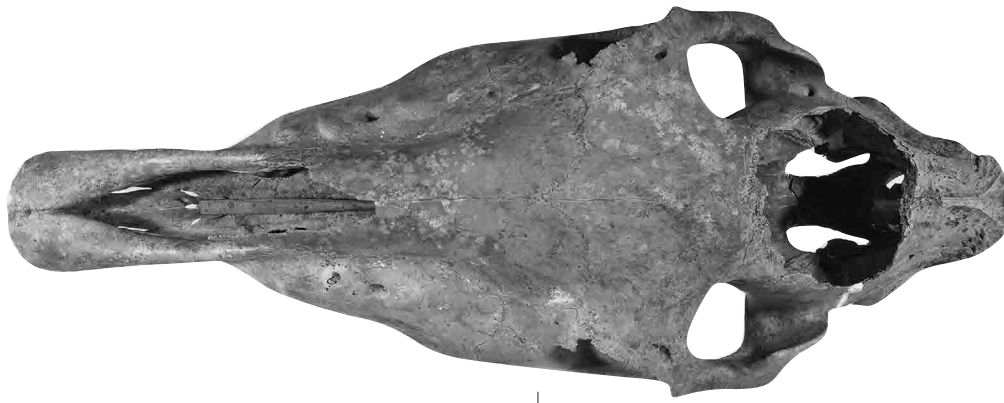
写真	出土遺構	帰属面	種別	部位	左右
1	河川4	第3面	メカイアワビ		
2	河川4	第3面	マダカアワビ		
3	河川4	第3面	サザエ		
4-1	河川4	第3面	ホソヤツメタ		
4-2	河川4	第3面	ホソヤツメタ		
4-3	河川4	第3面	ホソヤツメタ		
5	河川4	第3面	ミガキボラ		
6-1	河川4	第3面	アカニシ		
6-2	河川4	第3面	アカニシ		
6-3	河川4 護岸跡	第3面	アカニシ		
6-4	河川4	第3面	アカニシ		
6-5	河川4 護岸跡	第3面	アカニシ		
6-6	河川4	第3面	アカニシ		
6-7	河川4 護岸跡	第3面	アカニシ		
6-8	河川4	第3面	アカニシ		
6-9	河川4	第3面	アカニシ		
7	河川4 護岸跡	第3面	チョウセンハマグリ		右
8	河川4 護岸跡	第3面	オキシジミ		左
9-1	河川4	第3面	ウチムラサキ		右
9-2	河川4	第3面	ウチムラサキ		右
10-1	河川4	第3面	ヨロイガイ		左
10-2	河川4	第3面	ヨロイガイ		左
11	河川4 護岸跡	第3面	オキアサリ		左
12-1	河川4 護岸跡	第3面	アサリ		左
12-2	河川4 護岸跡	第3面	アサリ		右
13-1	河川4	第3面			
13-2	河川4	第3面			
14	河川4	第3面			
15-1	河川4 護岸跡	第3面	ヒメシラトリ		左
15-2	河川4 護岸跡	第3面	ヒメシラトリ		右
15-3	河川4 護岸跡	第3面	ヒメシラトリ		右
16	河川4	第3面	ウミガメ	背甲板片	
17	河川4 護岸跡	第3面	ウミガメ	肋骨板片	
18	河川4	第3面	イヌ	頭蓋骨	
19	河川4	第3面	イヌ	下顎骨	左/右
20	河川4 護岸跡	第3面	イヌ	下顎骨	
21	河川4 護岸跡	第3面	イヌ	下顎C、P2~4、M1~3	右
22	河川4 護岸跡	第3面	イヌ	大腿骨	右
23	河川4 護岸跡	第3面	ウマ	頭蓋骨、P2~4、M1~3	左/右
24	河川4 護岸跡	第3面	ウマ	頭頂骨	
25	河川4	第3面	ウマ	下顎 P3-4、M1-3	右
26	河川4	第3面	ウマ	肩甲骨	左
27	河川4 護岸跡	第3面	ウマ	橈尺骨	左
28	河川4 護岸跡	第3面	ウマ	中手骨	左
29	河川4 護岸跡	第3面	ウマ	寛骨	左
30	河川4 護岸跡	第3面	ウマ	大腿骨	左
31	河川4 落ち込み	第3面	ウマ	脛骨	左
32	河川4 護岸跡	第3面	ウマ	中足骨	左/右
33	河川2 護岸跡	第2面	ウシ	下顎骨	左/右



0 (S=1/3) 10cm



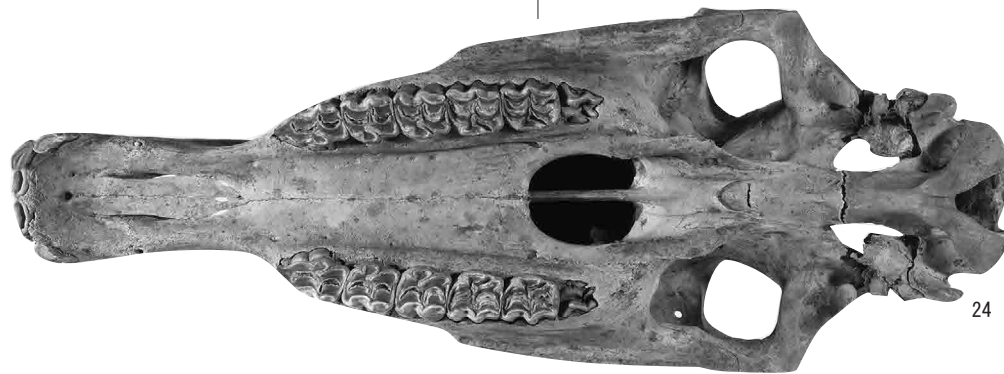
写真2 出土動物遺体(2)



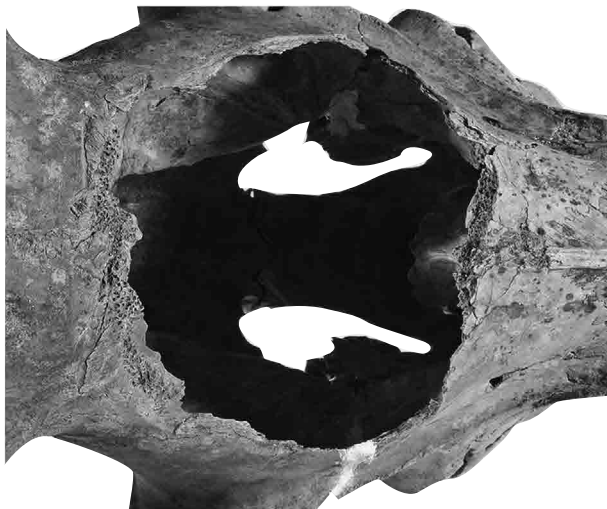
上面観



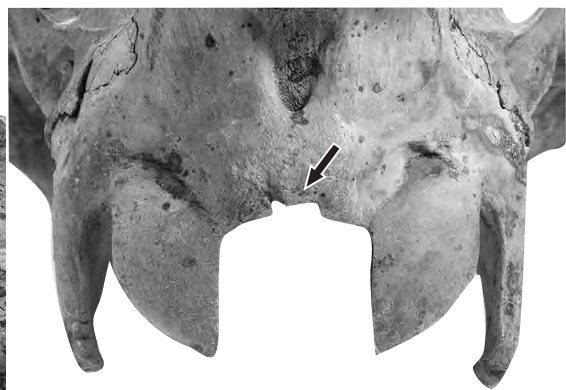
左側面観



底面観



頭頂部の穿孔された部分



大後頭孔部の加工部分(矢印)

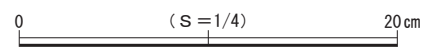


写真3 出土動物遺体(3)



腸骨の前後端、恥骨部分に意図的な打痕がある

写真4 出土動物遺体(4)



写真5 出土動物遺体(5)

第五章 まとめ

本調査地点は滑川の支流である逆川が開析する「名越ヶ谷」の開口部付近に立地し、現在の流路から10mほど北西側へ離れた逆川右岸に位置している。「名越ヶ谷」は市内では広大な面積をもつ谷戸の一つであり、その一帯に広がる名越ヶ谷遺跡の調査は24例を数える。過去に行われた主な調査例をみると、本地点の北側60mに位置する大町三丁目2356番10地点では武家屋敷や寺院を思わせる礎板建物や玉砂利面などが検出されたほか、南東側170mにある大町四丁目1901番16地点では、大規模な屋敷地と考えられる多様な遺構群が発見されている。この付近は北条氏の山荘があったという伝承の地であり、加えて「名越ヶ谷」には多くの寺院が点在していることから、鎌倉幕府開府以降、重要な地域として開発が進められた様相をうかがうことができる。

今回の調査では、近世の河川1本と杭列1列、中世の河川3本とそれに伴う護岸跡を検出し、遺構確認面は第1～3面までの合計3面である。河川の南岸は調査区外に位置すると推定され、検出し得たのは北岸から河床面までの一部にとどまる。河川の主軸方位は4本ともN-62~66°-Eの幅に収まり、河川底面の標高は北東から南西へ向かって傾斜する。これは現逆川の流路方向とほぼ同一であり、本調査区で検出した河川はその旧流路であったと考えられる。

中世の河川に付随する護岸跡は、泥岩を用いた石組みによる構造と木組みによる構造とが認められ、さらに護岸に関わる杭列1列と落ち込み1ヵ所、河川に敷設された何らかの施設と考えられる落ち込み1ヵ所も確認した。出土遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して34箱を数え、調査面積が狭小であるにもかかわらず多くの遺物が出土している。

以下、面ごとに検出した遺構と出土遺物について整理し、簡単なまとめとしたい。

〈第1面〉

第1面の遺構は堆積土層の2層上面で検出され、確認面の標高は約7.0~7.2mを測る。2層は泥岩を主体とする整地層で、第1面の遺構はこの層を掘り込んで構築されていた。検出した遺構は河川1本で、護岸に関わると考えられる杭列1列を伴っていた。河川は調査区北岸から河床面にかけてを確認したが、調査区の制約から川幅や南岸の様相などは判然としなかった。調査区内における現存幅は約4m、深さは最大で88cmを測る。また、河川の北岸際から検出された杭列は、河床面に10本の杭を列状に打ち込んだもので、おそらく護岸に関わる遺構と考えられる。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類が出土し、遺物の年代は13世紀~18世紀中葉頃までの時期幅をもつ。河川が表土直下で検出されたという状況や堆積土層の観察、近世に比定される常滑窯産の甕が出土遺物に含まれている点などから、本面の河川は大枠として近世に帰属すると考えられる。

〈第2面〉

第2面の遺構は堆積土層の5層下位で検出され、確認面の標高は約6.2~6.4mを測る。検出した遺構は河川2本で、ともに調査区を東西方向に横切り、河川の北岸にあたる部分に護岸跡が構築されていた。両河川は重複しており、新旧関係は南側に位置する河川2の方が新しい時期に位置づけられる。

まず古い段階の河川3の護岸跡についてみると、構造的には泥岩を用いた石組みによるもので、調査区北壁中央付近で検出された落ち込みの東側と西側で様相が異なる。落ち込みの東側は、最大長70cmを測る大形の泥岩を北岸の縁に南面を揃えて平置きし、東半部のみ上下2段に積み上げている。石組

みの裏込めは拳大から人頭大の泥岩で構成され、規模は南北1.6m、厚さは最大で約35cmを測る。一方で落ち込みの西側は、拳大から人頭大の泥岩を用いて護岸を築き、落ち込みの西壁の縁と調査区西端部には、最上面に30～60cmを測る大形の泥岩を配している。護岸西側の全体規模は東西現存長2.2m、南北現存長1.0m、厚さは最大で55cmを測る。なお、先ほど触れた落ち込みは調査区外へと延びるため全容を把握することができないが、直線的に延びることや逆台形を呈する断面形状などから考えると、人為的な掘り込みの可能性が高い。加えて河川3と直交して構築されていることから、関連をもつ何らかの遺構と推定される。

次に、河川3よりも時期的に新しい河川2の護岸については、木組みによる構造をもつことが明らかとなった。幅10cmほどの横板を3段に積み上げ、2本の角杭を川岸際の河床面に打ち込んで横板を押さえる構造で、調査区南壁で確認し得た裏込めは奥行きが2.25m、厚さは最大で60cmを測る。現存部は調査区西寄りの約1.5mに過ぎないが、調査区外の西側へと延びている状況が捉えられた。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類、木製品が出土し、12世紀末～14世紀代と広い時期幅をもつ遺物が流入していた。河川2の護岸跡出土遺物には6 a～6 b型式の常滑窯産の甕が数点含まれており、それを基準とするならば河川2の護岸跡は13世紀中葉～後葉頃に構築され、14世紀代まで河川とともに機能していたものと推定される。河川3は出土遺物がないために時期を特定することは困難であるが、河川2と検出面を同一にすることから、両者の時間差は少ないものと推定される。

〈第3面〉

第3面の遺構は、第2面で検出した河川2と河川3の下層に堆積した自然堆積土8～16層の下位より検出され、確認面の標高は約5.7mを測る。検出した遺構は河川1本で、これに伴う護岸跡を河川の北岸にあたる部分で確認した。

検出した河川4の護岸跡は泥岩を用いて造成された石組みの構造で、調査区外の東側および西側へと続いている。拳大から人頭大の泥岩を用いて北岸の縁に東西5.45mにわたり護岸を行い、南北現存幅は1.7m、北壁での造成土の厚さは最大で35cmを測る。調査区中央西側には、最大長70cmを測る大形の泥岩が南面をほぼ揃えて積み上げられた石段状の造成が認められ、西端部では南面が傾斜をもちながら2段に積まれている。また、調査区北壁際の中央東寄りで杭列を検出した。水際からおおよそ1.1m離れた護岸部分に、8本の杭が20～50cm間隔でほぼ直線的に打ち込まれていた。杭列の軸方位は、護岸跡の西側に認められた石段状造成部の主軸方位とほぼ一致する。なお、杭列の下位から不整形の落ち込みが確認された。規模は東西2.9m、南北現存長1.2mで、落ち込み確認面からの深さは最大で25cmと浅い。護岸上面で確認された杭列との関連は判然としないが、護岸を造成する際の掘り方に関わるものの可能性が考えられる。

遺物は主にかわらけ、舶載磁器類、陶器類、木製品が出土した。12世紀末～14世紀代と広い時期幅をもつが、14世紀代の遺物については河川2からの混入品とも考えられる。河川4の護岸跡出土遺物には5～6 a型式の常滑窯産の甕が数点含まれており、それを基準とするならば河川4の護岸跡は13世紀前葉～中葉頃に構築されたと考えられ、河川2の護岸跡が構築されるまで河川4とともに機能していたものと推定される。

鎌倉市内で発見された河川の護岸跡には、石組みと木組みの構造があり、両者を併用したものも検出されている(馬淵 1989)。本地点で検出した護岸跡は、河川3と河川4は石組みによる構造をもち、河川

2は木組みの構造である。時期変遷は古いほうから、河川4護岸跡(13世紀前葉～中葉頃)→河川3護岸跡→河川2護岸跡(13世紀中葉～後葉頃)となる。

ここで中世に属する護岸跡が検出された名越ヶ谷遺跡大町三丁目1826番9地点の様相をみると、石組みと木組みを併用した護岸跡と木組みのみの護岸跡が検出されている(手塚・野本 2002)。同地点で「護岸木組1」「護岸木組2」とされた遺構は、切り込みをもつ1枚ないし2枚の横板を河川の流路方向に直行するように据えて、この横板に直交する板を掛け合って2本の杭でこれを押さえる構造をもつ。そして「護岸木組1」の直上では石組みの護岸跡が検出されており、10cm前後から大きいものでは70cm大の泥岩を集積して構築している。地盤を安定させるための基礎的な工法として木組護岸を行っていたことがうかがえるが、本調査地点ではこうした構造をもつ護岸跡は検出されなかった。一方で「護岸木組3」は幅30cmほどの横板で土留めをし、角杭を打ち込んで横板を押さえたもので、前者とは構造が異なる。今回の調査で検出した河川2の木組護岸はこのタイプで、時期的にもほぼ同じ13世紀中葉に位置づけられる。大町三丁目1826番9地点は、本調査地点の約100m北東側という至近距離に位置することからも、一連の護岸として同時期に機能していた可能性が想定されよう。

鎌倉市内では、自然流路に伴う護岸跡の調査事例は少なく、主なものとして千葉地東遺跡や若宮大路周辺遺跡群の雪ノ下一丁目210番地点をあげることができる(服部・宍戸ほか 1986、馬淵 1989)。千葉地東遺跡では13世紀中葉～14世紀中葉にかけて存続する木組護岸が検出され、木杭を約50～60cm間隔に打ち込みこれに板材を網代状に組んだ柵状の構造をもつ。そして、溝との合流部にはこの木組護岸の上部に泥岩や砂岩の切石を積み上げた石組護岸が築かれており、溝に施された木組みはこの石組護岸の下を通り暗渠となっている。また、若宮大路周辺遺跡群の雪ノ下一丁目210番地点では、旧扇ヶ谷川と考えられる河川が検出され、川岸には石組護岸と複雑な構造をもつ木組護岸が構築されていた。本調査地点で検出した石組護岸と木組護岸は両遺跡とは様相が異なっており、護岸工法の選択には立地や地形、構築時期などさまざまな要因が影響していたことが推定される。

最後に河川から出土した遺物を概観すると、河川堆積土および護岸跡からは多種にわたる遺物が出土しているが、遺構の性格上、12世紀末～14世紀代の広い時期幅をもつ遺物が混在している。出土遺物の大半はかわらけであり、内容はロクロ成形によるもの、手づくね成形によるものが主であるが、特徴的なものとして、底面の回転糸切痕をナデ消しているロクロ成形かわらけの一群があげられる。河川2護岸跡の出土遺物中にも含まれているが、特に河川4堆積土と河川4護岸跡からの出土量が多い。他遺跡の類例としては大倉幕府周辺遺跡(齋木 2016)の遺構769より出土した一括資料の中に求められ、遺構769には12世紀第4四半期の年代観が与えられている。鎌倉初期のかわらけ資料として注目する必要がある。

引用・参考文献（著者五十音順）

- 石井 進・大三輪龍彦 1989『武士の都 鎌倉』よみがえる中世3 平凡社
- 伊丹まどか・松吉大樹 2014「名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町四丁目1858番4地点」『平成25年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30 鎌倉市教育委員会
- 押木弘巳 2017 a 「米町遺跡 (No.245) 大町二丁目2340番1地点」『平成28年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書33 鎌倉市教育委員会
- 押木弘巳 2017 b 「名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町六丁目1506番11の一部地点」『平成28年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書33 鎌倉市教育委員会
- 菊川英政 1995「4. 名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町三丁目1217番1地点」『平成6年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11 鎌倉市教育委員会
- 齋木秀雄 1990『神奈川県・鎌倉市 名越・山王堂跡発掘調査報告書－電通鎌倉研修所改築に伴う中世寺院跡の発掘調査報告－』山王堂跡発掘調査団
- 齋木秀雄 2016「3. 大倉幕府周辺遺跡の調査概要」『鎌倉かわらけの再検討』鎌倉かわらけ研究会
- 汐見一夫・野本賢二ほか 2000「名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町四丁目1888番地点」『平成11年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16 鎌倉市教育委員会
- 汐見一夫・小泉衣里 2004「名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町六丁目1708番4地点」『平成15年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20 鎌倉市教育委員会
- 宗基秀明・遠藤雅一ほか 1998「名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町四丁目1736番2外」『平成9年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14 鎌倉市教育委員会
- 滝澤晶子 2006「名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町四丁目2395番2の一部外1筆」『平成17年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22 鎌倉市教育委員会
- 田代郁夫・大坪聖子 1995「1. 名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町四丁目1880番6地点」『平成6年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11 鎌倉市教育委員会
- 玉林美男 1986「名越ヶ谷遺跡 (大町三丁目1367番4地点)」『昭和60年度発掘調査報告』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書2 鎌倉市教育委員会
- 手塚直樹・野本賢二 2002「名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町四丁目1826番9地点」『平成11年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18 鎌倉市教育委員会
- 永田史子・福田 誠 2009『大口釈迦堂口遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会
- 服部実喜・宍戸信悟ほか 1986「千葉地東遺跡」『神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告』10 神奈川県立埋蔵文化財センター
- 原 廣志 2013「名越山王堂跡 (No.234) 大町三丁目1362番1地点」『平成24年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29 鎌倉市教育委員会
- 福田 誠 1989「1. 米町遺跡 大町二丁目2411番2地点」『昭和63年度発掘調査報告』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5 鎌倉市教育委員会
- 福田 誠 1999「米町遺跡 (No.245) 大町二丁目2404番の一部地点」『平成11年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16 鎌倉市教育委員会
- 福田 誠 2003「名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町三丁目2356番10地点」『平成14年度発掘調査報告』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19 鎌倉市教育委員会
- 松井 章 2008「中世の動物考古学」『第6回 考古学と中世史シンポジウム 動物と中世社会 資料集』考古学と中世史研究会
- 松尾宣方 1983 a 「6. 釈迦堂跡」「10. 釈迦堂跡」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報 I 昭和46年度～52年度』鎌倉市教育委員会

- 松尾宣方 1983b 「45. 安国論寺境内」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ 昭和46年度～52年度』鎌倉市教育委員会
- 馬淵和雄 1989 「護岸と橋」『武士の都 鎌倉』よみがえる中世3 平凡社
- 馬淵和雄・鍛冶屋勝二ほか 2008 「米町遺跡(No.245) 大町二丁目2235番3 地点」『平成19年度発掘調査報告』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24 鎌倉市教育委員会
- 宮田 眞 2003 「名越ヶ谷遺跡(No.231) 大町三丁目2356番11地点」『平成14年度発掘調査報告』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19 鎌倉市教育委員会
- 宮田 眞・滝澤晶子ほか 1997 『米町遺跡発掘調査報告書 鎌倉市大町二丁目2338番1』米町遺跡発掘調査団
- 宮田 眞・滝澤晶子ほか 2003 『神奈川県・鎌倉市 名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書(医療法人財団額田記念会老健ぬかだ建設に伴う発掘調査)』名越ヶ谷遺跡発掘調査団 有限会社博通
- 宮田 眞・森 孝子 2004 「鎌倉市大町三丁目1364-1の一部外」『名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書』有限会社博通
- 宮田 眞・諸星真澄ほか 2001 『神奈川県・鎌倉市 名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書』名越ヶ谷遺跡発掘調査団
- 森 孝子 2004 「名越ヶ谷遺跡(No.231) 大町七丁目1615番8 地点」『平成15年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20 鎌倉市教育委員会
- 八重樫忠郎ほか 2016 『中世武士と土器かわらけ』高志書院
- 山口正紀 2012 「名越ヶ谷遺跡(No.231) 大町四丁目1888番の一部」『平成23年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28 鎌倉市教育委員会
- 『鎌倉事典』白井永二編 東京堂出版 1976
- 『鎌倉廃寺事典』貫 達人・川副武胤 有隣堂 1980
- 『新編相模国風土記稿』(上之巻)完全復刻版 千秋社 1983

表2 第1面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
第1面 遺構外(堆積土層1層) 出土遺物(図8・9)							
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.6)	(6.6)	1.1	底面-回転糸切 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/5
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(5.6)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色 調: 灰黄色 焼成: 良好	1/6
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(3.6)	1.7	底面-回転糸切 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 赤橙色 焼成: 良好	1/6
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.6	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗 土 色調: 黄褐色 焼成: 良好	1/2
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(7.0)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色 調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(6.4)	1.9	底面-回転糸切 胎土: 微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良 好	1/3
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	7.0	1.6	底面-回転糸切 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.5)	2.0	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、 海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/4
9	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.2	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗 土 色調: 黄褐色 焼成: 良好	1/2
10	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.6	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色 調: 灰黄色 焼成: 良好	4/5
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	7.0	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗 土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	略完形
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.0)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗 土 色調: 黄褐色 焼成: 良好	1/2
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(5.9)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色 調: 黄灰色 焼成: 良好	1/3
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.6)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗 土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/5
15	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.7	1.6	内外面口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥 岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/2
16	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.0)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗 土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.6)	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色 調: 灰黄色 焼成: 良好	1/5
18	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.3)	(7.0)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗 土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/5
19	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(6.0)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗 土 色調: 黄褐色 焼成: 良好	1/3
20	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(7.0)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗 土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/4
21	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	(7.8)	1.5	底面-回転糸切 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/5
22	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(9.0)	3.2	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、 海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/4
23	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(8.6)	3.3	底面-回転糸切 内底-強いナデ 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/3
24	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(8.0)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色 調: 灰黄色 焼成: 良好	1/4
25	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(8.6)	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗 土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/4
26	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(8.3)	2.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色 調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
27	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(7.6)	3.0	底面-回転糸切 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/3
28	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(8.2)	3.2	口唇部~内底に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海 綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/4
29	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	8.0	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨 針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/2
30	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.6)	3.6	底面-回転糸切 内底-強いナデ 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、 やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	2/3
31	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	(9.2)	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨 針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/4
32	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.8)	1.9	底面-回転糸切ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/6
33	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(9.2)	2.6	底面-回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗 土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
34	土器	手づくね かわらけ・小	(7.5)	-	1.2	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰 色 焼成: 良好	1/4
35	土器	手づくね かわらけ・小	(7.9)	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼 成: 良好	1/3
36	土器	手づくね かわらけ・小	(8.1)	-	2.1	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼 成: 良好	1/3
37	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	-	2.0	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色 調: 灰黄色 焼成: 良好	1/4
38	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	-	1.5	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色 調: 灰黄色 焼成: 良好	1/4

39	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
40	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰色 焼成：良好	1/3
41	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	-	2.0	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
42	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
43	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	-	2.0	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
44	土器	手づくね かわらけ・中	(10.8)	-	2.7	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、泥岩粒、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
45	土器	手づくね かわらけ・中	(11.4)	-	3.1	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
46	土器	手づくね かわらけ・中	(11.6)	-	2.7	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黒色 焼成：良好	1/5
47	土器	手づくね かわらけ・中	(12.4)	-	2.8	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/5
48	土器	手づくね かわらけ・中	(12.4)	-	3.0	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、黒色粒、泥岩粒、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
49	土器	手づくね かわらけ・中	(12.4)	-	3.1	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、黒色粒、泥岩粒、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	2/3
50	土器	手づくね かわらけ・中	(12.8)	-	2.9	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/5
51	土器	手づくね かわらけ・中	(12.8)	-	3.0	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/3
52	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	-	3.5	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、黒色粒、泥岩粒、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/3
53	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	-	3.4	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/4
54	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	-	3.2	口唇部に煤附着 内面器面剥離 底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/4
55	土器	手づくね かわらけ・大	(14.0)	-	3.0	口唇部に煤附着 底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、泥岩粒、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
56	土器	手づくね かわらけ・大	(14.0)	-	2.7	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/5
57	磁器	青白磁 合子蓋	4.4	-	1.5	頂部浅い摘み 花文・亀甲文? 型作り 色調：胎土-白色、釉-水色	1/3
58	磁器	青磁 坏	-	-	現 3.0	外面-鎚蓮弁文 色調：胎土-灰白色、釉-緑青色 備考：龍泉窯系青磁坏Ⅲ類	口縁部 小破片
59	磁器	青磁 碗	-	-	現 3.8	外面-鎚蓮弁文 色調：胎土-灰白色、釉-緑青色 備考：龍泉窯系青磁碗Ⅱ類	胴部 小破片
60	陶器	瀬戸 花瓶	-	-	現 1.9	内面-指頭による整形痕 色調：胎土-黄褐色、釉-暗緑色 菊花文の貼り付け	底部 小破片
61	陶器	瀬戸 卸皿	-	(8.0)	現 1.3	底部-糸切痕 色調：胎土-灰色、釉-淡灰緑色	底部 小破片
62	陶器	常滑 甕	-	-	現 4.7	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：7型式	口縁部 小破片
63	陶器	常滑 甕	-	-	現 7.4	胎土：粗、白色粒 色調：暗褐色 備考：17世紀第4四半期~18世紀第3四半期	口縁部 小破片
64	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 3.1	胎土：やや粗、白色粒 色調：灰色 備考：6a型式	口縁部 小破片
65	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 5.2	胎土：やや粗、白色粒 色調：黄灰色 備考：6a型式	口縁部 小破片
66	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 6.9	胎土：やや粗、白色粒 色調：灰黒色	口縁部 小破片
67	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	(14.2)	現 6.2	内面摩耗 胎土：粗、白色粒 色調：灰色	底部 小破片
68	陶器	山茶碗	-	-	現 1.9	胎土：粗、黒色粒 色調：灰色	口縁部 小破片

第1面 遺構外(堆積土層2層) 出土遺物 (図10)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.3)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.8)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.2	2.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：赤橙色 焼成：良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.6)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/2
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(7.0)	1.8	内面黒色に変色 底面-回転糸切 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
6	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.6	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	2/3
7	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	5.9	2.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	略完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.2)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(7.0)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
10	土器	ロクロ かわらけ・小	9.7	7.7	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4

11	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.5)	8.3	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:赤橙色 焼成:良好	1/2
12	土器	ロクロ かわらけ・中	-	8.0	現 1.5	内面黒色に変色 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/2
13	土器	ロクロ かわらけ・中	-	6.8	現 2.2	底面-回転糸切 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、良土 色調:灰黄色 焼成:良好	底面 小破片
14	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	9.7	3.0	口唇部に煤附着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	4/5
15	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	7.2	2.0	底面-回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
16	土器	手づくね かわらけ・小	7.6	-	1.6	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
17	土器	手づくね かわらけ・小	7.8	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	完形
18	土器	手づくね かわらけ・小	8.4	6.7	1.5	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	完形
19	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	-	1.7	口唇部に煤附着 底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、白色粒、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
20	土器	手づくね かわらけ・中	(11.5)	-	2.9	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、白色粒、海綿骨針、良土 色調:赤橙色 焼成:良好	1/4
21	土器	手づくね かわらけ・大	13.1	-	3.1	口唇部に煤附着 底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
22	磁器	青白磁 合子身	-	-	現 2.7	瓜型 色調:胎土-灰白色、釉-淡青色	胴部 小破片
23	磁器	青磁 碗	-	5.3	現 2.0	暈付-無釉 色調:胎土-灰色、釉-緑青色 備考:同安窯系青磁碗Ⅱ類	底面 小破片
24	陶器	常滑 甕	-	-	現 5.3	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
25	陶器	常滑 甕	-	-	現 8.8	胎土:密、白色粒 色調:灰色 備考:5型式	口縁部 小破片
26	陶器	常滑 甕	-	(17.2)	現 9.2	外面ヘラによる雑な整形痕 胎土:密、白色粒 色調:灰黒色 備考:6型式	底面 小破片
27	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 5.3	胎土:やや粗、微砂、白色粒 色調:灰色 備考:5型式	口縁部 小破片
28	銅製品	銭貨	直径 2.3	孔径 0.7	厚 0.1	銭銘-治平通寶(北宋・1064)	完形

表3 第2面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

河川2堆積土出土遺物(図14~16)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.7)	2.0	内面黒色に変色 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:赤橙色 焼成:良好	1/2
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(4.6)	2.1	底面-回転糸切 胎土:微砂、黒色粒、赤色粒、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.8)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.3)	1.5	底面-回転糸切 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
5	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.4	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	略完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.9)	1.8	内外面黒色に変色 底面-回転糸切 胎土:微砂、雲母、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黒色 焼成:良好	1/3
7	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.5	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	略完形
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(6.5)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/5
9	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.3)	(6.8)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/5
10	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	(7.9)	2.8	底面-回転糸切 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、良土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
11	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.5)	(6.6)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:赤橙色 焼成:良好	1/4
12	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.7)	8.5	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、黒色粒、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	5/6
13	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	8.3	3.4	口唇部に煤附着 底面-回転糸切 胎土:微砂、黒色粒、黒色粒、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	略完形
14	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.9)	7.5	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、黒色粒、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	2/3
15	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.9)	(8.7)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/4
16	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.7	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、黒色粒、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	略完形
17	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(7.8)	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、良土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/6
18	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.1)	8.6	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	2/3
19	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(7.8)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、黒色粒、赤色粒、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/2

20	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(8.5)	3.2	口唇部黒色に変色 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、良土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
21	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	8.2	3.8	内外面破損後に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、黒色粒、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	2/3
22	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	8.5	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、黒色粒、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	2/3
23	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	(8.0)	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/4
24	土器	ロクロ かわらけ・中	12.4	7.4	3.7	口唇部に煤付着 底面-回転糸切 胎土：微砂、黒色粒、黒色粒、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	略完形
25	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.5)	(7.7)	3.1	外底面に煤付着 底面-回転糸切 胎土：微砂、黒色粒、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/3
26	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.5)	(8.0)	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	2/3
27	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.9)	(8.9)	3.0	底面-回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黒色 焼成：良好	1/4
28	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.9)	(10.5)	2.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、良土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/6
29	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.1)	(8.0)	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：赤橙色 焼成：良好	1/4
30	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.1)	(10.7)	2.8	底面-回転糸切 胎土：微砂、黒色粒、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/5
31	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	(8.9)	2.8	底面-回転糸切ナゲ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/5
32	土器	手づくね かわらけ・小	(7.7)	-	1.8	底面-指頭ナゲ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
33	土器	手づくね かわらけ・小	(7.9)	-	1.8	底面-指頭ナゲ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
34	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	-	2.1	底面-指頭ナゲ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
35	土器	手づくね かわらけ・小	(8.3)	-	1.6	底面-指頭ナゲ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	2/3
36	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	-	1.6	底面-指頭ナゲ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
37	土器	手づくね かわらけ・中	(11.4)	-	(2.6)	底面-指頭ナゲ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：赤橙色 焼成：良好	1/6
38	土器	手づくね かわらけ・中	(11.6)	-	3.1	底面-指頭ナゲ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
39	土器	手づくね かわらけ・中	(12.0)	-	3.0	底面-指頭ナゲ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
40	土器	手づくね かわらけ・中	(12.1)	-	3.6	底面-指頭ナゲ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、良土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
41	陶器	産地不明 碗	-	6.1	現 2.1	底面-糸切痕 胎土：微砂、白色粒、黒色粒 色調：灰白色	底部 小破片
42	陶器	常滑 甕	-	-	現 4.9	胎土：粗、白色粒 色調：胎土-灰黒色、自然釉-暗緑色 備考：5型式	口縁部 小破片
43	陶器	常滑 甕	-	-	現 8.3	内面-指頭による整形痕 胎土：粗、白色粒 色調：胎土-灰色、自然釉-明緑色 備考：5型式	口縁部 小破片
44	陶器	常滑 甕	-	-	現 11.4	内面-指頭による整形、灰黄色の付着物 胎土：粗、白色粒 色調：胎土-灰色、自然釉-灰色 備考：5型式	口縁部 小破片
45	陶器	常滑 甕	-	(14.7)	現 9.2	内外面-櫛状工具による整形痕 胎土：粗、白色粒 色調：胎土-灰色、自然釉-灰黒色	底部 小破片
46	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 8.8	内底摩耗 胎土：粗、白色粒 色調：灰色 備考：5型式	底部 小破片
47	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 5.6	胎土：粗、白色粒 色調：灰色 備考：6 a型式	口縁部 小破片
48	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 8.5	胎土：粗、白色粒 色調：灰色 備考：6 a型式	口縁部 小破片
49	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 4.5	胎土：粗、白色粒 色調：茶褐色 備考：8型式	口縁部 小破片
50	木製品	板折敷	長 23.0	現幅 3.0	厚 0.3	四隅整形	1/8
51	木製品	経木折敷	長 27.3	現幅 2.6	厚 0.1	折敷四隅丁寧な整形 側部に小孔	1/10
52	木製品	経木折敷	長 25.3	現幅 4.9	厚 0.2	円形に加工？	1/5
53	木製品	経木折敷	長 26.0	現幅 4.0	厚 0.2		1/7
54	木製品	経木折敷	長 26.2	現幅 3.7	厚 0.2		1/7
55	木製品	曲物	長 15.6	現幅 6.3	厚 0.7~0.8	推定径17.0 底板 片面に焼痕	1/2
56	木製品	草履芯	長 22.8	現幅 5.0	厚 0.3	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部長方形 端部小孔	1/2
57	木製品	草履芯	長 22.2	現幅 4.0	厚 0.2	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部長方形	1/2
58	木製品	草履芯	長 22.8	現幅 4.9	厚 0.3	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部長方形 端部小孔	1/2
59	木製品	草履芯	長 23.0	現幅 4.7	厚 0.4	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部不明 端部小孔	1/2
60	木製品	草履芯	現長 14.8	現幅 5.1	厚 0.3	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部不明 端部小孔	1/4

61	木製品	草履芯	長 13.2	現幅 3.5	厚 0.2	子供用 端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部長方形 端部小孔	1/2
62	木製品	草履芯	長 22.5	現幅 5.0	厚 0.3	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部長方形 端部小孔	1/2
63	木製品	草履芯	現長 18.3	現幅 5.0	厚 0.2	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部長方形 薬痕	1/2
64	木製品	草履芯	現長 15.1	現幅 9.4	厚 0.3~0.4	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部長方形? 端部小孔 薬痕	1/2
65	木製品	串状	現長 31.4	幅 1.3	厚 0.7	丁寧な整形	略完形
66	木製品	篋状	現長 26.5	幅 1.2	厚 0.2		略完形
67	木製品	棒状	長 19.2	幅 1.1	厚 0.7	火鑽棒 両端部焼痕 断面方形	略完形
68	木製品	棒状	現長 22.2	幅 0.7	厚 0.7	菜箸状?	略完形
69	木製品	杭	長 24.1	幅 2.5	厚 2.5	両端部丁寧な整形	完形
70	木製品	用途不明	現長 13.6	現幅 0.5~1.4	厚 0.2	調度具・筆架?	
71	木製品	用途不明	現長 15.1	現幅 3.0	厚 0.1	曲げ物底板? 円盤状に整形	
72	木製品	用途不明	長 17.2	現幅 1.0~1.9	厚 0.5~0.6	片側縁に円形の削りが入る	
73	木製品	箸状	長 22.7	幅 0.6	厚 0.5		完形
74	木製品	箸状	長 24.6	幅 0.7	厚 0.5		完形
75	木製品	箸状	長 24.8	幅 0.6	厚 0.6		完形

河川2護岸跡出土遺物(図17~19)

1	土器	白かわらけ	(5.0)	-	1.0	内折れ 底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、良土 色調:白色 焼成:良好	3/5
2	土器	白かわらけ	6.5	-	1.5	内折れ 底面-指頭痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、やや粗土 色調:白色 焼成:良好	3/4
3	土器	白かわらけ	(8.1)	-	1.6	切り込み円盤技法 底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、良土 色調:白色 焼成:良好	3/5
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.6	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	4/5
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.7	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:赤橙色 焼成:良好	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.7	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	略完形
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(5.4)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:赤橙色 焼成:良好	1/3
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.8)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.8)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:赤橙色 焼成:良好	1/3
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.3)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや良土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/3
11	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.0)	2.2	底面-回転糸切 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや良土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/3
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	4.8	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.0)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.0)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.0)	1.6	底面-回転糸切 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/5
16	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(6.4)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/2
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(5.7)	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
18	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	6.0	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	3/4
19	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.7)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:赤橙色 焼成:良好	1/6
20	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.1	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	4/5
21	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(6.8)	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:赤橙色 焼成:良好	1/4
22	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(5.8)	1.6	底面-回転糸切 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、良土 色調:赤橙色 焼成:良好	1/5
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(6.7)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/2
24	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(6.4)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/3
25	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(6.6)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:赤橙色 焼成:良好	1/5

26	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.1)	1.5	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
27	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.8)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/2
28	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.6)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/3
29	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(6.8)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調: 赤橙色 焼成: 良好	1/5
30	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.3)	(8.6)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/6
31	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	(8.0)	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/5
32	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.5)	(8.0)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	1/2
33	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.5)	(9.2)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/5
34	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	9.0	2.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	4/5
35	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.7)	(8.5)	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/6
36	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.7)	(8.8)	3.2	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰色 焼成: 良好	1/4
37	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	6.8	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
38	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(9.0)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/5
39	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.9)	7.5	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	1/2
40	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.9)	(7.9)	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰色 焼成: 良好	1/4
41	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(8.6)	3.4	底面-回転糸切不明瞭+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/4
42	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.1)	(7.8)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/4
43	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	(7.3)	2.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	1/3
44	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	8.3	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	3/4
45	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.5)	9.0	3.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	4/5
46	土器	ロクロ かわらけ・中	12.5	8.1	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土: 微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	2/3
47	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.7)	3.7	底面-回転糸切 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰色 焼成: 良好	1/3
48	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.4)	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/4
49	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	(9.5)	3.1	内外面黒色に変色 底面-回転糸切不明瞭 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰色 焼成: 良好	1/5
50	土器	ロクロ かわらけ・中	12.7	9.0	3.6	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	4/5
51	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	9.2	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	4/5
52	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	9.4	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰色 焼成: 良好	3/4
53	土器	ロクロ かわらけ・中	12.9	9.7	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	4/5
54	土器	ロクロ かわらけ・中	12.9	8.4	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	完形
55	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(9.4)	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/3
56	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.1)	(8.7)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	1/4
57	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	8.8	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	2/3
58	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	9.4	3.4	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	完形
59	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(8.7)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	1/4
60	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.3)	(9.2)	3.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
61	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.7)	(8.6)	3.5	外面黒色に変色 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/4
62	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.0)	9.0	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	2/3
63	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.4)	1.9	底面-回転糸切ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
64	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.8)	1.5	底面-回転糸切ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/5
65	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	8.2	3.1	底面-回転糸切ナデ消し 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3

66	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	(9.2)	3.2	底面-回転糸切ナデ消し 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰色 焼成: 良好	1/2
67	土器	手づくね かわらけ・小	(7.7)	-	1.6	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/2
68	土器	手づくね かわらけ・小	(7.9)	(6.6)	1.4	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/2
69	土器	手づくね かわらけ・小	8.0	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	略完形
70	土器	手づくね かわらけ・小	(8.0)	-	1.6	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/4
71	土器	手づくね かわらけ・小	(8.0)	-	1.5	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/5
72	土器	手づくね かわらけ・小	(8.1)	-	2.0	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	略完形
73	土器	手づくね かわらけ・小	(8.1)	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	2/3
74	土器	手づくね かわらけ・小	(8.3)	-	1.7	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	1/2
75	土器	手づくね かわらけ・小	(8.3)	-	2.0	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
76	土器	手づくね かわらけ・小	8.5	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	4/5
77	土器	手づくね かわらけ・小	8.5	-	1.6	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/2
78	土器	手づくね かわらけ・小	8.5	-	2.2	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	略完形
79	土器	手づくね かわらけ・小	(8.5)	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/2
80	土器	手づくね かわらけ・小	8.5	6.2	2.0	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	完形
81	土器	手づくね かわらけ・小	(8.5)	-	1.9	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
82	土器	手づくね かわらけ・小	(8.5)	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	2/3
83	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	-	1.7	底面-指頭痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰白色 焼成: 良好	1/4
84	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	-	2.1	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/4
85	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	-	1.9	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/4
86	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	-	1.6	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
87	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/5
88	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/4
89	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
90	土器	手づくね かわらけ・中	(11.3)	-	3.4	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
91	土器	手づくね かわらけ・中	(11.5)	-	3.4	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/6
92	土器	手づくね かわらけ・中	(11.7)	-	2.7	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/6
93	土器	手づくね かわらけ・中	(11.9)	-	3.2	口唇部に煤付着 底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/4
94	土器	手づくね かわらけ・中	(11.9)	-	3.3	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、赤色粒、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/6
95	土器	手づくね かわらけ・中	12.4	-	3.4	底面-指頭痕不明瞭+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	略完形
96	土器	手づくね かわらけ・中	(12.9)	-	2.9	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、黒色粒、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/5
97	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	-	3.3	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
98	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	-	3.1	底面-指頭痕不明瞭 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	2/3
99	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	-	3.1	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/6
100	磁器	白磁皿	(12.9)	(10.5)	2.5	色調: 胎土-灰白色、釉-乳白色、精良堅緻	1/6
101	陶器	常滑甕	(19.6)	-	現8.3	胎土: 密、白色粒 色調: 胎土-灰褐色、自然釉-緑褐色 備考: 5型式	口縁部小破片
102	陶器	常滑甕	-	-	現2.3	胎土: 密、白色粒 色調: 胎土-灰褐色、自然釉-明茶褐色 備考: 6a型式	口縁部小破片
103	陶器	常滑甕	-	-	現5.0	胎土: 密、白色粒、黒色粒 色調: 胎土-灰褐色、自然釉-明茶褐色 備考: 6a型式	口縁部小破片
104	陶器	常滑甕	-	-	現10.5	胎土: 密、白色粒 色調: 胎土-灰褐色、自然釉-灰褐色 備考: 6a型式	口縁部小破片
105	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	-	-	現8.4	胎土: 密、白色粒 色調: 胎土-茶褐色、自然釉-明褐色 備考: 6b型式	口縁部小破片

106	漆器	椀	-	-	現 2.0	内外面-黒色漆髹漆・手描き施文 梅文 やや稚拙な筆遣い	胴部 小破片
107	木製品	草履芯	現長 22.5	現幅 4.8	厚 0.3	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部長方形? 端部小孔	1/2
108	木製品	草履芯	現長 8.9	現幅 4.9	厚 0.3~0.4	側縁部曲線的	1/4
109	木製品	草履芯	現長 14.6	現幅 5.0	厚 0.3	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 端部小孔 薬痕	1/4
110	木製品	草履芯	長 22.6	現幅 5.0	厚 0.4	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部長方形 端部小孔	1/2
111	木製品	草履芯	長 22.7	幅 9.9	厚 0.4	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部長方形 端部小孔 薬痕	完形
112	木製品	串状	長 29.7	幅 1.1	厚 0.8	断面楕円形 丁寧な整形	完形
113	木製品	棒状	長 23.3	幅 0.8	厚 0.5	端部斜めに加工 筥として使用?	完形
114	木製品	棒状	長 24.9	幅 0.6	厚 0.5	断面方形	完形
115	木製品	用途不明	長 14	幅 0.9	厚 0.2~0.3		
116	木製品	用途不明	現長 15.5	幅 0.8	厚 0.2~0.4		
117	木製品	用途不明	長 16.2	幅 0.6	厚 0.6		
118	木製品	用途不明	現長 17.2	幅 0.5	厚 0.3	箸状?	
119	木製品	用途不明	長 19.2	幅 0.7	厚 0.6		
120	木製品	用途不明	現長 24.1	幅 1.3	厚 0.9	建具?	
121	木製品	用途不明	長 22.9	幅 1.3	厚 1.0	杭?	完形
122	木製品	用途不明	現長 8.2	幅 2.0	厚 1.0	杭?	
123	木製品	箸状	長 21.5	幅 0.5	厚 0.4		完形
124	木製品	箸状	長 21.9	幅 0.6	厚 0.6		完形
125	木製品	箸状	長 22.1	幅 0.7	厚 0.4	附木として使用? 端部焼痕	略完形
126	木製品	箸状	長 22.5	幅 0.7	厚 0.5		完形
127	木製品	箸状	長 22.6	幅 0.7	厚 0.3	断面扁平	完形
128	木製品	箸状	長 22.7	幅 0.6	厚 0.4		完形
129	木製品	箸状	長 22.8	幅 0.7	厚 0.4		完形
130	木製品	箸状	現長 23.0	幅 0.6	厚 0.4		略完形
131	木製品	箸状	長 23.4	幅 0.8	厚 0.4		完形
132	木製品	箸状	長 23.4	幅 0.36	厚 0.4		完形
133	木製品	箸状	長 23.5	幅 0.7	厚 0.4		完形
134	木製品	箸状	長 24.3	幅 0.5	厚 0.4		完形
135	木製品	箸状	長 25.5	幅 0.6	厚 0.4		完形

河川3 落ち込み出土遺物 (図22)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.0	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.3	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、白色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(6.4)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、白色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	5.8	1.8	底面-回転糸切 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	2/3
5	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	7.0	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、白色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.0)	1.9	底面-回転糸切 胎土: 微砂、雲母、白色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/4
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.8)	1.2	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土: 微砂、雲母、白色粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	2/3
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(5.8)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
9	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	7.6	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、白色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	2/3
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.4)	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3

11	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(8.4)	2.5	内外面口縁部黒色に変色 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄灰色 焼成: 良好	1/4
12	土器	ロクロ かわらけ・中	12.2	9.2	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	完形
13	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	8.6	3.4	内外面口縁部黒色に変色 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/2
14	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	(6.0)	1.5	口唇部に煤付着 底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/4
15	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	-	1.8	口唇部に煤付着 底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/3
16	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	-	1.6	底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/2
17	土器	手づくね かわらけ・中	(12.8)	-	3.0	底面-指頭痕 胎土: 微砂、雲母、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 黄橙色 焼成: 良好	1/3
18	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	-	3.1	底面-指頭ナデ消し 胎土: 微砂、白色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/5
19	木製品	草履芯	長 22.4	現幅 3.5	厚 0.3		1/4
20	木製品	草履芯	長 23.1	現幅 4.3	厚 0.2	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部不明	1/3
21	木製品	串状	現長 59.0	幅 5.5	厚 2.0	齋串? 丁寧な整形	略完形
22	木製品	杭	長 26.6	現幅 5.3	厚 0.5~2.7	雑な整形	略完形
23	木製品	杭	長 26.4	幅 2.0	厚 1.6	端部丁寧な加工 断面方形	完形
24	木製品	杭	現長 24.9	幅 4.5	厚 1.0~1.3		
25	木製品	用途不明	長 8.3	幅 2.2	厚 0.8	端部斜めに加工?	
26	木製品	用途不明	現長 10.7	幅 2.2	厚 1.2	部材?	
27	木製品	用途不明	現長 13.8	幅 3.1	現 0.5		
28	木製品	用途不明	現長 15.4	幅 6.8	厚 1.0	建材?	
29	木製品	用途不明	現長 16.9	幅 4.1	厚 1.0~1.9		
30	木製品	用途不明	長 22.5	現幅 1.7	厚 1.3	杭? 丁寧な整形	
31	木製品	箸状	現長 15.8	幅 0.7	厚 0.5	断面扁平	4/5
32	木製品	箸状	現長 17.4	幅 0.7	厚 0.5		4/5
33	木製品	箸状	現長 18.0	幅 0.7	厚 0.5		4/5

第2面 遺構外出土遺物(図23~25)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.3	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/2
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.2	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	完形
4	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.0	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 赤橙色 焼成: 良好	4/5
5	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.0	1.7	底面-回転糸切 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黒色 焼成: 良好	1/4
6	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.1	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	4/5
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(7.2)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 赤橙色 焼成: 良好	1/5
8	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	7.5	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黒色 焼成: 良好	1/2
9	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	7.8	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/5
10	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	1.5	6.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黒色 焼成: 良好	1/4
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	5.3	1.7	内外面一部黒色に変色 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	2/3
12	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	7.3	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/2
13	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	6.0	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黒色 焼成: 良好	4/5
14	土器	ロクロ かわらけ・小	9.0	7.0	1.7	底面-回転糸切 胎土: 微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/5
15	土器	ロクロ かわらけ・小	9.0	6.7	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黒色 焼成: 良好	4/5
16	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	7.9	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土: 微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	1/4
17	土器	ロクロ かわらけ・中	10.6	8.0	1.8	底面-回転糸切 胎土: 微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調: 灰黄色 焼成: 良好	2/3

18	土器	ロクロ かわらけ・中	10.8	8.5	2.6	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
19	土器	ロクロ かわらけ・中	11.4	7.3	2.6	内底厚く煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
20	土器	ロクロ かわらけ・中	11.7	7.0	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、白色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/4
21	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	7.5	3.1	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/5
22	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	8.0	3.4	口唇部に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黒色 焼成：良好	1/3
23	土器	ロクロ かわらけ・中	11.9	9.0	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/4
24	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.7	2.7	内外面黒色に変色 底面一回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黒色 焼成：良好	1/5
25	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(9.2)	2.9	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
26	土器	ロクロ かわらけ・中	12.5	9.4	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
27	土器	ロクロ かわらけ・中	12.5	9.0	3.4	口唇部に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	略完形
28	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	8.8	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
29	土器	ロクロ かわらけ・中	12.9	9.1	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
30	土器	ロクロ かわらけ・中	12.9	8.1	3.3	内面雑な整形 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
31	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	8.9	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
32	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	9.0	3.1	内外面口唇部黒色に変色 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	略完形
33	土器	ロクロ かわらけ・大	13.1	8.6	2.9	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、泥岩粒、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
34	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4	10.0	現 2.6	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、粗土 色調：赤橙色 焼成：良好	1/2
35	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4	10.0	3.2	内面雑な整形 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
36	土器	ロクロ かわらけ・大	13.5	8.6	3.6	口唇部に煤付着 底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	4/5
37	土器	ロクロ かわらけ・大	13.8	10.3	2.9	口唇部に煤付着 底面一回転糸切ナデ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黒色 焼成：良好	1/5
38	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	7.0	1.6	底面一回転糸切ナデ消し 内底-強いナデ 胎土：微砂、雲母、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
39	土器	手づくね かわらけ・小	7.9	-	1.4	底面一指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
40	土器	手づくね かわらけ・小	8.5	-	1.9	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	略完形
41	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	-	1.6	底面一指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
42	土器	手づくね かわらけ・中	12.0	-	2.7	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
43	土器	手づくね かわらけ・中	12.5	-	3.2	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：赤橙色 焼成：良好	略完形
44	土器	手づくね かわらけ・大	13.0	-	3.2	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
45	陶器	常滑 甕	50.0	-	現 10.3	胎土：密、白色粒 色調：胎土-灰褐色、自然釉-暗緑色 備考：5型式	口縁部 小破片
46	陶器	常滑 甕	-	-	現 9.9	胎土：粗、白色粒 色調：胎土-赤褐色、自然釉-暗褐色 備考：6a型式	口縁部 小破片
47	漆器	皿	7.0	5.4	0.9	内外面-黒色漆髹漆 無文 底面髹漆していない 歪み大	略完形
48	漆器	器種不明	-	-	-	内外面-黒色漆髹漆・手描き施文 梅文 外面に凸線めぐる	胴部 小破片
49	木製品	経木折敷	長 22.9	現幅 3.9	厚 0.1	側縁部小孔	1/5
50	木製品	経木折敷	長 27.9	現幅 6.0	厚 0.3		1/5
51	木製品	曲物	現長 15.1	現幅 3.9	現 0.2~0.6	底板	1/4
52	木製品	刀子鞘	長 23.3	幅 2.9	厚 0.6	断面かまぼこ型 端部に刳りが入る	1/2
53	木製品	草履芯	現長 14.4	現幅 4.6	厚 0.3	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部不明 薬痕	1/5
54	木製品	草履芯	現長 14.0	現幅 4.2	現 0.2	側縁部曲線的 切込み部不明 薬痕	1/4
55	木製品	草履芯	長 17.6	幅 8.2	厚 2.0	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部長方形 端部小孔 薄く薬痕	略完形
56	木製品	草履芯	現 22.5	現幅 3.7	現 0.3	加工途中? 端部合わせ部が最先端となり直線的 切込み部不明 端部小孔	1/2
57	木製品	草履芯	長 22.5	幅 9.9	厚 0.2	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部平行四辺形で前方に深く切り込む 薬痕	完形
58	木製品	織機	長 12.3	幅 3.1	厚 2.8	手代木	完形

59	木製品	火鑽板	長 20.0	幅 2.8	厚 2.2	4面使用 孔部焼痕	完形
60	木製品	筒状	現長 15.5	幅 1.3	現 0.2~0.7		
61	木製品	串状	現長 20.7	幅 1.0	厚 0.7		
62	木製品	串状	長 20.7	幅 0.8	厚 0.7	断面方形	完形
63	木製品	串状	長 22.7	幅 0.9	厚 0.5	雑な整形	完形
64	木製品	串状	長 23.5	幅 0.8	厚 0.8	断面方形 端部丁寧な整形	完形
65	木製品	串状	長 23.7	幅 1.0	厚 0.8	断面方形	完形
66	木製品	串状	長 24.0	幅 0.8	厚 0.7	断面円形	完形
67	木製品	串状	長 24.7	幅 1.2	厚 0.7	断面かまぼこ型	完形
68	木製品	串状	長 25.1	幅 0.8	厚 0.5	断面方形 雑な整形	完形
69	木製品	棒状	現長 12.7	幅 0.7	厚 0.5	断面方形	
70	木製品	棒状	長 15.0	幅 1.3	厚 1.1	火鑽棒 断面方形 端部焼痕	完形
71	木製品	棒状	現長 16.2	幅 8.0	厚 0.3		
72	木製品	棒状	長 17.2	幅 1.1	厚 1.1	断面円形 丁寧な整形 端部焼痕	略完形
73	木製品	棒状	長 20.0	幅 1.5	厚 1.4	火鑽棒? 断面半円形	
74	木製品	棒状	長 22.5	幅 1.2	厚 0.5	火鑽棒? 端部焼痕	略完形
75	木製品	棒状	現長 22.8	幅 0.6	厚 0.4	断面方形	
76	木製品	杭	長 59.0	幅 2.2	現 2.0		略完形
77	木製品	用途不明	長 7.2	幅 2.5	厚 0.2	端材?	
78	木製品	用途不明	長 9.9	幅 2.7	厚 0.2	端材?	
79	木製品	用途不明	現長 11.5	幅 3.9	現 1.5~1.8	建具? 方形のほぞ穴が遺存	
80	木製品	用途不明	現長 14.0	現 4.4	現 0.3		
81	木製品	用途不明	現長 13.9	現 2.4	現 0.7~1.1	調度具? 器形に沿って二重の沈線が刻まれる	
82	木製品	用途不明	現長 23.1	幅 1.2	厚 0.5	端材?	
83	木製品	用途不明	長 23.2	幅 3.1	厚 0.3~0.5	端材? 端部曲線的に加工	
84	木製品	箸状	長 18.4	幅 0.6	厚 0.5		完形
85	木製品	箸状	長 20.5	幅 0.6	厚 0.3	断面扁平	完形
86	木製品	箸状	現 20.6	幅 0.6	厚 0.5	断面方形 附木として使用? 端部焼痕	略完形
87	木製品	箸状	長 20.9	幅 0.6	厚 0.5		完形
88	木製品	箸状	長 21.2	幅 0.6	厚 0.3	断面扁平	完形
89	木製品	箸状	現 21.7	幅 0.6	厚 0.5	断面方形	略完形
90	木製品	箸状	現 21.8	幅 0.5	厚 0.3		略完形
91	木製品	箸状	長 22.1	幅 0.7	厚 0.4		完形
92	木製品	箸状	長 22.4	幅 0.6	厚 0.3	断面扁平	完形
93	木製品	箸状	長 22.5	幅 0.6	厚 0.4		完形
94	木製品	箸状	長 23.2	幅 0.7	厚 0.5		完形
95	木製品	箸状	長 23.4	幅 0.6	厚 0.5		完形
96	木製品	箸状	長 23.5	幅 0.6	厚 0.4		完形
97	木製品	箸状	長 23.7	幅 0.7	厚 0.6		完形
98	木製品	箸状	長 23.8	幅 0.5	厚 0.4		完形

99	木製品	箸状	長 23.8	幅 0.7	厚 0.6		完形
100	木製品	箸状	長 23.9	幅 0.6	厚 0.4		完形
101	木製品	箸状	長 24.4	幅 0.6	厚 0.3		完形
102	木製品	箸状	現 24.4	幅 0.6	厚 0.4		略完形
103	木製品	箸状	長 26.0	幅 0.6	厚 0.5		完形

表4 第3面 出土遺物観察表

法量内() = 推定値

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

河川4 堆積土出土遺物 (図29~34)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	5.5	5.0	1.3	コースター形 底面-回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	完形
2	土器	ロクロ かわらけ・小	6.1	5.1	1.5	内面に漆付着、パレットとして使用？ 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	略完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(5.8)	1.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.6)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.5	1.5	内面黒色に変色 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	略完形
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(6.6)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	2/3
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.3	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	2/3
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.8)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.0)	1.7	底面-回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.4)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.1	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	略完形
12	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	7.1	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.0)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.0)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.2)	1.9	底面-回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/4
16	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	7.5	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	略完形
17	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.6	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	3/4
18	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.6	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
19	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(6.2)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/5
20	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.6	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	略完形
21	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(7.2)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
22	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.4)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(7.4)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
24	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.8	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
25	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.3	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	略完形
26	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.3	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	略完形
27	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	7.1	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	略完形
28	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	6.5	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
29	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(7.0)	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
30	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(7.2)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
31	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	7.4	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
32	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	7.0	1.6	底面-回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	略完形

33	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	7.1	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	略完形
34	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.2)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/4
35	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	7.0	1.8	器形歪み大 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
36	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(7.4)	1.9	底面-回転糸切 内底-強いナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
37	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	6.4	2.0	底面-回転糸切 胎土：微砂、雲母、小石粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	3/4
38	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	7.0	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	略完形
39	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	7.8	1.7	内面黒色に変色 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
40	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.4)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
41	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.2)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
42	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	5.4	1.9	底面-回転糸切 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	2/3
43	土器	ロクロ かわらけ・小	9.2	6.4	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
44	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	8.0	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
45	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(7.4)	1.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/5
46	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	7.5	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	4/5
47	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.5)	(8.2)	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
48	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.1)	(7.6)	3.3	内面黒色に変色 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
49	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.2)	(8.4)	3.0	底面-回転糸切不明瞭+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
50	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.3)	(8.0)	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
51	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	(9.0)	3.0	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
52	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.4)	(8.0)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
53	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	7.2	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
54	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.6)	(8.0)	2.6	底面-回転糸切 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
55	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.7)	(7.9)	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
56	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(7.6)	3.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
57	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(8.2)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
58	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(8.4)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
59	土器	ロクロ かわらけ・中	11.8	8.0	4.3	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	3/4
60	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.8)	(9.0)	3.3	底面-回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/4
61	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.9)	(8.6)	2.9	底面に煤付着 底面-回転糸切 内底-ナデ不明瞭 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
62	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.9)	(8.0)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
63	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.9)	(8.0)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
64	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.9)	(8.6)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
65	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.4	3.0	口縁部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	3/4
66	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.0)	(8.0)	3.1	底面-回転糸切 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/4
67	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.1)	(8.9)	3.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
68	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(8.6)	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
69	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(9.4)	3.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
70	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(8.4)	3.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
71	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(8.0)	3.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
72	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.2)	(8.0)	3.0	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/3

73	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	(8.6)	3.4	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
74	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	(8.0)	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
75	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.3)	(8.2)	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
76	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(8.6)	2.9	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
77	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(9.0)	2.9	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
78	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.5)	(8.8)	3.2	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
79	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(8.2)	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
80	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	9.4	3.6	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：赤橙色 焼成：良好	1/3
81	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(9.2)	2.8	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
82	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	8.8	3.1	口唇部に煤付着 底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	3/4
83	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.6)	(9.0)	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
84	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	9.0	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
85	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	(8.8)	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
86	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	(8.9)	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/2
87	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	7.8	3.3	底面一回転糸切 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
88	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	(7.4)	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
89	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	(9.0)	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
90	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.9)	(9.1)	2.9	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
91	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	9.2	3.6	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	3/4
92	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.3)	(10.4)	3.5	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
93	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.3)	(9.0)	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
94	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.4)	(10.0)	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
95	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4	9.6	3.8	内外面一部黒色に変色 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	3/4
96	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.4)	(8.8)	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
97	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.4)	(9.0)	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
98	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(9.0)	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
99	土器	ロクロ かわらけ・大	13.7	10.0	3.3	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
100	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.6)	(10.0)	3.3	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
101	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(6.4)	1.6	底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
102	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.6	1.7	底面一回転糸切不明瞭なナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	略完形
103	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.7	1.9	外面に鉄分付着 底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	略完形
104	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.8	1.8	外面に鉄分付着 底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	2/3
105	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	6.6	2.0	外面に焼けた薬付着 内面に鉄分付着 底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/2
106	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.4)	1.9	底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
107	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.8)	1.8	底面一回転糸切ナデ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
108	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.8	2.2	底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	略完形
109	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.8)	1.7	底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/3
110	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	5.1	2.4	器形歪み大 底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	3/4
111	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(6.3)	2.1	底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	3/4
112	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.6)	1.7	内外面黒色に変色 底面一回転糸切ナデ消し 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3

113	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(6.8)	1.7	底面-回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	2/3
114	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(6.0)	1.8	底面-回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
115	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(7.6)	1.5	底面-回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/4
116	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(8.2)	1.7	底面-回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
117	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.4)	(10.0)	2.6	底面-回転糸切ナデ消し 内底-強いナデ 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
118	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.5)	(9.0)	2.9	底面-回転糸切ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
119	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.5)	(8.0)	3.2	底面-回転糸切ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
120	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	8.4	3.1	口唇部に煤付着 底面-回転糸切ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰色 焼成:良好	3/4
121	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.7)	(8.8)	3.1	底面-回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
122	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	(8.3)	2.6	底面-回転糸切ナデ消し 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
123	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(8.7)	3.2	底面-回転糸切ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
124	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	8.6	3.5	底面-回転糸切ナデ消し 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
125	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	9.3	3.4	底面-回転糸切ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/2
126	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.5)	(9.0)	3.1	内外面黒色に変色 底面-回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
127	土器	手づくね かわらけ・小	6.6	-	1.5	コースター形 底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	略完形
128	土器	手づくね かわらけ・小	(7.4)	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/2
129	土器	手づくね かわらけ・小	(7.8)	-	1.6	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
130	土器	手づくね かわらけ・小	(8.0)	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/5
131	土器	手づくね かわらけ・小	(8.1)	-	1.6	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/2
132	土器	手づくね かわらけ・小	8.1	-	1.9	内外面に煤付着 底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	略完形
133	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	-	1.6	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、泥岩粒、やや粗土 色調:灰色 焼成:良好	1/3
134	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
135	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
136	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
137	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	-	2.1	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
138	土器	手づくね かわらけ・小	(8.3)	-	1.3	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
139	土器	手づくね かわらけ・小	(8.3)	-	1.5	底面-指頭ナデ消し 内底-強いナデ 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
140	土器	手づくね かわらけ・小	(8.3)	-	1.7	外底面黒色に変色 底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
141	土器	手づくね かわらけ・小	(8.3)	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	2/3
142	土器	手づくね かわらけ・小	(8.3)	-	2.0	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
143	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、泥岩粒、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
144	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	-	1.6	底面-指頭ナデ消し 内底-強いナデ 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
145	土器	手づくね かわらけ・小	8.4	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	3/4
146	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	-	2.1	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
147	土器	手づくね かわらけ・小	(8.5)	-	1.8	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/3
148	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、泥岩粒、やや粗土 色調:灰色 焼成:良好	1/4
149	土器	手づくね かわらけ・小	8.6	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、泥岩粒、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/2
150	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	-	1.9	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、泥岩粒、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
151	土器	手づくね かわらけ・小	8.6	-	1.9	底面-不明瞭な指頭痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
152	土器	手づくね かわらけ・小	8.6	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	4/5

153	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	-	1.9	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	3/4
154	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	-	1.7	焼成後2ヵ所に穿孔 底面-指頭ナデ消し 内底-ナデ 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	4/5
155	土器	手づくね かわらけ・小	(8.7)	-	1.8	内外面に煤付着 底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
156	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
157	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/3
158	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
159	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	-	1.8	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/2
160	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	-	2.0	器形歪み大 底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
161	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	-	1.9	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
162	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	-	1.7	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
163	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	-	1.9	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
164	土器	手づくね かわらけ・中	(11.0)	-	3.4	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、泥岩粒、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/4
165	土器	手づくね かわらけ・中	11.4	-	3.2	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
166	土器	手づくね かわらけ・中	(11.4)	-	3.5	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、泥岩粒、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
167	土器	手づくね かわらけ・中	(11.6)	-	3.3	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
168	土器	手づくね かわらけ・中	(11.6)	-	2.5	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、泥岩粒、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
169	土器	手づくね かわらけ・中	(11.8)	-	3.5	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、泥岩粒、やや粗土 色調:黄灰色 焼成:良好	1/4
170	土器	手づくね かわらけ・中	(12.0)	-	3.0	内外面に付着物有 底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
171	土器	手づくね かわらけ・中	(12.0)	-	3.3	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
172	土器	手づくね かわらけ・中	(12.1)	-	3.1	内外面黒色に変色 底面-指頭痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
173	土器	手づくね かわらけ・中	(12.1)	-	3.1	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
174	土器	手づくね かわらけ・中	(12.1)	-	3.3	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/5
175	土器	手づくね かわらけ・中	12.2	-	3.0	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、泥岩粒、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
176	土器	手づくね かわらけ・中	(12.2)	-	3.1	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰色 焼成:良好	1/3
177	土器	手づくね かわらけ・中	(12.2)	-	3.4	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、泥岩粒、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
178	土器	手づくね かわらけ・中	(12.2)	-	3.0	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
179	土器	手づくね かわらけ・中	(12.3)	-	3.5	底面-不明瞭な指頭痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
180	土器	手づくね かわらけ・中	(12.4)	-	2.6	底面-不明瞭な指頭痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
181	土器	手づくね かわらけ・中	(12.4)	-	3.3	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
182	土器	手づくね かわらけ・中	(12.5)	-	3.0	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
183	土器	手づくね かわらけ・中	(12.5)	-	3.1	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/5
184	土器	手づくね かわらけ・中	12.6	-	3.2	内面一部黒色に変色 底面-不明瞭な指頭痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	3/4
185	土器	手づくね かわらけ・中	(12.6)	-	3.2	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
186	土器	手づくね かわらけ・中	(12.6)	-	3.3	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
187	土器	手づくね かわらけ・中	(12.6)	-	3.6	底面-指頭痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
188	土器	手づくね かわらけ・中	12.7	-	3.3	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	略完形
189	土器	手づくね かわらけ・中	12.7	-	3.4	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	略完形
190	土器	手づくね かわらけ・中	(12.7)	-	3.4	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
191	土器	手づくね かわらけ・中	(12.8)	-	2.7	内外面黒色に変色 底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
192	土器	手づくね かわらけ・中	12.8	-	3.1	底面-不明瞭な指頭痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3

193	土器	手づくね かわらけ・中	(12.8)	-	3.6	内外面黒色に変色 底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
194	土器	手づくね かわらけ・中	12.8	-	3.2	底面-不明瞭な指頭痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰 黄色 焼成:良好	3/4
195	土器	手づくね かわらけ・中	(12.8)	-	3.0	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄 色 焼成:良好	1/5
196	土器	手づくね かわらけ・中	(12.9)	-	3.3	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:灰 黄色 焼成:良好	1/4
197	土器	手づくね かわらけ・中	(12.9)	-	3.0	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄 色 焼成:良好	1/4
198	土器	手づくね かわらけ・大	13.0	-	3.2	底面-不明瞭な指頭痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰 黄色 焼成:良好	3/4
199	土器	手づくね かわらけ・大	13.0	-	3.4	内外面黒色に変色 底面-不明瞭な指頭痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	3/4
200	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	-	3.3	底面-指頭痕 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰 黄色 焼成:良好	1/3
201	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	-	3.5	底面-不明瞭な指頭痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
202	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	-	3.2	底面-不明瞭な指頭痕+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、 やや粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/4
203	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	-	3.1	底面-不明瞭な指頭痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/5
204	土器	手づくね かわらけ・大	(13.1)	-	3.1	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
205	土器	手づくね かわらけ・大	(13.1)	-	3.4	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙 色 焼成:良好	1/5
206	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	-	2.5	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:灰 黄色 焼成:良好	1/5
207	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	-	3.2	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや 粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
208	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	-	2.8	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:黄灰 色 焼成:良好	1/5
209	土器	手づくね かわらけ・大	13.3	-	3.0	底面-不明瞭な指頭痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰 黄色 焼成:良好	略完形
210	土器	手づくね かわらけ・大	(13.3)	-	3.4	底面-指頭痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼 成:良好	1/4
211	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	-	3.0	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、泥岩粒、やや粗土 色調:黄橙 色 焼成:良好	1/3
212	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	-	3.2	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄 色 焼成:良好	1/3
213	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	-	3.0	底面-指頭痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	2/3
214	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	-	3.5	外面黒色に変色 底面-不明瞭な指頭痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/4
215	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	-	3.3	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄 色 焼成:良好	1/3
216	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	-	3.2	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調:灰黄色 焼成:良好	1/3
217	土器	手づくね かわらけ・大	13.6	-	3.3	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:灰 黄色 焼成:良好	2/3
218	土器	手づくね かわらけ・大	(14.2)	-	2.8	底面-指頭ナデ消し 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調:黄橙色 焼 成:良好	1/4
219	磁器	白磁 壺	-	-	現 2.6	色調:胎土-灰白色、釉-乳白色	底部 小破片
220	磁器	青白磁 梅瓶	-	-	現 2.8	上面-ヘラ彫りによる唐草文 色調:胎土-乳白色、釉-淡青色	胴部 小破片
221	磁器	青磁 碗	-	-	現 3.1	内面-劃花文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅰ類	口縁部 小破片
222	磁器	青磁 碗	(17.8)	-	現 5.8	内面-劃花文 色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅰ類	口縁部 小破片
223	磁器	青磁 碗	-	-	現 3.2	色調:胎土-灰白色、釉-緑青色 備考:龍泉窯系青磁碗Ⅰ類	胴部 小破片
224	磁器	青磁 碗	-	(6.4)	現 2.7	内面-劃花文 畳付-無釉 色調:胎土-灰白色、釉-緑黄色 備考:龍泉窯系青磁 碗Ⅰ類	底部 小破片
225	陶器	瀬戸 片口鉢	-	-	現 3.9	内面やや摩耗 胎土:微砂、白色粒 色調:胎土-灰褐色、釉-灰褐色	口縁部 小破片
226	陶器	常滑 甍	-	-	現 3.3	胎土:粗、白色粒 色調:胎土-灰色、自然釉-暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
227	陶器	常滑 甍	(45.4)	-	現 4.8	胎土:密、白色粒 色調:胎土-灰褐色、自然釉-暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
228	陶器	常滑 甍	-	-	現 5.4	胎土:密、白色粒 色調:胎土-灰褐色、自然釉-茶褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
229	陶器	常滑 甍	(49.2)	-	現 5.4	胎土:密、白色粒 色調:胎土-灰褐色、自然釉-茶褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
230	陶器	常滑 甍	-	-	現 5.5	胎土:密、白色粒 色調:胎土-暗灰色、自然釉-暗緑色 備考:5型式	口縁部 小破片
231	陶器	常滑 甍	-	-	現 7.1	胎土:粗、白色粒 色調:胎土-暗灰色、自然釉-暗褐色 備考:5型式	口縁部 小破片
232	陶器	常滑 甍	(44.2)	-	現 9.5	胎土:密、白色粒 色調:胎土-灰褐色、自然釉-灰色 備考:6 a型式	口縁部 小破片

233	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 5.7	胎土：粗、白色粒 色調：胎土-灰色、釉-灰色 備考：5型式	口縁部 小破片
234	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 6.0	内面摩耗 外面横位のヘラ整形痕 胎土：密、白色粒 色調：胎土-灰色、自然釉-灰色 備考：5型式	口縁部 小破片
235	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 4.5	内面大きく剥離 外面下部ヘラによる整形痕 胎土：粗、白色粒 色調：胎土-灰色、自然釉-灰色 備考：5型式	底部 小破片
236	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 4.5	外面下部ヘラによる整形痕 内面大きく剥離 胎土：粗、白色粒 色調：胎土-灰色、自然釉-灰色 備考：5型式	底部 小破片
237	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 8.3	外面下部ヘラによる整形痕 内面摩耗 胎土：粗、白色粒 色調：胎土-灰色、自然釉-灰色 備考：5型式	底部 小破片
238	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 5.1	胎土：粗、白色粒 色調：胎土-灰色、自然釉-暗褐色 備考：5型式	口縁部 小破片
239	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 6.4	胎土：粗、白色粒 色調：胎土-灰色、自然釉-灰色 備考：5型式	口縁部 小破片
240	陶器	産地不明 鉢	-	(15.2)	現 3.6	高台部貼り付け 胴下部ヘラによる横位の整形 内面に鉄分付着 胎土：密、白色粒 色調：灰色	底部 小破片
241	瓦質 土器	乗燭	-	-	現 13.0	底面に孔(径0.6cm) 胎土：緻密 色調：灰白色	脚部遺存
242	銅製品	飾り金具	外径 4.5	内径 2.3	厚0.6 カシメ部 高0.7	2つの部品で構成 外輪部-菊花形 内輪部-周囲に刻み、裏面をカシメ	完形
243	木製品	経木折敷	長 23.3	現幅 3.2	厚 0.2		1/7
244	木製品	経木折敷	長 27.8	現幅 5.3	厚 0.2		1/6
245	木製品	曲物	現長 25.1	現幅 1.8~2.2	厚 1.0	底板 修繕の痕跡? 木釘痕 一部焼痕	
246	木製品	形代	現長 23.1	現幅 3.1	厚 0.1~0.3	刀形?	
247	木製品	草履芯	現長 12.5	現幅 4.5	厚 0.2	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部不明 端部小孔	1/4
248	木製品	串状	現長 22.2	幅 1.1	厚 0.5		
249	木製品	棒状	現長 15.5	幅 0.8	厚 0.4		
250	木製品	杭	現長 18.5	幅 3.9	厚 1.5~1.9	雑な整形	
251	木製品	用途不明	現長 28.9	幅 3.6	厚 0.4~0.5	端部加工	
252	木製品	用途不明	現長 27.0	幅 1.2	厚 0.9		
253	木製品	箸状	長 22.0	幅 0.6	厚 0.5		完形
254	木製品	箸状	長 22.8	幅 0.6	厚 0.5		完形
255	木製品	箸状	長 22.9	幅 0.6	厚 0.5		完形
256	木製品	箸状	長 20.5	幅 0.7	厚 0.3	断面扁平	完形
257	骨製品	筭	長 12.6	幅 1.5	厚 0.3	端部に穿孔1カ所(孔径0.5cm) 素材-シカ中足骨	略完形

河川4 護岸跡出土遺物(図35~38)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.2)	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/4
2	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.5	1.8	底面-回転糸切 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	4/5
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.8	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/4
4	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.7	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/4
5	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	6.6	1.6	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/2
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(5.6)	1.6	底面-回転糸切 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
7	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	6.7	1.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
8	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	6.4	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	3/4
9	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.9	1.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	略完形
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.2)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
11	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.8)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
12	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.8	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	6.6	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.6)	1.8	器形の歪み大 内外面に鉄分付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、良土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2

15	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.5)	1.5	内面一部黒色に変色 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/5
16	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.0)	1.6	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
17	土器	ロクロ かわらけ・小	9.0	7.4	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/3
18	土器	ロクロ かわらけ・小	9.0	6.8	1.8	口唇部に煤付着 器形歪み大 底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	完形
19	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(6.4)	1.9	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/5
20	土器	ロクロ かわらけ・小	9.1	7.0	1.6	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
21	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.0)	1.2	底面一回転糸切不明瞭+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/2
22	土器	ロクロ かわらけ・小	9.2	6.8	1.8	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	3/4
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.0)	1.8	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
24	土器	ロクロ かわらけ・小	9.3	7.2	1.7	内面二次焼成？ 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黒色 焼成：良好	1/4
25	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	7.3	1.5	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/2
26	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(7.6)	1.6	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/5
27	土器	ロクロ かわらけ・小	9.5	6.8	1.4	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/3
28	土器	ロクロ かわらけ・小	9.5	7.1	1.8	内面見込黒色に変色 底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黒色 焼成：良好	1/4
29	土器	ロクロ かわらけ・小	9.6	6.5	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/3
30	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	(7.8)	1.7	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
31	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	(7.0)	1.8	内面黒色に変色 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
32	土器	ロクロ かわらけ・小	(10.0)	(7.2)	1.5	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/6
33	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.2)	(8.6)	1.8	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/5
34	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.4)	(8.8)	2.0	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰色 焼成：良好	1/6
35	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.2)	(8.0)	3.2	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/3
36	土器	ロクロ かわらけ・中	11.9	7.5	2.8	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/5
37	土器	ロクロ かわらけ・中	11.9	7.8	2.9	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
38	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	8.3	2.9	外面に漆付着 内面黒色に変色 底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
39	土器	ロクロ かわらけ・中	12.0	7.5	3.2	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、小石粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/6
40	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	8.5	2.8	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
41	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	8.0	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
42	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	7.8	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
43	土器	ロクロ かわらけ・中	12.6	7.9	3.2	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/3
44	土器	ロクロ かわらけ・中	12.7	8.1	3.2	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
45	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	7.6	4.0	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/3
46	土器	ロクロ かわらけ・中	12.8	9.3	3.1	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/4
47	土器	ロクロ かわらけ・中	(12.8)	(9.4)	3.6	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/6
48	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	8.4	2.9	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
49	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(8.7)	3.2	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/3
50	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	9.0	2.7	底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	3/4
51	土器	ロクロ かわらけ・大	13.5	9.5	3.2	内面黒色に変色 底面一回転糸切+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/4
52	土器	ロクロ かわらけ・大	13.8	9.0	3.2	底面一回転糸切 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
53	土器	ロクロ かわらけ・大	14.0	10.0	3.0	底面一回転糸切+板状圧痕 内底-強いナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
54	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.6)	1.5	底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/3
55	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(5.6)	1.7	底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 内底-ナデ 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/4

56	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(6.8)	1.6	底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
57	土器	ロクロ かわらけ・小	9.0	7.3	1.9	底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
58	土器	ロクロ かわらけ・小	9.2	7.0	1.7	底面一回転糸切ナデ消し 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	4/5
59	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(6.8)	1.9	底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/6
60	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(8.0)	1.4	底面一回転糸切ナデ消し 胎土：微砂、黒色粒、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/5
61	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	(7.4)	1.5	底面一回転糸切ナデ消し 胎土：微砂、雲母、赤色粒、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/5
62	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.6)	(8.6)	1.5	底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/4
63	土器	ロクロ かわらけ・中	12.3	8.4	3.2	底面一回転糸切ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
64	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	9.8	2.9	底面一回転糸切ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
65	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4	9.6	3.1	底面一回転糸切ナデ消し+板状圧痕 内底ナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/4
66	土器	手づくね かわらけ・小	(7.4)	-	1.2	底面一指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
67	土器	手づくね かわらけ・小	(7.6)	-	1.5	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/4
68	土器	手づくね かわらけ・小	(8.0)	-	1.6	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
69	土器	手づくね かわらけ・小	(8.0)	-	1.8	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/3
70	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	-	1.5	内外面に厚く鉄分付着 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/3
71	土器	手づくね かわらけ・小	8.2	-	1.7	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	略完形
72	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	-	1.5	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
73	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	-	1.7	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
74	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	-	1.8	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
75	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	-	1.6	内底強くナデ 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/2
76	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	-	2.1	底面一指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/4
77	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	-	1.5	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/5
78	土器	手づくね かわらけ・小	(8.5)	-	1.5	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/3
79	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	-	1.8	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
80	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	-	1.3	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/5
81	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	-	1.5	底面一指頭ナデ消し 内底ナデ 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
82	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	-	1.7	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
83	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	-	1.8	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
84	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	-	1.7	口縁部に煤付着 底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、黒色粒、赤色粒、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/5
85	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	-	2.0	内外面黒色化 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	完形
86	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	-	1.7	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
87	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	-	1.6	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰色 焼成：良好	2/3
88	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	-	1.7	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰色 焼成：良好	1/3
89	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	-	1.8	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、黒色粒、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
90	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	-	1.5	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/5
91	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	-	2.0	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰色 焼成：良好	1/3
92	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	-	1.8	内外面黒色に変色 底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、黒色粒、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/4
93	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	-	1.5	内面口唇部と外面黒色に変色 底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
94	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	-	1.6	胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
95	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	-	1.7	底面一指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄橙色 焼成：良好	1/2
96	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	-	1.6	底面一指頭痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3

97	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	-	1.9	口唇部黒色に変色 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
98	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	-	1.5	口唇部黒色に変色 底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、黒色粒、白色粒、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
99	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	-	1.6	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄褐色 焼成：良好	1/3
100	土器	手づくね かわらけ・小	(9.8)	-	2.2	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/5
101	土器	手づくね かわらけ・小	(10.0)	-	1.6	底面-指頭ナデ消し+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/6
102	土器	手づくね かわらけ・中	(10.8)	-	1.3	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/5
103	土器	手づくね かわらけ・中	(11.4)	-	3.1	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
104	土器	手づくね かわらけ・中	(11.8)	-	3.2	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
105	土器	手づくね かわらけ・中	(12.0)	-	3.2	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
106	土器	手づくね かわらけ・中	(12.2)	-	2.7	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、泥岩粒、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
107	土器	手づくね かわらけ・中	(12.4)	-	3.5	内外面黒色化 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
108	土器	手づくね かわらけ・中	(12.4)	-	3.3	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	3/4
109	土器	手づくね かわらけ・中	12.5	-	現 3.0	底面-指頭痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、良土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/5
110	土器	手づくね かわらけ・中	(12.6)	-	3.3	底面-指頭痕+板状圧痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
111	土器	手づくね かわらけ・中	(12.6)	-	2.9	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
112	土器	手づくね かわらけ・中	(12.6)	-	3.1	内面黒色に変色 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/3
113	土器	手づくね かわらけ・中	(12.6)	-	3.5	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、白色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
114	土器	手づくね かわらけ・中	(12.6)	-	3.1	底面-不明瞭な指頭痕 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
115	土器	手づくね かわらけ・中	(12.8)	-	3.1	内面黒色に変色 底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	2/3
116	土器	手づくね かわらけ・中	(12.8)	-	3.0	底面-指頭痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	3/4
117	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	-	3.4	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：黄褐色 焼成：良好	1/3
118	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	-	2.9	底面-指頭痕 胎土：微砂、雲母、赤色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：黄灰色 焼成：良好	2/3
119	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	-	3.0	外面黒色に変色 底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰色 焼成：良好	1/3
120	土器	手づくね かわらけ・大	13.0	-	3.0	底面-指頭痕 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、良土 色調：黄灰色 焼成：良好	1/4
121	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	-	2.9	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
122	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	-	3.0	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	2/3
123	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	-	3.4	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、泥岩粒、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
124	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	-	3.0	内面黒色に変色 底面-指頭痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
125	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	-	3.2	底面-指頭痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
126	土器	手づくね かわらけ・大	14.0	-	3.5	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
127	土器	手づくね かわらけ・大	(14.8)	-	3.2	底面-指頭痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
128	土器	手づくね かわらけ・大	(14.8)	-	3.6	底面-指頭痕 胎土：微砂、雲母、黒色粒、泥岩粒、海綿骨針、粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
129	土器	手づくね かわらけ・大	(15.6)	-	3.0	底面-指頭ナデ消し 胎土：微砂、雲母、泥岩粒、海綿骨針、やや粗土 色調：灰黄色 焼成：良好	1/4
130	磁器	白磁碗	-	4.6	現 1.6	疊付-施釉 色調：胎土-白色、釉-透明	底部 小破片
131	磁器	青磁碗	-	5.5	現 2.4	疊付-無釉 色調：胎土-灰白色、釉-オリーブ灰色 備考：龍泉窯系青磁碗Ⅰ類	底部 小破片
132	磁器	青磁香炉	-	-	現 2.0	内外面-無文 耳部残存 器面全体に貫入が入る 色調：胎土-灰色、釉-淡青色 備考：龍泉窯系	胴部 小破片
133	磁器	青磁皿	10.7	6.0	2.3	内面-ヘラによる文様と櫛点描文 色調：胎土-灰色、釉-淡黄色 備考：同安窯系青磁皿Ⅲ類	底部 小破片
134	磁器	青磁皿	10.9	5.2	2.2	内面-ヘラによる文様と櫛点描文 色調：胎土-灰色、釉-淡黄色 備考：同安窯系青磁皿Ⅲ類	底部 小破片
135	陶器	緑釉盤	-	-	-	内面-意匠不明文様 色調：胎土-黄灰白色、釉-緑色 備考：中国	底部 小破片
136	陶器	緑釉鉢	-	-	現 2.0	色調：胎土-黄灰白色、釉-緑色 備考：中国	口縁部 小破片
137	陶器	常滑甕	-	-	現 6.9	胎土：密、白色粒 色調：胎土-暗褐色、自然釉-暗茶褐色 備考：6 a 型式	口縁部 小破片

138	陶器	常滑 甕	-	-	現 7.6	胎土：密、白色粒 色調：胎土-明褐色、自然釉-明茶褐色 備考：6a型式	口縁部 小破片
139	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	-	現 5.1	内面摩耗 胎土：やや粗、白色粒 色調：灰色 備考：6a型式	口縁部 小破片
140	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	-	12.0	現 7.8	内面摩耗、全体に黒色の付着物 外面-ヘラによる整形痕 胎土：粗、白色粒 色調：灰色 備考：4~5型式	底部 小破片
141	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 7.6	内面摩耗 胎土：やや粗、黒色粒、白色粒 色調：灰色 備考：3型式	口縁部 小破片
142	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	-	-	現 9.3	内面摩耗 胎土：やや粗、黒色粒、白色粒 色調：灰色 備考：3型式	口縁部 小破片
143	瓦質 土器	碗	15.2	-	現 4.7	輪花形、黒色処理 内面-横位の櫛状工具による文様 胎土：緻密、微砂 色調：灰色	口縁部 小破片
144	土器	土鍋	-	-	現 1.0	口縁部折り返して整形 胎土：微砂、小石粒 備考：伊勢系	口縁部 小破片
145	土器	碗	10.6	6.1	3.0	口唇部やや内湾する 外面-指頭による整形 胎土：微砂、精良 色調：灰白色 備考：瀬戸内系土器	2/3
146	石製品	滑石製石鍋	27.0	-	現 5.2	雑な整形 内外面鏝から下に煤付着	口縁部 小破片
147	石製品	砥石	長 (10.1)	幅 (6.7)	厚 (5.6)	3面に使用痕跡 中砥 石材-粘板岩	破片
148	石製品	用途不明	8.3	8.1	2.9	扁平な円形を呈する 片面に5個の小孔 半対面に1個の小孔 小孔部分は褐色に変色 石材-泥岩	完形
149	木製品	経木折敷	長 29.5	現幅 5.5	厚 1.2		1/6
150	木製品	草履芯	現長 15.8	幅 8.9	厚 0.2	端部合わせ部が最先端となり直線的 側縁部曲線的 切込み部長方形? 端部小孔	1/2
151	木製品	串状	長 33.3	幅 1.1	厚 0.8		完形
152	木製品	用途不明	長 7.1	幅 2.1	厚 0.5	中央に木釘痕	
153	木製品	用途不明	現長 20.0	幅 2.8	厚 0.3	杭?	
154	木製品	用途不明	長 22.7	現幅 3.8	厚 0.3	草履芯加工途中? 切込み部無	1/2
155	木製品	用途不明	長 23.2	現幅 3.7	厚 0.2	草履芯加工途中? 切込み部無 端部小孔	
156	木製品	用途不明	長 23.1	現幅 2.8	厚 0.3	草履芯?	
157	木製品	箸状	長 19.8	幅 0.7	厚 0.2	断面扁平	完形
158	木製品	箸状	長 20.2	幅 0.7	厚 0.4	断面扁平	完形
159	木製品	箸状	長 21.5	幅 0.6	厚 0.4		完形
160	木製品	棒状	長 29.9	幅 1.3	厚 0.7	火鑽棒? 端部焼痕	略完形

河川4落ち込み出土遺物(図39)

1	木製品	棒状	長 26.4	幅 0.9	厚 0.7		
2	木製品	箸状	長 17.9	幅 0.7	厚 0.4	断面扁平	完形

表5 出土遺物一覧表

第1面

堆積土層1層			器種	破片数	107	【陶器】		
産地	器種	破片数				瀬戸	瓶子	1
【かわらけ】			常滑	片口鉢Ⅰ類	4	常滑	甕	8
かわらけ ロクロ成形				片口鉢Ⅱ類	6		片口鉢Ⅰ類	1
かわらけ ロクロナデ消し成形				山茶碗	1	【瓦】		
かわらけ 手づくね成形				片口鉢	2		平瓦	1
【白磁】			山茶碗窯	山茶碗	1	【金属製品】		
瓶類			産地不明	土瓶	1		銭貨	1
口元皿							合計	157
【青磁】						第2面		
同安窯系	碗	1				河川2堆積土		
龍泉窯系	碗Ⅱ類	2				産地	器種	破片数
	坏Ⅲ類	1				【かわらけ】		
	盤	1					白かわらけ	2
【青白磁】							かわらけ ロクロ成形	239
	梅瓶	1					かわらけ ロクロナデ消し成形	1
	合子	2					かわらけ 手づくね成形	112
【陶器】							【白磁】	
瀬戸	花瓶	1					碗	1
	卸皿	2					【青磁】	
	灰釉碗	1				龍泉窯系	碗Ⅱ類	2
	德利	1				【陶器】		
	赤津半胴甕	1				瀬戸	直縁大皿	1
堆積土層2層								
産地	器種	破片数						
【かわらけ】								
	かわらけ ロクロ成形	101						
	かわらけ ロクロナデ消し成形	1						
	かわらけ 手づくね成形	41						
【白磁】								
【青磁】								
同安窯系	碗Ⅱ類	1						
龍泉窯系	碗Ⅰ類	1						

渥美	甕	7
常滑	甕	72
	片口鉢Ⅰ類	10
	片口鉢Ⅱ類	1
産地不明	碗	1
【石製品】		
	砥石	1
【木製品】		
	折敷板	1
	経木折敷	4
	曲物	1
	草履芯	15
	匏状	1
	串状	1
	棒状	3
	杭	4
	箸状	12
	用途不明	23
合計		515

【陶器】		
常滑	甕	29
	片口鉢Ⅰ類	2
東濃	山茶碗	1
【木製品】		
	漆器皿	1
	漆器器種不明	1
	経木折敷	2
	曲物	1
	刀子鞘	1
	草履芯	5
	織機	1
	火鑽板	1
	匏状	1
	串状	8
	棒状	7
	杭	1
	箸状	25
	用途不明	7
合計		368

【白磁】		
	瓶類	3
	碗	3
	口元皿	1
【青磁】		
同安窯系	皿	2
龍泉窯系	碗Ⅰ類	3
	香炉	1
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
中国	緑釉盤	2
	緑釉鉢	1
	無釉壺	1
渥美	甕	22
常滑	甕	225
	片口鉢Ⅰ類	17
	片口鉢Ⅱ類	2
東濃	山茶碗	3

河川2 護岸跡		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	4
	かわらけ ロクロ成形	280
	かわらけ ロクロナデ消し成形	4
	かわらけ 手づくね成形	251
【白磁】		
	瓶類	1
	皿	1
【青磁】		
龍泉窯系	坏Ⅲ類	1
【青白磁】		
	その他	1
【陶器】		
常滑	甕	26
	片口鉢Ⅰ類	8
	片口鉢Ⅱ類	2
【木製品】		
	漆器碗	1
	草履芯	12
	串状	3
	棒状	4
	箸状	15
	用途不明	12
合計		626

第3面		
河川4 堆積土		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	2
	かわらけ ロクロ成形	680
	かわらけ ロクロナデ消し成形	26
	かわらけ 手づくね成形	1,073
【白磁】		
	壺	1
【青磁】		
同安窯系	碗	1
龍泉窯系	碗Ⅰ類	8
	碗Ⅲ類	1
【青白磁】		
	梅瓶	1
【陶器】		
瀬戸	花瓶	1
	片口鉢	1
渥美	甕	1
常滑	甕	78
	片口鉢Ⅰ類	9
	片口鉢Ⅱ類	2
	山茶碗	1
	摩托陶片	1
産地不明	鉢	1
【瓦質土器】		
	乗燭	1
	火鉢	1
【瓦】		
	平瓦	1
【石製品】		
	砥石	1
【木製品】		
	経木折敷	2
	曲物	1
	形代	1
	草履芯	1
	串状	1
	棒状	1
	杭	1
	箸状	7
	用途不明	3
【金属製品】		
	飾り金具	1
【骨製品】		
	筭	1
合計		1,912

【土器】		
	碗	1
	土鍋	1
【瓦質土器】		
	碗	1
	乗燭	1
【瓦】		
	平瓦	3
【石製品】		
	砥石	1
	滑石製石鍋	3
	用途不明	1
【木製品】		
	経木折敷	1
	草履芯	1
	串状	1
	棒状	1
	箸状	8
	用途不明	7
【金属製品】		
	銭貨	1
	器種不明銅製品	1
	器種不明	1
合計		1,259

河川3 落ち込み		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	64
	かわらけ 手づくね成形	24
【陶器】		
常滑	甕	16
	片口鉢Ⅰ類	3
【木製品】		
	草履芯	3
	串状	1
	杭	6
	箸状	7
	用途不明	8
合計		132

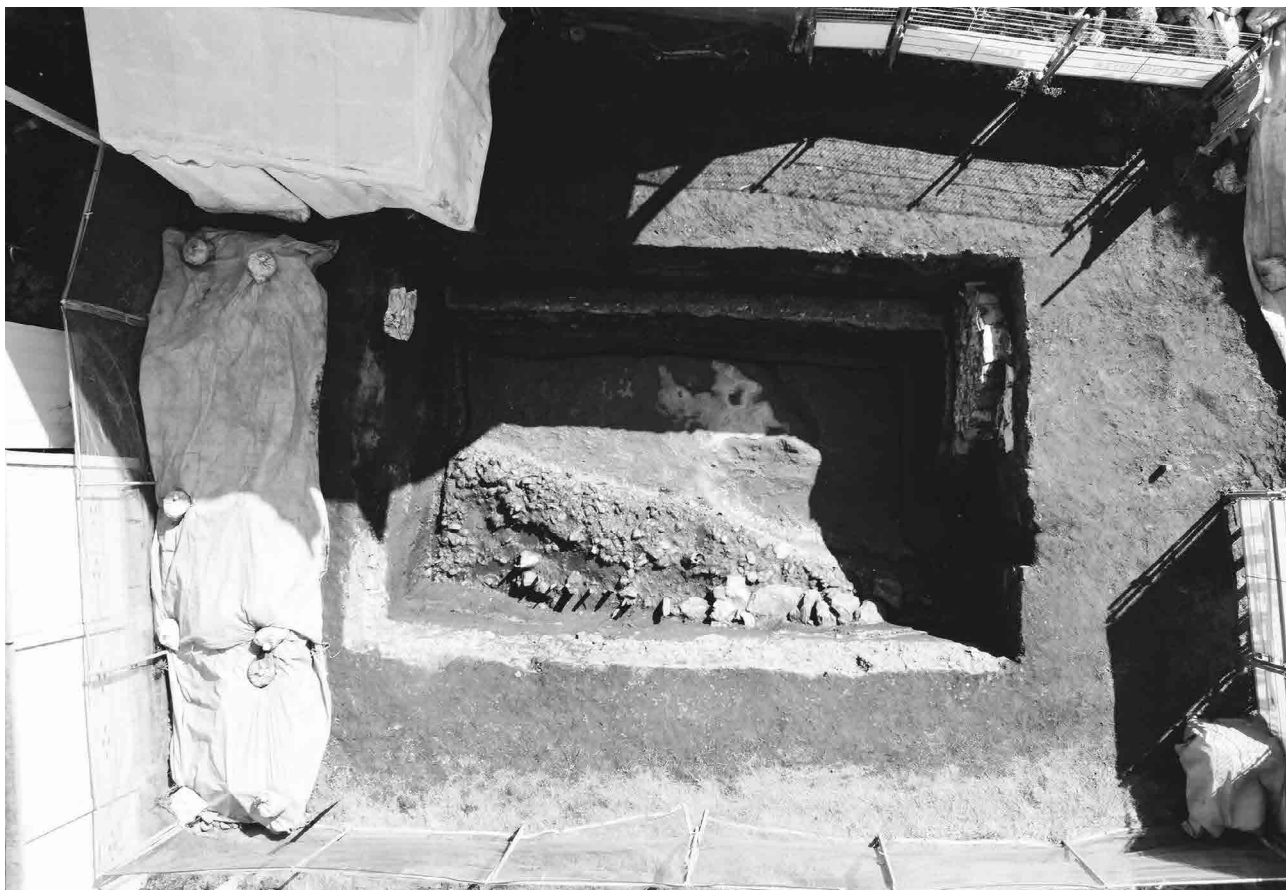
河川4 落ち込み		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	9
	かわらけ 手づくね成形	11
【陶器】		
常滑	甕	1
	片口鉢Ⅰ類	1
【木製品】		
	棒状	1
	箸状	1
合計		24

第2面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	白かわらけ	1
	かわらけ ロクロ成形	171
	かわらけ ロクロナデ消し成形	1
	かわらけ 手づくね成形	97
【白磁】		
	皿	1
【青磁】		
龍泉窯系	碗Ⅱ類	2
	皿	1

河川4 護岸跡		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
	かわらけ ロクロ成形	589
	かわらけ ロクロナデ消し成形	26
	かわらけ 手づくね成形	324



1. 調査区遠景(南西から)



2. 調査区全景(上空から、写真右は南西)



1. 北壁土層断面(南から)



2. 南壁土層断面(北から)



1. 第2面全景(北西から)



2. 第2面調査風景(北東から)



1. 第2面 河川2 (南西から)



2. 第2面 河川2 護岸跡 (南から)



2. 第2面 河川3 落ち込み (東から)

1. 第2面 河川3 (東から)



3. 第2面 河川3 護岸跡 (南から)



2. 第3面 河川4 杭列(東から)

1. 第3面 河川4 (南西から)



3. 第3面 河川4 杭列(南東から)



1. 第2面 河川4 調査風景(東から)



2. 第2面 河川2 護岸跡出土草履芯(図24-57)



3. 第3面 河川4 出土銅製金具(図34-242)

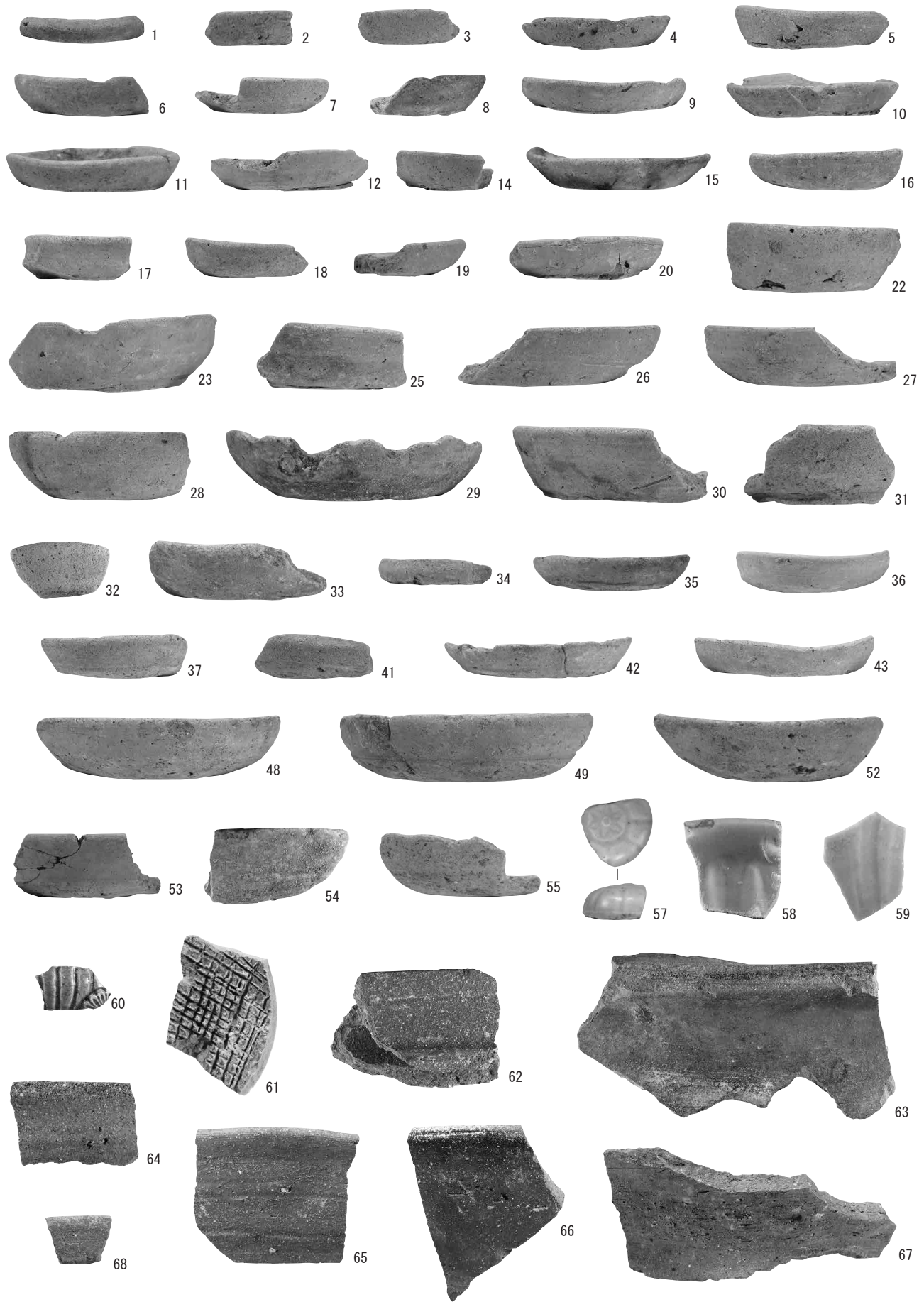


4. 第3面 河川4 出土燭台(図33-241)

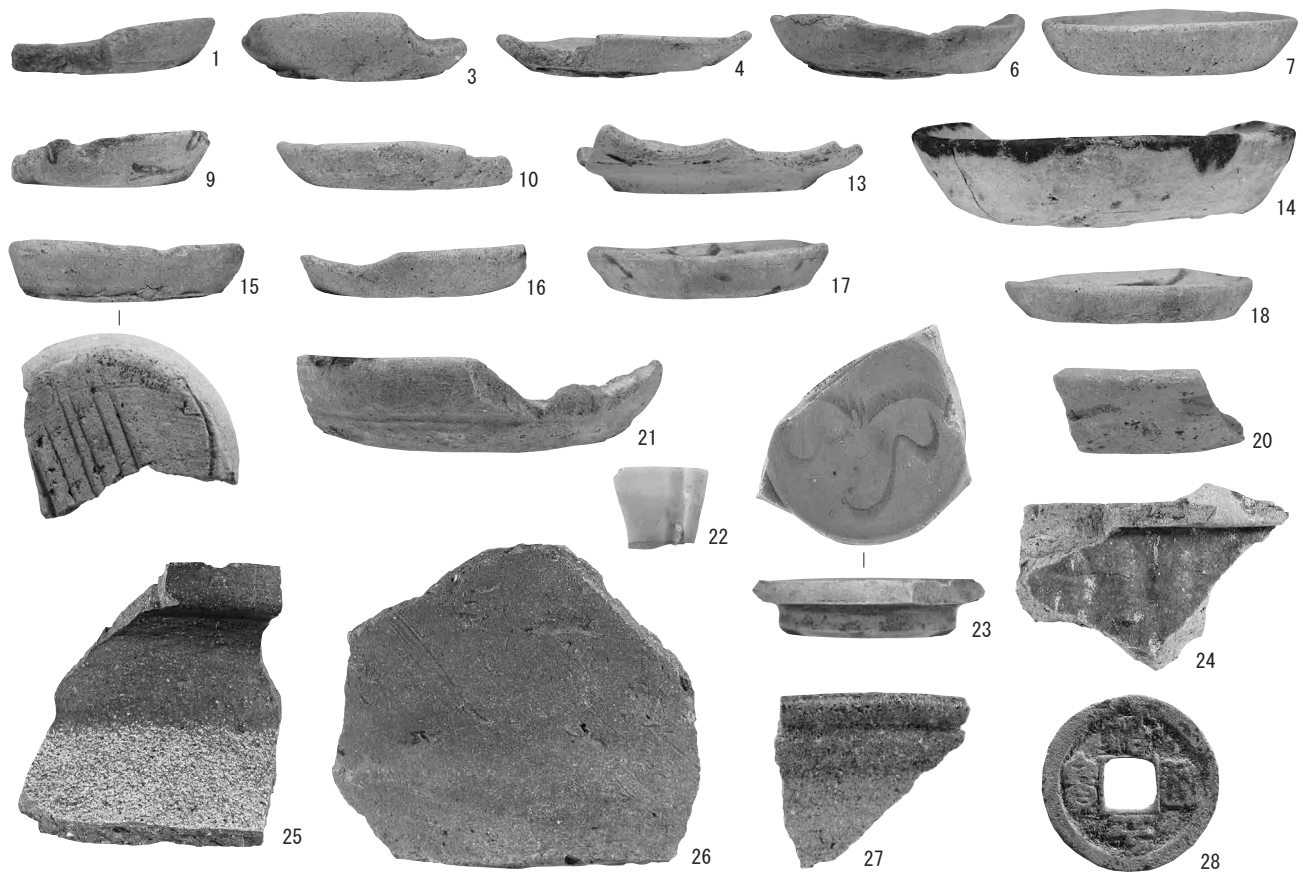


5. 第3面 河川4 護岸跡出土ウマ頭頂骨(写真3-24)

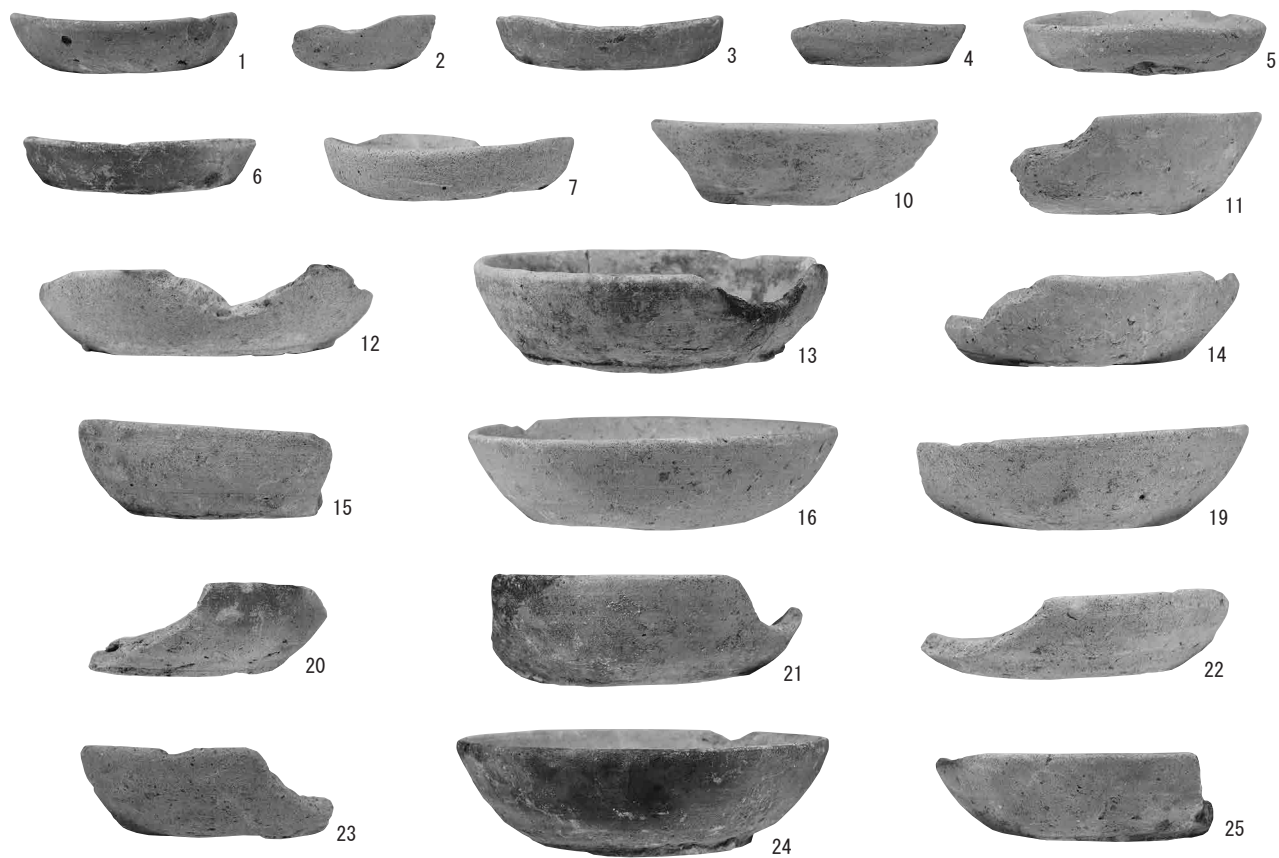
图版 8



1. 第1面 遺構外(堆積土層1層)出土遺物

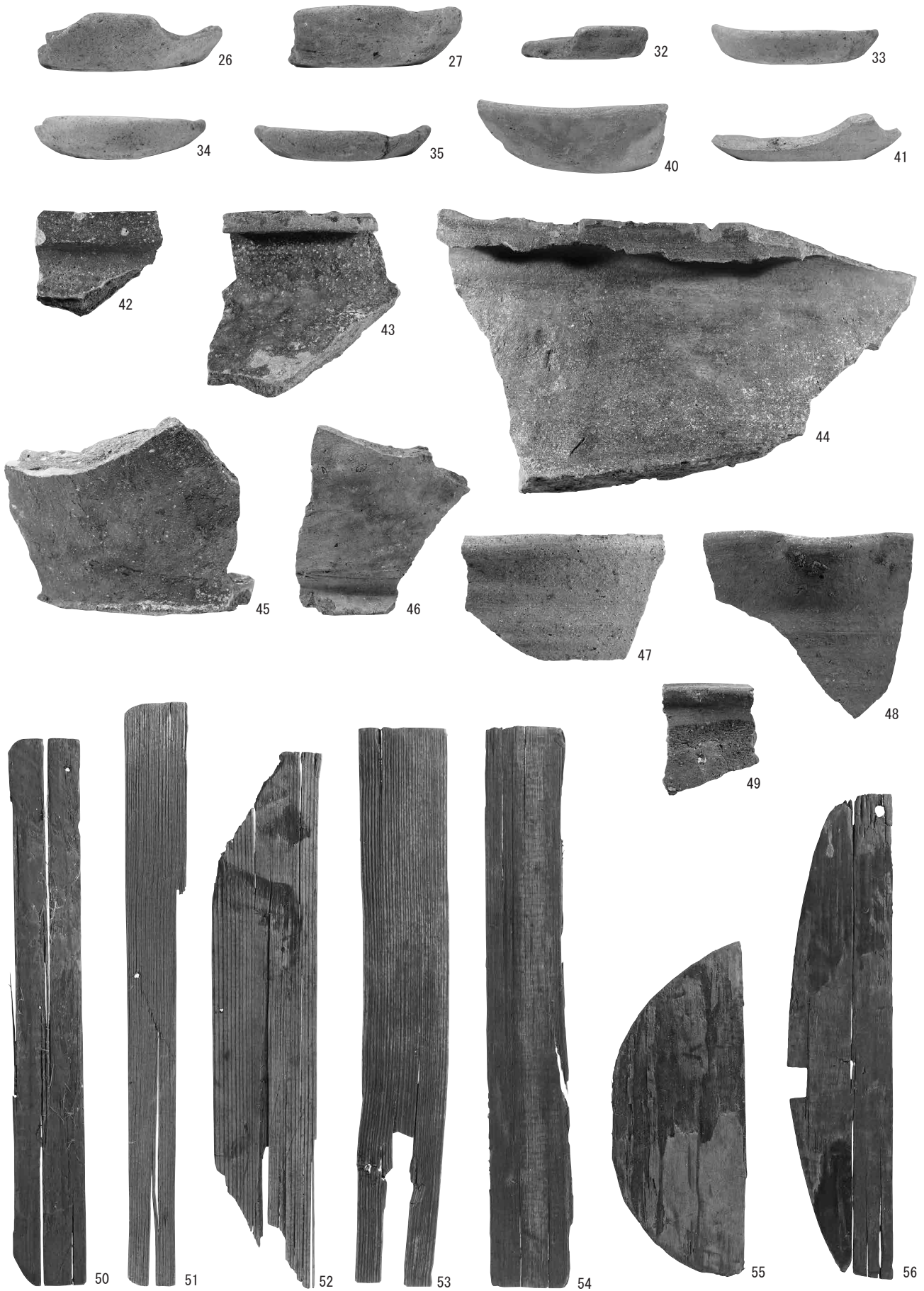


1. 第1面 遺構外(堆積土層2層)出土遺物



2. 第2面 河川2堆積土出土遺物(1)

图版 10

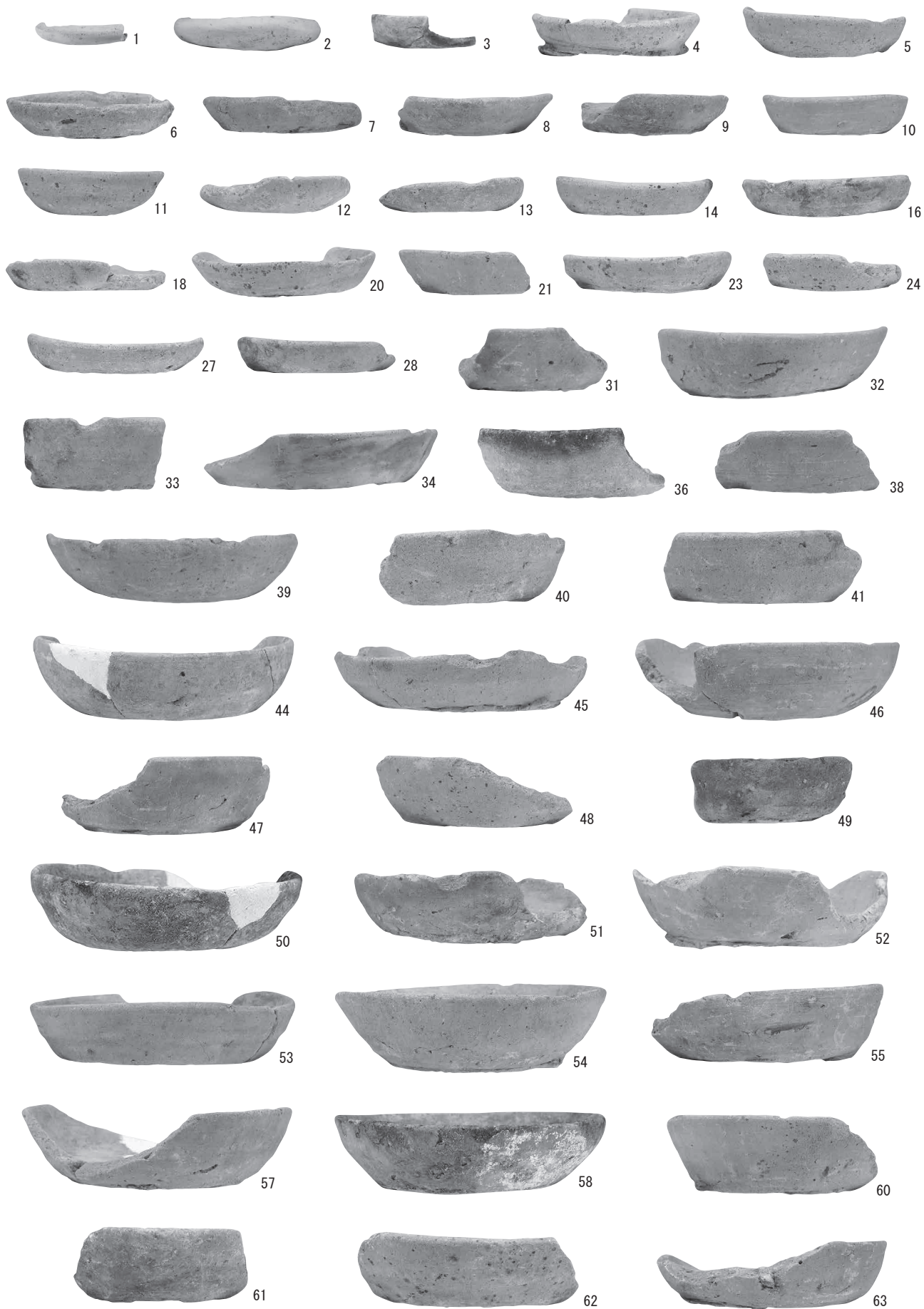


1. 第2面 河川2堆積土出土遺物(2)

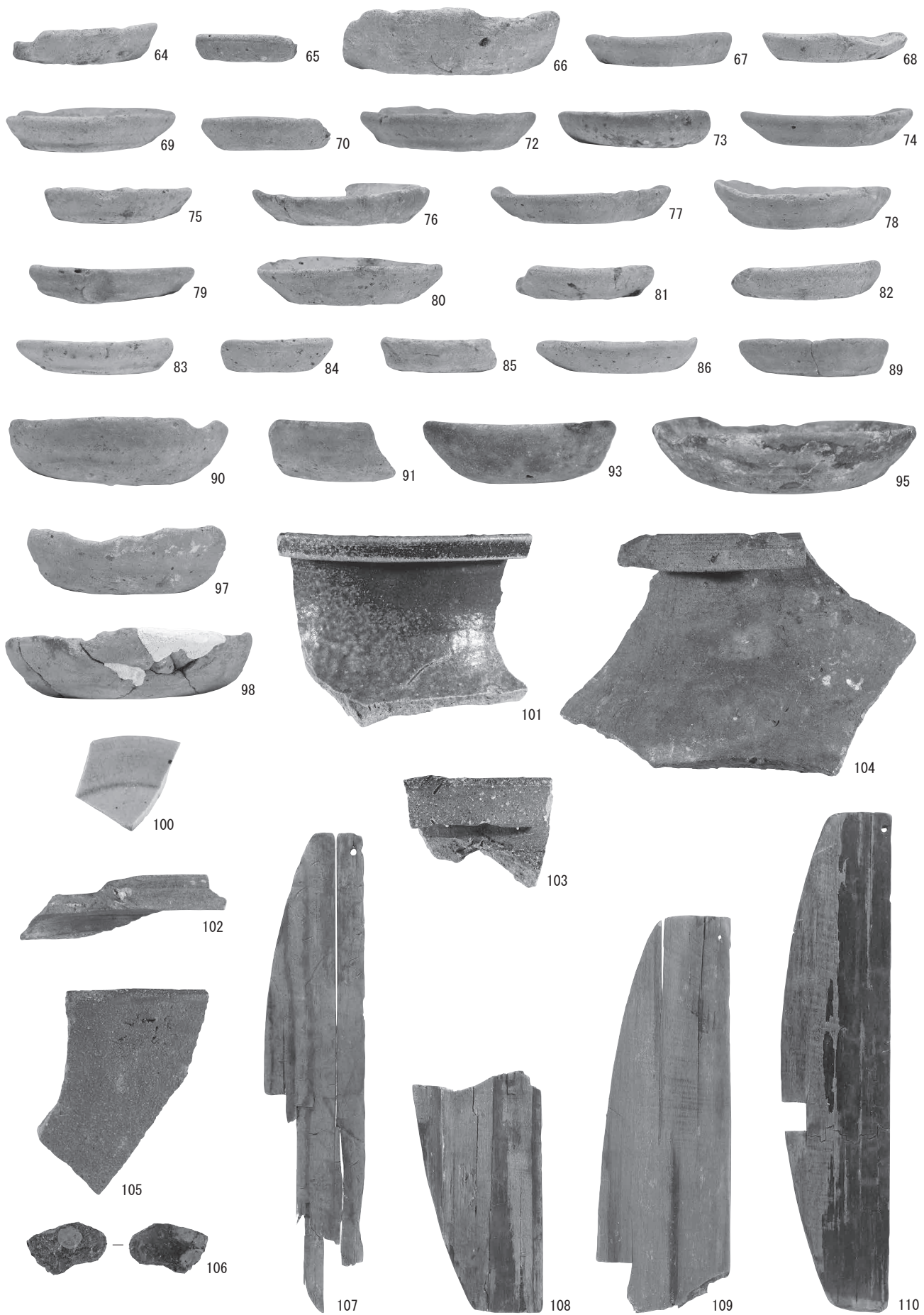


1. 第2面 河川2堆積土出土遺物(3)

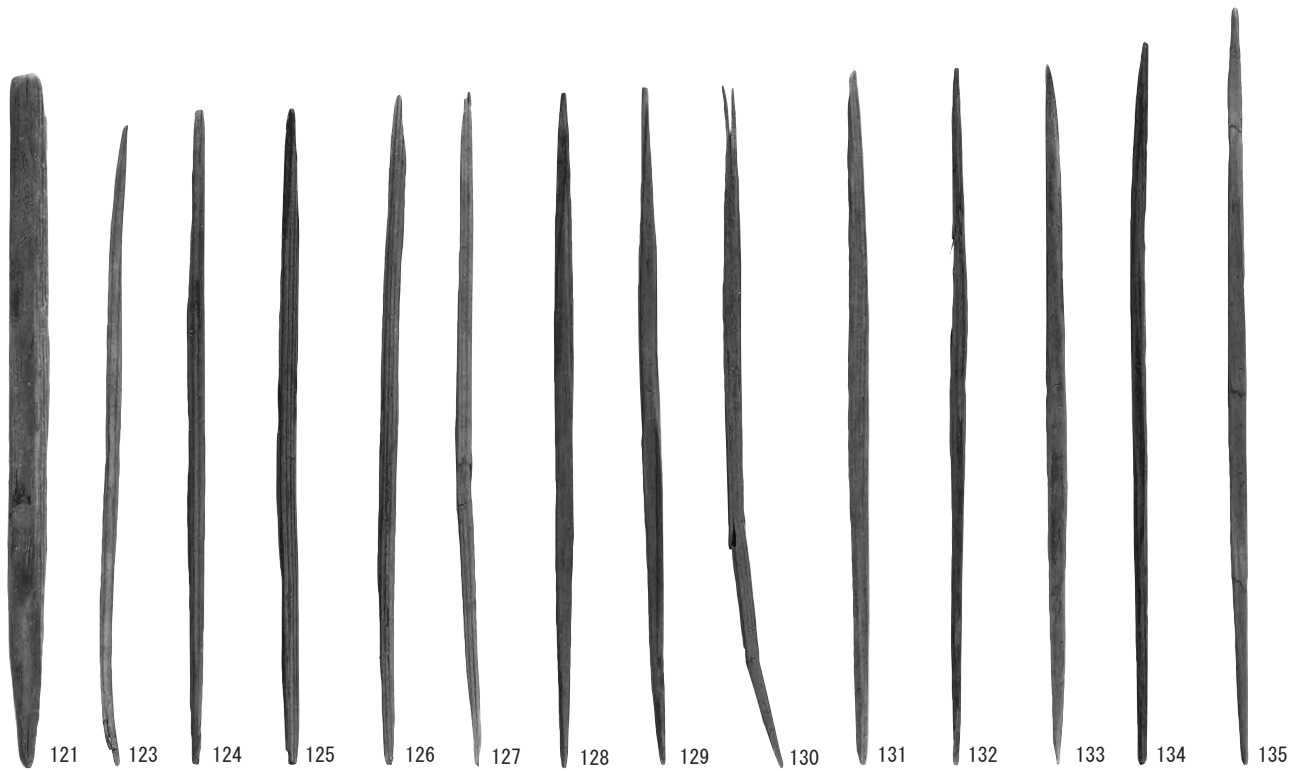
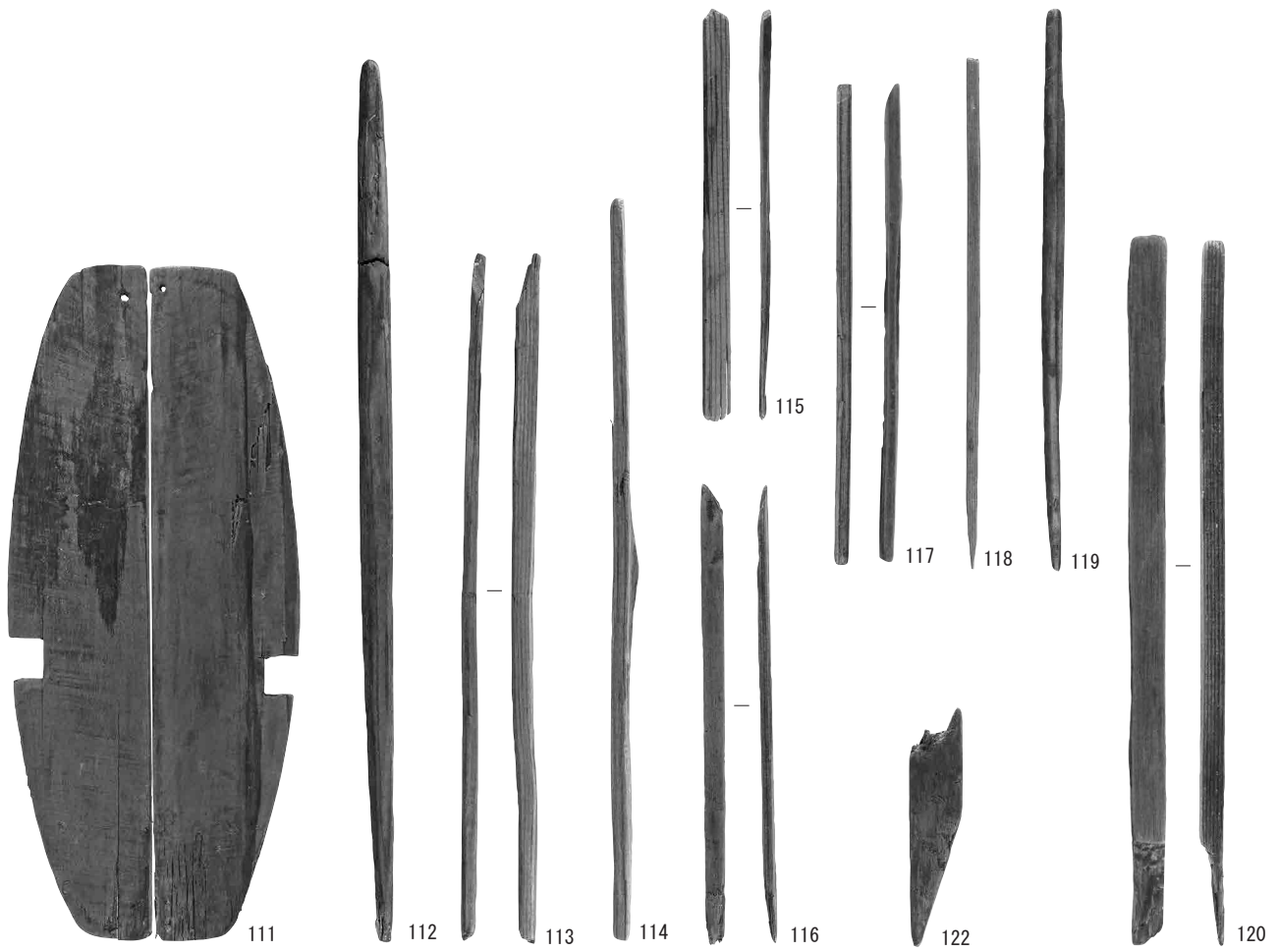
図版 12



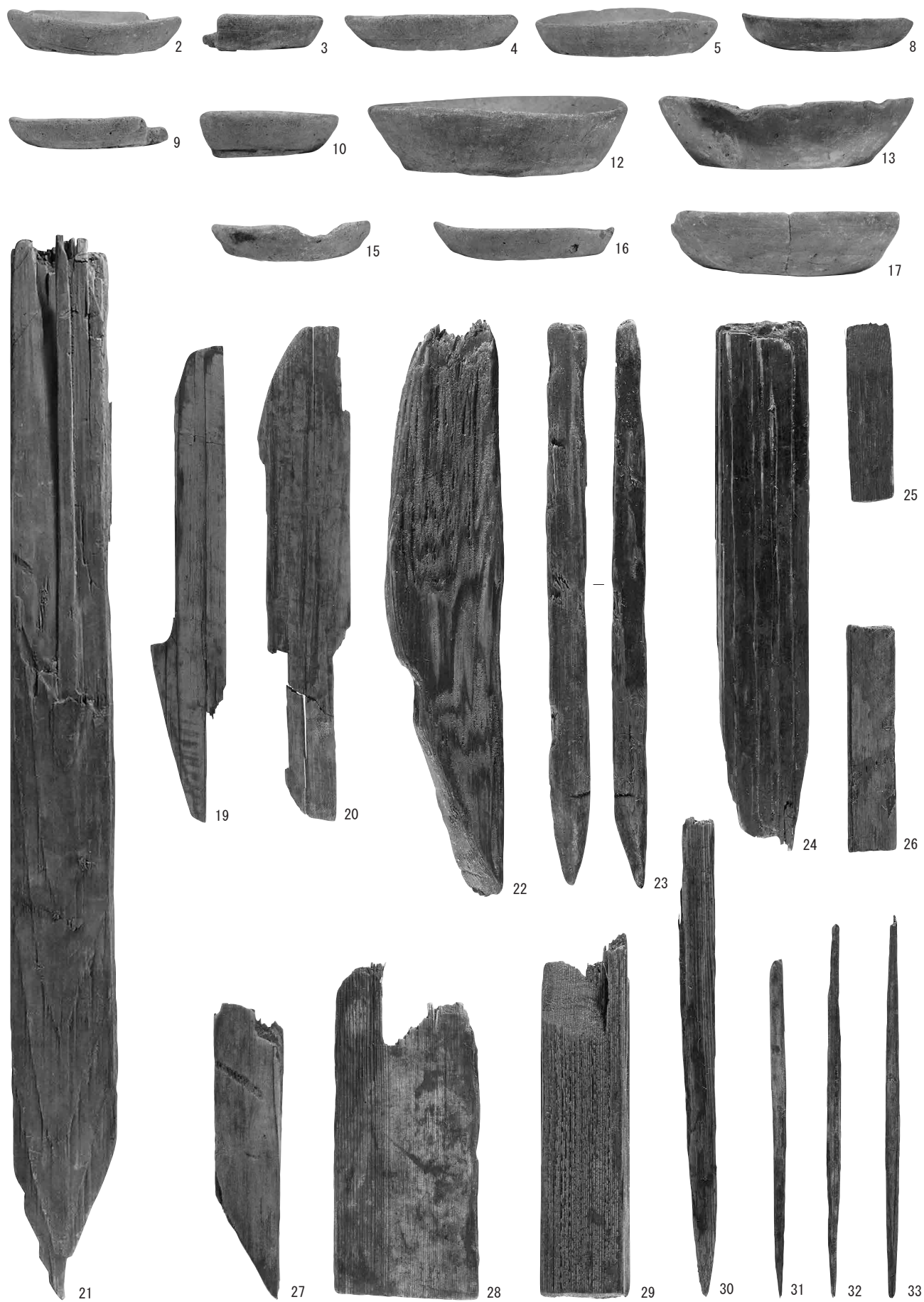
1. 第2面 河川2護岸跡出土遺物(1)



1. 第2面 河川2護岸跡出土遺物(2)

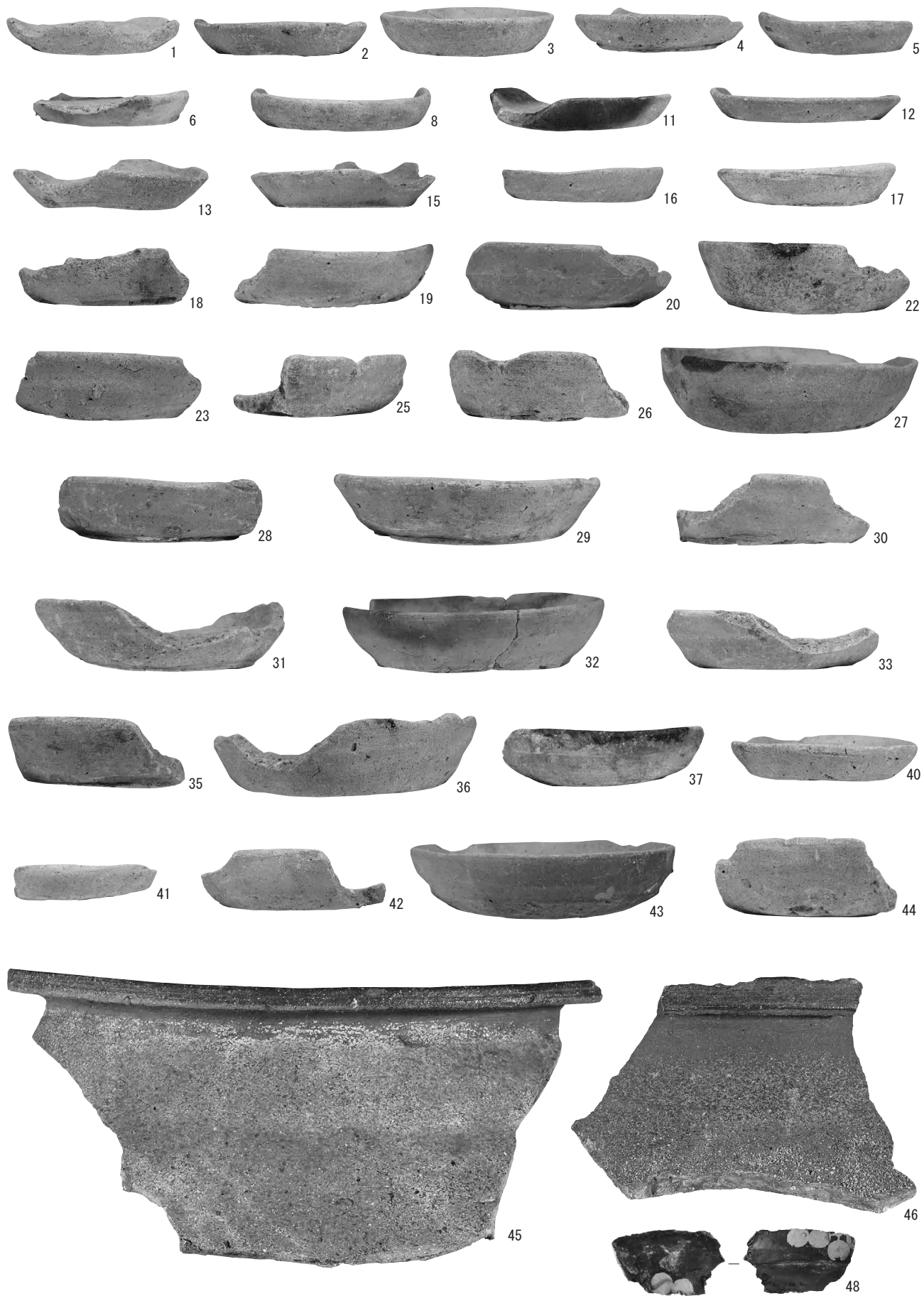


1. 第2面 河川2護岸跡出土遺物(3)



1. 第2面 河川3落ち込み出土遺物

图版 16



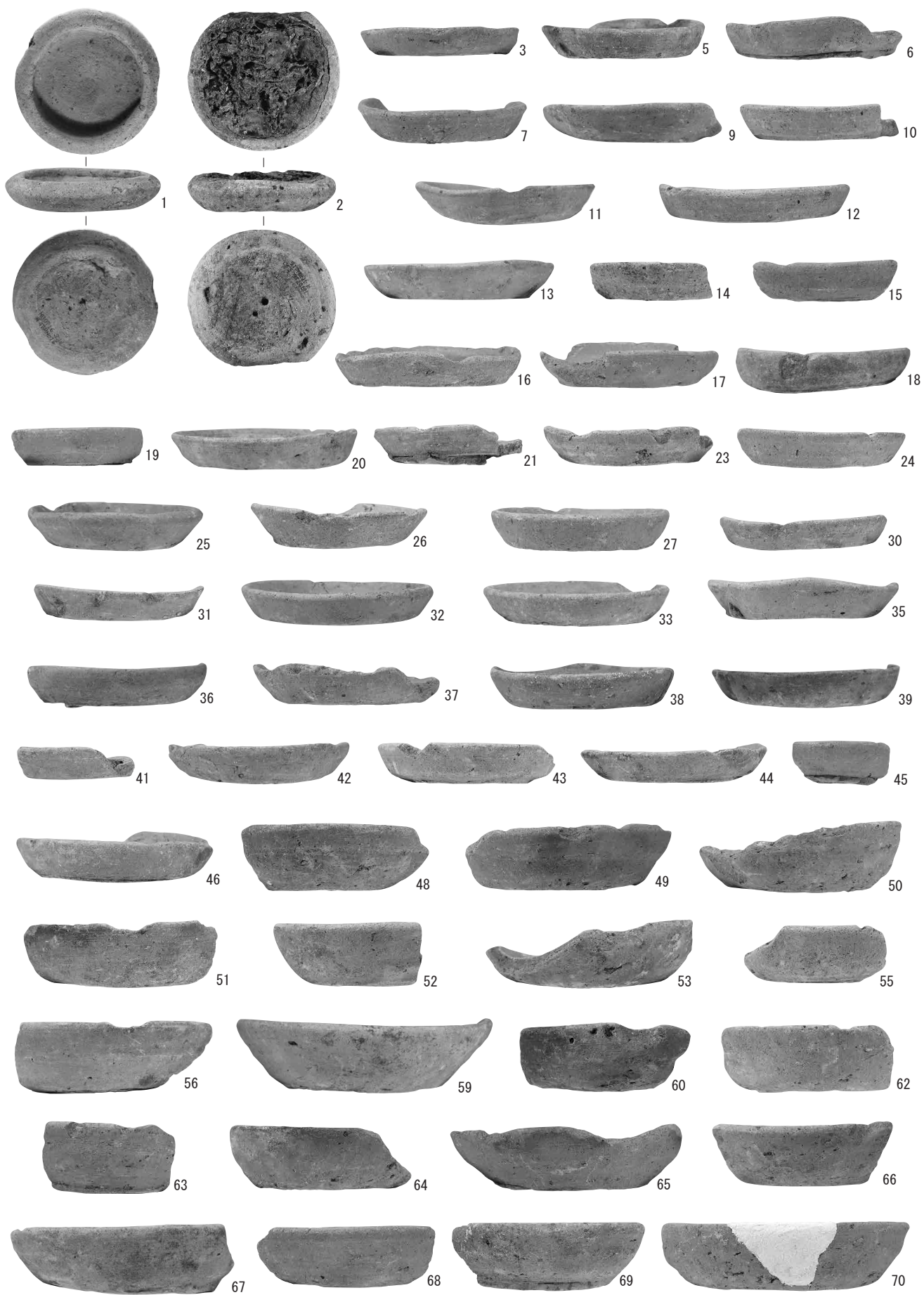
1. 第2面 遺構外出土遺物(1)



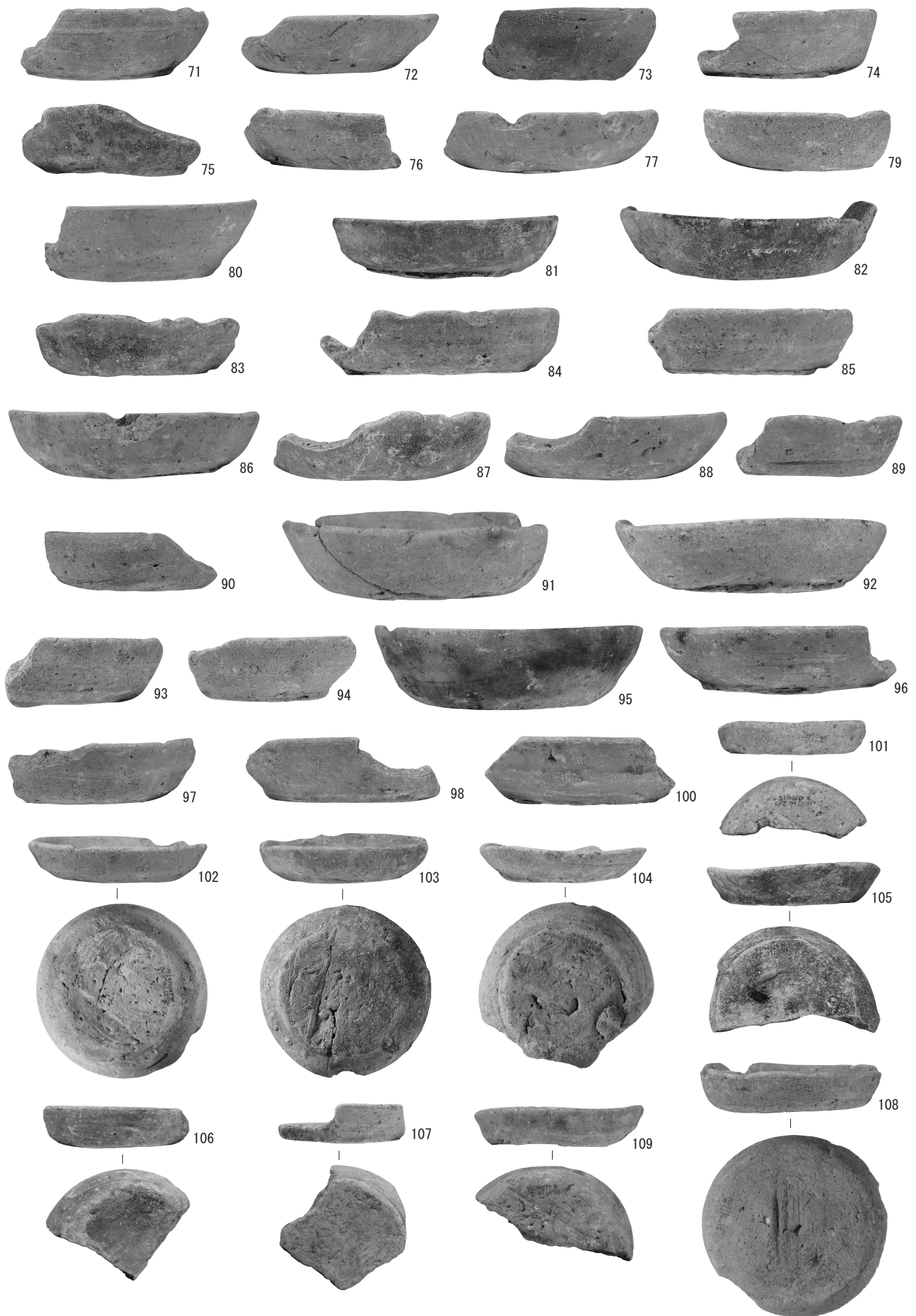
1. 第2面 遺構外出土遺物(2)



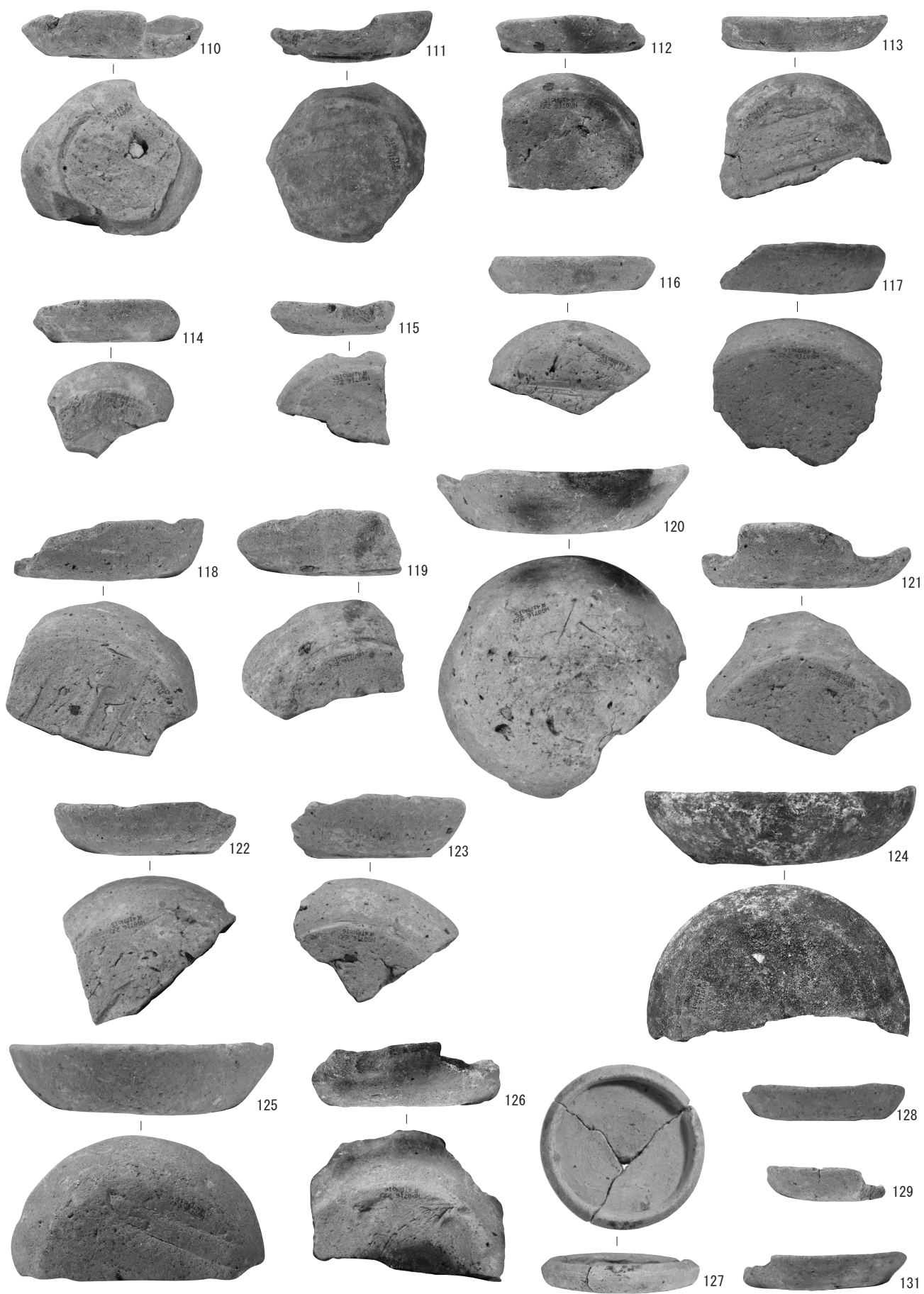
1. 第2面 遺構外出土遺物(3)



1. 第3面 河川4堆積土出土遺物(1)

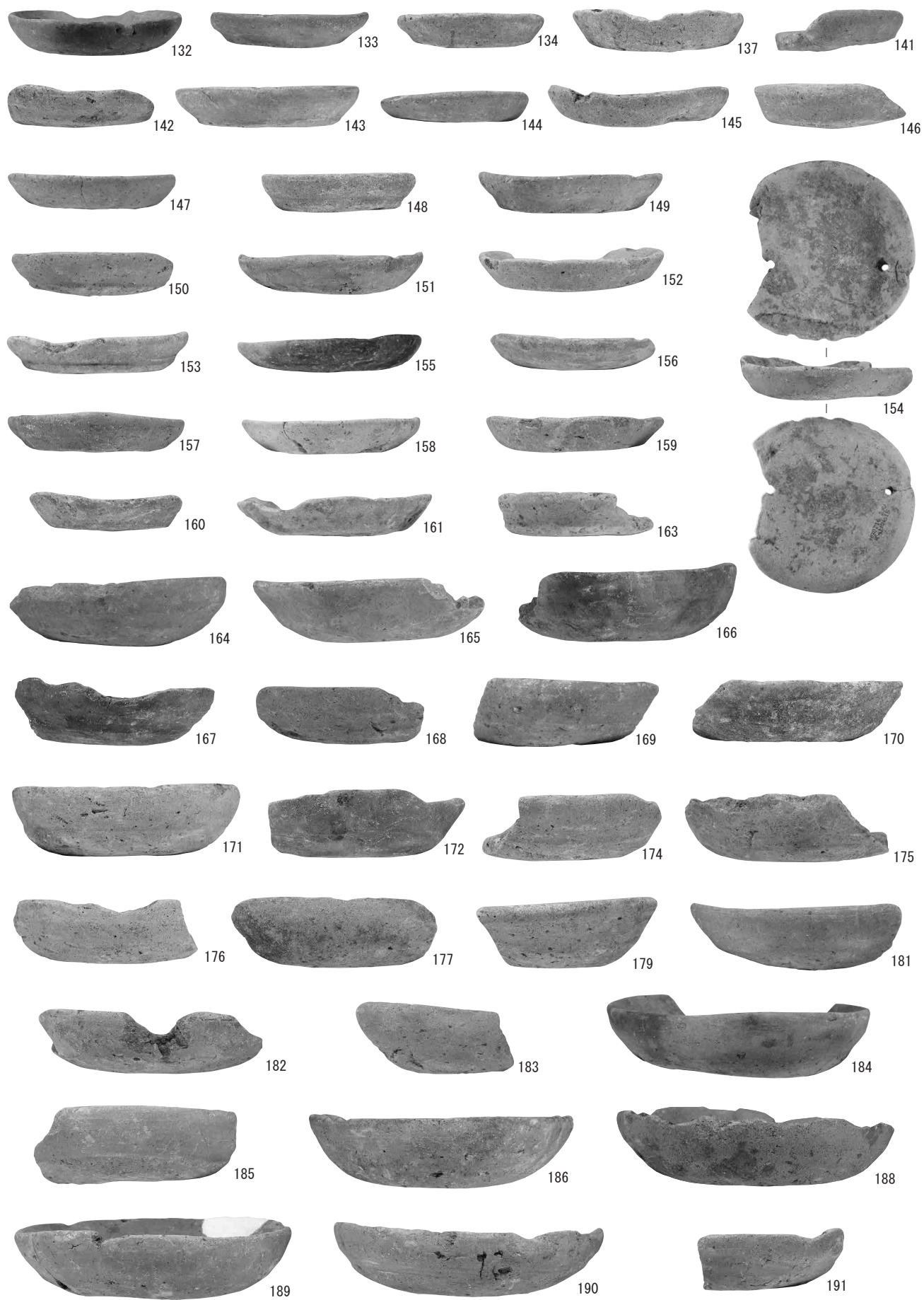


1. 第3面 河川4堆積土出土遺物(2)

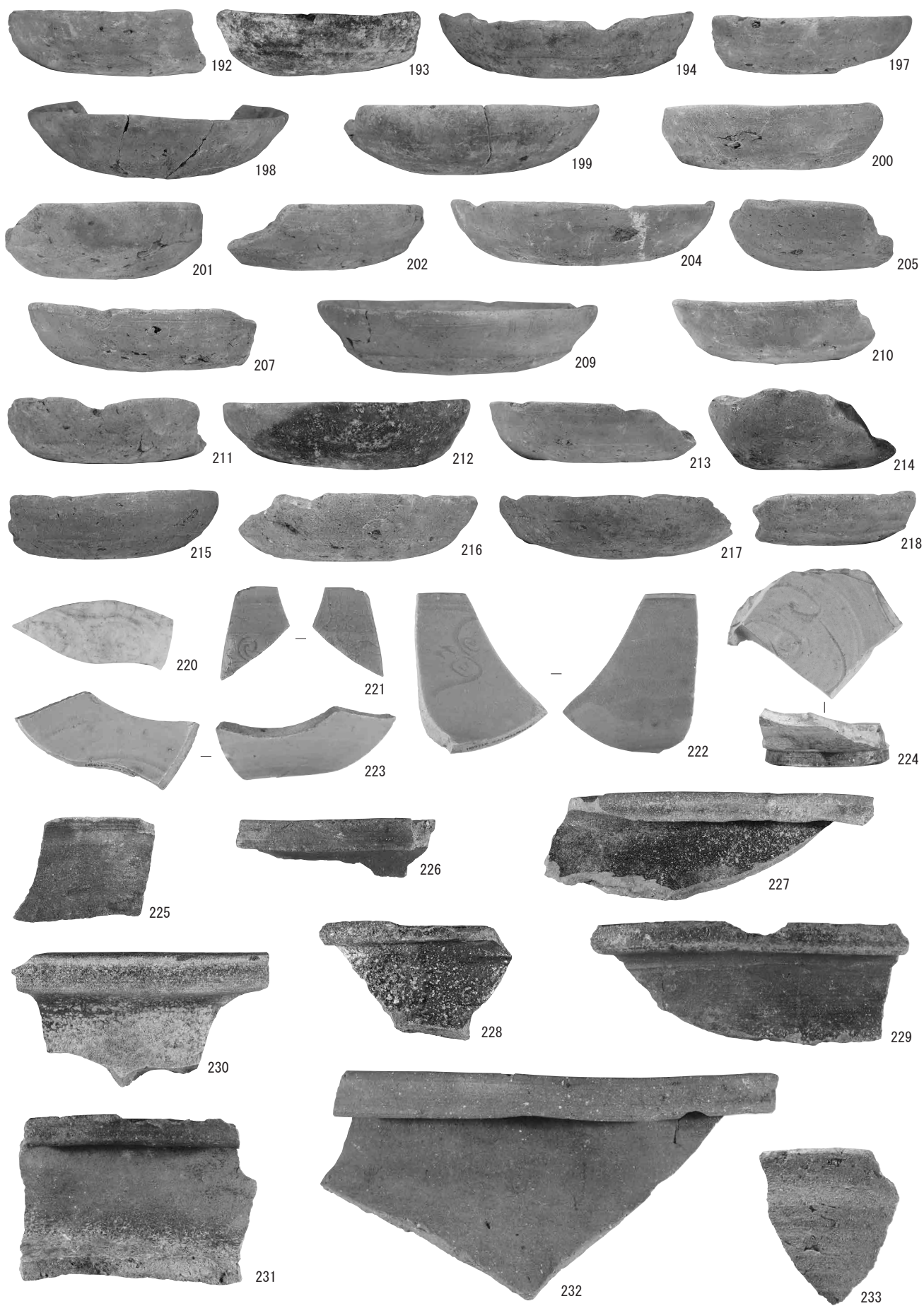


1. 第3面 河川4堆積土出土遺物(3)

图版 22



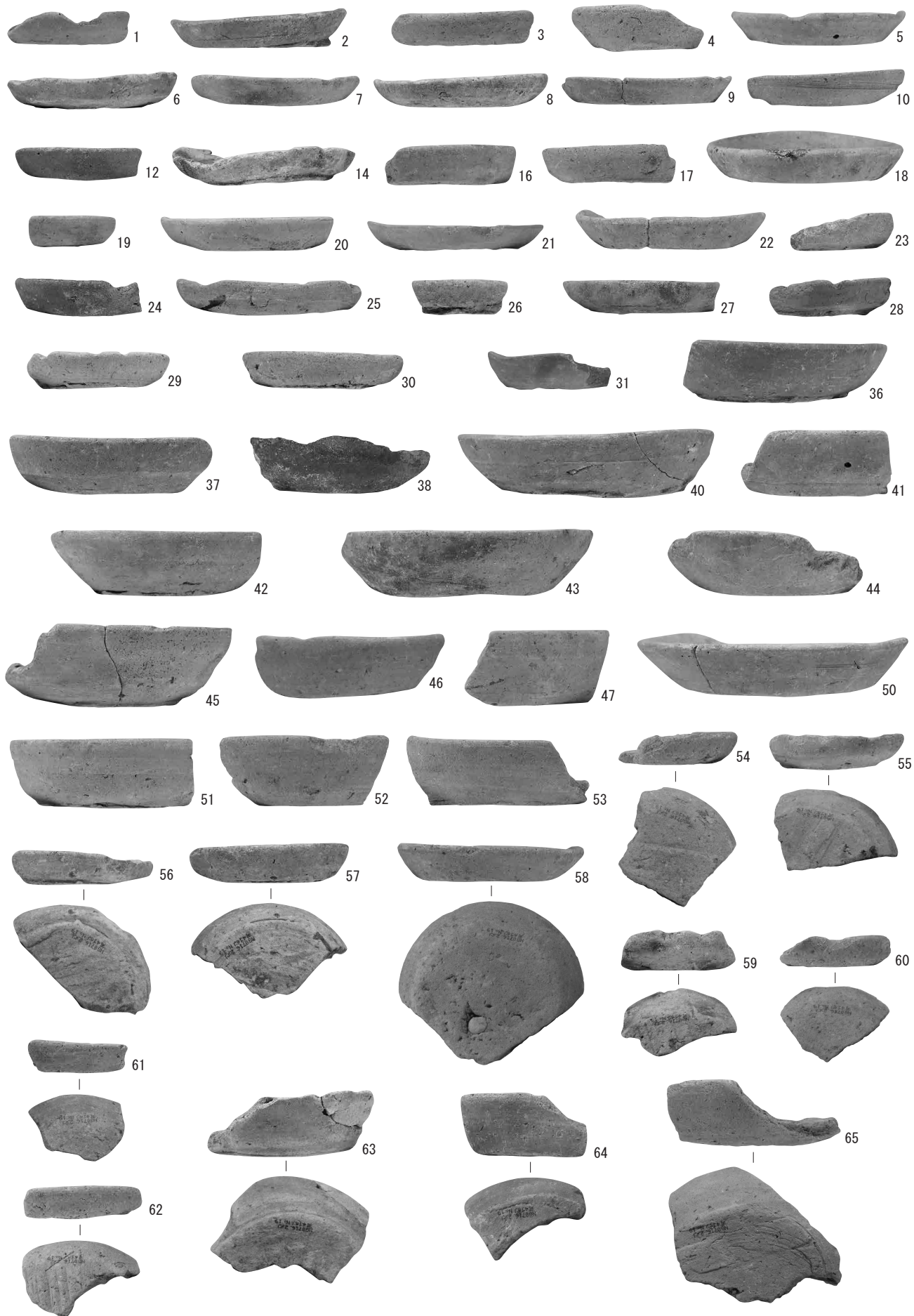
1. 第3面 河川4堆積土出土遺物(4)



1. 第3面 河川4堆積土出土遺物(5)

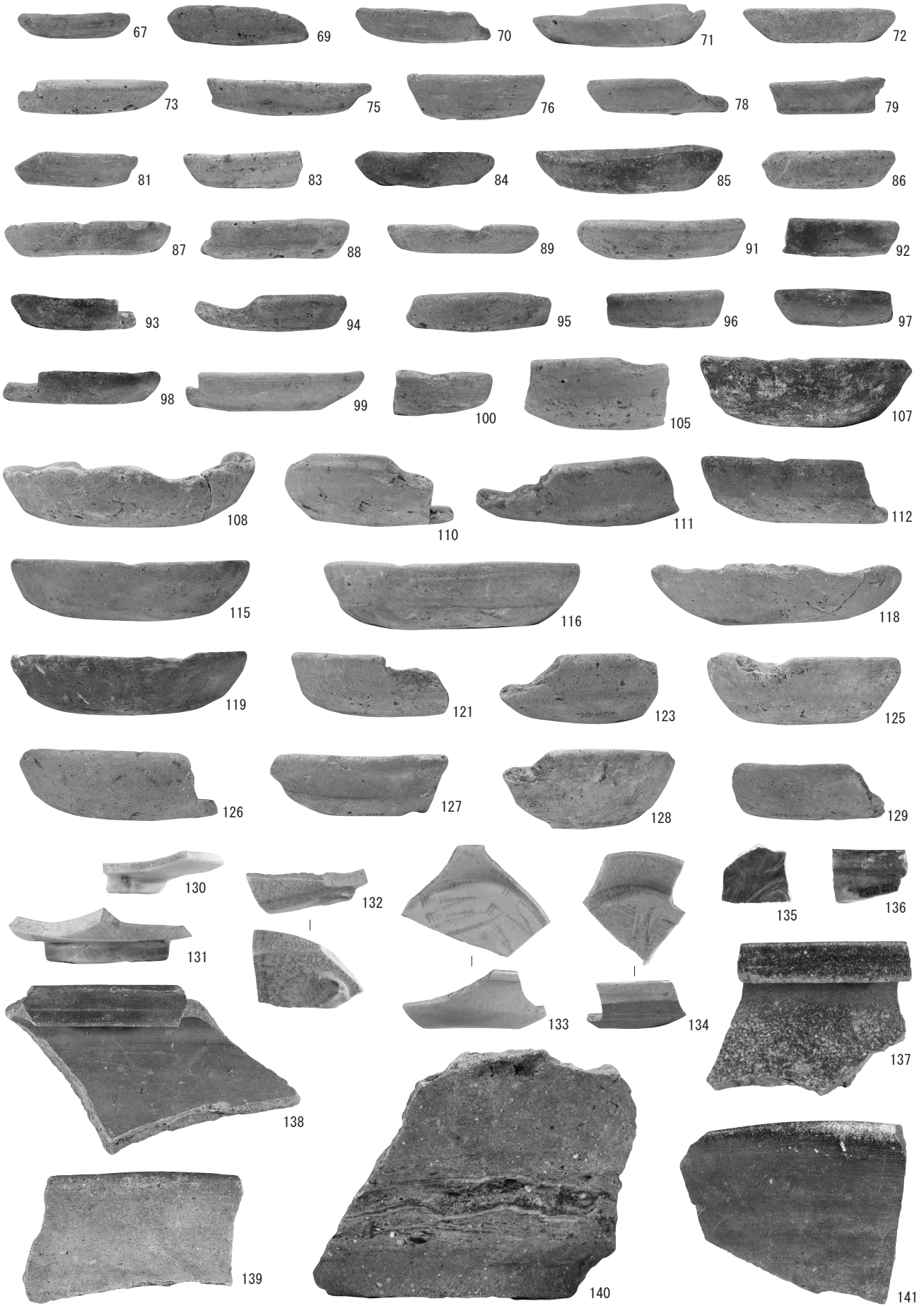


1. 第3面 河川4堆積土出土遺物(6)

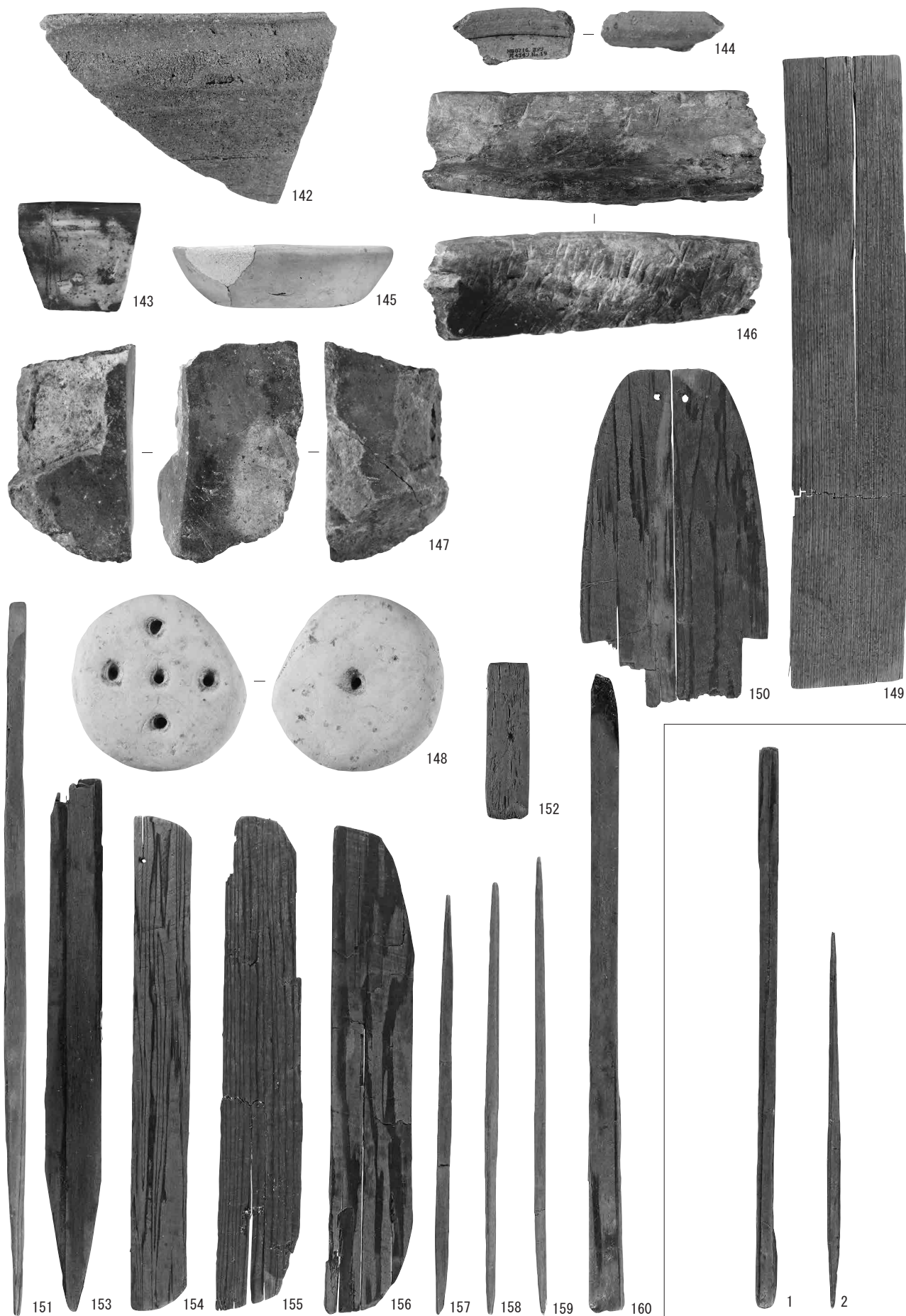


1. 第3面 河川4護岸跡出土遺物(1)

図版 26



1. 第3面 河川4護岸跡出土遺物(2)



1. 第3面 河川4護岸跡出土遺物(3)

2. 第3面 河川4落ち込み出土遺物



弁ヶ谷遺跡 (No.249)

材木座四丁目599番8地点

例 言

1. 本報は「弁ヶ谷遺跡」（神奈川県遺跡台帳No.249）内、鎌倉市材木座四丁目599番8地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 発掘調査は平成21年2月17日～同年4月15日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は約59㎡である。
3. 発掘調査の体制は、以下のとおりである。

調査担当者 三ツ橋正夫
調査員 岡田慶子
作業員 沼上三代治・中須洋二・小口照男・片山直文・清水政利
(公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター)
4. 本報告書の作成並びに編集は鎌倉市教育委員会が行った。なお、図版作成等の報告書作成に係る基礎作業については、株式会社玉川文化財研究所に委託し実施した。
5. 第四章の出土動物遺体の鑑定・執筆は、東京国立博物館客員研究員金子浩昌氏に依頼した。
6. 本報に掲載した写真は、遺構を三ツ橋正夫、遺物を赤間和重が撮影した。
7. 測量基準杭の設置にあたっては、日本測地系（座標系AREA9）を用い、図4に座標値を示した。
8. 発掘調査に係る出土品および図面・写真等の記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「弁ヶ谷」とした。
10. 遺構名称を付す際に土坑とピットの区別は、長軸規模が60cm以上の掘り込みを土坑とし、60cm未満のものをピットとして扱った。
11. 遺構・遺物挿図中の網掛けおよび指示は、以下のとおりである。

遺構：  整地範囲
遺物：  煤およびタール状の黒色物が付着している部分
・石製品の矢印は磨面範囲を示す。
12. 遺物の分類および編年には、以下の文献を参考にした。

かわらけ：鎌倉かわらけ研究会 2016『鎌倉かわらけの再検討－大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から－』
瀬戸：愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史別編 窯業2 中世・近世 瀬戸編』
渥美・常滑：愛知県史編さん委員会 2012『愛知県史別編 窯業3 中世・近世 常滑編』
貿易陶磁：太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』
13. 出土品等整理作業の参加者は、次のとおりである（順不同）。

河合英夫・小山裕之・坪田弘子・小森明美・西本正憲・西野吉論・齊藤武士・玉川久子・赤間和重・御代七重・木村百合子・田村正義・唐原賢一・大貫由美・浅野真里・花本晶子・御代祐子・深澤繁美・山田浩介（玉川文化財研究所）
14. 報告書作成にあたっては、三ツ橋正夫氏・伊丹まどか氏からご協力を賜った。ここに記して感謝する次第である。

目 次

第一章 遺跡と調査地点の概観	365
第1節 調査に至る経緯と経過	365
第2節 調査地点の位置と歴史的環境	365
第3節 周辺の考古学的調査	366
第二章 堆積土層	369
第三章 発見された遺構と遺物	371
第1節 第1面の遺構と遺物	371
第2節 第2面の遺構と遺物	372
第3節 第3面の遺構と遺物	375
第4節 第4面の遺構と遺物	381
第四章 弁ヶ谷遺跡出土の動物遺体	388
第五章 まとめ	390

挿 図 目 次

図1 遺跡位置図	367	図13 第3面 土坑5～11	378
図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡	368	図14 第3面 土坑11出土遺物	379
図3 調査区位置図	370	図15 第3面 遺構外出土遺物	380
図4 調査区配置図	370	図16 第4面 遺構分布図	381
図5 調査区土層断面図	371	図17 第4面 土坑14出土遺物	383
図6 第1面 遺構分布図	373	図18 第4面 土坑15出土遺物	383
図7 第2面 遺構分布図	373	図19 第4面 土坑17出土遺物	383
図8 第2面 土坑1～4	374	図20 第4面 土坑12～21	385
図9 第2面 遺構外出土遺物	375	図21 第4面 土坑22・23	386
図10 第3面 遺構分布図	376	図22 第4面 ピット11・16～18	386
図11 第3面 土塁状遺構1	376	図23 第4面 遺構外出土遺物	387
図12 第3面 石列1	377		

表 目 次

表 1	弁ヶ谷遺跡 調査地点および周辺の遺跡一覧……………	369	表 4	第 4 面 出土遺物観察表……………	393
表 2	第 2 面 出土遺物観察表……………	392	表 5	遺構計測表……………	394
表 3	第 3 面 出土遺物観察表……………	392	表 6	出土遺物一覧表……………	394

図 版 目 次

図版 1	1. 調査区近景(北から)……………	395	2. 第 3 面 石列 1 (南から)……………	400	
	2. 調査区北壁土層断面(南から) ……	395	図版 7	1. 調査区北半第 4 面全景(南から) ……	401
図版 2	1. 調査区北半第 1 面全景(西から) ……	396	2. 第 4 面 土坑 18(南から)……………	401	
	2. 第 1 面 畝状遺構 1 (北から)……………	396	3. 第 4 面 ピット 17(北から)……………	401	
図版 3	1. 調査区北半第 2 面全景(東から) ……	397	4. 第 4 面 礎石 1 (北から)……………	401	
	2. 調査区南半第 2 面全景(北から) ……	397	5. 第 4 面 礎石 2 (北から)……………	401	
図版 4	1. 第 2 面 土坑 1・2 (南から)……………	398	図版 8	1. 第 2 面 遺構外出土遺物……………	402
	2. 第 2 面 土坑 3 (東から)……………	398	2. 第 3 面 土坑 11 出土遺物……………	402	
	3. 第 2 面 土坑 4 (北から)……………	398	3. 第 3 面 遺構外出土遺物……………	402	
図版 5	1. 調査区北半第 3 面全景(東から) ……	399	図版 9	1. 第 4 面 土坑出土遺物……………	403
	2. 第 3 面 調査風景(東から)……………	399	2. 第 4 面 遺構外出土遺物……………	403	
図版 6	1. 第 3 面 土壘状遺構 1 (東から) ……	400			

第一章 遺跡と調査地点の概観

第1節 調査に至る経緯と経過

本発掘調査は、鎌倉市材木座四丁目599番8地点で実施した個人専用住宅建設に伴う埋蔵文化財の事前調査である。

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である弁ヶ谷遺跡（神奈川県遺跡台帳No.249）の範囲内にあたる。建築主から鋼管杭工事を伴う建築計画について相談を受けた鎌倉市教育委員会は、当該工事が埋蔵文化財に与える影響の有無を確認するため、遺跡の確認と内容の把握を目的とした試掘確認調査が必要と判断し、平成20年8月13日～同年8月14日に6㎡の調査区を設定して調査を実施した。その結果、中世の遺構が開発予定地に広がっていることが判明したため、鎌倉市教育委員会は文化財保護法に基づく発掘調査等の措置を建築主と協議し、埋蔵文化財に影響が及ぶと予想される約59㎡について本格調査を実施する運びとなった。発掘調査は鎌倉市教育委員会が調査主体となり、三ツ橋正夫が現地調査を担当した。

現地調査期間は平成21年2月17日～同年4月15日までの2ヵ月ほどで、調査面積は約59㎡である。現地表の標高は約25.5mを測る。調査はまず重機により約0.6～1.4mの表土を除去することから始め、その後はすべて人力で掘り下げ調査を進めていった。調査区全体を第1面まで掘削した時点で、調査区北半が大形の泥岩から成る盛り土であることが判明し、調査区壁の崩落の危険性が想定された。そこで調査区を北半のⅠ区と南側に突出した部分のⅡ区とに分離し、まずはⅡ区の調査を先行して行った。調査の結果、中世に属する3面の遺構を検出し、各面ごとに記録作業を行い、3月12日をもってⅡ区の調査を終え埋め戻した。引き続きⅠ区の調査に着手し、第1面で近世の遺構を調査し、Ⅰ区の遺構に連続する中世の3面の遺構を調査した。そして4月15日をもって現地調査に関わるすべての業務を終了した。

なお、測量に際しては日本測地系（座標系AREA 9）に準じた、鎌倉市四級基準点2点（ $X = -77155.728$ 、 $Y = -24986.130$ ）、（ $X = -77184.023$ 、 $Y = -24994.627$ ）を基にした。このため本報告で用いている方位標の北は真北を示す。

第2節 調査地点の位置と歴史的環境

弁ヶ谷遺跡（No.249）は、鎌倉市の市街地を形成する沖積平野の南東端部「弁ヶ谷」に所在している。弁ヶ谷は、南西方向に開口する谷戸で、その規模は谷奥まで約500m、開口部で幅150m前後を有する、鎌倉市域では比較的大きな谷戸のひとつである。この谷戸を囲う丘陵は複雑に入り組み、谷戸内部には左右に幾つかの支谷が形成されている。本遺跡は、谷戸の開口部付近を中心に、最初の南側に開口した支谷と丘陵地の一部および向かいの小支谷がおおよその周知範囲である。本遺跡の南西側は旧道を境に材木座町屋遺跡（No.261）となっている。

弁ヶ谷は、現住所表記では鎌倉市材木座四丁目を中心に広がる谷戸全体で、丘陵地の最奥部は逗子市小坪との境界をなしている。弁ヶ谷からは滑川水系とは異なる、豆腐川という独立した小河川があり、谷戸の開口部付近から材木座の海岸までは350mほどで到達する。上本進二氏の『鎌倉・逗子地形発達史と遺跡形成』（上本 2000）によると、鎌倉時代のこの辺りは谷底平野ないし谷床平野であったとされている。谷の中を流れる川の側刻によるか、既存の谷に何らかの原因によって堆積が行なわれるかして生じた低地、いわゆる氾濫原の一種で、この一帯は埋積谷であったと考えられる。

本調査地点は、弁ヶ谷の入口付近の南側に開口した支谷の中ほどに位置している。住所表記は鎌倉市材木座四丁目599番8である。谷戸開口部付近の現地表面の標高は約7m、中ほどで約20m、調査地点では約25.5m、谷戸部の平坦面最奥部では30m前後を有し、谷戸の中では比高が大きい。

現在、弁ヶ谷に寺院は一字もないが、中世には最宝寺や嵩寿寺、新善光寺などの寺院が知られていた。『鎌倉廃寺事典』（貫・川副 1980）や『鎌倉事典』（白井編 1976）によれば、最宝寺は材木座高御蔵にあったと伝えられる。『新編相模国風土記稿』享徳元（1452）年の安堵状には、「鎌倉弁ヶ谷高御蔵最宝寺寺領等事」という文書があり、享徳頃までは弁ヶ谷高御蔵にあったことが知られている。また、崇寿寺は第14代執権北条高時によって創建されたと伝えられており、寺格の高さがうかがえる。新善光寺は弁ヶ谷の谷奥北の支谷にあったとされている。

弁ヶ谷の周辺域には現在もなお法灯を伝える寺院がある。最宝寺の西にあたる谷戸の開口部付近には開山文覚上人、開基源頼朝と伝える補陀落寺、弁ヶ谷の丘陵を越えた名越ヶ谷や松葉ヶ谷には安国論寺や長勝寺がある。安国論寺は安房から鎌倉入りした日蓮が初めて草庵を構えた場所といわれ、長勝寺もまた日蓮ゆかりの寺院である。南には直線距離で300m足らずで光明寺に至る。開山は浄土宗三祖然阿良忠上人、開基は第4代執権北条経時である。その後も歴代執権の帰依をうけ、現在も大規模な伽藍をもつ。光明寺の南には、材木座和賀江島築堤の痕跡が残っている。急速に都市化した幕府開創当時には夥しい量の物資が海から陸揚げされたと推定され、潮の引いたときは往時の面影を偲ぶことができよう。また、目の前に宏壮な山門がそびえ立つ光景も想像することができよう。

現在の弁ヶ谷は支谷の隅々まで宅地化され、伽藍の跡形もないが、断片的に残された文献・資料から、支谷の形状に沿ってそれぞれ寺院があったと考えられている。また、『新編鎌倉志』には千葉介の館が、『鎌倉攬勝考』には佐竹氏の屋敷があったと記されている。これらの伝承も本調査地点を考える上で注意すべき点であろう。

第3節 周辺の考古学的調査

弁ヶ谷の各支谷には「やぐら」の存在が知られており、これまで数地点において調査が行われている。本遺跡の範囲内に位置する弁ヶ谷やぐら群（No85）では3ヵ所の地点（①～③）で調査が行われている。本調査地点とも近く、③材木座四丁目10番14地点（依田ほか 2000）では3基のやぐらが調査され、白磁や瀬戸、常滑製の蔵骨器が出土し注目された。また、東隣の支谷最奥部に位置している新善光寺跡内やぐら（No335）の⑬材木座四丁目542番16地点（田代・原ほか 1988）では、2基の大型やぐらと埋葬施設が検出され、多数の墓石類や完形品の白磁四耳壺も出土し注目された。

谷戸平地部の調査では、弁ヶ谷の開口部付近に調査事例が集まっている。谷戸のほぼ中央に位置する④材木座四丁目588番8外2筆地点（宮田・滝澤ほか 2016）の調査では、泥岩地業面を中心とする3期3面の中世遺構面（13世紀後葉～14世紀中葉）が検出され、3面では柱痕や礎板を残す建物、板壁建物の可能性をもつ方形の板組遺構なども検出され、それら遺構群の周辺地域への広がりが注目された。近接する⑤材木座六丁目640番2・3地点（根本 2015）の調査では、主軸を同じくする礎石建物や掘立柱建物、土坑、浄土庭園を彷彿させる暗渠を伴う苑池などを中心とする6期6面の中世遺構面（12世紀末葉ないし13世紀前葉～15世紀前葉）が検出された。また、建物とされた中には「塔」の基礎との見方もあり、弁ヶ谷を考える上で最も注目される地区である。開口部寄りの⑥材木座四丁目332番1の一部外地点（宮田・森 2007）の調査では、各面とも遺構は希薄であるが、繰り返し泥岩地業がなされており、検出された5



図1 遺跡位置図



※矢印は本調査地点、丸数字は表1の番号に対応する。

図2 調査区の位置と周辺の関連遺跡

表1 弁ヶ谷遺跡 調査地点および周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	地点名	文献
本地点	弁ヶ谷遺跡 (No.249)	材木座四丁目599番8地点	
①	弁ヶ谷やぐら群 (No.85)	材木座四丁目594番	田代・原 1991
②	弁ヶ谷やぐら群 (No.85)	材木座四丁目594番14他	坂口・高木ほか 1984
③	弁ヶ谷やぐら群 (No.85)	材木座四丁目10番14地点	依田ほか 2000
④	弁ヶ谷遺跡 (No.249)	材木座四丁目588番8外2筆地点	宮田・滝澤ほか 2016
⑤	弁ヶ谷遺跡 (No.249)	材木座六丁目640番2・3地点	根本 2015
⑥	弁ヶ谷遺跡 (No.249)	材木座四丁目332番1の一部外地点	宮田・森 2007
⑦	弁ヶ谷遺跡 (No.249)	材木座四丁目336番7地点	宮田・諸星ほか 2001
⑧	弁ヶ谷遺跡 (No.249)	材木座六丁目643番3地点	齋木・降矢 2009
⑨	弁ヶ谷遺跡 (No.249)	材木座六丁目643番4地点	馬淵・鍛冶屋ほか 2009
⑩	弁ヶ谷遺跡 (No.249)	材木座六丁目643番5地点	馬淵・鍛冶屋ほか 2009
⑪	材木座町屋遺跡 (No.261)	材木座六丁目674番9地点	齋木・降矢ほか 2005
⑫	材木座町屋遺跡 (No.261)	材木座六丁目674番8外地点	齋木・降矢ほか 2005
⑬	材木座町屋遺跡 (No.261)	材木座六丁目674番10地点	齋木・降矢ほか 2005
⑭	材木座町屋遺跡 (No.261)	材木座六丁目674番15地点	齋木・降矢ほか 2005
⑮	材木座町屋遺跡 (No.261)	材木座六丁目653番1外地点	香川 2009
⑯	新善光寺跡 (No.279)	材木座四丁目579番8地点	原・山口 2013
⑰	新善光寺跡 (No.279)	材木座四丁目579番4地点	山口 2014
⑱	新善光寺跡 (No.279)	材木座四丁目573番1外地点	福田 2004
⑲	新善光寺跡内やぐら (No.335)	材木座四丁目542番16地点	田代・原ほか 1988

※遺跡Noは神奈川県遺跡台帳による。

期5面の中世遺構面(13世紀後葉～15世紀後葉)は遺跡の中心地ではなく、屋敷地などの裏手ないし縁辺域であったと推定されている。同じ地区でもある⑦材木座四丁目336番7地点(宮田・諸星ほか 2001)では、20㎡の調査であったが6期6面の中世遺構面(13世紀末葉ないし14世紀前葉～15世紀代)が検出された。このうち3・4面から検出された遺構は、基壇状の石列や直角に曲った形から堂宇的な建物の存在が推定され、寺院的な色合いの濃い地区との指摘がなされている。

材木座町屋遺跡(No.261)との境界付近では、3地点(⑧～⑩)の調査が行われている。⑧材木座六丁目643番3地点(齋木・降矢 2009)の調査では、5期中世遺構面(13世紀中葉～15世紀代)が検出され、遺構および土層、出土遺物などから3回の画期が想定され、町屋的空間から寺院的空間へと変化したことが推定されている。⑨材木座六丁目643番4地点(馬淵・鍛冶屋ほか 2009)、⑩材木座六丁目643番5地点(馬淵・鍛冶屋ほか 2009)では、前者で5面、後者では3面の生活面が検出され、両地点の層位および遺構の検出高、出土遺物をもとに13世紀前葉～13世紀末葉ないし14世紀前葉およびそれ以降の遺構が4期に区分されている。検出された遺構は、礎石建物や掘立柱建物、柱穴列、柱穴、土坑、集石土坑など多岐にわたっている。また、炭層が重層していることから度重なる火災や大規模な焼却行為のあったことが推定されており、建物の軸方向や文献・古地図などの資料をもとに遺跡の考察が加えられている。加えて、道路を隔てた材木座町屋遺跡側も5地点(⑪～⑮)の調査が行われており、これらとの検討も今後の課題となろう。この他にも東隣の新善光寺跡(No.279)の支谷内で3地点(⑯～⑱)で調査が行われているが、寺院跡との関連も含めて、発見された遺構の多角的な検討も必要であろう。

第二章 堆積土層

今回の調査では、部分的な堆積土も含めると24層に及ぶ堆積土層を確認することができ、現地表面からの層厚は最大で2.5mを測る。また、遺構確認面は第1～4面までの合計4面が認められた。ここでは遺存状態の良好な調査区北壁面の土層断面を図示し、遺構確認面に相当する土層を中心に詳述していきたい。

現在の地表面は標高約25.5～25.6mで、最上部に層厚60～140cmほどの盛土(1層)が堆積しその下位には近世の耕作土(2層)が20cm前後の厚さで確認された。第1面の遺構は3層上面で検出し、確認面の標高は東端で約24.7m、西端で約24.0mを測る。東側から西側へ緩やかに傾斜しており、近世に属する畝状

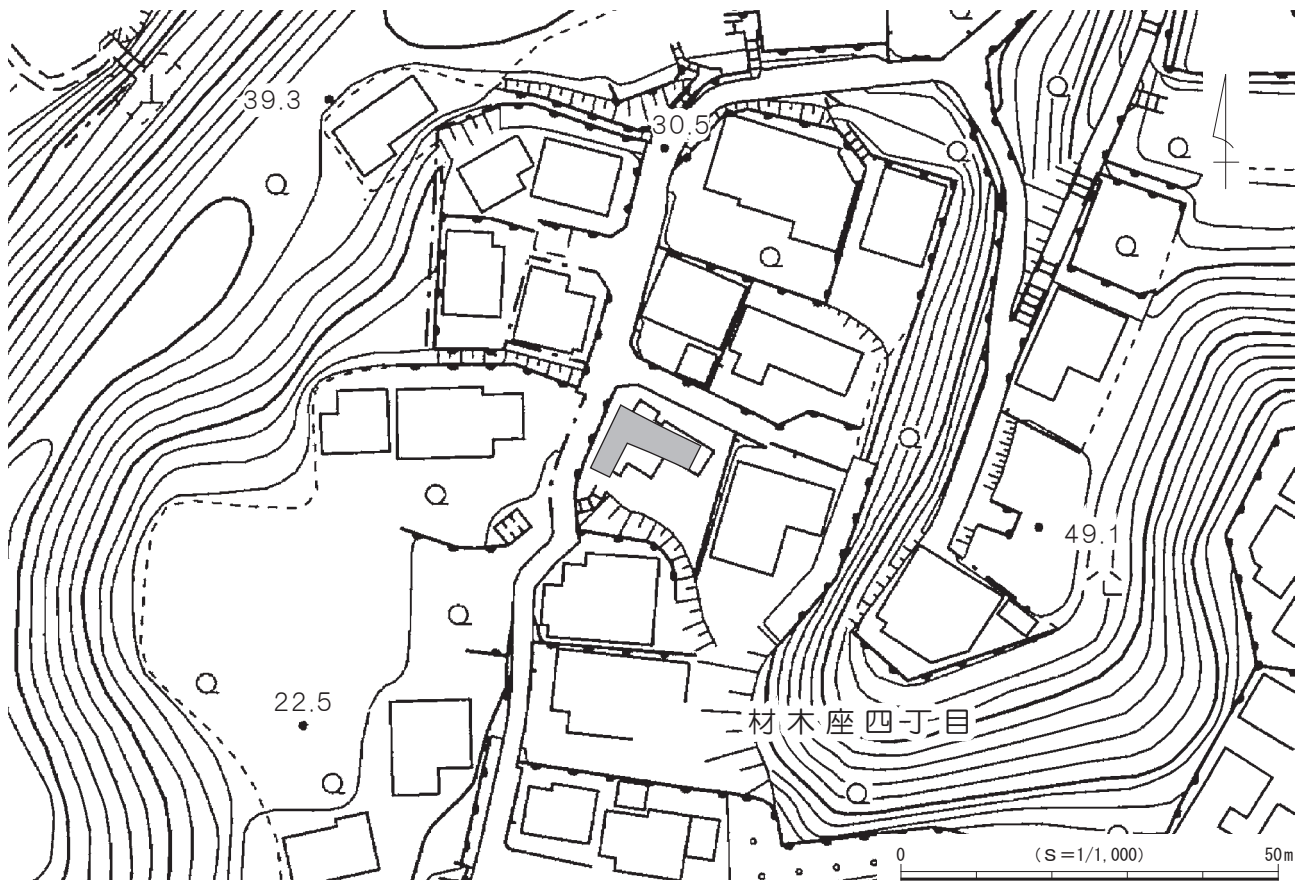


図3 調査区位置図



図4 調査区配置図

北壁

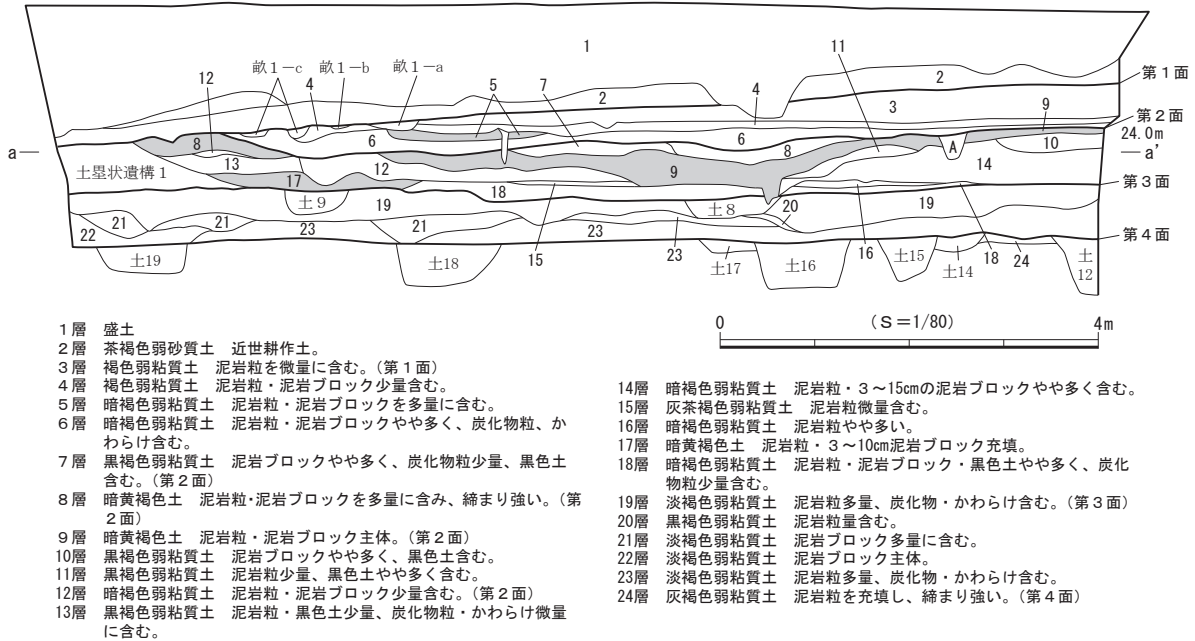


図5 調査区土層断面図

遺構を確認した。3層は泥岩粒を微量に含む褐色弱粘質土で、層厚は最大で30cm前後である。第2面の遺構は7・8・9・12層の上面で確認し、7・8層は泥岩ブロックを多量に含み9層は泥岩粒と泥岩ブロックを主体とする土層である。確認面の標高は約24.0～24.2mを測る。第3面は19層とした泥岩粒を多量に含む淡褐色弱粘質土の上面で検出した。層厚は最大で約40cmで、確認面の標高は約23.6mである。本地点で最下面にあたる第4面の遺構は、24層上面で確認した。24層は泥岩粒を含む締まりの強い土層で、上面の標高は約22.9～23.0mを測る。

第三章 発見された遺構と遺物

今回の調査では、遺構確認面は第1～4面までの合計4面である。第1面が近世、第2～4面が中世に属する遺構確認面で、検出した遺構は近世以降に属する畝状遺構3条と、中世に属する土塁状遺構1基、石列1列、土坑23基、ピット18基、礎石2基である。出土遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して9箱を数える。

以下、発見された遺構と出土遺物について、面ごと(第1～4面)に説明する。

第1節 第1面の遺構と遺物

第1面の遺構は堆積土層の3層上面で検出し、確認面の標高は東端で約24.7m、西端で約24.0mを測る。3層は泥岩粒を微量に含んだ褐色弱粘質土であり、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は近世の畝状遺構3条のみであった(図6)。

出土した遺物は遺構外からかわらけが7点、灯明皿が1点と極めて少ない。遺物から本面の詳細な年代観を導き出すことは困難であるが、近世の瀬戸・美濃窯産の灯明皿を基準とするならば、大枠として近世に属すると考えられる。

(1) 畝状遺構

第1面では、3条を検出した。調査区中央西寄りに位置しており、溝状の掘り込みが3条並行して調査区外の北側および南側へ延びている。

畝状遺構1(図6)

調査区中央西寄りに位置し、調査区外の南北両側へ続いている。溝状の掘り込み1条とピット列2列が20～30cmほどの間隔を空けて並行して検出され、いずれも耕作に関わる畝状の遺構と判断した。ここでは東側から順にa、b、cとして説明する。

畝状遺構1-aは、現存長約2.60m、最大幅42cm、深さ4～12cmの溝状の掘り込みと、これに連結する小ピットが確認された。また、畝状遺構1-b・1-cは径30cm前後のピットが列状に検出され、掘り返しによる溝底面の凹凸のみがピット状の痕跡として確認されたものと考えられる。畝状遺構1-bは現存長約3.4m、深さ4～15cm、1-cは現存長約3.2m、深さ5～10cmを測る。1-a～cの底面の標高は24.12～24.16mである。

遺物は出土しなかった。

第2節 第2面の遺構と遺物

第2面の遺構は堆積土層の7・8・9・12層の上面で検出され、確認面の標高は約24.0～24.2mを測る。7・8層は泥岩ブロックを多量に含み、9層は泥岩粒と泥岩ブロックを主体とする土層である。第2面の遺構はこれらの層を掘り込んで構築されていた。検出した遺構は土坑4基とピット3基のみで、遺構密度は非常に希薄である(図7)。調査区西側中央付近には規模のやや大きい攪乱が及んでおり、土坑1の一部を壊している。

遺物は主にかわらけ、陶器類が出土している。遺物量が少なく、本面の詳細な時期を特定することは困難であるが、第3面以降、14世紀後葉頃に属すると考えられる。

(1) 土坑

第2面では、4基を検出した。調査区東端部に1基、西部に3基が位置し、東端部の土坑3を除く3基は調査区外へと延びており、全容を把握することができなかった。平面形は隅丸長方形や楕円形、不整楕円形を呈し、規模は長軸1.18～1.24m、深さ20～85cmとばらつきがある。

土坑1(図8)

調査区の西壁中央付近に位置し、北側が攪乱によって失われ西側は調査区外へと延びている。他の遺構と重複することなく単独で検出された。検出範囲から平面形を推定すると、楕円形ないし円形を呈すると考えられるが判然としない。底面はほぼ水平で、壁は湾曲して開いて立ち上がり、断面形は逆台形状と考えられる。規模は東西現存長1.03m、南北現存長63cm、深さ20cmで、坑底面の標高は23.58mを測る。主軸方位は判然としない。覆土は10～15cmの泥岩ブロックを多量に含み、炭化物粒を中量含む暗褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ1点が出土した。

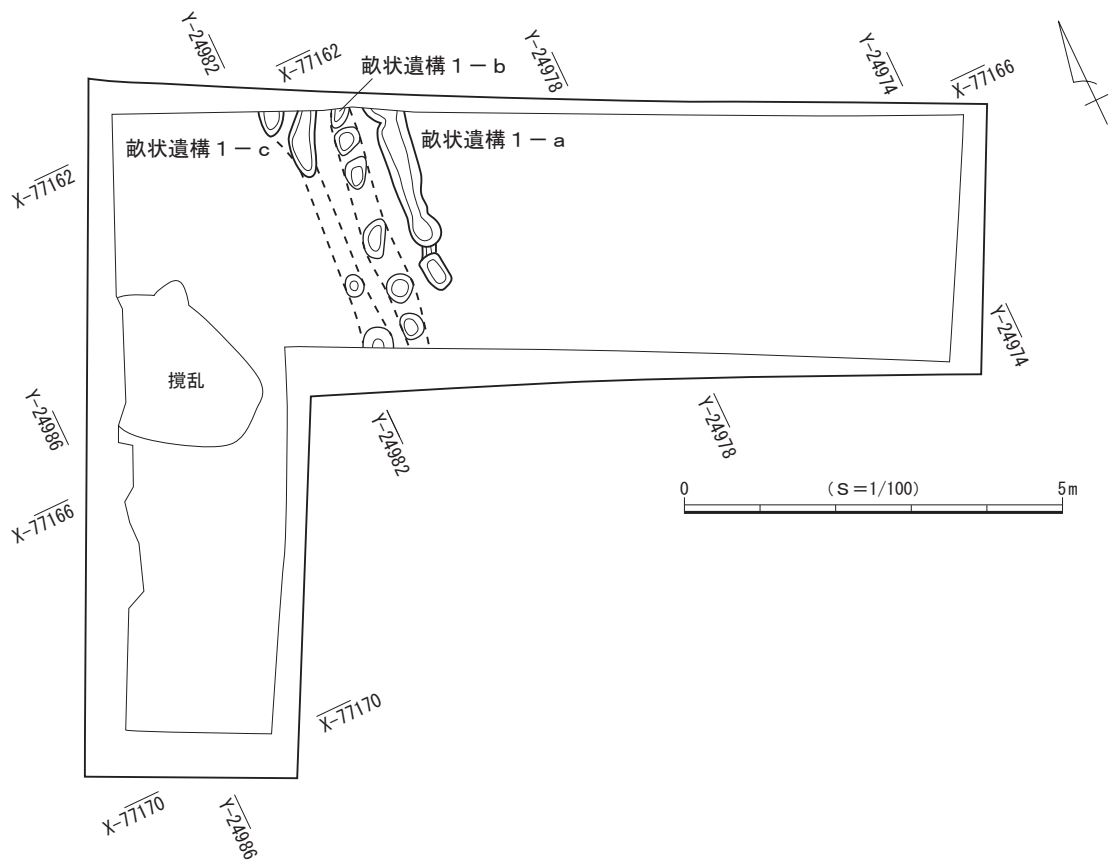


図6 第1面 遺構分布図

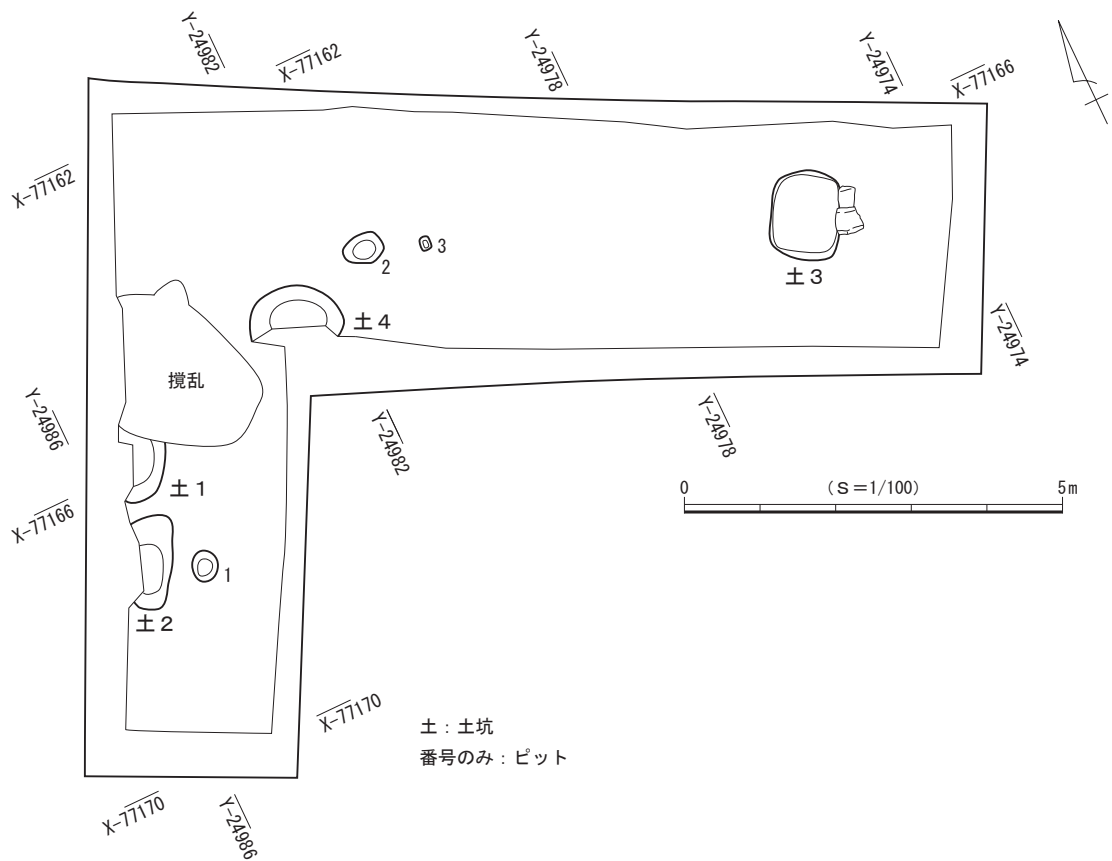


図7 第2面 遺構分布図

土坑2 (図8)

調査区の西壁中央南寄りに位置し、西側が調査区外へと延びている。他の遺構と重複することなく単独で検出された。検出範囲から平面形を推定すると、不整楕円形を呈すると考えられるが判然としない。底面は緩やかに湾曲し、壁は開いて立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は長軸1.24m、短軸現存長56cm、深さ34cmで、坑底面の標高は23.38mを測る。主軸方位はN-61°-Wを指す。覆土は2~5cmの泥岩ブロックを多量に含み、炭化物粒を中量含む暗褐色弱粘質土である。

遺物はかわらけ2点が出土した。

土坑3 (図8)

調査区の東端部付近に位置し、他の遺構と重複することなく単独で検出された。平面形は隅丸長方形を呈し、底面はほぼ水平である。壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は箱形を呈する。東壁は長さ30cm前後、厚さ10cmほどを測る泥岩の側面に沿って作られている。規模は長軸1.18m、短軸93cm、深さ31cmで、坑底面の標高は23.55mを測る。主軸方位はN-32°-Eを指す。覆土は40cmほどの泥岩ブロックを含み、炭化物粒を中量含む暗褐色土である。

遺物はかわらけ3点が出土した。

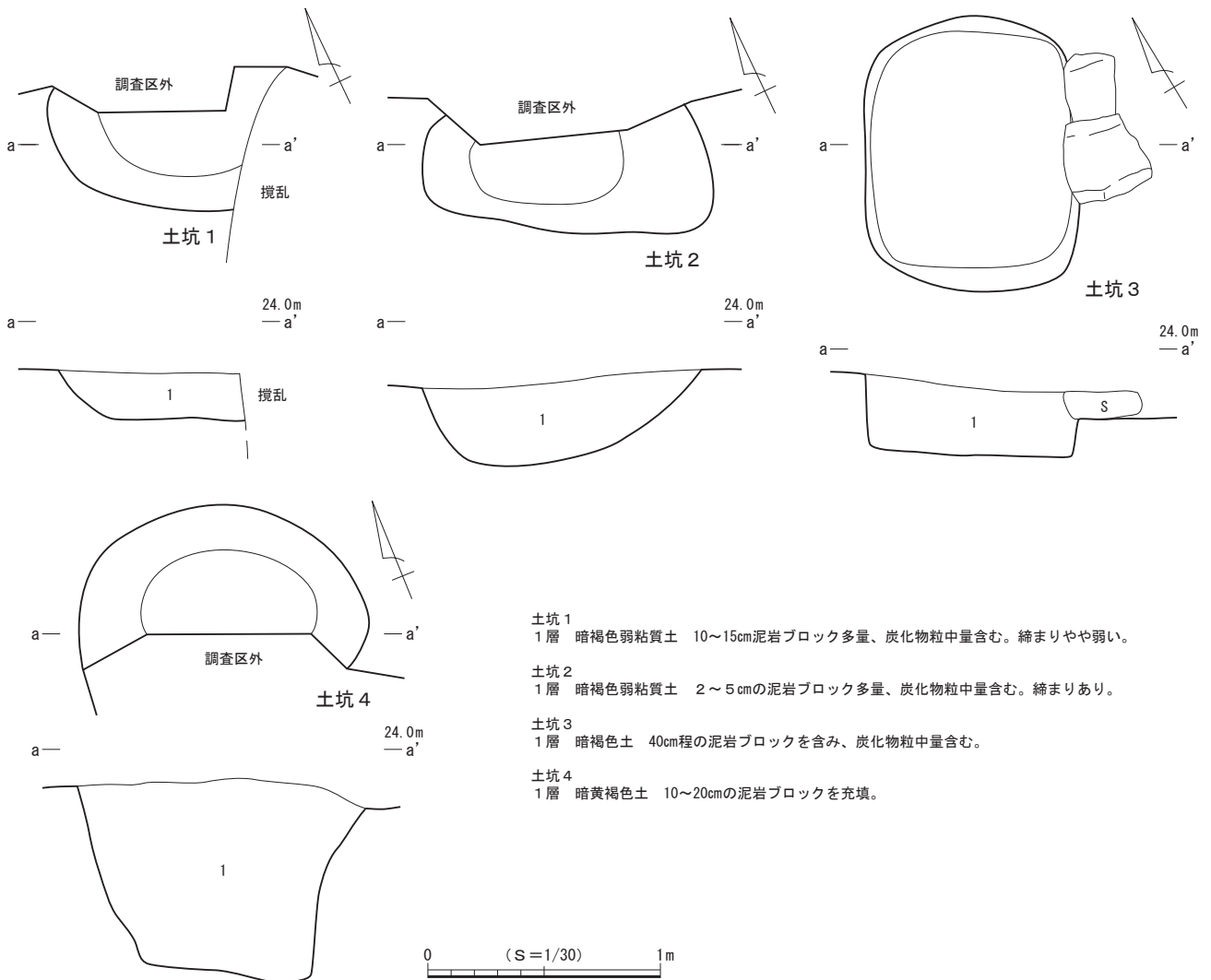


図8 第2面 土坑1~4

土坑4 (図8)

調査区の西側中央やや北に位置し、南側の約半分は調査区外へと延びている。他の遺構と重複することなく単独で検出された。検出範囲から平面形を推定すると、楕円形を呈すると考えられ、底面はわずかな凹凸を有する。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形状を呈する。規模は長軸1.23m、短軸現存長55cm、深さ85cmで、坑底面の標高は23.01mを測る。主軸方位はN-68°-Wを指す。覆土は10~20cmの泥岩ブロックを含む暗黄褐色土である。

遺物はかわらけ2点が出土した。

(2)ピット (図7)

第2面では、3基を検出した。東西方向に延びる調査区部分の中央西寄りに2基、南北に延びる調査区部分の中央南寄りに1基を確認した。礎石や礎板を伴うピットはなく、建物などの施設を構成する規則的な配置は認められなかった。ピットの平面形は略楕円形を呈し、規模は径18~52cm、深さ11~18cmを測る。

各ピットから遺物は出土しなかった。

(3)遺構外出土遺物 (図9)

第2面では、遺構以外からも遺物が出土し、このうち9点を図示した。

1~9はロクロ成形によるかわらけである。

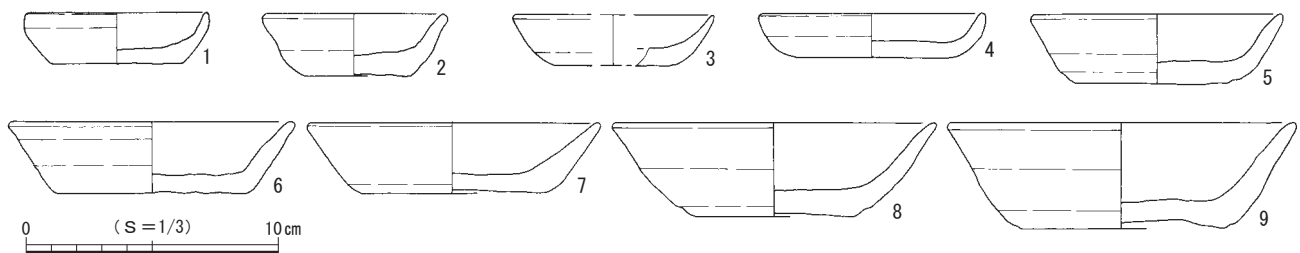


図9 第2面 遺構外出土遺物

第3節 第3面の遺構と遺物

第3面の遺構は堆積土層の19層上面で検出され、確認面の標高は約23.6mを測る。19層は泥岩粒を多量に含む淡褐色弱粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は土塁状遺構1基、石列1列、土坑7基、ピット7基で、調査区全体に散漫な状態で分布する(図10)。調査区西側中央付近には規模のやや大きい攪乱が及んでおり、土塁状遺構1の一部を壊している。

遺物は主にかわらけ、陶器類などが出土しており、これらの年代観から本面は14世紀中葉~後葉頃に属すると考えられる。

(1)土塁状遺構

第3面では、1基を検出した。調査区北西隅に位置し、調査区外へ延びるため一部の調査にとどまり全容を把握できなかった。

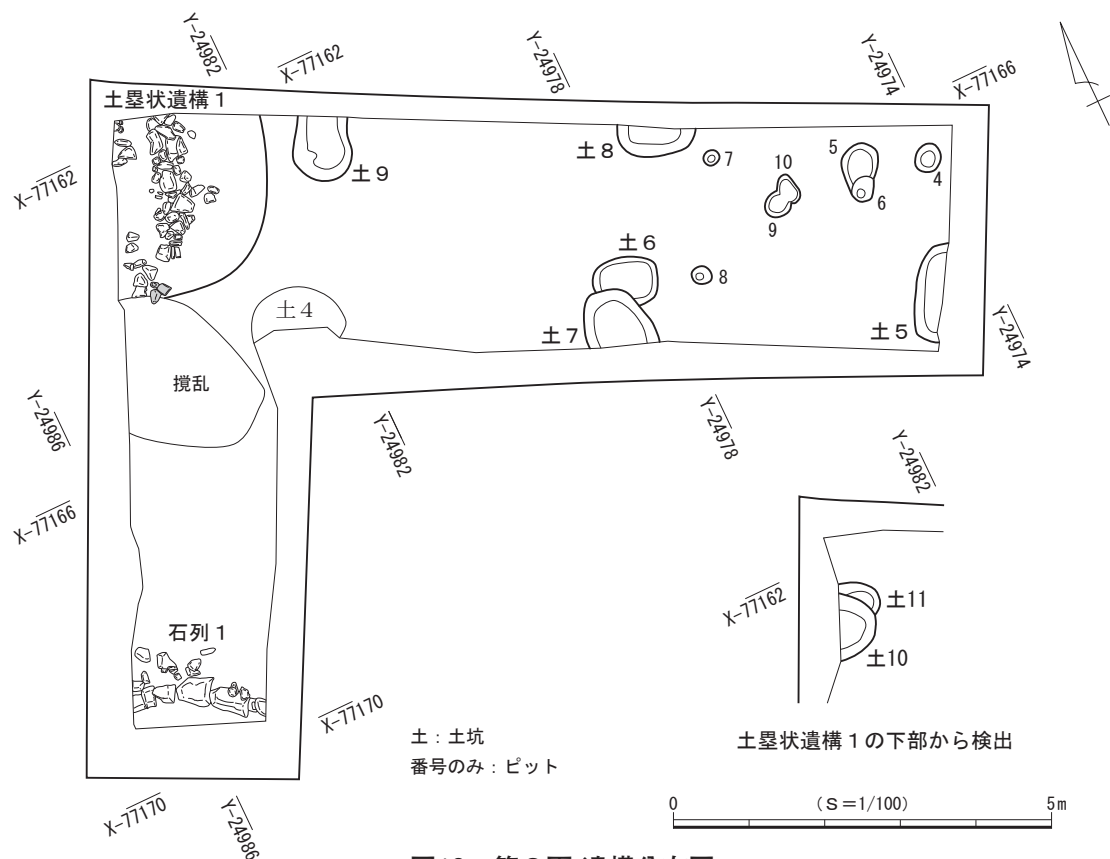


図10 第3面 遺構分布図

土壘状遺構 1 (図11)

調査区北西隅に位置する。調査区外の北側と西側へ延び、南側の一部を攪乱によって壊されているため全容を把握できず、ごく一部分の調査にとどまる。泥岩粒と泥岩ブロックを多量に含む土を土壘状に盛り土した遺構で、最上面には5~20cm大の泥岩ブロックが集積されていた。盛り土の下端のプランは弧状を呈し、規模は長軸現存長2.38m、短軸現存長2.03m、高さは最大で約50cmを測る。標高は最下部で23.6m、最上部で24.1mを測る。検出範囲から推定される主軸方位は、N-24°-Eと考えられる。盛り土は4層に分層され、大きくは1・2層の暗黄褐色土と3・4層の黒褐色弱粘質土に分けられる。

遺物はかわらけ2点が出土した。

- 1層 暗黄褐色土 泥岩粒多量、5~20cmの泥岩ブロック充填。
- 2層 暗黄褐色土 泥岩粒・3~5cmの泥岩ブロックを多量に含む。
- 3層 黒褐色弱粘質土 泥岩粒・3~5cmの泥岩ブロック・黒色土を多量に含む。締め強い。
- 4層 黒褐色弱粘質土 泥岩粒・3~5cmの泥岩ブロック・黒色土を多量に含む。

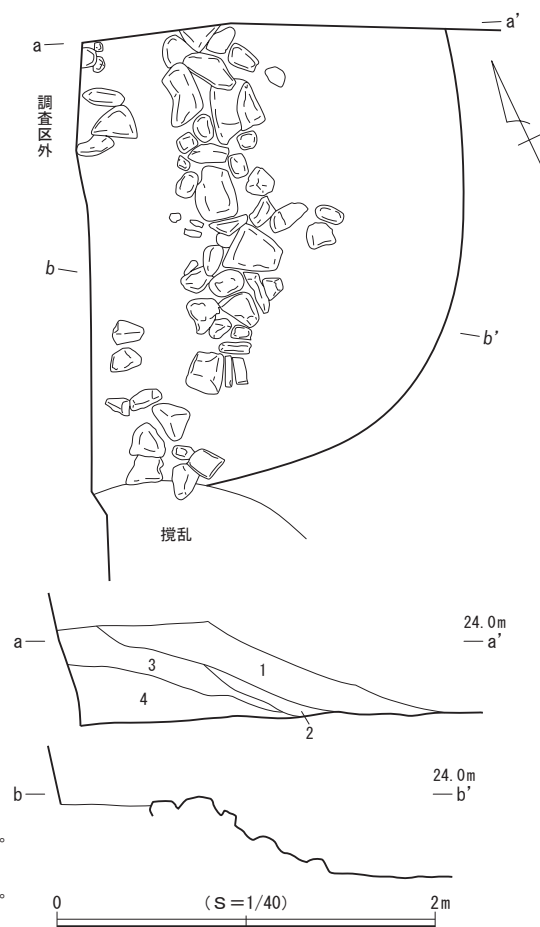


図11 第3面 土壘状遺構 1

(2) 石 列

第3面では、1列を検出した。調査区南端部に位置し、両端が調査区外の東西方向へ延びており、ごく一部を調査したにとどまる。

石列1 (図12)

調査区南端に位置する。両端部が調査区外の東西方向へ延びており、全容を把握することができなかった。泥岩の角礫を緩やかな弧状に配置し、礫上面はほぼ水平となる。礫が分布する範囲の規模は現存長1.77m、幅20~80cmを測る。主軸方位はN-62°-Wを指す。泥岩の大きさは長さ8~52cm、幅5~37cm、厚さ6~18cm、礫上面の標高は23.52~23.62mを測る。

遺物は出土しなかった。

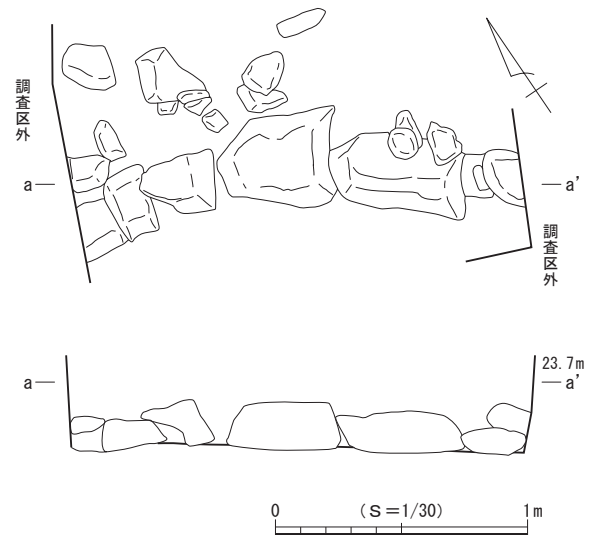


図12 第3面 石列1

(3) 土 坑

第3面では、7基を検出した。すべて東西に帯状に延びる調査区北側に位置し、調査区外へ及ぶものが多い。また他の遺構に壊されているものもあり、いずれも部分的な調査にとどまる。調査範囲から推定すると平面形は楕円形を基調とし、規模が判明したものは少ないが、長軸0.85~1.31m、深さ8~39cmを測る。なお、調査区北西隅に位置する土坑10・11は、ともに土塁状遺構1の下部で確認されている。

土坑5 (図13)

調査区東壁際に位置し、他の遺構と重複せずに単独で確認した。全体の半分以上が調査区外の東側へ延びており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると隅丸長方形ないし楕円形と考えられ、底面は緩やかに湾曲する。壁は開いて立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は長軸1.31m、短軸現存長36cm、深さ39cmで、坑底面の標高は23.22mを測る。主軸方位はN-30°-Eを指す。覆土は2層に分層され、1・2層とも泥岩粒と泥岩ブロックを含む淡褐色弱粘質土で、2層は締まりが弱い。

遺物はかわらけ7点、陶器1点が出土した。

土坑6 (図13)

調査区中央やや東側に位置し、土坑7と重複して南西側を壊されている。現存範囲から平面形を推定すると東側が直線的な楕円形と考えられ、底面はほぼ水平である。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸85cm、短軸現存長65cm、深さ8cmで、坑底面の標高は23.38mを測る。主軸方位はN-68°-Wを指す。覆土は炭化物粒と泥岩粒、黒褐色土を含む暗褐色土である。

遺物はかわらけ5点が出土した。

土坑7 (図13)

調査区南壁際の中央東寄りに位置する。北東側で土坑6と重複して壊しており、本址の方が時期的に新しい。南側が調査区外へ延びており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕

円形と考えられ、底面は緩やかに湾曲する。壁は開いて立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は長軸現存長94cm、短軸89cm、深さ26cmで、坑底面の標高は23.22mを測る。主軸方位は真北を指すと考えられる。覆土は泥岩粒と炭化物粒、黒褐色土を含む暗褐色土である。

遺物はかわらけ4点が出土した。

土坑8 (図13)

調査区北壁際の中央やや東寄りに位置し、他の遺構と重複せずに単独で確認した。全体の半分以上が調査区外の北側へ延びており、全容を把握できなかつた。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面はわずかな凹凸をもつ。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は

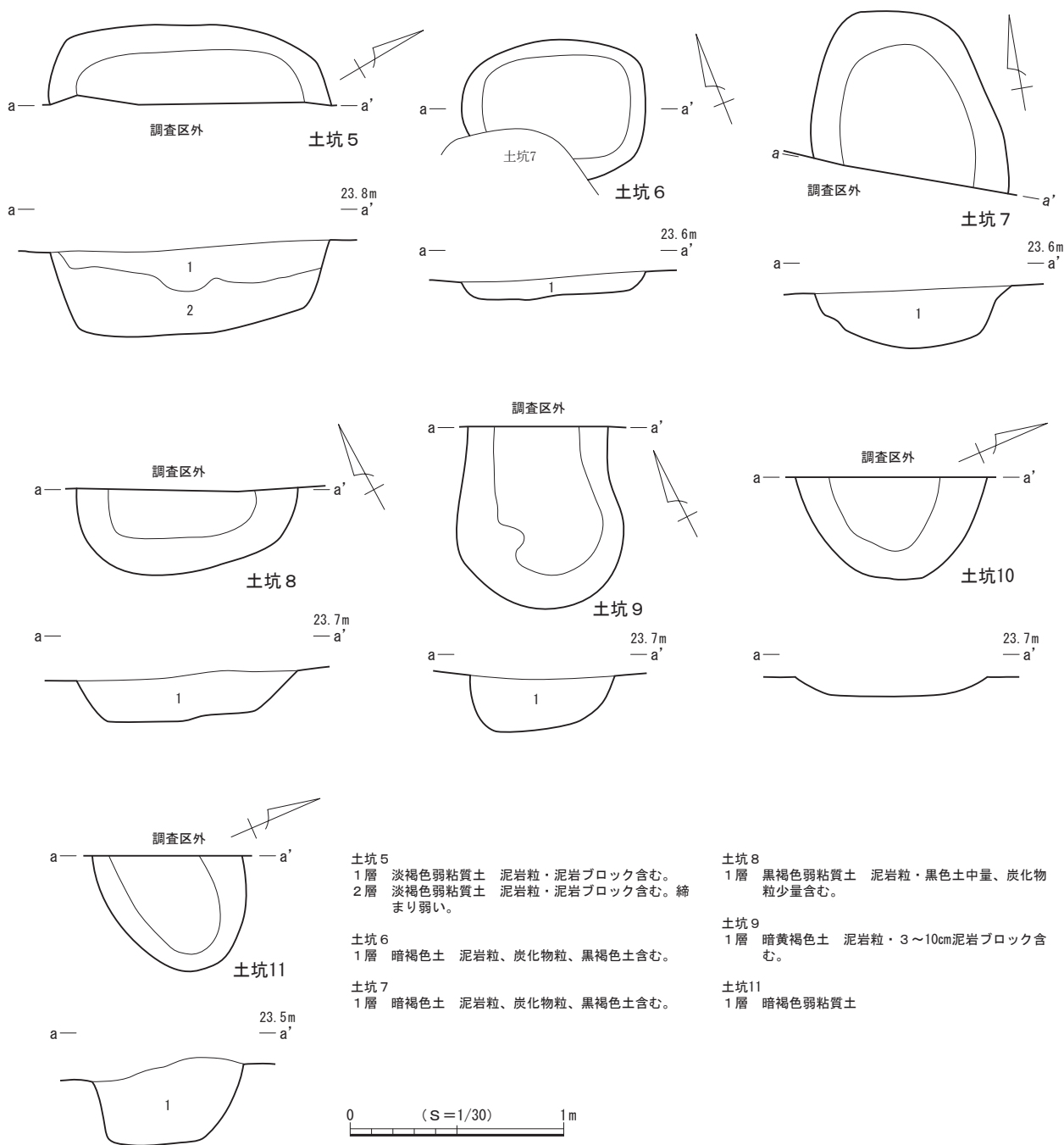


図13 第3面 土坑5~11

長軸1.03m、短軸現存長39cm、深さ19cmで、坑底面の標高は23.30mを測る。主軸方位はN-61°-Wを指すと考えられる。覆土は泥岩粒と黒色土を中量、炭化物粒を少量含む黒褐色弱粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑9 (図13)

調査区北壁際の西寄りに位置し、他の遺構と重複せずに単独で確認した。調査区外の北側へ延びており、全容を把握できなかつた。調査範囲から平面形を推定すると略楕円形を呈すると考えられ、底面は西側がわずかに低く傾斜している。壁は緩やかに湾曲しながら開いて立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は長軸現存長84cm、短軸77cm、深さ25cmで、坑底面の標高は23.35mを測る。主軸方位はN-26°-Eを指すと考えられる。覆土は泥岩粒と3~10cm大の泥岩ブロックを含む暗黄褐色土である。

遺物は出土しなかった。

土坑10 (図13)

調査区北西隅に位置する。土坑11と重複する位置で検出し、確認面が本址の方が高いことから時期的に新しいと考えられる。全体の半分以上が調査区外の西側へ延びるため全容を把握できず、平面形や主軸方位は判然としない。底面は平坦で壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は南北現存長90cm、東西現存長46cm、深さ8cmで、坑底面の標高は23.51mを測る。

遺物は出土しなかった。

土坑11 (図13)

調査区北西隅に位置する。土坑10と重複する位置で検出したが、確認面が層位的には下位であり時期的に古い。一部が調査区外の西側へ延びており、全容を把握できなかつた。検出範囲から平面形を推定すると楕円形と考えられ、底面はほぼ平坦である。壁は北側が大きく開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長73cm、短軸現存長65cm、深さ38cmで、坑底面の標高は22.99mを測る。主軸方位はN-80°-Eを指すと考えられる。覆土は暗褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図14)

遺物はかわらけ4点、陶器2点が出土し、このうち2点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。2は瀬戸窯産の卸皿である。



図14 第3面 土坑11出土遺物

(4) ピット (図10)

第3面では、7基を検出した。すべて調査区東半部にまとまって位置するが、礎石や礎板を伴うピットはなく、建物などの施設を構成する規則的な配置は認められなかつた。ピットの平面形は円形あるいは楕円形で、規模は径18~38cm、深さ6~16cmを測る。

ピット5からのみ遺物が出土した。詳細は出土遺物一覧表(表6)を参照されたい。

(5) 遺構外出土遺物 (図15)

第3面では、遺構以外からも遺物が出土し、このうち18点を図示した。

1は白かわらけ、2～8はロクロ成形によるかわらけである。5・7には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。9は瀬戸窯産の折縁深皿、10は常滑窯産の甕、11は常滑窯産の甕を転用した摩耗陶片である。12は備前窯産の播鉢、13は山茶碗窯系の片口鉢である。14・15は瓦質土器の火鉢である。16は平瓦である。17は用途不明の角製品、18は銭貨で、大観通寶(北宋・1107)である。

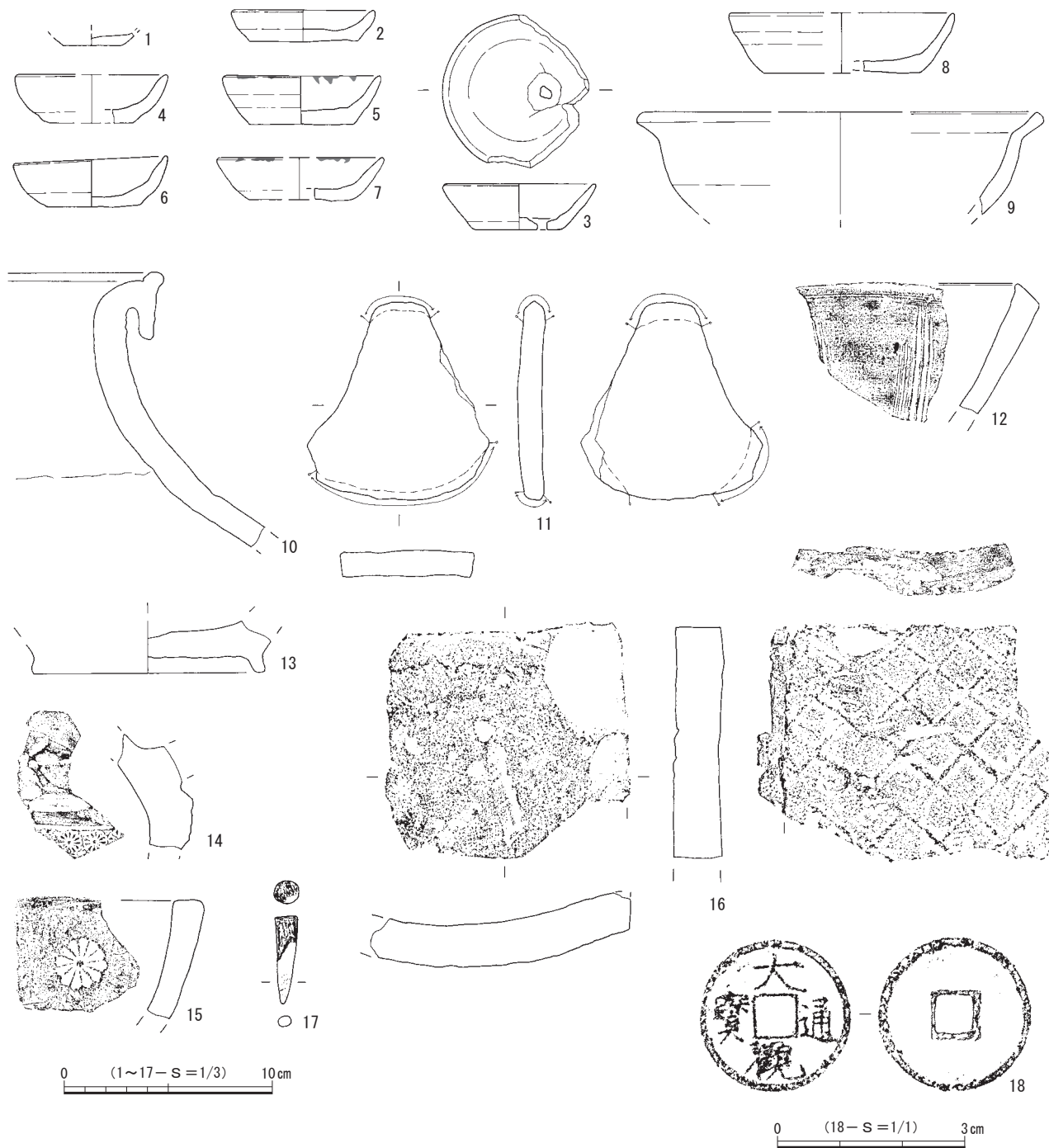


図15 第3面 遺構外出土遺物

第4節 第4面の遺構と遺物

第4面は土置きとの関係と安全対策のため、南北方向へ帯状に延びる調査区部分の南半を土置き場とし、東西方向の帯状部分を中心に調査を行った。

第4面の遺構は堆積土層の24層上面で検出され、確認面の標高は約22.9～23.0mを測る。24層は泥岩粒を含む締まりの強い土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は土坑12基、ピット8基である(図16)。これらの遺構は調査区全体から検出されたが、東半部に多く分布していた。なお、円礫と角礫を用いた礎石が調査区南壁の近くから2基確認された。調査区の制約から建物配置を捉えることができなかったが、調査区外へ展開する礎石建物の一部であった可能性が考えられる。

遺物は主にかわらけ、陶器類、瓦類などが出土しており、これらの年代観から本面は14世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

(1) 土坑

第4面では、12基を検出した。調査区東半に9基がまとまり、このうち土坑12～17の6基が調査区北壁際に並んで位置する。これらの中には深さが50cmに及ぶものも認められ、周辺からは礎石と考えられる礫も検出されていることから、建物を構成するピットである可能性も考えられる。調査区外へ延びるものが半数を超えており、それらについては全容を把握できなかった。形態の明らかな土坑は平面形が円形あるいは楕円形を呈し、規模は長軸0.62～1.10m、深さ13～60cmと幅がある。

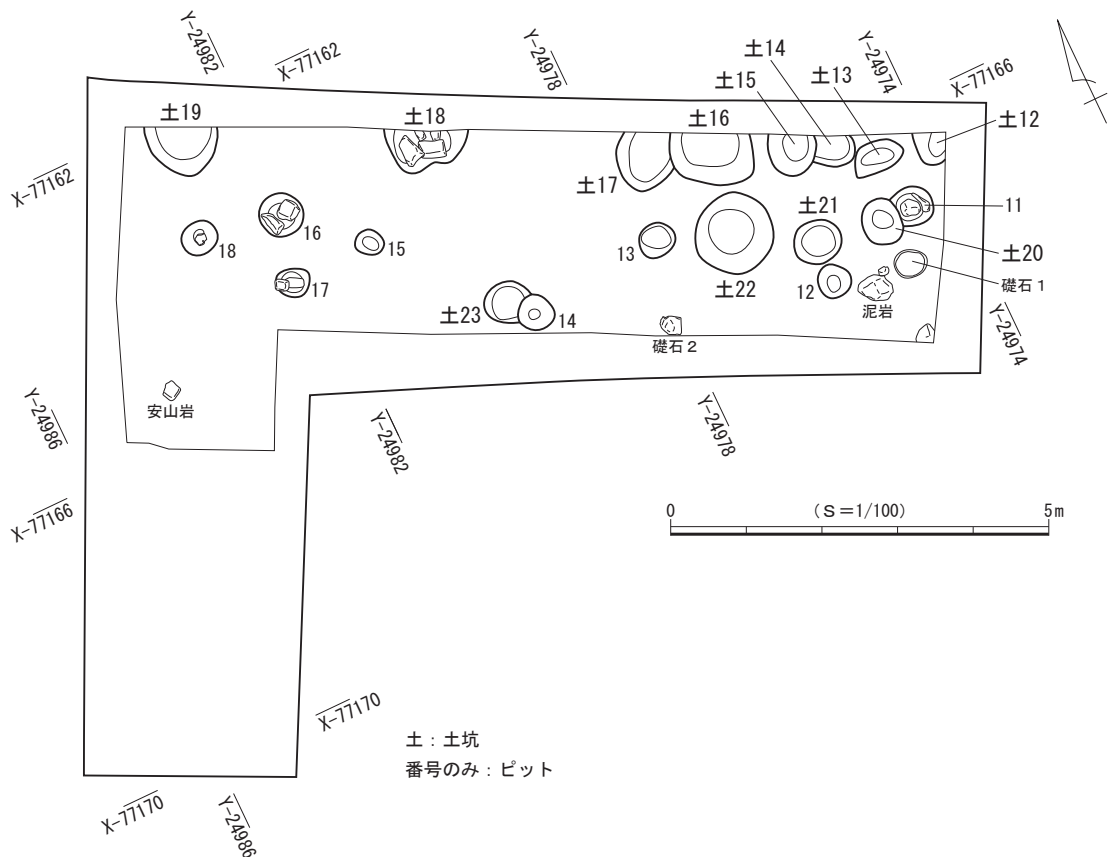


図16 第4面 遺構分布図

土坑12 (図20)

調査区北東隅に位置し、他の遺構と重複せずに単独で確認した。全体の半分以上が調査区外の東側へ延びるため全容を把握できず、平面形や主軸方位は判然としない。底面は平坦であり、壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形状を呈する。規模は南北現存長43cm、東西現存長42cm、深さ58cmと深く、坑底面の標高は22.50mを測る。覆土は2層に分層され、1層は小泥岩ブロックと炭化物粒、かわらけ粒を含む淡褐色弱粘質土、2層は泥岩粒と小泥岩ブロックを含む淡褐色弱粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑13 (図20)

調査区北東隅に位置し、他の遺構と重複せずに単独で確認した。平面形は西側の隅が鋭角を呈する不整楕円形で、底面は平坦である。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸70cm、短軸40cm、深さ15cmで、坑底面の標高は22.94mを測る。主軸方位はN-87°-Wを指す。覆土は泥岩ブロックを中量、炭化物粒を多量に含む淡褐色弱粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑14 (図20)

調査区北壁際の東寄りに位置し、西側で土坑15と重複して一部を壊されている。また、調査区外の北側へ延びており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると楕円形を呈すると考えられ、底面は湾曲して中央付近が窪んでいる。壁は開いて立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は長軸現存長58cm、短軸現存長44cm、深さ16cmで、坑底面の標高は22.96mを測る。主軸方位はN-45°-Wを指すと考えられる。覆土は泥岩ブロックを含む淡褐色土である。

出土遺物 (図17)

遺物はかわらけ7点、瓦2点が出土し、このうち3点を図示した。

1はロクロ成形によるかわらけである。2・3は平瓦である。

土坑15 (図20)

調査区北壁際の東寄りに位置し、東側で土坑14と重複して一部を壊している。また、調査区外の北側へ延びており、全容を把握できなかった。調査範囲から平面形を推定すると略円形を呈すると考えられ、底面は西側が低く傾斜している。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形状を呈する。規模は長軸63cm、短軸現存長56cm、深さ45cmで、坑底面の標高は22.64mを測る。覆土は淡褐色弱粘質土で含有物によって2層に分層され、1層は小泥岩ブロックと炭化物粒、かわらけ片を含み、2層は泥岩粒と小泥岩ブロックを含んでいる。

出土遺物 (図18)

遺物はかわらけ3点、瓦1点が出土し、このうち1点を図示した。

1は平瓦である。

土坑16 (図20)

調査区北壁際の東寄りに位置し、西側で土坑17と重複して東壁の一部を壊している。また、調査区外の北側へ延びており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形を呈すると

考えられ、底面はほぼ平坦である。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.08m、短軸現存長66cm、深さ49cmで、坑底面の標高は22.58mを測る。主軸方位はN-64°-Wを指すと考えられる。覆土は淡褐色弱粘質土を基調とし含有物により3層に区分され、1層は泥岩ブロックと炭化物、かわらけ粒を中量、2層は泥岩粒と小泥岩ブロック、3層は泥岩粒と小泥岩ブロック、炭化物粒、かわらけ粒を含む淡褐色弱粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑17 (図20)

調査区北壁際の中央やや東に位置し、東側で土坑16と重複して東壁の一部を壊されている。また、調査区外の北側へ延びており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形を呈すると考えられ、底面はほぼ平坦である。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は皿状を呈する。規模は長軸現存長86cm、短軸79cm、深さ13cmで、坑底面の標高は22.94mを測る。主軸方位はN-61°-Eを指すと考えられる。覆土は小泥岩ブロックと炭化物粒、かわらけ片を含む淡褐色弱粘質土である。

出土遺物 (図19)

遺物はかわらけ4点、陶器1点が出土し、このうち1点を図示した。

1は常滑窯産の甕を転用した摩耗陶片である。

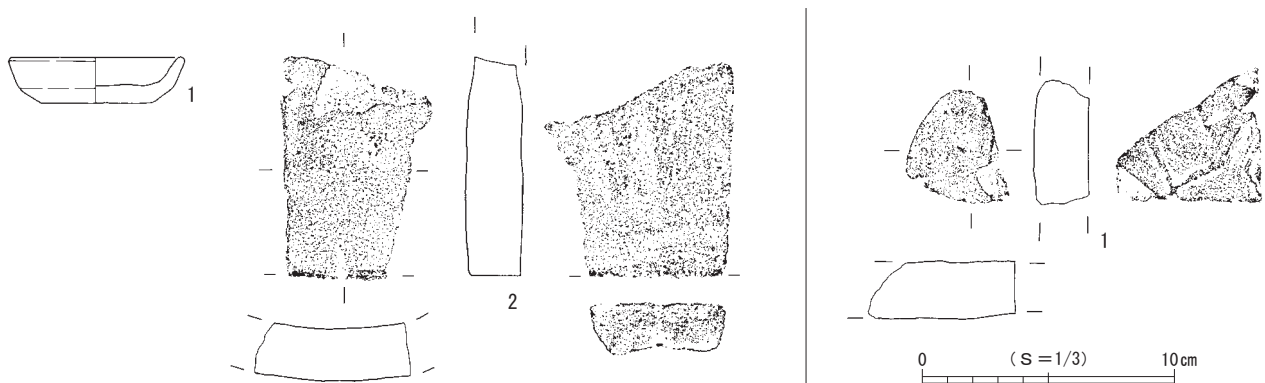


図18 第4面 土坑15出土遺物

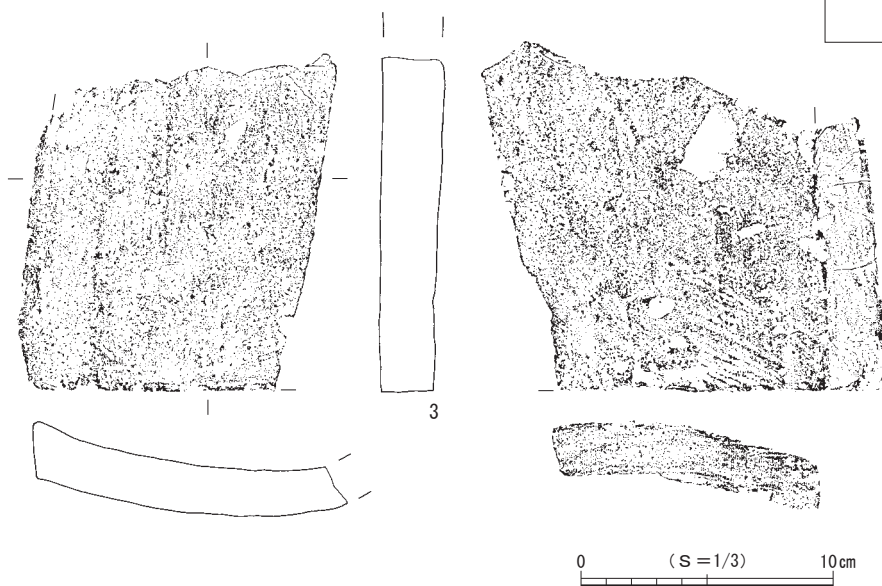


図17 第4面 土坑14出土遺物

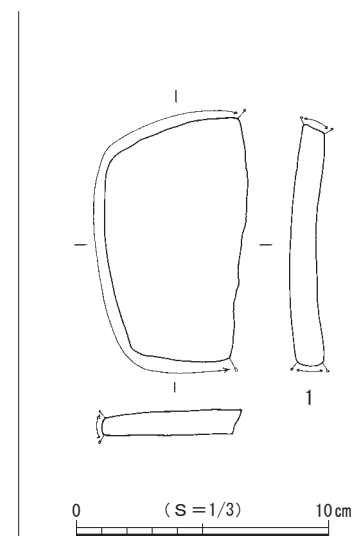


図19 第4面 土坑17出土遺物

土坑18 (図20)

調査区北壁際の西寄りに位置し、他の遺構と重複せずに単独で確認した。調査区外の北側へ延びており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると不整楕円形を呈すると考えられ、底面はわずかに湾曲する。壁は西壁はわずかに開いて立ち上がり、東側は緩やかに湾曲しながら開いて立ち上がる。断面形は逆台形状を呈する。規模は長軸1.10m、短軸現存長56cm、深さ44cmで、坑底面の標高は22.58mを測る。主軸方位はN-82°-Wを指すと考えられる。覆土は淡褐色弱粘質土を基調とし含有物により2層に分層され、1層は小泥岩ブロックと炭化物粒、かわらけ粒を含み、2層は泥岩粒と小泥岩ブロックを含んでいる。また、覆土上層からは長さ15~30cm大の角礫4点が出土した。

遺物は出土しなかった。

土坑19 (図20)

調査区北壁際の西端部に位置し、他の遺構と重複せずに単独で確認した。調査区外の北側へ延びており、全容を把握できなかった。検出範囲から平面形を推定すると略楕円形を呈すると考えられ、底面は東側がわずかに低く傾斜している。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸現存長91cm、短軸現存長64cm、深さ30cmで、坑底面の標高は22.72mを測る。主軸方位はN-9°-Eを指すと考えられる。覆土は泥岩粒と小泥岩ブロック、炭化物粒、かわらけ粒を含む淡褐色弱粘質土である。

遺物は出土しなかった。

土坑20 (図20)

調査区西壁近くに位置し、ピット11と重複し西壁の一部を壊している。平面形は略楕円形を呈し、底面は湾曲して中央が窪んでいる。壁は開いて立ち上がり、断面形はU字状を呈する。規模は長軸62cm、短軸50cm、深さ43cmで、坑底面の標高は22.65mを測る。主軸方位はN-5°-Eを指す。

遺物は出土しなかった。

土坑21 (図20)

調査区の西側に位置し、他の遺構と重複せずに単独で確認した。平面形は円形を呈し、底面はほぼ平坦である。壁はわずかに開いて立ち上がり、断面形は箱形を呈する。規模は長軸62cm、短軸56cm、深さ60cmと深く、坑底面の標高は22.46mを測る。

遺物は出土しなかった。

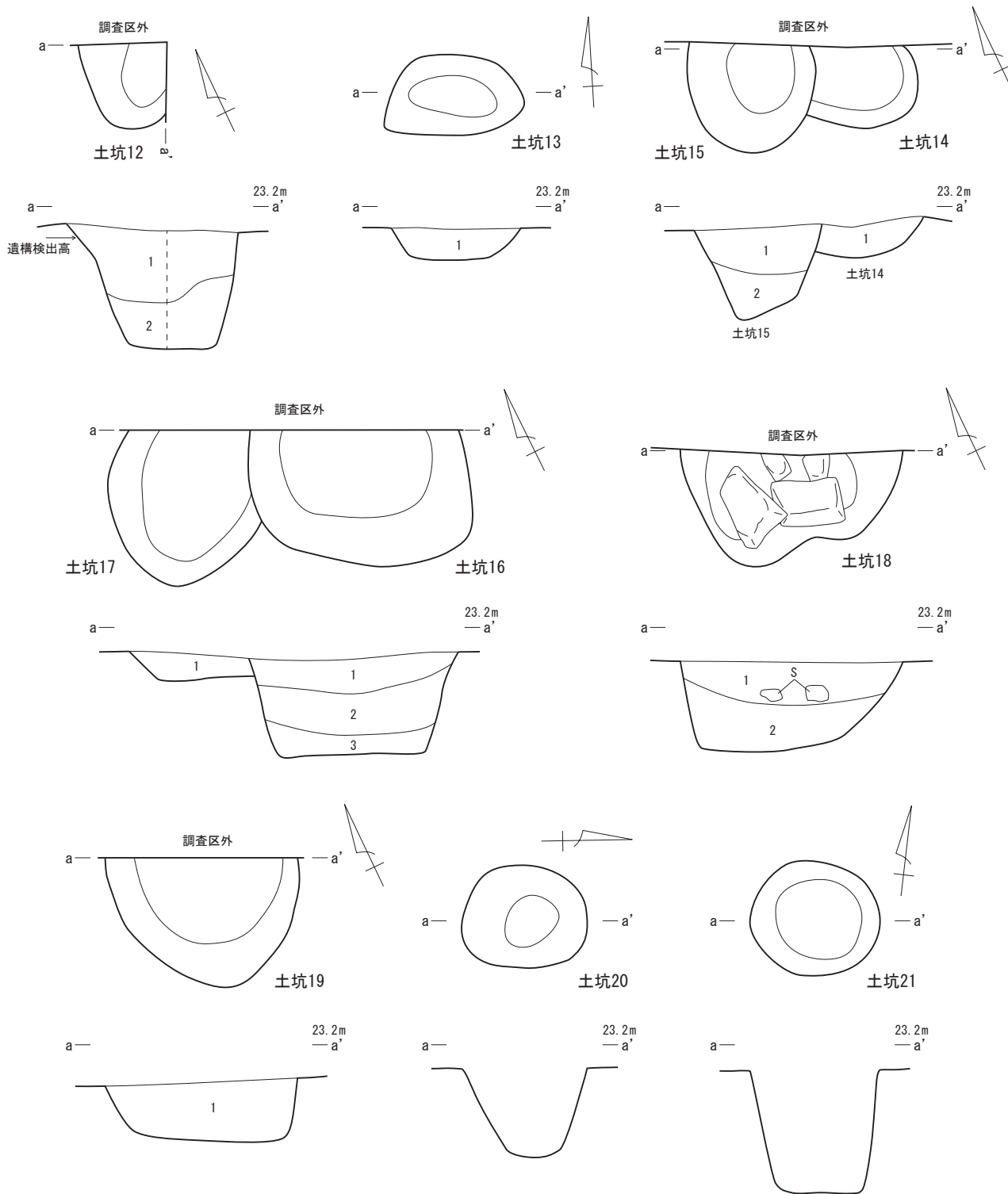
土坑22 (図21)

調査区の西側に位置し、他の遺構と重複せずに単独で確認した。平面形は円形を呈し、底面はほぼ平坦である。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。規模は長軸1.06m、短軸1.00m、深さ36cmで、坑底面の標高は22.69mを測る。覆土は泥岩ブロックを含む淡褐色土である。

遺物は出土しなかった。

土坑23 (図21)

調査区中央付近に位置し、ピット14と重複し南東壁を壊されている。現存範囲から推定すると平面形は略円形を呈すると考えられ、底面はほぼ平坦である。壁は開いて立ち上がり、断面形は逆台形状を呈



土坑12
 1層 淡褐色弱粘質土 小泥岩ブロック、炭化物粒、かわらけ粒含む。
 2層 淡褐色弱粘質土 泥岩粒、小泥岩ブロック含む。

土坑13
 1層 淡褐色弱粘質土 泥岩ブロック中量、炭化物粒多量に含む。

土坑14
 1層 淡褐色土 泥岩ブロックを含み、橙褐色味を帯びる。

土坑15
 1層 淡褐色弱粘質土 小泥岩ブロック、炭化物粒、かわらけ片含む。
 2層 淡褐色弱粘質土 泥岩粒、小泥岩ブロック含む。

土坑16
 1層 淡褐色弱粘質土 泥岩ブロック・炭化物・かわらけ粒中量含む。締まり硬い。
 2層 淡褐色弱粘質土 泥岩粒、小泥岩ブロック含む。
 3層 淡褐色弱粘質土 泥岩粒、小泥岩ブロック、炭化物粒、かわらけ粒含む。

土坑17
 1層 淡褐色弱粘質土 小泥岩ブロック、炭化物粒、かわらけ片含む。

土坑18
 1層 淡褐色弱粘質土 小泥岩ブロック、炭化物粒、かわらけ粒含む。
 2層 淡褐色弱粘質土 泥岩粒、小泥岩ブロック含む。

土坑19
 1層 淡褐色弱粘質土 泥岩粒、小泥岩ブロック、炭化物粒、かわらけ粒含む。

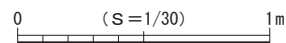


図20 第4面 土坑12~21

する。規模は長軸現存長62cm、短軸54cm、深さ13cmで、坑底面の標高は22.92mを測る。主軸方位はN-76°-Wを指す。覆土は泥岩ブロックを含む淡褐色土である。

遺物は出土しなかった。

(2) ピット (図16)

第4面では、8基を検出した。調査区全体に分布が認められるが密度は疎らで、調査範囲内においては建物などの施設を構成する規則的な配置は確認されなかった。平面形は円形と楕円形を基調とし、規模は径36~57cm、深さ4~51cmで、特に深さにばらつきがある。

各ピットから遺物は出土しなかった。

以下、礎石が据えられたピット4基を図示し、説明する。

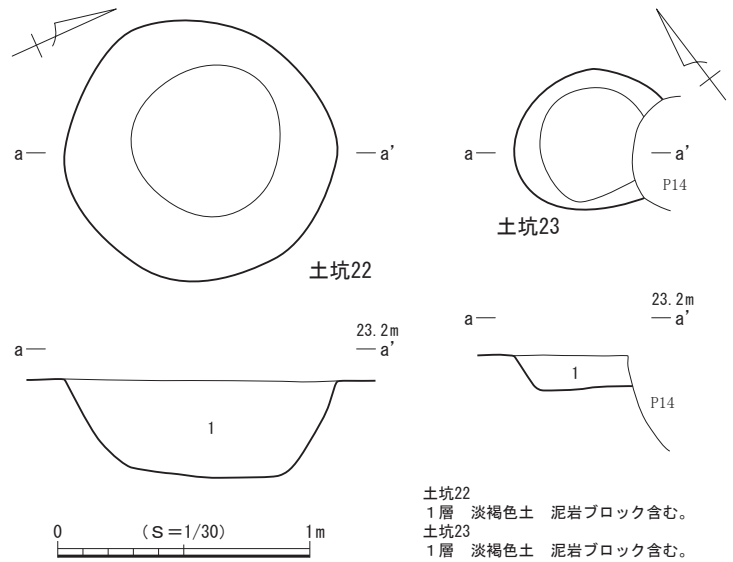


図21 第4面 土坑22・23

ピット11 (図22)

調査区東壁近際に位置し、土坑20と重複して西壁を壊されている。現存範囲から推定すると平面形は円形と考えられ、断面形は皿状を呈する。規模は長軸現存長58cm、短軸49cm、深さ16cmを測り、礎石はピット中央の底面直上に据えられその東側にも細長い礎石が検出された。礎石の大きさは長さ26cm、幅21cm、高さ11cmを測り、上面の標高は23.12mである。

ピット16 (図22)

調査区西側に位置し、他の遺構と重複せずに単独で検出した。平面形は円形で、断面形は皿状を呈する。規模は径57cm、深さ10cmを測り、礎石はピット中央の東西両側に底面から6cmほど浮いて据えられ

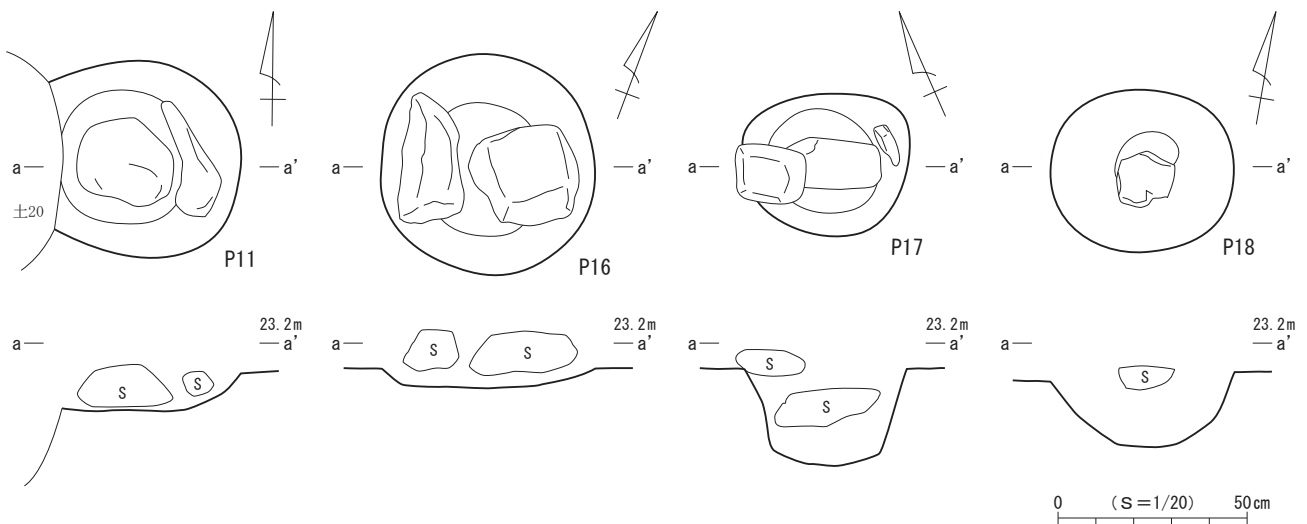


図22 第4面 ピット11・16~18

ている。礎石の大きさは長さ28cmと35cm、幅26cmと17cm、高さ10cmを測り、上面の標高は23.23mである。

ピット17 (図22)

調査区西側に位置し、他の遺構と重複せずに単独で検出した。平面形は略円形で、断面形は逆台形状を呈する。規模は径43cm、深さ25cmを測り、礎石はピット中央に底面から10cmほど浮いて据えられている。礎石の大きさは長さ29cm、幅13cm、高さ9cmを測り、上面の標高は23.08mである。

ピット18 (図22)

調査区西側に位置し、他の遺構と重複せずに単独で検出した。平面形は円形で、断面形はU字状を呈する。規模は径48cm、深さ19cmを測り、礎石はピット中央に底面から14cmほど浮いて据えられている。礎石の大きさは長さ幅がそれぞれ15cm、高さ6cmを測り、上面の標高は23.14mである。

(3) 遺構外出土遺物 (図23)

第4面では、遺構以外からも遺物が出土しており、このうち12点を図示した。

1～5はロクロ成形によるかわらけである。2には煤が付着しており、灯明具としての使用が認められる。6は瀬戸窯産の水滴である。7は山茶碗窯系の片口鉢である。8～10は軒丸瓦、11・12は軒平瓦である。

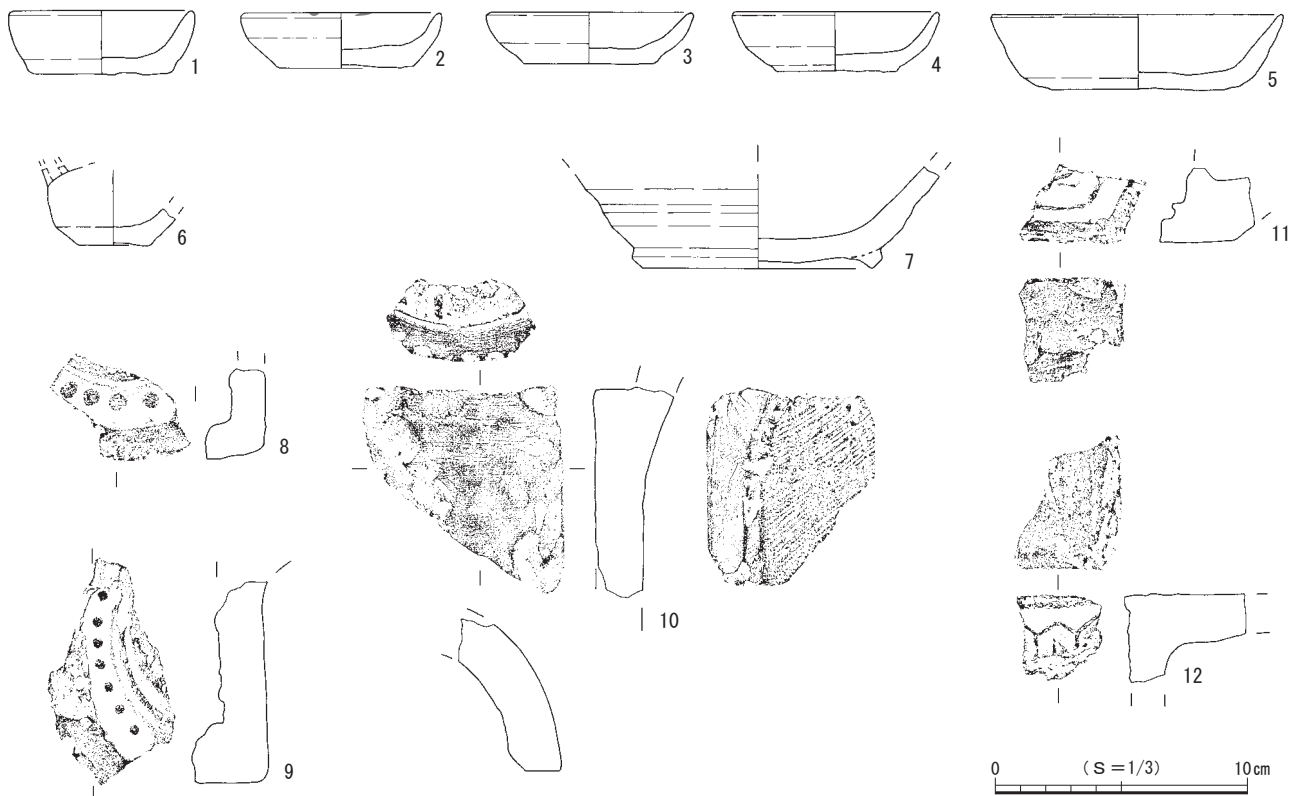


図23 第4面 遺構外出土遺物

第四章 弁ヶ谷遺跡出土の動物遺体

東京国立博物館客員研究員
金子 浩昌

付表1 検出された動物遺体の種名表

軟体動物門 腹足綱 古腹足目 サザエ科 サザエ 新腹足目 アッキガイ科 アカニシ ナガニシ 脊椎動物門 軟骨魚綱 ネズミザメ目 メジロザメ科 メジロザメ類 硬骨魚綱 スズキ目 スズキ科 スズキ タイ科 クロダイ マダイ	鳥綱 ガンガモ目 ガンガモ科 マガン カモ類 ペリカン目 ウ科 ヒメウ 哺乳綱 クジラ目 マイルカ科 イルカ類 ウマ目 ウマ科 ウマ ウシ目 ウシ科 ウシ
--	--

貝類はサザエ、アカニシ、ナガニシの殻柱のみが残る。サザエ、アカニシなどがよく食用にされたことを物語っている。ナガニシは稀であるが食べられている。他の貝に比べれば少ない。もちろん食用となる貝である。

ウマの歯1点は埋葬あるいは解体されたウマの遺体がくずれたか、その一部が混入したのであろう。そのようなウマの遺体が常に近くにあったことも、鎌倉市街地遺跡らしい特徴でもある。ウマはもちろん小型の在来ウマであったろう。

付表2 出土動物遺体一覧

出土遺構	帰属面	層位	種別	部位	左右	計測値(mm)	写真番号	備考
遺構外	第2～3面	下層	サザエ				2	
遺構外	第2～3面	下層	アカニシ				3	
遺構外	第2～3面	下層	ナガニシ				4	
遺構外	第2～3面	東上層	マダイ	前頭骨			7	解体時に削られたと思われる。体長50cm前後と推定される。
遺構外	第2～3面	東上層	マダイ	尾椎骨			9	
遺構外	第2～3面	下層	マダイ	歯骨片	右		5	
遺構外	第2～3面	東上層	魚骨片					2片
遺構外	第2～3面	上層	ヒメウ	上腕骨			13	遠位
遺構外	第2～3面	下層	マガン	上腕骨	右		11	遠位
遺構外	第2～3面	下層	カモ類	上腕骨	右	幅：14.0	12	遠位
遺構外	第2～3面	下層	ウマ	M ¹	左	歯冠高：43.40	16	8才
遺構外	第2～3面	上層	ウシ・ウマ	骨片			17	
土坑5	第3面		サザエ				1	
土坑5	第3面		クロダイ	前上顎骨	右	長さ：33.52	6	体長30cm前後
遺構外	第3面		メジロザメ類	椎骨		径：33.8	14	
遺構外	第3面		イルカ類	尾椎骨		径：37.8	15	
土坑20	第4面		スズキ	角骨		長さ：50.38	10	
ビット12	第4面		マダイ	方骨	右		8	

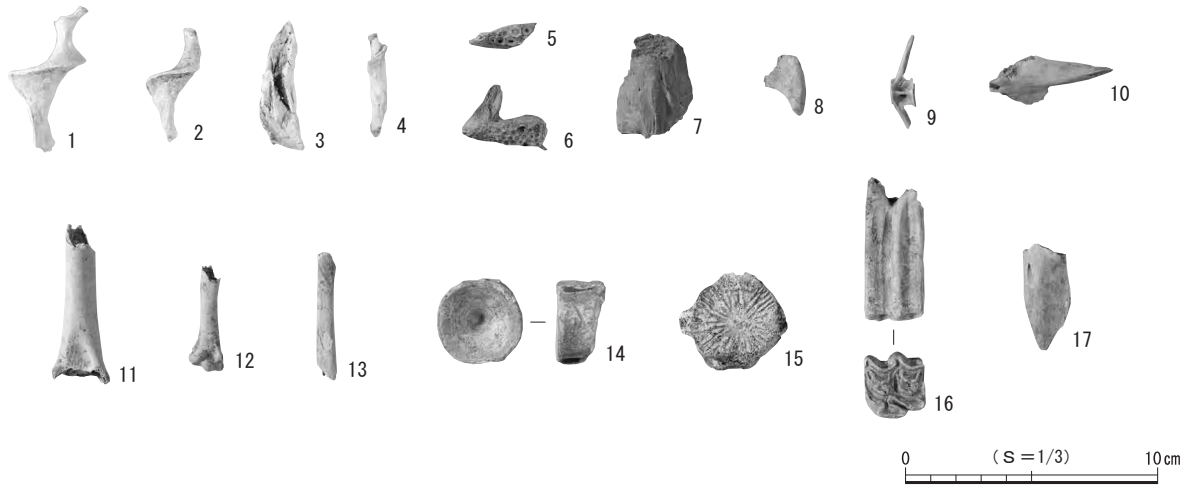


写真1 出土動物遺体

付表3 出土動物遺体写真図版対応表(写真1)

番号	出土遺構	帰属面	種別	部位	左右
1	土坑5	第3面	サザエ		
2	遺構外	第2～3面	サザエ		
3	遺構外	第2～3面	アカニシ		
4	遺構外	第2～3面	ナガニシ		
5	遺構外	第2～3面	マダイ	歯骨片	右
6	土坑5	第3面	クロダイ	前上顎骨	右
7	遺構外	第2～3面	マダイ	前頭骨	
8	ピット12	第4面	マダイ	方骨	右
9	遺構外	第2～3面	マダイ	尾椎骨	
10	土坑20	第4面	スズキ	角骨	
11	遺構外	第2～3面	マガン	上腕骨	右
12	遺構外	第2～3面	カモ類	上腕骨	右
13	遺構外	第2～3面	ヒメウ	上腕骨	
14	遺構外	第3面	メジロザメ類	椎骨	
15	遺構外	第3面	イルカ類	尾椎骨	
16	遺構外	第2～3面	ウマ	M ¹	左
17	遺構外	第2～3面	ウシ・ウマ	骨片	

第五章 まとめ

本調査地点は、「弁ヶ谷」と呼ばれる谷戸の、開口部付近北側にある支谷の中ほどに立地する。支谷開口部からの距離は70mほどで、標高は約25.5mを測る。「弁ヶ谷」は鎌倉市域の南東端部に位置する比較的大きな谷戸で、現在は宅地化が進んでいるものの、かつては支谷に沿って複数の寺院があったと考えられ周囲にはやぐらも数多くみられる(図2)。これまでに弁ヶ谷遺跡の調査は本地点も含めて8カ所で行われており、7地点についてはすでに正式報告がなされている。

今回の調査では、遺構確認面は合計4面にわたり、第4面については土置き場の確保と安全対策のため、L字状を呈する調査区のうち東西方向の帯状部分を中心に調査を行った。検出した遺構は近世以降に属する畝状遺構3条と、中世に属する土塁状遺構1基、石列1列、土坑23基、ピット18基、礎石2基である。出土遺物は遺物収納箱(60×40×14cm)に換算して9箱を数える。

以下、面ごとに検出した遺構と出土遺物について整理し、簡単なまとめとしたい。

〈第1面〉

第1面の遺構は堆積土層の3層上面で検出され、確認面の標高は東端で約24.7m、西端で約24.0mを測る。3層は泥岩粒を微量に含んだ褐色弱粘質土であり、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は近世の畝状遺構3条のみで、後世の削平により遺存状態は悪い。

出土した遺物は遺構外からかわらけが7点、灯明皿が1点と極めて少ない。遺物から本面の詳細な年代観を導き出すことは困難であるが、近世の瀬戸・美濃窯産の灯明皿を基準とするならば、大枠として近世に属すると考えられる。

〈第2面〉

第2面の遺構は堆積土層の7・8・9・12層の上面で検出され、確認面の標高は約24.1~24.2mを測る。7・8層は泥岩ブロックを多量に含み、9層は泥岩粒と泥岩ブロックを主体とする土層である。第2面の遺構はこの層を掘り込んで構築されていた。検出した遺構は土坑4基、ピット3基のみと遺構密度は非常に希薄で、遺構の性格も判然としない。

遺物は主にかわらけ、陶器類が出土している。遺物量が少なく、本面の詳細な時期を特定することは困難であるが、第3面以降、14世紀後葉頃に属すると考えられる。

〈第3面〉

第3面の遺構は堆積土層の19層上面で検出され、確認面の標高は約23.6mを測る。19層は泥岩粒を多量に含む淡褐色弱粘質土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は土塁状遺構1基、石列1列、土坑7基、ピット7基で、調査区全体に散漫な状態で分布する。このうち、土塁状遺構は調査区の北西端部に位置し、調査区外へと広がることから全容を把握できなかったが、調査区南端部で検出された石列と関連をもつ基壇状のものであった可能性が考えられる。ここで近隣の調査地点をみると、本地点の南西200mに位置する材木座六丁目643番3地点では、13世紀末~15世紀代にわたる1~6面の遺構が検出され、3面から凝灰質砂岩の切石による「基壇様の石列」が直角に折れ曲がった部分が確認されている(齋木・降矢 2009)。加えてその西側には基壇状の高まりが認められたことから、調査者は堂宇が存在したと指摘している。時期は出土遺物から14世紀中葉~後半代に属すると考えられ、

本地点の第3面と時期的並行関係にある。今回検出した土塁状遺構と石列も、寺院の存在を示唆する可能性がある遺構として注意されよう。

遺物は主にかわらけ、陶器類などが出土しており、これらの年代観から14世紀中葉～後葉頃に属すると考えられる。

〈第4面〉

第4面は土置き場の確保と安全対策のため、南北方向へ帯状に延びる調査区部分の南半を土置き場とし、東西方向の帯状部分を中心に調査を行った。遺構は堆積土層の24層上面で検出され、確認面の標高は約22.9～23.0mを測る。24層は泥岩粒を含む締まりの強い土層で、この層を掘り込んで遺構が構築されていた。検出した遺構は土坑12基、ピット8基で、これらの遺構は調査区全体から検出されたが、東半部に高い密度で分布していた。土坑の中には深さが60cm近くになるものが認められ、規模の大きなピットと捉えることも可能である。また、円礫と角礫を用いた礎石が調査区南壁の近くから3基確認されていることから、これらが調査区外へ展開する建物の一部であった可能性が考えられる。このような遺構の様相を鑑みると、第4面から第3面にかけての時期には相応の規模をもつ建物の存在が推定されることから、本地点は寺域に属していた可能性が指摘される。

遺物は主にかわらけ、陶器類、瓦類などが出土しており、これらの年代観から本面は14世紀前葉～中葉頃に属すると考えられる。

引用・参考文献(著者五十音順)

- 石井 進・大三輪龍彦編 1989『武士の都 鎌倉』よみがえる中世3 平凡社
- 上本進二 2000「第6章第4節 鎌倉・逗子の地形発達史と遺跡形成」『神奈川県逗子市 池子棧敷戸遺跡(逗子市No100)』東国歴史考古学研究所調査研究報告第26集 (仮称)医療保険センター建設地内埋蔵文化財発掘調査団 東国歴史考古学研究所
- 香川達郎 2009『材木座町屋遺跡発掘調査報告書』玉川文化財研究所
- 齋木秀雄・降矢順子ほか 2005「材木座町屋遺跡(No261)材木座六丁目674番10 材木座六丁目674番15 材木座六丁目674番8外 材木座六丁目674番9」『平成16年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21 鎌倉市教育委員会
- 齋木秀雄・降矢順子 2009「弁ヶ谷遺跡(No249)材木座六丁目643番3」『平成20年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25 鎌倉市教育委員会
- 坂口滋皓・高木宏和ほか 1984「鎌倉市材木座4丁目弁ヶ谷やぐら群-昭和61年度鎌倉市材木座地区急傾斜地崩壊対策工事に伴う発掘調査報告書-」『相武古代研究Ⅱ』相武考古学研究所
- 田代郁夫・原 廣志ほか 1988『新善光寺跡内やぐら発掘調査報告書-中世墓の発掘調査-』新善光寺跡内やぐら発掘調査団
- 田代郁夫・原 廣志 1991「2. 弁ヶ谷遺跡やぐら群 鎌倉市材木座四丁目594番」『平成元年度鎌倉市内急傾斜地崩落対策事業に伴う発掘調査報告書』弁ヶ谷遺跡内やぐら群発掘調査団
- 根本志保 2015「弁ヶ谷遺跡(No249)材木座六丁目640番2・3地点」『平成20年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31 鎌倉市教育委員会
- 原 廣志・山口正紀 2013「新善光寺跡(No279)材木座四丁目579番8」『平成24年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29 鎌倉市教育委員会
- 福田 誠 2004「新善光寺跡(No279)材木座四丁目573番1外地点」『平成15年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋

蔵文化財緊急調査報告書20 鎌倉市教育委員会

馬淵和雄・鍛冶屋勝二ほか 2009「弁ヶ谷遺跡 (No.249) 材木座六丁目643番5 材木座六丁目643番4」『平成20年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25 鎌倉市教育委員会

宮田 眞・滝澤晶子ほか 2016『神奈川県鎌倉市 弁ヶ谷遺跡 (No.249) 鎌倉市材木座四丁目588番8外2筆地点』株式会社博通発掘調査報告書第74集 株式会社 博通

宮田 眞・諸星真澄ほか 2001「弁ヶ谷遺跡 (No.249) 材木座四丁目336番7地点」『平成12年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17 鎌倉市教育委員会

宮田 眞・森 孝子 2007『神奈川県・鎌倉市 弁ヶ谷遺跡発掘調査報告書』株式会社 博通

山口正樹 2014「新善光寺跡 (No.279) 材木座四丁目579番4」『平成25年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30 鎌倉市教育委員会

依田亮一ほか 2000『弁ヶ谷東やぐら群』かながわ考古学財団調査報告94 財団法人かながわ考古学財団『鎌倉事典』白井永二編 東京堂出版 1976

『鎌倉廃寺事典』貫 達人・川副武胤 有隣堂 1980

『国立国会図書館デジタルコレクション-新編鎌倉志』国立国会図書館

『新編相模国風土記稿』(上之巻)完全復刻版 千秋社 1983

表2 第2面 出土遺物観察表

法量内() = 推定値

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
第2面 遺構外出土遺物(図9)							
1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.0)	5.3	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/3
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.0	4.2	2.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:濃橙色 焼成:良好	3/4
3	土器	ロクロかわらけ・小	(7.8)	6.1	2.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:濃橙色 焼成:良好	1/3
4	土器	ロクロかわらけ・小	(8.7)	6.2	1.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/3
5	土器	ロクロかわらけ・小	9.9	6.1	2.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:濃橙色 焼成:良好	略完形
6	土器	ロクロかわらけ・中	(11.2)	(7.5)	2.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:濃橙色 焼成:良好	1/3
7	土器	ロクロかわらけ・中	11.4	7.3	2.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
8	土器	ロクロかわらけ・中	12.7	6.4	3.7	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:濃橙色 焼成:良好	2/3
9	土器	ロクロかわらけ・大	13.7	8.0	4.2	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	3/4

表3 第3面 出土遺物観察表

法量内() = 推定値

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		
土坑11出土遺物(図14)							
1	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	5.2	2.1	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	3/4
2	陶器	瀬戸御皿	-	6.6	現2.0	胎土:緻密 色調:胎土-灰白色、釉-淡灰黄色	見込み小破片
第3面 遺構外出土遺物(図15)							
1	土器	白かわらけ	-	2.9	現0.6	底面-回転糸切 胎土:微砂、良土 色調:乳白色 焼成:良好	底部小破片
2	土器	ロクロかわらけ・小	(6.2)	(5.1)	1.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/2
3	土器	ロクロかわらけ・小	(7.2)	4.0	2.2	底面-回転糸切+板状圧痕、焼成後穿孔1ヵ所 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
4	土器	ロクロかわらけ・小	(7.2)	(4.0)	(2.3)	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/3
5	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	5.0	2.3	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
6	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	4.5	2.4	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	略完形
7	土器	ロクロかわらけ・小	(7.8)	(4.9)	2.0	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/3

8	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.5)	(7.5)	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	1/3
9	陶器	瀬戸 折縁深皿	(19.2)	-	現 4.9	胎土:緻密 色調:胎土-灰色、釉-淡灰黄色	1/10
10	陶器	常滑 甕	-	-	現 13.2	胎土:粗、白色粒 色調:暗褐色 備考:7型式	口縁部 小破片
11	陶器	摩耗陶片	長 9.5	幅 6.5	厚 1.3	常滑甕の破片を転用、破断面が摩耗 胎土:粗 色調:暗褐色	完形
12	陶器	備前 播鉢	-	-	現 6.2	内面摩耗、6条一単位の播目 胎土:微砂質 色調:暗褐色	口縁部 小破片
13	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	(11.0)	現 2.5	内面摩耗 胎土:きめ細かい 色調:暗灰色	底部 小破片
14	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 5.3	外面-印花による菊花文、突帯がめぐる 胎土:緻密 色調:黒灰色 焼成:良好	胴部 小破片
15	瓦質 土器	火鉢	-	-	現 5.5	外面-印花による菊花文 胎土:緻密 色調:黒灰色 焼成:良好	口縁部 小破片
16	瓦	平瓦	現長 11.1	現幅 12.4	厚 2.2	凸面-斜格子文 凹面-ナデ 胎土:粗 色調:灰色	1/6
17	角製品	用途不明	長 4.2	径 1.2	-	先端が尖る シカ鹿角製	完形?
18	銅製品	銭貨	直径 2.4	孔径 0.7	厚 0.1	銭名-大観通寶(北宋・1107)	完形

表4 第4面 出土遺物観察表

法量内()=推定値

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			特徴	残存率
			口径	底径	器高		

土坑14出土遺物(図17)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.6)	(4.1)	1.8	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:濃橙色 焼成:良好	1/4
2	瓦	平瓦	現長 8.6	現幅 5.9	厚 1.8	凹面-布目 凸面-ナデ 胎土:粗土 色調:灰色	
3	瓦	平瓦	現長 13.9	現幅 13.0	厚 2.0	凹面-布目 凸面-ナデ 胎土:粗土 色調:灰色	

土坑15出土遺物(図18)

1	瓦	平瓦	現長 5.8	現幅 5.2	厚 2.1	凹面-ナデ 凸面-斜格子文 胎土:粗土 色調:灰色	
---	---	----	-----------	-----------	----------	---------------------------	--

土坑17出土遺物(図19)

1	陶器	摩耗陶片	長 9.5	幅 5.6	厚 1.1	常滑甕の破片を転用、破断面が摩耗 胎土:粗 色調:暗褐色	完形
---	----	------	----------	----------	----------	------------------------------	----

第4面 遺構外出土遺物(図23)

1	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	5.5	2.5	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.3	2.2	口唇部に煤付着 底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:濃橙色 焼成:良好	完形
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.2)	2.0	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:濃橙色 焼成:良好	1/3
4	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.8	2.3	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:橙色 焼成:良好	2/3
5	土器	ロクロ かわらけ・中	11.4	6.8	2.9	底面-回転糸切+板状圧痕 胎土:微砂、雲母、海綿骨針、粗土 色調:黄橙色 焼成:良好	1/2
6	陶器	瀬戸 水滴	-	(2.8)	現 3.1	胎土:緻密 色調:胎土-灰白色、釉-黄緑色	1/5
7	陶器	山茶碗窯系 片口鉢	-	9.1	現 4.0	内面摩耗 胎土:きめ細かい 色調:暗褐色	底部 小破片
8	瓦	軒丸瓦	-	-	厚 1.3~2.3	瓦当-連珠4個残存 胎土:粗土 色調:灰色	瓦当 小破片
9	瓦	軒丸瓦	-	-	厚 1.8~3.0	瓦当-連珠7個残存 胎土:粗土 色調:灰色	瓦当 小破片
10	瓦	軒丸瓦	現長 8.5	-	厚 1.9~3.0	瓦当-文様不明 凸面-ヘラケズリ、ヘラナデ 凹面-糸切痕 胎土:粗土 色調:灰色	瓦当 小破片
11	瓦	軒平瓦	現長 3.8	瓦当現幅 4.9	瓦当現厚 3.2	瓦当-剣先文? 胎土:粗土 色調:暗灰色	瓦当 小破片
12	瓦	軒平瓦	現長 4.8	瓦当現幅 3.2	瓦当現厚 3.3	瓦当-剣先文 胎土:粗土 色調:暗灰色	瓦当 小破片

表5 遺構計測表

〈 〉 = 現存値

遺構名	帰属面	規模 (cm)			遺構名	帰属面	規模 (cm)			遺構名	帰属面	規模 (cm)		
		長軸	短軸	深さ			長軸	短軸	深さ			長軸	短軸	深さ
畝状遺構 1-a	第1面	〈260〉	42	4~12	土坑9	第3面	〈84〉	77	25	土坑18	第4面	110	〈56〉	44
畝状遺構 1-b	第1面	〈340〉	40	4~15	土坑10	第3面	〈90〉	〈46〉	8	土坑19	第4面	〈91〉	〈64〉	30
畝状遺構 1-c	第1面	〈320〉	36	5~10	土坑11	第3面	〈73〉	〈65〉	38	土坑20	第4面	62	50	43
土坑1	第2面	〈103〉	〈63〉	20	ピット4	第3面	37	30	13	土坑21	第4面	62	56	60
土坑2	第2面	124	〈56〉	34	ピット5	第3面	〈50〉	46	6	土坑22	第4面	106	100	36
土坑3	第2面	118	93	31	ピット6	第3面	36	29	16	土坑23	第4面	〈62〉	54	13
土坑4	第2面	123	〈55〉	85	ピット7	第3面	18	17	9	ピット11	第4面	〈58〉	49	16
ピット1	第2面	40	32	11	ピット8	第3面	21	-	15	ピット12	第4面	43	42	51
ピット2	第2面	52	42	18	ピット9	第3面	30	〈24〉	10	ピット13	第4面	46	42	17
ピット3	第2面	18	13	12	ピット10	第3面	38	〈23〉	7	ピット14	第4面	45	44	39
土塁状遺構1	第2面	〈238〉	〈203〉	50	土坑12	第4面	〈43〉	〈42〉	58	ピット15	第4面	36	32	4
石列1	第3面	〈177〉	80	18	土坑13	第4面	70	40	15	ピット16	第4面	57	56	10
土坑5	第3面	131	〈36〉	39	土坑14	第4面	〈58〉	〈44〉	16	ピット17	第4面	43	37	25
土坑6	第3面	85	〈65〉	8	土坑15	第4面	63	〈56〉	45	ピット18	第4面	48	43	19
土坑7	第3面	〈94〉	89	26	土坑16	第4面	108	〈66〉	49					
土坑8	第3面	103	〈39〉	19	土坑17	第4面	〈86〉	79	13					

※柱穴列の長軸は心々の長さの計測値である。また、深さは柱穴掘り方の深さを記載している。

表6 出土遺物一覧表

第1面

第1面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	7
【陶器】		
瀬戸・美濃	灯明皿	1
		合計 8

第2面

土坑1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	1
		合計 1

土坑2		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	2
		合計 2

土坑3		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	3
		合計 3

土坑4		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	2
		合計 2

第2面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	32
【陶器】		
瀬戸	器種不明	3
常滑	甕	3
		合計 38

第3面

土塁状遺構1		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	2
		合計 2

土坑5		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	7
【陶器】		

常滑	甕	1
		合計 8
土坑6		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	5
		合計 5

土坑7		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	4
		合計 4

土坑11		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	4
【陶器】		
瀬戸	卸皿	1
常滑	甕	1
		合計 6

ピット5		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	2
		合計 2

第3面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
白かわらけ		1
かわらけ	ロクロ成形	21
【陶器】		
瀬戸	折縁深皿	1
常滑	甕	5
	摩耗陶片	1
山茶碗窯	片口鉢	1
備前	播鉢	1

【瓦質土器】		
【瓦】		
火鉢		2
【角製品】		
平瓦		1
用途不明		
【金属製品】		
銭貨		1
釘		1
		合計 37

第4面

土坑14		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	7
【瓦】		
平瓦		2
		合計 9

土坑15		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	3
【瓦】		
平瓦		1
		合計 4

土坑17		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	4
【陶器】		
常滑	摩耗陶片	1
		合計 5

第4面 遺構外		
産地	器種	破片数
【かわらけ】		
かわらけ	ロクロ成形	14
かわらけ	手づくね成形	2
【陶器】		
瀬戸	水滴	1
常滑	甕	8
山茶碗窯	片口鉢	1
【瓦】		
軒丸瓦		3
軒平瓦		2
平瓦		3
		合計 34



1. 調査区近景(北から)



2. 調査区北壁土層断面(南から)



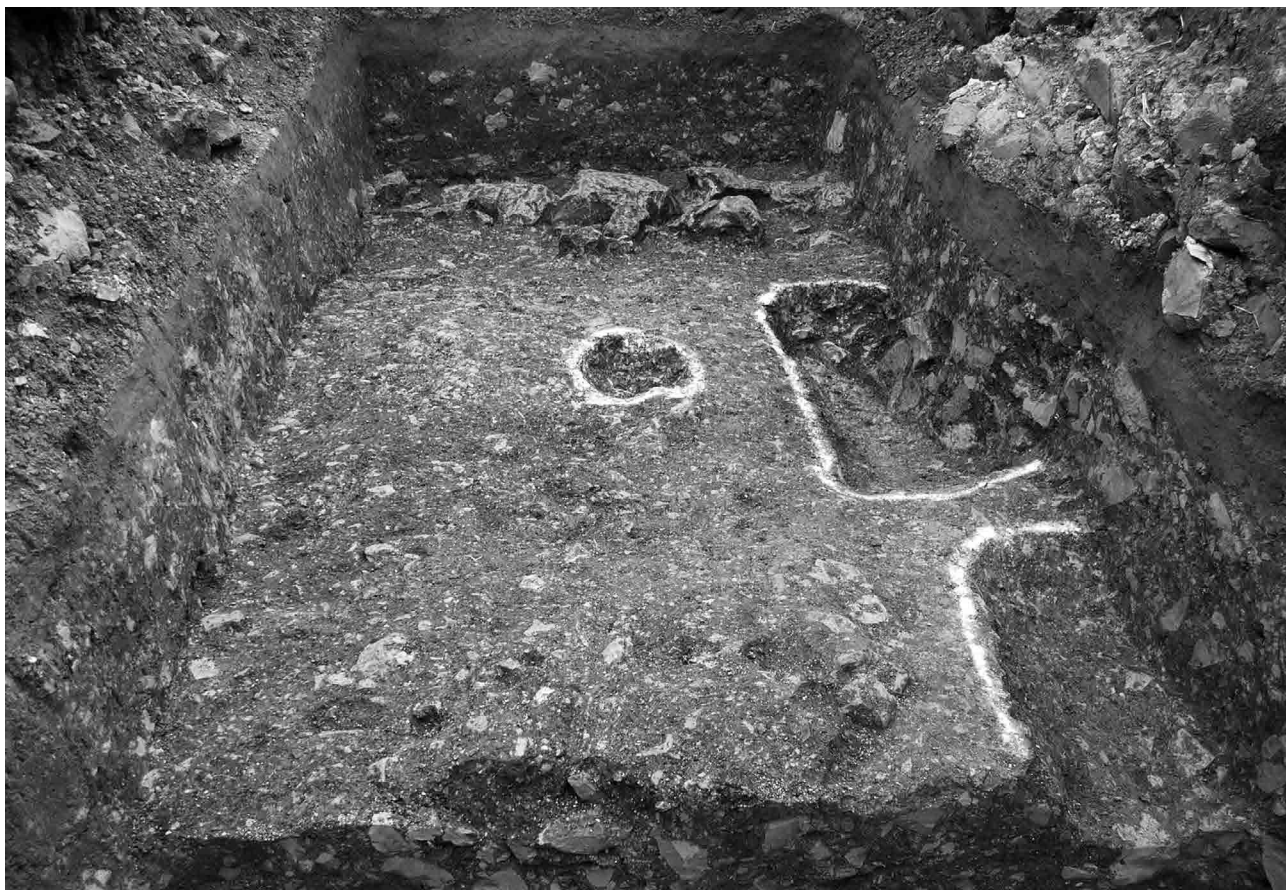
1. 調査区北半第1面全景(西から)



2. 第1面 畝状遺構1(北から)



1. 調査区北半第2面全景(東から)



2. 調査区南半第2面全景(北から)

図版 4



1. 第2面 土坑1・2 (南から)



2. 第2面 土坑3 (東から)



3. 第2面 土坑4 (北から)



1. 調査区北半第3面全景(東から)



2. 第3面 調査風景(東から)



1. 第3面 土塁状遺構 1 (東から)



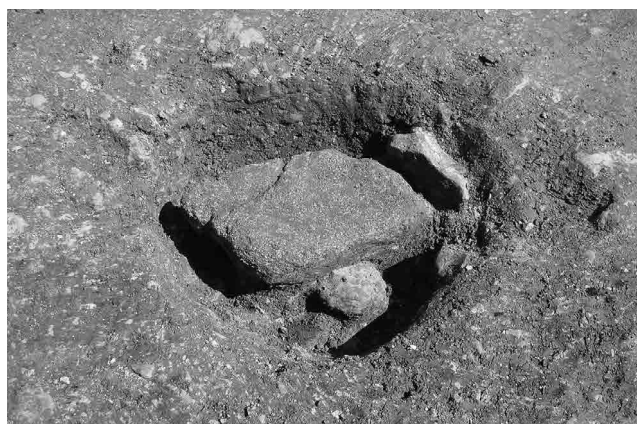
2. 第3面 石列 1 (南から)



1. 調査区北半第4面全景(南から)



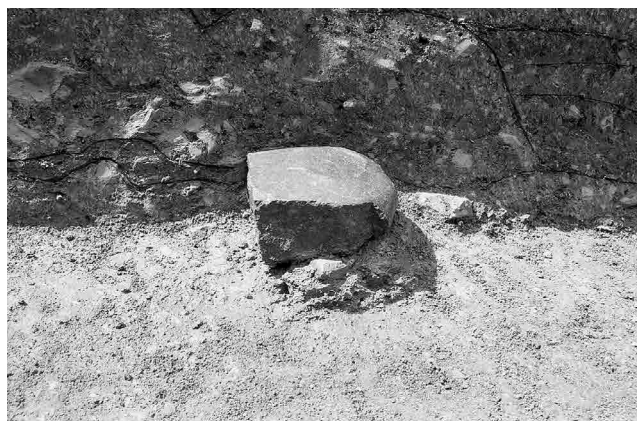
2. 第4面 土坑18(南から)



3. 第4面 ピット17(北から)

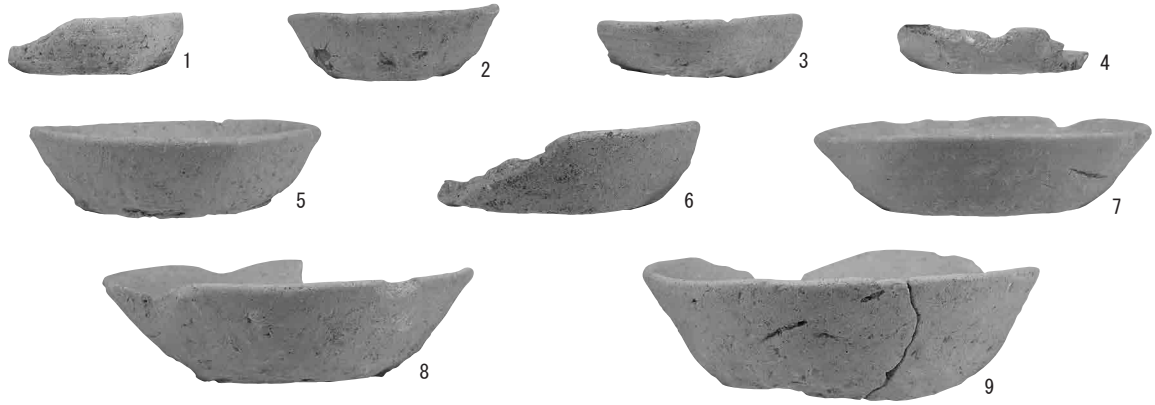


4. 第4面 礎石1(北から)



5. 第4面 礎石2(北から)

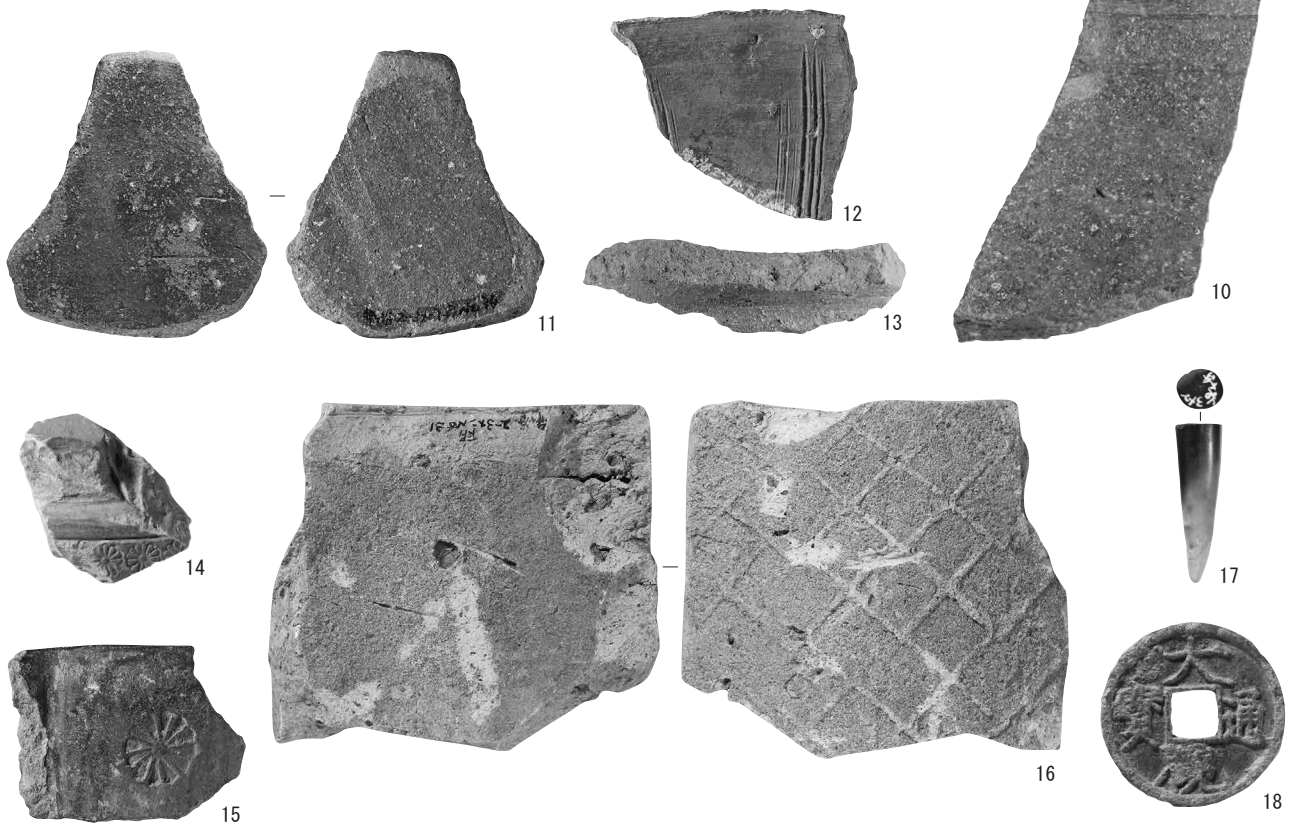
图版 8



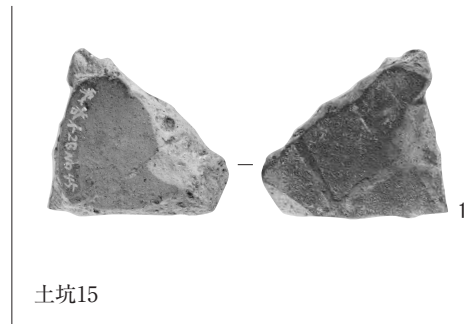
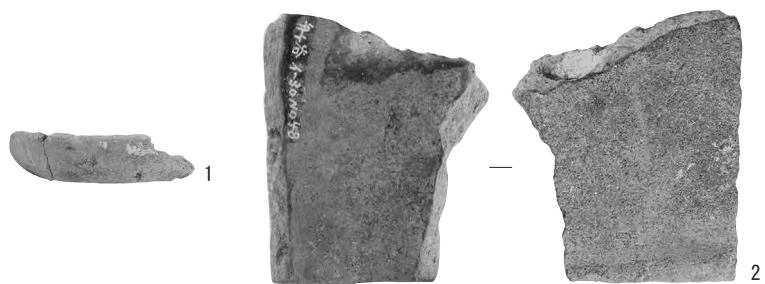
1. 第2面 遺構外出土遺物



2. 第3面 土坑11出土遺物



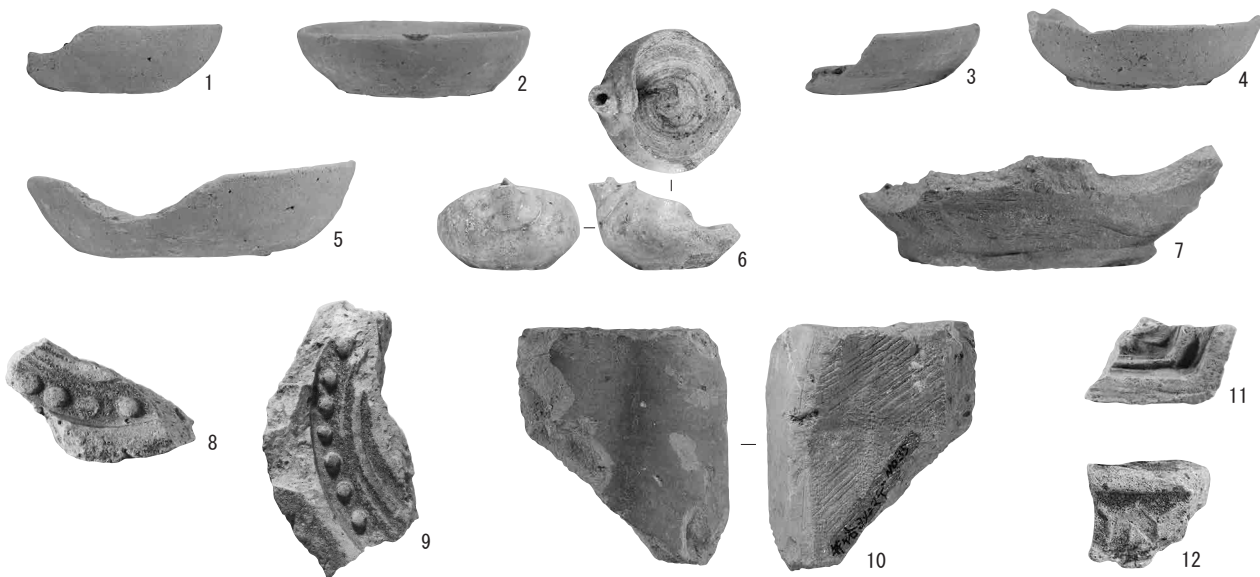
3. 第3面 遺構外出土遺物



土坑14

1. 第4面 土坑出土遺物

土坑17



2. 第4面 遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさほうこくしょ							
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書							
副書名	平成29年度発掘調査報告							
巻次	34 (第4分冊)							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	永田史子・齋藤修佑							
編集機関	鎌倉市教育委員会							
所在地	〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号							
発行年月日	西暦2018年3月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
だいやまいせき 台山遺跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 やまのうちあざむつげんじ 山ノ内字藤源治 ばん ほか 872番9外	14204	29	35° 20′ 15″	139° 32′ 26″	20070404 ～ 20070420	56	個人専用 住宅 (柱状改良工事)
いまこうじにしいせき 今小路西遺跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 ゆいがほまいつちようめ 由比ガ浜一丁目 ばん いちぶ 147番1の一部	14204	201	35° 18′ 59″	139° 32′ 42″	20071009 ～ 20071029	15	個人専用 住宅 (鋼管杭工事)
	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 ゆいがほまいつちようめ 由比ガ浜一丁目 ばん いちぶ 147番1の一部	14204	201	35° 18′ 59″	139° 32′ 41″	20071009 ～ 20071120	40	個人専用 住宅 (鋼管杭工事)
いまこうじにしいせき 今小路西遺跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 ゆいがほまいつちようめ 由比ガ浜一丁目 ばん ほか 147番2外	14204	201	35° 19′ 0″	139° 32′ 42″	20060727 ～ 20060928	112	個人専用 住宅 (鋼管杭工事)
なごえがやついせき 名越ヶ谷遺跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 おおまちさんちようめ 大町三丁目 ばん ほか 2523番2外	14204	231	35° 18′ 47″	139° 33′ 25″	20071218 ～ 20080206	37	個人専用 住宅 (柱状改良工事)
べんがやついせき 弁ヶ谷遺跡	かながわけんかまくらし 神奈川県鎌倉市 さいもくざふんちようめ 材木座四丁目 ばん 599番8	14204	249	35° 18′ 26″	139° 33′ 19″	20090217 ～ 20090415	59	個人専用 住宅 (鋼管杭工事)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
だいやまいせき 台山遺跡	集落	弥生時代	竪穴住居	縄文土器、弥生土器、土師器、かわらけ、舶載磁器、国産陶器、瓦質土器	弥生時代中期末～後期前葉の竪穴住居を検出。包含層から縄文時代後期の土器が出土。
いまこうじにしいせき 今小路西遺跡	都市	中世	竪穴状遺構、溝状遺構、地業、土坑、ピット	須恵器、かわらけ、舶載陶磁器、国産陶器、土器、瓦質土器、石製品、骨製品、金属製品	12世紀末～13世紀後葉の遺構群を検出。複数回の掘り直しが行われた溝状遺構を確認。
いまこうじにしいせき 今小路西遺跡	都市	中世	掘立柱建物、溝状遺構、井戸、木組遺構、土坑、ピット	土師器、須恵器、かわらけ、舶載陶磁器、国産陶器、土器、瓦質土器、石製品、金属製品	13世紀前葉～15世紀前葉の遺構群を検出。長方形の木組遺構と井戸枠をもつ井戸3基を確認。
なごえがやついせき 名越ヶ谷遺跡	都市	中世・近世	河川、護岸跡、杭列	かわらけ、舶載陶磁器、国産陶器、土器、瓦質土器、石製品、木製品、骨製品、金属製品	12世紀末～14世紀代と近世の遺構群を検出。泥岩で造成された石組みの護岸跡と木組みの護岸跡を確認。
べんがやついせき 弁ヶ谷遺跡	都市寺院	中世・近世	土塁状遺構、石列、畝状遺構、土坑、ピット	かわらけ、国産陶器、瓦質土器、瓦、骨角製品、金属製品	14世紀中葉～後葉と近世の遺構群を検出。

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34

平成 29 年度発掘調査報告

(第 4 分冊)

発行日 平成 30 年 3 月 30 日

編集・発行 鎌倉市教育委員会

印刷 光写真印刷株式会社